愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第231集

# 花の木古墳群
# 花の木遺跡
# 花の木北遺跡

本文編

２０２６

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡（本文編）
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第231集

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第231集

# 花の木古墳群
# 花の木遺跡
# 花の木北遺跡

本文編

２０２６

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

# 序

愛知県東部に位置する豊川市は、北に東三河の秀峰本宮山をいただき、東に豊川の清流を望むように、豊かな自然に育まれ、古代には三河国府や国分寺、国分尼寺が置かれたように、三河の中心として大きく発展しました。その発展の前史は、銅鐸を擁するまでに至った弥生時代の遺跡、市域北部を中心に築かれた数多くの古墳が物語っています。

このたび、一般国道 151 号（一宮バイパス）の建設事業に伴い、当センターは市域の花の木古墳群、花の木遺跡、花の木北遺跡の発掘調査を実施し、その成果を報告する運びになりました。特に愛知県下で初めて出土した花の木古墳群の蛇行剣は、古墳文化の独特な一面を見るようで、さまざまな想像をかきたたせてくれます。花の木古墳群の真下に埋まっていた花の木遺跡は弥生時代の集落遺跡で、この時代に安定した農耕社会が営まれていたことをよく表しています。花の木北遺跡は古墳時代の集落遺跡で、花の木古墳群を営んだ人びとの暮らしぶりも明らかになりました。

本書はこの成果をまとめたもので、今後、本書の成果が豊かな地域史の叙述につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査に際して、愛知県、豊川市教育委員会をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

令和８年３月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　佐藤　正美

# 例　言

1．本書は、豊川市大木町地内に所在する花の木古墳群・花の木遺跡（県遺跡番号：830195 ～ 830201・830428)、花の木北遺跡（県遺跡番号：830431）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は、一般国道 151 号（一宮バイパス）にかかる事前調査として、愛知県建設局道路建設課東三河建設事務所道路整備課から愛知県教育委員会事務局生涯学習課文化財保護室（令和元・２年度)、同県民文化局文化部文化芸術課文化財室（同３･4･５年度）より委託を受けた公益財団法人愛知県教育･スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（以下、愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。

3．調査期間は、令和元年度が令和５年５月から６月（花の木古墳群・花の木遺跡本発掘調査Ａ)、令和２年度が令和２年５月から同３年３月（花の木古墳群・花の木遺跡本発掘調査Ｂ)、令和３年度が令和３年５月から９月、令和４年度が令和４年 10 月から同５年３月、令和５年度が令和５年６月から７月（花の木北遺跡本発掘調査Ｂ）である。

4．調査面積は、花の木古墳群・花の木遺跡本発掘調査Ａが 60 ㎡、花の木古墳群・花の木遺跡本発掘調査Ｂが 5,510㎡、花の木北遺跡本発掘調査Ｂが 3,840㎡である。

5．調査担当者は、池本正明（調査課長、現調査研究主任)、堀木真美子（主任専門員、現調査課長)、樋上昇（主任専門員)、早野浩二（調査研究専門員)、田中　良（調査研究主事)、社本有弥（調査研究主事）である。

6．発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・県民文化局文化部文化芸術課文化財室・埋蔵文化財調査センター
豊川市教育委員会　愛知大学綜合郷土研究所　静岡県埋蔵文化財センター　大木会館　NJT 銅管株式会社

7．発掘調査業務の一部または全般について、株式会社波多野組（令和元年度)、安西工業株式会社（同２年度)、株式会社アコード（同３年度)、株式会社文化財サービス（同４・５年度）から支援を受けた。

8．報告書作成にかかる整理作業において、出土遺物の復元・実測・トレースの一部を株式会社文化財サービス、橋本技術株式会社、放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボ、金属製品の保存処理を株式会社東都文化財研究所、株式会社イビソク、出土遺物の写真撮影を有限会社写真工房遊にそれぞれ委託した。一部の写真撮影は田邊朋宏氏に依頼した。

9．発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏からご指導を得た。

青木　敬　浅田博造　天野雄矢　石黒立人　礒貝龍志　伊藤秋男　伊藤雅文　岩名健太郎　岩原　剛　上村安生
魚津知克　大賀克彦　大久保徹也　片山　洋　河合　忍　桐井理輝　佐久間正明　須川勝以　鈴木一有
鈴木とよ江　鈴木涼平　田中博久　田邊朋宏　長尾哲汰　贊　元洋　信里芳紀　秦俊一郎　林　弘之　原田　幹
日吉康浩　廣瀬憲雄　深谷　淳　北條芳隆　穂積裕昌　前田清彦　増子康眞　松田　繁　森　泰通　森田亮子

10．本書の執筆は、第３章（４)、第４章（７）を田中　良、それ以外を早野浩二が担当した。

11．遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。

SI：竪穴建物　SB：掘立柱建物　SK：土坑　SD：溝　SP：柱穴　SU：遺物集積　SX：その他不明遺構

12．発掘調査と本書で使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。表記は新測地系（世界測地系）による。

13．本書で使用する土層の色調については、『新版標準土色帖』を参考に記述した。

14．発掘調査の記録（実測図、写真等）は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。遺跡の略記号は花の木古墳群・花の木遺跡が「3THN」、花の木北遺跡が「3THK」である。

15．遺物は愛知県埋蔵文化財調査センター(〒 498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24)で保管している。

16．本書の編集は早野浩二が担当した。

# 目　次

本文編
第１章　遺跡と調査の概要 ..... 1
（１）遺跡の位置と調査の経緯 ..... 1
（２）地質と地形 ..... 2
（３）周辺の遺跡 ..... 2
（４）既往の調査 ..... 6
（５）調査の経過 ..... 7
第２章　花の木古墳群 ..... 12
（１）古墳群の概況 ..... 12
（２）調査の方法 ..... 12
（３）検出遺構の概要 ..... 14
（４）花の木２号墳 ..... 16
（５）花の木３号墳 ..... 32
（６）花の木５・６・７号墳 ..... 40
（７）周辺埋葬施設 ..... 69
第３章　花の木遺跡 ..... 78
（１）検出遺構の概要 ..... 78
（２）弥生時代中・後期の竪穴建物 ..... 79
（３）その他の弥生時代中・後期の遺構・遺物 ..... 138
（４）縄文・弥生時代の石器 ..... 142
（５）その他の遺構・遺物 ..... 159
第４章　花の木北遺跡 ..... 160
（１）検出遺構の概要 ..... 160
（２）弥生時代前・中期の遺構・遺物 ..... 161
（３）古墳時代中・後期の遺構の概要 ..... 168
（４）古墳時代中期の竪穴建物 ..... 170
（５）古墳時代中・後期の掘立柱建物 ..... 188
（６）古墳時代中・後期のその他の遺構・遺物 ..... 192
（７）石器・石製品 ..... 196
第５章　自然科学分析 ..... 200
（１）放射性炭素年代測定 ..... 200
第６章　総括 ..... 210
（１）花の木古墳群の調査成果 ..... 210
（２）花の木遺跡における弥生時代中期から後期の土器編年 ..... 240
（３）花の木遺跡における弥生時代集落の構成と変遷 ..... 252
（４）花の木北遺跡と花の木遺跡の弥生時代前・中期の遺構と遺物 ..... 258
（５）花の木北遺跡の古墳時代中期の土器と集落 ..... 260
（６）花の木古墳群、花の木北遺跡と地域社会 ..... 276
出土遺物一覧表

図版編
遺構図版
写真図版

〈挿図目次〉

第 1 図　遺跡の位置（1:5,000 万・1:200 万）.....1
第 2 図　花の木古墳群と周辺の古墳・遺跡（1:50,000）.....3
第 3 図　西原台地の古墳と遺跡（1:10,000）.....3
第 4 図　周辺の古墳（1:500）と出土遺物（1:4・1:8・1:16）.....5
第 5 図　花の木遺跡平成９年試掘調査出土土器実測図（1:4）.....7
第 6 図　花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡本発掘調査Ｂ調査区（1:2,000）.....9
第 7 図　花の木古墳群調査前地形測量図（1:400）.....13
第 8 図　花の木古墳群主要遺構配置図（1:1,000）.....14
第 9 図　花の木古墳群遺構全体図（1:400）.....15
第 10 図　花の木２号墳墳丘測量図（1:200）.....17
第 11 図　花の木２号墳盛土除去後墳丘測量図（1:200）.....18
第 12 図　花の木２号墳平面図・墳丘復元図（1:200）.....20
第 13 図　花の木２号墳丘断面図（1:200）.....21
第 14 図　花の木２号墳遺構詳細平面図（1:20・1:40）.....21
第 15 図　花の木２号墳墳丘土層断面図１（1:50）.....22
第 16 図　花の木２号墳墳丘土層断面図２（1:50）.....23
第 17 図　花の木２号墳墳丘土層断面図３（1:50）.....24
第 18 図　花の木２号墳墳丘土層断面図４（1:50）.....25
第 19 図　花の木２号墳出土鉄製品実測図（1:4・1:2）.....26
第 20 図　花の木２号墳採集玉類実測図（1:1）.....26
第 21 図　花の木２号墳周溝出土土器実測図（1:4）.....26
第 22 図　花の木２号墳墳丘出土土器実測図（1:4）.....27
第 23 図　花の木２号墳埋葬施設平面図（1:40）.....28
第 24 図　花の木２号墳埋葬施設土層断面図（1:40）.....29
第 25 図　花の木２号墳西棺集水土坑遺構図（1:40）.....29
第 26 図　花の木２号墳埋葬施設断面模式図（1:40）.....30
第 27 図　花の木２号墳墳丘構築・埋葬施設設置過程断面模式図（1:200）.....31
第 28 図　花の木３号墳墳丘測量図（1:200）.....33
第 29 図　花の木３号墳平面図・墳丘復元図（1:200）.....34
第 30 図　花の木３号墳墳丘墳断面図（1:200）.....35
第 31 図　花の木３号墳墳丘土層断面図１（1:50）.....35
第 32 図　花の木３号墳墳丘土層断面図２（1:50）.....36
第 33 図　花の木３号墳周溝・墓壙・墳丘出土土器実測図（1:4）.....37
第 34 図　花の木３号墳墳頂部墓壙検出状況（1:200）.....38
第 35 図　花の木３号墳北棺遺構図（1:50）.....39
第 36 図　花の木３号墳西棺・東棺遺構図（1:50）.....39
第 37 図　花の木３号墳西棺出土鉄製品実測図（1:2）.....39
第 38 図　花の木５・６・７号墳墳丘測量図（1:200）.....41
第 39 図　花の木５・６・７号墳古平面図・墳丘復元図（1:200）.....42
第 40 図　花の木５・６・７号墳墳丘断面図（1:200）.....43
第 41 図　花の木６号墳周溝遺物出土状況図（1:20）.....43
第 42 図　花の木５・６・７号墳土層断面図（1:50）.....44
第 43 図　花の木５号墳土層断面図（1:50）.....45
第 44 図　花の木５号墳埋葬施設遺構図（1:50）.....45
第 45 図　花の木６号墳土層断面図（1:50）.....46
第 46 図　花の木６号墳埋葬施設遺構図（1:50）.....46
第 47 図　花の木７号墳土層断面図（1:50）.....47

第 48 図　花の木７号墳古埋葬施設遺構図（1:50）.....48
第 49 図　花の木５・６・７号墳周溝・埋葬施設・墳丘出土土器実測図１（1:4）.....48
第 50 図　花の木５・６・７号墳周溝・埋葬施設・墳丘出土土器実測図２（1:4）.....49
第 51 図　花の木７号墳新平面図・墳丘復元図（1:200）.....50
第 52 図　花の木７号墳拡張前後の比較（1:400）.....51
第 53 図　花の木７号墳構築・拡張過程断面模式図（1:200）.....51
第 54 図　花の木７号墳新埋葬施設周辺遺構図（1:50）.....53
第 55 図　花の木７号墳新北棺・南棺遺物出土状況図１（1:20）.....54
第 56 図　花の木７号墳新北棺・南棺遺物出土状況図２（1:20）.....55
第 57 図　花の木７号墳新副葬品配列模式図（1:40）.....55
第 58 図　花の木７号墳新北棺勾玉実測図（1:1）.....55
第 59 図　花の木７号墳新北棺・南棺鉄製品（刀剣）実測図（1:4）.....56
第 60 図　花の木７号墳新北棺・南棺鉄製品（農工具）実測図（1:2）.....57
第 61 図　花の木７号墳新北棺鉄製品（鉄鏃）実測図（1:2）.....58
第 62 図　花の木７号墳墳丘斜面玉類出土状況全体図（1:20）.....62
第 63 図　花の木７号墳墳丘斜面出土玉類の分布.....62
第 64 図　花の木７号墳墳丘斜面玉類出土状況詳細図（1:4）.....63
第 65 図　花の木７号墳墳丘斜面出土勾玉・管玉・棗玉（1:1）.....64
第 66 図　勾玉の石材と法量の関係.....65
第 67 図　棗玉の石材と法量の関係.....65
第 68 図　臼玉の形態と法量の関係.....66
第 69 図　臼玉の直径の度数分布.....66
第 70 図　花の木７号墳墳丘斜面出土臼玉１（1:1）.....66
第 71 図　花の木７号墳墳丘斜面出土臼玉２（1:1）.....67
第 72 図　（石敷）土壙墓１～６遺構図（1:50）.....70
第 73 図　土壙墓７・８遺構図（1:50）.....71
第 74 図　（石敷）土壙墓出土土器実測図（1:4）.....72
第 75 図　その他古墳群に関係する土器実測図（1:4）.....72
第 76 図　土器棺墓１遺構図１（1:20）.....74
第 77 図　土器棺墓１出土土器実測図１（1:4）.....74
第 78 図　土器棺墓１遺構図２（1:20）.....75
第 79 図　土器棺墓１出土土器実測図２（1:4）.....75
第 80 図　土器棺墓２遺構図（1:20）.....75
第 81 図　土器棺墓２出土土器実測図（1:4）.....75
第 82 図　土器棺墓３遺構図（1:20）.....76
第 83 図　土器棺墓３出土土器実測図（1:4）.....76
第 84 図　土器棺墓４遺構図（1:20）.....76
第 85 図　土器棺墓４出土土器実測図（1:4）.....76
第 86 図　土器棺墓５遺構図（1:20）.....77
第 87 図　土器棺墓５出土土器実測図（1:4）.....77
第 88 図　花の木遺跡主要遺構配置図（1:1,000）.....78
第 89 図　110SI・151SI 遺構図（1:80）.....81
第 90 図　110SI 出土土器実測図（1:4）.....82
第 91 図　151SI 出土土器実測図（1:4）.....82
第 92 図　112SI 遺構図（1:80）.....83
第 93 図　112SI 出土土器実測図（1:4）.....83
第 94 図　113SI 遺構図（1:80）.....84

第 95 図　113SI 出土土器実測図（1:4）.....84
第 96 図　114SI・119SI 遺構図（1:80）.....86
第 97 図　114SI 出土土器実測図（1:4）.....86
第 98 図　115SI・118SI 遺構図（1:80）.....87
第 99 図　115SI・118SI 遺物出土状況図（1:40）.....87
第 100 図　115SI 出土土器実測図 1 （1:4）.....88
第 101 図　115SI 出土土器実測図 2 （1:4）.....89
第 102 図　118SI 出土土器実測図（1:4）.....89
第 103 図　116SI 遺構図（1:80）.....90
第 104 図　116SI 遺物出土状況図（1:40）.....90
第 105 図　116SI 出土土器実測図（1:4）.....91
第 106 図　（126SI・）148SI 遺構図（1:80）.....92
第 107 図　126SI 出土土器実測図（1:4）.....92
第 108 図　148SI 出土土器実測図（1:4）.....92
第 109 図　154SI・286SK 遺構図（1:80）.....93
第 110 図　154SI 出土土器実測図（1:4）.....93
第 111 図　160SI（・217SI）遺構図（1:80）.....94
第 112 図　160SI 遺物出土状況図（1:80）.....94
第 113 図　160SI 出土土器実測図（1:4）.....95
第 114 図　155SI 遺構図（1:80）.....95
第 115 図　155SI 出土土器実測図（1:4）.....95
第 116 図　157SI 遺構図（1:80）・遺物出土状況図（1:40）.....96
第 117 図　157SI 遺物実測図（1:4）.....96
第 118 図　174SI 遺構図（1:80）.....98
第 119 図　174SI 遺物実測図（1:4）.....98
第 120 図　200SI 遺構図（1:80）.....98
第 121 図　200SI 遺物実測図（1:4）.....98
第 122 図　176SI 遺構図（1:80）.....99
第 123 図　176SI 出土土器実測図（1:4）.....99
第 124 図　190SI・214SI・222SI・223SI・234SI 遺構図 1 （1:80）.....100
第 125 図　190SI・214SI・222SI・223SI・234SI 遺構図 2 （1:80）.....101
第 126 図　190SI 遺物出土状況図（1:40）.....102
第 127 図　190SI 出土土器実測図（1:4）.....103
第 128 図　195SI 遺構図（1:80）.....104
第 129 図　195SI 出土土器実測図（1:4）.....104
第 130 図　196SI・198SI 遺構図（1:80）.....105
第 131 図　196SI 遺物出土状況図（1:40）.....106
第 132 図　196SI 出土土器実測図 1 （1:4）.....107
第 133 図　196SI 出土土器実測図 2 （1:4）.....108
第 134 図　196SI（224SD）遺物出土状況図（1:80・1:40）.....109
第 135 図　198SI 出土土器実測図（1:4）.....109
第 136 図　199SI 遺構図（1:80）.....110
第 137 図　199SI 遺物出土状況図（1:40）.....110
第 138 図　199SI 出土土器実測図（1:4）.....111
第 139 図　203SI 遺構図・遺物出土状況図（1:80）.....112
第 140 図　203SI 出土土器実測図（1:4）.....113
第 141 図　214SI 出土土器実測図（1:4）.....114

第 142 図　222SI 出土土器実測図（1:4）.....114
第 143 図　223SI 遺物出土状況図（1:40）.....115
第 144 図　223SI 出土土器実測図 1 （1:4）.....116
第 145 図　223SI 出土土器実測図 2 （1:4）.....117
第 146 図　234SI 出土土器実測図（1:4）.....118
第 147 図　220SI 遺構図（1:80）.....119
第 148 図　220SI 遺物出土状況図（1:40）.....120
第 149 図　220SI 出土土器実測図（1:4）.....120
第 150 図　221SI 遺構図（1:80）.....121
第 151 図　221SI 出土土器実測図（1:4）.....121
第 152 図　226SI 遺構図・遺物出土状況図（1:80・1:40）.....122
第 153 図　226SI・281SK 出土土器実測図（1:4）.....123
第 154 図　175SI（・229SI）遺構図・遺物出土状況図（1:80・1:40）.....124
第 155 図　175SI 出土土器実測図（1:4）.....125
第 156 図　228SI 出土土器実測図（1:4）.....125
第 157 図　250SI（・228SI）遺構図（1:80）・遺物出土状況図（1:40）.....126
第 158 図　250SI 出土土器実測図（1:4）.....127
第 159 図　235SI（・238SI）・236SI・237SI・241SI・289SI 遺構図 1 （1:80）.....130
第 160 図　235SI（・238SI）・236SI・237SI・241SI・289SI 遺構図 2 （1:80）.....131
第 161 図　235SI（・238SI）・236SI・237SI 遺物出土状況図（1:40）.....131
第 162 図　235SI（・238SI）出土土器実測図 1 （1:4）.....132
第 163 図　235SI（・238SI）出土土器実測図 2 （1:4）.....133
第 164 図　236SI 出土土器実測図 1 （1:4）.....134
第 165 図　236SI 出土土器実測図 2 （1:4）.....135
第 166 図　237SI 出土土器実測図（1:4）.....136
第 167 図　289SI 出土土器実測図（1:4）.....136
第 168 図　285SI 遺構図（1:80）.....137
第 169 図　285SI 出土土器実測図（1:4）.....137
第 170 図　133SK・158SK・197SK・210SK 遺構図（1:50）.....139
第 171 図　164SK 遺構図（1:80）.....139
第 172 図　124SK 遺物出土状況図（1:40）.....139
第 173 図　298SU 遺物出土状況図（1:80）.....139
第 174 図　その他の遺構出土土器実測図（1:4）.....140
第 175 図　遺構外出土土器実測図（1:4）.....141
第 176 図　縄文・弥生時代の石器（石鏃・石匙・楔形石器・剥片）実測図（1:2）.....145
第 177 図　縄文・弥生時代の石器（石核・打製石斧）実測図（1:2・1:3）.....146
第 178 図　縄文・弥生時代の石器（磨製石斧）実測図（1:3）.....147
第 179 図　縄文・弥生時代の石器（磨製石剣・加工痕ある礫・石錘）実測図（1:3）.....148
第 180 図　縄文・弥生時代の石器（敲石・磨石）実測図（1:4）.....149
第 181 図　縄文・弥生時代の石器（砥石）実測図（1:4・1:8）.....150
第 182 図　縄文・弥生時代の石器（台石）実測図（1:4・1:8）.....151
第 183 図　縄文・弥生時代の石製品（炉石）実測図（1:8）.....152
第 184 図　花の木古墳群出土石器実測図 1 （1:2）.....152
第 185 図　花の木古墳群出土石器実測図 2 （1:3）.....155
第 186 図　花の木古墳群出土石器実測図 3 （1:3）.....156
第 187 図　花の木古墳群出土石器実測図 4 （1:3・1:4）.....157
第 188 図　花の木古墳群出土石器実測図 5 （1:8）.....158

第 189 図　花の木遺跡（古墳群）出土縄文土器実測図（1:4）.....159
第 190 図　花の木北遺跡基本土層断面図（1:80）.....160
第 191 図　花の木北遺跡弥生時代遺構配置図（1:1,000）.....161
第 192 図　049SK 遺構図（1:20）.....162
第 193 図　049SK 出土土器実測図（1:4）.....162
第 194 図　486SK 遺構図（1:20）.....162
第 195 図　486SK 出土土器実測図（1:4）.....162
第 196 図　002SX 遺構図（1:20）.....163
第 197 図　002SX 出土土器実測図（1:4）.....163
第 198 図　366SK 遺構図（1:20）.....164
第 199 図　366SK 出土土器実測図（1:4）.....164
第 200 図　011SI 遺構図（1:80）.....166
第 201 図　011SI 出土土器実測図（1:4）.....166
第 202 図　020SI・021SI（・051SI）遺構図（1:80）.....167
第 203 図　020SI・021SI 出土土器実測図（1:4）.....167
第 204 図　その他の弥生土器・土製品実測図（1:4）.....167
第 205 図　花の木北遺跡古墳時代遺構配置図（1:1,000）.....168
第 206 図　花の木北遺跡古墳時代遺構詳細配置図（1:500）.....169
第 207 図　001SI 遺構図（1:80）.....170
第 208 図　001SI 出土土器・鉄製品実測図（1:4・1:2）.....171
第 209 図　002SI 遺構図（1:80）.....172
第 210 図　002SI 出土土器実測図（1:4）.....172
第 211 図　003SI 遺構図（1:80）.....173
第 212 図　003SI 出土土器実測図（1:4）.....174
第 213 図　004SI 遺構図（1:80）.....175
第 214 図　004SI 遺物出土状況図（1:40）.....176
第 215 図　004SI 出土土器実測図（1:4）.....176
第 216 図　005SI 遺構図（1:80）.....177
第 217 図　005SI 出土土器実測図（1:4）.....178
第 218 図　010SI 遺構図（1:80）.....180
第 219 図　010SI 遺物出土状況図（1:40）.....181
第 220 図　010SI 出土土器実測図 1（1:4）.....182
第 221 図　010SI 出土土器実測図 2（1:4）.....183
第 222 図　020SD・019SI 遺構図（1:80）.....185
第 223 図　020SD・019SI 出土土器実測図（1:4）.....186
第 224 図　001SI・002SI 遺構図（1:80）.....187
第 225 図　001・002SI 出土土器実測図（1:4）.....187
第 226 図　掘立柱建物出土土器（1:4）.....188
第 227 図　掘立柱建物模式図（1:200）.....188
第 228 図　511SB 遺構図（1:80）.....189
第 229 図　512SB 遺構図（1:80）.....189
第 230 図　513SB 遺構図（1:80）.....190
第 231 図　514SB 遺構図（1:80）.....190
第 232 図　511SB 遺構図（1:80）.....191
第 233 図　579SB 遺構図（1:80）.....191
第 234 図　580SB 遺構図（1:80）.....191
第 235 図　土坑遺構図 1（1:50）.....193

第 236 図　土坑遺構図 2（1:40/1:50）.....194
第 237 図　その他の遺構出土土器実測図（1:4）.....195
第 238 図　縄文・弥生時代の石器（1:2・1:3）.....197
第 239 図　縄文・弥生時代の石器（1:3）.....198
第 240 図　弥生・古墳時代の石製品（1:4）.....199
第 241 図　暦年較正結果 1（花の木古墳群）.....205
第 242 図　暦年較正結果 2（花の木遺跡）.....206
第 243 図　暦年較正結果 3（花の木遺跡・花の木北遺跡）.....207
第 244 図　暦年較正結果 4（花の木北遺跡）.....208
第 245 図　小金古墳の墳丘（1:1,000）と墳丘構築過程（1:400）.....213
第 246 図　新豊院山Ｄ 2 号墳の埋葬施設（1:50）、副葬品配置（1:25）と剣（1:8）.....215
第 247 図　三ツ山古墳群（1:1,000・1:100）.....215
第 248 図　北原古墳（1:500・1:100）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）、副葬品（1:10・1:4）.....216
第 249 図　熊田山北古墳群Ａ地区（1:500）.....217
第 250 図　花の木 7 号墳と熊田山北古墳群Ａ地区 1 号墳の比較（1:500）.....218
第 251 図　旗頭山尾根 17 号墳（1:500）.....219
第 252 図　川田遺跡の円墳（1:500）と馬歯.....219
第 253 図　門間沼遺跡の円墳（1:500）、鍛治関連遺物と韓式系土器（1:4）.....220
第 254 図　鞍岡山 2 号墳（1:500・1:100・1:8）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）.....221
第 255 図　東平 1 ・ 2 号墳（1:500）と墳丘外遺物集中地点の玉類出土状況（1:200）.....222
第 256 図　短茎長三角式・三角式鉄鏃の比較（1:4）.....225
第 257 図　曲刃鎌の比較（1:4）.....226
第 258 図　蛇行剣の分布.....227
第 259 図　落合古墳群（1:1,000）、 3 号墳（1:500・1:50）と武器・農工具等（1:10）.....228
第 260 図　新御堂遺跡（1:200）と土壙墓・土器棺墓（1:50）、土器棺（1:10）.....230
第 261 図　栃原遺跡（1:200）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）.....231
第 262 図　島田陣屋遺跡（1:1,000）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）.....232
第 263 図　高部 32 号墳（1:500）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）.....233
第 264 図　成塚向山 1 号墳（1:500）と「正置された壷」（1:20・1:10）.....233
第 265 図　中台 64 号墳（1:500）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）.....233
第 266 図　落合古墳群の石組墓と土壙墓（1:50）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）.....234
第 267 図　土壙墓等の規模の比較.....235
第 268 図　岩名 4 号墳（1:500）と土器棺（1:10）.....235
第 269 図　西野遺跡（古墳群）土器棺墓 SX02（1:20）と土器棺（1:10）.....236
第 270 図　花の木遺跡弥生土器器種分類（1:10）.....242
第 271 図　花の木遺跡の弥生土器編年 1 （1:10）.....246
第 272 図　花の木遺跡の弥生土器編年 2 （1:10）.....247
第 273 図　周辺遺跡の土器との対比（1:10）.....249
第 274 図　内田貝塚・水神貝塚（第 2 貝塚）の土器群（1:8）.....250
第 275 図　竪穴建物の規模の計測値.....252
第 276 図　竪穴建物の規模と時期の相関.....252
第 277 図　竪穴建物の変遷（1:200）.....253
第 278 図　竪穴建物の平面形の比較（1:200）.....254
第 279 図　竪穴建物の方位と規模の相関.....254
第 280 図　集落の変遷 1 （1:1,250）.....256
第 281 図　集落の変遷 2 （1:1,250）.....257
第 282 図　天間遺跡の遺構（1:2,500・1:80）と遺物（1:8）.....258

第 283 図　花の木北遺跡古墳時代中期土器器種分類（1:10）.....261
第 284 図　関連遺跡の分布（1:200,000）.....262
第 285 図　前期前半から後半の土器群（1:10）.....263
第 286 図　中期初頭（前期末葉）から中期前半の土器群 1（1:10）.....264
第 287 図　中期初頭（前期末葉）から中期前半の土器群 2（1:10）.....265
第 288 図　中期後半の土器群（1:10）.....266
第 289 図　高杯杯部法量（口径）の比較.....267
第 290 図　集落の変遷.....269
第 291 図　各遺跡における編物石の出土状況.....270
第 292 図　竪穴建物諸属性の比較（宮沢遺跡・西側遺跡・花の木北遺跡・駒場遺跡）.....273
第 293 図　宮沢遺跡の古墳時代前期の中・小型の竪穴建物（1:200）.....274
第 294 図　花の木北遺跡と西側遺跡における古墳時代中期前半の大型竪穴建物の比較（1:200）.....274
第 295 図　駒場遺跡の古墳時代中期後半の竪穴建物（1:200）.....274
第 296 図　花の木北遺跡の時期区分と花の木古墳群、周辺の古墳との対応関係.....279
第 297 図　本宮山南麓の積石塚古墳（1:200）と馬具（1:10）.....280

〈挿表目次〉

第 1 表　調査期間・調査面積・調査担当者一覧.....1
第 2 表　愛知県遺跡地図（愛知県教育委員会 1972）の遺跡登録台帳（花の木古墳群）.....6
第 3 表　現地説明会開催状況.....10
第 4 表　（石敷）土壙墓一覧表.....69
第 5 表　土器棺墓一覧表.....73
第 6 表　竪穴建物一覧表.....79
第 7 表　弥生時代竪穴建物一覧表.....165
第 8 表　古墳時代竪穴建物一覧表.....184
第 9 表　掘立柱建物一覧表.....190
第 10 表　土坑一覧表.....192
第 11 表　測定試料および処理（花の木古墳群・花の木遺跡）.....201
第 12 表　測定試料および処理（花の木北遺跡）.....202
第 13 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（花の木古墳群・花の木遺跡）.....204
第 14 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（花の木北遺跡）.....205
第 15 表　蛇行剣出土遺跡地名表.....227
第 16 表　花の木遺跡弥生土器器種分類.....243
第 17 表　出土土器組成の比較.....245
第 18 表　編年対照表.....248
第 19 表　花の木北遺跡古墳時代中期土器器種分類.....261
第 20 表　宮沢遺跡・西側遺跡・駒場遺跡竪穴建物一覧表.....272

# 第１章　遺跡と調査の概要

## （１）遺跡の位置と調査の経緯

遺跡の位置

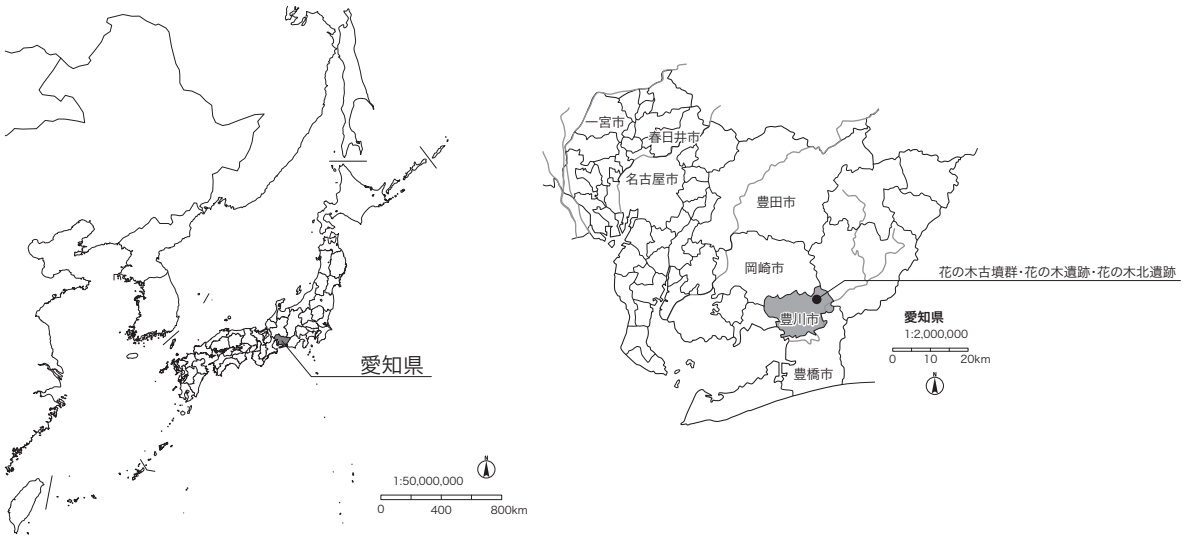
花の木古墳群･花の木遺跡（県遺跡番号:83195 ～ 83201･830428)、花の木北遺跡（県遺跡番号：830431）は豊川市北東部の大木町新道（北緯 34 度 51 分 32 秒・東経 137 度 24 分 41 秒、北緯 34 度 51 分 34 秒・東経 137 度 24 分 48 秒）に所在する古墳群、集落跡である（第１図)。遺跡の現況は山林、荒蕪地で工場敷地が重複しながら隣接する。

発掘調査

発掘調査は一般国道 151 号（一宮バイパス）に伴う事前調査で、愛知県建設局道路建設課東三河建設事務所道路整備課から愛知県教育委員会事務局生涯学習課文化財保護室（令和元・２年度)・同県民文化局文化部文化芸術課文化財室（同３年度以降）を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。各調査年度･各遺跡の調査期間、調査面積、調査担当者は第１表に示す通りである。

第１表　調査期間・調査面積・調査担当者一覧

| 調査年度 | 調査期間 | 調査遺跡 | 内容 | 調査面積 | 調査担当者（所属） |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成30年 | ７月 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 確認調査 | 10㎡ | 成瀬友弘（愛知県埋蔵文化財調査センター） |
| 令和元年 | 5～6月 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 本発掘調査Ａ | 60㎡ | 樋上昇・早野浩二（当センター） |
| 令和２年 | 5～3月 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 本発掘調査Ｂ | 5,510㎡ | 池本正明・早野浩二・社本有弥（当センター） |
| 令和３年 | 5～9月 | 花の木北遺跡 | 本発掘調査Ｂ | 2,110㎡ | 堀木真美子・早野浩二・池本正明（当センター） |
| 令和３年 | 8月 | 花の木北遺跡 | 試掘調査 | 30㎡ | 小坂延仁（愛知県埋蔵文化財調査センター） |
| 令和４年 | 10～３月 | 花の木北遺跡 | 本発掘調査Ｂ | 1,335㎡ | 樋上昇・池本正明（当センター） |
| 令和５年 | 6～7月 | 花の木北遺跡 | 本発掘調査Ｂ | 375㎡ | 樋上昇・田中良（当センター） |
| 令和５年 | 10～３月 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 整理作業 | | 早野浩二（当センター） |
| 令和６年 | ４～３月 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 報告書作成 | | |
| 令和７年 | ３月 | 花の木北遺跡 | 報告書刊行 | | |




第１図　遺跡の位置（1:5,000万・1:200万）

## （２）地質と地形

地質

中央構造線は西南日本を一級河川豊川に沿って外帯と内帯に大きく二分し、古墳群と遺跡がある北西（右岸）側は領家変成帯（領家帯）に相当する。本宮山を源流とする多くの小河川は扇状地地形を形成し、表層は広く緩やかな斜面、平坦面となっている。

地形

旧扇状地先端付近の台地は西原台地と呼称され、花の木遺跡・花の木古墳群、花の木北遺跡を含めた弥生時代から古墳時代の遺跡や古墳が連続して分布する。花の木遺跡・花の木古墳群、花の木北遺跡が立地する扇端部の標高は約 45 mから 50m で、眼下に広がる

条里

水田面との比高は約 10 mである。この広大な水田地帯は、かつて条里地割が残っていた大木田面と通称される田地である。

## （３）周辺の遺跡

西原台地の遺跡

花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡周辺の遺跡について、弥生時代から古墳時代の遺跡が密集して分布する西原台地を中心に概観する（第２・３図）。

弥生時代の遺跡

西原台地の弥生時代の遺跡については、早くから遺物の出土が知られていた遺跡も多いが、調査が実施された遺跡を含めて詳細な報告がなく、不明確な部分が多い。

鑓水Ａ・Ｂ遺跡

西原台地南東端には大沢池の東西に鑓水Ａ遺跡、鑓水Ｂ遺跡がある。鑓水Ａ遺跡からは戦後の開墾で土器、石器が出土し、昭和 40 年（1965）に調査された。鑓水Ｂ遺跡は戦前の開墾でも土器の出土が知られていたが、昭和 30 年（1955）に道路と畑との境界の溝を掘削した際に弥生時代前期の条痕文土器が出土した。その他、戦後に後期の大型壺も出土している（一宮町 1976、愛知県 2003）。

宝陵高校遺跡

宝陵高校遺跡は昭和 45 年（1970）に学校敷地の建設に伴い、久永春男を主任、町誌編纂委員､文化財保護委員を調査員として緊急調査が実施された（新道遺跡と呼称されたが、現在登録されている新道遺跡とは異なる）。調査においては、弥生時代中期から古墳時代前期（弥生時代後期から古墳時代前期初頭が主体）の竪穴建物 12 棟が検出され、甕、瓢形壷、器台等、多くの土器と、打製・磨製石鏃、磨製石斧、砥石等、各種の石器が出土した（一宮町 1976）。

坂下遺跡

台地南西端の坂下池周辺には昭和初年から、弥生時代後期から古墳時代の土器、住居があることが知られ、坂下遺跡として、昭和 56 年（1981）に確認調査が実施された。調査

坂下池東遺跡

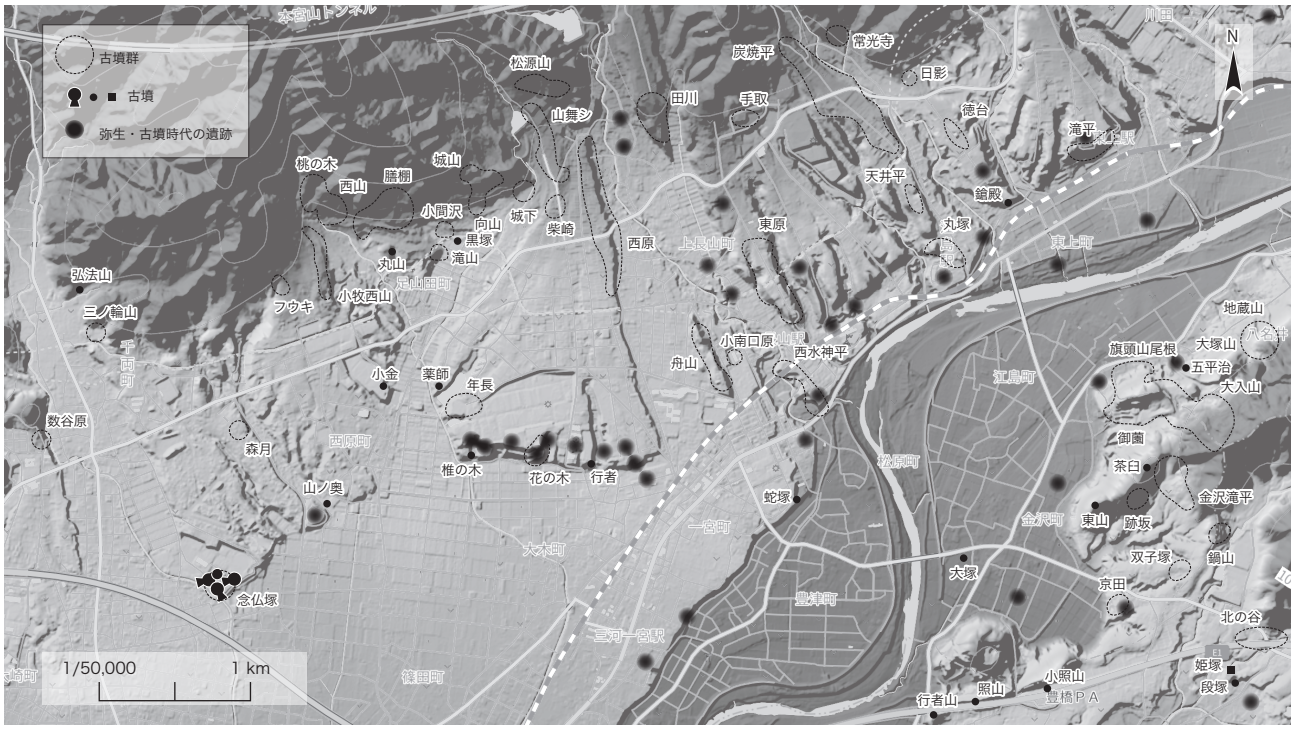
では、竪穴建物と思われる遺構が確認されている（一宮町 1976）。坂下池東遺跡は花の木遺跡と併せて平成９年（1997）の試掘調査で確認され､新規に登録された遺跡である。弥生時代中期から後期の竪穴建物が確認されている（愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1999）。

山ノ奥遺跡

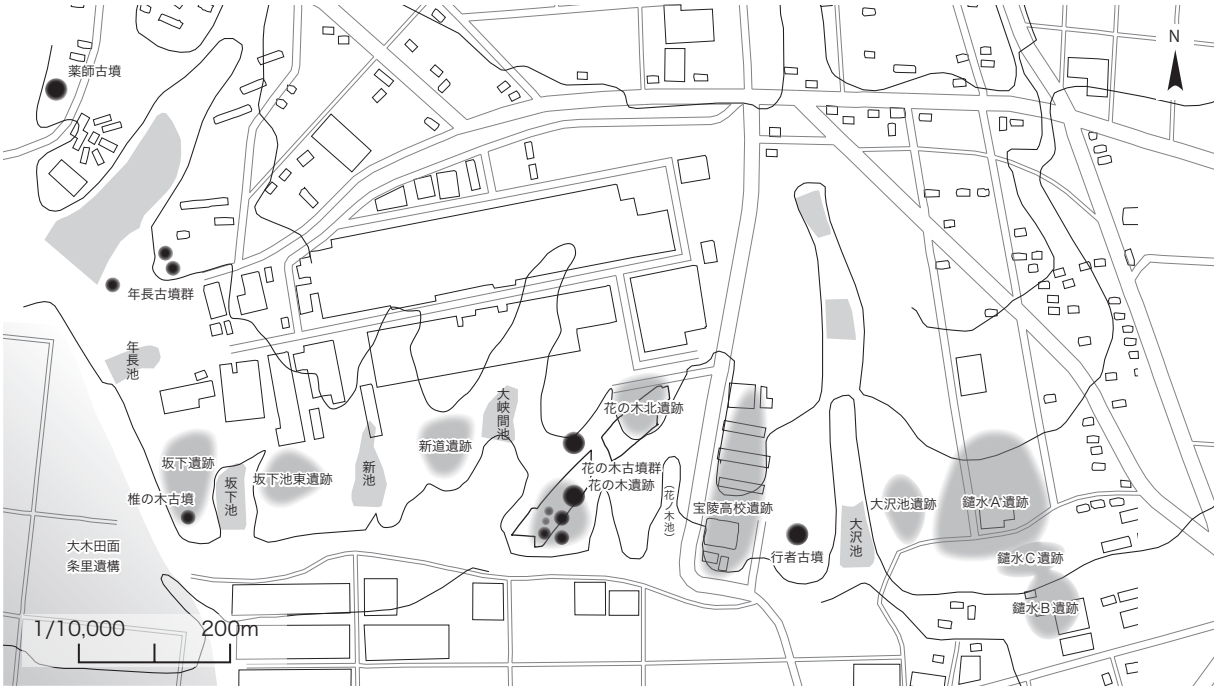
西原台地南西の日吉原扇状地扇端部には弥生時代後期から終末期を主体とする山ノ奥遺跡が立地する。平成９年度から 11 年度にかけて道路改良工事に伴い、一宮町教育委員会が 3,805 ㎡の発掘調査を実施した結果、竪穴建物 111 棟、掘立柱建物１棟、環濠３条、方形周溝墓２基が検出され、多数の弥生土器、石器が出土した（豊川市教育委員会 2008）。

古墳時代後期

本宮山南麓には中期後葉の積石塚から構成される城山古墳群､向山古墳群を嚆矢として、




第２図　花の木古墳群と周辺の古墳・遺跡（1:50,000）




第３図　西原台地の古墳と遺跡（1:10,000）

舟山古墳群、炭焼平古墳群に代表される古墳時代後期から終末期の群集墳が盛んに築造される（一宮町 1976、愛知県 2005、一宮町教育委員会 1995・2004 等）。これに対して、花の木古墳群が立地する西原台地、日吉原台地周辺に築造される古墳の築造時期は古墳時代中期が主体である。こうした状況から、花の木古墳群についても、古墳時代中期の古墳

古墳時代中期

群、あるいは初期群集墳と理解されていた（須川他 2002、愛知県 2005）。

行者古墳

西原台地南東端付近には径約 22.5m、高さ約 2.75m の円墳とされる行者古墳が単独で立地する。古墳は「行者さま」として、「不動の滝」と併せて地元に親しまれている。

椎ノ木古墳

台地南西端付近には椎ノ木古墳、年長古墳群、薬師古墳が分布する。椎ノ木古墳は径約 15m、高さ約 1.5m の円墳とされる。

年長古墳群

年長池付近に分布する年長古墳群は３基の古墳が知られている。年長１号墳（年長古墳）

年長１号墳

は足山田 55 号墳として、昭和 39 年（1964）に愛知大学考古学研究会（調査担当者大参義一）により発掘調査が実施された。調査の結果、古墳は全長約 20m、後円部径約 17m、同高さ約 1.2m、前方部長約３m の前方後円墳（帆立貝式古墳）であることが判明した。古墳の周囲には幅約１m、深さ約 0.2 mの周溝が検出されたが、埋葬施設は確認されなかった（第４図左上）。

周溝や墳丘盛土中から出土した遺物の多くは弥生土器と石鏃、打製石斧、磨製石斧等の石器で、ごく少量の古墳時代の須恵器蓋杯も含まれるが、確実に古墳に伴う遺物は認められない。遺物の包含、出土状況が花の木古墳群と類似することは、弥生時代の遺跡の展開、古墳群の形成過程が同様であることを反映している。その他、敷石に古瀬戸四耳壺を伴った中世墓が検出されている（愛知大学考古学研究会 1964、大参 1969）。

年長２・３号墳

年長２号墳は径約 24m、高さ１m、同３号墳は径約 20m、高さ約 0.9m の円墳とされる（一宮町 1976）。

薬師古墳

薬師古墳は径約 24m、高さ約２m の円墳で葺石があるとされる。昭和７年（1932）頃に土取りによって損壊し、その際に鉄鏃、刀剣、甲冑（肩甲）が出土した（第４図左下）。古墳の築造時期は中期前半と考えられる（一宮町 1976、鈴木 2005）。

小金古墳

西原台地南西端に対向する日吉原台地東端には小金古墳が立地する。古墳は平成４年度に工場用地造成に伴い、一宮町教育委員会による発掘調査が実施され、径約 35.3m、高さ約 3.6 ～ 4.8m の２段築成の円墳で、墳丘の上下斜面全面に葺石が施されていることが判明した。明治時代とされる盗掘により、埋葬施設は完全に失われていたが、古墳の築造時期は中期と考えられる。墳丘最下部の盛土中からは大量の弥生土器も出土した（豊川市教育委員会 2025）。

念仏塚古墳群

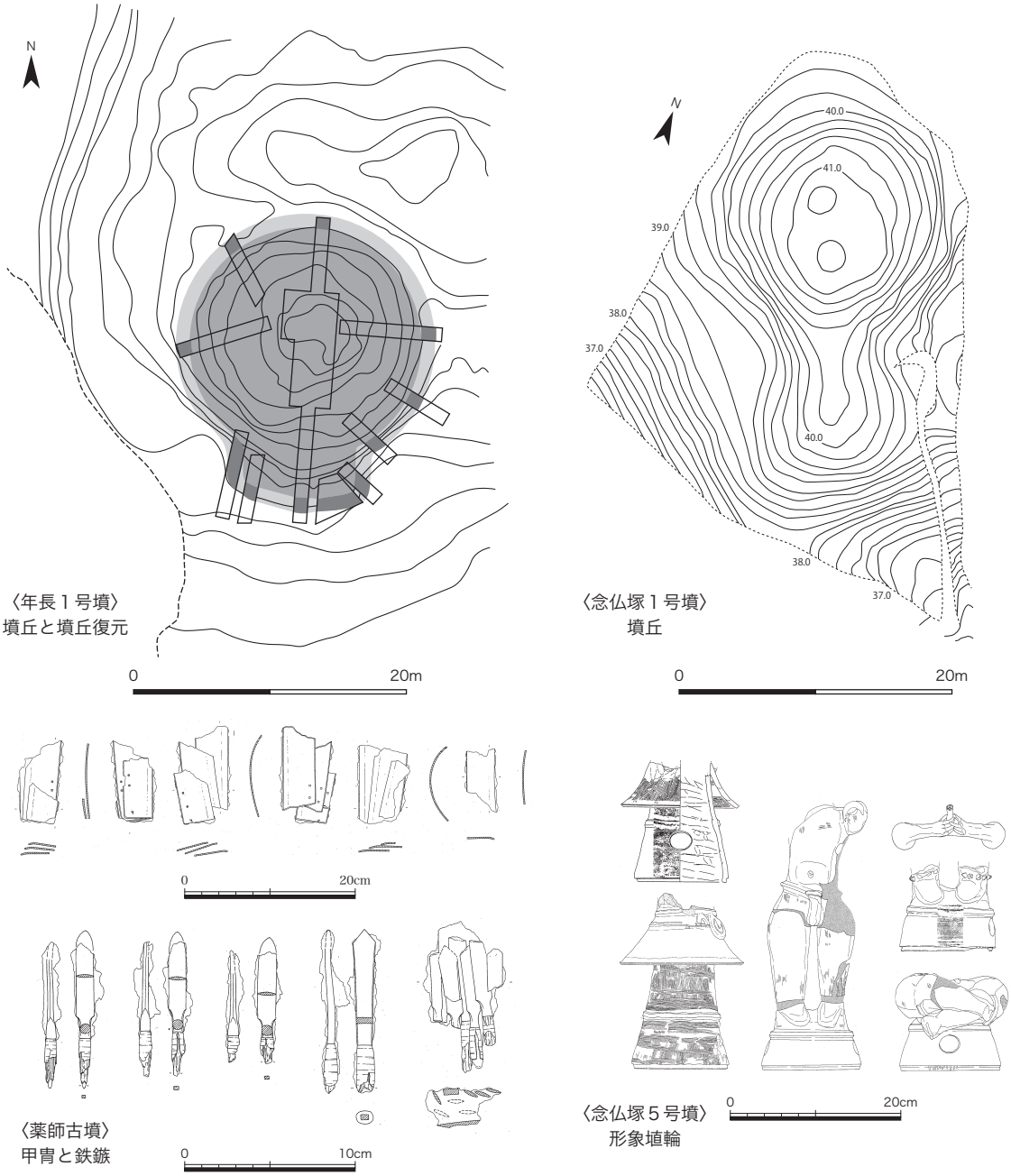
日吉原台地南西端には中期後半を中心とする念仏塚古墳群が立地する。昭和 41 年（1966）に東名高速道路建設に伴い愛知県教育委員会により、２・３・４号墳の発掘調査が実施された。２号墳は全長約 27.5m の前方後円墳、３号墳は径約 30m の円墳、４号墳は全長約 25m の前方後円墳で、２号墳は後円部に礫槨、前方部に礫床が確認されている。現存する１号墳は全長約 30m の前方後円墳で（第４図右上）、５号墳（滅失）も前方後円墳の可能性が指摘されている。出土遺物として、２号墳に管玉、５号墳に大刀、２号墳に須恵器、３・４・５号墳に土師器と須恵器、２・４・５号墳に円筒埴輪と形象埴輪（第４図右下）がある（愛知県教育委員会 1976、一宮町 1976、愛知県 2005）。

森月１号墳

日吉原台地中央には昭和 35 年（1960）の土取り工事により海獣葡萄鏡が出土した森月１号墳がある。周辺を含めて詳細は不明である（愛知県 2005）。

古墳時代の遺跡

古墳時代の集落遺跡としては、坂下遺跡や坂下池東遺跡における古墳時代の遺物の出土等が知られるが（一宮町 1976 等）、詳細は公表されていないので、実態は全くの不明である。




第４図　周辺の古墳（1:500）と出土遺物（1:4・1:8・1:16）

念仏塚１号墳の現況

遺跡が密集して分布する西原台地

## （4）既往の調査

### 花の木２号墳（緊急調査）

愛知県遺跡地図

昭和 47 年（1972）に発行された愛知県遺跡地図に花の木古墳群は７基の古墳（第２表）として登録されている（愛知県教育委員会 1972）。遺跡の名称には「花の木」が用いられ、以後、それが踏襲されている（愛知県教育委員会 1996 等）。

２号墳の緊急調査

古墳群は昭和 43 年（1968）、工場建設の計画に伴い、２号墳の緊急調査が実施された（調査担当者：久永春男）。調査成果の概要は一宮町誌にまとめられているが、古墳、古墳群の名称としては「花ノ木」が用いられている（一宮町 1976）。翌年８月には１号墳の調査も予定されたが（調査担当者:久永春男）、台風７号により中止となり、所在が不明となった。２号墳はその後、墳丘の北半（工場敷地側）が大規模に盛土され、令和２年（2020）の調査時までその状態で残されていた。

### 「花ノ木古墳群」（『一宮町誌』から再録）

古墳群

西原台地の先端の縁辺に、標高 40 m前後に７基の円墳がある。第１号墳は第２号墳の

調査の経緯

北西 40m の位置にあって直径 25m、高さ１m で、墳頂は平坦である。第２号墳は、直径 20m、高さ２m で、昭和 43 年住軽伸銅工場建設のために破壊されそうになったので、久永春男氏の指導で緊急調査をした。

内部主体

内部主体は木棺直葬で、東西に並列して、割竹形木棺を納めたと考えられる土壙が３個

西棺

あった。西棺は地上直上にあって、人骨一体と、副葬された鉄剣一口（ふり）が出土し、

中央棺

微量の朱が認められた。中央棺は墳頂から約１m下にあって、歯数個とヒスイ勾玉・メノ

東棺

ウ勾玉各１個と、碧玉岩製細形の管玉２個が出土した。東棺は中央棺と同じ高さに並列し

出土土器

てあり、碧玉岩製小玉と細形の管玉・針が出土した。封土中には尾張・三河地方土師器第二型式に比定される青山式の甕形土器の破片数個と東側墳丘端の地山直上に青山式小形丸底壺１個が出土した。須恵器片は発見されなかった。

３号墳

花ノ木３号墳は、第２号墳の西南約 20m にあって、直径 20m、高さ１m で、墳頂に

４･５･６･７号墳

平坦部がある。墳丘には土師器の小片が見られる。第４号墳・第５号墳・第６号墳・第７号墳は、第３号附近にそれぞれの古墳が３～７m をへだてて築造されている。いずれの古墳も墳頂は平坦である。第４号墳は直径 12m、高さ 0.5m で、第５・第６・第７号墳はいずれも直径 15m、高さ 0.5m である。

第２表　愛知県遺跡地図（愛知県教育委員会 1972）の遺跡登録台帳（花の木古墳群）

| 遺跡番号 | 種別 | 遺跡名称 | 所在地 | 地目 | 時代 | 遺跡概況　（出土遺物） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 83195 | 古墳 | 花の木１号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径25m 高1m　墳頂平坦部あり | |
| 83196 | 古墳 | 花の木２号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径20m 高2m　木棺３ヶ（玉類、剣　土師器片） | 昭和43.調査 |
| 83197 | 古墳 | 花の木３号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径20m 高1m　墳頂平坦部あり | |
| 83198 | 古墳 | 花の木４号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径12m 高0.5m | |
| 83199 | 古墳 | 花の木５号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径15m 高0.5m | |
| 83200 | 古墳 | 花の木６号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径15m 高0.5m | |
| 83201 | 古墳 | 花の木７号墳 | 一宮町大木新道 | 山林 | 古墳 | 円墳　径15m 高0.5m | |

## （５）調査の経過

花の木古墳群・花の木遺跡（試掘調査・確認調査）

平成９年（1997）、工場敷地拡張の計画に伴う埋蔵文化財有無照会を受け、一宮町教育委員会が 60 ㎡の試掘調査を実施した。その結果、２号墳を含めた４基の古墳が現存することに加えて、古墳築造以前の遺跡の存在とその範囲を確認した（第５図）。遺跡は「花の木遺跡」として、新規に登録された（愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1999）。調査後、諸般の事情から工場敷地は拡張されず、発掘調査も実施されなかった。

一宮町試掘調査

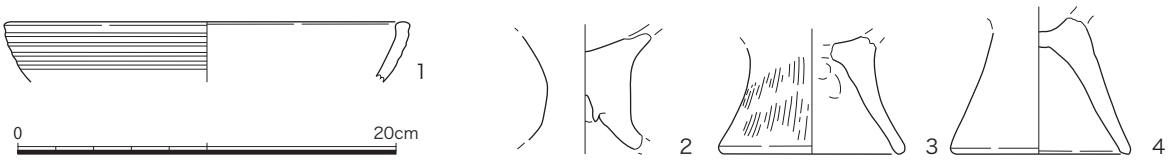
平成 30 年（2018）、道路改良工事（一般国道 151 号一宮バイパス）に伴い、愛知県埋蔵文化財調査センターが 10 ㎡の確認調査を実施した。その結果、古墳の周溝と思われる溝を検出し、弥生時代後期の遺物がまとまって出土した。

確認調査

本発掘調査Ａ（花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡）

平成 31 年・令和元年度、同事業に伴い、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが、愛知県埋蔵文化財調査センターによって確認された遺構・遺物について、事業区域内における広がりを明確にする目的で 100 ㎡の本発掘調査Ａを実施した。発掘調査は平成９年に一宮町教育委員会が確認調査を実施した結果、古墳の分布、遺跡の範囲が確定した地点に加えて、周知の遺跡の範囲外も対象とした。その結果、遺跡が立地する台地の西側斜面、東側の谷部分に遺構・遺物は認められなかったものの、谷部分の東側の台地上で古墳時代中期の遺構・遺物を確認した。遺跡は花の木遺跡と区別し、「花の木北遺跡」として新規に登録された（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2020）。

本発掘調査Ａ




第５図　花の木遺跡平成９年試掘調査出土土器実測図（1:4）

本発掘調査Ａの掘削作業（令和元年度）

本発掘調査Ａの遺構面精査（令和元年度）

### 花の木古墳群・花の木遺跡（本発掘調査Ｂ）

令和２年度
調査前地形測量
盛土搬出

令和２年度は花の木古墳群・花の木遺跡 5,510 ㎡の本発掘調査Ｂを実施した（第６図）。事業者による伐採後、事業区域内外の地形測量を実施し、１号墳を除く６基の古墳の分布と位置、概況を把握した（第７図）。発掘調査時には調査区内に工場敷地造成時の盛土が残されていたので、盛土搬出用道路を設ける必要があった。そこで、古墳が分布していない台地南西部分を先行して調査し、調査完了後、事業者が盛土搬出用道路を整備し、盛土を搬出した。

盛土の搬出と併行して、古墳群の調査に着手した。盛土の搬出、古墳群の墳丘部分の調査完了後には、古墳の埋葬施設の調査、墳丘の解体調査と併行して遺跡の調査を進捗させた（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2021）。

### 花の木北遺跡（本発掘調査Ｂ・確認調査）

令和３年度
試掘調査

令和３年度は花の木北遺跡の旧山林部分 2,110 ㎡の発掘調査を実施した（第６図）。発掘調査においては、弥生時代中期と古墳時代中期を主体とする遺構と遺物が検出された（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2022）。同年度、工場の駐車場として利用されていた部分を対象として、愛知県埋蔵文化財調査センターが 30 ㎡の試掘調査を実施し、事業予定地の台地上ほぼ全面に遺跡が連続して展開していることが推測された。

令和４・５年度

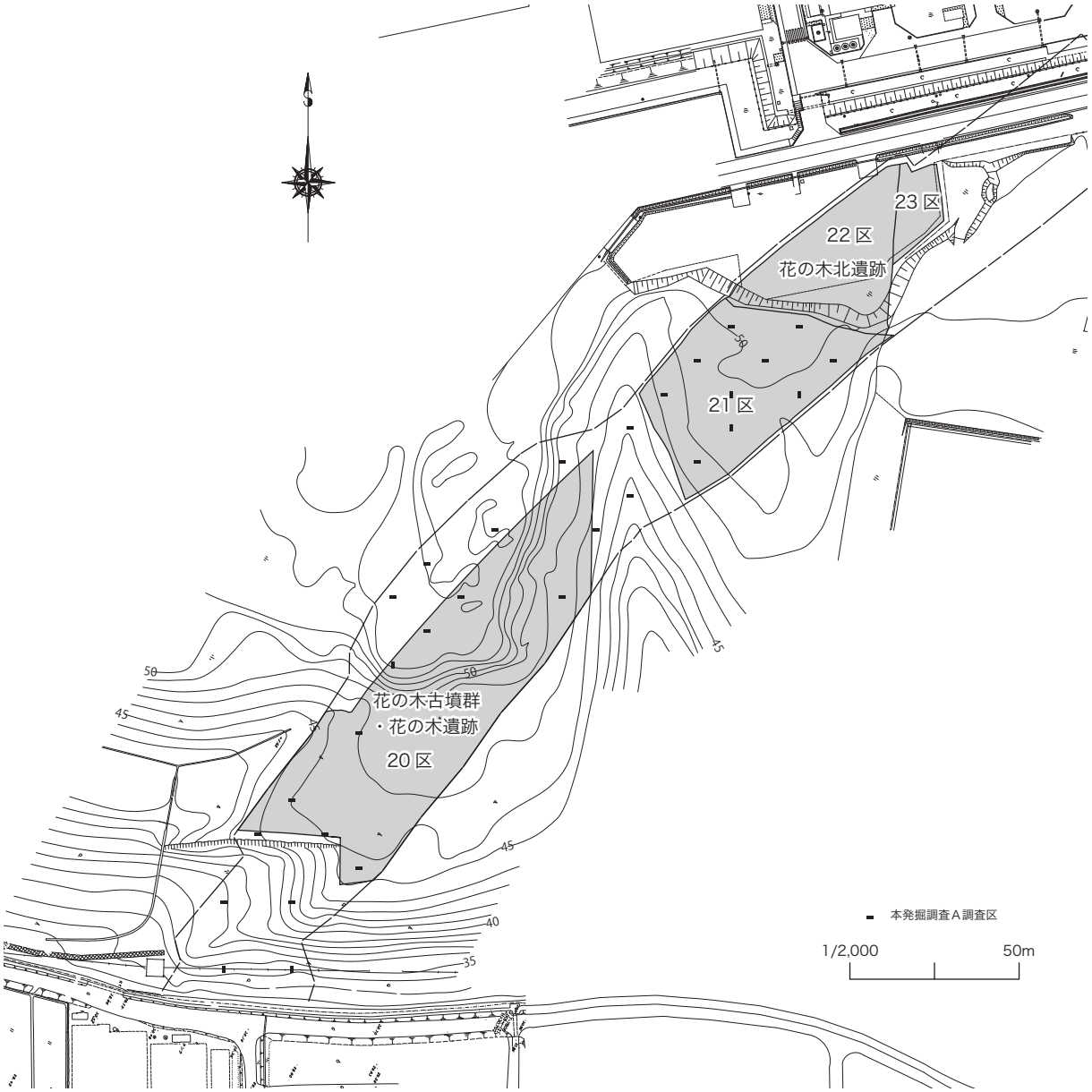
試掘調査の結果を受けて、事業者による伐採、舗装撤去後、令和４年度には 1,335 ㎡、同５年度には 375 ㎡の発掘調査を実施した（第６図）。令和３年度の発掘調査と同様、弥

花の木遺跡（台地南西部分）の調査（令和２年度）

事業者による盛土搬出（令和２年度）

花の木５・６・７号墳の調査（令和２年度）

花の木古墳群・花の木遺跡の現地説明会（令和２年度）




第６図　花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡本発掘調査Ｂ調査区（1:2,000）

花の木７号墳の埋葬施設の調査（令和２年度）

花の木２号墳の解体と花の木遺跡の調査（令和２年度）

花の木北遺跡の発掘調査（令和３年度）

花の木北遺跡の遺構掘削作業（令和４年度）

花の木北遺跡の遺構検出作業（令和５年度）

花の木北遺跡の現地説明会（令和４年度）

生時代中期と古墳時代中期を主体とする遺構と遺物が検出された（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2023・2024）。

第３表　現地説明会開催状況

| 調査年度 | 調査遺跡 | 開催日 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 令和２年 | 花の木古墳群・花の木遺跡 | 11月３日 | 115人 |
| 令和３年 | 花の木北遺跡 | ８月７日 | 125人 |
| 令和４年 | | ２月11日 | 43人 |

### 発掘調査成果の公開

現地説明会

　花の木古墳群・花の木遺跡・花の木北遺跡本発掘調査Ｂを実施した令和２年度から令和４年度は感染症が拡大していた時期に相当する。発掘調査の実施に加えて、成果の公開についても多くの制約があったが、令和５年度を除く各年度の調査時には市・県民を対象とした現地説明会を開催した（第３表）。令和３年度の花の木北遺跡の発掘調査期間中には花の木古墳群で検出された蛇行剣について、県政記者クラブを通じて資料配布も行なった。

蛇行剣の資料配布

通信の発行

　現地の公開に加えて、地区市民館（大木会館）を通じて発掘調査期間中の各月には通信（たより）を配布し、随時、発掘調査の成果を公開した。通信（たより）は愛知県埋蔵文化財センターのホームページでも同時に公開した。

### 整理作業・報告書作成

遺物洗浄

整理作業

　出土した遺物は各発掘調査年度内に洗浄、乾燥し、愛知県埋蔵文化財調査センターに仮収納した。発掘調査終了後の令和５・６年度には、出土遺物の注記、接合、実測、写真撮影等の整理作業、報告書の執筆、編集を愛知県埋蔵文化財センターで実施した（作業の効率化を図るため、一部の出土遺物の接合、実測と出土遺物の写真撮影を業者に委託して実

出土遺物の洗浄作業（令和５年度）

出土遺物の接合作業（令和５年度）

土器付着炭化物の試料採取（令和５年度）

出土遺物の写真撮影（令和６年度）

施している）。同時に金属製品の保存処理、放射性炭素年代測定を専門業者に委託して実施した。翌令和７年度には本書を印刷・刊行した。

金属製品保存処理

印刷・刊行

［参考文献］

愛知県　2003『愛知県史』資料編２　考古２　弥生
愛知県　2005『愛知県史』資料編３　考古３　古墳
愛知県教育委員会　1972『愛知県遺跡地図』
愛知県教育委員会　1976『東名高速道路関係埋蔵文化財調査報告』
愛知県教育委員会　1996『愛知県遺跡地図』（III）　東三河地区
愛知県教育委員会・財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1999『愛知県埋蔵文化財情報』14（平成９年度）
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター　2020・2021・2022・2023・2024『年報』令和元年度・２年度・３年度・４年度・５年度
愛知大学考古学研究会　1964『郷土考古学展　三河一宮足山田55号古墳　豊清町比舎古古窯群』
一宮町　1976『一宮町誌』
一宮町教育委員会　1995『城山』
一宮町教育委員会　2004『炭焼平古墳群』
大参義一　1969「愛知県宝飯郡足山田55号墳」『日本考古学年報』17　日本考古学協会
須川勝以・岩原　剛・森　泰通・荒井信貴・伊藤久美子・三田敦司　2002「愛知県（三河）」『古墳時代中期の大型墳と小型墳―初期群集墳の出現とその背景―』資料編　東海考古学フォーラム・静岡県考古学会　2002年
鈴木一有　2005「薬師古墳出土遺物の検討」『三河考古』第18号　三河考古学談話会
豊川市教育委員会　2008『山ノ奥遺跡』
豊川市教育委員会　2025『船山第１号墳　小金古墳』

# 第２章　花の木古墳群

## （１）古墳群の概況

遺跡台帳との対照

昭和 43 年の緊急調査時の情報は限られていたので、今回の調査時に改めて遺跡台帳に登録された古墳名と現地の古墳を対照した。平成９年の確認調査・試掘調査時には４基の古墳の現存が確認されていたが、伐採前ということもあって、すでに幾つかの古墳は対照が困難であった。今回の事業による伐採後も、最大規模（径 20m・高さ 2m）で、昭和 43 年の緊急調査の痕跡が残っていた２号墳、２号墳に次ぐ規模（径 20m・高さ 1m）の３号墳の特定は容易であったが、径 10m 級で高さ 0.5m とされた４号墳以下の特定は困難であった（２号墳の「北西 40m の位置にあっ」たとされる１号墳は確認できない）。

調査前測量

調査着手前の地形測量の結果、３号墳の南の調査区外に１基、南西の調査区内に３基の古墳と思われる墳丘状の高まりを確認した（第７図）。そこで、便宜的に３号墳南の１基を４号墳、南西の３基を標高が高い北から５号墳、６号墳、７号墳として扱うことにした。墳形はいずれも円墳としての認識を踏襲した。地形測量による墳丘規模の計測値は２号墳が径約 30m・高さ約 2.0m、３号墳が径約 21m・高さ約 1.0m、４号墳が径約 15m・高さ約 0.4m、５号墳が径約 12.5m、高さ約 0.4m、６号墳が径約 10.5m・高さ約 0.2m、７号墳が径約 12.5m・高さ約 0.4m である。古墳の基数は遺跡台帳と齟齬しないが、遺跡台帳の計測値（第２表）とは必ずしも一致しないこと、墳丘が特に低い６号墳は現地ではほとんど認識できないことから、古墳の対照には不安が残る。なお、群中の古墳に葺石、

古墳の外表施設

埴輪等の外表施設は認められない（平成９年の試掘調査・確認調査では４号墳の墳丘斜面に葺石を確認しているが、部分的な確認で確実ではない）。既調査の２号墳の墳丘上には土器が散在していたが、花の木遺跡に伴う弥生土器と峻別することは困難であった。

## （２）調査の方法

表土掘削

群中には墳丘が低い古墳（特に６号墳）が含まれ、墳頂から浅い位置に埋葬施設が構築されていることも予想されたので、表土は人力による掘削とした。表土、墳丘流出土、周溝埋土の掘削に際しては、２号墳と３号墳、３号墳と６号墳、５号墳と６号墳と７号墳の関係が把握できるように土層観察用の畦を設定した。

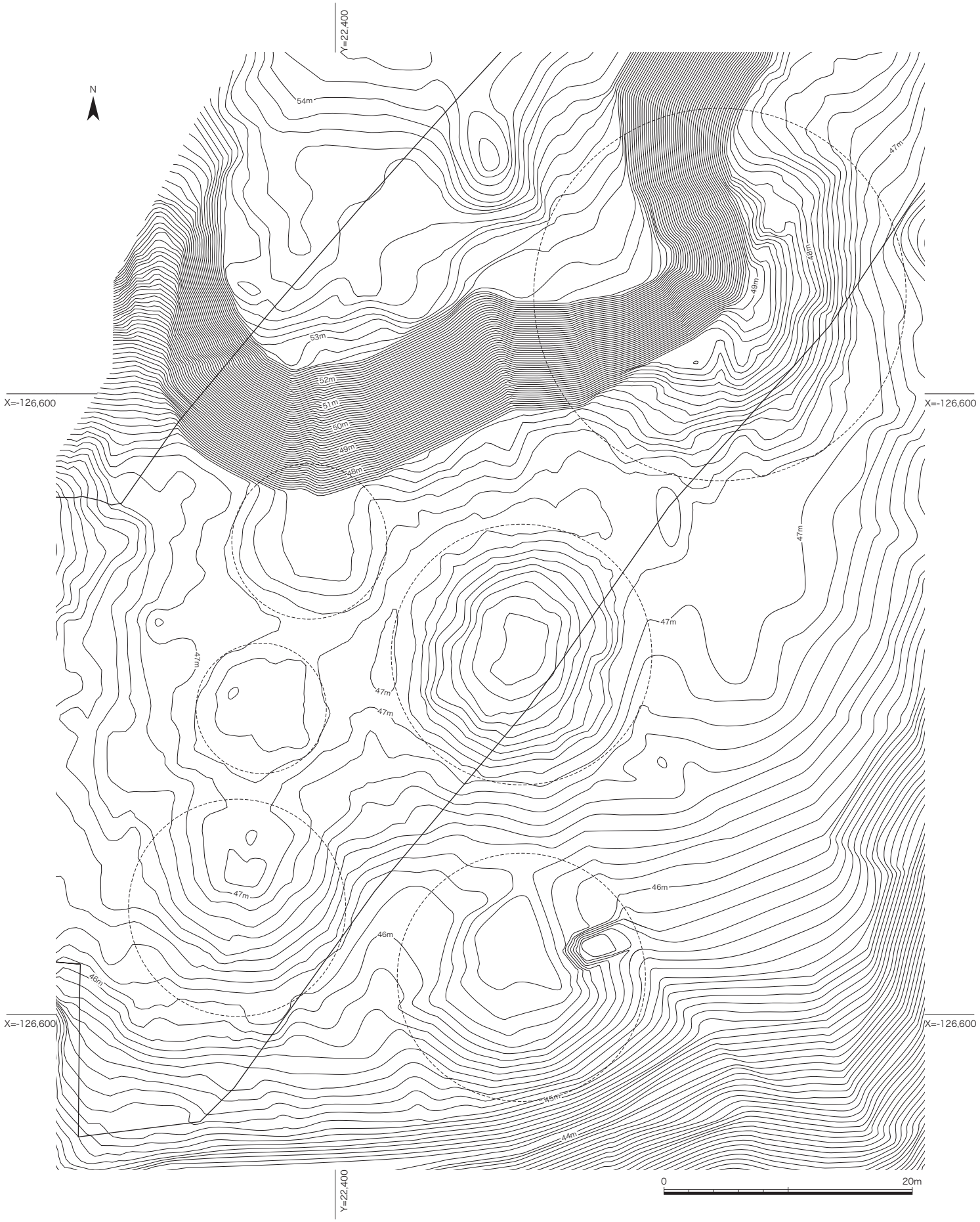
周溝の掘削

昭和 43 年の２号墳の調査からも、埋葬施設は木棺直葬等、竪穴系の埋葬施設であることが予測され、墓壙等の確認に際しては墳丘を掘り下げる状況も想定されたので、表土掘削後、周溝をほぼ掘削した段階で古墳群の全景撮影を実施した。その後、各古墳の埋葬施設の調査に着手したが、昭和 43 年の調査の検証、下層に重複する弥生時代の遺構との関係把握には困難を来した部分も多い。

埋葬施設の調査

墳丘の掘り下げ

結果として、埋葬施設の調査は旧表土上面までの掘り下げの過程と併行して進め、墓壙あるいは墳丘の構築過程を把握した状況を随時記録した。埋葬施設の調査完了後は墳丘を旧表土上面まで、ほぼ人力で掘り下げた。旧表土上面の精査後は旧表土を掘り下げ、弥生時代の遺構面（花の木遺跡）の調査に移行した。




第７図　花の木古墳群調査前地形測量図（1:400）

## （3）検出遺構の概要

古墳の分布
2・3号墳
5・6・7号墳

調査区内には再調査の2号墳を含めた5基の古墳が分布する。2号墳と3号墳の一部は調査区外で、5・6・7号墳の3基は墳丘全面を調査した。7号墳は新旧の（再利用した）古墳が確認された。いずれも周溝が確認され、方墳であることが確定した。

埋葬施設

7号墳上位では2基の木棺（痕跡）、5・6号墳、7号墳下位でも埋葬施設を検出した。

副葬品

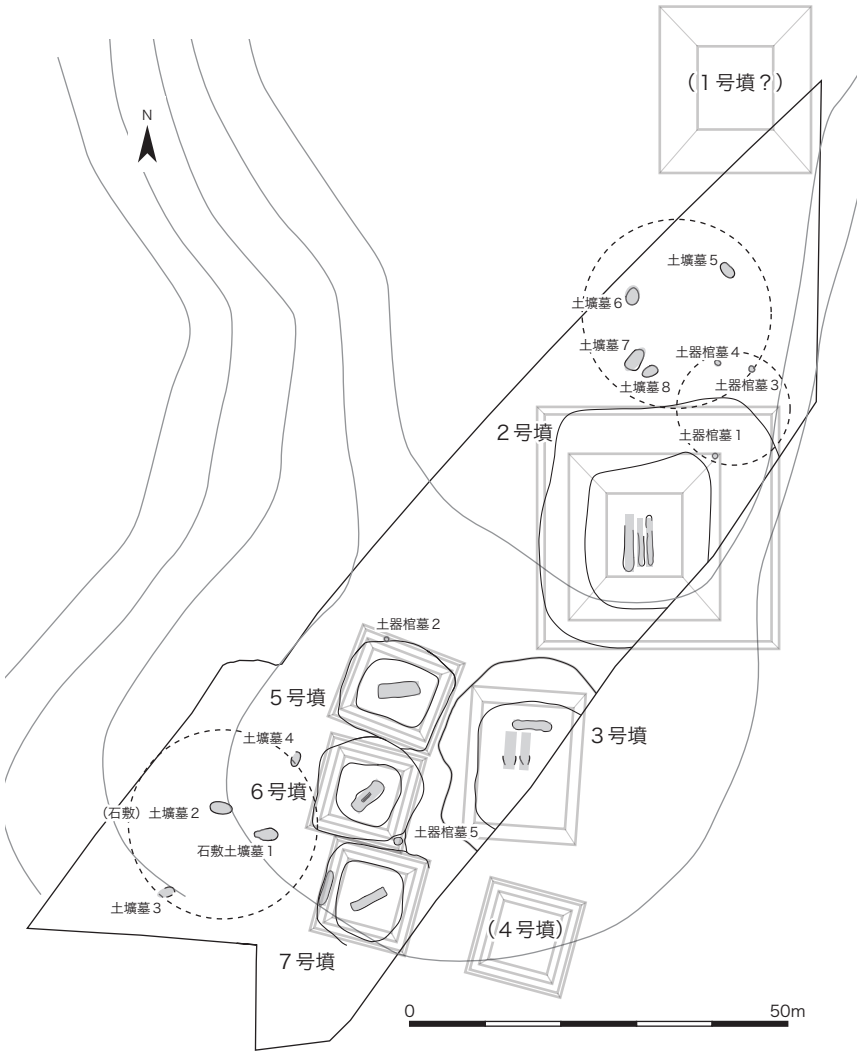
副葬品は7号墳の2基の木棺（痕跡）に玉類、鉄製武器･農工具、3号墳の木棺（痕跡）に農工具を確認した。その他の埋葬施設に副葬品は認められなかった。

墳丘周囲

2号墳の墳丘周囲からは勾玉、鉄鏃が採取され、周溝内には鉄剣が置かれていた。7号墳の墳丘（周溝）斜面からは滑石製を主とする玉類が出土した。

周辺埋葬施設

古墳の周囲には周辺埋葬施設として、土器棺墓5基、石敷土壙墓を含む土壙墓8基を検出した。これらは5・6・7号墳の周囲、2号墳の周溝内と周囲に一定の分布域を形成する（第8図）。




第8図　花の木古墳群主要遺構配置図（1:1,000）

第９図　花の木古墳群遺構全体図（1:400）

## （4）花の木２号墳

### 古墳の現況、発掘調査の方法

立地
既往の調査

古墳は北東から南西に馬の背状に伸びる台地の南東斜面側に構築される。２号墳は昭和43年（1968）、工場建設の計画に伴い緊急調査が実施された結果、径20m・高さ2.0mの円墳とされた。

現況

緊急調査された２号墳はその後、墳丘の北半（工場敷地側）が大規模に盛土され、令和２年(2020)の調査時までその状態で残されていた。調査時のトレンチも完全に埋没せず、落ち込みとして残されていた。トレンチの痕跡は墳頂部周辺だけではなく、墳丘の東西方向にも認められたが、墳丘を調査したことを示す記録、記述はない。南方向には平成９年（1997）の一宮町教育委員会による試掘調査のトレンチの痕跡も残る。調査前地形測量の結果からは、径約30m・高さ約2.0mの円墳として認識された（第10図）。

客土除去後

工場敷地造成時の客土を除去すると、旧トレンチの両側にはトレンチ掘削時の排出土が埋め戻されずに残された状態であることが判明し、特に墳丘斜面から墳丘裾にかけて排出土が積み残された状態で、かなりの土量を除去する必要があった。客土と過去の調査時の排出土を除去すると、『町誌』の記述通り、東棺と中央棺として調査したと思われる溝状の痕跡が同じ高さに並列して、西棺の痕跡が東棺と中央棺より低い位置で確認された。墳丘に対して東西に設定したトレンチは基盤層付近まで深く掘削された状態であった。その他、墳丘南西部分は等高線に乱れが認められるように、小動物の巣穴による墳丘の損傷が著しい状態であった（第11図）。

基準の設定

調査着手時は円墳を想定していたので、今回の調査に際しては、調査前地形測量図を参考にして古墳の中心（X=−12,592・Y=22,431）を求め、中心からの東西、南北方向を基準とした。それに加えて、古墳の中心付近を通過する昭和43年調査時に墳丘に対して設定された北東方向から南西方向のトレンチを改めて墳丘断面の観察、記録に利用した。

### 墳丘・周溝

規模・墳形・方位

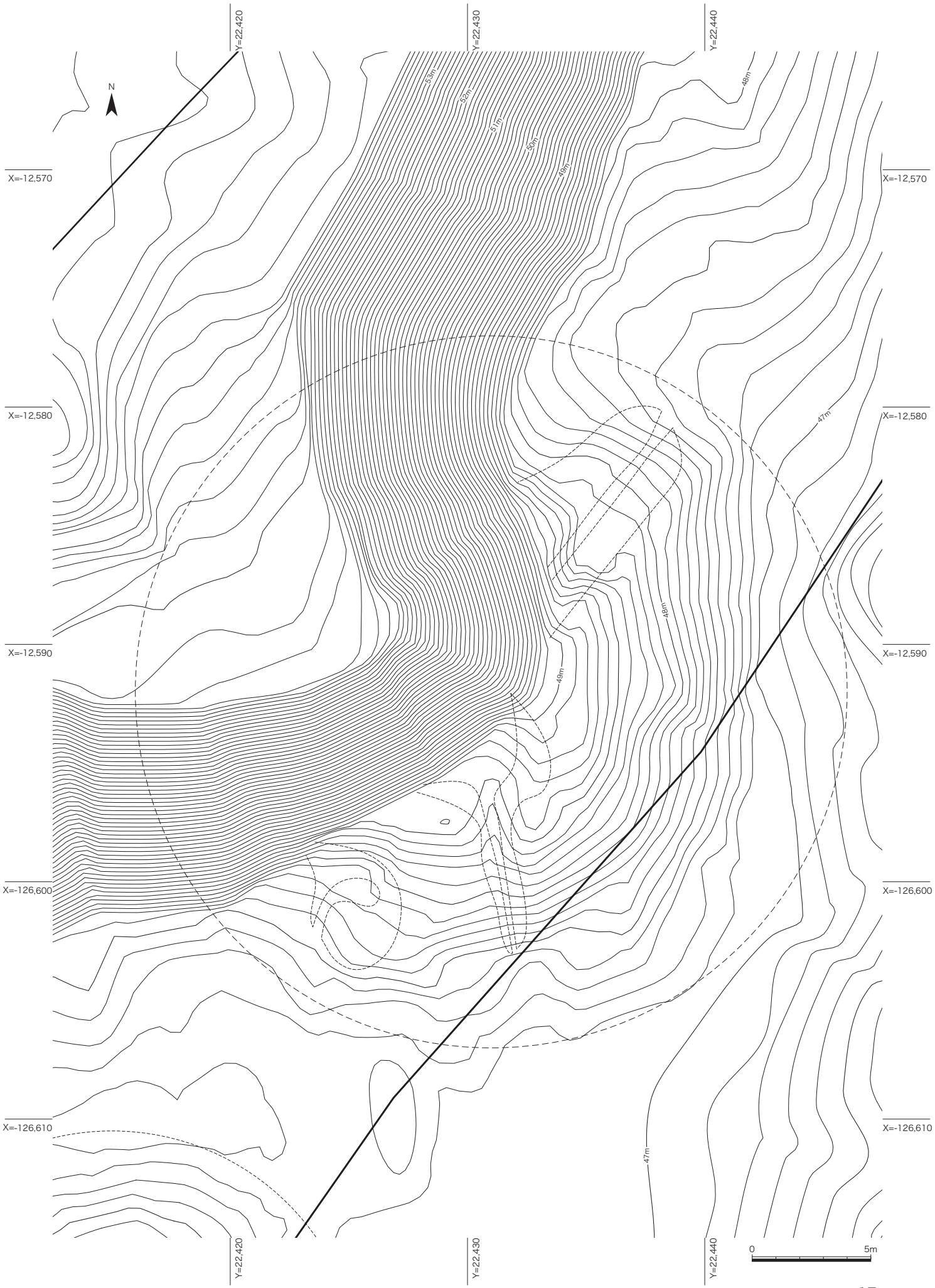
今回の発掘調査の結果、２号墳は長軸（南北）約23m、短軸（東西）約20mの方墳であることが判明した（後述する墳丘下端を計測）。長軸の方位はほぼ真北（N0°）である。墳丘下端の高さを地形が高い北西側で標高47.0m付近、低い南東側で標高46.5m付近、墳頂平坦面の高さを標高48.5m付近に求めると、墳丘下端（周溝底面）から墳頂部平坦面までの墳丘の高さは北西側が約1.5m、南東側が約2.0mである。墳頂部の最高点の標高は49.0m前後で、最高点までの墳丘の高さは北西側が約2.0m、南東側が約2.5mである。墳頂部平坦面（現状の計測値）は長軸（南北）約11m、短軸（東西）約10mの長方形で、墳丘下端との比はおよそ２：１である（第12図）。

周溝

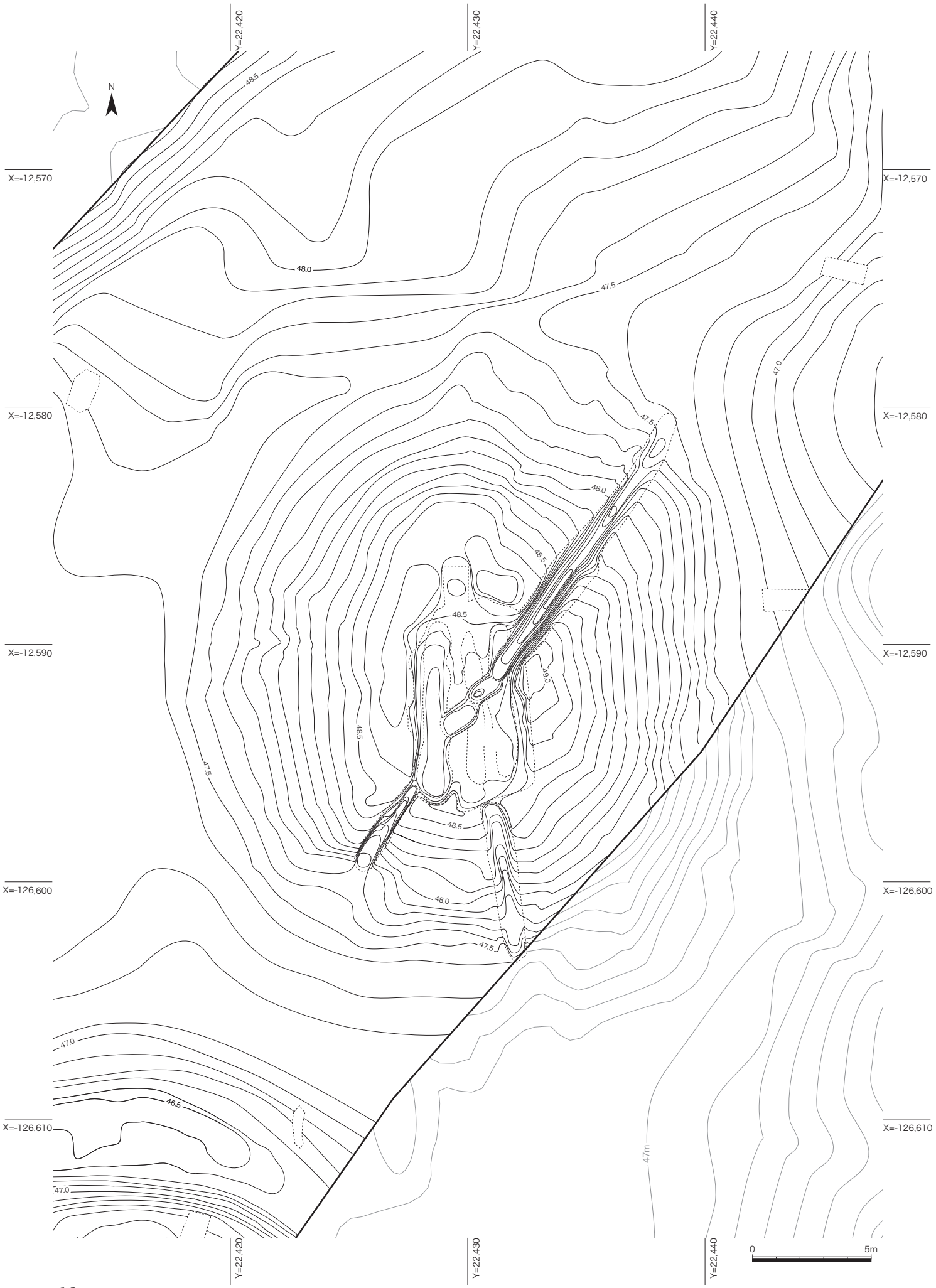
周溝は調査区内は全周するが、調査区外の南東隅が想定される付近は現地表が46.5mなので、周溝は南東斜面に連続することが想定される。周溝幅は北東側が浅く、幅が広い（第12図）。

土器棺墓
剣の出土

北東隅付近の周溝底面（墳丘斜面）においては、土器棺墓１（三重の蓋を伴う土器埋設遺構）を検出した。西溝（墳丘西辺）中央の墳丘下端付近においては、剣（1）が墳丘の東西主軸（短軸）の方向に、周溝底面から約0.2mの高さに、切先を墳丘側に向けた状態




第10図　花の木２号墳墳丘測量図（1:200）






第11図　花の木２号墳盛土除去後墳丘測量図（1:200）

で置かれていた（第 12・14 図）。その他、墳丘南辺中央付近で鉄鏃（2）、北東隅付近で碧玉製勾玉（1）が採取された（第 12 図）。昭和 43 年調査の排出土に混入したとすれば、いずれかの埋葬施設に伴っていた可能性もある。

鉄鏃の出土
勾玉の採取

剣（1）は剣身の残存長 30.6cm、幅 3.0cm、厚さ 0.5cm 程度である。ふくら切先を有し、断面は杏仁形で鎬はない。鉄鏃（2）は平根系の腸抉柳葉式で、残存長 4.9cm、残存幅 2.6cm である。鏃身は長さ 4.7cm、厚さ 0.4cm 程度である。両丸造で断面は杏仁形を呈する。腸抉の深さは 0.4cm で浅い。茎は残存長 0.4cm、幅 0.8cm、厚さ 0.3cm 程度である（第 19 図）。

剣（1）
鉄鏃（2）

勾玉（1）は濃緑色の碧玉製で、全長 3.7cm、幅 2.5cm。全面が滑らかな曲線で構成され、研磨単位、研磨痕はほとんど観察されない。穿孔は片面穿孔である（第 20 図）。

碧玉製勾玉（1）

周溝（北溝）の上面においては、底面から壁面が被熱した長軸 1.2m、短軸 0.4m の平面長楕円形の土坑 020SK を検出した（第 14 図）。土坑内には炭化材が充填された状態であったが、それ以外の遺物は出土しなかった。採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52475）は、2 σ暦年代範囲で 1725-1784calAD（44.19％）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

古墳築造後の遺構
年代測定

周溝埋土は多数の弥生土器を包含し、古墳に伴う土師器との厳密な識別は難しい。その可能性がある土器として、小型壺（8）、甕（12・13）、高杯（20 ～ 23）等がある。時期は前期後半から中期前半で、前者がやや多いようにも思われる。その他、灰釉陶器（24 ～ 26）、縄文・弥生時代の石器、石製品も含まれる（第 21・184 ～ 188 図）。

周溝出土遺物

墳丘盛土、旧表土中も多数の弥生土器、縄文・弥生時代の石器、石製品を包含する（第 22・184 ～ 188 図）。

墳丘出土遺物

### 墳丘構築過程

墳丘土層断面を主軸方向とそれに直交する方向（東西・南北方向）、既設のトレンチとそれに直交する方向の計４方向で観察、記録した。その結果、墳丘構築過程が以下のように判明した（第 13・15 ～ 18・27 図）。

墳丘土層断面

墳丘盛土下位の標高 47.6 ～ 47.8m には黒色を基調とする土壌化した旧表土が堆積する。墳丘中心付近から北東にかけては、上面が平坦に削剥、整地されたような状況が認められる一方、南西の上面には起伏がある。旧表土上面の標高は東が 47.6m、北東が 47.6 ～ 47.7m、北から西が 47.8 ～ 47.9m、南西が 47.7 ～ 47.8m、南が 47.6 ～ 47.8m 付近である。整地された旧表土上面に点在する炭化物層は、墳丘築成前に草木の焼き払いがあったことを示す。採取した炭化物の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-42108）は、2 σ暦年代範囲で 243-364calAD（94.44％）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

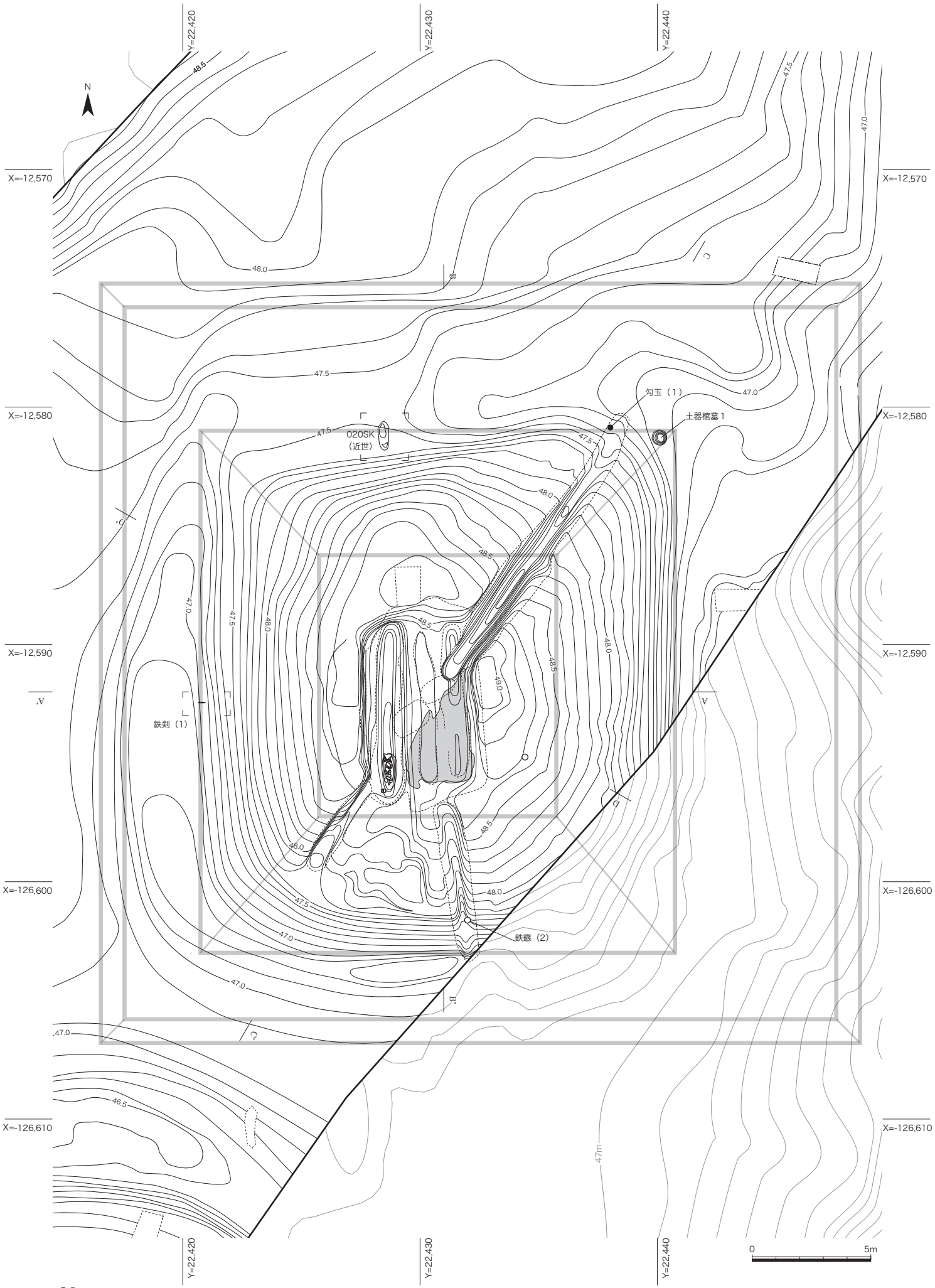
旧表土上面の整地
草木の焼き払い
年代測定

墳丘構築の第一段階として、周囲に高さ 0.4 ～ 0.5m の低平な土堤状の盛土を施し、その後、墳丘中央に向けて水平に敷き均すようにして盛土を施す。土堤状盛土の上面の標高と旧表土上面からの高さは、東が 48.1m 付近で約 0.5m、北東が 48.0m 付近で 0.3 ～ 0.4m、北が 48.4m 付近で 0.5 ～ 0.6m、北西から西が 48.2m 付近で 0.3 ～ 0.4m、南西が 48.3m で付近で 0.5 ～ 0.6m、南が 48.1m 付近で 0.3 ～ 0.5m である。この段階までの盛土の高さが東棺と中央棺の底面の高さにほぼ対応する。

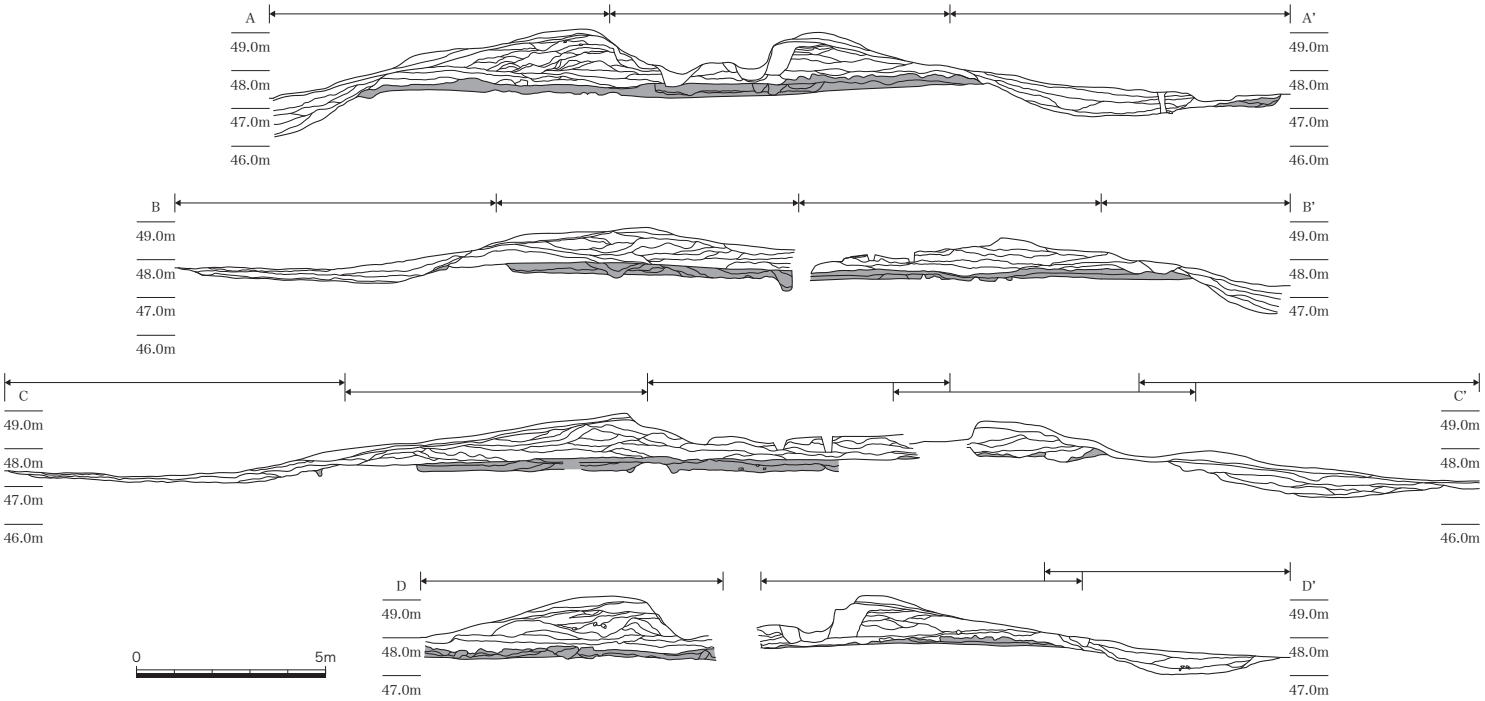
低平な土堤状盛土

第二段階として墳丘中央付近に小丘を築き、小丘に盛土を重ねるようにして墳丘を高く

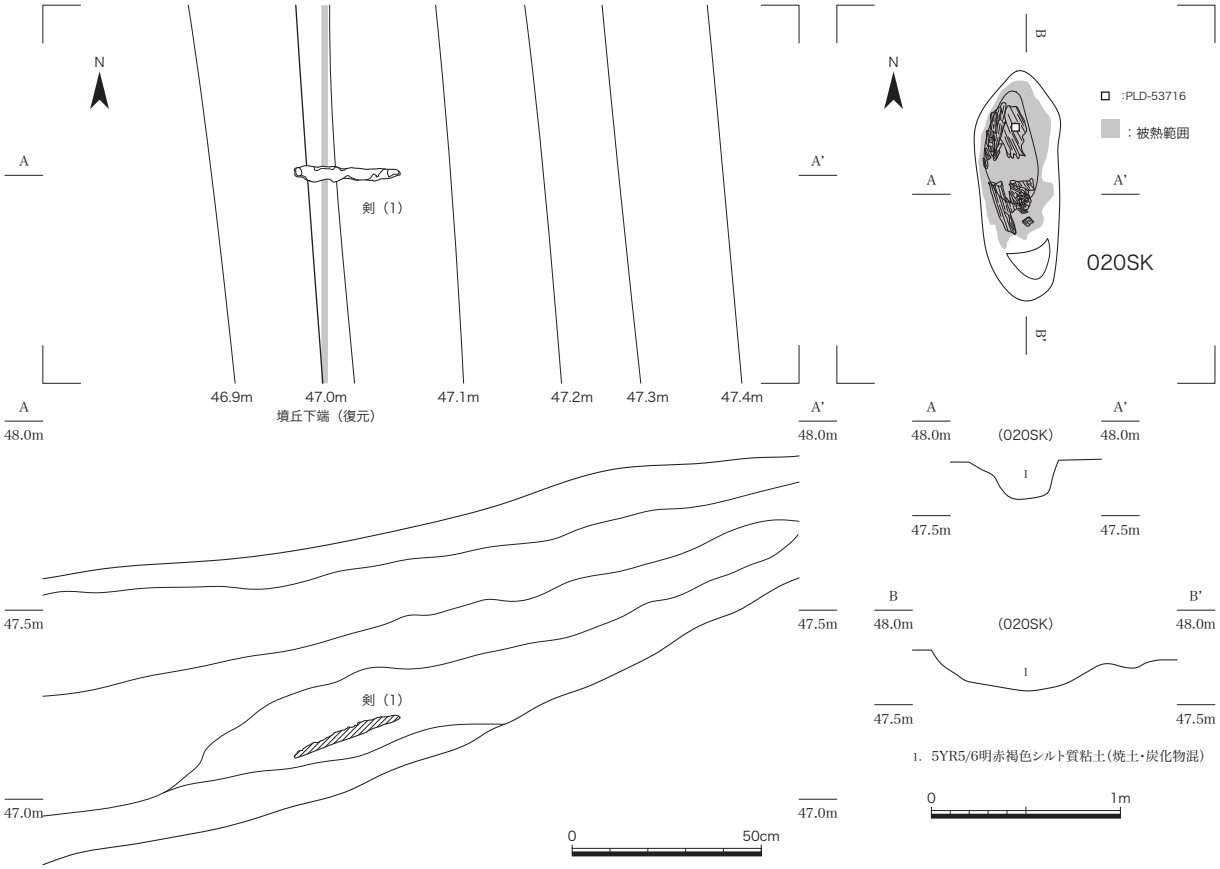
小丘の構築



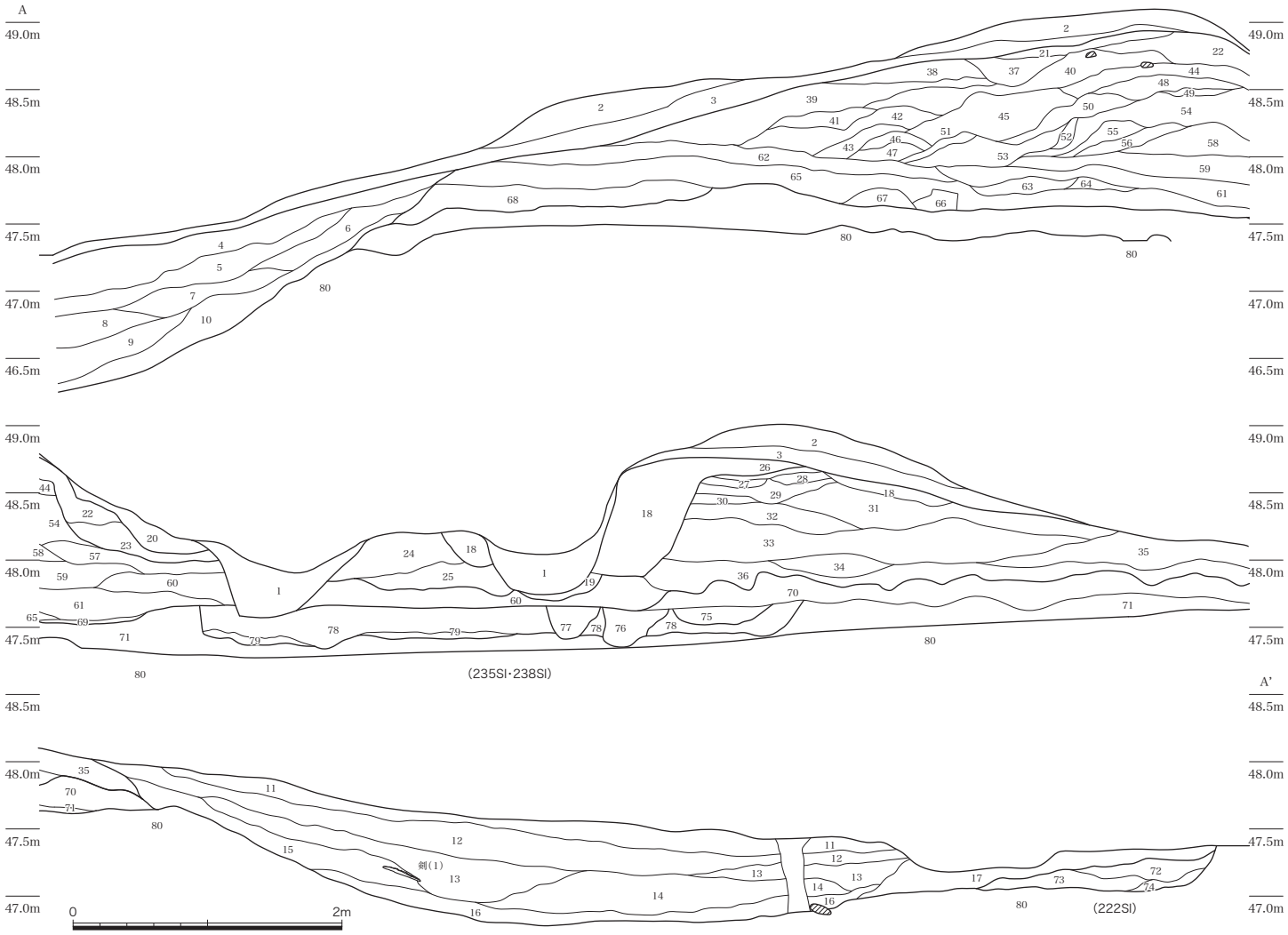

第12図　花の木２号墳平面図・墳丘復元図（1:200）




第13図　花の木２号墳丘墳断面図（1:200）

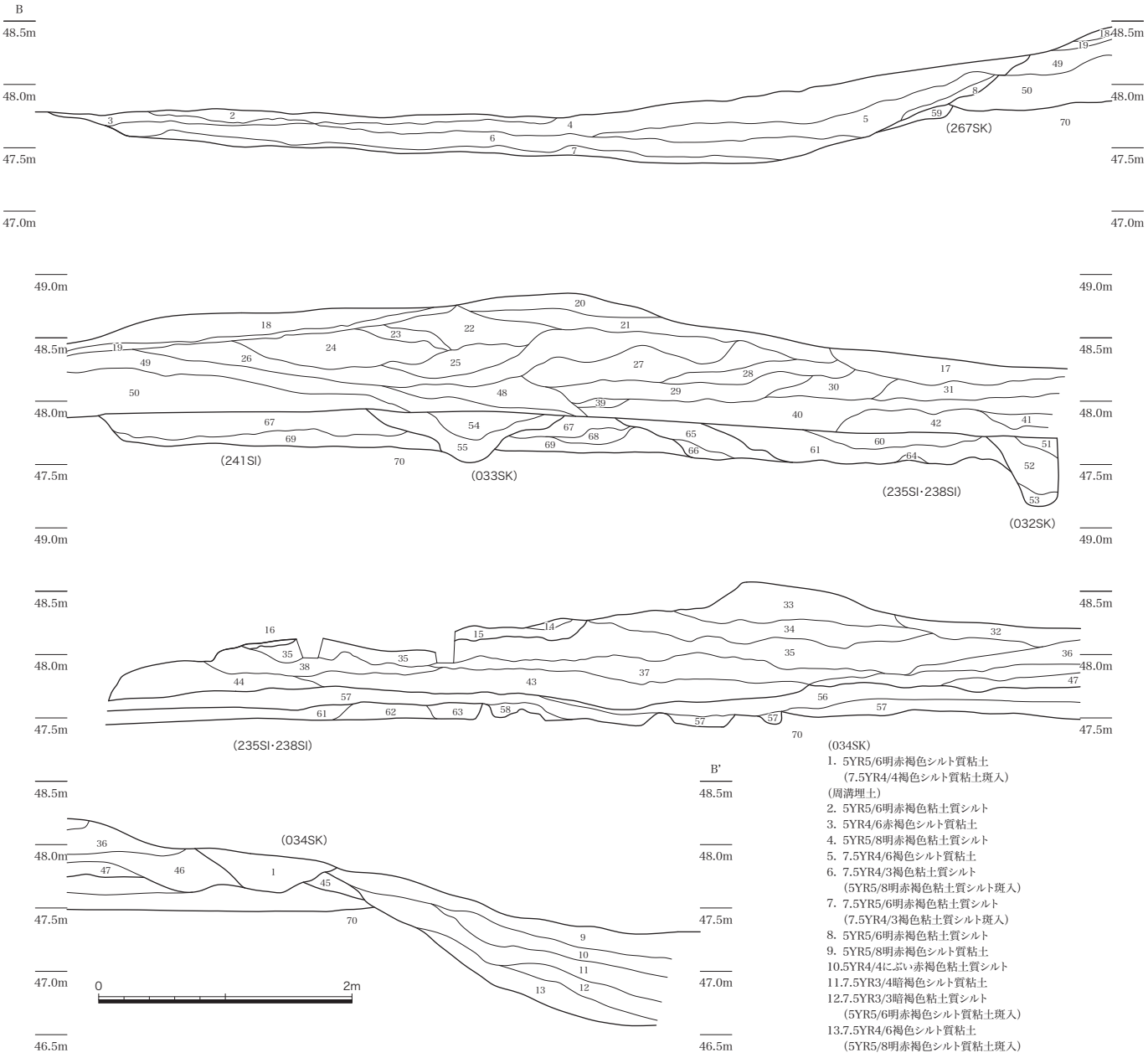



第14図　花の木２号墳遺構詳細平面図（1:20・1:40）




(旧一宮町調査時の排出土・表土)
1. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
2. 2.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
3. 3.7.5YR6/2灰褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
4. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
5. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
6. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
7. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
8. 7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
9. 7.5YR3/1黒褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
10.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
(7.5YR4/6褐色シルト質粘土の互層)
11.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
12.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
13.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
14.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
15.7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色粘土質シルトの互層、
7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
16.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
17.7.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(墓壙埋土)
18.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
19.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/6褐色シルト質粘土斑入)
20.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
21.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
22.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
23.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
24.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
25.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土、
5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
(墳丘盛土)
26.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
27.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
28.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入)
29.5YR4/6赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
30.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
31.5YR4/6赤褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土粒、
7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
32.5YR4/6赤褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土、
7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
33.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
34.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
35.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
36.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
37.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
38.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
39.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
40.7.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
41.7.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質斑入)
42.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
43.7.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
44.7.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
45.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
46.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(5YR4/8赤褐色粘土質シルト斑入)
47.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
48.5YR4/4赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト、
7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
49.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
50.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
51.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8赤褐色粘土質シルト斑入)
52.7.5YR5/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8赤褐色シルト質粘土斑入)
53.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
54.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
55.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入)
56.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入)
57.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
58.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
59.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
60.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土粒斑入)
61.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土、
10YR6/8明黄褐色シルト質粘土斑入)
62.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(10YR6/8明黄褐色シルト質粘土、
5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
63.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入)
64.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
65.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
66.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
67.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
68.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
69.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(上面に炭化物層)
(旧表土)
70.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR3/1黒褐色シルト質粘土斑入)
71.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(222SI)
72.7.5YR4/4褐色シルト質粘土(炭化物混)
73.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
74.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入)
(235SI・238SI)
75.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土、
焼土粒、炭化物混)
76.7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
77.7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
78.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
79.5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
(基盤層)
80.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト

第15図　花の木２号墳墳丘土層断面図１（1:50）

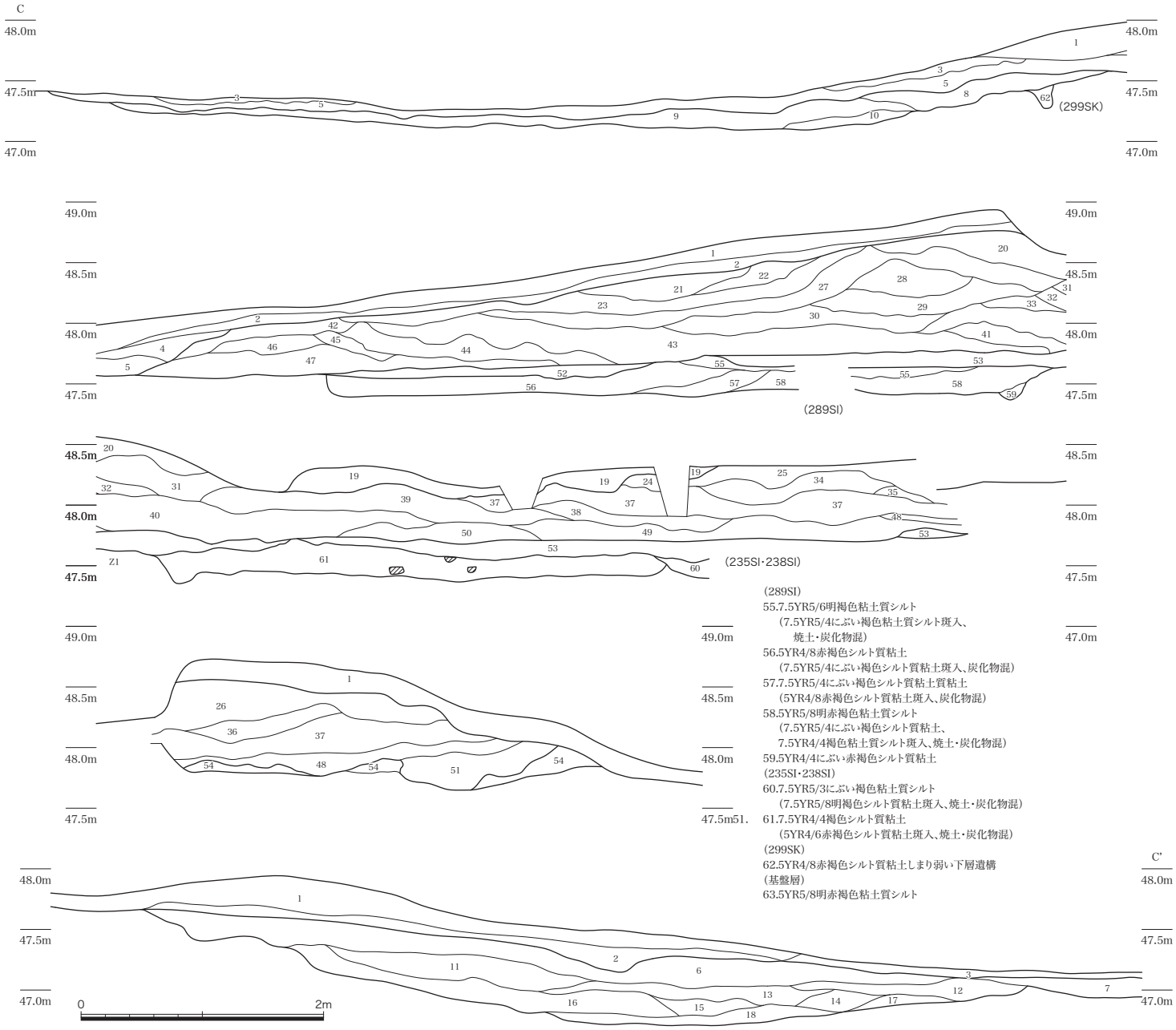



(034SK)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
(周溝埋土)
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
3. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
4. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
5. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
6. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
　(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入)
7. 7.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
　(7.5YR4/3褐色粘土質シルト斑入)
8. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
10.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
11.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
12.7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
13.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
　(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)

(旧表土)
56.56.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土斑入)
57.57.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
　(5YR4/8赤褐色粘土質シルト斑入)
58.58.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(267SK)
59.59.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
(235SI･238SI)
60.60.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト、炭化物混)
61.61.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
　(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入、
　焼土・炭化物混)
62.62.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
63.63.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
64.64.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト(焼土混)
65.65.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
　(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入、
　焼土・炭化物混)
66.66.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
　(焼土粒・炭化物混)
(241SI)
67.67.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入、
　焼土・炭化物混)
68.68.5YR4/8赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
69.69.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
　(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入、
　焼土・炭化物混)
(基盤層)
70.70.5YR4/8赤褐色粘土

(棺床粘土?)
14.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
15.(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
　5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
　(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入)
16.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
(墳丘盛土)
17.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
18.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
19.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/6明褐色シルト質粘土斑入)
20.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入)
21.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
22.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
23.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
　(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト、
　7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
24.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/6褐色シルト質粘土、
　7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
25.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
26. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
　(7.5YR4/4褐色シルト質粘土、
　7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
27.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/3褐色シルト質粘土、
　7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)
28.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
29.7.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/4褐色シルト質粘土、
　7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土斑入)
30.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
31.31.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
　(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)
32.32.7.5YR4/6赤褐色粘土質シルト
33.33.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
34.34.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
　10YR6/6明黄褐色シルト質粘土斑入)
35.35.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
　(5YR4/8赤褐色粘土質シルト、
　7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
36.36.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
37.37.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
　7.5YR4/4褐色シルト質粘土、
　10YR6/6黄褐色粘土斑入)
38.38.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
　7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
39.39.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土、
　7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
40.40.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
41.41.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
42.42.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
43.43.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
44.44.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト土
　(10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、
　7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
45.45.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
46.46.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
　7.5YR4/3褐色シルト質粘土、
　5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入)
47.47.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
　(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
48.48.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色粘土、
　7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
49.49.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
　(5YR5/4にぶい赤褐色粘土斑入)
50.50.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土斑入)
(032SK)
51.51.7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
52.52.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
　(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、
　焼土・炭化物混)
53.53.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
　(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
(033SK)
54.54.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
55.55.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
　(7.5YR4/3褐色粘土質シルト斑入、焼土混)

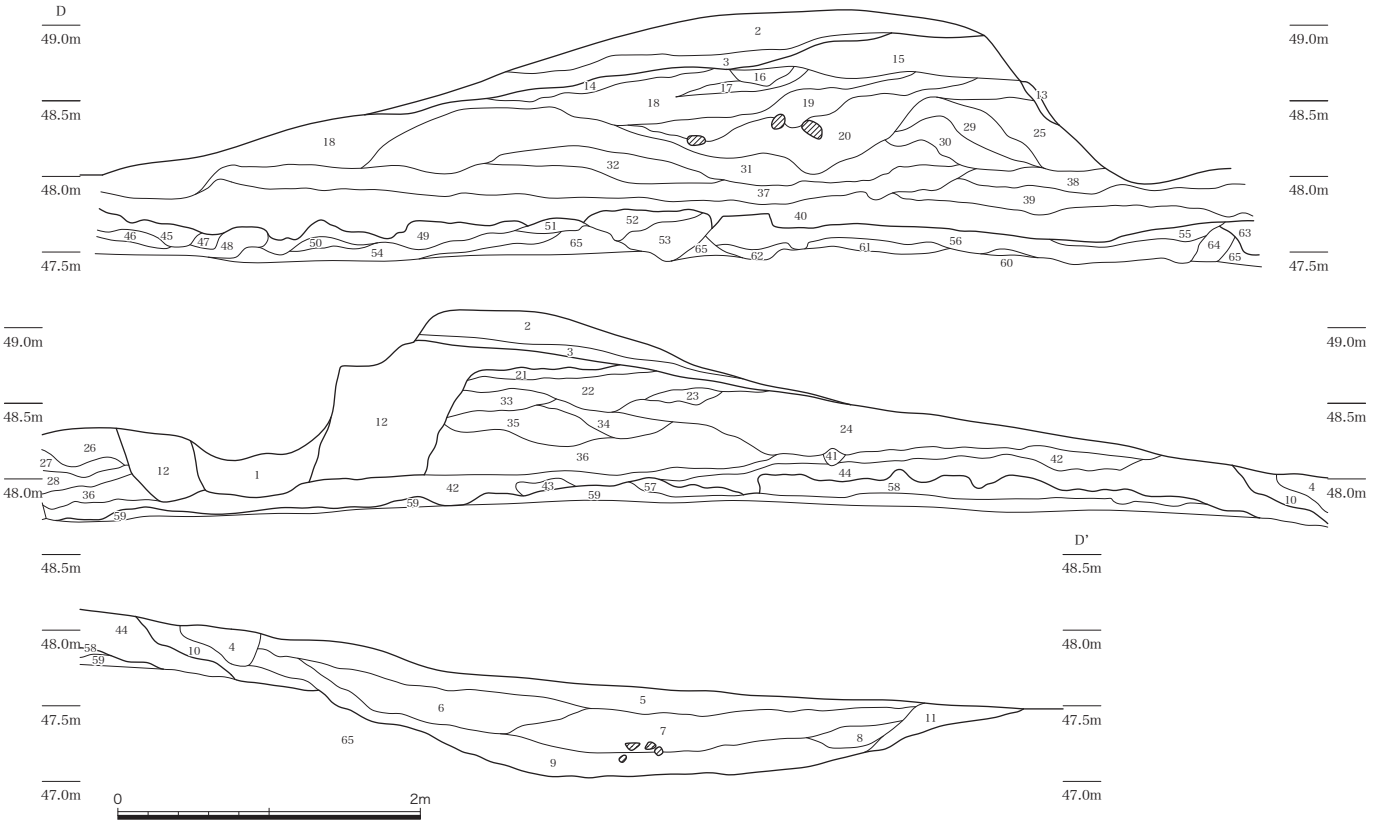
第16図　花の木２号墳墳丘土層断面図２（1:50）



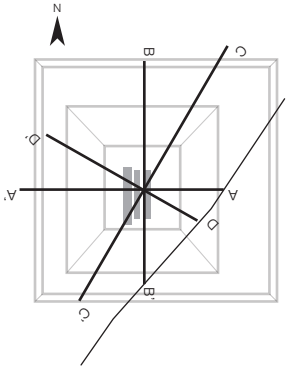

(289SI)
55.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
56.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
57.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土質粘土
(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
58.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土、
7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
59.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(235SI・238SI)
60.7.5YR5/3にぶい褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
61.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(299SK)
62.5YR4/8赤褐色シルト質粘土しまり弱い下層遺構
(基盤層)
63.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト

(旧一宮町調査時の排出土・表土)
1. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
2. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
3.　表土
(墳丘流出土)
4. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
5. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
6. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
7. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
8. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
9. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
10.7.5YR5/8明褐色シルト質粘土
11.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
12.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
13.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色シルト質粘土斑入)
14.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色シルト質粘土互層)
15.7.5YR2/2黒褐色シルト質粘土(炭化物混)
16.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色シルト質粘土互層、炭化物混)
17.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
18.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(10YR6/8明黄褐色シルト質粘土斑入)
(墓壙埋土)
19.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
(墳丘盛土)
20.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト、
5YR5/4にぶい赤褐色粘土、
7.5YR6/8橙色粘土斑入、焼土混)
21.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
22.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
23.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
24.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
25.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
26.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR6/8橙色粘土質シルト斑入)
27.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
28.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色粘土斑入)
29.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
30.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
31.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR4/8赤褐色粘土質シルト、
5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
32.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
33.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
34.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
35.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
36.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土粒斑入)
37.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(5YR4/8赤褐色粘土質シルト、
7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
38.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
39.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
40.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土、
7.5YR6/6橙色粘土斑入)
41.5YR4/8赤褐色粘土質シルト、
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
42.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
43.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
44.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
45.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
46.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
47.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
48.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
49.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
50.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、
7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
51.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
(旧表土)
52.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
53.7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土
(7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土、
7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入、焼土混)
54.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)

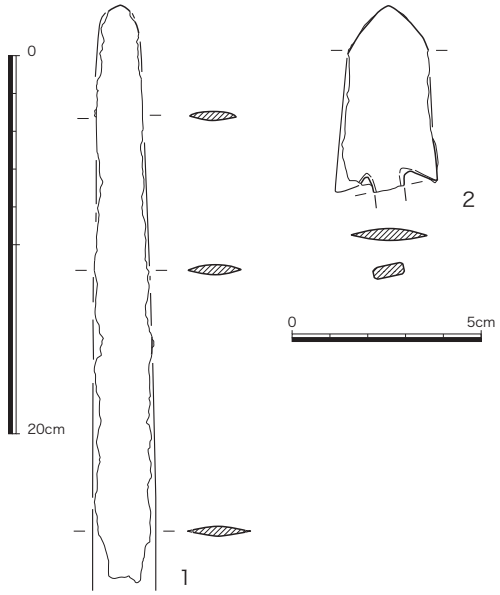
第17図　花の木２号墳墳丘土層断面図３（1:50）



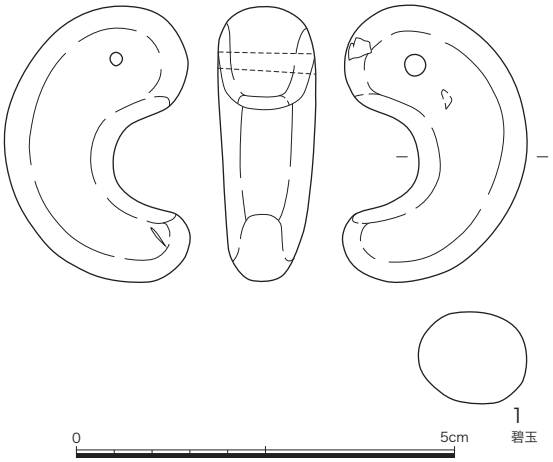

(旧一宮町調査時の排出土・表土)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
2. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
3. 7.5YR6/2灰褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
4. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
5. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
6. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
7. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルトの互層、炭化物混)
8. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
9. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
10.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
11.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
(墓壙埋土)
12.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
13.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
(墳丘盛土)
14.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入、炭化物混)
15.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト粘土
(7.5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
16.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
17.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR6/6橙色シルト斑入)
18.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土斑入)
19.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土、
5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
20.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土斑入)
21.7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
22.22.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
23.23.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
24.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
25.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
26.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
27.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)
28.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
29.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
30.7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土
(5YR4/8赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
31.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
32.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色シルト質粘土斑入)
33.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
34.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
35.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
36.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
37.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色シルト質粘土斑入)
38.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
39.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土、
7.5YR6/6橙色粘土斑入)
40.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、
7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入)
41.7.5YR6/8橙色粘土質シルト
42.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
43.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
44.7.5YR4/6褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
(旧表土)
45.7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(5YR5/3にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
46.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
47.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
48.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
49.10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
50.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
51.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR3/1黒褐色粘土質シルト斑入)
52.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
53.7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)
54.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土斑入)
55.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入)
56.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
57.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
58.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
59.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
60.2.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
61.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(焼土混)
62.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
63.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
64.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入)
65.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(基盤層)
66.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト



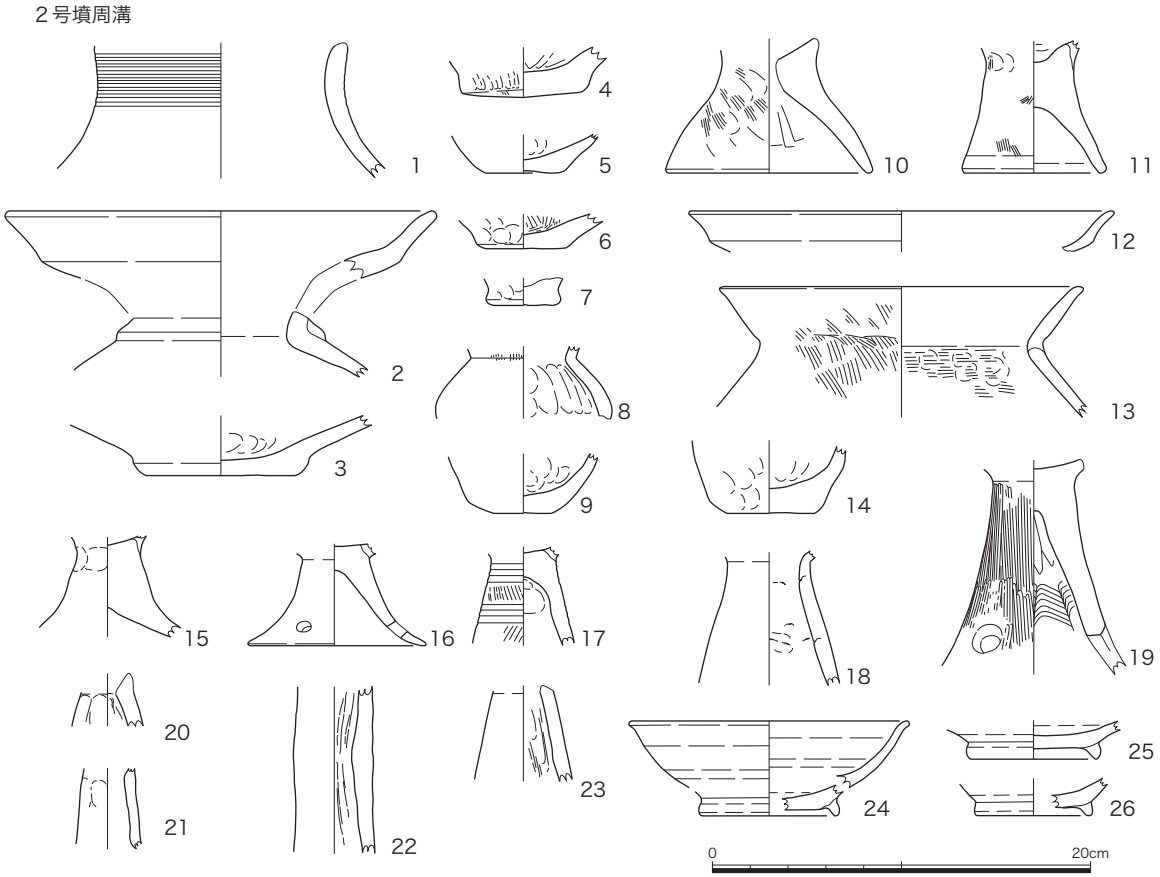

第18図　花の木２号墳墳丘土層断面図４（1:50）




第19図　花の木２号墳出土鉄製品実測図（1:4・1:2）




第20図　花の木２号墳採集玉類実測図（1:1）




第21図　花の木２号墳周溝出土土器実測図（1:4）

する。この段階においては、黄褐色を基調とする盛土と赤褐色を基調とする比較的細かい単位の盛土が施される。

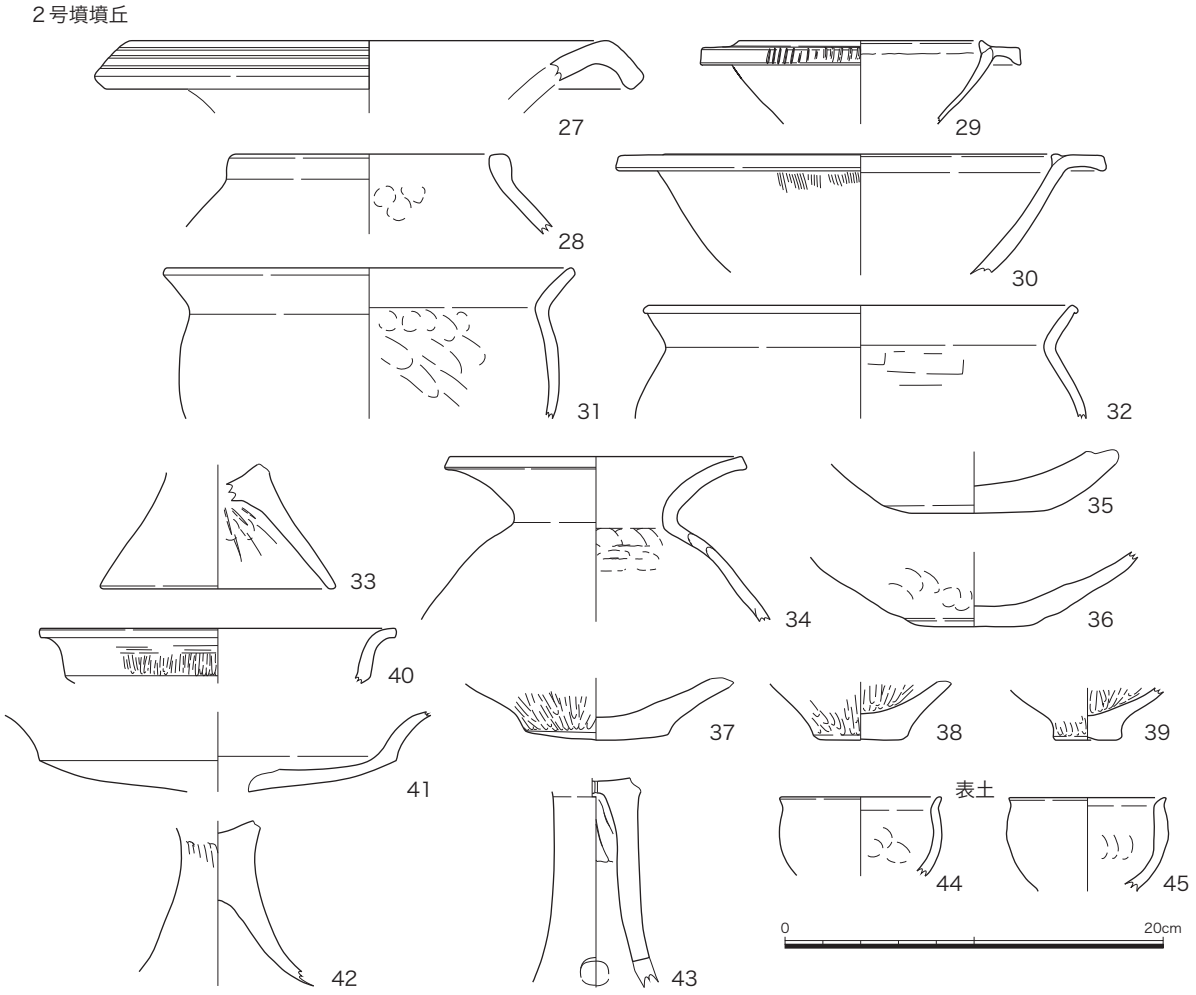
盛土が一定程度の高さ（標高 48.7 ～ 48.8m）に達した段階で、小丘の表層付近を削り落とすようにして、墓壙状の空間（構築墓壙）が整えられ、（底面に粘土を敷き、）東棺と中央棺が設置されたと考えられる。棺の設置後、墓壙状の空間を埋め戻し、さらに全体を被覆するように盛土を施して墳丘が完成する。墳丘完成後、東棺と中央棺の西側の空間を利用して新たに墓壙が深く掘削され、西棺が設置される。設置後、墓壙は埋め戻される。

墓壙の構築
棺床粘土
二棺の設置
墳丘の完成
追加の棺の設置

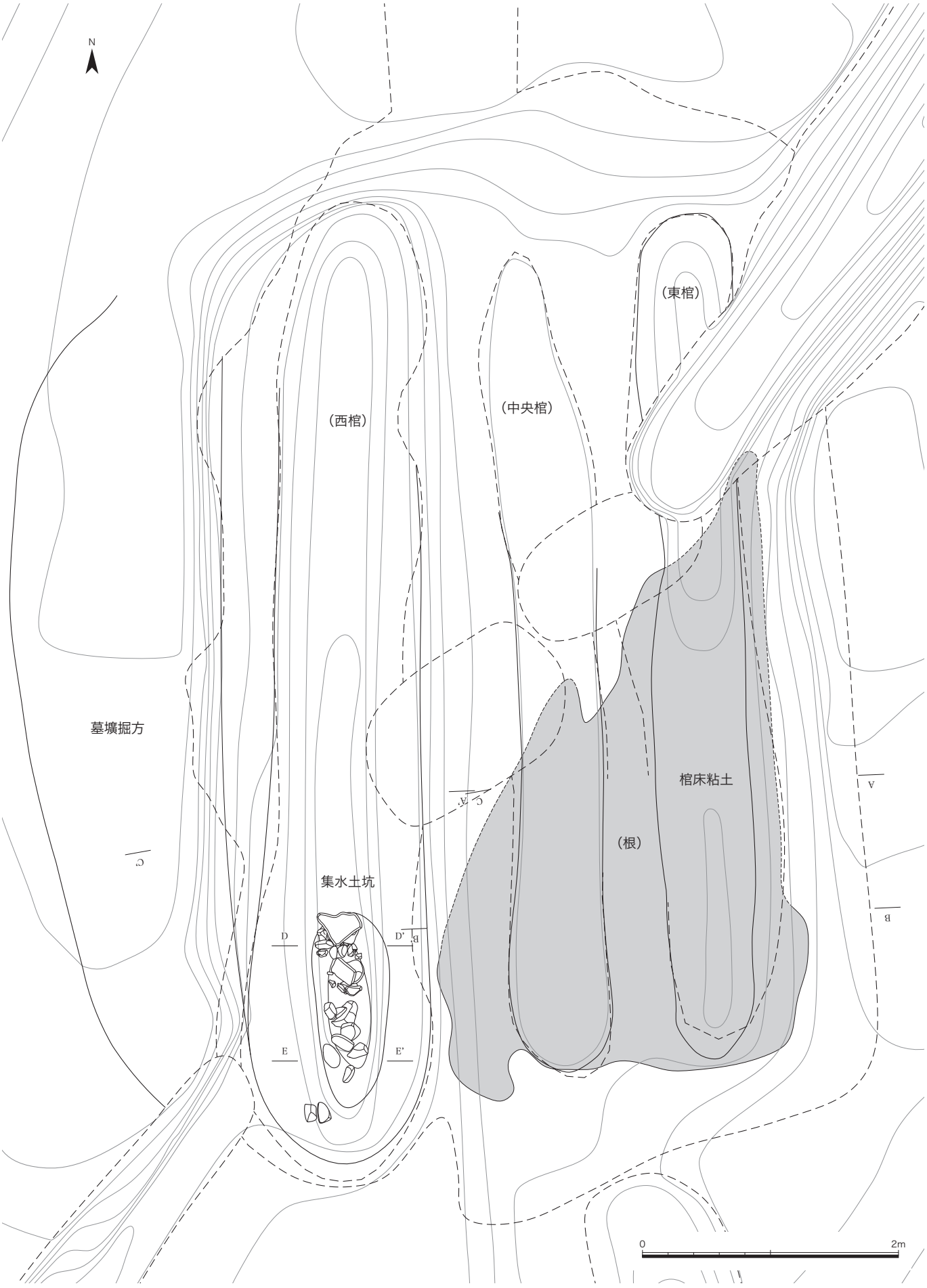
### 埋葬施設調査の痕跡

昭和 43 年調査の墳頂部トレンチの痕跡は南北約８m、東西約５m で、既調査の木棺の痕跡は東棺が長さ約 6.4m、幅約 0.9m、中央棺が長さ約 6.4m、幅約 0.7m、西棺が長さ約 7.6m、幅約 1.1m である（東棺、中央棺、西棺の呼称は『一宮町誌』を踏襲した）。方位はいずれも墳丘主軸とほぼ同一である。東棺と中央棺の痕跡の底面の標高は 48.2 ～ 48.3m で、西棺は二棺より 0.5 ～ 0.6m 低く、標高約 47.7m である。先述した墳丘復元案によると、墳丘の中心は東棺と中央棺の中間、３基の木棺（を調査した痕跡）とそれを設置した墓壙は墳丘の中心から南にやや寄った位置に対応する（第 12・23・24・26 図）。

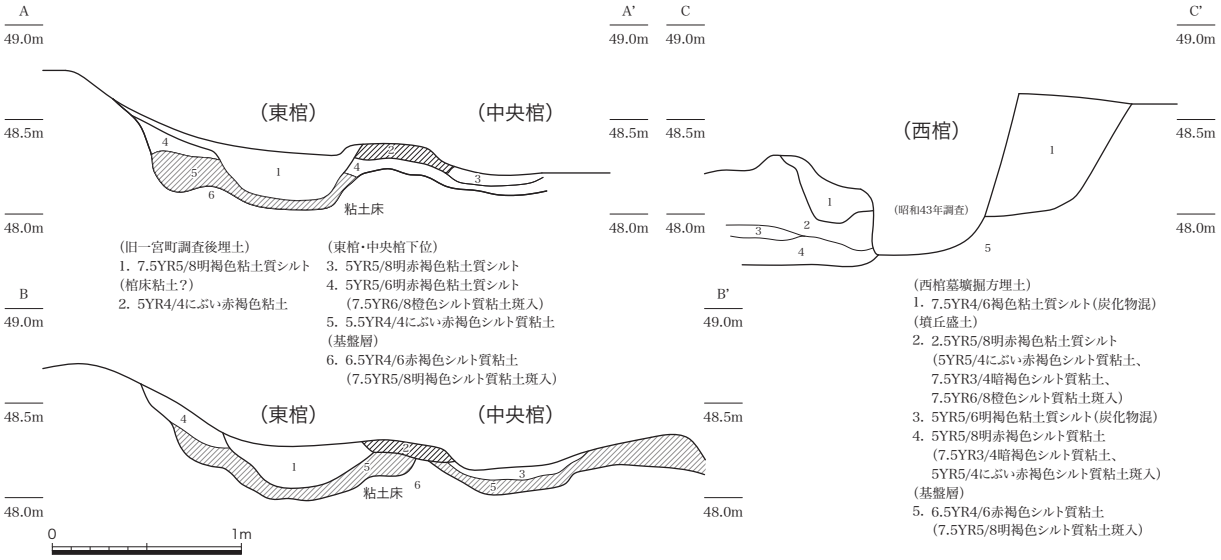
木棺の痕跡



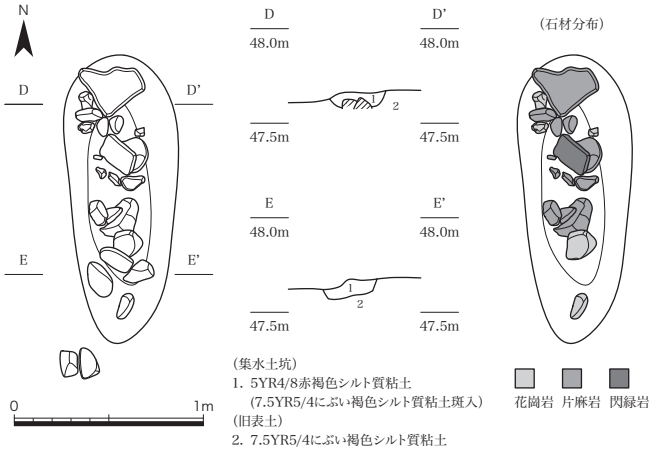

第22図　花の木２号墳墳丘出土土器実測図（1:4）




第23図　花の木２号墳埋葬施設平面図（1:40）




第24図　花の木２号墳埋葬施設土層断面図（1:40）




第25図　花の木２号墳西棺集水土坑遺構図（1:40）

## 墓壙

墓壙掘方

墓壙の西辺の掘方は昭和 43 年調査の墳頂部トレンチの外側で（昭和 43 年調査時に掘り残された状態で）明確に識別された。上位（標高約 48.6m）には平坦面（段）が認められることから、墓壙は段状（二段）に掘削された可能性がある。埋め戻し土は単一で、一気に埋め戻されたことを示す。

昭和 43 年調査の墳丘トレンチ以南（墳頂部南西隅付近）は掘方が続かないことから、墓壙の南辺は開口し、木棺設置後に墓壙と同時に埋め戻されたことが想定される。ただ、小動物の巣穴等による墳丘の損傷もあって詳細な検討は困難であった。

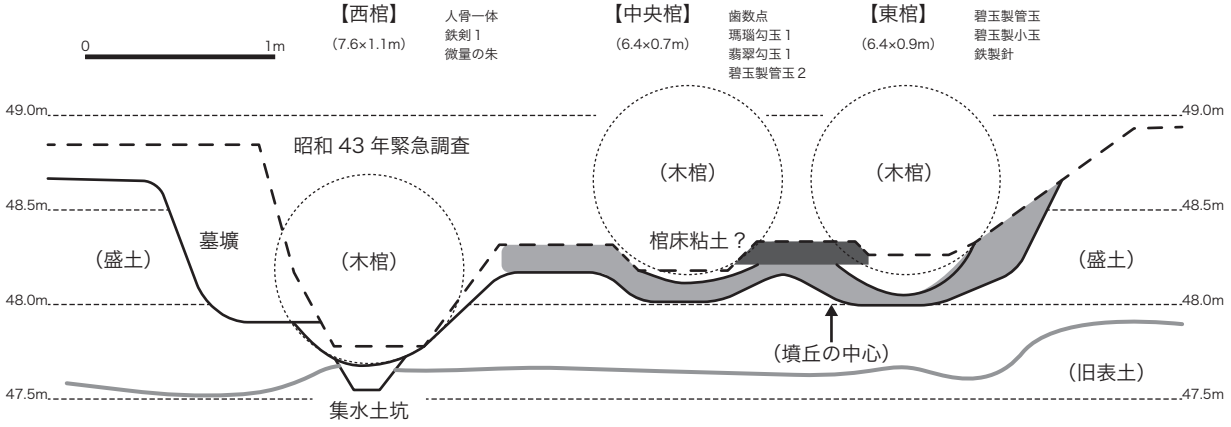
構築墓壙

対して東辺、北辺も西辺で認められたような明確な掘方は検出されなかった。すでに昭和 43 年調査によって失われた可能性もあるが、中央棺と東棺は墳丘構築の過程で棺が設置された（いわゆる構築墓壙内に設置された）可能性が高いと判断した（第 23･24･26 図）。

## 木棺

東棺・中央棺
棺床粘土

昭和 43 年調査の木棺の痕跡を検出すると、東棺と中央棺の痕跡の南半を被覆するように層厚約 0.1m の褐色を基調とする固く締まった粘土が残されていた（中央付近は既調査のトレンチ、撹乱により欠失する）。その下位にも粘土が重なるようにしてより広範に広がり、中央棺と東棺（の痕跡）の底面に対応するように、粘土の窪みと浅い舟底状の浅い落ち込みも認められた。粘土は設置した２基の木棺を安定させる目的で、（構築）墓壙




第26図　花の木２号墳埋葬施設断面模式図（1:40）

底面に敷設された棺床粘土と推測される。特に上位の中央棺と東棺の中間付近には固く締まった粘土が用いられたのであろう。北半に同様の粘土は検出されなかったが、昭和 43 年調査時にすでに掘削された可能性もある。粘土層以下（未調査部分）から埋葬施設に伴う遺物は検出されなかった。

西棺

西棺は東棺と中央棺より深い位置に設置され、西棺（の痕跡）は二棺よりもやや長大である（第 23・24・26 図）。南端付近の底面には礫が露出し、周囲を精査した結果、長軸約 1.5m、短軸約 0.6m、深さ約 0.15m の長楕円形の土坑が検出され、土坑内には礫が充填された状態であったことから、西棺に伴う（未調査の）集水土坑であることが判明した。礫は基盤層に由来する片麻岩、花崗岩、閃緑岩（片麻岩が多い）が用いられる（第 23・25 図）。

集水土坑

小結

三棺の設置

既調査のほぼ同一主軸で並列する３基の木棺は、土層断面等による検証が難しい状況であったが、東棺と中央棺が墳丘中心の同じ高さに並置され、西棺が墳丘西側に片寄った位置に二棺より低い位置に設置された点、東棺と中央棺の中間、下位に棺床粘土が検出され、西棺にはそれが認められなかった点、西棺の墓壙の掘り込みが明瞭であることに対して、中央棺と東棺の墓壙の掘り込みが不明瞭な点から、東棺と中央棺の二棺が墳丘構築時に設置され、墳丘完成、西棺が追加して設置されたことが推測される。

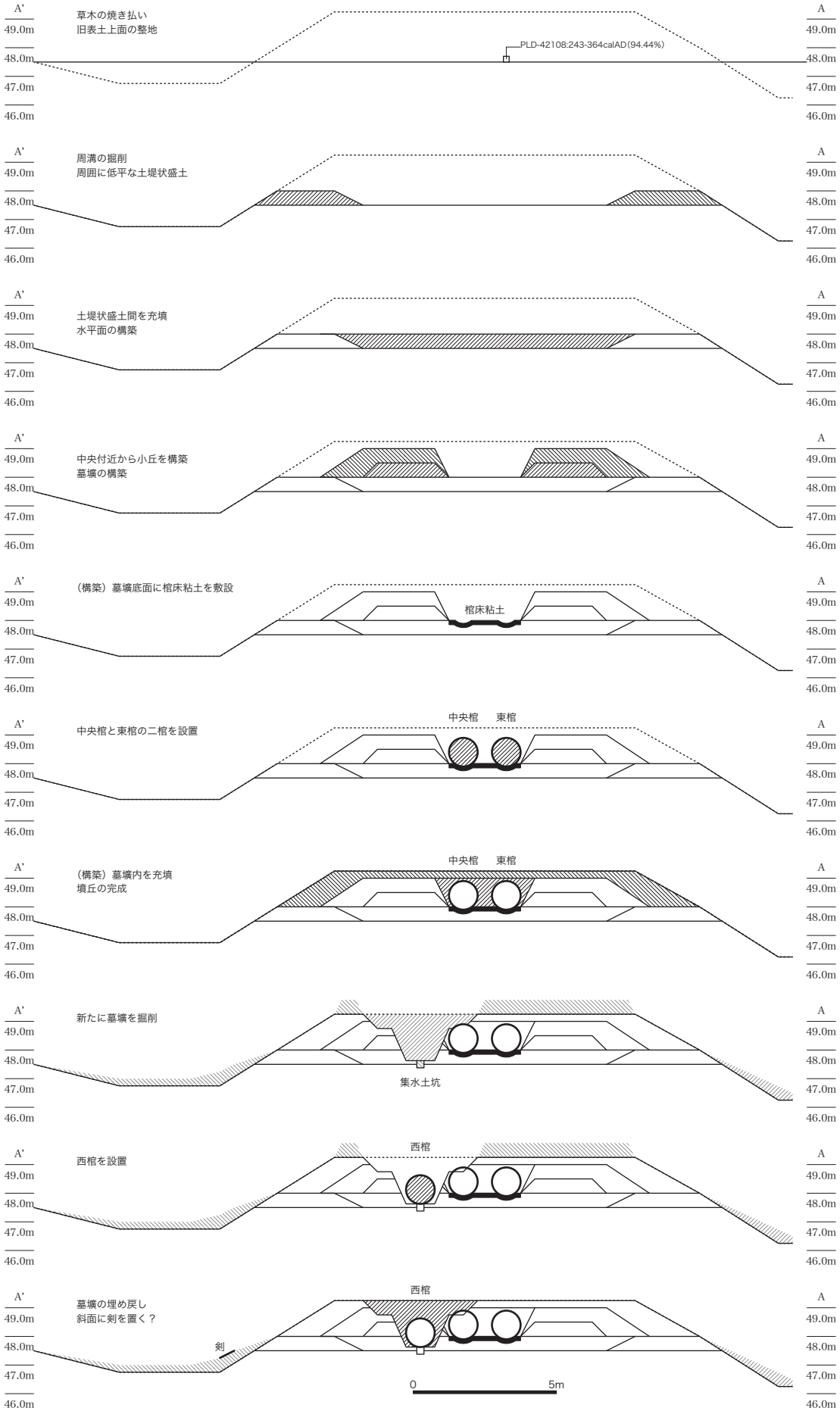
墳丘と埋葬施設

東棺と中央棺の設置は墳丘構築過程とも対応していることについても、墳丘解体調査までを含めた今回の発掘調査で明らかとなった。西溝（墳丘西辺）中央の墳丘下端付近において検出された剣（1）は、周溝が一定程度に埋没した段階で置かれたとすれば、西棺の設置の前後に対応する可能がより高いと思われる（第 27 図）。

墳丘下端の剣

土器棺墓との関係

他方、周溝墳丘北東隅付近の周溝底面（墳丘斜面）において検出された土器棺墓１（三重の蓋を伴う土器埋設遺構）が設置された段階を明示することは難しいが、棺身として用いられた二重口縁壺（119）の型式を古墳時代前期後半とすると、その設置時期と併せて、古墳の築造着手時期も同時期に求められる可能性がある。




第27図　花の木２号墳墳丘構築・埋葬施設設置過程断面模式図（1:200）

## （5）花の木3号墳

### 古墳の現況、発掘調査の方法

現況　２号墳に次ぐ規模（径 20m・高さ 1m）とする遺跡台帳の記載を参考にして、２号墳の南西、台地の南東斜面側に構築された古墳を３号墳とした。墳丘北側には墳丘下端、周溝を確認する目的で設定されたようなトレンチ調査の痕跡が残るが（調査の記録はない）、それを除くと古墳の遺存状況は良好であった。調査前地形測量の結果からは径約 21m・高さ約 1.0m の円墳として認識された（第 28 図）。

基準の設定　調査着手時は２号墳と同様に円墳を想定していたので、２号墳に設定した北東方向から南西方向の土層観察用の畦を延長し、それに直交する方向にも土層観察用の畦を設定した。周溝埋土を掘削後には、方墳であることが確定したことを受け、中心（X=−12,621・Y=22,414）と中心からの東西・南北方向の基準を再設定し、埋葬施設と墳丘の解体調査はそれに従って調査を進捗させた。基準の再設定に加えて、密植された根による障害も重なって、墳丘下端、周溝に対する的確な記録を残すことができなかった。

### 墳丘・周溝

規模・墳形・方位　発掘調査の結果、３号墳は長軸（南北）約 20m の方墳であることが判明した（後述する墳丘下端を計測）。南東半は調査区外であるが、調査前地形測量図に視認される周溝の痕跡から、短軸（東西）は約 15m と推定される。長軸の方位は N4° E である。ただ、南西隅付近の墳丘下端は鈍角を呈し、南辺の正確な下端、方位を把握することは難しい。後述する周溝の平面形からしても、規模、方位は確定した計測値ではない。

墳丘下端の高さを標高 46.6m 付近、墳頂平坦面の高さを標高 47.3m 付近に求めると、墳丘下端（周溝底面）から墳頂部平坦面までの墳丘の高さは約 0.7m である。墳頂部の最高点の標高は 47.9m 前後で、最高点までの墳丘の高さは約 1.3m である。墳頂部平坦面（現状の計測値）は南北約 16m、東西約 12m の長方形で、墳丘下端との比はおよそ５：４である。２号墳と比較して、墳頂部は広く、墳丘の高さも低い（第 29 図）。

周溝　周溝は調査区内は全周するが、墳丘と周溝の方位は一致しない部分も多い。特に南西部分の外縁は屈曲気味で、近接する６号墳（の周溝北東隅）を避けているようでもある。北側の幅が広く、北西側から西、南側の幅が狭いことについても、５号墳、６号墳、７号墳、４号墳が近接することに制約を受けている可能性がある。その場合、３号墳の築造が後出することになる（第 29 図）。

周溝出土遺物　周溝埋土は多数の弥生土器、縄文・弥生時代の石器、石製品を包含し、古墳に伴う確実な土師器は抽出されなかった（第 33・184 ～ 188 図）。

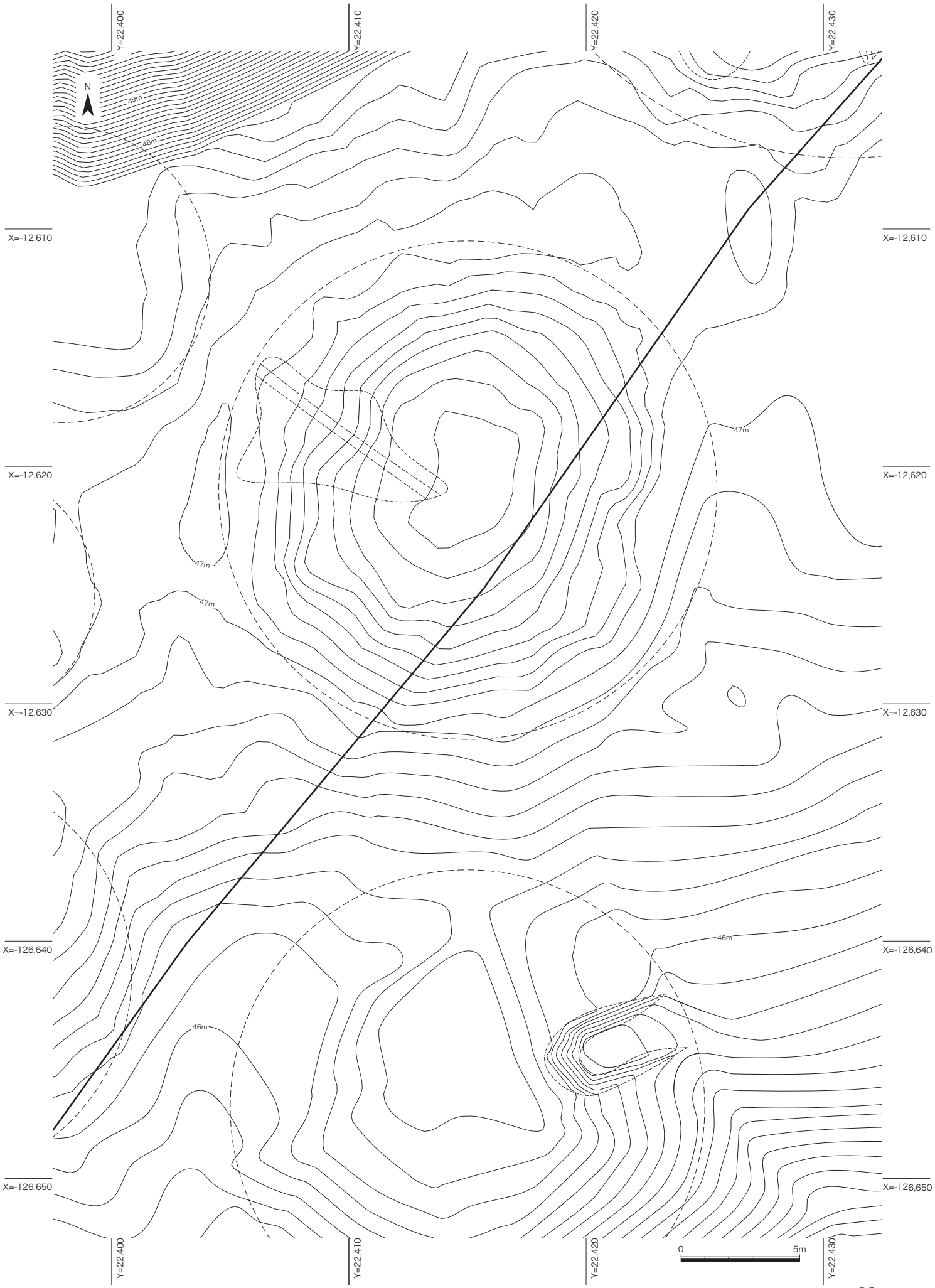
### 墳丘の構築過程、墓壙

墳丘土層断面　墳丘土層断面を主軸方向とそれに直交する方向（東西・南北方向）に、調査区壁に沿った方向を加えた計３方向で観察、記録した。その結果、墳丘構築過程が以下のように判明した（第 30 ～ 32 図）。

旧表土　墳丘盛土下位には黒色を基調とする土壌化した旧表土が堆積する。旧表土上面の標高は北が 47.2m、東が 47.1 ～ 47.2m、西が 47.1m 付近で、地形を反映して北東側がやや高い。

土堤状盛土　墳丘構築の第一段階として、旧表土上面の東辺、北辺、西辺の各墳丘縁辺に幅 2.5 ～ 3.3m、高さ 0.3 ～ 0.5m の低平な土堤状の盛土を施し、南北 10m 以上、東西約４m の墓

墓壙状の空間



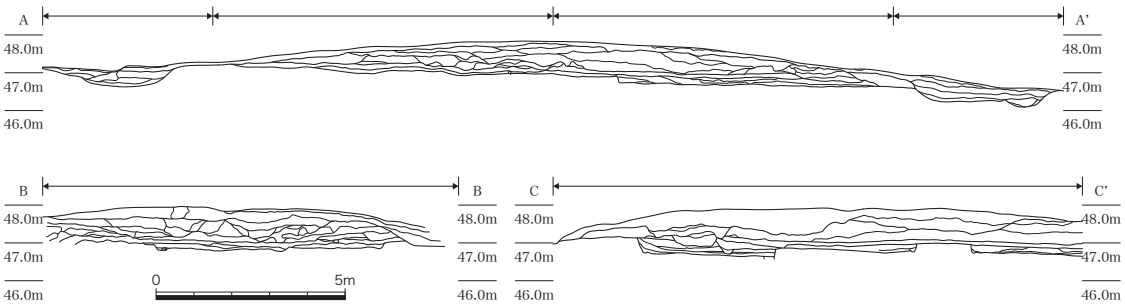

第28図　花の木３号墳墳丘測量図（1:200）

第29図　花の木３号墳平面図・墳丘復元図（1:200）

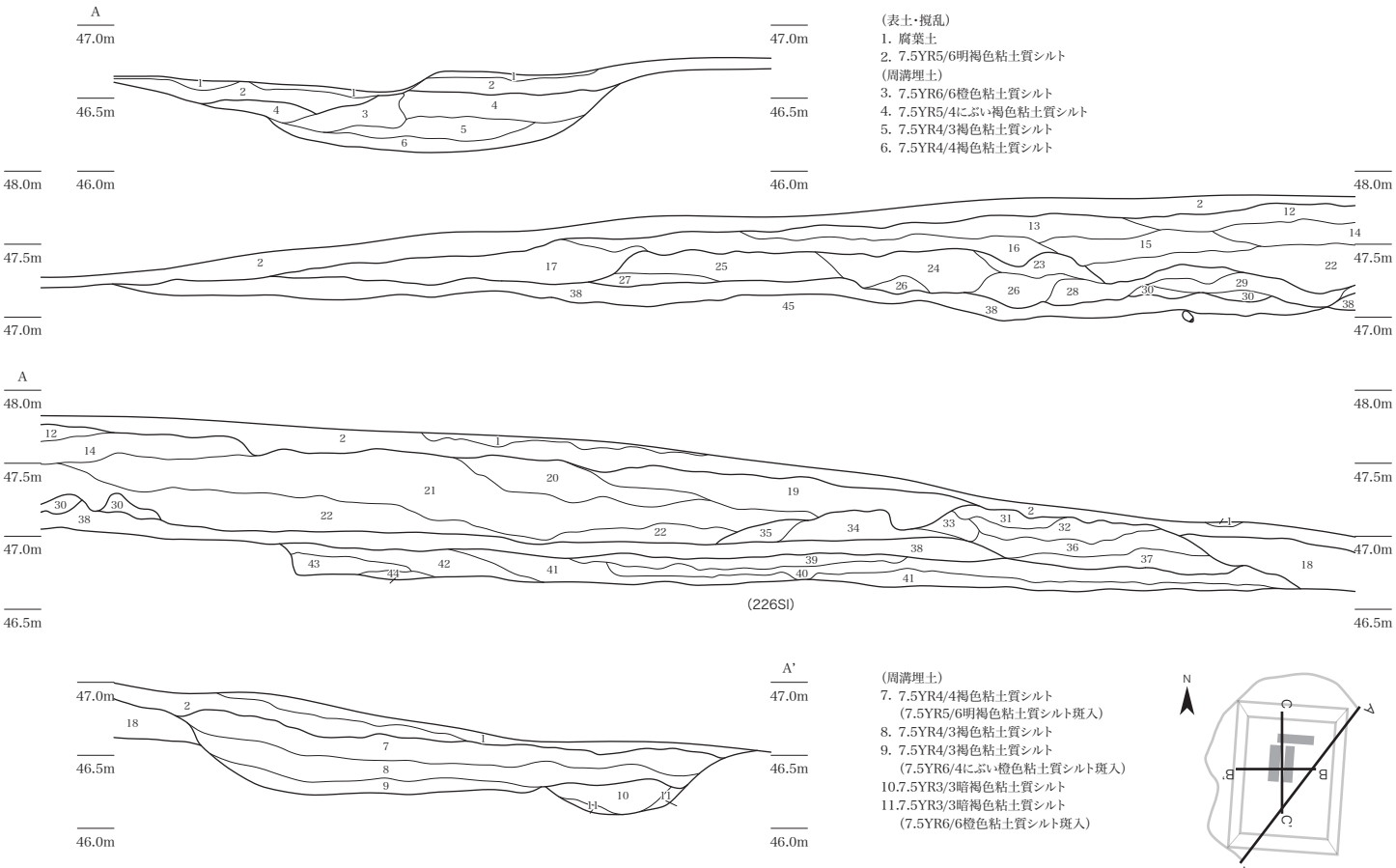
壙状の空間（構築墓壙）を整える（第 34 図）。南辺は開口していた可能性もある。

その後、(一部は旧表土を掘り込み)棺を設置する。棺の設置後、墓壙状の空間を埋め戻し、さらに全体を被覆するように高さ 0.3m 程度の盛土を施して墳丘が完成する。　棺の設置

墓壙埋土は弥生土器を多く包含するが、古墳時代前期に対応する可能性がある口縁部が内彎する甕（48）を抽出した。墳丘盛土は弥生時代後期から古墳時代前期の土器、縄文・弥生時代の石器、石製品を包含する（第 33・184 ～ 188 図）。　墳丘出土遺物

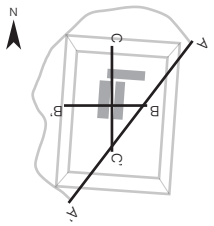



第30図　花の木３号墳墳丘断面図（1:200）




(表土・撹乱)
1. 腐葉土
2. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
3. 7.5YR6/6橙色粘土質シルト
4. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
5. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
6. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト

(周溝埋土)
7. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
8. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
9. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR6/4にぶい橙色粘土質シルト斑入)
10.7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト
11.7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入)

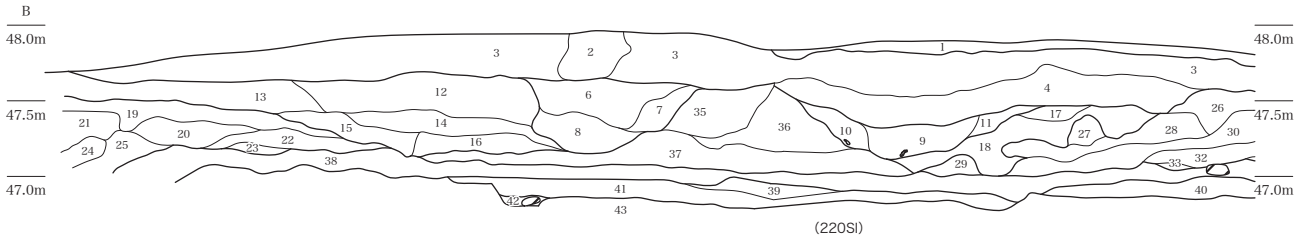


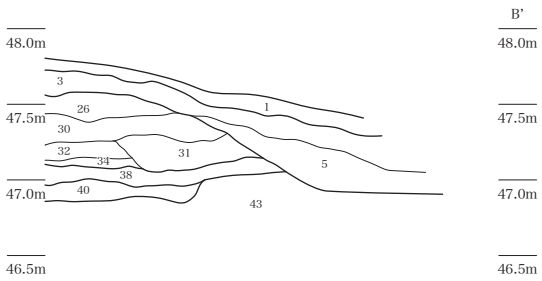

(墳丘盛土)
12.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
13.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
14.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
15.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
16.7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入)
17.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
18.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
19.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入)
20.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
21.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
22.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(土堤状盛土)
23.7.5YR6/6橙色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色粘土質シルト斑入)
24.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入)
25.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
26.7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
27.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
28.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
29.7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト
30.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
31.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
32.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
33.7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
34.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
35.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト斑入)
36.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入)
37.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(7.5YR6/8橙色粘土質シルト斑入)
(旧表土)
38.7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト
(焼土・炭化物混)

(226SI)
39.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
40.7.5YR4/3褐色粘土質シルト(炭化物混)
41.7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト(焼土、炭化材混)
42.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
43.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土(炭化物混)
44.7.5YR4/4褐色シルト質粘土(焼土、炭化材混)
(基盤層)
45.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土

0　2m

第31図　花の木３号墳墳丘土層断面図１（1:50）



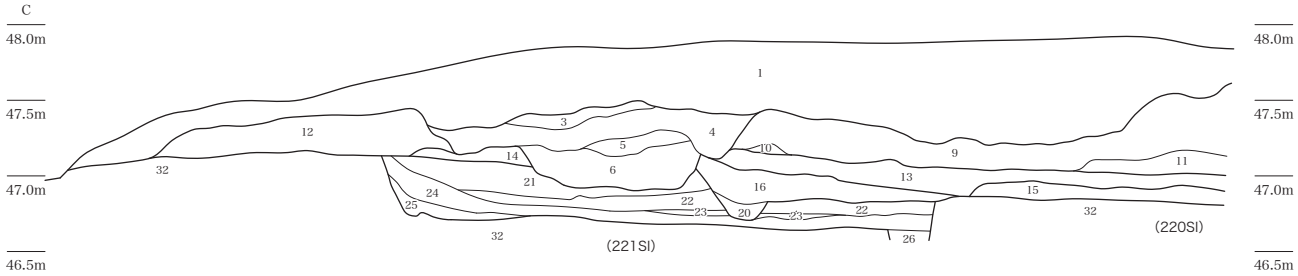



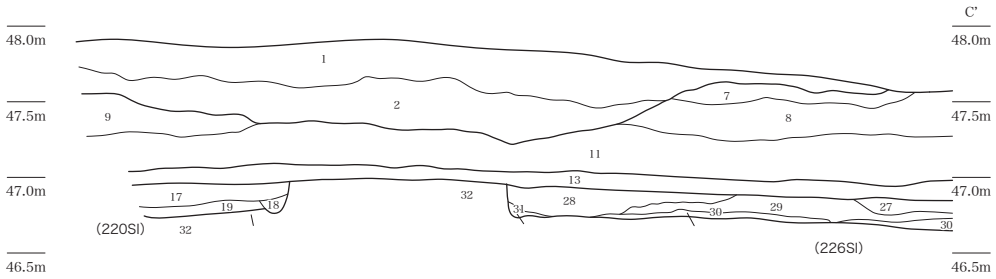

(表土・撹乱)
1. 腐葉土
2. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト(炭化物混)
(2次墳丘盛土)
3. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
4. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
5. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(東棺埋土)
6. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
7. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
(7.5YR7/8黄橙色シルト質粘土斑入)
8. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
(西棺埋土)
9. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
10.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入)
11.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR7/8黄橙色シルト質粘土斑入)

(1次墳丘盛土)
12.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
13.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
14.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/6褐色シルト質粘土斑入)
15.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR6/6橙色シルト質粘土斑入)
16.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
17.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
18.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)

(土堤状盛土)
19.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR6/8橙色粘土質シルト斑入)
20.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土(炭化物混)
21.7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入)
22.7.5YR4/4褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
23.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
24.7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入)
25.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
26.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
27.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
28.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(7.5YR4/6褐色シルト質粘土斑入)
29.7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(7.5YR4/6褐色シルト質粘土斑入)
30.7.5YR5/8明褐色シルト質粘土(炭化物混)
31.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
32.7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
33.7.5YR5/8明褐色シルト質粘土
34.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
35.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8黄橙色粘土質シルト、
7.5YR4/3褐色粘土質シルト斑入)
(1次墳丘)
36.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
37.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
(旧表土)
38.7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土

(220SI)
39.7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト
(7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
40.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
41.5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
42.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(基盤層)
43.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土




(2次墳丘盛土)
1. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
2. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(10YR7/8黄橙色粘土質シルト斑入)
(北棺埋土)
3. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
4. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
5. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土
6. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土

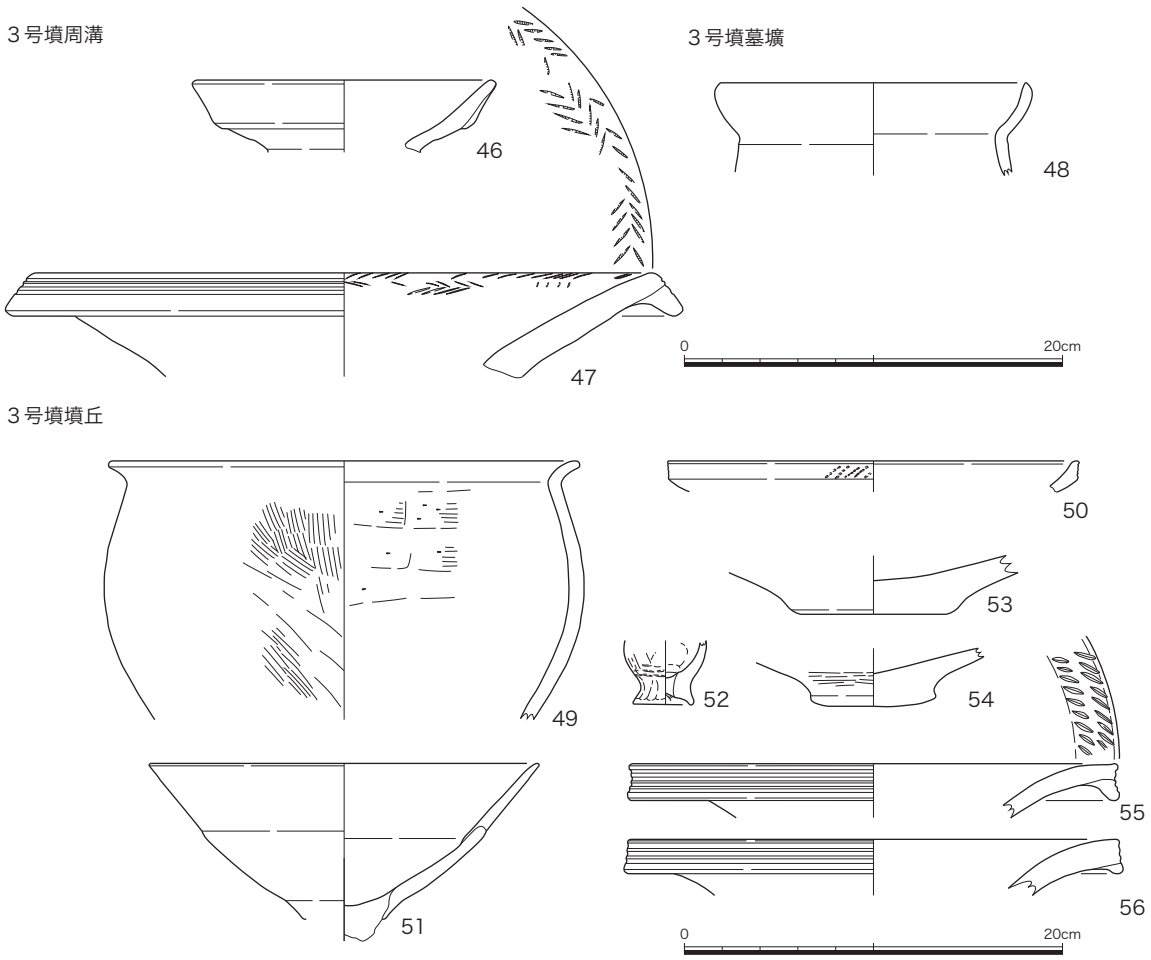
(1次墳丘盛土)
7. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
8. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
9. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入)
10.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
11.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
(土堤状盛土)
12.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(旧表土)
13.7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
14.7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト
(7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)

(220SI)
15.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
16.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
17.5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
18.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
19..5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
20.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土、焼土・炭化物混)

(221SI)
21.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
22.7.5R5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
23.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
24.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、
7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
25.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
26.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)

(226SI)
27.7.5YR4/4褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
28.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
29.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
30.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
31.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
(基盤層)
32.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

第32図　花の木３号墳墳丘土層断面図２（1:50）




第33図　花の木３号墳周溝・墓壙・墳丘出土土器実測図（1:4）

## 埋葬施設

埋葬施設の調査は再設定した基準に従って土層観察用の畦を設定し、墳頂部から面の掘り下げと精査を繰り返した。墳頂部から約 0.5m 掘り下げた面で墓壙状の落ち込み（墳丘周囲の土堤）を確認し、その北辺に沿った主軸をほぼ東西方向とする長さ約 5.2m、幅 1.0 ～ 1.2m の細長い落ち込みを検出した（第 35 図）。

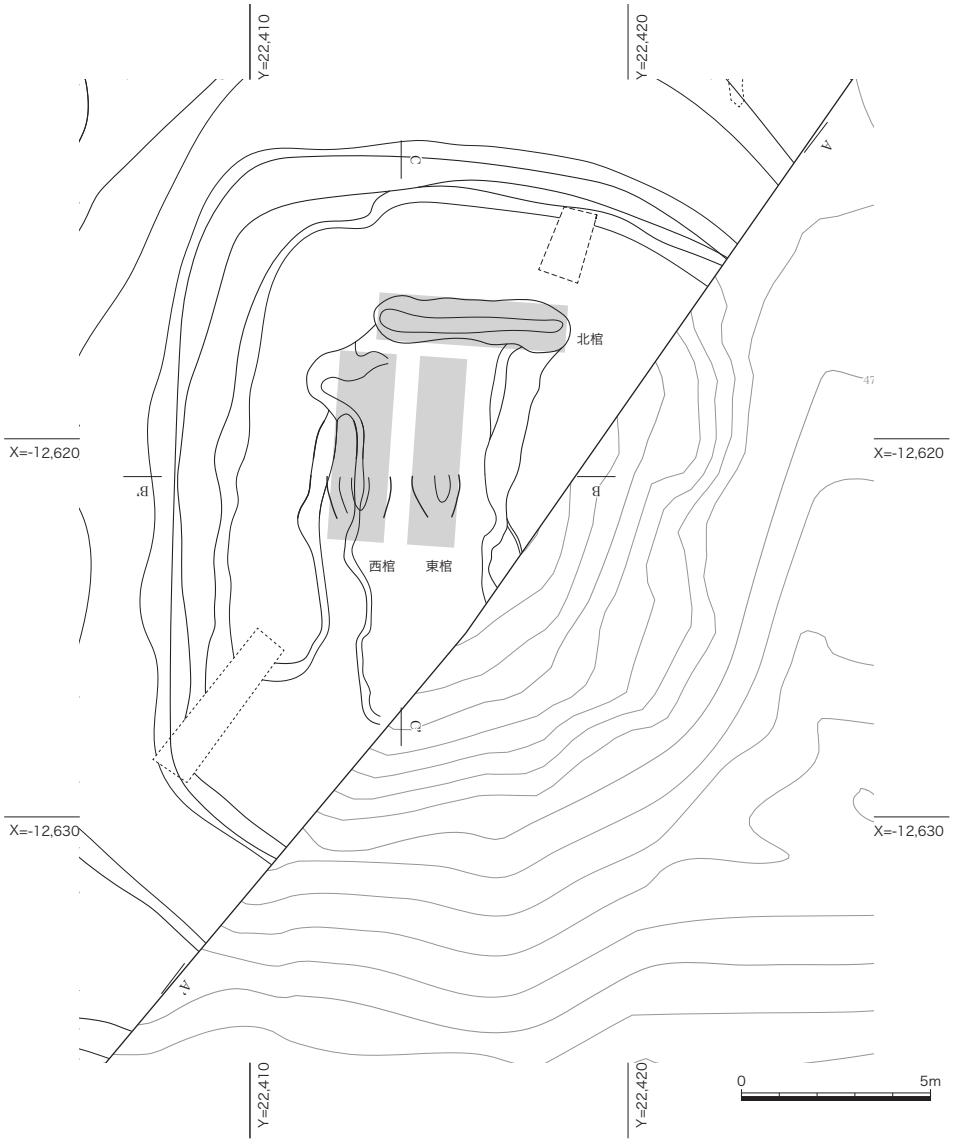
墓壙

その後、墓壙状の落ち込み（墳丘周囲の土堤）の内部を掘り下げたが、それ以外の棺槨を示唆する遺構や構築物、遺物が検出されないまま、一部は旧表土の上面に達した。この段階で、墳丘短軸（東西）の土層断面に、著しく締まりを欠く土層とその上位に陥没を示す土層の落ち込みを確認し、東西に並列する２基の木棺の痕跡を掘り下げ時に見落としていたことが判明した。以下、墓壙状の落ち込みの北辺に接する木棺（の痕跡）を北棺、東西に並列する２基の木棺（の痕跡）をそれぞれ東棺、西棺とする。北棺は北側辺が墓壙状の落ち込み（墳丘周囲の土堤）の北辺にほぼ一致し、一部、旧表土を掘り込んで設置されたことにより、全形の検出は比較的容易であったが、東棺と西棺（の痕跡）の底面は旧表土上面に達していなかったこともあって、結果として平面形を見落としたことになる。

木棺の検出状況

２基の木棺については、土層観察用の畦の幅を調査したのみであるが、二棺の主軸方向は墳丘の長軸（南北）方向にほぼ平行し、東棺と西棺（の痕跡）の幅はそれぞれ約 1.2m、約 1.6m であることを確認した。先述した墳丘復元に照らすと、二棺の間には墳丘の中軸

東棺と西棺




第34図　花の木３号墳墳頂部墓壙検出状況（1:200）

線が通ることも確認されるので、並列する二棺は３号墳の中心的な埋葬施設と考えられる。

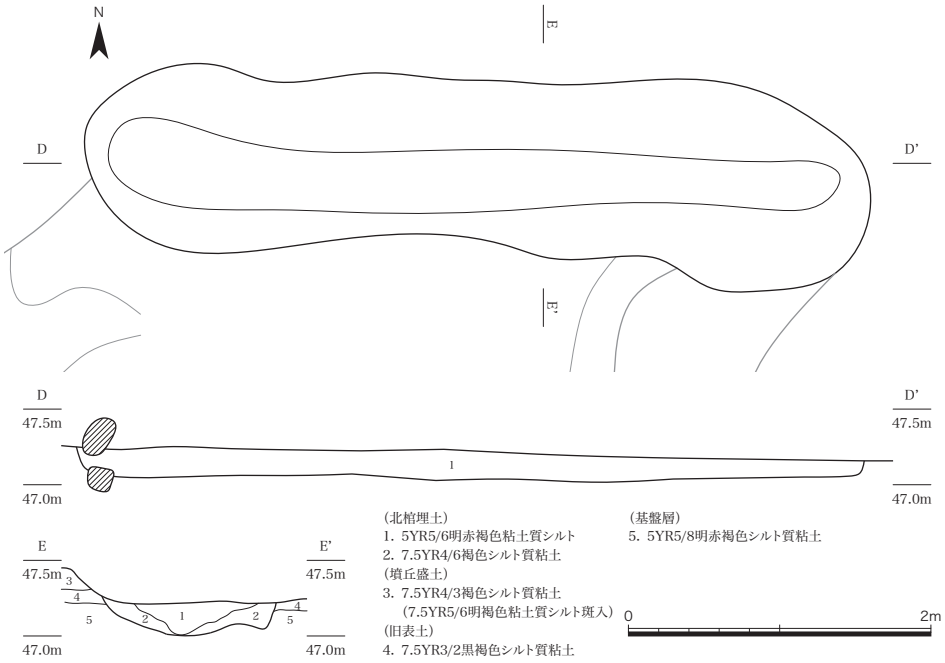
ただ、木棺の痕跡として把握した落ち込みは南側の一方が若干窄まる（立ち上がる）ような状況が認められることからすると、木棺と認識して調査した部分は南小口付近に相当することが推測される。仮に木棺と認識して調査した部分（墳丘の中心付近）に南小口を想定し、木棺の長さを北棺の規模を参考にして５m 程度とすると、東棺と西棺は墳丘の北側に大きく寄った位置（別の一方の北小口が北棺に近接するような位置）に設置されたことになる（第 34・36 図）。

刀子（3・4）

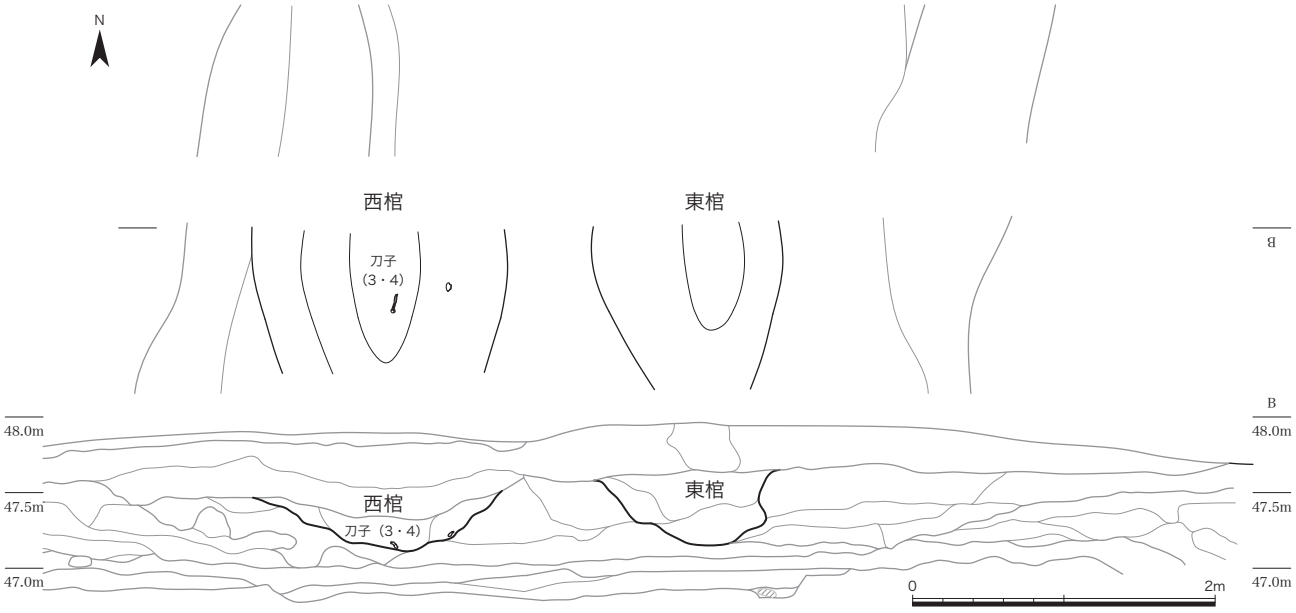
東棺と認識して調査した部分からは刀子（3･4）が検出された（第 36 図）。刀子（3･4）は２点が錆着した状態で、一方（3）は残存長 12.5cm、刃は長さ 8.8cm、関の幅 1.7cm、厚さ 0.4cm 程度である。茎の先端付近が欠損し、背側は無関、刃側も無関で、刃部から直接に茎に移行する。他方（4）は茎で折損し、残存長 4.3cm、残存幅 1.1cm である。

土壌選別

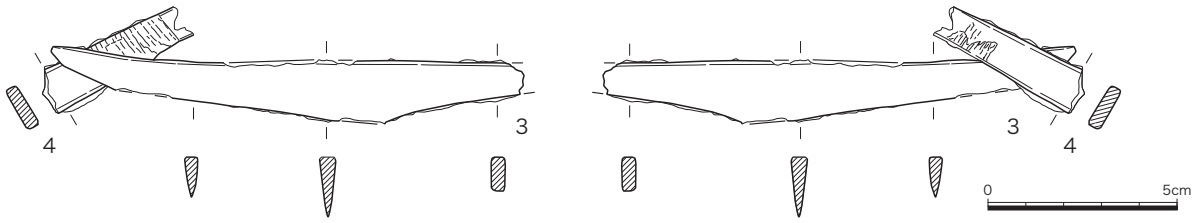
ヤリガンナの可能性もある（第 37 図）。その他、北棺、東棺と西棺として調査した部分の埋土は土壌選別を実施したが、古墳に伴う遺物は検出されなかった。




第35図　花の木３号墳北棺遺構図（1:50）




第36図　花の木３号墳西棺・東棺遺構図（1:50）




第37図　花の木３号墳西棺出土鉄製品実測図（1:2）

## （6）花の木５・６・７号墳

### ５・６・７号墳の現況、発掘調査の方法

現況　３号墳南西に南北に連なるようにして分布する３基の墳丘状の高まりを便宜的に（標高が高い北から）５号墳、６号墳、７号墳とした。地形測量による墳丘規模の計測値は５号墳が径約 12.5m、高さ約 0.4m、６号墳が径約 10.5m、高さ約 0.2m、７号墳が径約 12.5m、高さ約 0.4m であるが、遺跡台帳に記載された計測値とは必ずしも一致しない（第 38 図）。

調査着手時、５号墳は工場敷地の造成土により一部（北側）が覆われていた。５号墳と７号墳はわずかな起伏が視認される程度であった。地形測量により認識した６号墳の起伏はより低く、実際に視認することはほとんど不可能であった。７号墳の西方向には平成９年（1997）の一宮町教育委員会、墳頂付近には平成 30 年の愛知県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査のトレンチあるが、それを除いて古墳の遺存状況は比較的良好であった。

基準の設定　これら３基の古墳に対しては、３基の周溝、墳丘盛土、旧表土と下層遺構の関係を把握することを目的として、３基の古墳の中心付近を通る南北方向、各古墳に対してそれに直交する方向に土層観察用の畦を設定した。墳形はいずれも円墳としての認識を踏襲した。

### ５号墳の墳丘・周溝

規模・墳形・方位　発掘調査の結果、５号墳は長軸（東西）約 12m、短軸（南北）約 10m の方墳であることが判明した（後述する墳丘下端を計測）。短軸の方位は N21° E である。墳丘下端の高さを標高 46.6m 付近、墳頂部の高さを標高 47.2m 付近に求めると、墳丘下端（周溝底面）から墳頂部までの墳丘の高さは約 0.6m である。墳頂部平坦面（現状の計測値）は東西約 9.6m、南北約８.0m の長方形で、墳丘下端との比はおよそ５：４である（第 39 図）。２号墳を除く他の古墳と同様、墳頂部は広く、墳丘の高さも低い。

周溝　周溝は全周し、南溝外縁は６号墳の北溝外縁と接する（第 39 図）。周溝埋土は多数の

周溝出土遺物　弥生土器を包含し、古墳に伴う土師器との厳密な識別は難しい。古墳に伴う可能性がある土師器として、く字甕（59・60）、高杯（61）、二重口縁壺（66）、広口壺（67・68）がある。時期は古墳時代前期後半から中期前半に対応する。その他、縄文・弥生時代の石器が出土した（第 49・184 ～ 188 図）。

墳丘　墳丘盛土はごくわずかに残存するのみで、結果として埋葬施設は旧表土上面において検

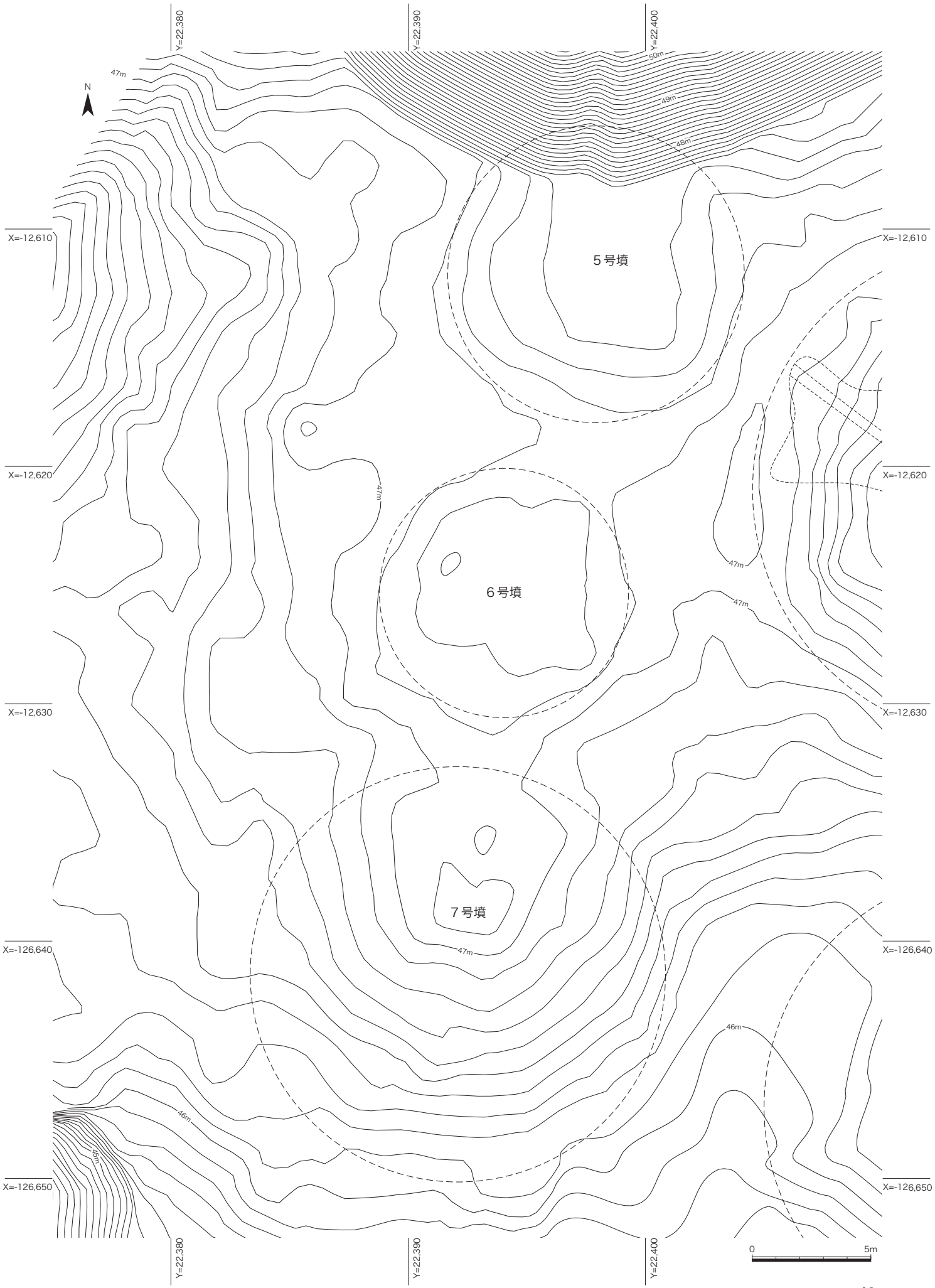
墳丘出土遺物　出した。旧表土上面の標高は約 47.1m である。墳丘盛土、旧表土中も多数の弥生土器、縄文・弥生時代の石器を包含する（第 50・184 ～ 188 図）。

### ５号墳の埋葬施設

木棺の規模・方位　埋葬施設は墳丘主軸（長軸）に対して斜行（26°）する木棺直葬である。方位は N85° E で、規模は長さ約 5.5m、幅約 1.9m、深さ約 0.15m である。両小口付近には褐色を基調とする粘土が検出された。粘土は木棺の固定、目張り等を目的として使用された（ごく簡略化した棺床粘土）と推測される（第 44 図）。

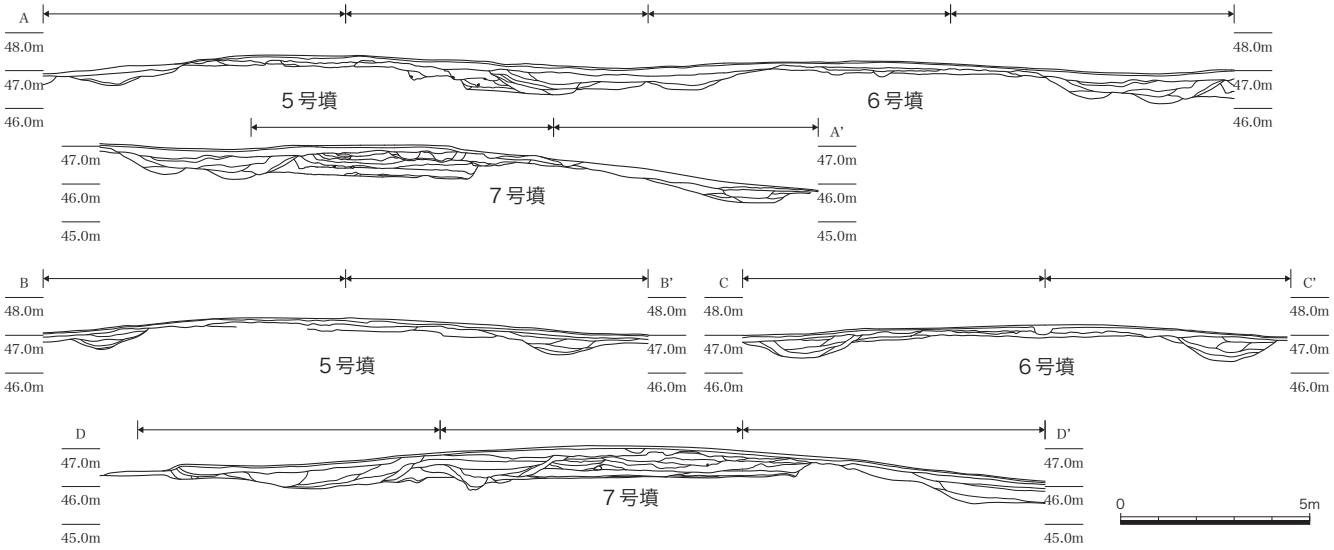
出土遺物　木棺から出土した土器を弥生土器と識別することは難しいが、広口壺（75）、高杯（78）は古墳時代前期後半から中期初頭（前期末葉）に対応する土師器の可能性がある（第 49 図）。

土壌選別　木棺の埋土については、土壌選別を実施したが、古墳に伴う遺物は検出されなかった。

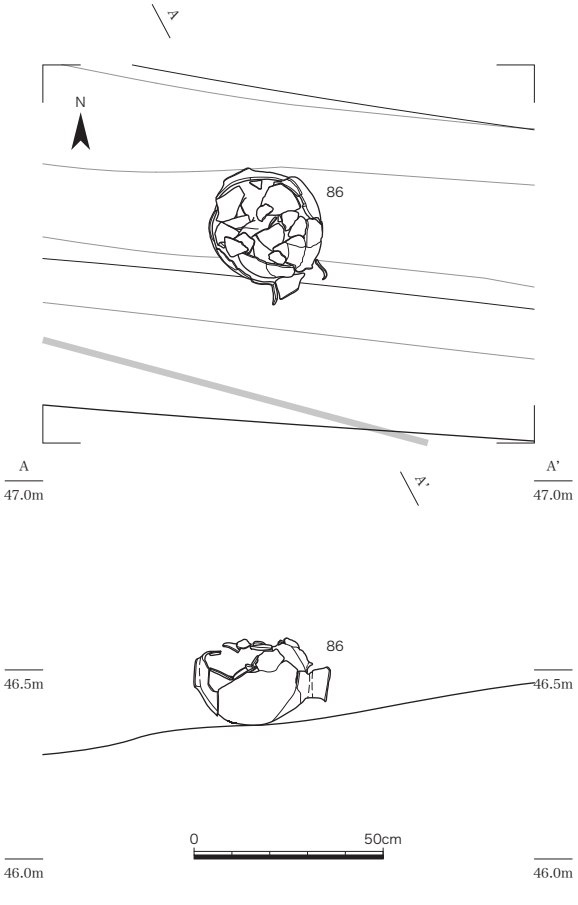



第38図　花の木５・６・７号墳墳丘測量図（1:200）

第39図　花の木５・６・７号墳古平面図・墳丘復元図（1:200）




第40図　花の木５・６・７号墳墳丘断面図（1:200）




第41図　花の木６号墳周溝遺物出土状況図（1:20）

## ６号墳の墳丘・周溝

規模・墳形・方位

発掘調査の結果、６号墳は一辺約10m の方墳であることが判明した（後述する墳丘下端を計測）。短軸の方位はN15° E である。墳丘下端の高さを標高 46.4m 付近、墳頂部の高さを標高 47.1m 付近に求めると、墳丘下端（周溝底面）から墳頂部までの墳丘の高さは約 0.7m である。墳頂部平坦面（現状の計測値）は一辺約８m の方形で、墳丘下端との比はおよそ５：４である（第 39 図）。２号墳を除く他の古墳と同様、墳頂部は広く、墳丘の高さも低い。

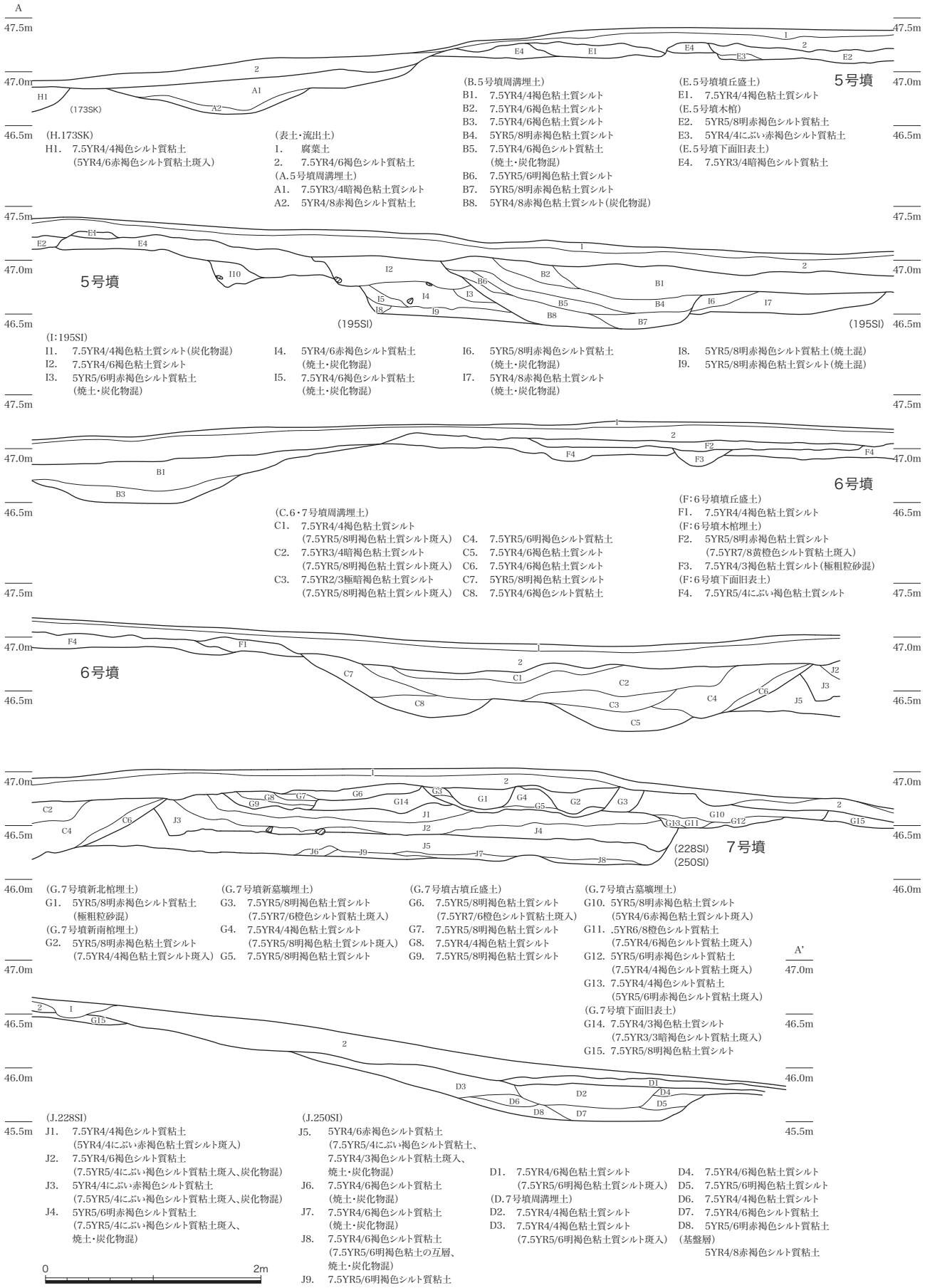
周溝

周溝は全周するが、南溝外縁付近は７号墳の北溝外縁と接する。土層の観察から、周溝の埋没も７号墳と同時に進行したことが推測される。南東隅は土器棺墓５の周辺を掘り残しているようでもある。その場合、６号墳の築造は土器棺墓の設置と同時、またはそれ以降と考えられる。

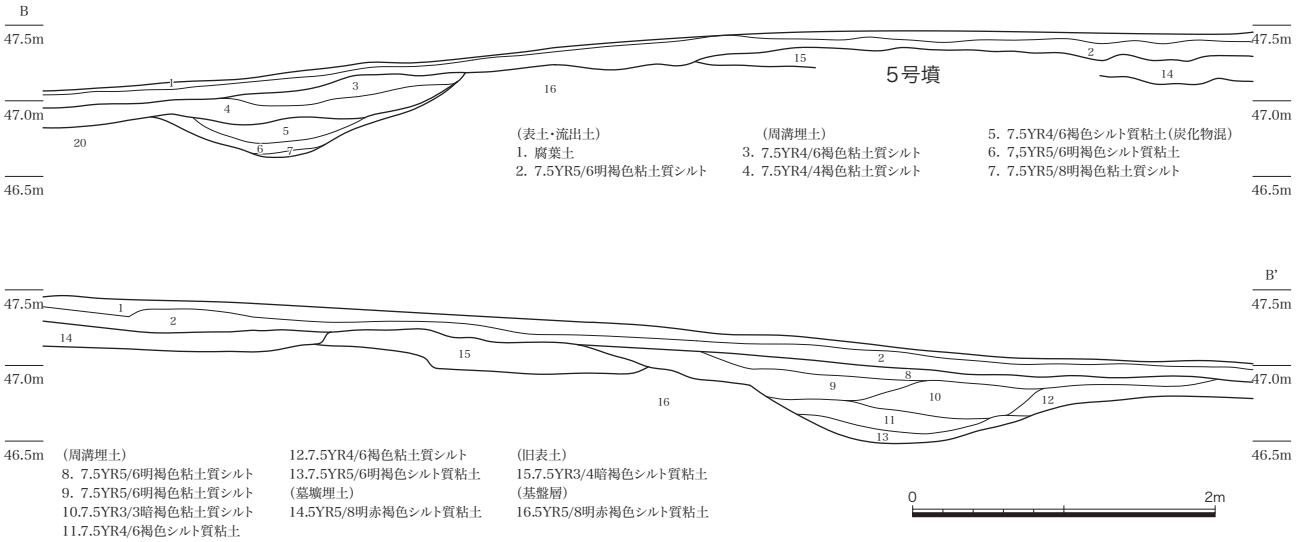
土器棺墓との関係

周溝出土遺物

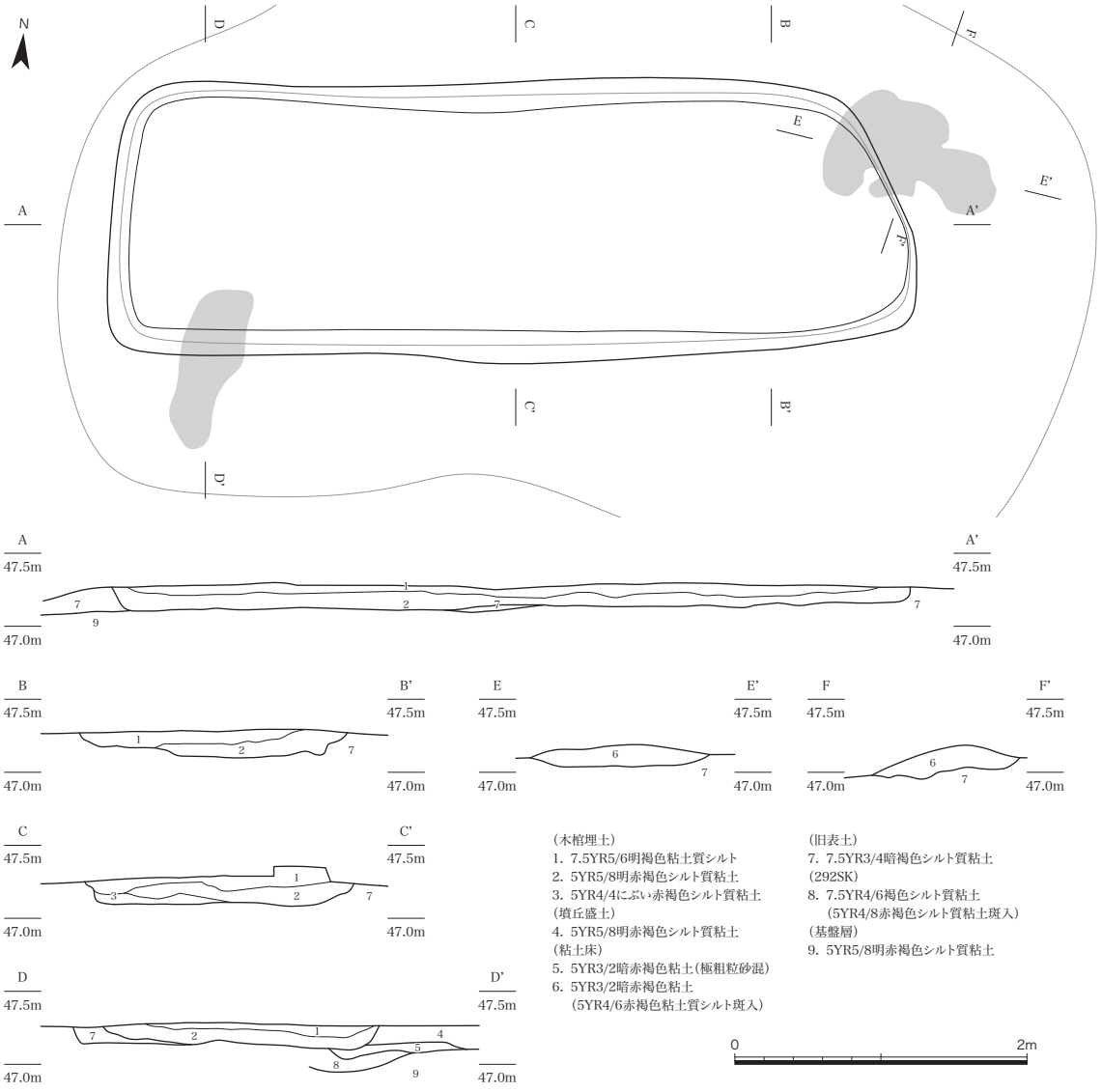
南溝の周溝底面付近においては、広口壷（86）が横転した状態で出土した（第 41 図）。その他、周溝覆土中から出土した古墳時代前期後半から中期初頭（前期末葉）に対応する土師器く字甕（83）、柳ヶ坪型壷（84）、小型壷（87）、小型鉢（88）が古墳に伴う可能



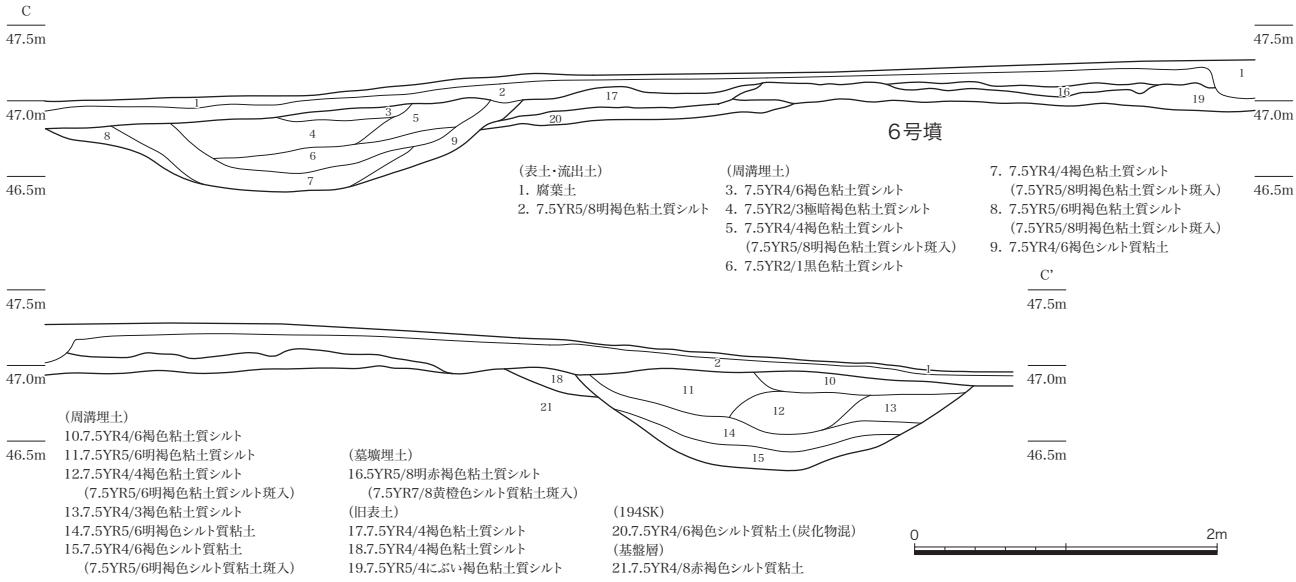

第42図　花の木５・６・７号墳土層断面図（1:50）



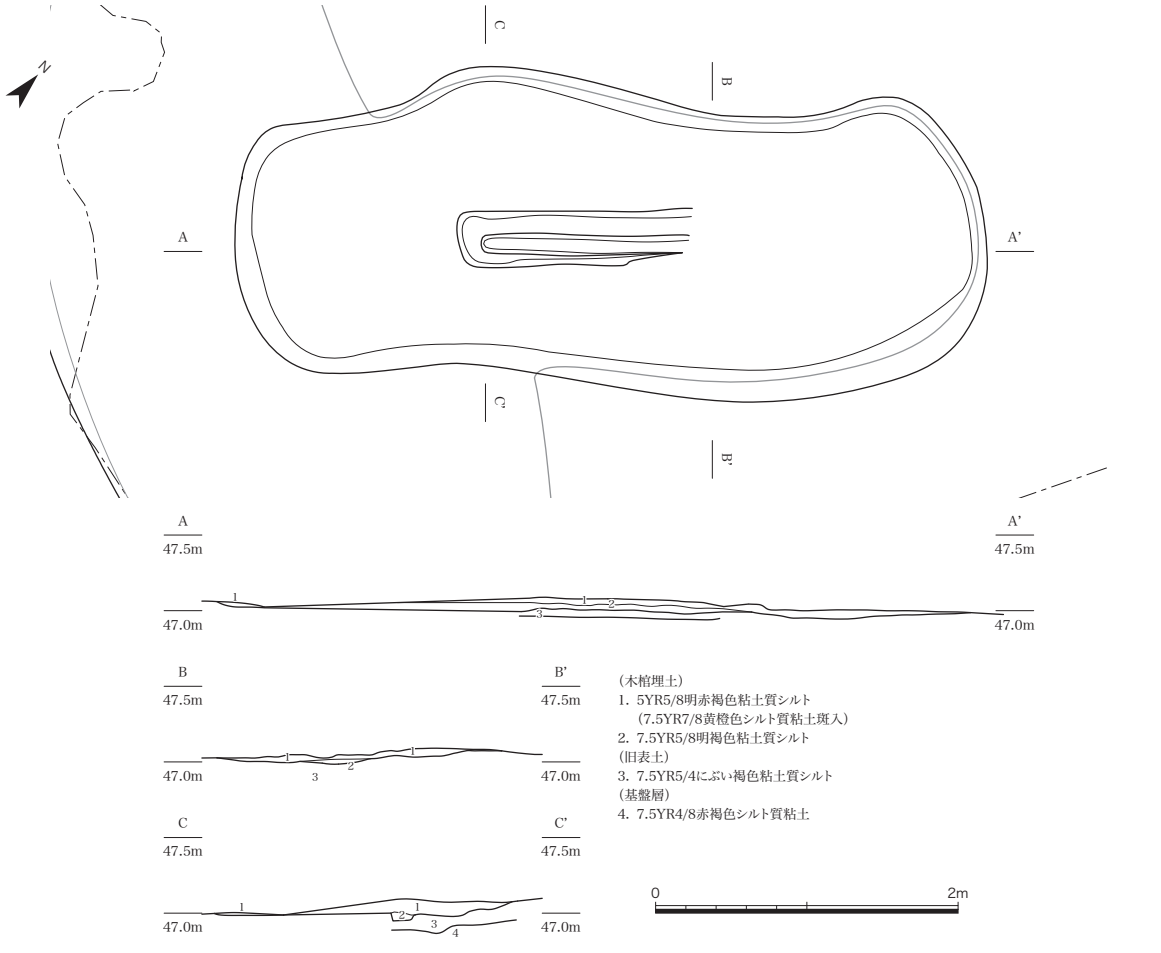

第43図　花の木５号墳土層断面図（1:50）



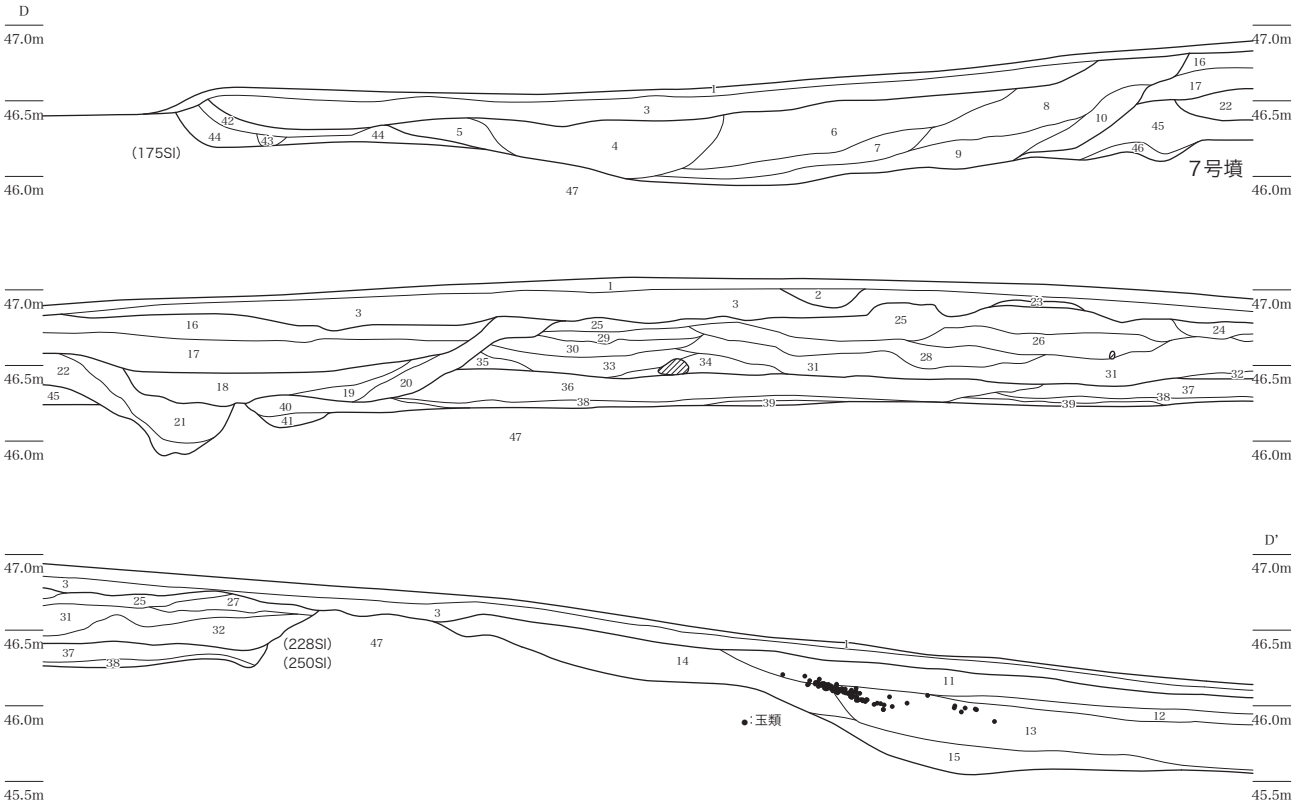

第44図　花の木５号墳埋葬施設遺構図（1:50）




第45図　花の木６号墳土層断面図（1:50）




第46図　花の木６号墳埋葬施設遺構図（1:50）

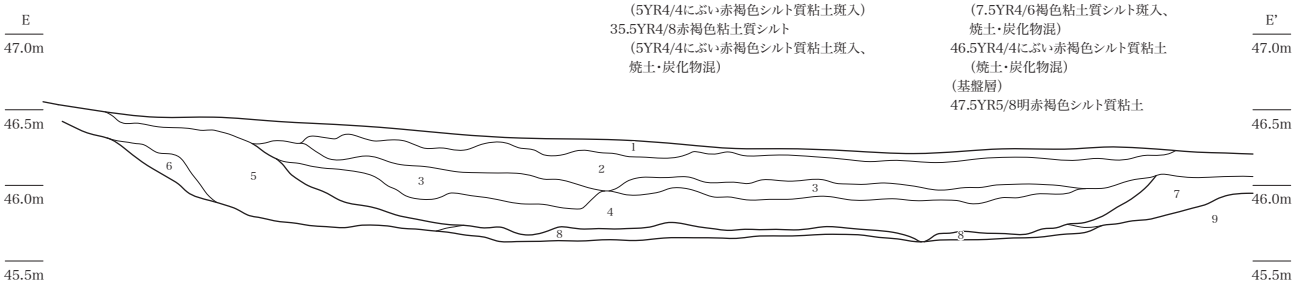



(表土・流出土)
1. 腐葉土
2. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
(7.5YR7/6橙色シルト質粘土斑入)
3. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
4. 7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
5. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
6. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
7. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
8. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
9. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
10.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
11.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
12.7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
13.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
14.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
15.5YR4/8赤褐色粘土質シルト

(墳丘盛土)
16.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
17.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
(周溝埋土)
18.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
19.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
20.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
21.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
22.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(墳丘盛土)
23.7.5YR4/4褐色粘土質シルト

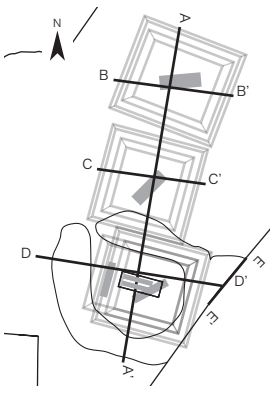
(228SI)
24.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
25.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(7.5YR3/3暗褐色シルト質粘土斑入)
26.7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
27.7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
28.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入)
29.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
30.7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、
焼土・炭化物混)
31.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
32.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
33.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
(焼土・炭化物混)
34.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
35.5YR4/8赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)

(250SI)
36.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土、
7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
37.5YR4/6赤褐色粘土質シルト
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、
焼土・炭化物混)
38.7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
39.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
40.7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(焼土・炭化物混)
41.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
42.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
(175SI)
43.7.5YR2/3極暗褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
44.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(焼土混)
45.7.5YR3/4明褐色粘土質シルト
(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入、
焼土・炭化物混)
46.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
(基盤層)
47.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

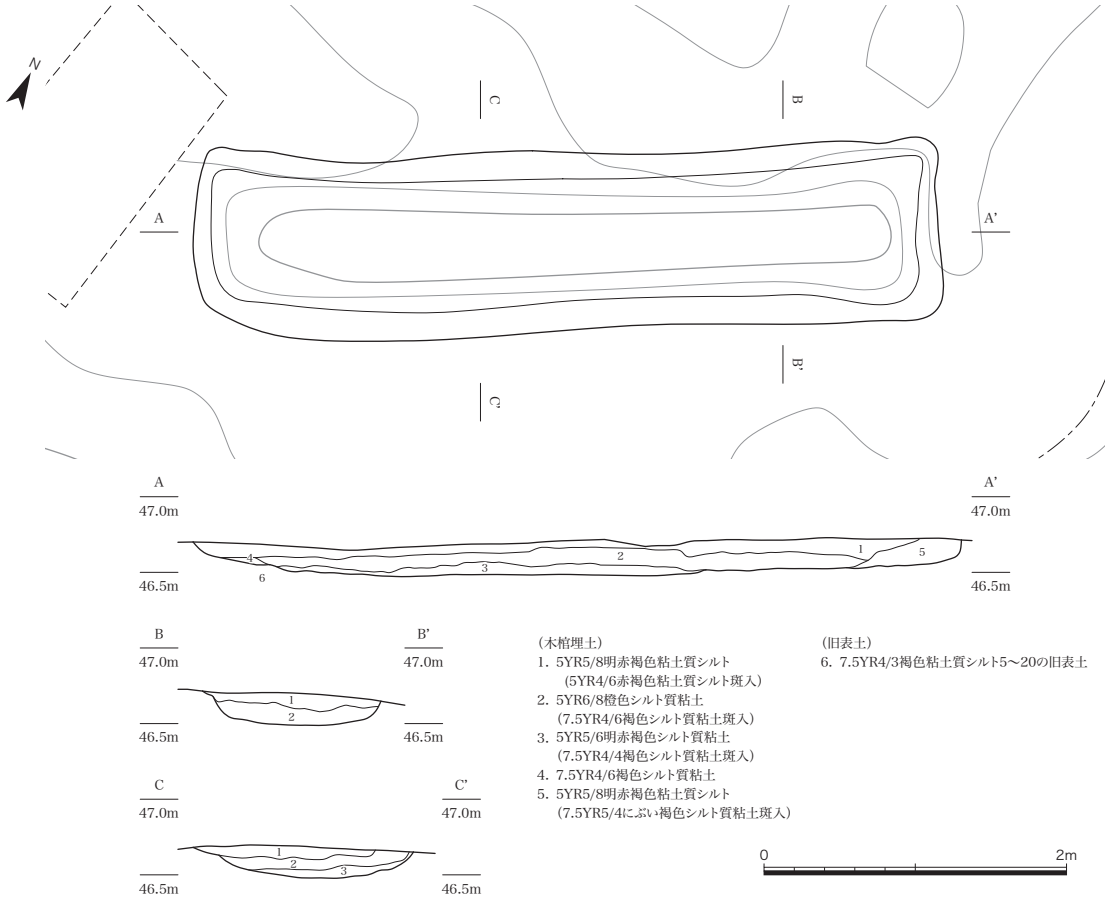



(表土・流出土)
1. 腐葉土
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(周溝埋土)
3. 7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
4. 7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
5. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト
6. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
7. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
8. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入)
(基盤層)
9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

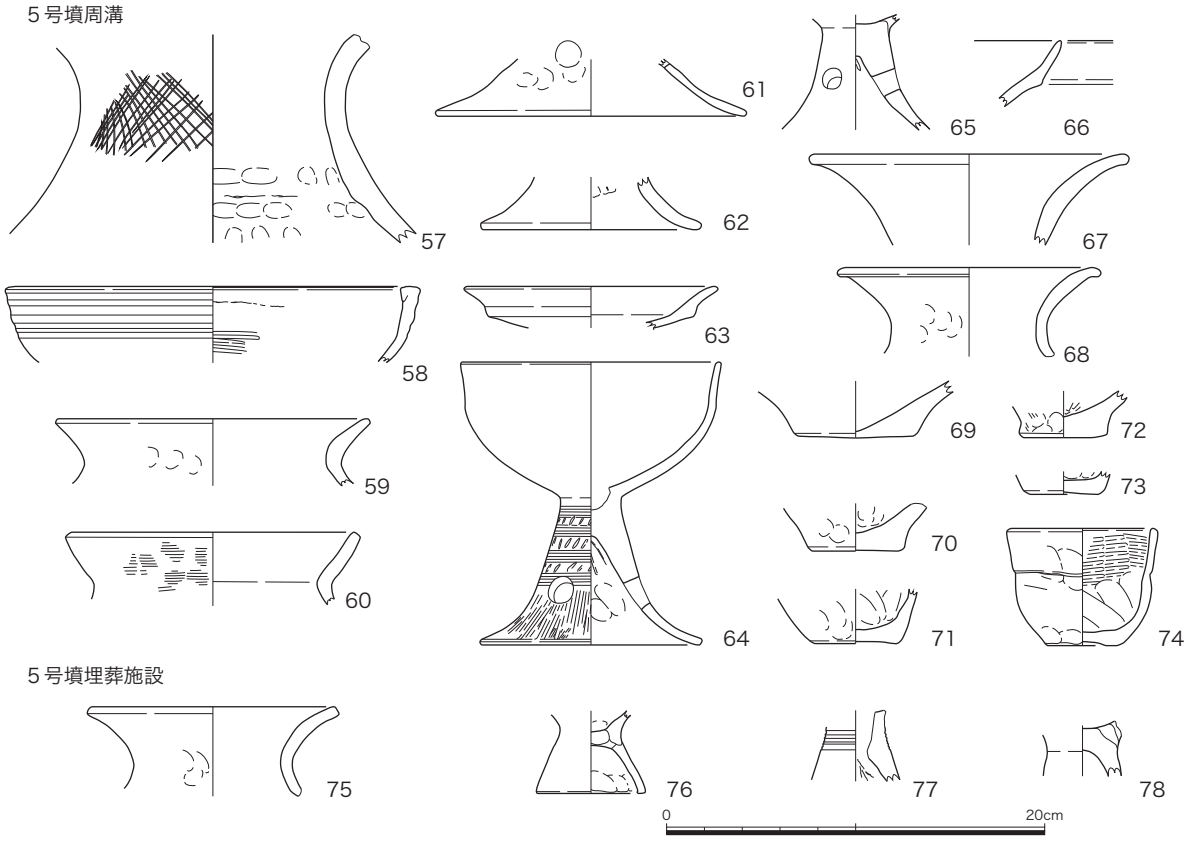


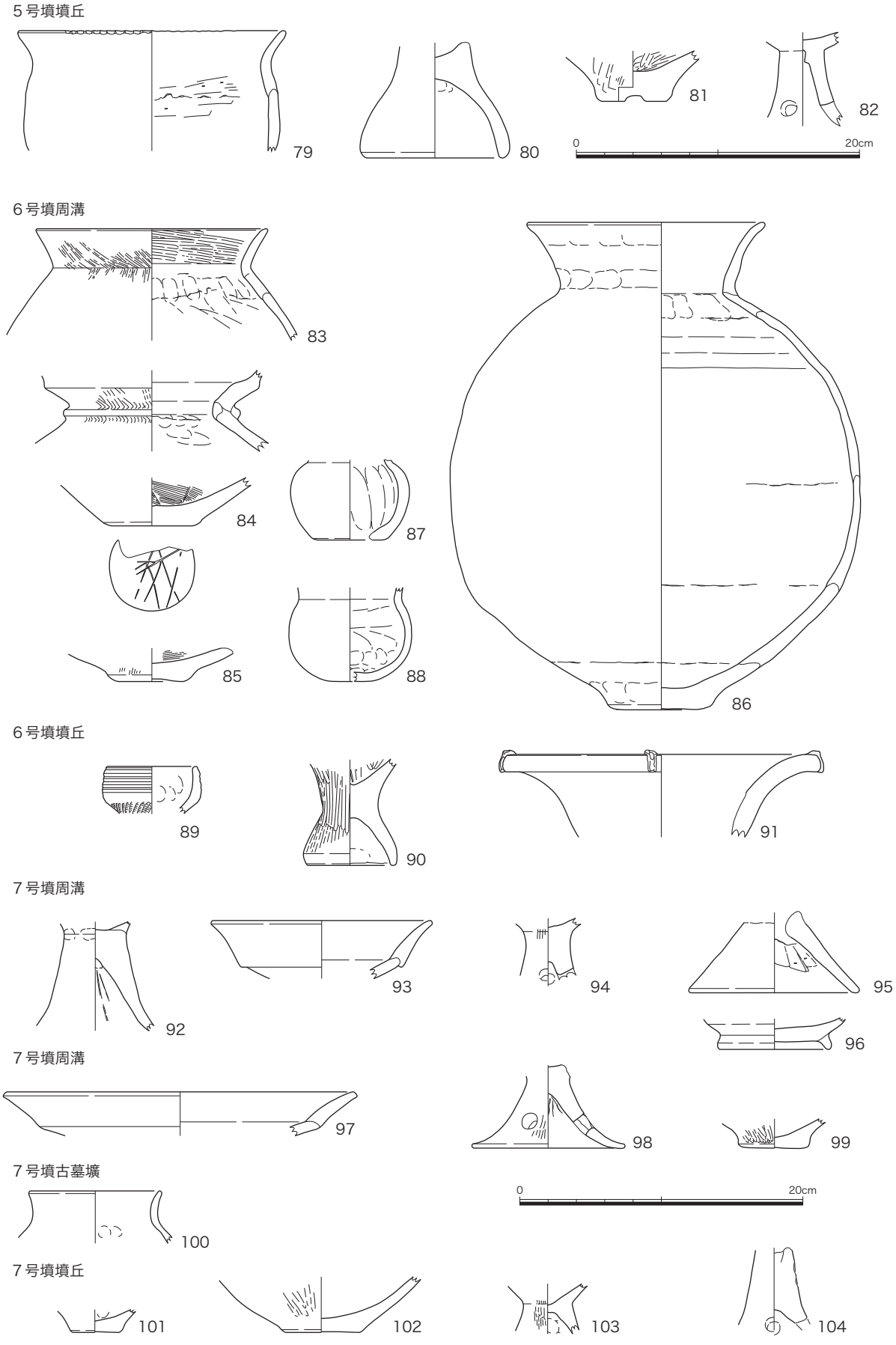

第47図　花の木７号墳土層断面図（1:50）




第48図　花の木７号墳古埋葬施設遺構図（1:50）




第49図　花の木５・６・７号墳周溝・埋葬施設・墳丘出土土器実測図１（1:4）




第50図　花の木５・６・７号墳周溝・埋葬施設・墳丘出土土器実測図２（1:4）

性が高い。古墳の築造時期も同時期に求められる。その他、縄文・弥生時代の石器、石製品が出土した（第 50・184 ～ 188 図）。

墳丘

墳丘出土遺物

　墳丘盛土はごくわずかに残存するのみで、結果として埋葬施設は旧表土上面において検出した。旧表土上面の標高は約 47.0m である。墳丘盛土､旧表土中も多数の弥生土器､縄文･弥生時代の石器を包含する（第 50・184 ～ 188 図）。

### ６号墳の埋葬施設

木棺の規模・方位

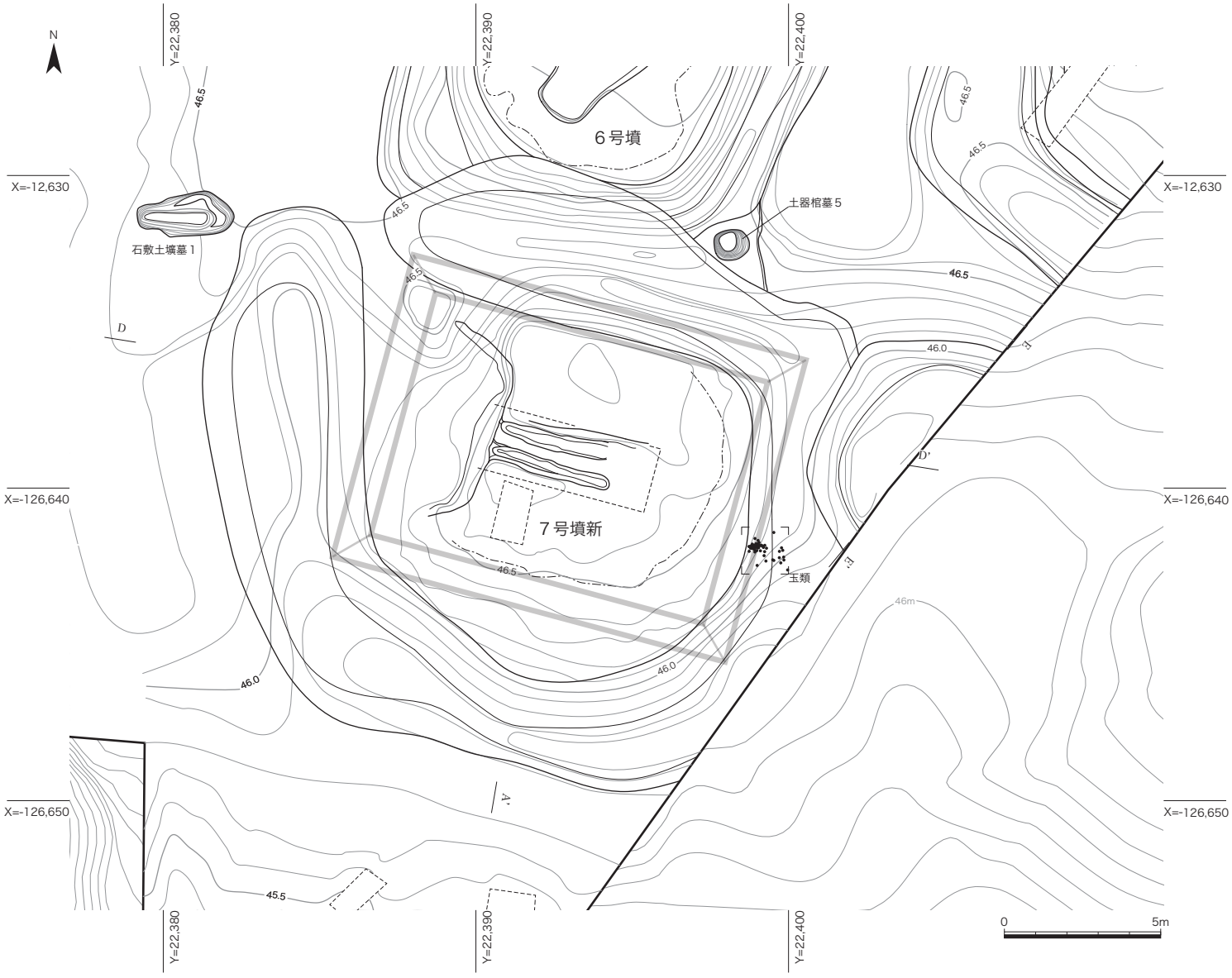
土壌選別

　埋葬施設は墳丘主軸に対して斜行（28°）する木棺直葬である。方位は N43° E で、規模は長さ約 5.0m、幅約 1.7m、深さ約 0.1m である。底面の中央には幅約 0.15m、深さ約 0.05m の段状の落ち込みが認められるが、その機能は不明である。木棺の埋土については、土壌選別を実施したが、古墳に伴う遺物は検出されなかった。

### ７号墳の概要

拡張、再利用

　７号墳は５号墳、６号墳と前後して築造されたと推測される墳丘を西側に拡張し、再利用していることが判明した。以下、拡張前の古墳を７号墳古、拡張後の古墳を７号墳新と




第51図　花の木７号墳新平面図・墳丘復元図（1:200）

する（第 39・51 図）。新古の古墳にはそれぞれ埋葬施設が確認され、７号墳新には２基の木棺（の痕跡）が検出された。以下、北側の木棺を北棺、南側の木棺を南棺とする。墳丘東辺中央やや南寄りにおいては多数の滑石製玉類（緑色凝灰岩製管玉１点を含む）が出土した（第 51・54 図）。

埋葬施設

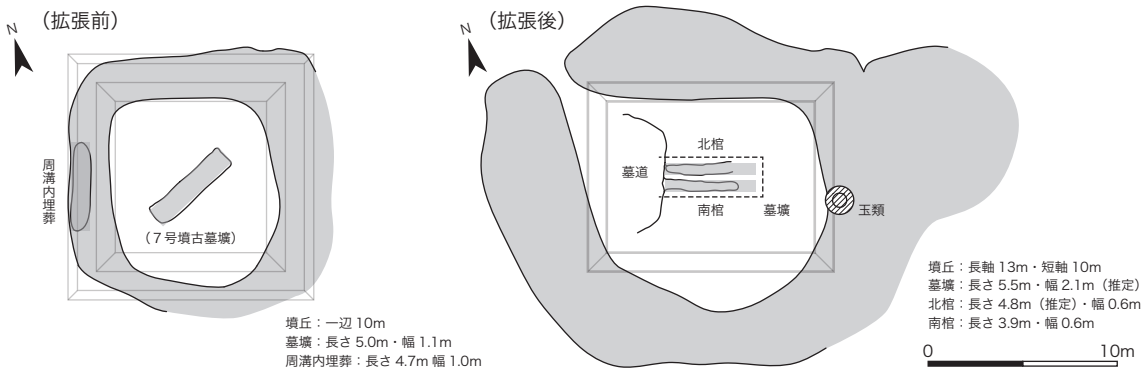
墳丘出土の玉類

### ７号墳古の墳丘・周溝

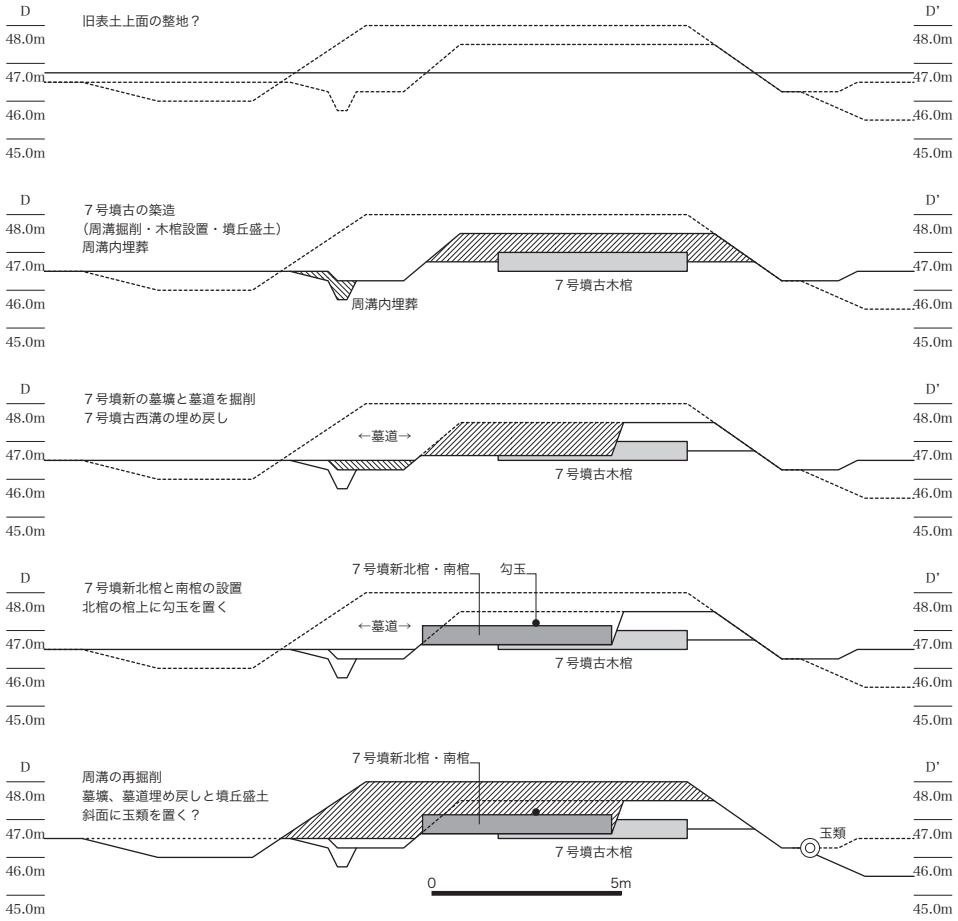
台地南西端に築造された７号墳は南東、南西隅の墳丘の流失が著しく、墳丘盛土は北半を中心にわずかに残存する程度であった。７号墳古の周溝は西溝を除く各辺が再利用時

墳丘

周溝




第52図　花の木７号墳拡張前後の比較（1:400）




第53図　花の木７号墳構築・拡張過程断面模式図（1:200）

規模・墳形・方位　に再掘削されていると思われ、７号墳古の墳丘と周溝の正確な形状を把握することは困難であるが、西溝側の墳丘下端を標高 46.2m 付近に求め、東溝についてもほぼ同じ高さに認められる平坦面（緩斜面）を７号墳古の周溝底面付近（７号墳新東溝の掘削が及ばなかった部分）とすれば、６号墳と同様の一辺約 10m の方墳が想定される。短軸（南北）の方位は N15° E である。墳丘下端の高さを標高 46.2m 付近、墳頂平坦面の高さを標高 46.8m 付近に求めると、墳丘下端（周溝底面）から墳頂部平坦面までの墳丘の高さは約 0.6m である。２号墳を除く他の古墳と同様、墳頂部は広く、墳丘の高さも低い。

周溝内埋葬施設　西溝の外縁には長さ約 4.7m、幅約 1.0m、深さ約 0.3m の溝状の落ち込みが検出された。遺構に確実に伴う遺物は検出されなかったが、古墳群中で検出されている埋葬施設の規模、形状に類似することから、７号墳古に伴う周溝内の埋葬施設と判断した（第 39 図）。

### ７号墳古の埋葬施設

木棺の規模・方位　７号墳古の埋葬施設は旧表土上面において検出した。旧表土上面の標高は約 46.5m である。埋葬施設は墳丘主軸に対して斜行（41°）する木棺直葬である。方位は N64° E で、

土壌選別　規模は長さ約 5.0m、幅約 1.1m、深さ約 0.2m である。埋土については、土壌選別を実施したが、古墳に伴う遺物は検出されなかった（第 48 図）。

### ７号墳新の墳丘・周溝

拡張、再利用　７号墳古の拡張、再利用については、周溝（西溝）が内外に検出されたことを根拠としている。それにより、埋葬施設が重複して検出されたこと、新古の埋葬施設と墳丘との位置関係についても整合的な理解（新古の墳丘のそれぞれ中央に埋葬施設を想定すること）が可能となる。西側への墳丘の拡張についても、北側に６号墳、東側に４号墳がすでに築造され、南側は急斜面に接していることにより、墳丘を拡張する余地が西側にのみ残されていたことに起因するのであろう。

墳丘　墳丘盛土は７号墳古の周溝（西溝）上面に確認される程度で、大部分が流失する。

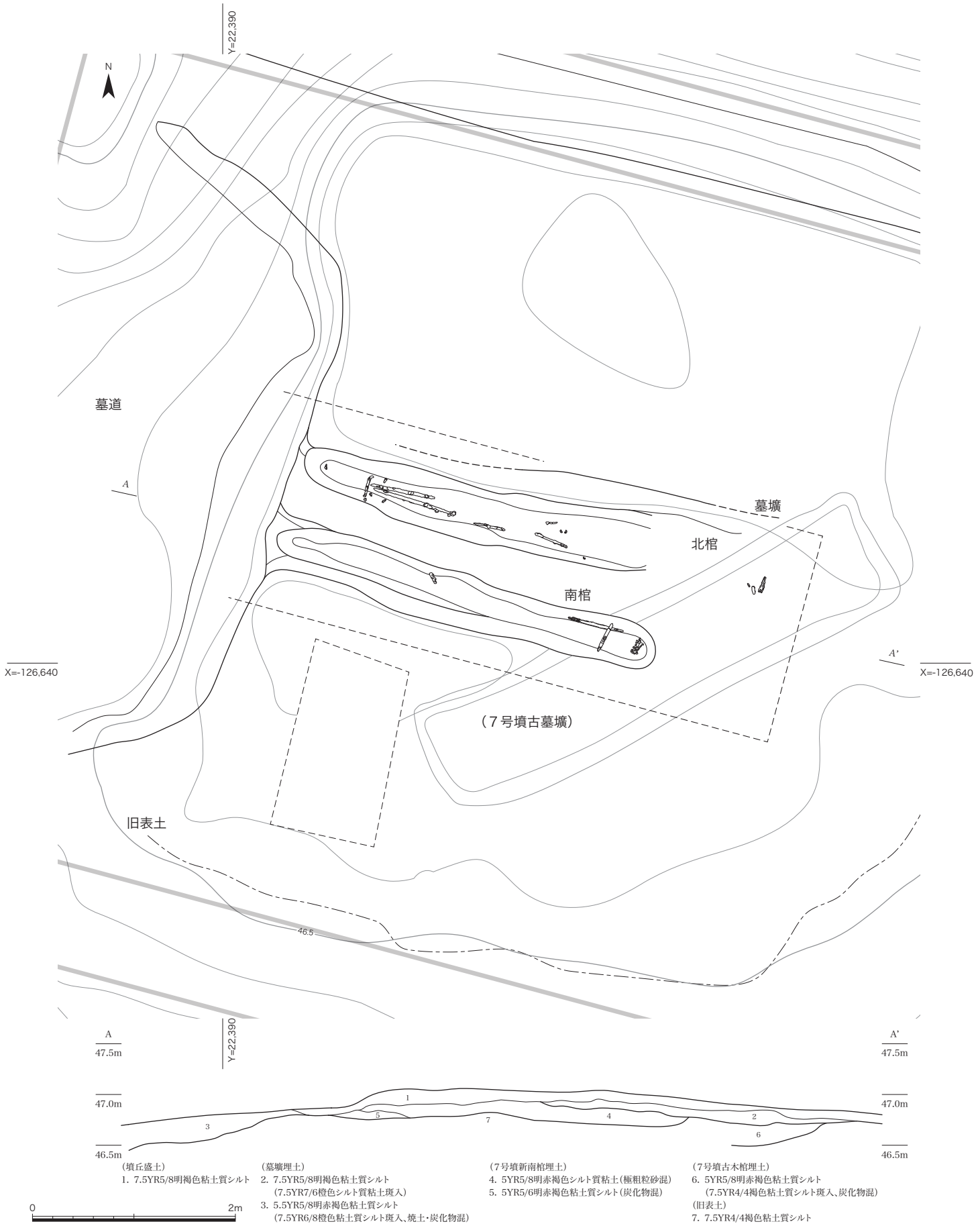
周溝　周溝は南溝から次第に浅くなり、北西隅は土橋状に掘り残される。土橋状の部分は北西側に向けて開放する墓壙墓道に通じ、木棺の搬入等に利用されていたことも想定される。他方、周溝北東隅は擂鉢状に深く掘削される。近接する４号墳（調査区外）の周溝の一部である可能性も想定したが、位置関係、方向からその想定は難しい。墳丘の拡張、再利用を踏まえ、墳丘盛土の確保を目的として部分的に周溝を深く再掘削した可能性を提示する（第 51 図）。

周溝出土遺物　周溝埋土は多数の弥生土器を包含するが、古墳に伴う土師器は抽出されなかった。その他、縄文・弥生時代の石器、石製品が出土した（第 50・184 ～ 188 図）。

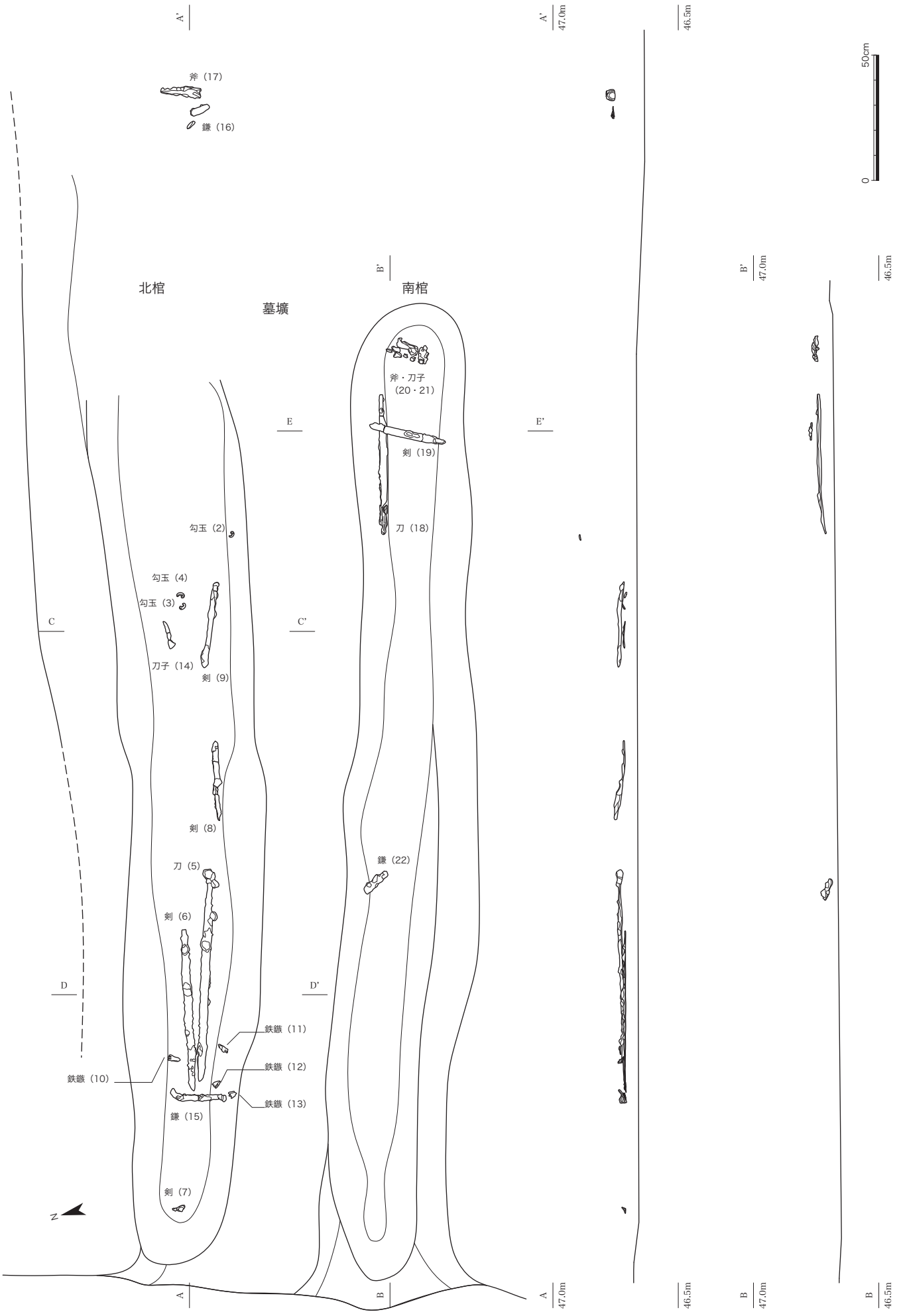
### ７号墳新の埋葬施設

墓壙の検出状況　７号墳新の墓壙は盛土中の検出が困難で、旧表土上面付近を精査した段階において、残存状況が相対的に良好な北側で比較的明瞭に検出された。方位は墳丘主軸に平行する（N105° E）。７号墳古の埋葬施設と重複する部分、根株等により、検出が不十分な部分もあるが、土層断面（第 42 図）、後述する木棺（の痕跡）の検出状況等から、墓壙の規模は長さ 5.5m、幅 2.1m 程度と推定される。

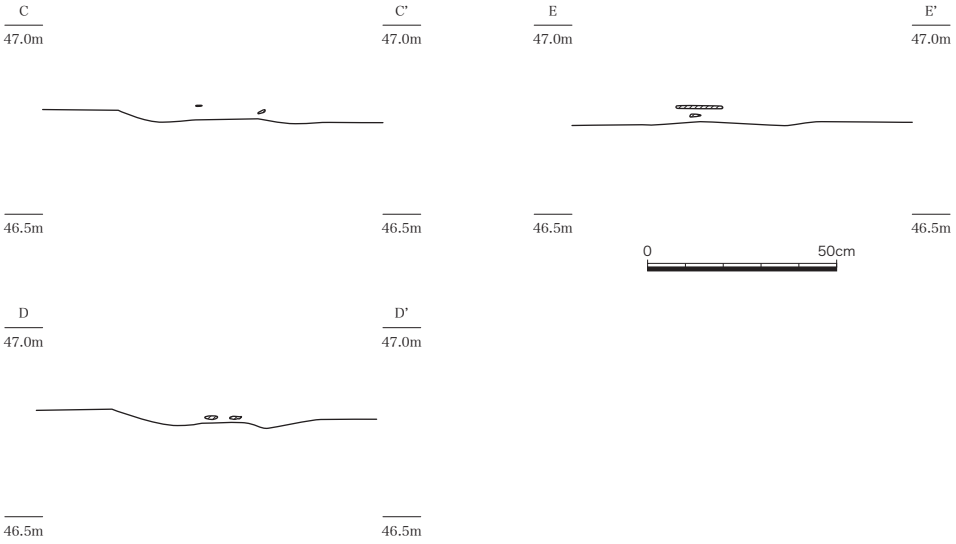
木棺の検出状況　木棺（の痕跡）は墓壙内の著しく締まりを欠く層として認識され、鉄製品の検出状況も確認しながら範囲を把握した。木棺（の痕跡）は土層断面、墓壙内に並列する位置関係から、同一墓壙に二棺が同時に設置された可能性が高いと判断した。方位は墳丘主軸、墓壙



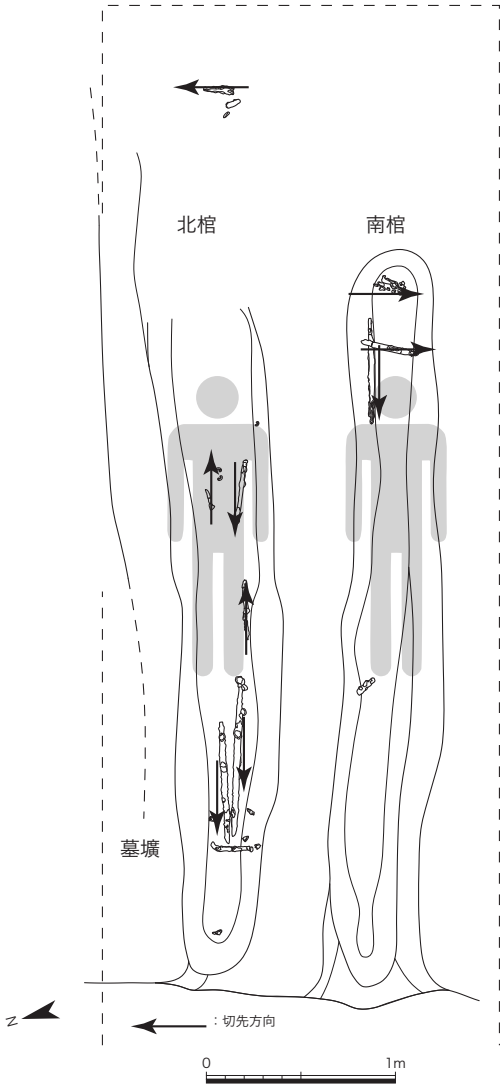

第54図　花の木７号墳新埋葬施設周辺遺構図（1:50）



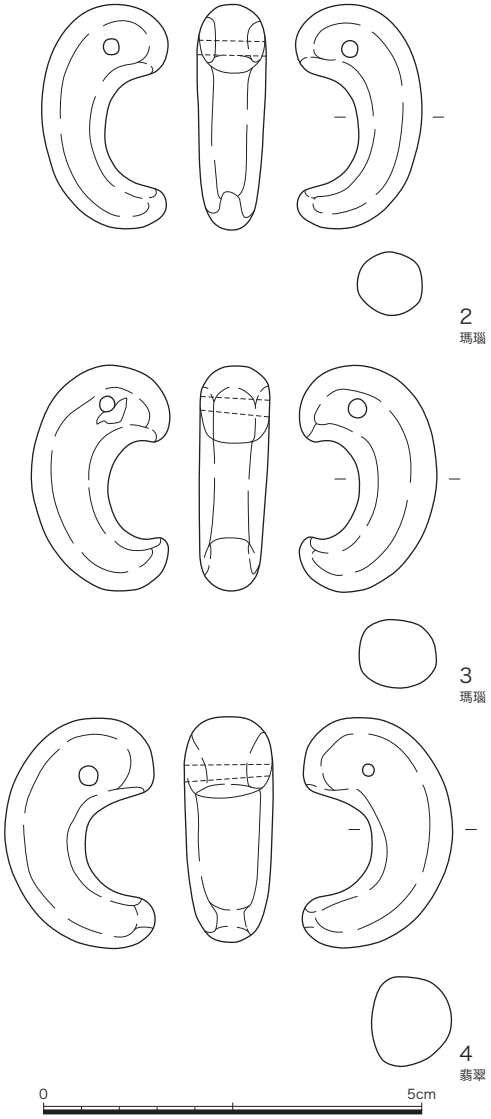

第55図　花の木７号墳新北棺・南棺遺物出土状況図１（1:20）



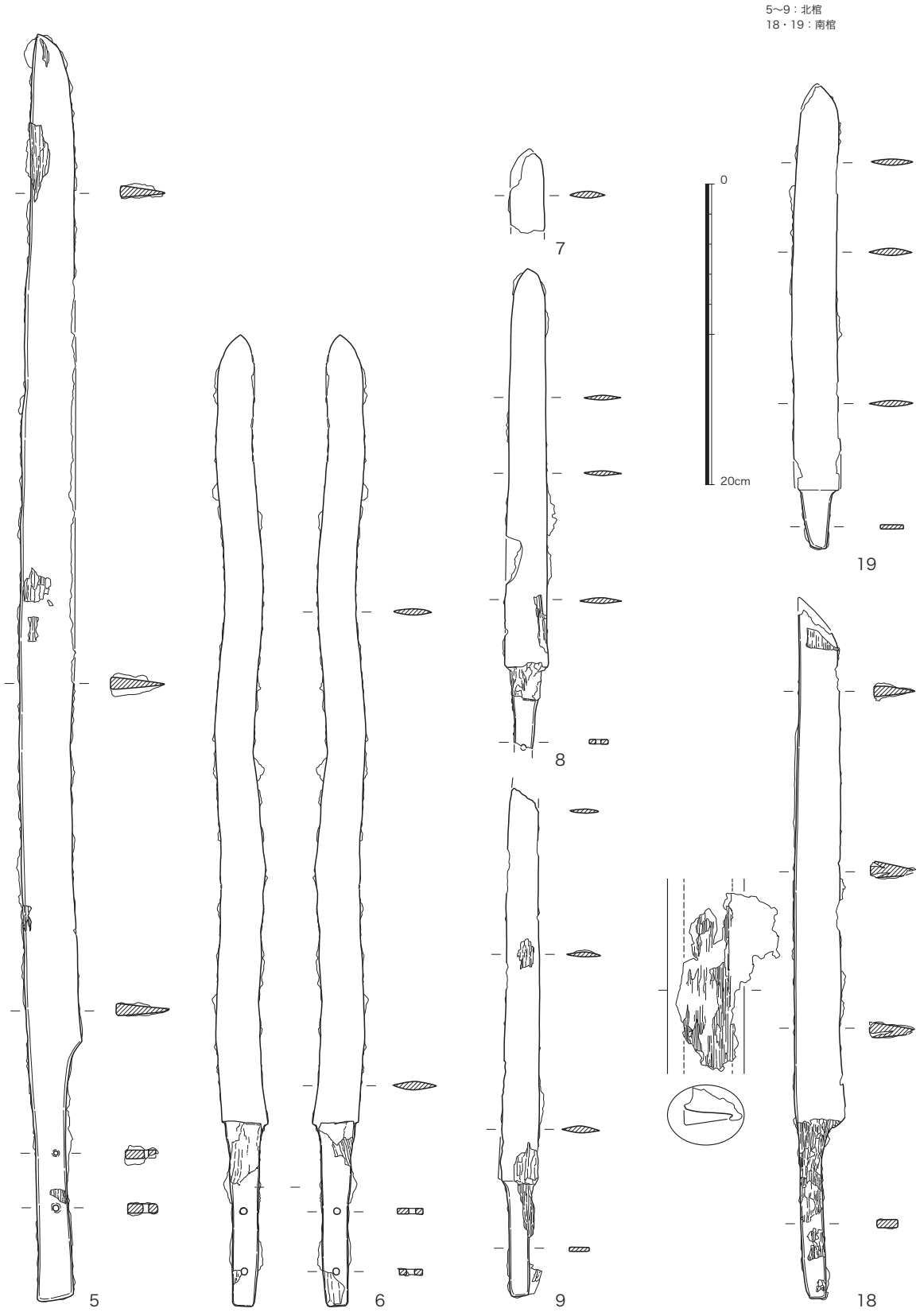

第56図　花の木７号墳新北棺・南棺遺物出土状況図２（1:20）



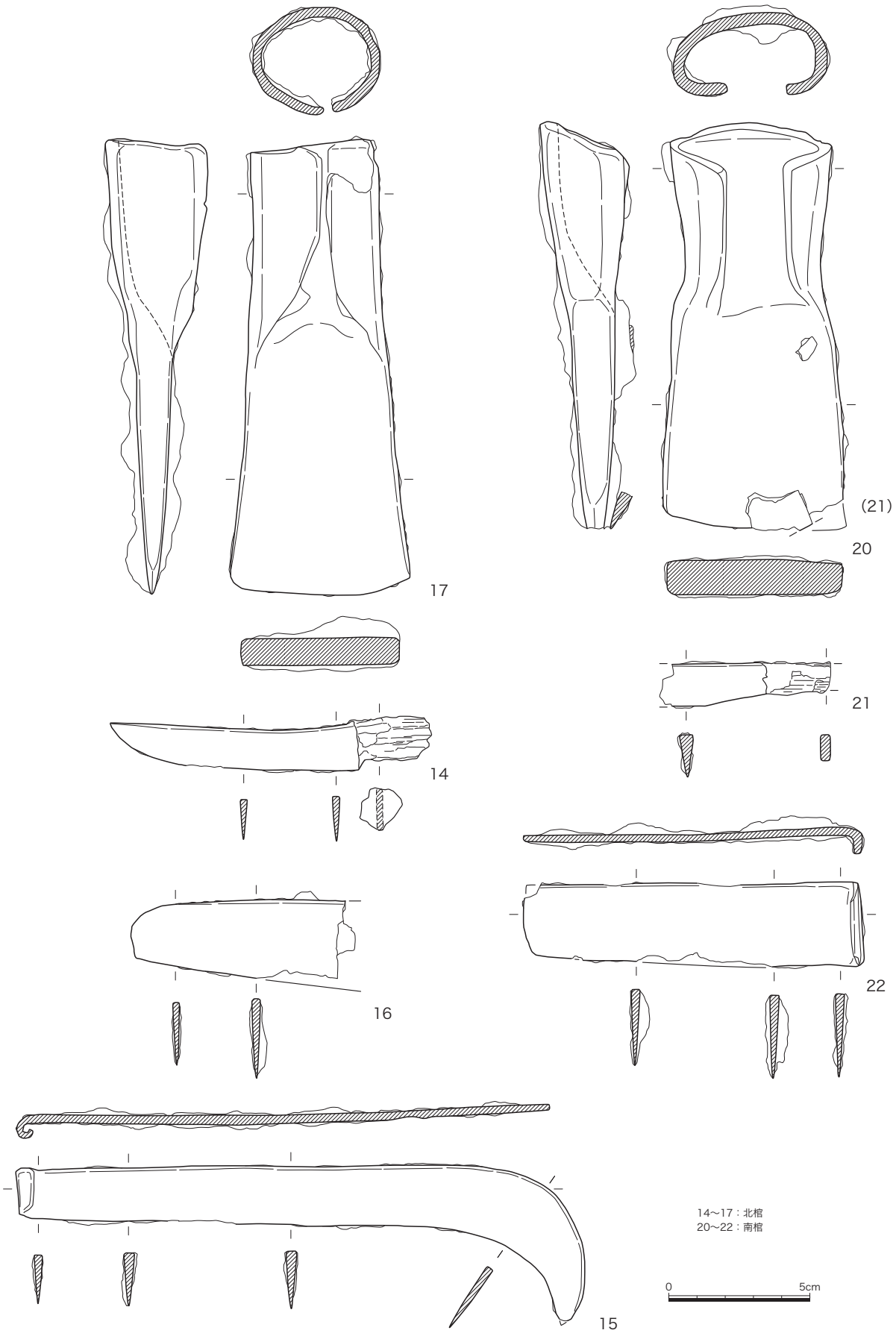

第57図　花の木７号墳新副葬品配列模式図（1:40）



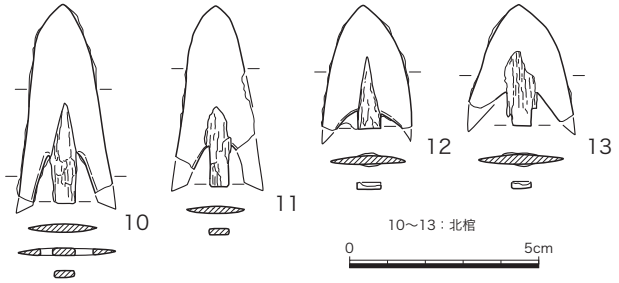

第58図　花の木７号墳新北棺勾玉実測図（1:1）




第59図　花の木７号墳新北棺・南棺鉄製品（刀剣）実測図（1:4）




第60図　花の木７号墳新北棺・南棺鉄製品（農工具）実測図（1:2）




第61図　花の木７号墳新北棺鉄製品（鉄鏃）実測図（1:2）

に平行する（N105° E）。

木棺の規模

幅は北棺、南棺とも約 0.6m である。調査時には平面と土層断面において南棺の東小口の位置を識別したが、７号墳古の埋葬施設との重複もあって、確実ではない。それによると南棺の長さは約 3.9m である。北棺は勾玉（3・4）と剣（9）、刀子（14）を検出した地点から東小口側に 2m 近く隔てた位置に鎌（16）、斧（17）が検出されたことを参考にすると、長さは約 4.8m と推定される。南棺の東小口側の把握にやや難があるとして、同一墓壙に二棺が同時に設置されたことを重視すると、南棺の長さも北棺と同等であった可能性もある。埋葬施設の検出時に赤色顔料等は認められなかった（第 54・55 図）。

７号墳新の副葬品配置

北棺の副葬品配置

北棺においては玉類（3・4）、刀剣（5 ～ 9）、鉄鏃（10 ～ 13）、農工具（14 ～ 17）を検出した。瑪瑙製勾玉（2）のみ検出した高さの標高が 46.90m でかなり高く、棺上、あ

配置の群別

るいは墓壙内に置かれたことが想定される。それ以外の副葬品の配置としては東群、中央群、西群に大別される。検出した（下面の）標高は東群が 46.75m、中央群が 46.70m、西群が 46.65m である。東群がやや高く、中央群とは２m近くの空間がある。木棺(の痕跡)と副葬品を検出した高さ、副葬品の配置から頭位は東頭位と推測される（第 55 ～ 57 図）。

北棺中央群

玉類を副葬した中央群が人体埋葬空間に対応し、瑪瑙製勾玉（3）、翡翠製勾玉（4）を検出した位置が被葬者の胸元付近と想定される。その両脇の位置には、南側辺に寄せて（被葬者の左脇に）剣（8・9）を縦列に、北側辺に寄せて（被葬者の右脇に）刀子（14）をそれぞれ配置する。切先の方向は剣（9）が西（足元）方向、剣（8）と刀子（14）が東（頭位）方向で、剣は切先を向かい合わせにする。

北棺東群

東群は農工具類として、直刃鎌（16）と袋斧（17）を配置する。袋斧（17）は刃部を北側（棺と直交する方向）に向けて、側辺を上下に向けた（立てた）状態で検出された。木棺（の痕跡）の外形は検出されなかったが、袋斧（17）の検出状況から、検出した位置が木棺の小口付近で、袋斧（17）は木棺の小口付近に（立てかけるようにして）副葬されたことも想定される。

北棺西群

西群は人体埋葬の足元以下に設けられた副葬品を配置するための空間と想定され、刀（5）と蛇行剣（6）、鉄鏃（10 ～ 13）から構成される武器を中心として、農工具として曲刃鎌（15）を配置する。刀（5）と蛇行剣（6）はほぼ中央に切先を揃えるようにして配置され、刀（5）と剣（6）の切先付近には４点の鉄鏃（10 ～ 13）が散在する。鉄鏃は無茎三角形式２点（12･13）が曲刃鎌（15）の基部付近に切先を揃えて、無茎長三角形式（11）が南側辺付近、無茎長三角形式（10）は北側辺付近に刀（5）と蛇行剣（6）を挟んで切

先を向かい合わせにしたような状況で検出された。これらの無茎式鉄鏃は矢柄から取り外された状態で副葬されたことが推測される。曲刃鎌（15）は刀（5）と蛇行剣（6）の切先に接するように（直交させ、）刃を向けて配置される。これらの一群から離れた棺の小口付近と想定される位置からは剣の切先（7）が検出された。

南棺の副葬品配置

南棺においては刀剣（18・19）、農工具（20 ～ 22）を検出した。副葬品の配置としては東群と西群に二分される。検出した（下面の）標高は東群が 46.75m、西群が 46.70m で、北棺の副葬品配置とほぼ同じである。木棺（の痕跡）と副葬品を検出した高さ、副葬品の配置から頭位は北棺と同じく東頭位と推測される（第 55 図）。

南棺東群

東群は袋斧（20）とそれに錆着した刀子（21）を配置し、若干の空間を設けた西（人体）側に剣（19）を上、刀（18）を下にして、それぞれの柄を直角に近い角度で重ねるように置く。刀（18）と剣（19）の柄が重なる部分には若干の空間がある。袋斧（20）は刃部を南側（棺と直交する方向）に、袋部の閉じ合わせを上面に向けて置き、それに接して刀子（21）を置く。頭位側の最も離れた位置に農工具を配置し、袋斧を直交させて配置する点は北棺と共通する。

南棺西群

西群は直刃鎌(22)のみを検出した。北側辺に寄せて（被葬者の右脇に）配置する。やはり、農工具の配置は北棺と類似する（第 55 ～ 57 図）。

７号墳北棺の玉類

瑪瑙製勾玉（2）
瑪瑙製勾玉（3）
翡翠製勾玉（4）

勾玉（2･3）は透明感にやや乏しい淡い褐色の瑪瑙製で、穿孔は片面穿孔である。勾玉（2）は全長 3.0cm、勾玉（3）は全長 3.0cm、幅 1.8cm である。勾玉（4）は白色不透明の翡翠製で、腹部に丸みがない断面「D」字形を呈する。穿孔は片面穿孔である。全長 3.1cm、幅 2.0cm である（第 58 図）。

７号墳新北棺の鉄製品

刀（5）

刀（5）は全長 84.6cm、刀身は長さ 67.2cm、関の幅 3.6cm、厚さ 0.9cm 程度である。ふくら切先を有し、断面が楔形を呈する平造りである。鞘の木質がわずかに遺存する。茎は長さ 17.4cm、最小幅 2.0cm、厚さ 0.8cm 程度である。関は斜めに刳り込む。茎尻に向かって刃側がわずかに彎曲する。茎尻はわずかに丸みを帯びる。X線透過画像により、茎中央付近に目釘穴が二孔あることが確認される。柄の木質がわずかに遺存する。

蛇行剣（6）

剣(6)は剣身が屈曲するいわゆる蛇行剣で、全長 64.8cm、剣身は 52.6cm、関の幅 3.0cm、厚さ 0.6cm 程度である。関付近から 7.5cm、16.0cm、24.5cm、34.5cm、43.5cm の位置に緩やかな屈曲が認められる。ふくら切先を有し、断面は杏仁形で鎬はない。鞘の木質はほとんど確認できないが、柾目のような痕跡がごく微かに確認される。茎は長さ 12.2cm、尻付近の幅 1.4cm、厚さ 0.4cm 程度である。関はごく浅い両関である。尻に向かってわずかに幅を狭める。茎尻は直線に近い。X線透過画像により、茎の中央付近と茎尻付近に目釘穴が二孔あることが確認される。主に柄縁付近に木質が遺存する。

剣（7）

剣(7)は切先付近のみで残存長 5.3cm、厚さ 0.5cm 程度である。断面は杏仁形で鎬はない。

剣（8）

剣（8）は茎尻側が欠損する。残存長 31.8cm、剣身は長さ 26.4cm、関の幅 3.0cm、厚さ 0.5cm 程度である。ふくら切先を有し、断面は杏仁形で鎬はない。鞘の木質がわずかに遺存する。茎は残存長 5.4cm、最小幅 1.4cm、厚さ 0.4cm 程度である。関はごく浅い両関である。尻に向かって徐々に幅を狭める。折損する部分に目釘穴が確認される。柄

縁付近に木質が遺存する。

剣（9）　剣（9）は切先側が欠損する。残存長 33.8cm、剣身は残存長 26.1cm、関の幅 2.5cm、厚さ 0.5cm 程度である。断面は杏仁形で鎬はない。鞘口付近に木質が遺存する。茎は長さ 7.7cm、最小幅 1.4cm、厚さ 0.4cm 程度である。関はごく浅い両関である。幅はほとんど変化しない。茎尻はわずかに丸みを帯びる。目釘穴は確認されない。柄縁付近に木質が遺存する（第 59 図）。

鉄鏃（10〜13）　鉄鏃（10 〜 13）はいずれも根挟みにより矢柄を装着する短茎式である。X線透過画像により、鏃身には穿孔がないことを確認している。短茎長三角形式（10・11）、短茎三角形式（12・13）各２点で構成される。短茎長三角形式（10・11）は一方（11）の鏃身と茎の長さがやや短いが、ほぼ同形同大である。

短茎長三角形式（10・11）　短茎長三角形式（10）は残存長 5.3cm、残存幅 2.5cm、鏃身は残存長 5.3cm、残存幅 2.5cm、厚さ 0.3cm 程度である。両丸造で断面は杏仁形を呈する。腸抉の深さは 1.2cm 以上で深い。茎は長さ 1.2cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm 程度である。根挟みの先端は尖る。短茎長三角形式（11）は残存長 4.8cm、残存幅 2.0cm、鏃身は残存長 4.3cm、残存幅 2.0cm、厚さ 0.3cm 程度である。両丸造で断面は杏仁形を呈する。腸抉の深さは深い。茎は長さ 1.0cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm 程度である。

短茎三角形式（12・13）　短茎三角形式（12）は残存長 3.4cm、残存幅 2.4cm、鏃身は残存長 3.3cm、残存幅 2.8cm、厚さ 0.4cm 程度である。両丸造で断面は杏仁形を呈する。腸抉は内彎する形状で、深さは 0.5cm で浅い。茎は長さ 0.5cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm 程度である。根挟みの先端は尖る。短茎三角形式（13）は残存長 3.2cm、残存幅 2.8cm、鏃身は残存長 3.1cm、残存幅 2.8cm、厚さ 0.4cm 程度である。両丸造で断面は杏仁形を呈する。腸抉の深さは 1.0cm で深い。茎は長さ 1.0cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm 程度である（第 61 図）。

刀子（14）　刀子（14）は残存長 11.4cm、刃は長さ 8.8cm、関の幅 1.7cm、厚さ 0.3cm 程度である。刃側の関は斜めに刳り込む。茎は柄の木質に覆われ明瞭ではないが、残存長 2.4cm、幅 1.4cm、厚さ 0.3cm 程度と思われる。

曲刃鎌（15）　鎌（15）は曲刃鎌で、全長 20.2cm、最小幅（基部付近）1.7cm、最大幅（先端付近）2.5cm、厚さは両端付近が 0.3cm 程度、中央付近が 0.4cm 程度である。全体としては細身で長いが、幅が狭い基部から刃部は幅を増し、彎曲する部分の幅が最も広い。基部付近まで刃を付ける。基部は辺を折り返す。折り返しは蕨手状に近い。柄の痕跡と考えられるような木質は認められない。

直刃鎌（16）　鎌（16）は直刃鎌で、基部側が欠損する。残存長 7.6cm、残存幅 2.8cm、厚さ 0.3cm 程度である。

斧（17）　斧（17）は無肩の袋斧で、全長 16.1cm、刃部幅 6.4cm、基部幅 4.6cm、基部厚さ 3.8cm である。袋部と刃部を同じ素材から製作する。袋部の断面形は楕円形を呈する。折り返しは基部付近で密着していた可能性はあるが、錆化等により、わずかな隙間を生じている。袋部内部に柄の痕跡と考えられるような木質は認められない。（第 60 図）

７号墳南棺の鉄製品

刀（18）　刀（18）は残存長 45.7cm、刀身は残存長 33.7cm、関部の幅 3.4cm、厚さは錆化による破断が顕著であるが、0.8cm 程度である。断面が楔形を呈する平造りである。鞘の木

質が遺存する。茎は長さ 12.0cm、最小幅 1.1cm、厚さ 0.6cm 程度である。関は斜めに刳り込む。茎はまっすぐに近く、茎尻はわずかに丸みを帯びる。X線透過画像により、目釘穴がないことを確認している。柄の木質が遺存する。

剣（19）は全長 30.7cm、剣身は長さ 26.8cm、幅 3.2cm、厚さ 0.6cm 程度である。切先は一部を欠損するが、ふくらを有し、断面は杏仁形で鎬はない。茎は長さ 3.9cm、最小幅 1.0cm、厚さ 0.3cm 程度である。関はごく浅い両関である。尻に向かって幅を狭める。茎尻は丸みを帯びる。目釘穴は確認されない（第 59 図）。

剣（19）

斧（20）は肩がわずかに突出する有肩の袋斧で、全長 14.4cm、刃部幅 6.4cm、基部幅 5.8cm、基部厚さ 3.0cm である。袋部と刃部を同じ素材から製作する。袋部の断面形は楕円形に近いが、隅円方形に近く折り返す部分もある。折り返しは短く大きく開く。袋部内部に柄の痕跡と考えられるような木質は認められない。刃部先端と肩付近に刀子(21)の刃部が銹着する。

斧（20）

刀子（21）は袋斧（20）の刃部先端と肩付近に刃部が銹着し、それぞれが接合関係にある。接合した状態の残存長は 8.0cm 程度である。接合した状態の刃の残存長 3.6cm、関の幅 1.5cm、厚さ 0.4cm 程度である。刃側の関は斜めに刳り込む。茎は残存長 4.4cm、幅 0.9cm、厚さ 0.3cm 程度である。柄の木質がわずかに遺存する。

刀子（21）

鎌（22）は直刃鎌で、長さ 12.1cm、最大幅 3.0cm、厚さ 0.3cm 程度である。基部付近まで刃を付ける。基部は辺を折り返す。折り返しの角度は直角に近い。柄の痕跡と考えられるような木質は認められない（第 60 図）。

直刃鎌（22）

### ７号墳墳丘出土の玉類

７号墳東溝掘削中に滑石製勾玉が出土し、周辺を精査した結果、玉類が散布していることを確認した。そこで、周辺に南北８m、東西５m の小グリッドを設定し、墳丘斜面までの掘削土を回収した。調査時に出土した玉類については出土地点を計測して取り上げた。

出土状況

調査時の取り上げ、回収した掘削土の土壌選別の結果、出土した玉類は勾玉 14 点、管玉２点、棗玉 12 点、臼玉 172 点、その他、計数が難しい砕片である。石材は緑色凝灰岩製管玉１点を除く全てが滑石である。

概要

出土玉類は埋葬施設の副葬品が墳丘斜面に流出した可能性（赤色顔料は付着していない）、墳丘周囲に散布した可能性等も考慮したが、出土分布図に示すように、１m 四方程度の範囲に集中しているので、流出、散布を想定することは難しい。むしろ連珠の状態で墳丘斜面に置かれた、あるいは懸垂された玉類が墳丘斜面に落下した状況が想定される。各種の玉類に明確な分布の異同は認められないが、臼玉は墳丘寄りに分布の重心がやや偏る傾向がある（第 62 ～ 64 図）。

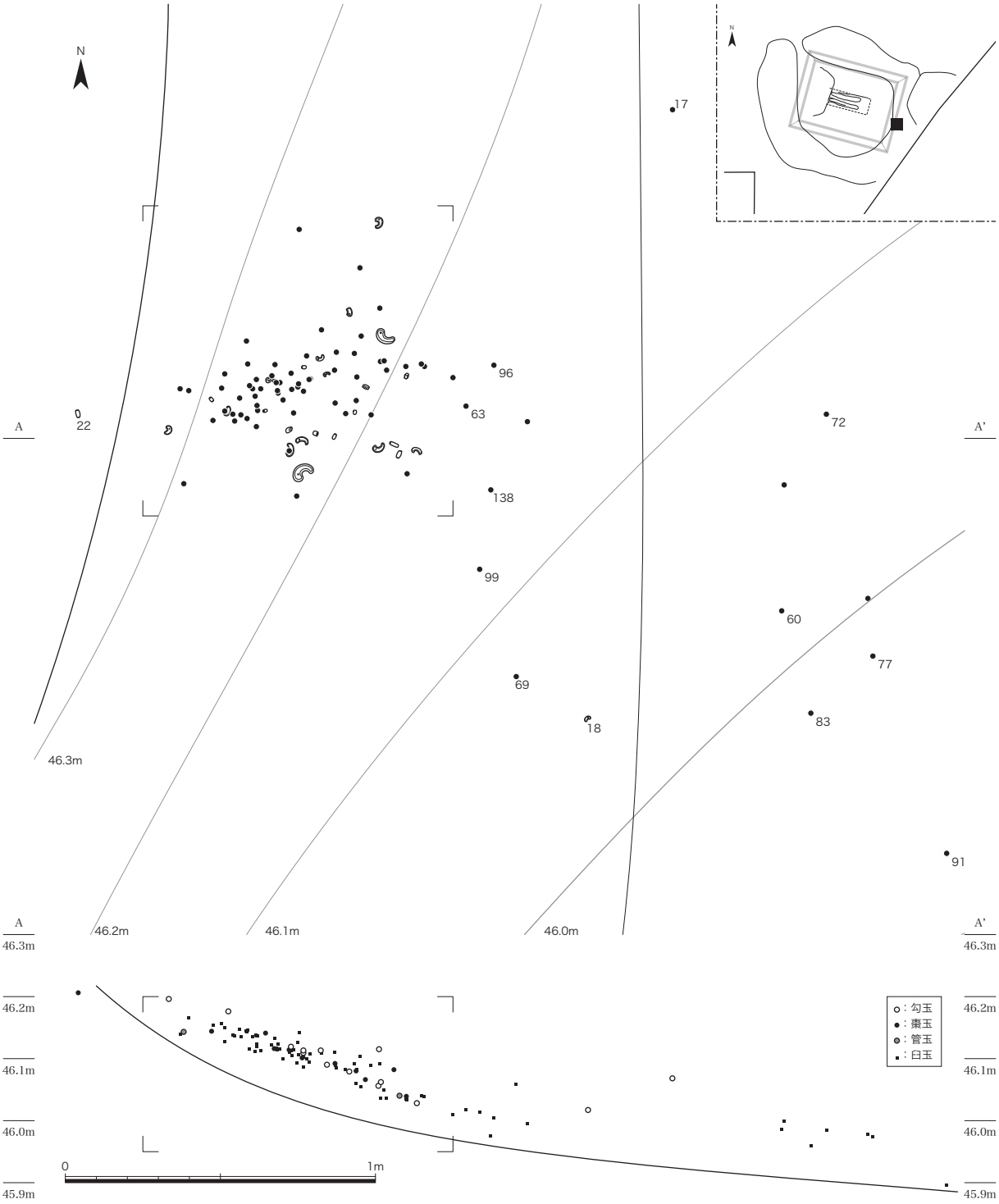
分布

勾玉（5 ～ 18）は 14 点が出土した。いずれも石材は滑石で、表面の研磨単位、研磨痕はほとんど観察されない。穿孔は肉眼観察による限り、片面穿孔と思われる。これら勾玉を色調により、灰色から緑色（「灰色系」）の色調、緑色（「緑色系」）、灰白色（「白色系」）を基調とする色調の三者に区分し、一覧表に記載した。法量は長さ 30 ～ 40mm、幅 15 ～ 25mm の「大型」(5・6)、長さ 19mm 前後（19 ± 1mm）、幅 12 ～ 13mm の「中型」(7 ～ 11)、長さ 14mm 前後（14 ± 2mm）、幅 8mm 前後（8 ± 1mm）の「小型」(12 ～ 15）に区分した。「大型」は全体に丸みがある一方、「中型」と「小型」は扁平化し、風

滑石製勾玉

色調（石材）分類

法量分類




第62図　花の木７号墳墳丘斜面玉類出土状況全体図（1:20）

［小グリッド（1m）］

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4097 | 4098 | 4099 | 4000 |
| 4197 | 4198 | 4199 | 4100 |
| 4297 | 4298 | 4299 | 4200 |
| 4397 | 4398 | 4399 | 4300 |

［勾玉（点）］

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 1 |
| | 6 | 5 | |
| | 1 | 1 | |
| | | | |

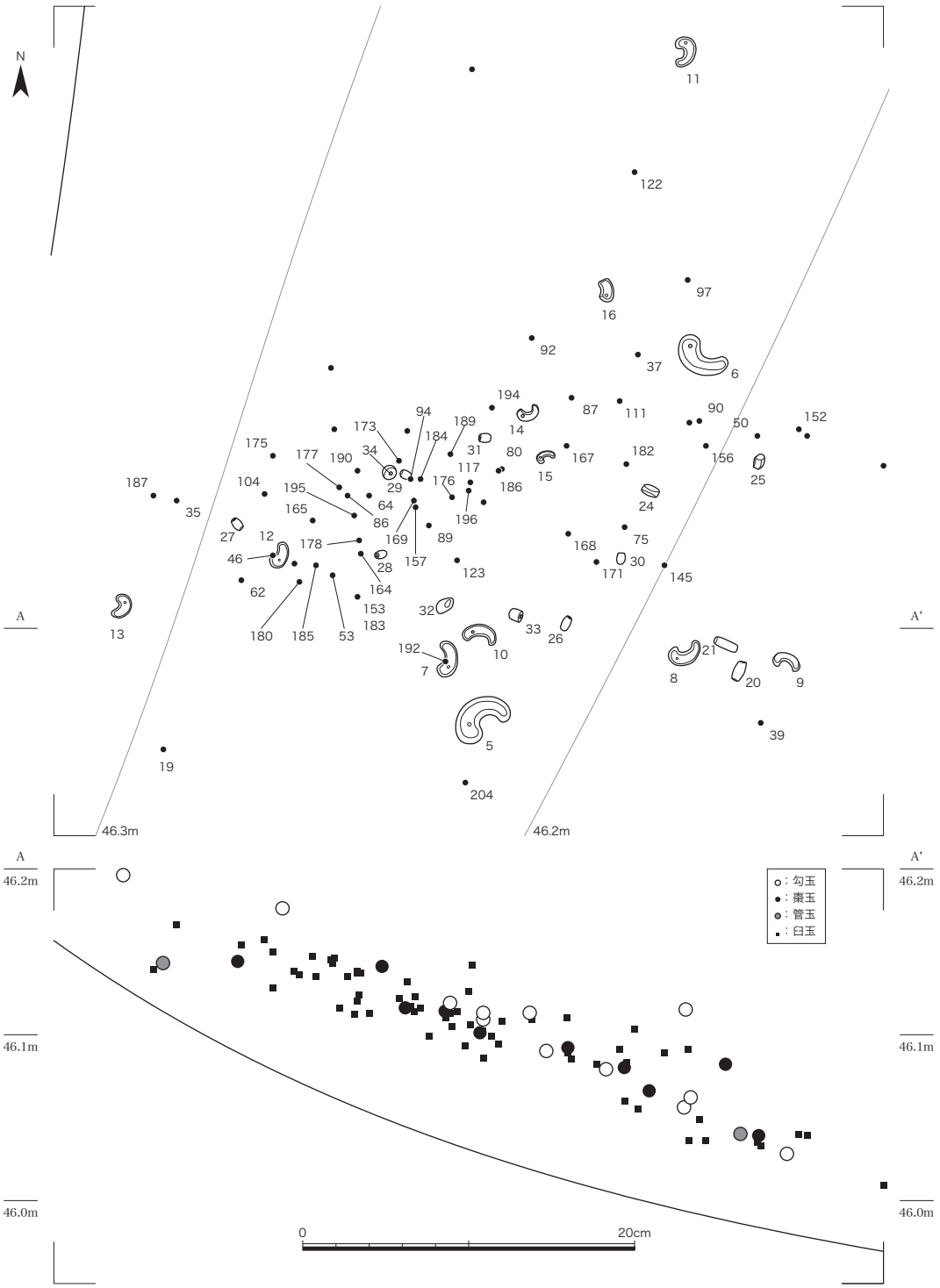
［棗玉 / 管玉（点）］

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | 7/0 | 4/1 | |
| | 1/1 | | |
| | | | |

［臼玉（点）］

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |
| 2 | 92 | 55 | 3 |
| | 6 | 6 | 7 |
| | | | 1 |

第63図　花の木７号墳墳丘斜面出土玉類の分布



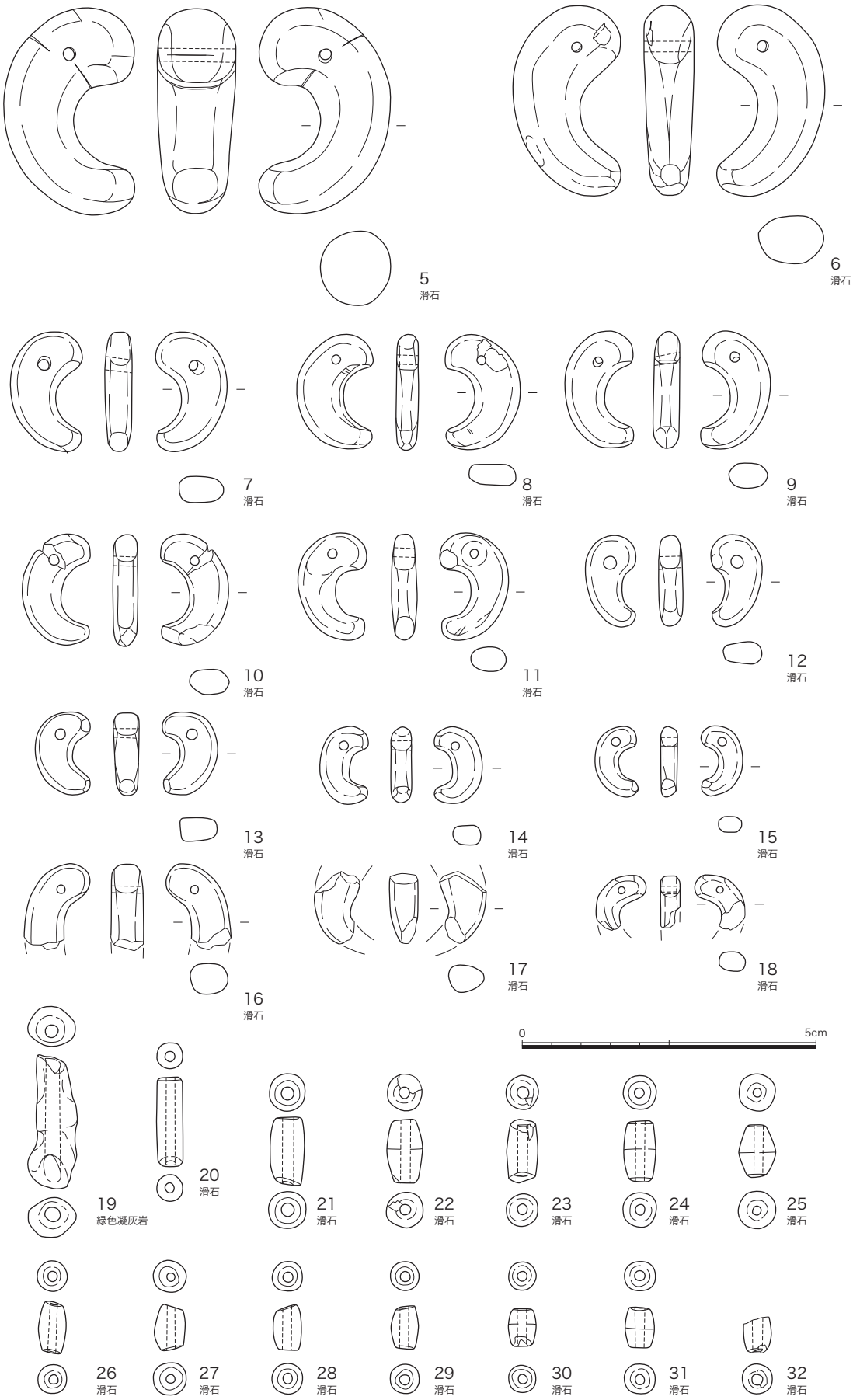

第64図　花の木７号墳墳丘斜面玉類出土状況詳細図（1:4）

化の度合いも強い傾向が認められる。「大型」の一群には頭部にごく細い線を刻む丁字頭勾玉（5）を含む（滑石製勾玉で最大）。頭部から尾部まで滑らかに屈曲し、腹部の抉りは深い（第 65 図）。色調（石材）と法量の関係からは、灰色から緑色（灰色系）は「中型」と「大型」、灰白色（白色系）は「中型」と「小型」に対応する傾向が示される（第 66 図）。

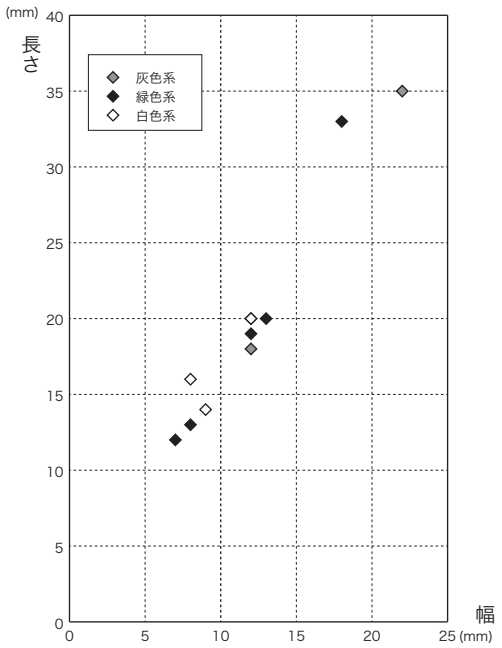
管玉は緑色凝灰岩製（19）と滑石製（20）がある。穿孔は肉眼観察による限り、片面穿孔と思われる。前者（19）は２号墳東・中央棺に副葬された緑色凝灰岩製勾玉と同様

滑石製管玉

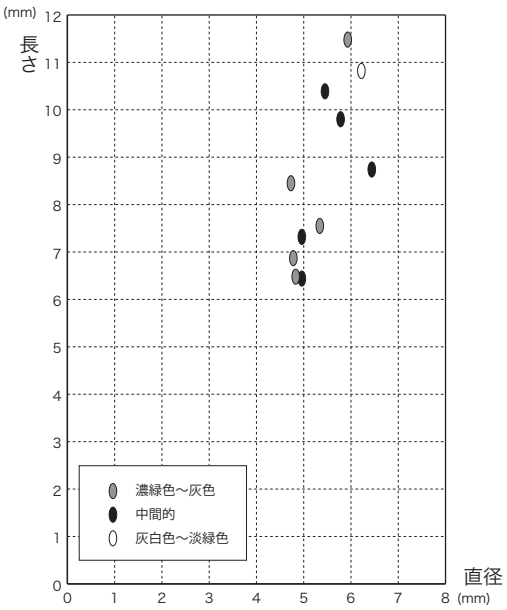
緑色凝灰岩製管玉




第65図　花の木７号墳墳丘斜面出土勾玉・管玉・棗玉（1:1）




第66図　勾玉の石材と法量の関係




第67図　棗玉の石材と法量の関係

の石材が用いられ、著しく風化する（第 65 図）。

棗玉（21 ～ 32）は 12 点が出土した。発掘調査で出土した棗玉は 11 点（回収率 91.7%）、水洗選別によって検出した棗玉は 1 点である。いずれも石材は滑石で、表面の研磨痕はほとんど観察されない。穿孔は肉眼観察による限り、片面穿孔と思われる（第 65 図）。　滑石製棗玉

これらを色調により、灰白色から淡緑色（「白色系」）、濃緑色から灰色（「緑色系」）、その中間（「灰色系」）の三者に区分し、一覧表に記載した。形態は中位の膨らみに強弱はあるが、差は連続的で明確な区分は困難である。明確な稜線も認められない。法量は直径 4.5 ～ 6.5mm、長さ 6 ～ 12mm に連続して分布する（第 67 図）。　色調（石材）分類　形態分類

臼玉（33 ～ 204）は砕片を除く 172 点が出土した。発掘調査で出土した臼玉は 66 点（回収率 38.4%、直径の平均は 3.62mm）、水洗選別によって検出した臼玉は 106 点（直径の平均は 3.47mm）である。いずれも石材は滑石である。　滑石製臼玉

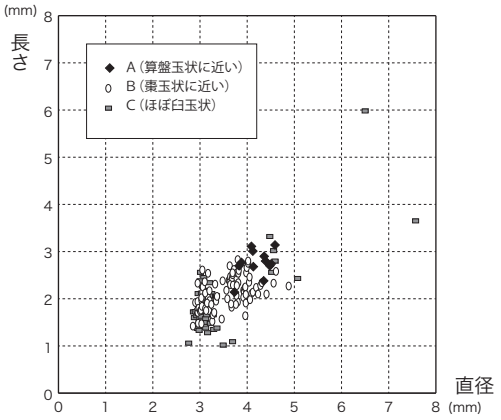
両端面と側面はよく研磨され、研磨痕を観察することは困難であるが、側面の両端面付近に右上がり方向から孔に平行する方向の研磨痕がわずかに残るものが多い。穿孔は片面から穿孔を開始し、貫通後に調整を加えない技法でほぼ占められていると思われる（第 70・71 図）。　製作技法

これらを色調により「緑色（緑灰色）系」、「灰色系」、「白色（灰白色）系」の三者に区分し、一覧表に記載した。形態は中位付近に明瞭な稜が認められる個体（算盤玉状に近い）の「A」、中位が膨らむ個体（棗玉状に近い）の「B」、円筒形に近い個体（ほぼ臼玉状）の「C」の三者に区分し、一覧表に記載した。法量は直径 2.7 ～ 5.1mm、長さ 1.0 ～ 3.2mm にほぼまとまるが、明らかに大きい「大型」2 点（33、34）がある。それ以外は直径 3.5mm 付近で「小型」と「中型」に二分される。「小型」は 2.9 ～ 3.2mm が突出して多く、中　色調（石材）分類　法量分類

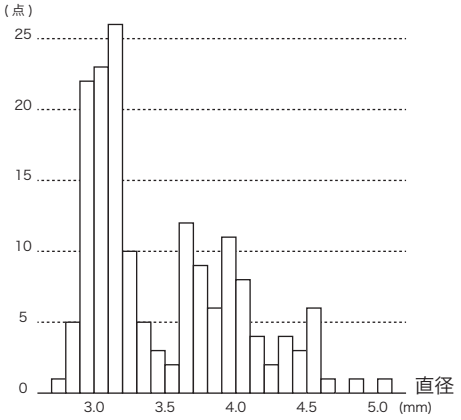
型は「3.7 ～ 4.6mm」に連続して分布する（第 68・69 図）。

石材、形態、法量

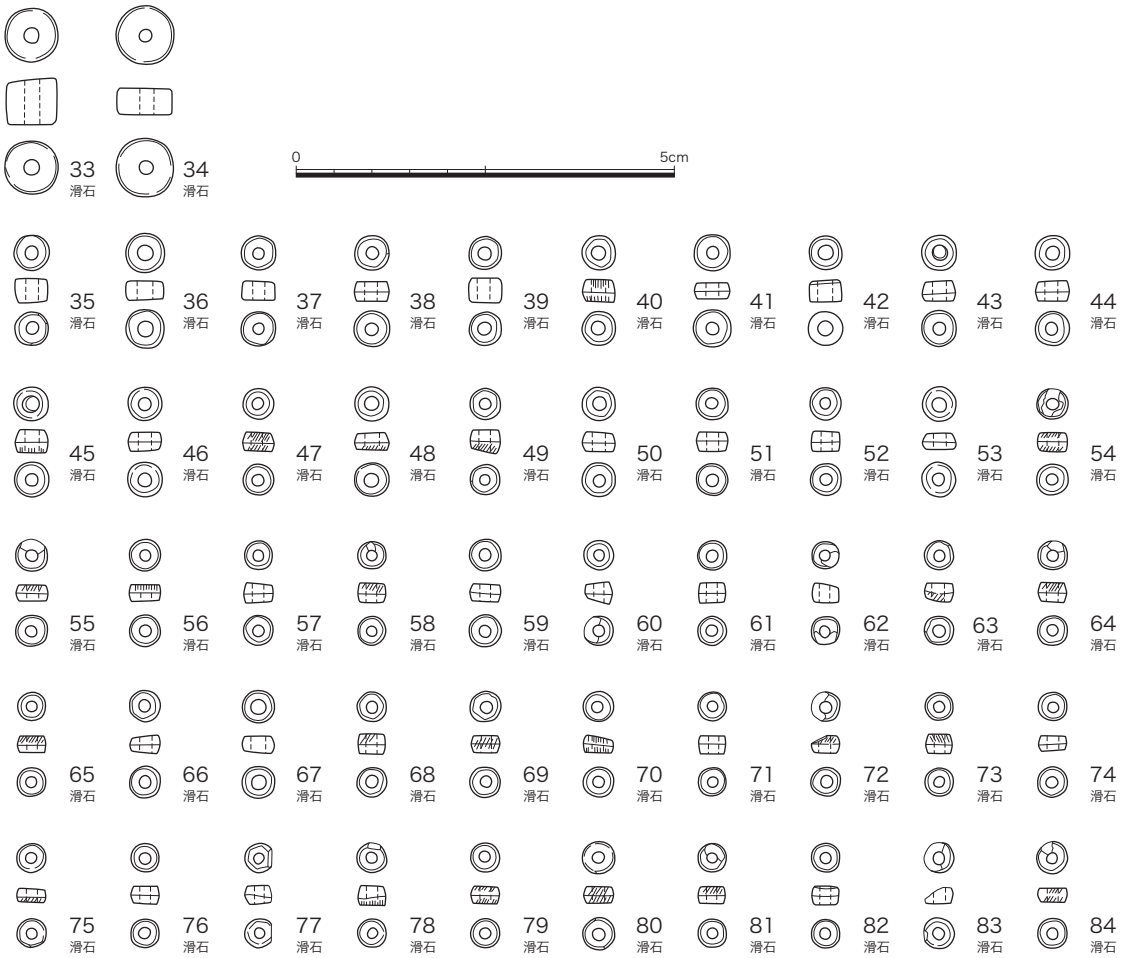
石材、形態、法量の関係として、「大型」の石材は「白色（灰白色）」系、形態は円筒形に近い（ほぼ臼玉状の）「C」のみで、「中型」の形態は（算盤玉状に近い）「A」と相関する傾向が認められるが（第 68 図）、「中型」と「小型」の一群に石材との相関は明確には認められない。



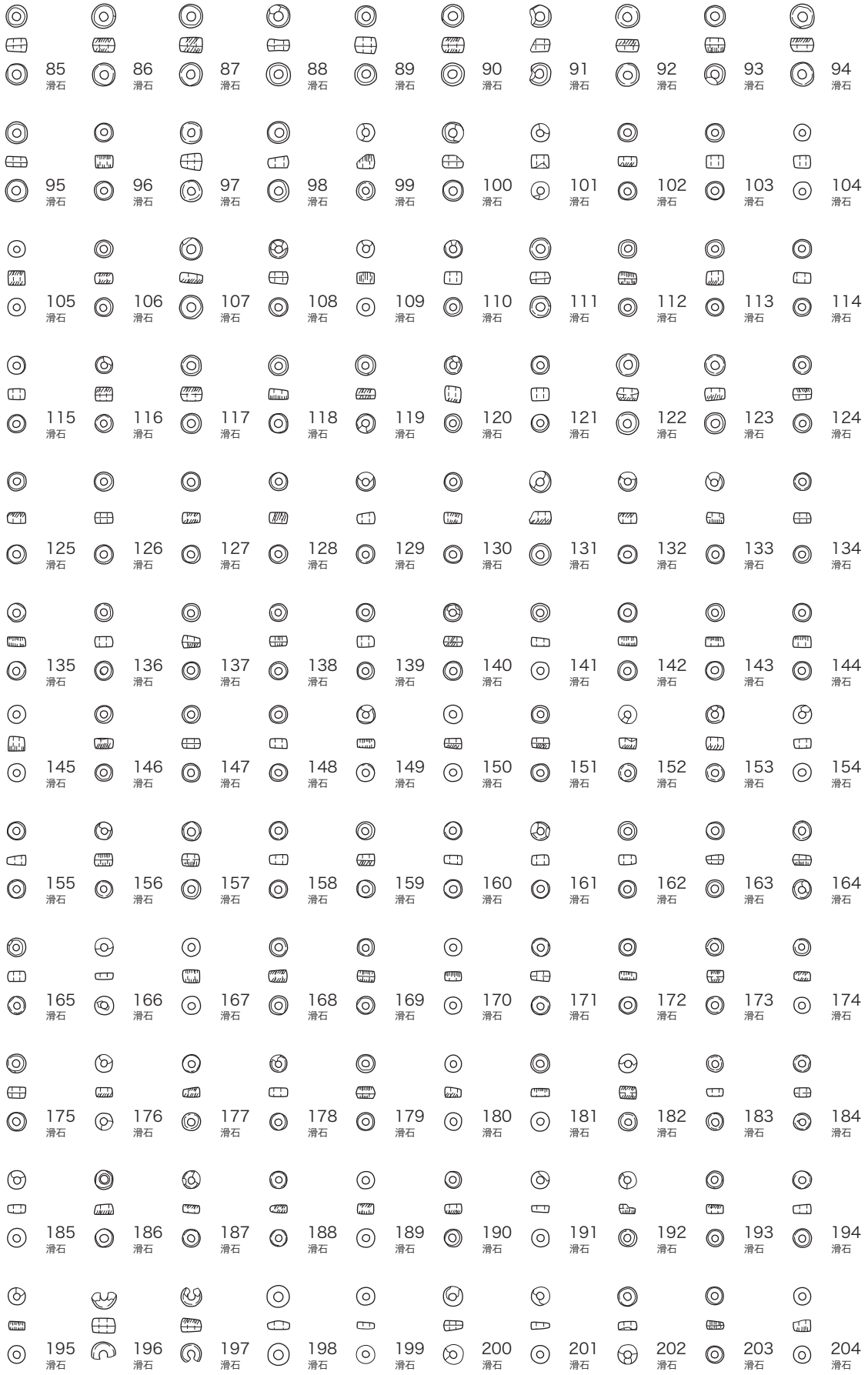

第68図　臼玉の形態と法量の関係




第69図　臼玉の直径の度数分布




第70図　花の木７号墳墳丘斜面出土臼玉１（1:1）




第71図　花の木７号墳墳丘斜面出土臼玉２（1:1）

## 花の木古墳群抄録

### 【古墳の計測値】

- 2号墳
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 長軸（南北）22m
      - 短軸（東西）20m
      - 高さ（南東側）2.5m
      - 高さ（北西側）2.0m
    - 方位：N0°
    - 埋葬施設
      - 東棺：規模（長 6.4m・幅 0.9m）／頭位：北（N0°）
      - 中央棺：規模（長 6.4m・幅 0.7m）／頭位：北（N0°）
      - 西棺：規模（長 7.6m・幅 1.1m）／頭位：北（N0°）
- 3号墳
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 長軸（南北）20m
      - 短軸（東西推定）15m
      - 高さ 1.3m
    - 方位：N4°E
    - 埋葬施設
      - 北棺：規模：長 5.2m・幅 1.0～1.2m／頭位：東 N94°E
      - 東棺：規模：幅 1.2m／頭位：北 N4°E
      - 西棺：規模：幅 1.2m／頭位：北 N4°E
- 5号墳
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 長軸（東西）12m
      - 短軸（南北）10m
      - 高さ 0.6m
    - 方位：N21°E
    - 埋葬施設
      - 木棺：規模：長 5.5m・幅 1.9m／頭位：東 N85°E
- 6号墳
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 一辺 10m
      - 高さ 0.7m
    - 方位：N15°E
    - 埋葬施設
      - 木棺：規模：長 5.0m・幅 1.7m／頭位：北東　N43°E
- 7号墳古
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 一辺 10m
      - 高さ 0.6m
    - 方位：N15°E
    - 埋葬施設
      - 木棺：規模：長 5.0m・幅 1.0m／頭位：北東　N64°E
      - 周溝内埋葬施設：規模：長 4.7m・幅 1.0m／頭位：北　N15°E
- 7号墳新
  - 墳丘
    - 墳形：方墳
    - 規模
      - 長軸（東西）13m
      - 短軸（南北）10m
      - 高さ 0.6m
    - 方位：N105°E
    - 埋葬施設
      - 北棺：規模：長 4.8m（推定）・幅 0.6m／頭位：東　N105°E
      - 南棺：規模：長 3.9m・幅 0.6m／頭位：東　N105°E

### 【玉類・鉄製品】

- 2号墳
  - 墳丘
    - 装身具―（勾玉）（1）
    - 武器：剣（1）・（鉄鏃）（2）
- 3号墳
  - 埋葬施設
    - 西棺：農工具―刀子（3）・刀子またはヤリガンナ（4）
- 7号墳新
  - 墳丘：装身具―勾玉（5～18）・管玉（19・20）・棗玉（21～32）・臼玉（33～204）
  - 埋葬施設
    - 北棺
      - 東群：農工具―直刃鎌（16）・袋斧（17）
      - 中央群
        - 装身具―勾玉（2～4）
        - 農工具―刀子（14）
        - 武器：剣（8・9）
      - 西群
        - 農工具―曲刃鎌（15）
        - 武器：大刀（5）・蛇行剣（6）・剣（7）・鉄鏃（4）
    - 南棺
      - 東群
        - 農工具―袋斧（20）・刀子（21）
        - 武器：刀（18）・剣（19）
      - 西群：農工具―直刃鎌（22）

## （７）周辺埋葬施設

### 検出遺構の概要

葬地の構成

花の木古墳群においては登録されている７基（調査した５基）の古墳の周囲に、同時期の周辺埋葬施設として（石敷）土壙墓８基、土器棺墓５基が営まれ、一つの葬地を構成する。これらは２号墳北（または１・２号墳間）、５・６・７号墳西･北に分布する（第８図）。

### 石敷土壙墓・土壙墓の概要

土壙墓の認識

底面に礫を敷いた石敷土坑墓１、古墳時代の土師器が出土した土壙墓４等の検出事例を踏まえ、長軸２～３m、短軸１～２m 程度（短軸に対する長軸の比が 1.3 ～ 2.3）の平面長楕円形、深さ 0.3 ～ 0.6m 程度の断面「舟底」形を呈する遺構を古墳周囲の周辺埋葬施設として設置された土壙墓､それに礫を使用した土壙墓を特に石敷土壙墓として報告する。石敷土壙墓は１基、それに準じた土壙墓を含めて２基、それ以外の土壙墓は６基を検出した。調査時には古墳時代の遺構とする認識がなく、それに従った十分な調査ができなかった（第４表)。

分布

石敷土壙墓１、それに準じた（石敷）土壙墓２は６号墳と７号墳の周溝外縁が接する辺のほぼ延長線上に中軸線を揃えるようにして配される（その反対方向には土器棺墓５が配される)。その周囲にやや短小な土壙墓２基（土壙墓３・４）が分布する。２号墳周溝北には土壙墓４基（土壙墓５・６・７・８）が土器棺墓群の分布域と接するようにして分布する（第８図)。

頭位方向

墓壙（掘方）の両端の傾斜は一端が急で、別の一端が緩やかな場合が多く、石敷土壙墓１は緩やかな一端が底面の標高が高く､頭部を意識したように（枕状に）偏平な礫を敷き、両側面に板状の礫を立てるような造作が認められる。この特徴に倣い、傾斜が緩やかで、底面の標高が高い側が頭位方向を示すと判断した。それによると、頭位方向は東と北を志向する二者に大別され、７号墳、３号墳、２号墳の埋葬施設の頭位方向にも準じていることも想定される。

### 石敷土壙墓１

礫床

石敷土壙墓１は墓壙底面に長軸 20cm から 30cm 程度の偏平な形状、長軸 20cm、短軸 10cm 程度の細長い形状の礫、長軸 10cm、短軸５cm 程度のやや小振りな礫を巧みに組み合わせて敷くことによって礫床とする。

使用石材

使用石材は基盤層中に含まれる花崗岩、片麻岩、閃緑岩が多い。

出土遺物

石敷土壙墓１に伴う古墳時代の遺物は出土していない（第 72 図)。

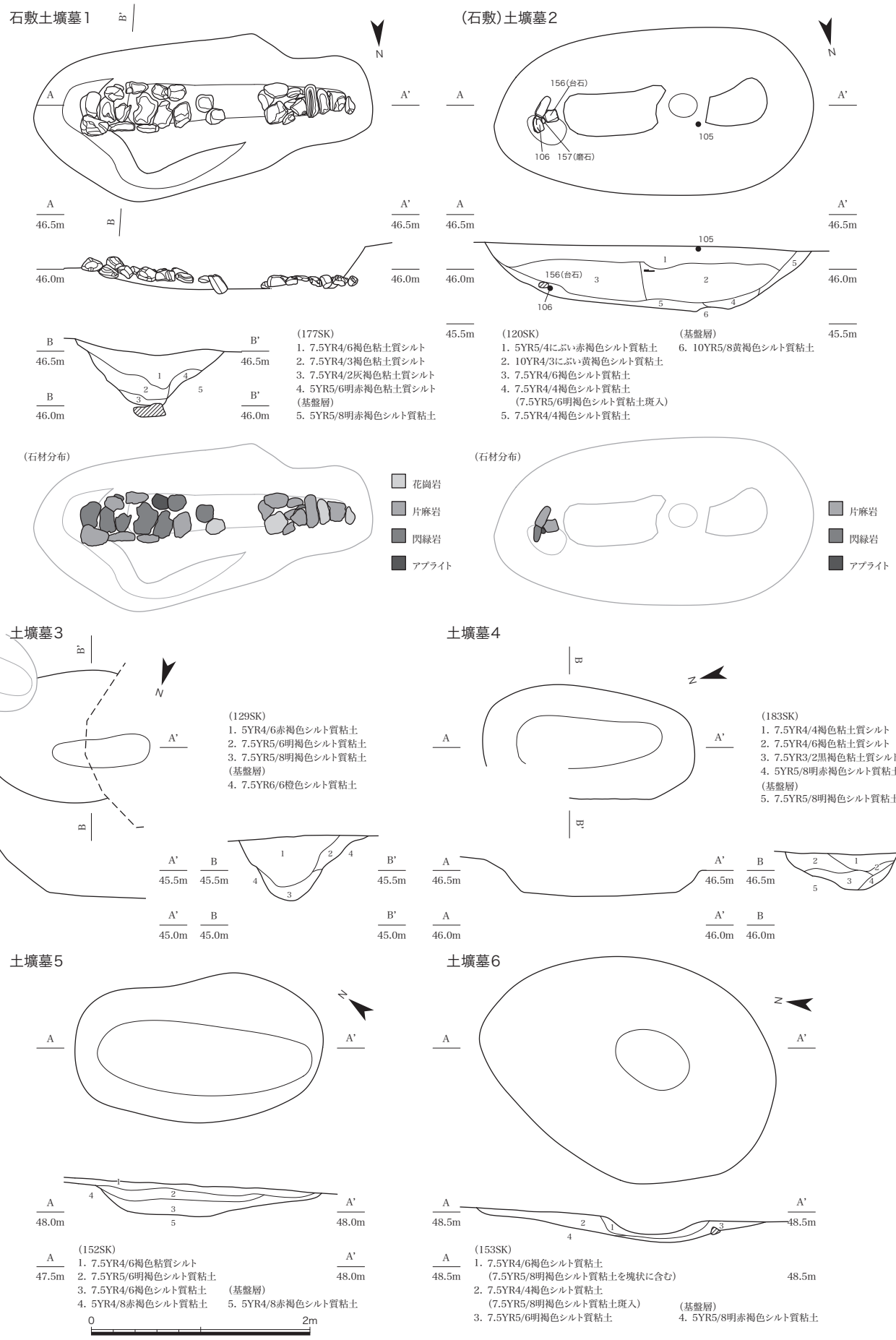
### （石敷）土壙墓２

石製品と土器

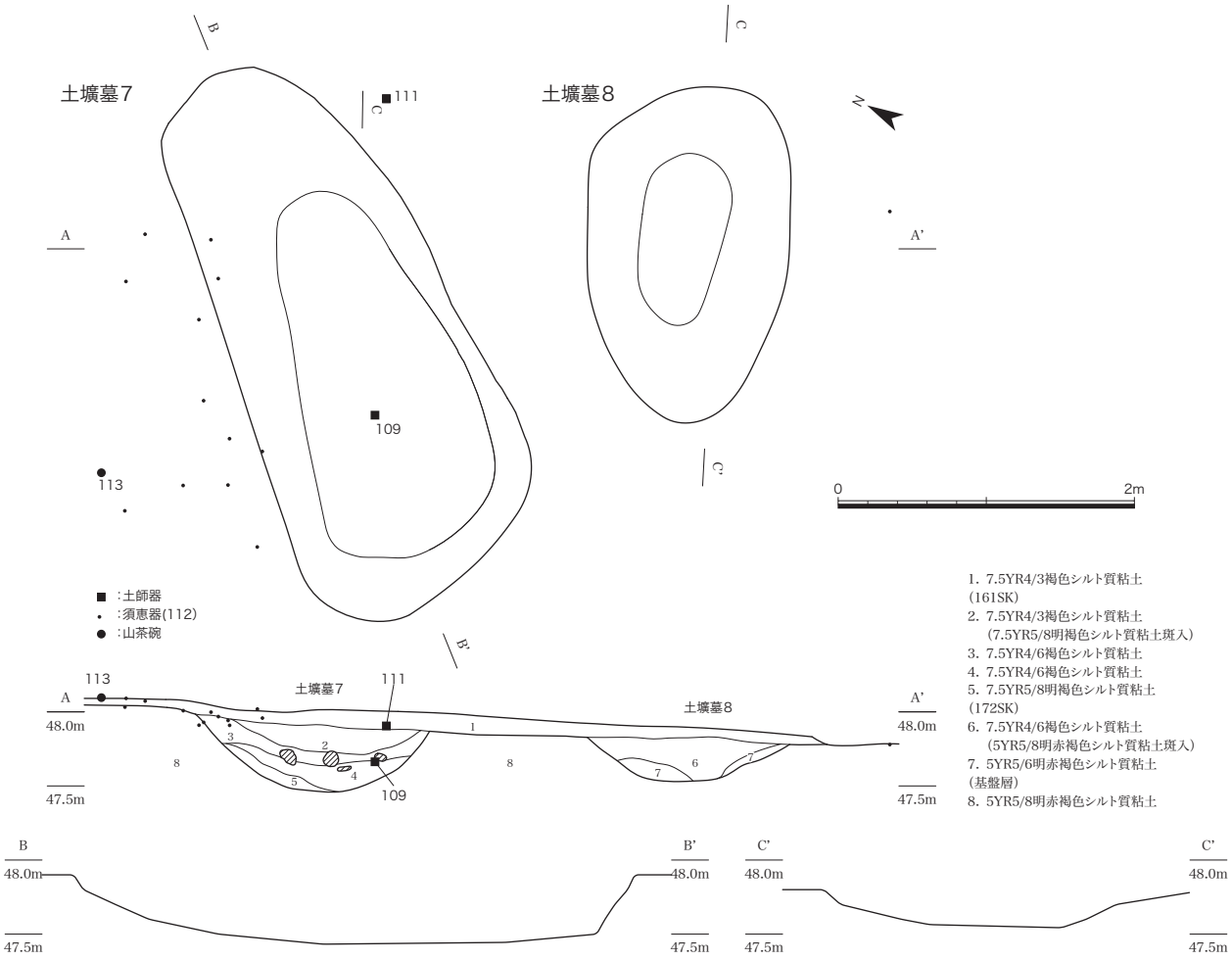
（石敷）土壙墓２は埋葬時の頭部が推定される位置のみに片麻岩製台石（156）とアプラ

第４表　（石敷）土壙墓一覧表

| | 遺構番号 | 分布域 | グリッド | 方位 | （頭位） | 規模 長軸 (m) | 規模 短軸 (m) | 規模 長短比 | 規模 深さ (m) | 出土土器 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石敷土壙墓１ | ６・７号墳西 | 6337 6338 | N90°E | （東） | 3.10 | 1.50 | 2.07 | 0.60 | | |
| 2 | （石敷）土壙墓２ | ７号墳西 | 6237 | N110°E | （東） | 2.90 | 1.55 | 1.87 | 0.65 | 105 ～ 106 | |
| 3 | 土壙墓３ | ６号墳西 | 6336 | N80°E | （東） | -1.45 | 1.20 | - | 0.60 | | |
| 4 | 土壙墓４ | ２号墳北 | 6238 | N20°E | （北） | 1.95 | 1.00 | 1.95 | 0.35 | 107 | |
| 5 | 土壙墓５ | ２号墳北 | 5544 | N30°W | （北北西） | 2.25 | 1.35 | 1.67 | 0.25 | | |
| 6 | 土壙墓６ | ２号墳北 | 5542 5642 | N10°E | （北） | 2.70 | 2.00 | 1.35 | 0.30 | 108 | |
| 7 | 土壙墓７ | ２号墳北 | 5642 5643 | N40°E | （北東） | 3.85 | 1.70 | 2.26 | 0.55 | 109 ～ 113 | 上層に須恵器 |
| 8 | 土壙墓８ | ２号墳北 | 5643 5743 | N115°W | （東） | 2.25 | 1.35 | 1.67 | 0.30 | | |




第72図　(石敷) 土壙墓1～6遺構図 (1:50)




第73図　土壙墓７・８遺構図（1:50）

イト製磨石（157）と土師器壷の体部破片（106）を敷いた石敷土壙墓１を簡略化したような土壙墓で、墓壙の規模、方位も石敷土壙墓１に近似する。他の礫の石材は閃緑岩である（第 72 図）。

規模・方位
使用石材

出土遺物

出土遺物は少なく、古墳時代の可能性がある土器として、上層出土の土師器壷底部（105）を図示したが、弥生時代後期に帰属する可能性もある。土師器壷の体部（106）は土器棺墓に転用された壷と同一個体である可能性も想定したが、接合しなかった（第 74 図）。

土壙墓群

土壙墓５・８は規模が近似し、方位も互いに直交して配置される。分布に加えて、規模や配置にも一定の規制があったことも想定される。

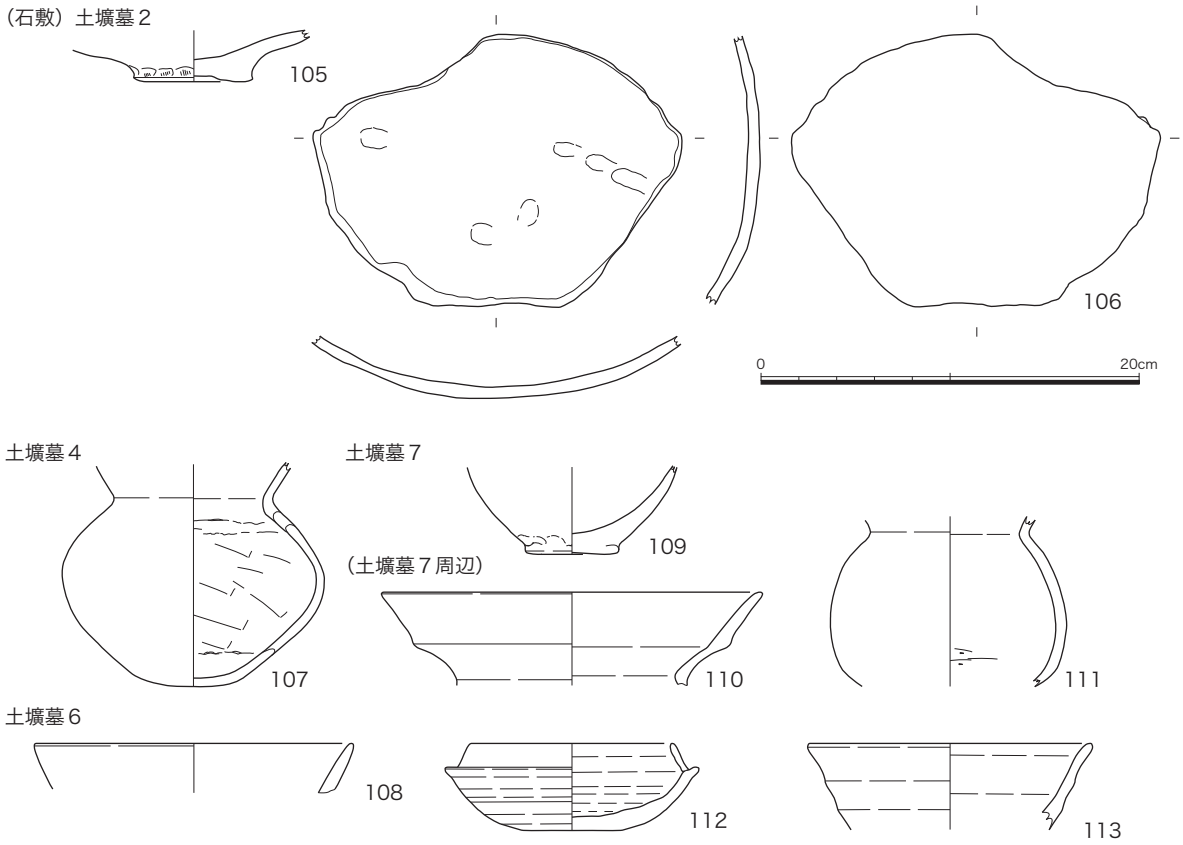
規模・方位

２号墳北側で検出した土壙墓７は遺構検出時に多数の破片化した須恵器蓋杯（112）が採取され、少し離れて山茶碗（113）も出土した。古墳時代中期の土師器有段口縁壷（110）、中型の直口壷（111）も散見されるので、古墳時代中期の土壙墓が古墳時代後期以降に削剥されたとも考えられる。覆土中から出土した土師器壷底部（109）は弥生時代後期に帰属する可能性もある（第 73 図）。

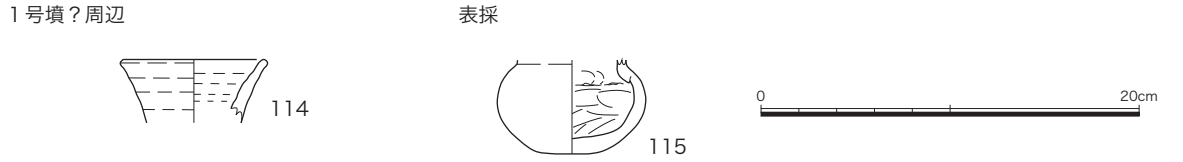
遺物出土状況

出土遺物は弥生時代以前の遺物が混在するが、確実な古墳時代の遺物として、土壙墓４から出土した土師器直口壷（107）がある。土壙墓６から出土した甕（108）は古墳時代中期に帰属する可能性を想定して図示した（第 74 図）。

出土遺物




第74図　（石敷）土壙墓出土土器実測図（1:4）




第75図　その他古墳群に関係する土器実測図（1:4）

### その他古墳群に関係する土器

須恵器

表採

その他、須恵器瓶類（114）は調査区北東端付近で出土した。土壙墓７付近で出土した須恵器蓋杯（112)、あるいは所在不明の１号墳、花の木北遺跡で出土する古墳時代後期の遺物に関連する可能性がある。表採した土師器小型壷（115）は古墳群と周辺埋葬に関連する（第 75 図)。

### 土器棺墓の概要

検出状況

土器棺墓は２号墳北東周溝底面で土器棺墓１、５号墳周溝北西端付近で土器棺墓２、２号墳北東で土器棺墓３・４、７号墳古周溝北東で土器棺墓５の５基を検出した。土器棺墓１が立位の棺身と棺蓋、土器棺墓５が横位の棺身を埋設する。その他３基の土器棺墓は棺身を大きく欠失した状態で単独で検出されたが、棺蓋等も含めて削剥により失われた可能性がある。時期はいずれも前期後半から中期前半を逸脱しないと思われる(第８図､第５表)。

### 土器棺墓１

土器棺墓１は土師器二重口縁壷（117）を棺身として壷の最大径よりわずかに大きく掘削した平面円形の土坑内に正位で埋設する。棺蓋は頸部から口縁部を欠く土師器壷（116）を頸部から体部上半を上蓋（上）、体部上半を中蓋（中）、体部下半から底部を下蓋（下）に分割して用いる（頸部から口縁部の部分に加えて、体部上半の一部も失われている）。　埋設方法

最初に体部下半から底部の破片（下）を下蓋として逆位に棺身に被せ、棺身と棺蓋が接する隙間（棺身の二重口縁壷の頸部付近）には礫混じりの黄褐色粘土質シルトで目張りをする。さらに体部上半の破片（中）を中蓋、その上位に頸部から体部上半の破片（上）を上蓋として被せる。棺身内部に流入土はほとんどなかったが、内面底部付近には目張り土に類似した土が薄く残されていた。骨や歯等も含めて遺物は検出されなかった（第 76・78 図）。　埋設過程

棺身に転用された二重口縁壷（117）は器表面の風化が著しく、復元が困難であったので、出土状況に依拠して図上で復元した。体部上半に乳頭状の突起を２方向に貼り付ける点が特徴的である。破砕、分割し、棺蓋として用いた壷（116）上半にも１方向に同様の突起の貼付がある（第 77・79 図）。　埋設土器

### 土器棺墓２

土器棺墓２は土師器広口壷（118）を棺身として平面円形の土坑底面に密着させるように横位で埋設する。棺身内部に骨や歯等も含めて遺物は検出されなかった（第 80 図）。　埋設方法

広口壷（118）は口縁部先端が先細りする。体部は球形に近く、底部はほとんど突出しない平底である。体部上半内面に横位のケズリを施す（第 81 図）。　埋設土器

### 土器棺墓３・４

土器棺墓３は土師器有段口縁壷（119）、土器棺墓４は（頸部付近から上が欠失した）土師器壷（120）を棺身として、平面（不整）円形の土坑底面からやや浮いた位置に正位で埋設する。棺身周辺には細長い礫が検出されているが、周囲は基盤層中に礫が特に多く含まれることから、棺身の固定等に際して意図的に使用したことを判断するまでには及ばなかった。棺身内部に骨や歯等も含めて遺物は検出されなかった（第 82 ～ 85 図）。　埋設方法

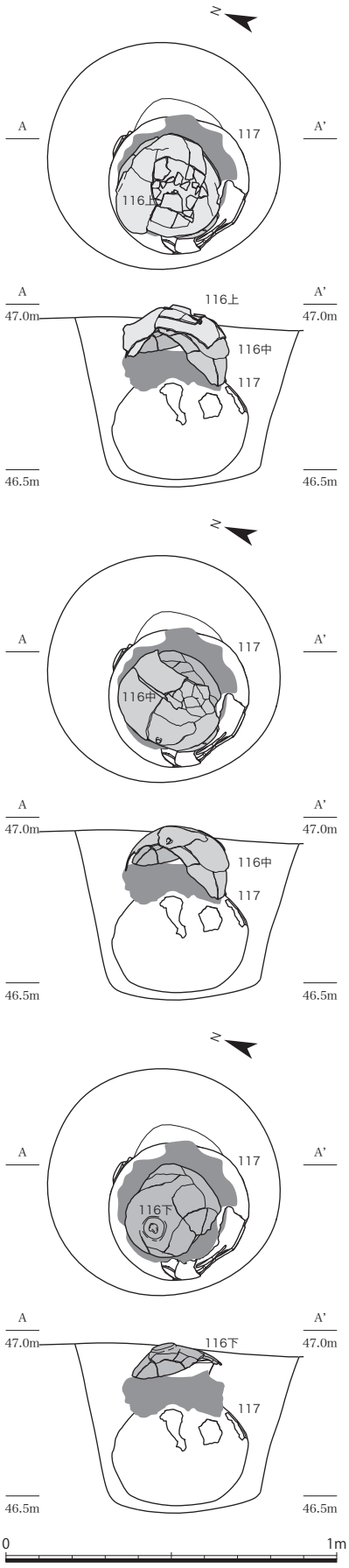
### 土器棺墓５

土器棺墓５は大型の土師器有段口縁壷（122）を棺身として壷より一回り大きい平面隅円方形の土坑内に横位で埋設する。口縁部は別個体の土師器壷底部（121）で閉塞するが、埋設後に打ち欠いた口縁部の破片も併せて閉塞に用いた（再配置した）ようである。棺身内部に骨や歯等も含めて遺物は検出されなかった（第 86 図）。　埋設方法

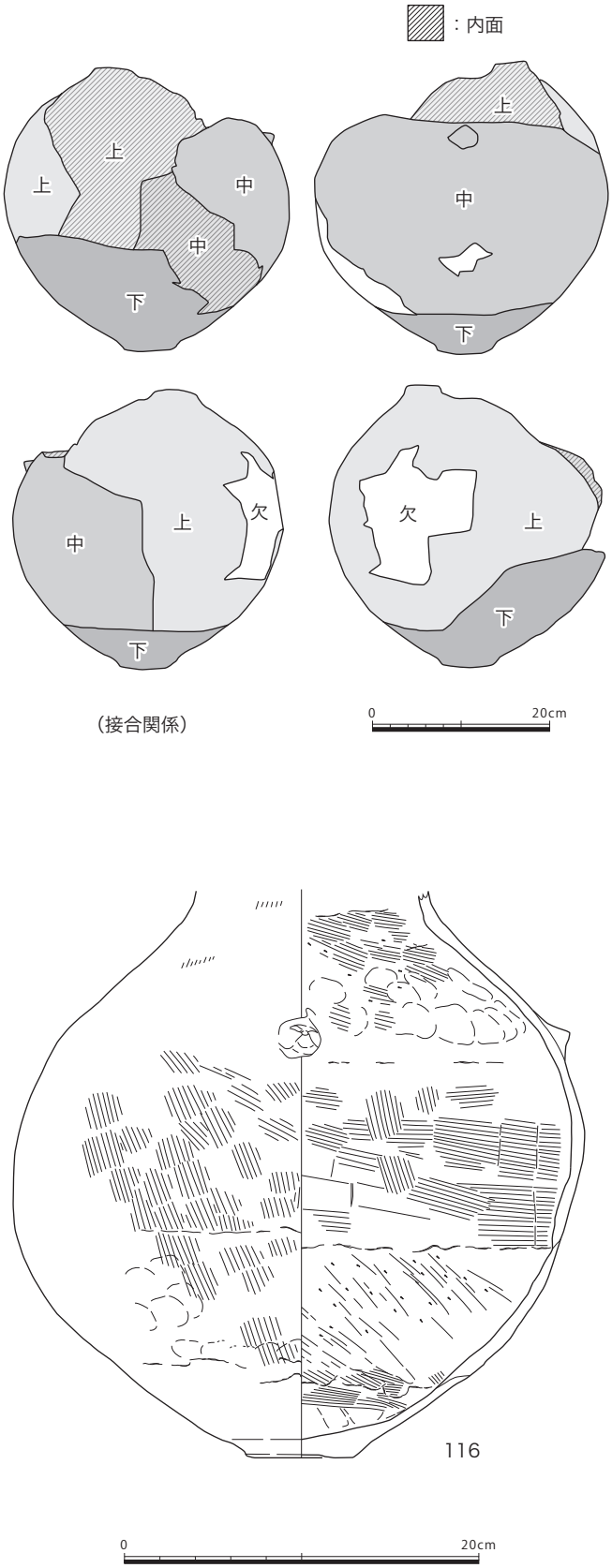
棺身に転用された有段口縁壷（122）の口縁部上段は折り返しによる幅広の縁帯状で、頸部突帯の先端に刻みを施す。体部中位は大きく張り、底部は小さい平底である（第 87 図）。　埋設土器

第５表　土器棺墓一覧表

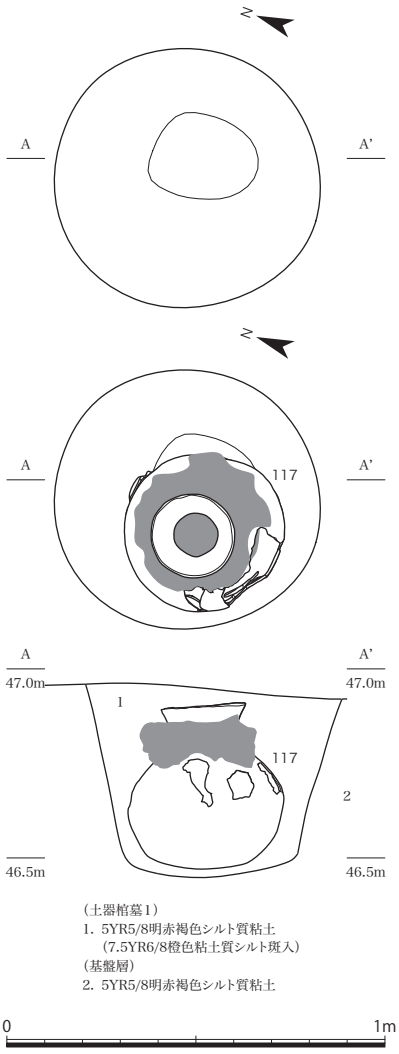
| | 遺構番号 | 分布域 | グリッド | 土器埋設 | 棺身 | | 棺蓋 | | 規模 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 長短比 | 深さ (m) | |
| 1 | 土器棺墓１ | ２号墳北東周溝 | 5843 5844 | 立位 | 二重口縁壷 | 117 | （壷） | 116 | 0.70 | 0.70 | 1.00 | 0.30 | 体部上半に突起 |
| 2 | 土器棺墓２ | ５号墳周溝北西端 | 6039 | 横位 | 広口壷 | 118 | | | 0.50 | 0.50 | 1.00 | 0.25 | |
| 3 | 土器棺墓３ | ２号墳北東 | 5644 5744 | 立位 | 有段口縁壷 | 119 | | | 0.80 | 0.75 | - | 0.25 | |
| 4 | 土器棺墓４ | ２号墳北東 | 5644 | 立位 | （壷） | 120 | | | 0.80 | 0.60 | 1.33 | 0.20 | |
| 5 | 土器棺墓５ | ７号墳古周溝北東 | 6339 | 横位 | 有段口縁壷 | 122 | （壷） | 121 | 1.10 | 0.95 | 1.16 | 0.50 | |



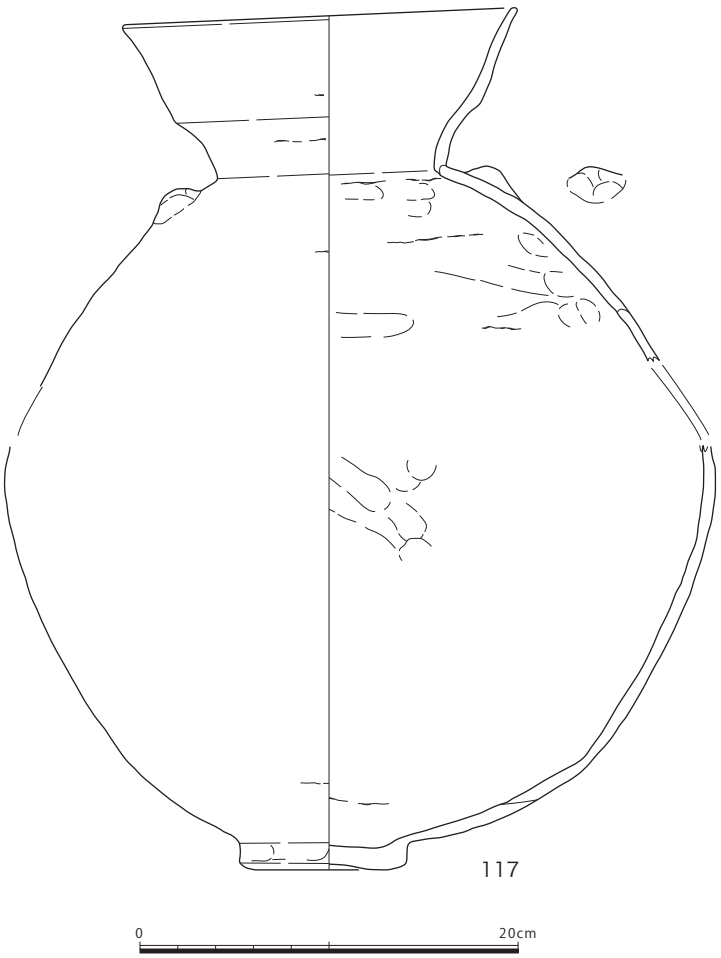

第76図　土器棺墓１遺構図１（1:20）



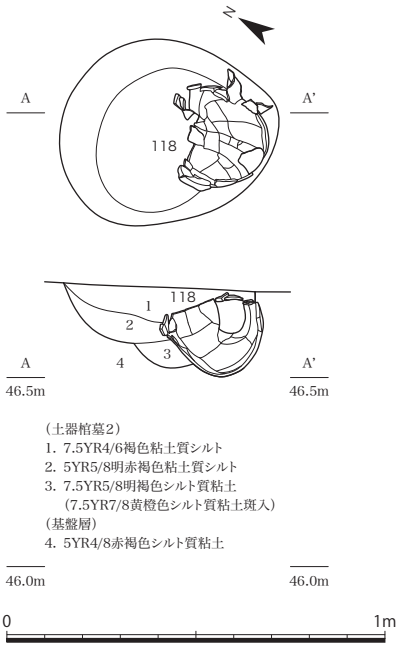

第77図　土器棺墓１出土土器実測図１（1:4）



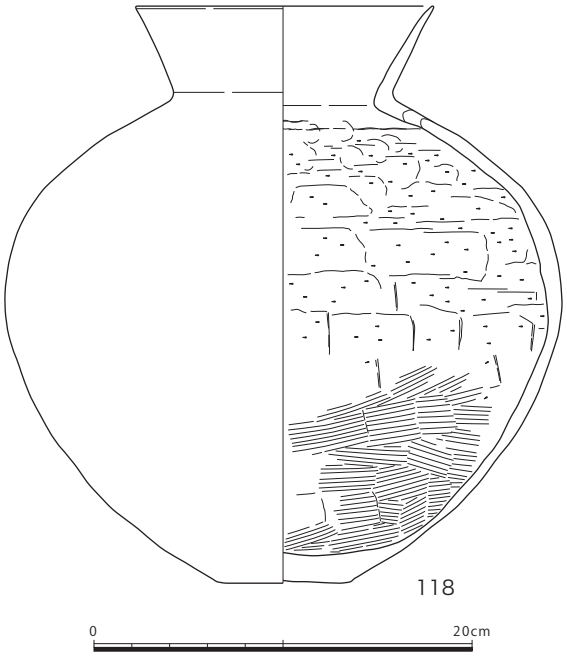

第78図　土器棺墓１遺構図２（1:20）



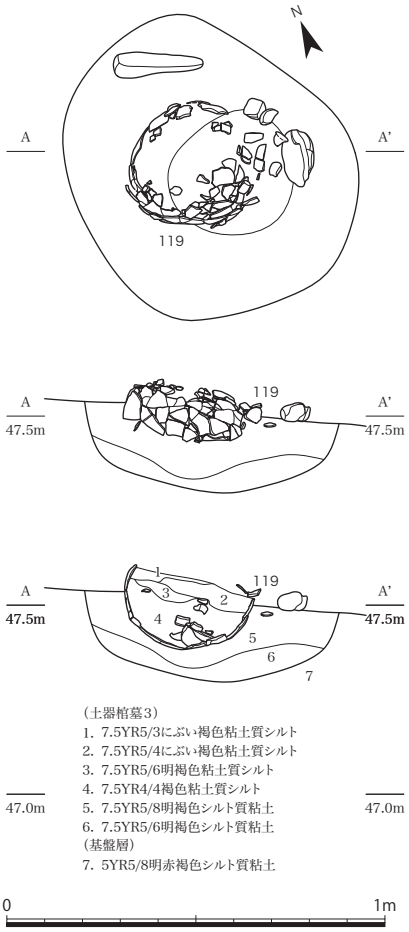

第79図　土器棺墓１出土土器実測図２（1:4）



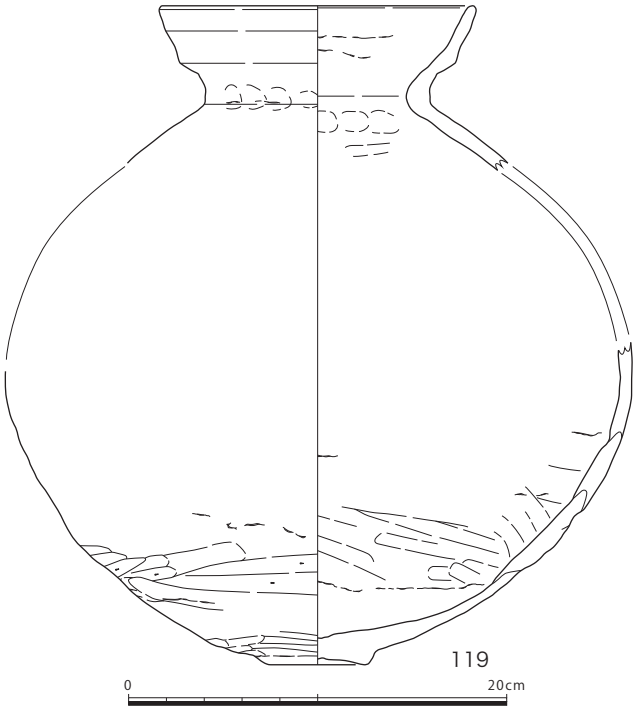

第80図　土器棺墓２遺構図（1:20）



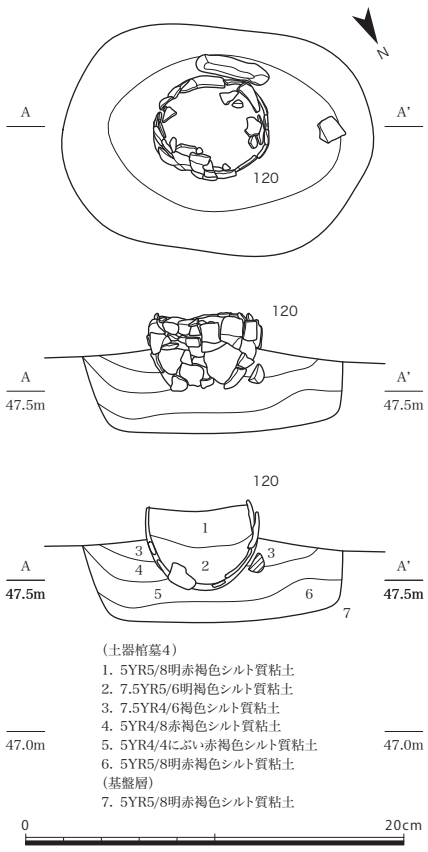

第81図　土器棺墓２出土土器実測図（1:4）



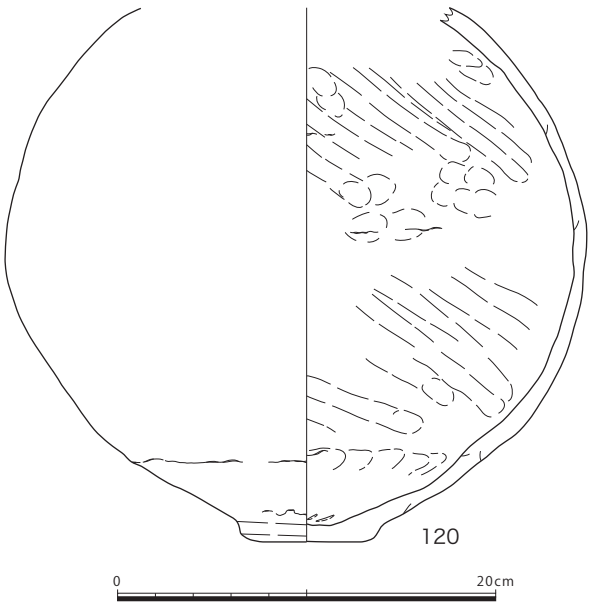

第82図　土器棺墓３遺構図（1:20）



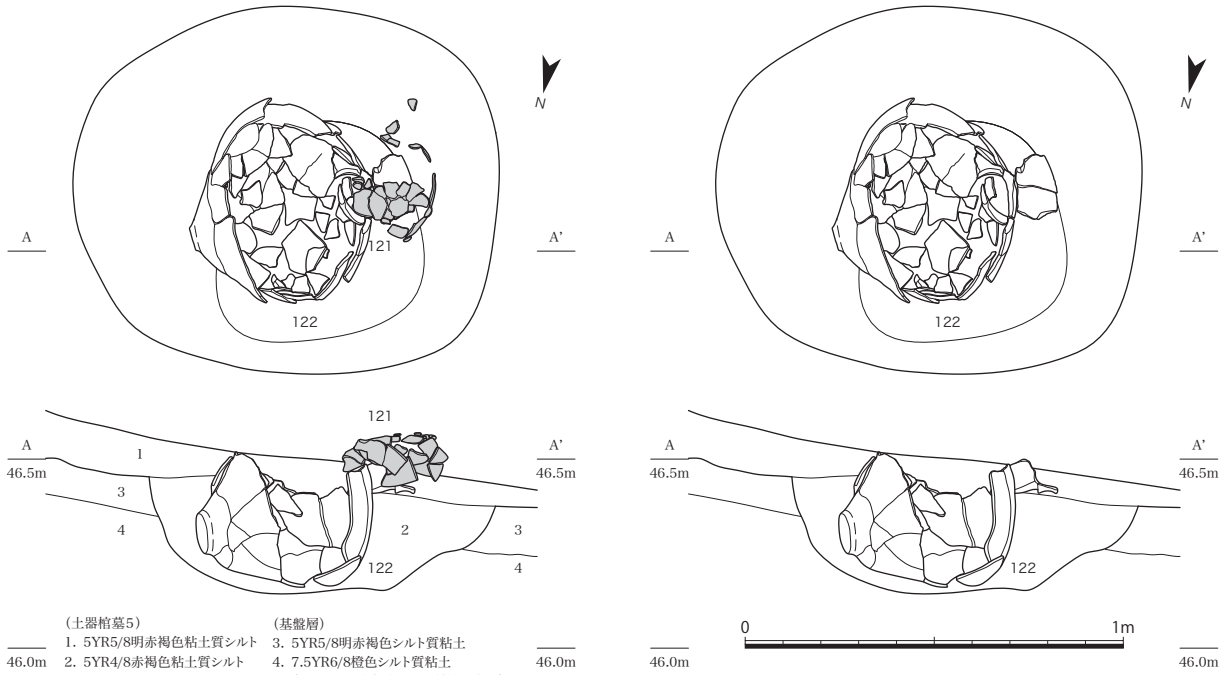

第83図　土器棺墓３出土土器実測図（1:4）




第84図　土器棺墓４遺構図（1:20）




第85図　土器棺墓４出土土器実測図（1:4）




（土器棺墓5）
1．5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
2．5YR4/8赤褐色粘土質シルト

（基盤層）
3．5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
4．7.5YR6/8橙色シルト質粘土
（5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入）

第86図　土器棺墓５遺構図（1:20）

第87図　土器棺墓５出土土器実測図（1:4）

# 第３章　花の木遺跡

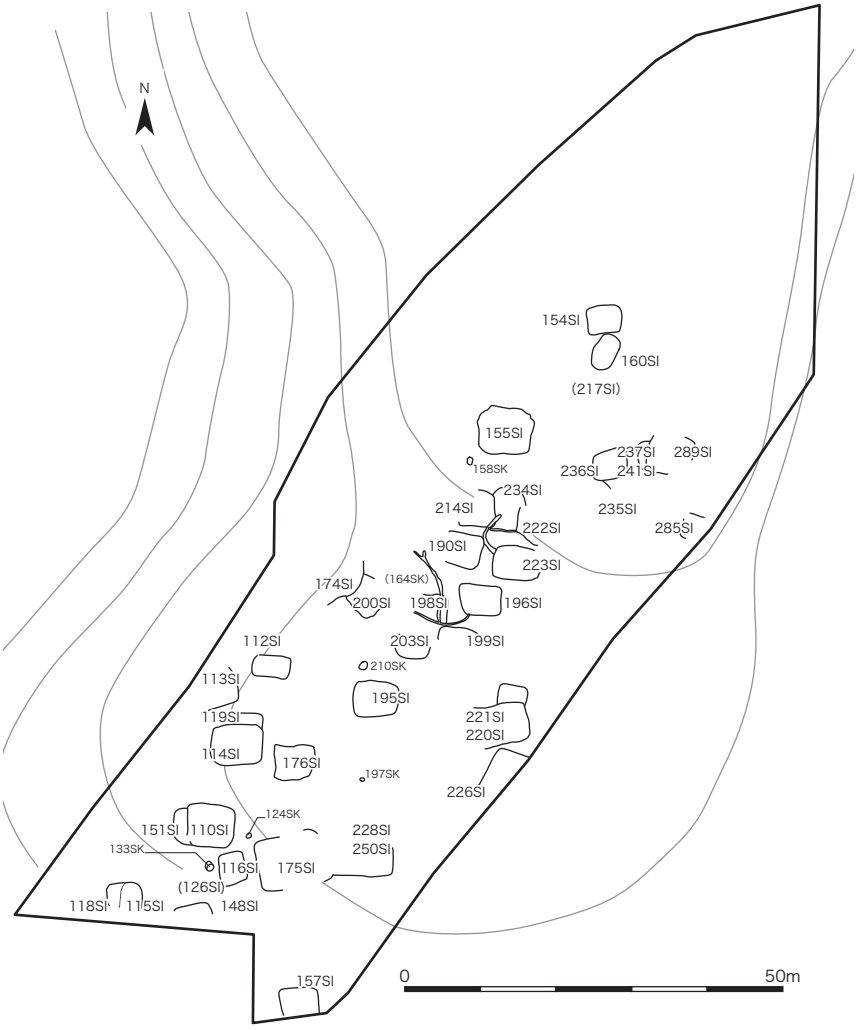
## （１）検出遺構の概要

地形
層序
基盤層

遺跡は東西（北西と南東）を谷地形とする舌状の台地上に立地し、南北約 100m、東西約 50m の集落のほぼ全域を調査した。遺構検出面は、古墳が築造された部分が旧表土である黒褐色粘土質シルトの直下、古墳が築造されない部分が表土直下の基盤層である。基盤層は明赤褐色シルト質粘土が主体で、層中には風化した礫が含まれる。

主要遺構

遺跡の主体である弥生時代中期から後期の主要な遺構として、多数の竪穴建物を検出した。棟数は地床炉のみを検出した遺構を含めて 41 棟である。竪穴建物周辺には柱穴様の小土坑も散在し、土坑 158SK は掘立柱建物の柱穴の可能性も想定されたが、建物の復元には及んでいない（第 88 図）。




第88図　花の木遺跡主要遺構配置図（1:1,000）

## （２）弥生時代中・後期の竪穴建物

### 記述方法・方針

報告の方針

竪穴建物の報告においては、検出状況と先後関係、遺物出土状況にかかる遺構の所見と特記事項、遺構の性格や帰属時期の推定にかかる特徴的な遺物について記述する。竪穴建物についての各属性と推定される帰属時期については、一覧表に記載した。記載した属性は「方位」、「規模」、「平面形」、「壁周溝」「主柱穴」、「炉」、「貯蔵穴配置」である（第６表）。

属性一覧表

出土遺物

出土遺構については、竪穴建物に伴う土器を併せて報告する。石器･石製品については、明らかな縄文時代の石器が混在し、それを除外することが難しいことから、本章（４）で別に報告する。

### 方位

「主軸」方向

方位は竪穴建物の主軸に平行または直交する方向が真北に対して東西に振れる角度（東西に 45°まで）を計測した。個別遺構図は方位（真北）を考慮して配置し、重複または近接する竪穴建物を同時に配置する場合はいずれかの竪穴建物の方位を優先した。竪穴建物の一部分を呼称する場合、各辺を「北辺」、「東辺」、「南辺」、「西辺」、（特に貯蔵穴の配置が関係する）各隅を「北東隅」（「NE」）、「南東隅」（「SE」）、「南西隅」（「SW」）、「北西隅」（「NW」）、各辺中央付近を「北」（「Ｎ」）、「東」（「Ｅ」）、「南」（「Ｓ」）、「西」（「W」）とした。

部分呼称

第６表　竪穴建物一覧表

| | 遺構番号 | 時期 | | 方位 | 規模 | | | | | 柱間 | | | 平面形 | 周壁溝 | 主柱穴 | 炉 | 貯蔵穴配置 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 長短比 | 面積 (㎡) | 分類 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 長短比 | | | | | | |
| 1 | 110SI | 後期後葉 | ５期 | N5°E | 6.20 | 5.60 | 0.90 | 34.72 | 大型 | - | - | - | 方形 | 全 | 1 | × | - | |
| 2 | 151SI | 後期前葉 | ３期 | N5°E | 4.75 | -1.90 | - | - | - | - | - | - | - | (無) | 1 | - | - | |
| 3 | 112SI | 後期前・中葉 | ４期 | N7°E | 4.95 | 2.80 | 0.57 | 13.86 | 小型 | - | - | - | 長方形 | (全) | 0 | ○ | - | 粘土 |
| 4 | 113SI | 後期後葉 | ５期 | N18°W | -5.60 | -4.6 | - | - | - | - | - | - | - | (全) | 1 | - | - | |
| 5 | 114SI | 後期後葉 | ４期 | N0° | 6.80 | 5.35 | 0.79 | 36.38 | 大型 | - | - | - | 長方形 | 半 | 0 | × | - | |
| 6 | 119SI | 後期初頭 | ２期 | N2°E | 5.60 | -1.50 | - | - | - | - | - | - | - | (全) | 0 | - | - | |
| 7 | 115SI | 後期前葉 | ３期 | N7°E | -3.35 | 2.95 | - | - | - | - | - | - | 長方形 | 無 | 0 | - | - | |
| 8 | 118SI | 後期後葉 | ５期 | N4°W | -2.95 | -2.45 | - | - | - | - | - | - | - | 無 | 0 | - | - | |
| 9 | 116SI | 後期中・後葉 | ４・５期 | N13°W | 4.15 | 3.50 | 0.84 | 14.53 | 小型 | - | - | - | 長方形 | 無 | 0 | ○ | SW | |
| 10 | (126SI) | 後期初頭・前葉 | ２・３期 | N26°W | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | ○ | - | |
| 11 | 148SI | 中期末葉・後期初頭 | １・２期 | N14°W | 4.85 | -3.25 | - | - | - | - | - | - | - | (無) | 0 | - | - | |
| 12 | 154SI | 後期前・中葉 | ４期 | N7°W | 4.55 | 3.70 | 0.81 | 16.84 | 小型 | - | - | - | 長方形 | 無 | 0 | ○ | NE | |
| 13 | 160SI | 中期末葉 | １期 | N30°E | 4.90 | 3.20 | 0.65 | 15.68 | 小型 | - | - | - | 小判形 | 無 | 0 | ○ | - | |
| 14 | (217SI) | (中・後期) | 不明 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (無) | 0 | ○ | - | |
| 15 | 155SI | 後期前・中葉 | ３期 | N0° | 7.00 | 6.00 | 0.86 | 42.00 | 最大 | (4.0) | 3.0 | 0.75 | 長方形 | 無 | 2 | × | - | |
| 16 | 157SI | 後期中・後葉 | ４期 | N3°W | 5.10 | 4.80 | 0.94 | 24.48 | 中型 | 2.9 | 2.5 | 0.86 | 方形 | 半 | 3 | × | SW | 土堤 |
| 17 | 174SI | 後期前・中葉 | ３・４期 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (部) | 1 | - | - | |
| 18 | 200SI | 中期末葉 | １期 | N36°E | 4.90 | 3.30 | 0.67 | 16.17 | 小型 | - | - | - | 小判形 | 無 | 1 | ○ | - | |
| 19 | 176SI | 後期前葉 | ３期 | N7°W | 4.80 | 4.20 | 0.88 | 20.16 | 中型 | 3.0 | 2.5 | 0.83 | 長方形 | 無 | 4 | ○ | - | |
| 20 | 190SI | 後期初頭 | ２期 | N16°E | 4.85 | 4.40 | 0.91 | 21.34 | 中型 | - | - | - | 方形 | 半 | 0 | ◎ | - | |
| 21 | 195SI | 後期前・中葉 | ４期 | N3°E | 6.05 | 4.05 | 0.67 | 24.50 | 中型 | 3.0 | 1.8 | 0.60 | 長方形 | 部 | 4 | - | SW | |
| 22 | 196SI | 後期中葉 | ４期 | N2°E | 5.40 | 3.95 | 0.73 | 21.33 | 中型 | - | - | - | 長方形 | 部 | 1 | ○ | SW | 排水溝 |
| 23 | 198SI | 後期初頭 | ２期 | N4°E | -4.00 | -3.20 | - | - | - | - | - | - | 長方形 | (無) | 1 | ○ | - | |
| 24 | 199SI | 後期後葉 | ５期 | N10°E | 5.10 | -2.00 | - | - | - | - | - | - | - | (部) | 0 | - | - | |
| 25 | 203SI | 後期前葉 | ３期 | N16°E | 4.55 | -2.75 | - | - | - | - | - | - | 小判形 | 無 | 0 | ○ | - | |
| 26 | 214SI | 後期前葉 | ３期 | N2°E | -4.80 | -4.70 | - | - | - | - | - | - | - | 無 | 0 | - | - | |
| 27 | 222SI | 後期後葉 | ５期 | N10°E | -4.55 | -3.05 | - | - | - | - | - | - | - | (部) | 0 | ○ | - | 排水溝 |
| 28 | 223SI | 後期前・中葉 | ３・４期 | N11°E | 6.35 | 4.50 | 0.71 | 28.58 | 中型 | 3.6 | (2.5) | 0.69 | 長方形 | 無 | 2 | ◎ | - | 排水溝 |
| 29 | 234SI | 中期末葉 | １期 | N17°E | -4.6 | -3.5 | - | - | - | - | - | - | 小判形 | 無 | 0 | - | - | |
| 30 | 220SI | 後期後葉 | ５期 | N13°W | 6.20 | 5.30 | 0.85 | 32.86 | 大型 | - | - | - | 長方形 | 半 | (1) | ○ | N | |
| 31 | 221SI | 後期初頭 | ２期 | N12°E | 3.80 | 3.65 | 0.96 | 13.87 | 小型 | - | - | - | 方形 | 無 | 0 | ◎ | - | 土堤 |
| 32 | 226SI | 後期前葉 | ３期 | N29°E | -6.80 | -4.45 | - | - | - | - | - | - | - | 無 | (1) | ○ | - | |
| 33 | 175SI | 後期中葉 | ４期 | N10°W | 9.75 | 7.00 | 0.72 | 68.25 | 最大 | - | - | - | 長方形 | (無) | 1 | ○ | - | 土堤 |
| 34 | 228SI | 後期後葉 | ５期 | N0° | -8.00 | 4.85 | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 | ○ | - | |
| 35 | 250SI | 後期初頭 | ２期 | N0° | 8.55 | 5.85 | 0.68 | 50.02 | 最大 | - | - | - | 長方形 | (全) | 0 | ◎ | - | |
| 36 | 235SI | 後期後葉 | ５期 | N6°W | 7.95 | 5.25 | 0.66 | 41.74 | 最大 | - | - | - | 長方形 | (無) | 0 | - | - | |
| 37 | 236SI | 後期後葉 | ５期 | N13°W | 4.65 | 3.85 | 0.83 | 17.90 | 小型 | - | - | - | 長方形 | 部 | 0 | ○ | - | |
| 38 | 237SI | 後期前葉 | ３期 | N4°E | -3.80 | -2.50 | - | - | - | - | - | - | - | (全) | 0 | - | - | 土堤 |
| 39 | 241SI | 中期末葉 | １期 | - | -6.20 | -5.70 | - | - | - | - | - | - | 小判形 | (無) | 0 | ○ | - | |
| 40 | 289SI | 後期後葉 | ５期 | N12°E | 6.0 | 5.45 | 0.91 | 32.70 | 大型 | - | - | - | 方形 | 全 | 0 | ○ | - | 土堤 |
| 41 | 285SI | 後期前・中葉 | ３・４期 | N21°E | 3.5 | -3.4 | - | - | - | - | - | - | - | 半 | 0 | ◎ | - | |

### 規模

長軸と短軸の計測

規模は竪穴建物の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。計測は主軸方向とそれに直交する方向付近の遺構の上端を基準とした。計測値は遺構の遺存状況に左右され、厳密性を欠くが、根の撹乱等、他の多くの不確定な要素も考慮して厳密を期すことは難しいと判断し、あくまでも概算的な計測値として提示した。なお、遺構の重複により一部が欠失、または調査区外に含まれる竪穴建物で、主柱穴や炉の配置が判明する場合、主柱穴や炉との位置関係から竪穴建物の平面形を反転復元して長軸と短軸を計測した場合がある。主柱穴

面積

配置が判明する竪穴建物については、柱間の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。竪穴建物の面積は便宜的に長軸と短軸の計測値を乗じて算出した。

### 平面形

「小判形」

「長方形」と「方形」

平面形は必ずしも明瞭ではないが、短辺側が弓形に張り出す「小判形」、隅円の長方形（以下、「長方形」とする）、隅円の「方形」（以下、「方形」とする）がある。「方形」と「長方形」の区別については、便宜的に長軸に対する短軸の比（長短比）が 0.9 未満を「長方形」、0.9 以上を「方形」とした。

### 壁周溝

全周

部分的な検出

壁周溝未検出

竪穴建物の各辺に沿って掘り窪められる壁周溝については、全周（四辺の約８割）するもの（「全」と記載）、四辺の約半分にあるもの（「半」と記載）、部分的（約４割以下）にあるもの（「部」と記載）、全く検出されないもの（「無」と記載）の４類型に区分した。

### 主柱穴

４本配置

検出した竪穴建物は主柱穴を欠くもの（「0」）が多く、確実な４本配置（「4」）はごく少ない。４本配置が想定されつつも、１本、２本、３本分が検出されなかった竪穴については、主柱穴としての判断に疑問も付されるが、検出した（本）数を記載した。

### 炉

地床炉

埋石炉

確認した炉はいずれも床面が直接に火を受けた地床炉である（「○」と記載）。地床炉には一石の角柱状または板状の礫を埋めた炉（いわゆる「埋石炉」）も散見される（「◎」と記載）。竪穴建物の床面上に複数の地床炉が認められる場合もあるが、複数の焼土面が少し離れる程度、焼土が散在する程度の事例もあって、地床炉の基数を明確に示すことは難

未検出

しい。床面のほぼ全面を精査したにもかかわらず、地床炉等が検出されなかった竪穴もある（「×」と記載）。

### 貯蔵穴様の土坑（貯蔵穴）

円形・方形の土坑

竪穴建物の一隅に円形（楕円形）の土坑、（長軸方向の）一辺の中央付近に方形の土坑が検出されたものがある。土坑の用途を明確にすることは難しいが、便宜的に貯蔵穴様の土坑（以下、単に「貯蔵穴」）として扱うこととする。貯蔵穴の配置は先述の竪穴建物の部分呼称に従って記載した。

### その他付属遺構等

排水溝

土堤

粘土

群中に排水溝が設置された複数の竪穴建物を検出した。竪穴建物の一隅に盛り土または基盤層の掘り残しによる土手状の施設（土堤）が確認されることがあるが、良好な検出事例は少ない。その他、竪穴建物の床面付近に未焼成の粘土塊が残されていることがある。これらの諸属性を追記した。

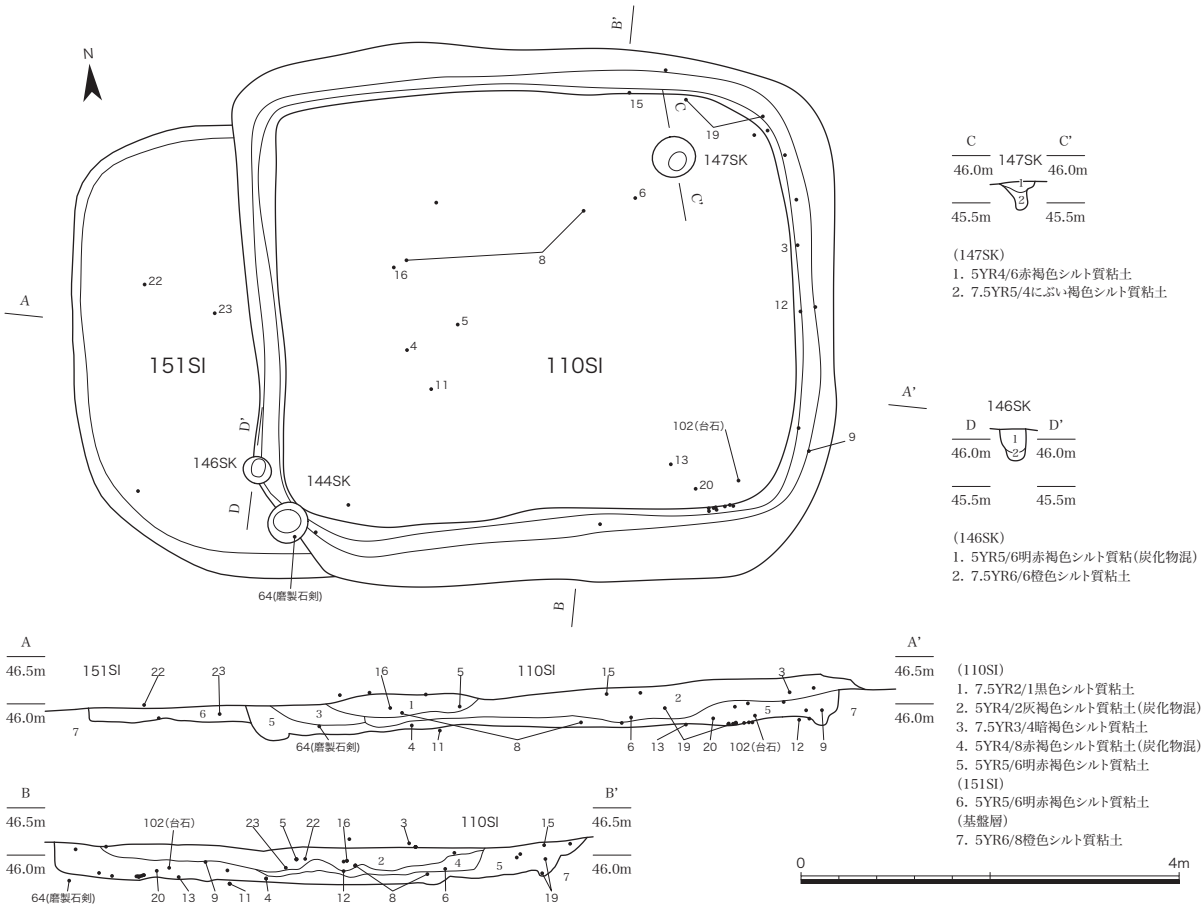
時期と時期区分

時期は遺構の検出状況と先後関係、出土土器の編年（第６章（２）で詳述）、竪穴建物の諸属性（第６章（３）で詳述）に依拠して、弥生時代中期後葉から後期前半、後期後半を５期に区分し、中期後葉を１期、後期初頭（から前葉）を２期、後期前葉（から中葉）を３期、後期中葉（から後葉）を４期、後期後葉（から終末期）を５期として扱う。　５期区分

110SI・151SI

２棟が重複する。151SI は掘方が 110SI に比して掘方が浅く確実ではないが、110SI に先行すると判断した。主柱穴は明確ではないが、146SK はその可能性がある。110SI は平面方形の大型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴は明確ではないが、147SK はその可能性がある。床面の全面を精査したにもかかわらず、地床炉等は検出されなかった。110SI の床面付近から覆土中にかけて遺物が散在して出土した。特筆される遺物として塩基性凝灰岩製磨製石剣（64）がある。151SI は 110SI との重複もあって、出土遺物はごく少ない（第 89 図）。　検出状況・先後関係　遺物出土状況　磨製石剣

110SI 出土土器は甕（1 ～ 6）、広口壷（7 ～ 10）、長頸壷（11・12）、器台（14）、有段高杯（15 ～ 17）、小型有段高杯（18）、小型形高杯（19 ～ 21）等がある。有段口縁甕（3）は体部上半までを加飾する。口縁部外面の施文は風化が著しく明瞭ではない。口縁部先端の文様帯を垂下させる広口壷（9）は 157SI 出土の広口壷（169）と酷似する。加飾する　110SI出土土器




第89図　110SI・151SI遺構図（1:80）

器台（14）は小型の広口壷の可能性もある。小型高杯（19）は杯部が箱形に近い（第 90 図）。その他、南東隅付近から花崗岩製台石（102）が出土した（第 182 図）。

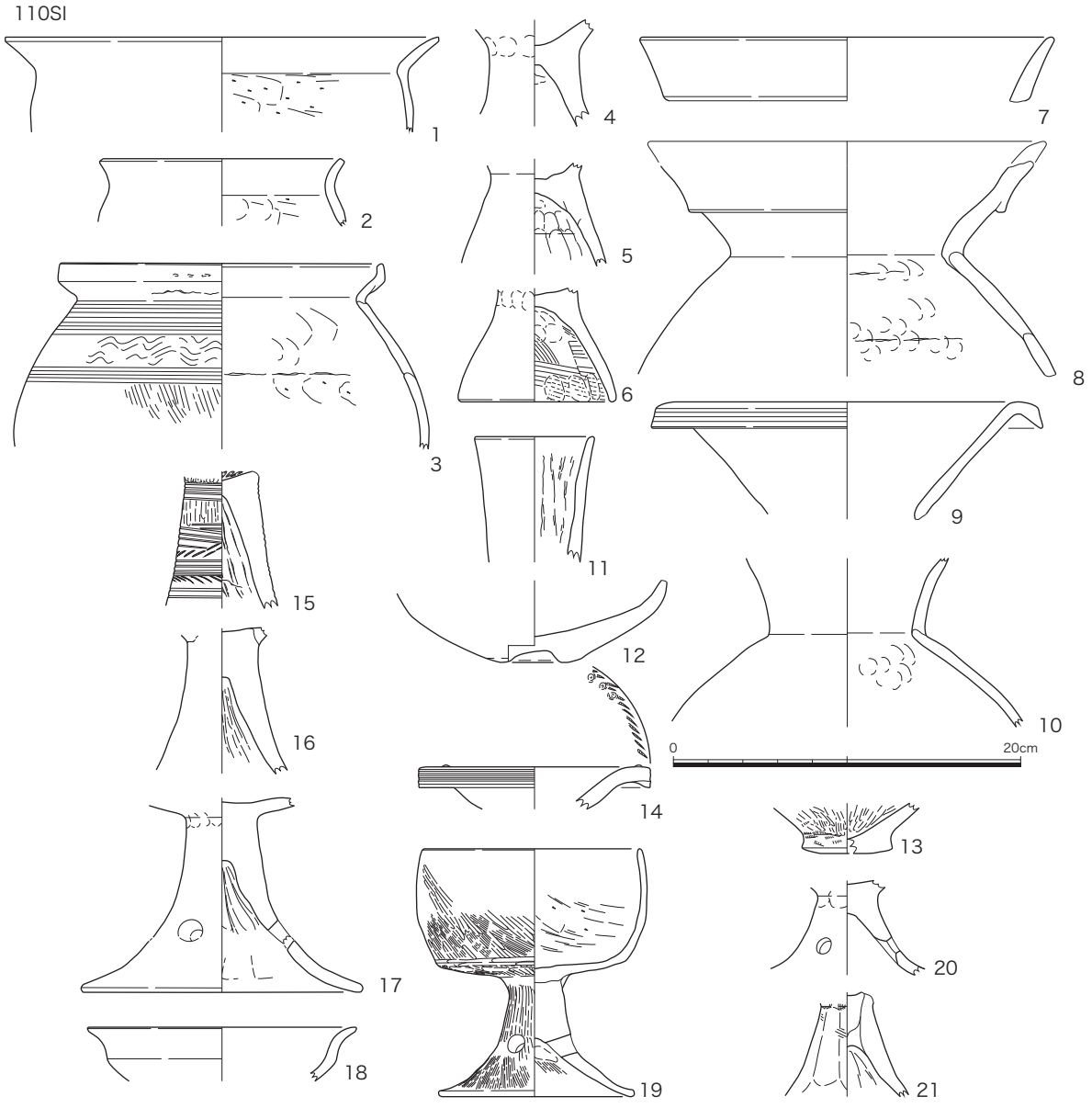
台石

151SI出土土器

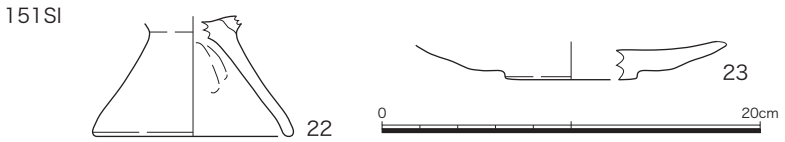
151SI 出土土器は甕（22）、広口壷（23）がある。甕の脚台（22）は底部が薄く平坦な特徴から、110SI に伴う可能性も想定される（第 91 図）。

時期

110SI の時期は出土土器の様相から５期、110SI と重複し、それに先行する可能性が高い 151SI の時期は出土土器の様相と遺構の平面形から２期以前とすることは難しいので３期とした。




第90図　110SI出土土器実測図（1:4）

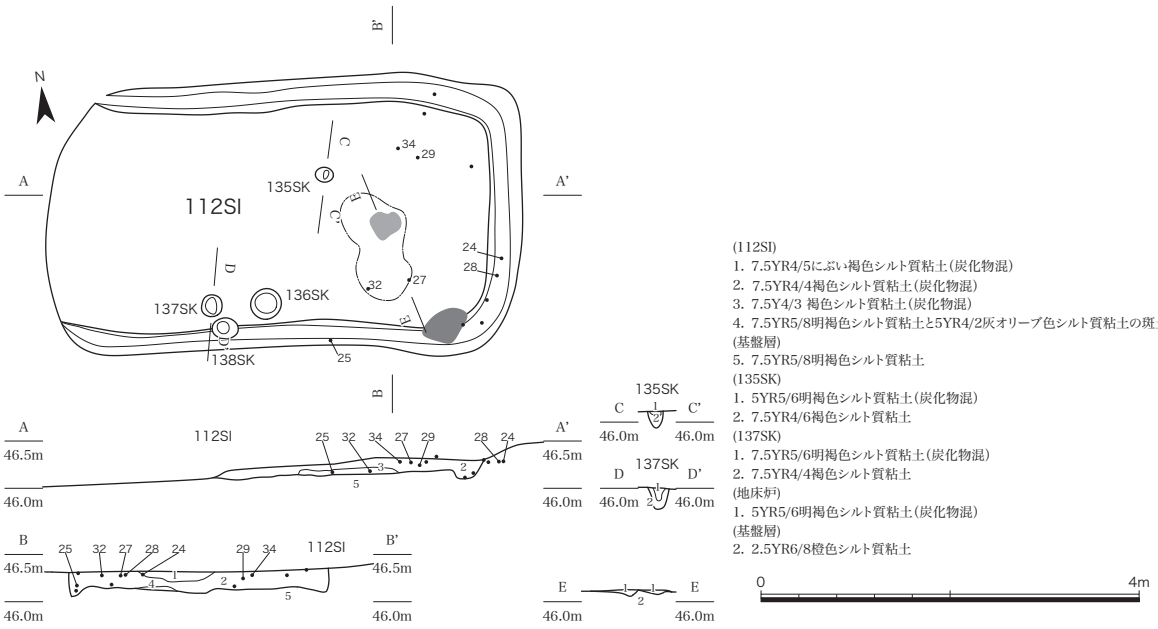



第91図　151SI出土土器実測図（1:4）

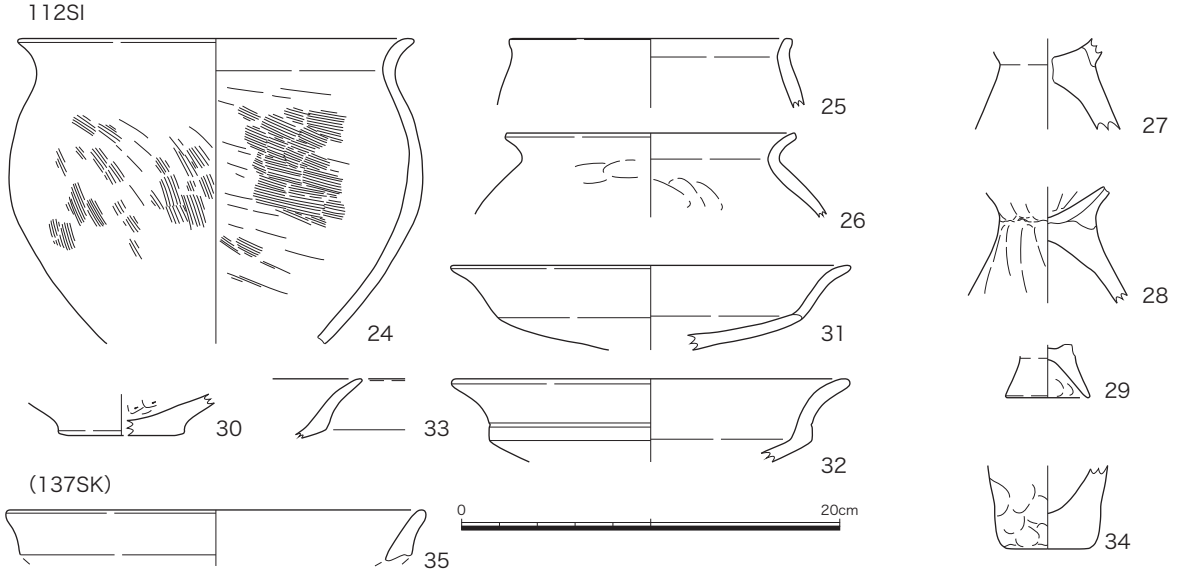
112SI

斜面側の西辺は流失するが、平面長方形の小型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。床面で柱穴様の小土坑数基を検出したが、主柱穴は判然としない。中軸線上の中央からやや偏した位置に地床炉が検出され、周囲は炭化物が面的に広がっていた。南東隅付近の床面には粘土塊が残されていた。東辺付近からは遺物が散在して出土した（第 92 図）。　検出状況　遺物出土状況

出土土器は甕（24 ～ 29）、有段高杯（31 ～ 33）、小型鉢（34）等がある。床面上で検出した小土坑 137SK 出土土器は有段高杯（35）がある。甕は短くわずかに折れる口縁部（25）と、やや長く緩やかに外反する口縁部（24･26）の両者がある。有段高杯杯部（31･32）は上段が大きく外反するが、137SK 出土の杯部（35）はわずかに外反する（第 93 図）。甕（24）の体部外面から採取した付着炭化物の放射性炭素年代測定の結果（測定番　112SI出土土器　年代測定




第92図　112SI遺構図（1:80）




第93図　112SI出土土器実測図（1:4）

号 PLD-52483）は、2 σ暦年代範囲で 46calBC-69calAD（95.45%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

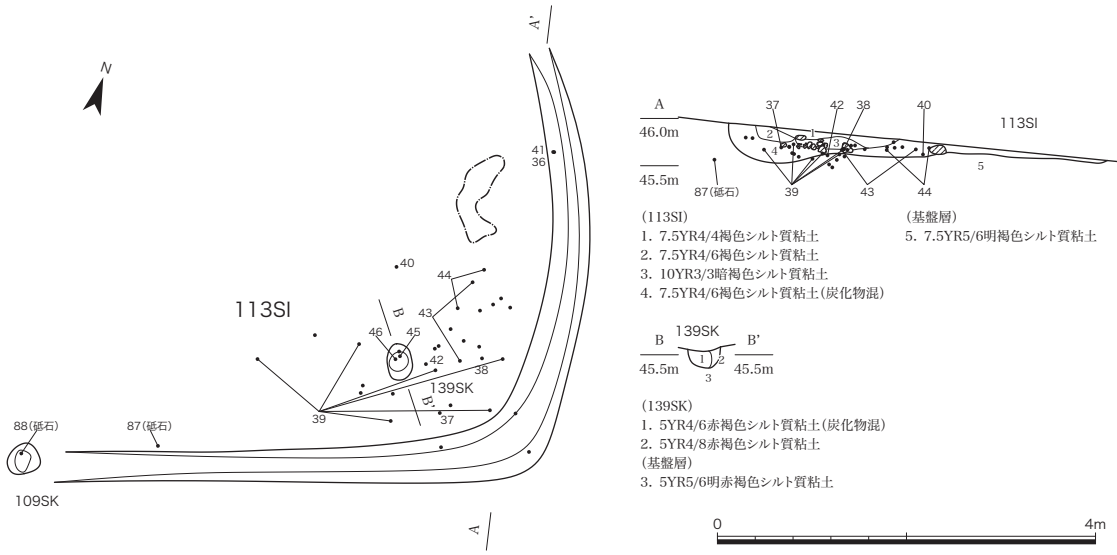
時期　時期は長方形の平面形から３期の可能性もあるが、出土土器の様相から４期とした。

113SI

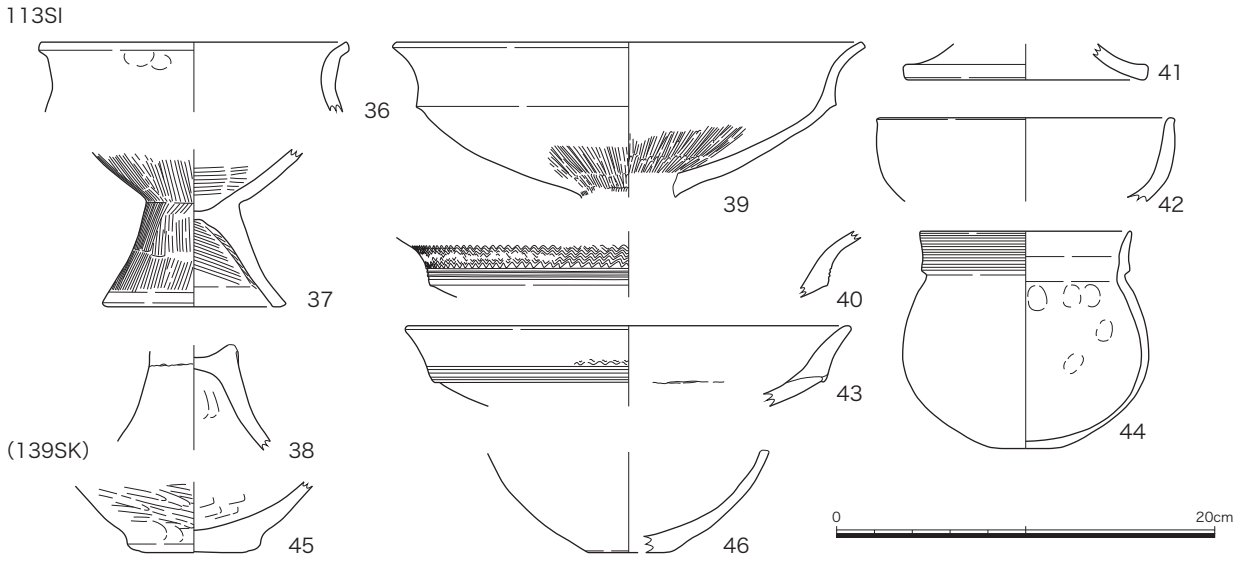
検出状況　斜面側の西半が流失し、東辺と南辺側のみが遺存する。主柱穴は明確ではないが、

遺物出土状況　139SK はその可能性がある。東辺付近の床面に炭化物が残され、南東隅付近からは遺物がややまとまって出土した（第 94 図）。

113SI出土土器　出土土器は甕（36 ～ 38）、有段高杯（39 ～ 41）、広口壷（43）、中型有段口縁壷（44）等がある。甕の脚台（37）はやや外反する形状で、全体に重厚である。有段高杯杯部（39・40）は杯部上段が大きく外反する。広口壷（43）は加飾があることからも、有段高杯の可能性もある。中型有段口縁壷（44）は器壁が薄く、底部が丸底に近い。口縁部外面は




第94図　113SI遺構図（1:80）




第95図　113SI出土土器実測図（1:4）

擬凹線を施す。近畿地方北部等に系譜が求められる可能性がある。ただし、口縁部の段は浅い（第 95 図）。その他、閃緑岩製砥石（87・88）が出土した（第 181 図）。　砥石

113SI と 114SI は近接し、出土土器の様相は 113SI が 114SI に後出的なので、113SI の時期は５期とした。　時期

114SI・119SI

２棟が重複する。119SI は検出面に床面付近が露呈し、東辺と北辺の壁周溝のみが残る竪穴建物として検出した。114SI との先後関係は不明であるが、類似する 110SI・151SI の状況から、114SI に先行する可能性が高い。　検出状況・先後関係

114SI は平面長方形の大型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。床面の全面を精査したにもかかわらず、地床炉等は検出されなかった。床面付近から覆土中にかけて遺物が散在して出土した（第 96 図）。　114SI検出状況　遺物出土状況

114SI 出土土器は甕（47 ～ 55）、長頸壷（56）、広口壷（57・58）、有段高杯（60）、小型高杯（62・63）等がある。器種不明の円環状の把手（64）は断面が方形に近い。甕の口縁部（47 ～ 49）は口縁部が短く緩やかに外反する。脚台（50 ～ 55）は高く直線的な形状（50）、やや低く外反する形状（51）、底部が薄く平坦な形状（52･53）に分かれる。広口壷（58）は縁帯状の口縁部を特徴とする（第 97 図）。その他、塩基性岩製敲石（74）が出土した（第 180 図）。119SI から個体識別が可能な土器は出土していない。　114SI出土土器　敲石　119SI出土土器

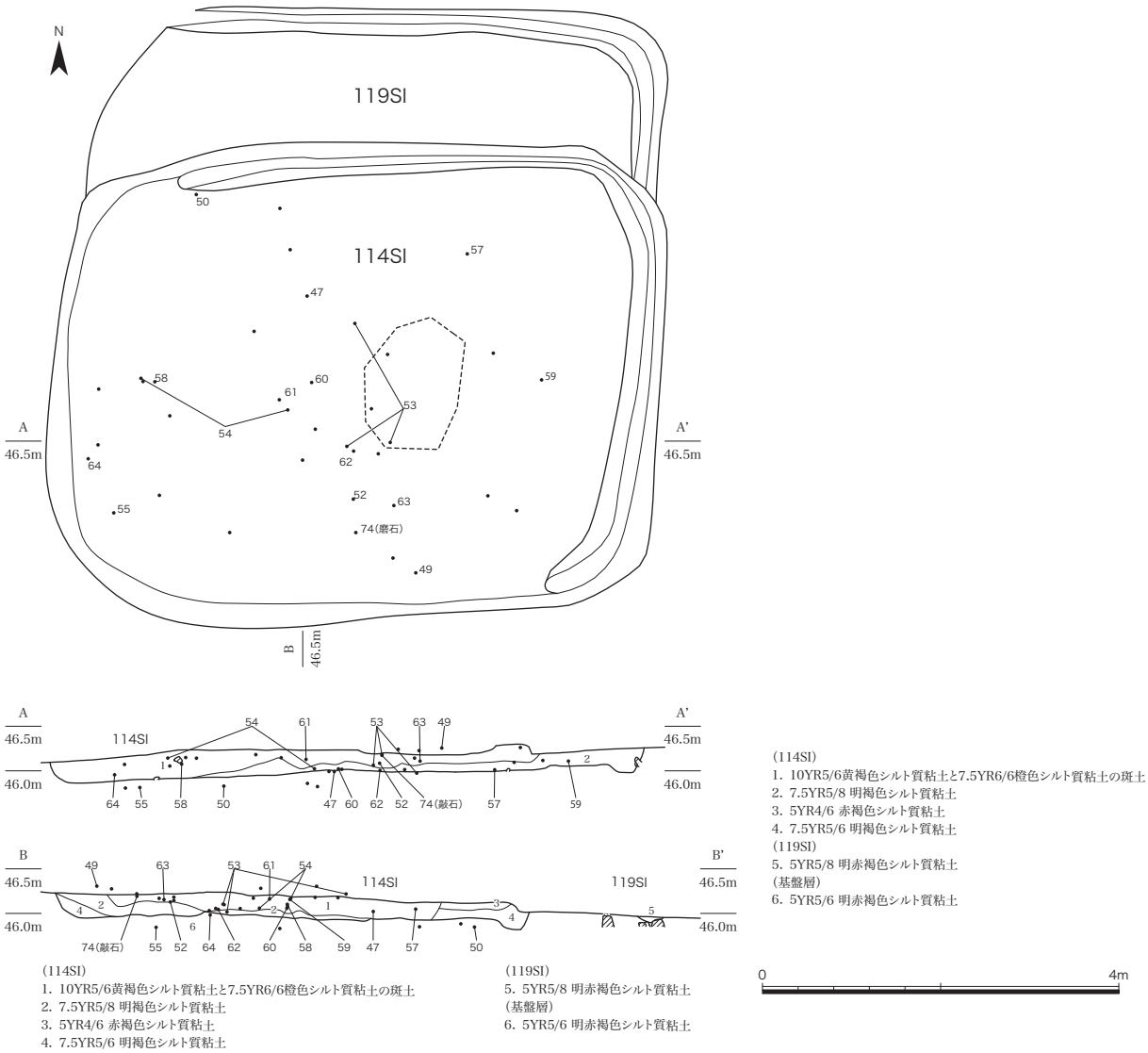
113SI と 114SI は近接し、出土土器の様相は 113SI が 114SI に後出的なので、114SI の時期を４期、114SI と重複し、それに先行する可能性が高い 119SI の時期を２期とした。　時期

115SI・118SI

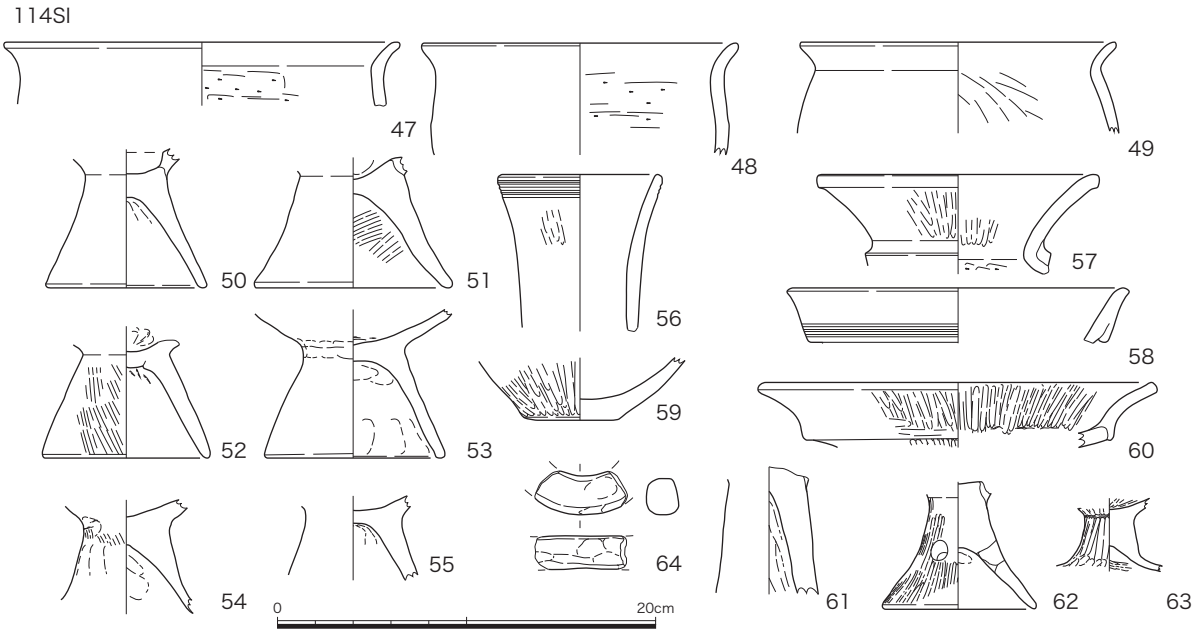
１棟の竪穴建物である可能性も想定されたが、東西で底面の高さが明らかに異なることから、２棟の竪穴建物 115SI・118SI の重複として判断した。調査時には 115SI が 118SI に後出すると判断したが、覆土中には土器が大量に包含され、腐植も顕著であったので、先後関係の判断は確実ではない（第 98 図）。　検出状況・先後関係

出土状況と出土遺物の内容を検討した結果、118SI の出土遺物に 115SI 上位の遺物との接合関係が認められたことから、115SI が 118SI に先行することが判明した。主柱穴は検出されていない。115SIの床面から覆土中にかけて遺物が密集して出土した（第99図）。　遺物出土状況

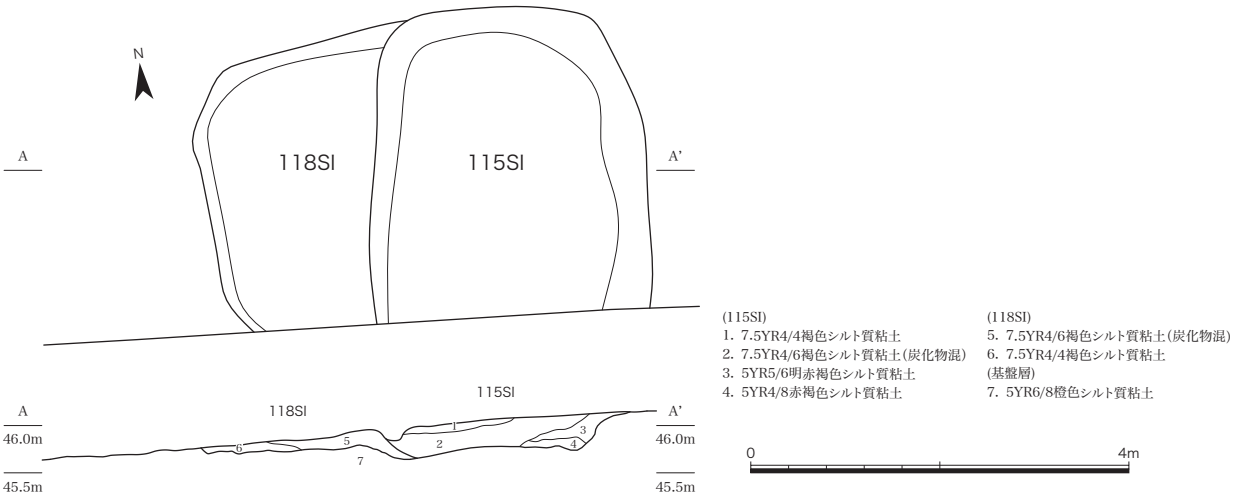
115SI 出土土器は甕（65 ～ 81）、広口壷（82 ～ 86）、中型直口壷（97）、器台（98）、高杯または脚付鉢・壷（99 ～ 107）、蓋（108）、（脚付）小型鉢（109 ～ 116）等がある。脚付の小型品（ミニチュア）が多い組成が特徴的である。甕は１期の三河系に関連する個体（65）が含まれ、短く緩やかに外反する口縁部（66 ～ 68）、やや長く外反する口縁部（69 ～ 71）が混在する。脚台は高く直線的な形状（67・73・74）、やや低く外反する形状（72）、底部が薄く平坦な形状（80・81）等がある。底部が薄く平坦な形状の脚台は 118SI に伴う可能性もある。直口壷（97）と器台（98）は近接して出土している。器台（98）は受部と脚部が未分化で、上下２段重列８方向に透孔を穿つ。高杯は杯部の形状が不明であるが、太く低い脚部（100 ～ 103）が多い。蓋（108）は脚付小型鉢の可能性もあるが、伏鉢状の器形とした。脚付小型鉢は法量が大きい一群（109 ～ 111）、小さい一群（112 ～ 115）に分かれ、短く外折する口縁部（109）等の形状がある（第 100・101 図）。甕（67）の体部外面から採取した付着炭化物の放射性炭素年代測定の結果（測定番　115SI出土土器　年代測定



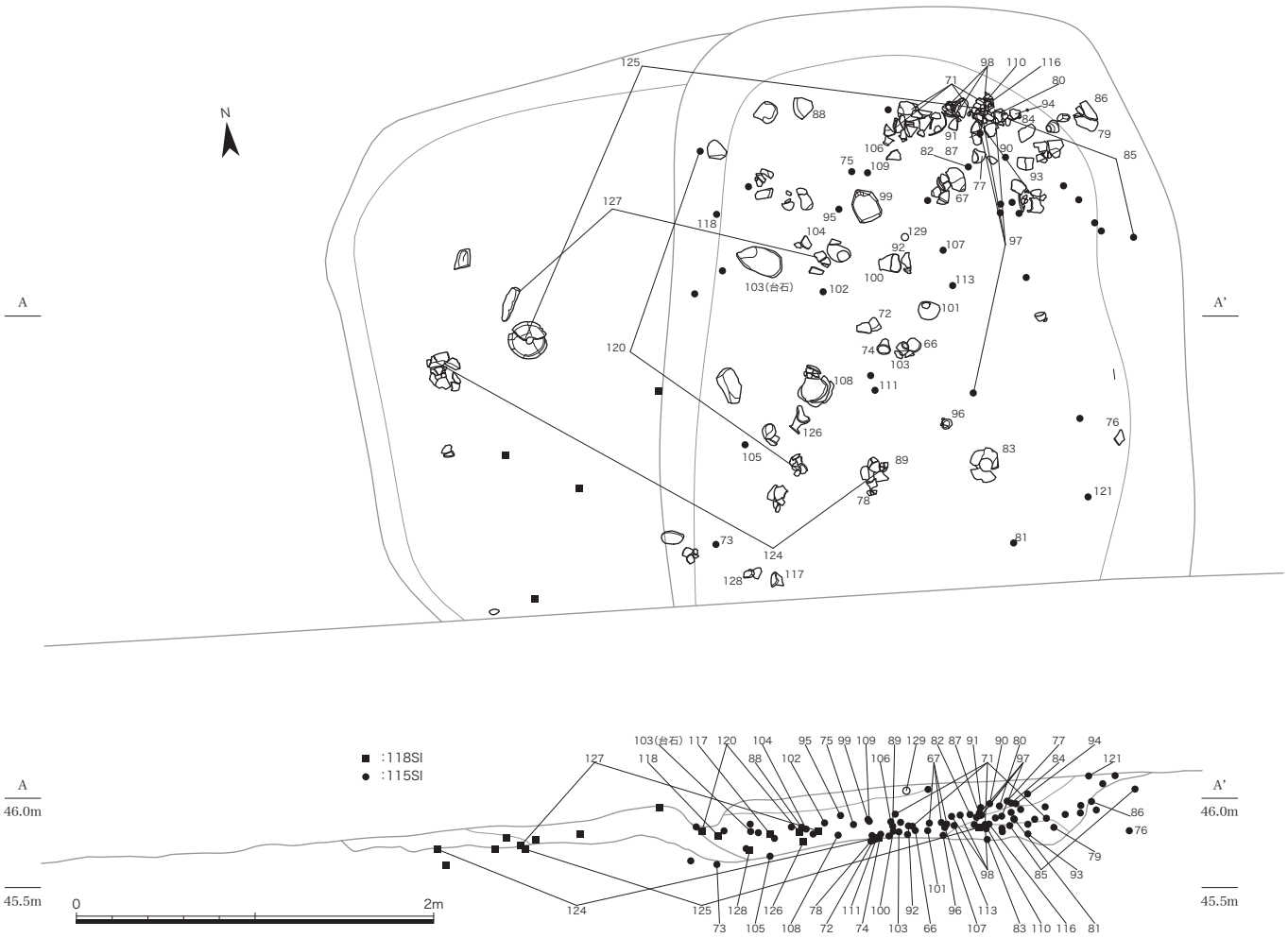

第96図　114SI・119SI遺構図（1:80）



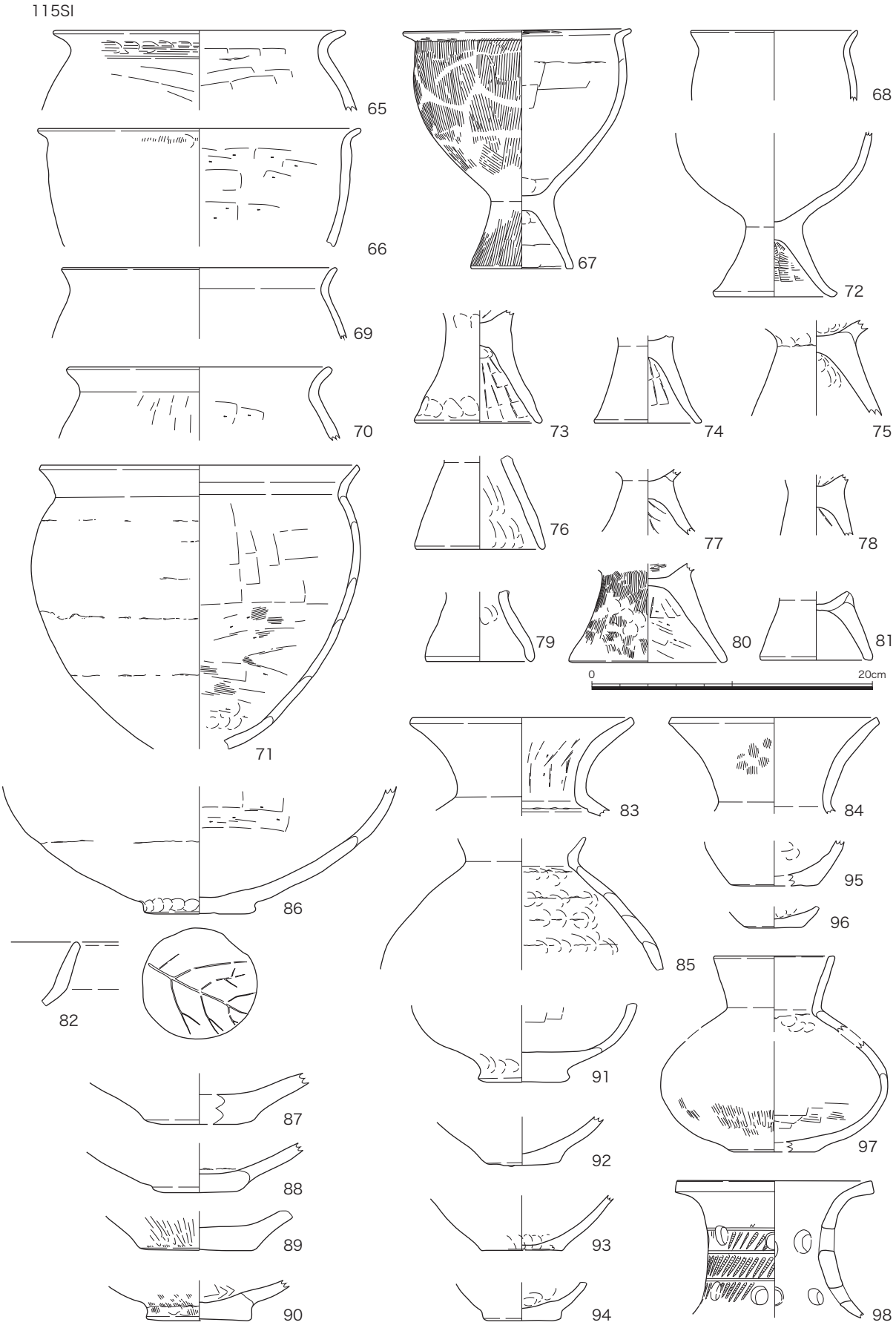

第97図　114SI出土土器実測図（1:4）



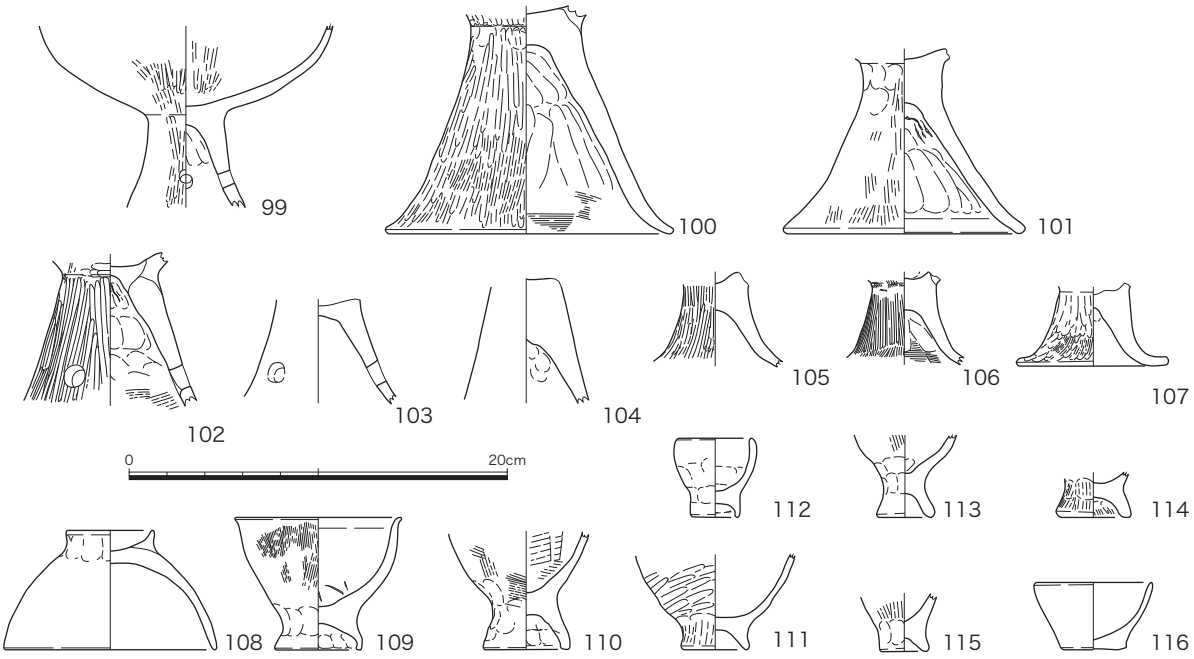

第98図　115SI・118SI遺構図（1:80）



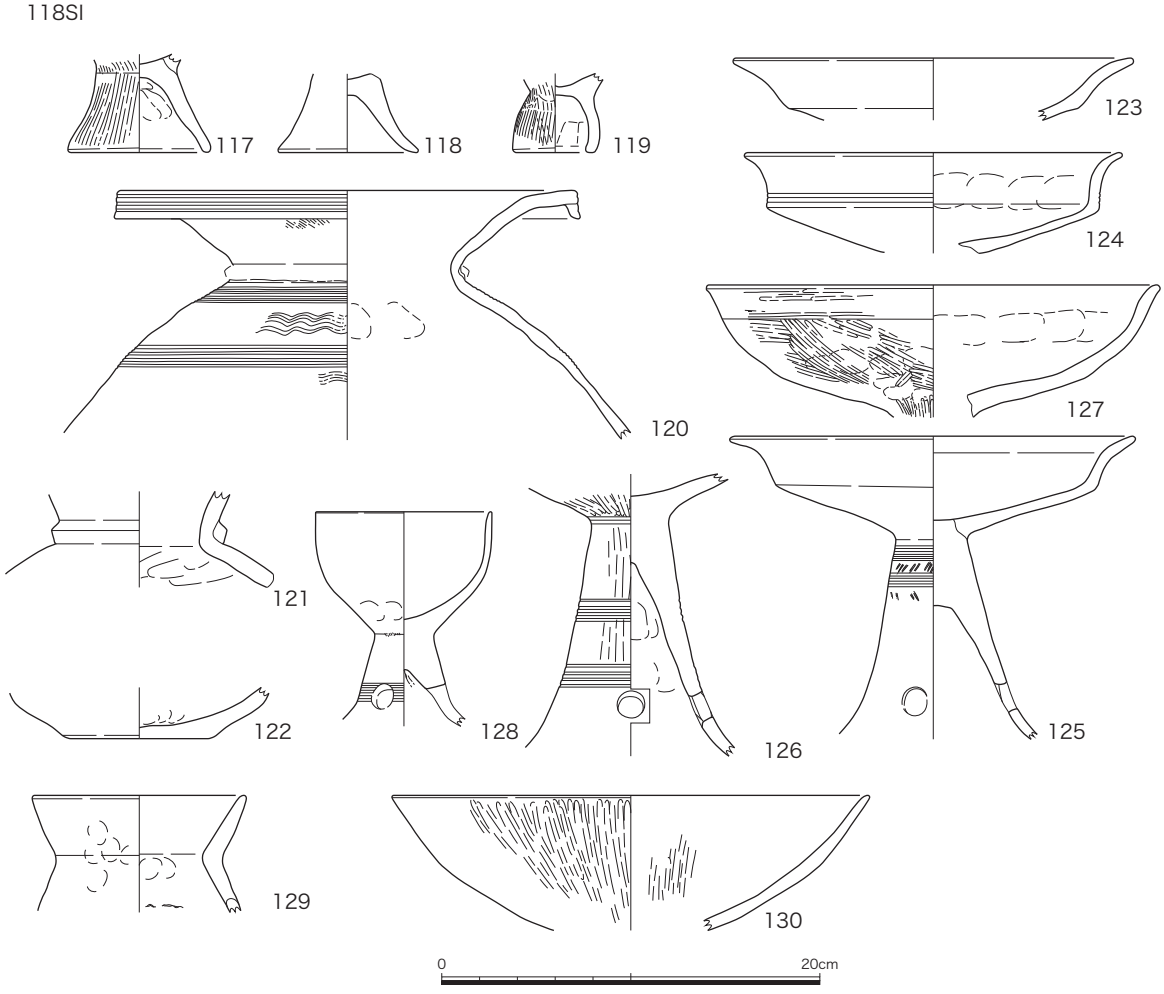

第99図　115SI・118SI遺物出土状況図（1:40）




第100図　115SI出土土器実測図1（1:4）




第101図　115SI出土土器実測図２（1:4）




第102図　118SI出土土器実測図（1:4）

号 PLD-52484）は、2 σ暦年代範囲で 18-129calAD（93.53％）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

118SI出土土器

118SI 出土土器は甕（117 ～ 119）、広口壷（120・121）、有段高杯（123 ～ 127）、小型高杯（128）等がある。加飾広口壷（120）の垂下口縁は断面舌状の突帯の付加による。有段高杯は段が消失した杯部（127）も含まれる。小型高杯（128）は杯部が深く、上半

118SI上層

は彎曲をほとんど失い、ほぼ直立する。上層出土の甕または鉢（129）は頸部が大きく括れ、口縁部先端が先細りする。有段高杯（130）は杯底部下端の段が消失する。古墳時代前期

台石

以降に対応する（第 102 図）。その他、閃緑岩製台石（103）が出土した（第 182 図）。

時期

修正した先後関係、出土土器の様相から 115SI の時期を３期、118SI の時期を５期とした。

116SI

検出状況

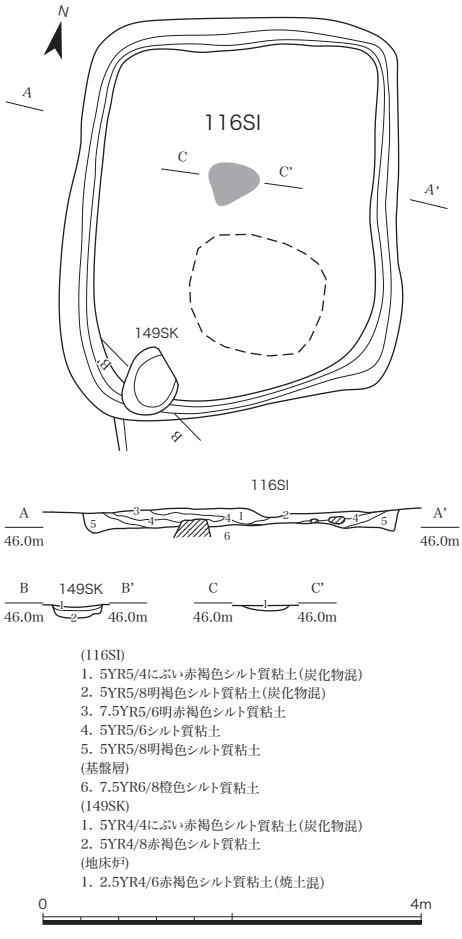
中央付近が撹乱によって失われるが、平面長方形の小型竪穴建物のほぼ全形を検出した。主柱穴は検出されなかった。中軸線上の中央からやや偏した位置に地床炉、南西隅に貯蔵

遺物出土状況

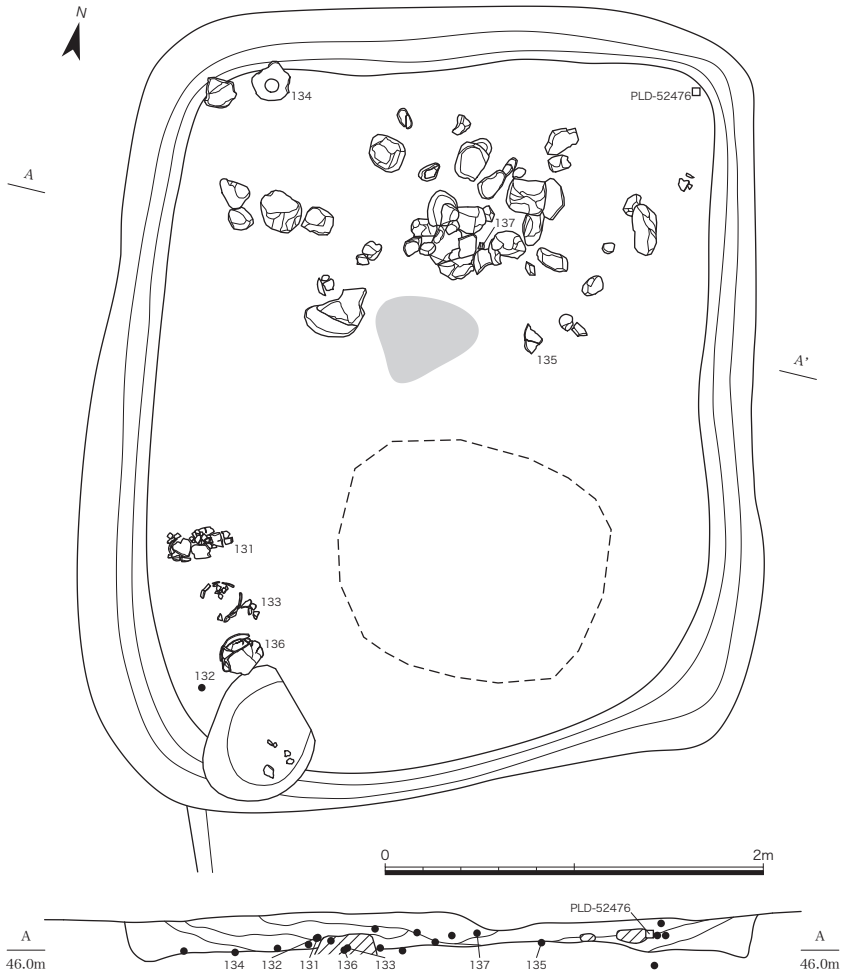
穴様の土坑 149SK を検出した。北半の地床炉周辺には礫が集積され、北西隅と南西隅付近から遺物がややまとまって出土した。礫の集積に規則性を認めることは難しい（第 116

年代測定

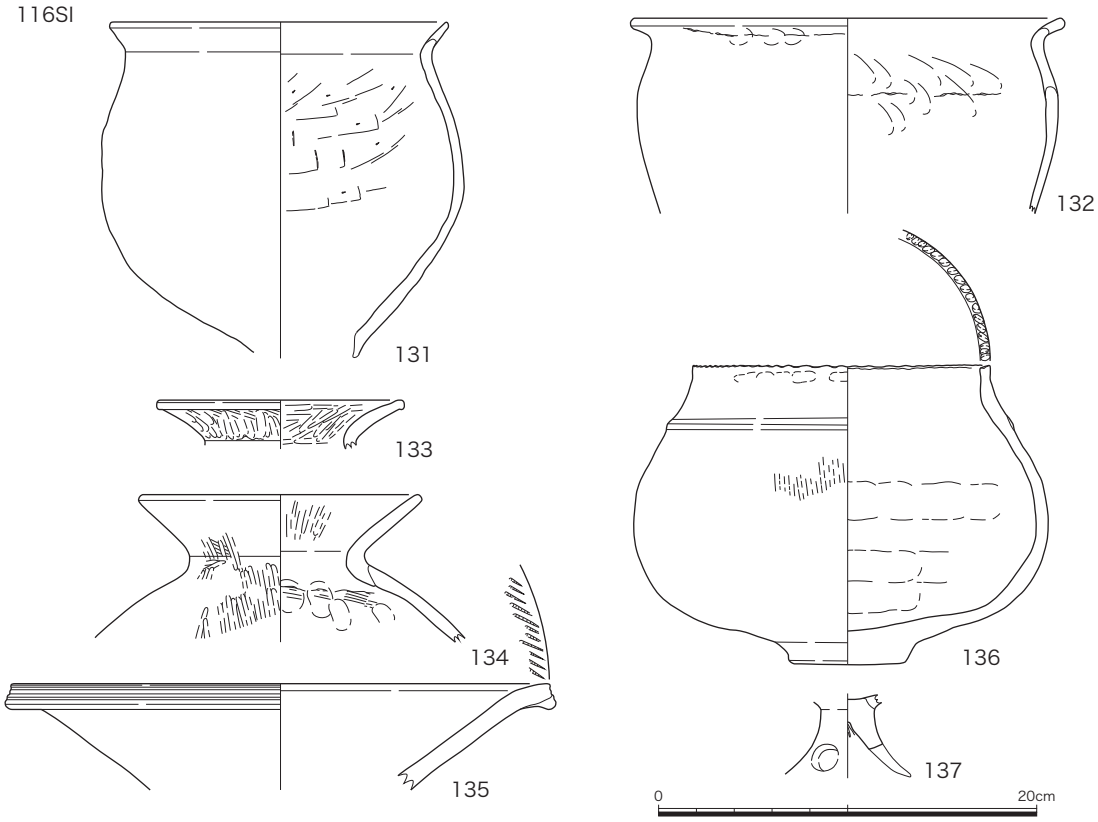
図）。下層から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52476）は、




第103図　116SI遺構図（1:80）




第104図　116SI遺物出土状況図（1:40）




第105図　116SI出土土器実測図（1:4）

２σ暦年代範囲で 61-205calAD（93.62%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

出土土器は甕（131・132）、広口壷（133 ～ 135）、大型鉢（136）等がある。甕は口縁部が屈曲気味の形状（131）と短く緩やかに外反する形状（132）の両者がある。加飾広口壷（135）の垂下口縁は断面三角形状の突帯の付加による。大型鉢（136）は体部の上位に低い突帯を付加し、口縁部先端に連続して刺突を施す（第 105 図）。　116SI出土土器

４期の 175SI（・229SI）と５期の 110SI に近接するが、時期は出土土器の様相から４期から５期とした。　時期

126SI

掘方の一部と地床炉と思われる焼土面を確認し、その周囲には遺物も散在していたが、掘方の形状が著しく不安定であったことから、倒木等の作用により、竪穴建物としての検出､精査が困難と判断した。南西付近で検出した土坑 123SK は貯蔵穴の可能性もある（第 106 図）。　検出状況

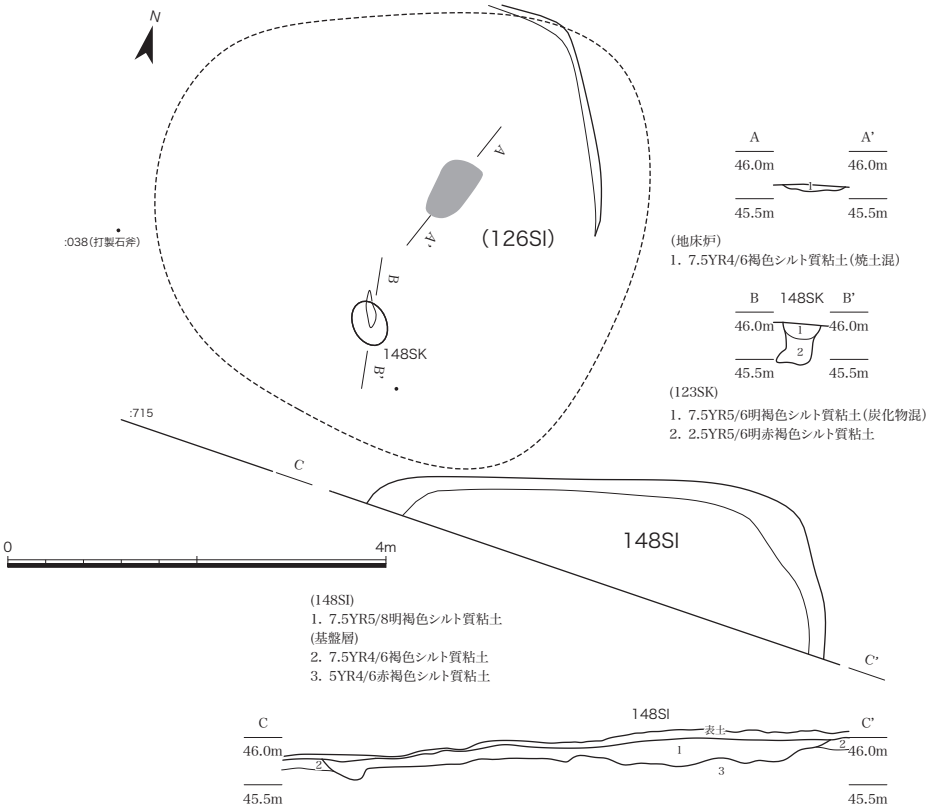
出土土器は甕（138 ～ 140）がある。口縁部（138）は短く屈曲気味に外反し、脚台は全体に内彎する形状（139）、高く直線的な形状（140）がある（第 107 図）。　126SI出土土器

148SI と 115SI・118SI に近接するが、時期は出土土器の様相から２期から３期とした。　時期

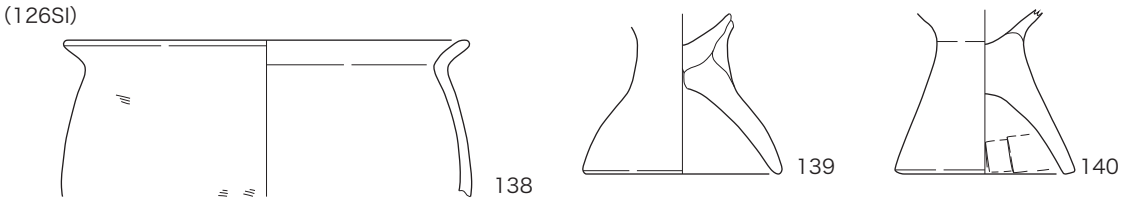
148SI

大部分が調査区外（崩落した崖）で、北東隅付近を検出したのみである（第 106 図）。　検出状況

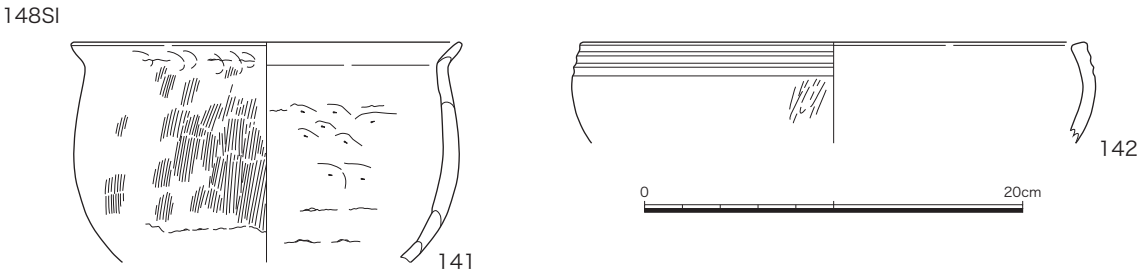
出土土器は少ないが、口縁部が短く緩やかに外反する甕（141）、凹線文系の鉢または高杯（142）が伴うことから、時期を１期から２期とした（第 108 図）。　148SI出土土器　時期




第106図　(126SI・)148SI遺構図(1:80)




第107図　126SI出土土器実測図(1:4)

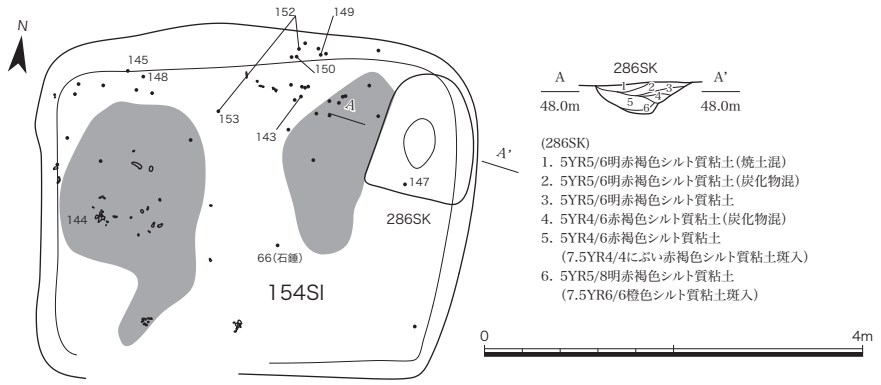



第108図　148SI出土土器実測図(1:4)

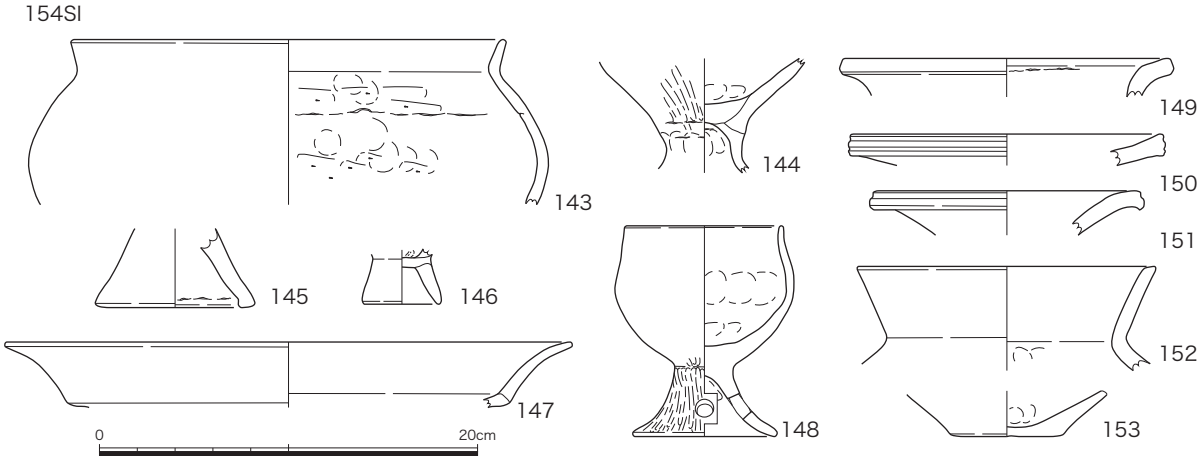
### 154SI・160SI・217SI

検出状況　遺構検出時から須恵器が出土し、古墳時代後期の遺構の存在が予想されたこと、精査中に広範囲の焼土面、礫の集積も判明したこと等、遺構に対する認識と調査の方針が定まらず、遺構の検出には不十分な点を多く残す(第 109 図)。

154SI検出状況　154SI は平面長方形の小型竪穴建物として全形を検出した。床面と認識した面に広範囲の焼土を確認した。北東隅の土坑 286SK は竪穴建物に付属する貯蔵穴の可能性もあるが、




第109図　154SI・286SK遺構図（1:80）




第110図　154SI出土土器実測図（1:4）

検出面上に焼土面が認められなかった（焼土面に後出する）ことから、竪穴建物埋没後に掘削された遺構の可能性もある。その場合、古墳時代の土壙墓等が想定される（第 109 図）。

160SI検出状況

160SI は平面小判形の小型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴は検出されなかった。中軸線からかなり壁に寄った位置に地床炉を検出した。北西半の床面を中心に片麻岩、珪質岩、花崗岩を主とする礫が集積され、周囲には遺物も散在していた。礫の集積に規則性を認めることは難しい。

遺物出土状況

217SI検出状況

160SI 周囲で地床炉と思われる焼土を確認した。竪穴建物の掘方や柱穴等を検出することはできなかったが、削剥された竪穴建物（217SI）に伴う地床炉とした（第 111 図）。

154SI出土土器

154SI 出土土器は甕（143 ～ 146）、有段高杯（147）、小型高杯（148）、広口壷（149 ～ 152）がある。甕（143）は口縁部が直立気味に折れる。小型高杯（148）は杯部が深く口縁部は彎曲する（第 110 図）。その他、塩基性岩製礫石錘（66）が出土した（第 179 図）。

礫石錘

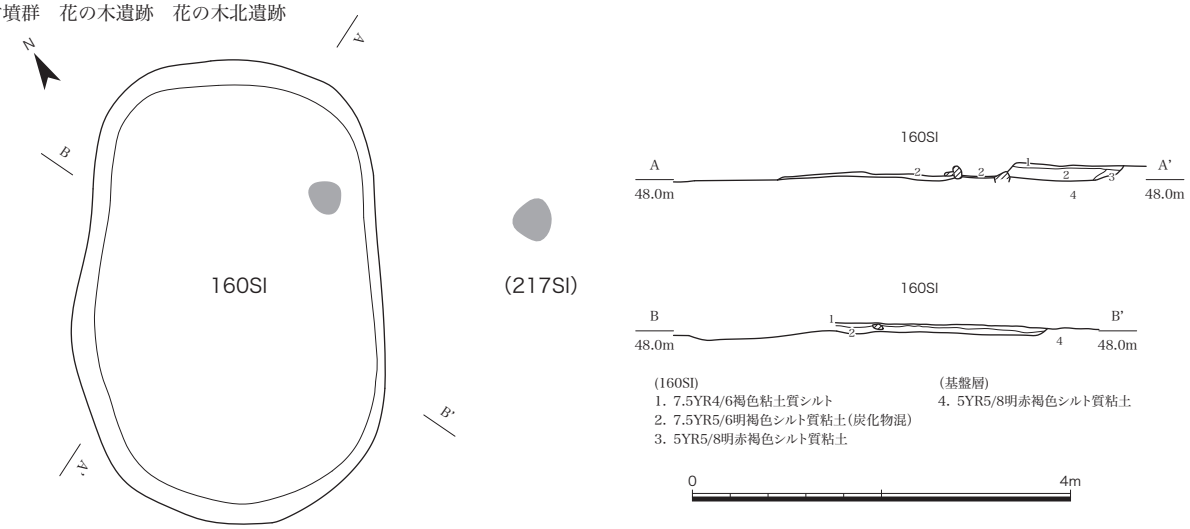
160SI出土土器

160SI 出土土器は甕（154 ～ 157）、広口壷（158）、細頸壷（159）等がある。甕（154 ～ 157）はいずれも三河系で、口縁部（154）は先端に刻みを密に施し、脚台（155 ～ 157）は柱状中実である（第 113 図）。その他、特筆される遺物として、砂質凝灰岩製有溝石錘（73）がある（第 179 図）。

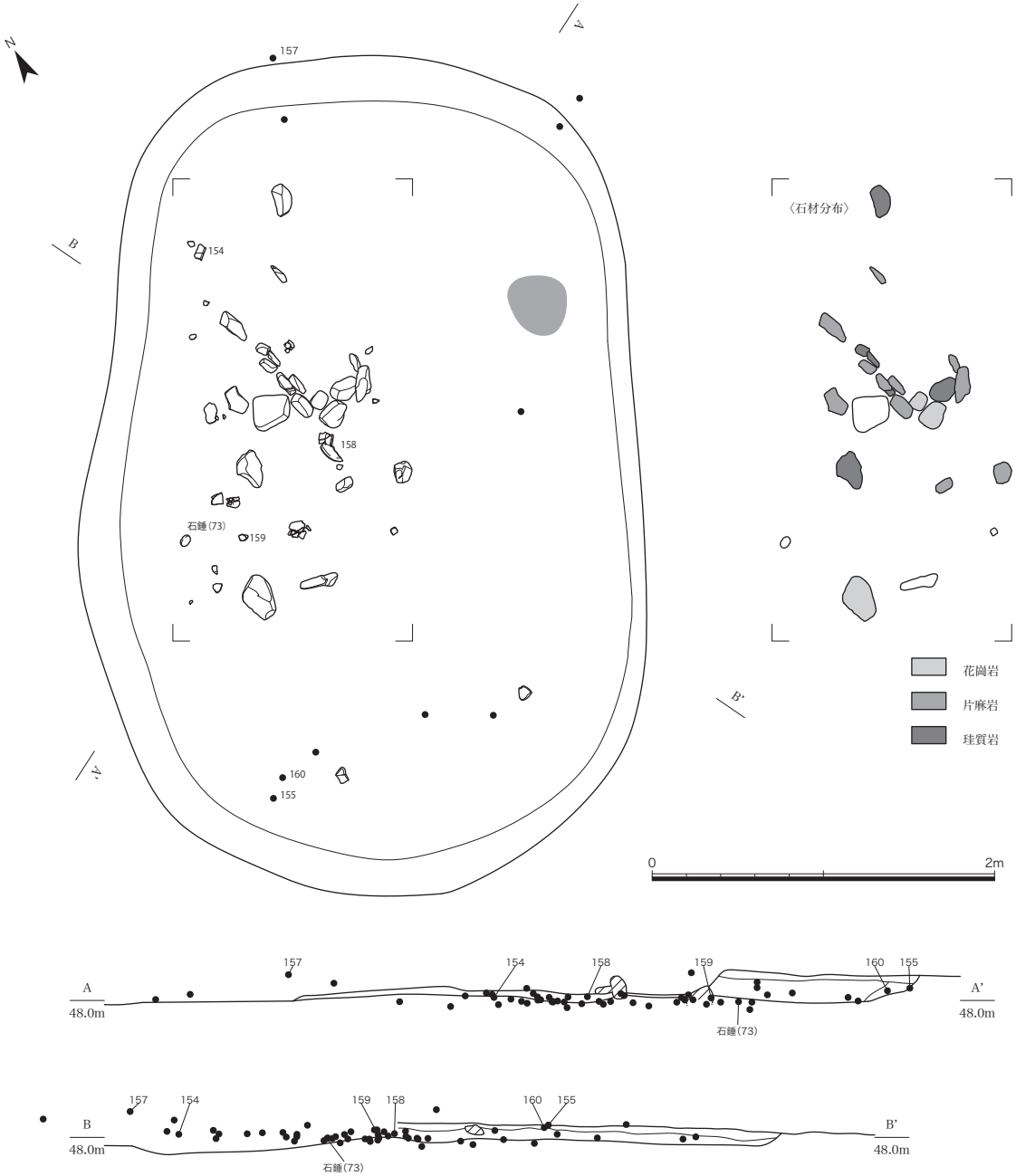
有溝石錘

時期

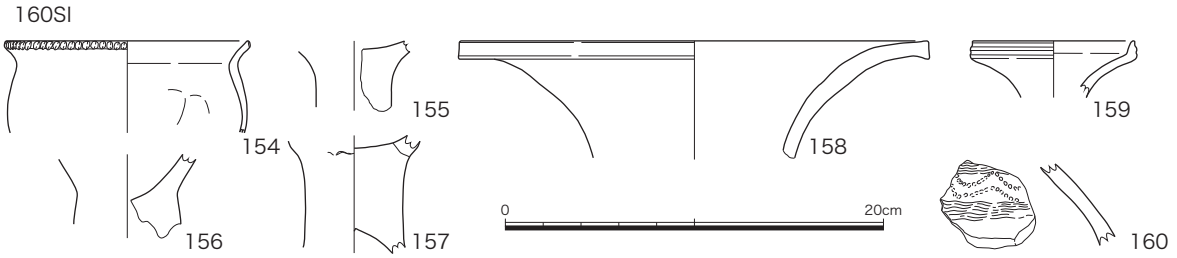
154SI は出土土器の様相から時期を３期から４期とした。160SI は出土土器の様相と小



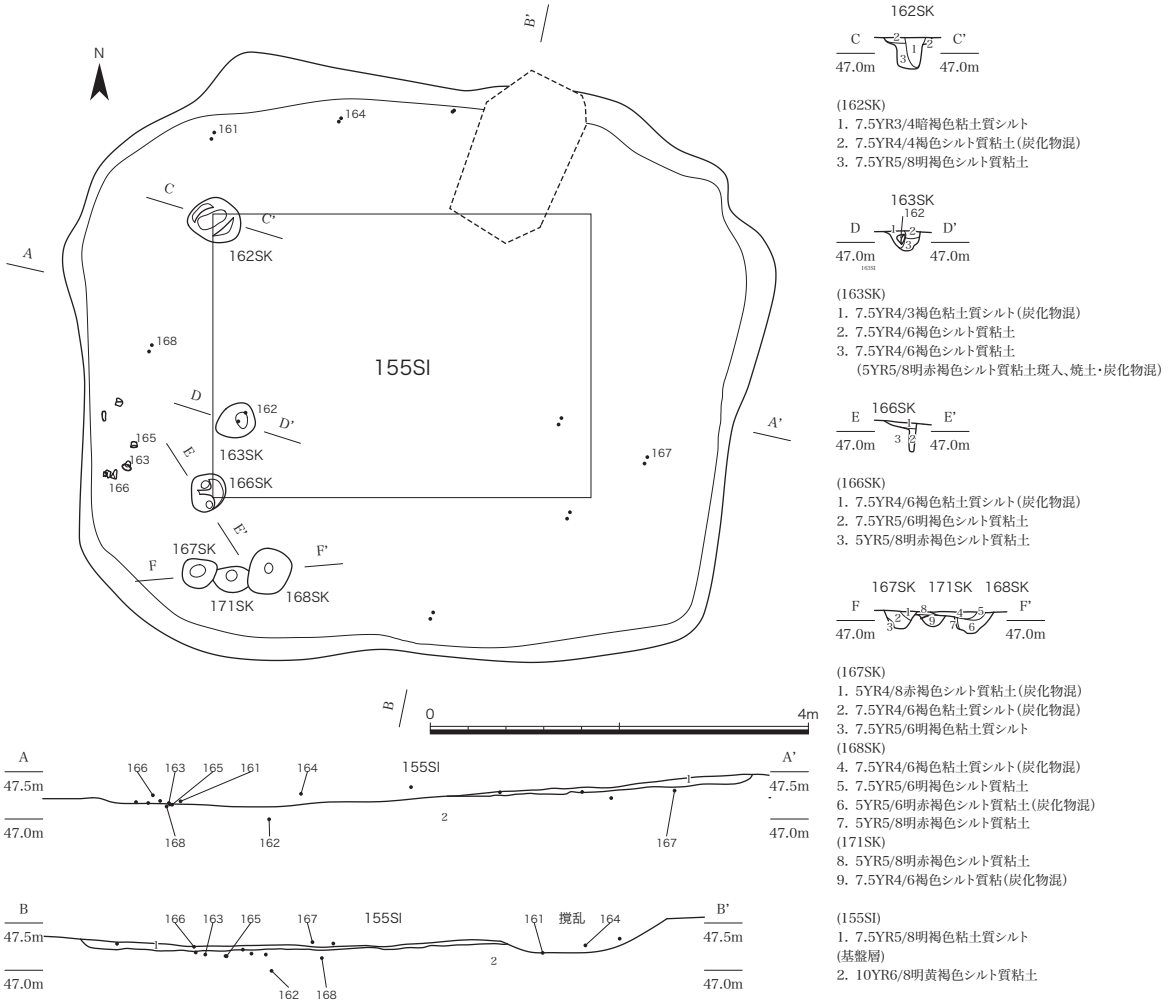

第111図　160SI（・217SI）遺構図（1:80）



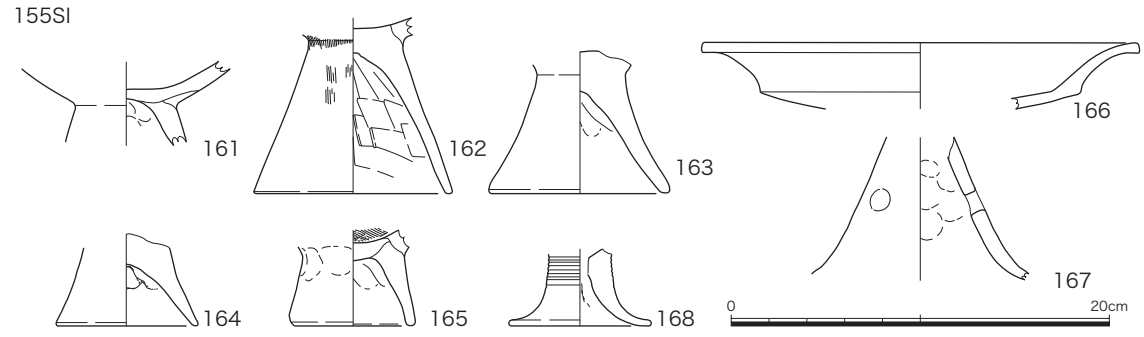

第112図　160SI遺物出土状況図（1:80）




第113図　160SI出土土器実測図（1:4）




第114図　155SI遺構図（1:80）




第115図　155SI出土土器実測図（1:4）

判形の平面形から時期を１期とした。217SI は出土土器がなく時期不明とした。

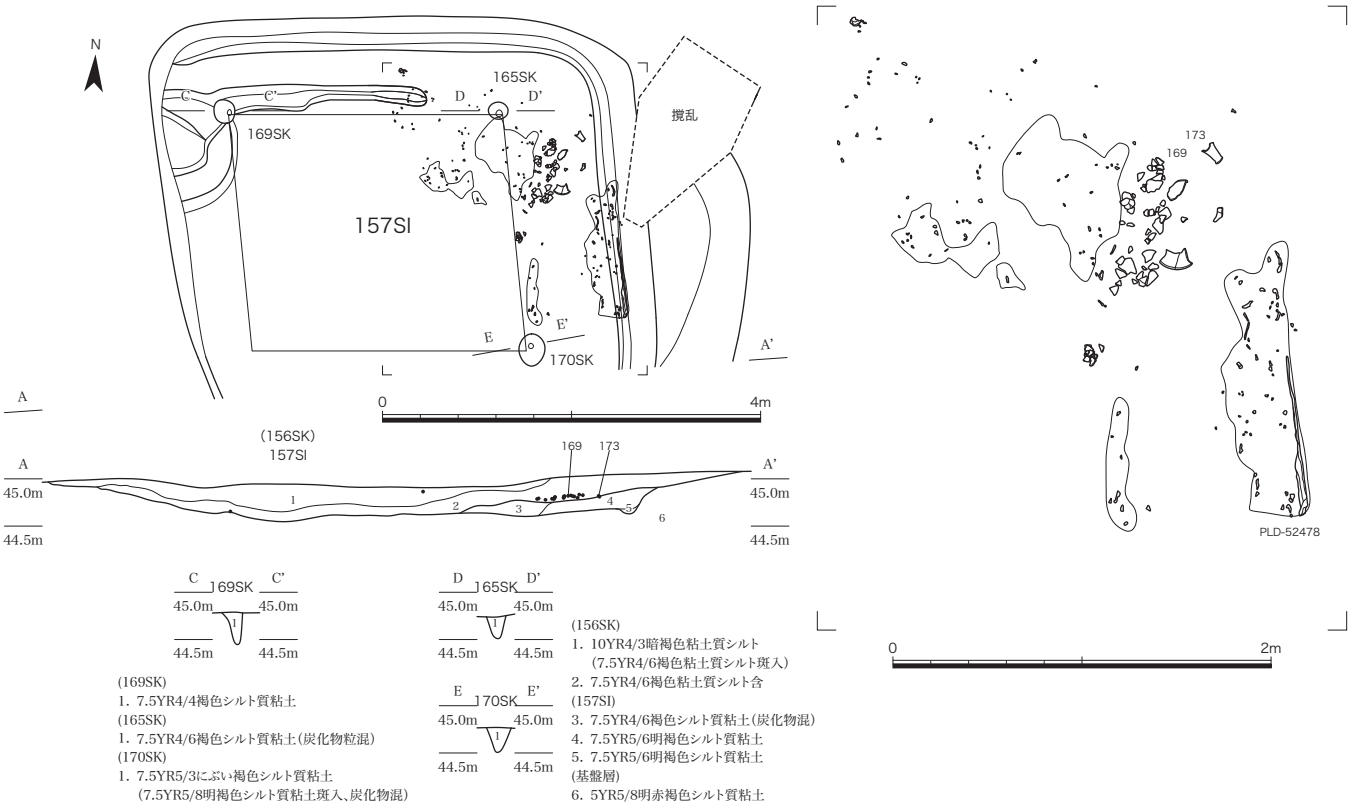
155SI

検出状況　中央付近が大きく剥削されていたが、平面方形の大型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。西辺の 162SK、166SK は主柱穴の可能性がある。地床炉は検出されなかった。西辺と柱間（162SK･166SK 間）に挟まれた空間の南半から遺物がややまとまって出土した（第 114 図）。

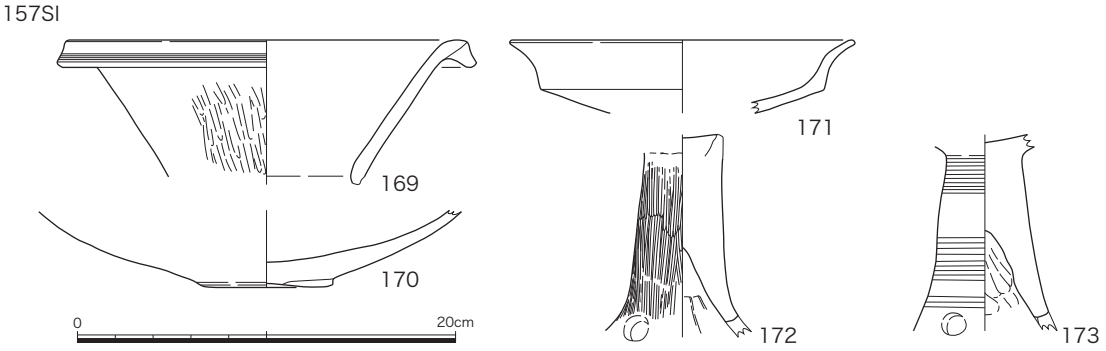
遺物出土状況

155SI出土土器　出土土器は甕（161 ～ 165）、有段高杯（166・167）がある。甕の脚台（162 ～ 165）は高く直線的な形状（162・163）、底部が平坦な形状（165）等がある。有段高杯（166・167）は加飾に乏しく、脚部（167）は相対的に太く低い（第 115 図）。

時期　時期は出土土器の様相から３期から４期とした。




第116図　157SI遺構図（1:80）・遺物出土状況図（1:40）




第117図　157SI遺物実測図（1:4）

157SI

中央付近から西半に落ち込み状の遺構 156SK が重複する。南辺側は斜面に連続するが、掘方が残存していることを確認し、平面形が方形であることが判明した。同時に南西隅に貯蔵穴様の土坑も確認した。落ち込み状の遺構が床面付近にまで達していることもあって、地床炉等は検出されていない。主柱穴として、165SK、169SK、170SK を検出した。北西の主柱穴に取り付くようにして、礫を多く含む基盤層を掘り残した土堤と北辺の主柱穴間に沿った間仕切り溝を検出した。東辺の主柱穴間付近には炭化材が散在し、遺物もややまとまって出土した（第 116 図）。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52478）は、2 σ暦年代範囲で 46calBC-62calAD（95.45％）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

検出状況

遺物出土状況

年代測定

出土土器は広口壷（169・170）、有段高杯（171 ～ 173）がある。口縁部先端の文様帯を垂下させる広口壷（169）は 1110SI 出土の広口壷（9）と酷似する。有段高杯杯部（171）は上段が大きく外反する（第 117 図）。その他、閃緑岩製磨石（78）が出土した（第 180 図）。

157SI出土土器

磨石

出土土器の様相、特に加飾広口壷（169）が５期の 110SI 出土の同器種に酷似することに方形の平面形を加味して、時期を４期とした。

時期

174SI・200SI

北西斜面側で重複する２棟を検出した。174SI が 200SI に対して後出する。

検出状況・先後関係

174SI は斜面側が流失する。230SK は南東の主柱穴の可能性がある（第 118 図）。

174SI検出状況

200SI は 174SI、倒木痕 164SK、５号墳周溝によって失われる部分も多いが、平面小判形の小型竪穴建物として検出した。主柱穴は検出されなかった。中軸線からかなり壁に寄った位置に地床炉を検出した。方位、平面形と規模、地床炉の位置等が 160SI によく類似する（第 120 図）。

200SI検出状況

174SI 出土土器は甕（174 ～ 177）、小型高杯（178）等がある。甕の口縁部（174）は短く緩やかに外反する（第 119 図）。200SI 出土土器は甕（180･181）、脚付細頸壷（182）がある。甕の脚台（180・181）は柱状中実で三河系に対応する（第 121 図）。

174SI出土土器

200SI出土土器

200SI は出土土器の様相と小判形の平面形から時期を１期、200SI と重複し、それに後出する 174SI は出土土器の様相から時期を３期から４期とした。

時期

176SI

やや不整な方形の中型竪穴建物としてほぼ全形を検出したが、掘方が比較的浅く、根の侵食による影響が大きいと思われる。主柱穴として 244SK、245SK、246SK、247SK を検出した。中軸線上の竪穴建物中央からやや主柱穴間に寄った位置に地床炉を検出した。北東隅と南西隅に遺物が散在する。西辺付近（の遺構外）で出土した遺物も主柱穴の位置を考慮すると、同遺構に伴う可能性が高い（第 122 図）。

検出状況

遺物出土状況

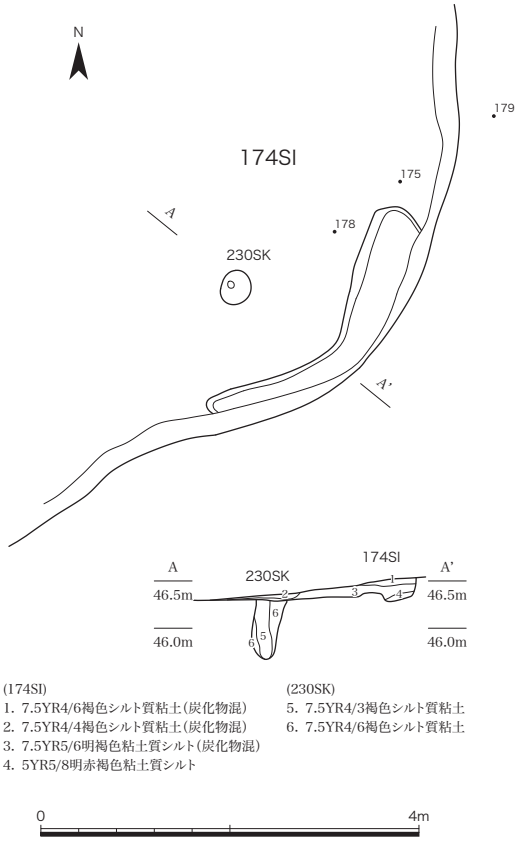
出土土器は甕（183 ～ 185）、有段高杯（188・189）等がある。甕の脚台（183・184）は全体に内彎する形状で、中実の部分を残す。有段高杯の杯部（188）は上半が上方に立ち上がり、盤状に近い。凹線文系の（脚付）鉢（186）が混在する（第 123 図）。その他、花崗岩製砥石（89）、片麻岩製台石（104）が出土した（第 181・182 図）。

176SI出土土器

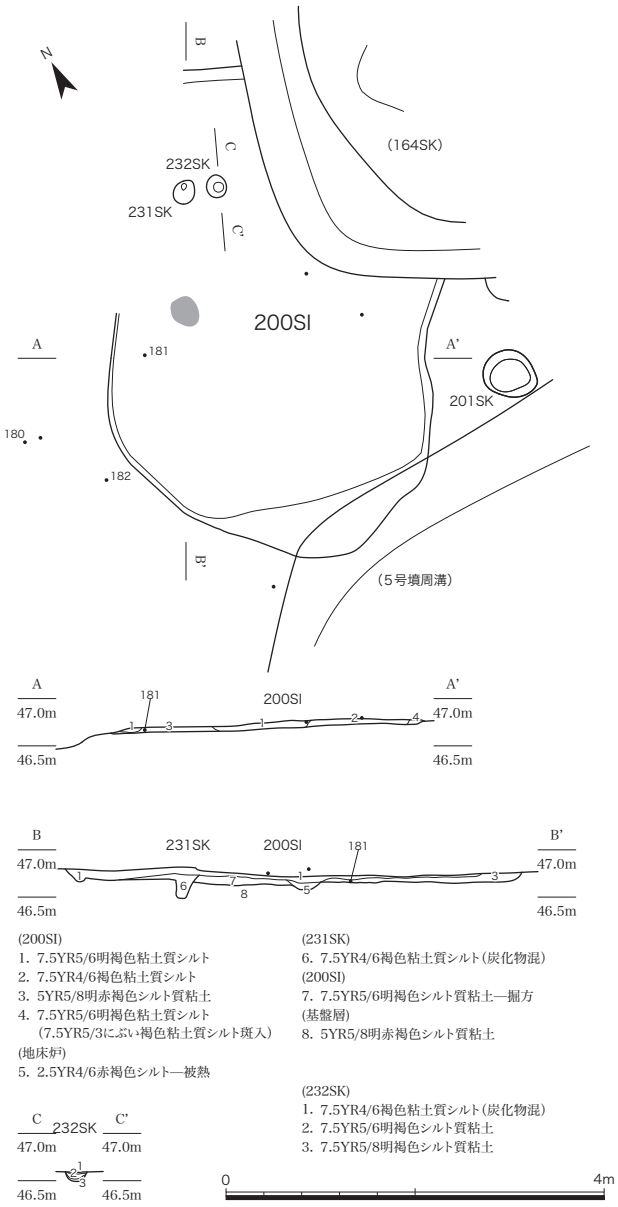
砥石・台石

時期は 114SI に近接することから４期以前、出土土器の様相から３期とした（凹線文系土器の出土を重視すれば２期以前の可能性もある）。

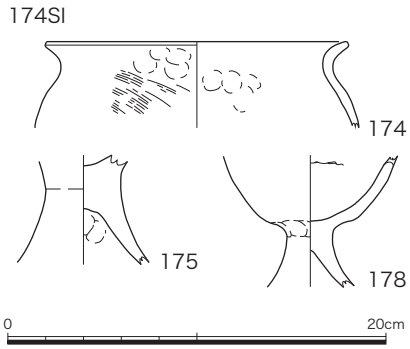
時期



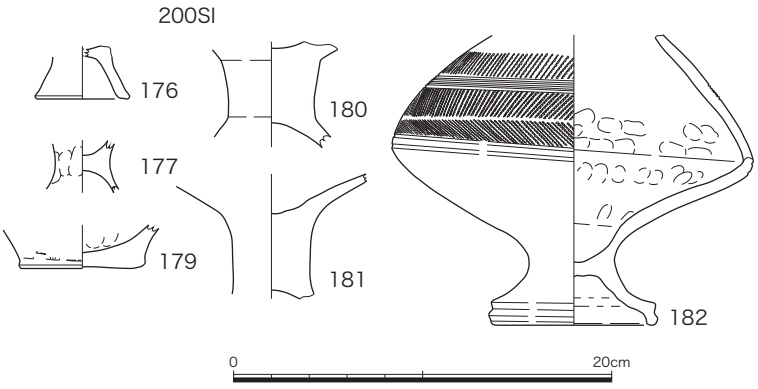

第118図　174SI遺構図（1:80）



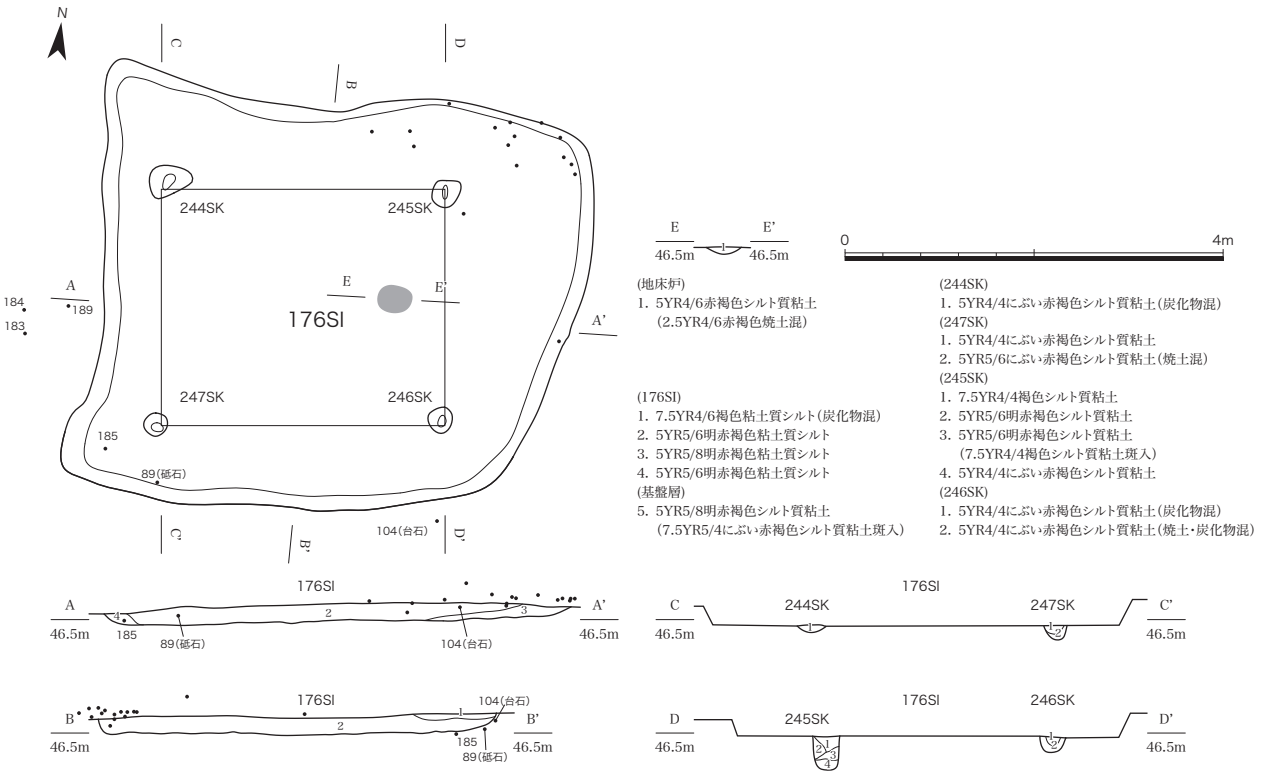

第120図　200SI遺構図（1:80）



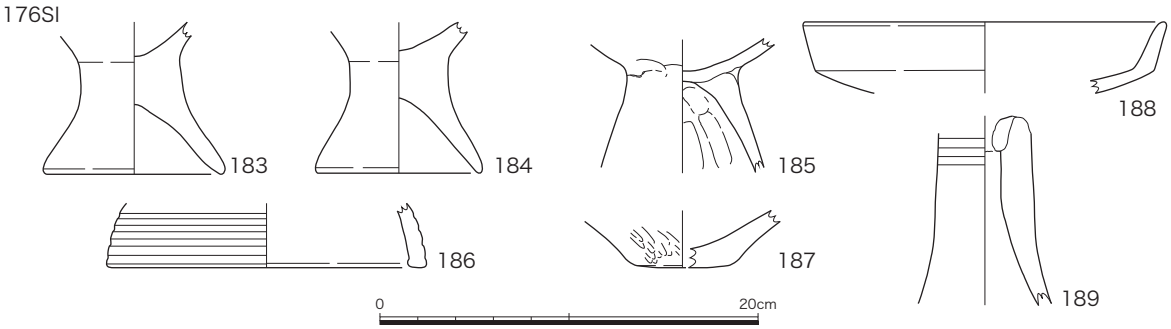

第119図　174SI遺物実測図（1:4）




第121図　200SI遺物実測図（1:4）




第122図　176SI遺構図（1:80）



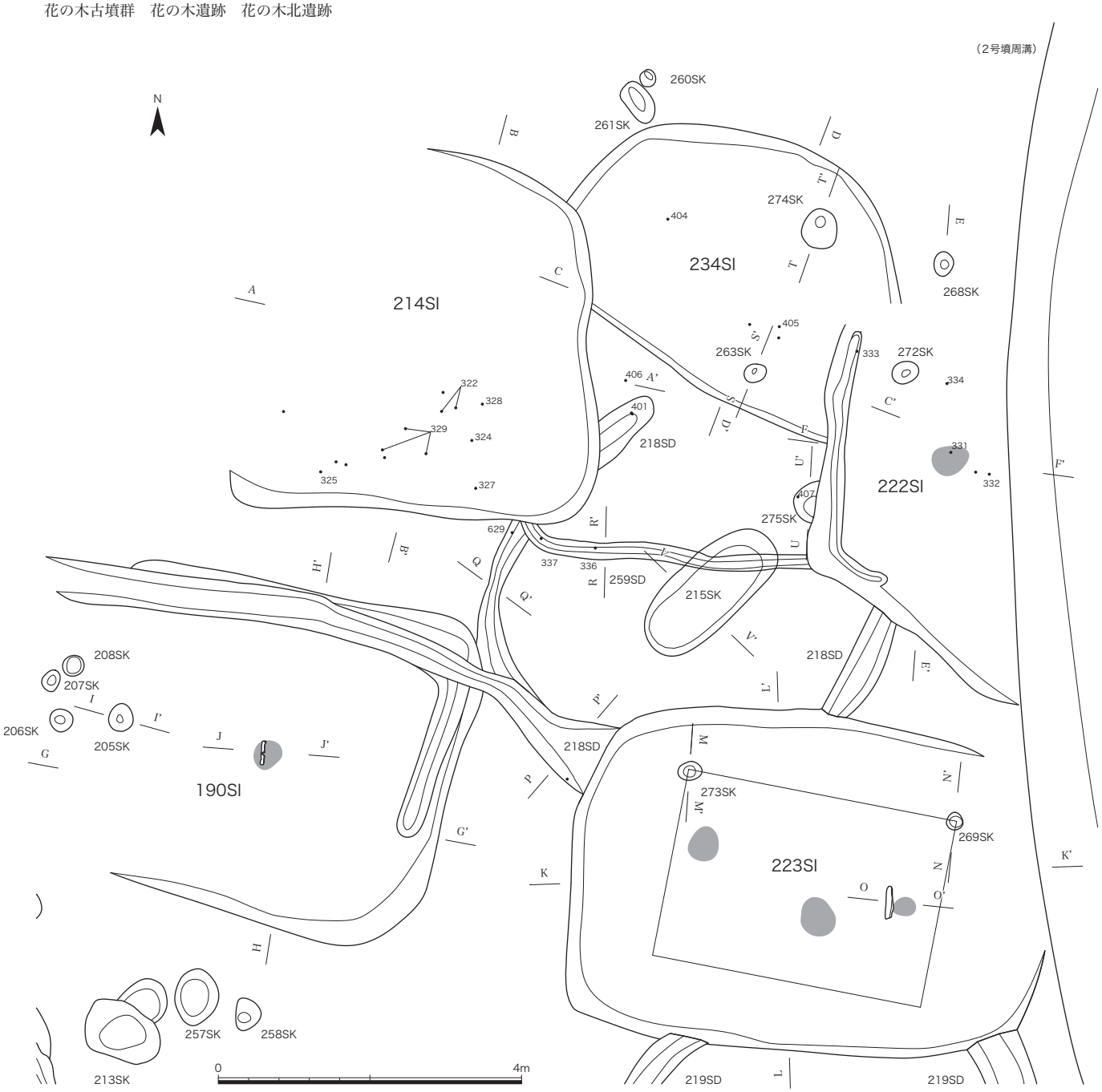

第123図　176SI出土土器実測図（1:4）

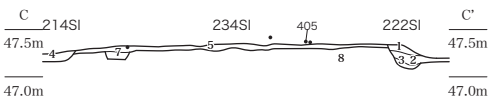
## 190SI

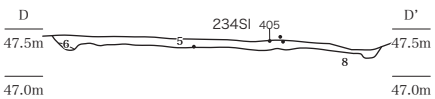
斜面側の西辺は流失するが、平面長方形の中型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。調査時には北辺の壁周溝を 223SI の排水溝 218SD と判断したが、出土土器を検討した結果、土器は 223SI ではなく 190SI（の壁周溝）に帰属し、むしろ 223SI の排水溝は 190SI を避けるようにして掘削されたと判断した。平面図は修正していない（第 124・125 図）。　検出状況

西辺付近に柱穴様の小土坑が散在するが、明確な主柱穴は検出されなかった。中軸線上に端部に敲打痕がある角柱状の安山岩（第 183 図 110）を埋設した埋石炉を検出した。北辺付近からは遺物がまとまって出土した（第 126 図）。　遺物出土状況

出土土器は甕（190 ～ 199）、小型高杯（200）、有段高杯（201・202）等がある。甕が多くを占める組成が特徴的である。甕の口縁部（190 ～ 195）はいずれも短く緩やかに外反する。全体の器形は体部上半が張る一群（190 ～ 192）とほとんど張らない一群（194・195）に分かれる。前者には刻みを密に施す個体（190）もある。脚台は全体に内彎する　190SI出土土器



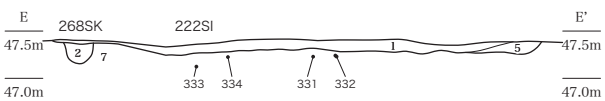


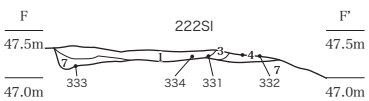



(214SI)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト(焼土混)
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
3. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(基盤層)
4. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

(222SI)
1. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
3. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
(214SI)
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)

(234SI)
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
6. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
7. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
(基盤層)
8. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土



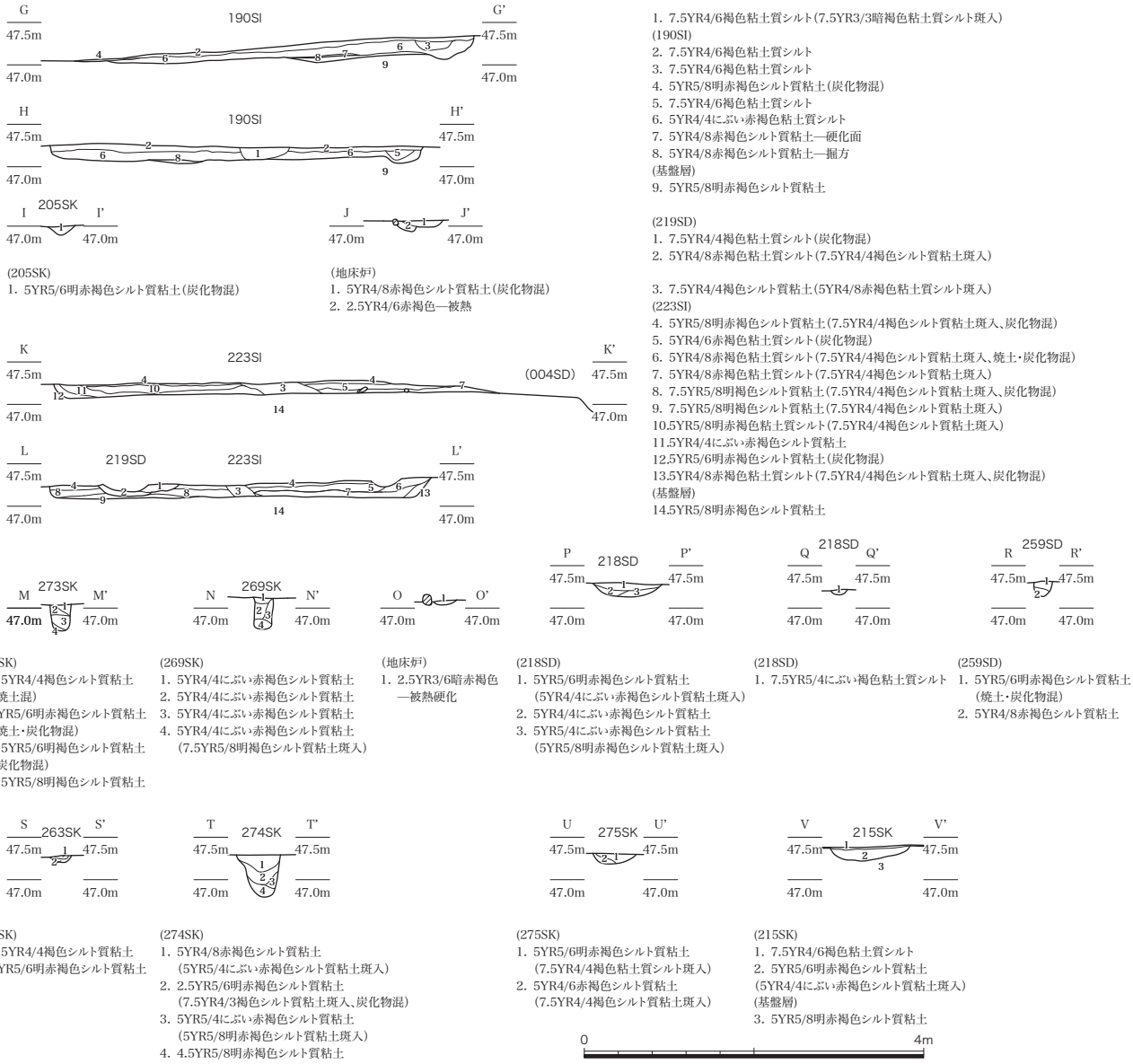




(222SI)
1. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
(268SK)
2. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土

(222SI)
3. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
4. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土

6. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
(基盤層)
7. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

第124図　190SI・214SI・222SI・223SI・234SI遺構図1（1:80）




1. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト斑入)
(190SI)
2. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
3. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
4. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
5. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
6. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
7. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土―硬化面
8. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土―掘方
(基盤層)
9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

(219SD)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)
2. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)

3. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR4/8赤褐色粘土質シルト斑入)
(223SI)
4. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
5. 5YR4/6赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
6. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
7. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
8. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
9. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
10.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
11.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
12.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
13.5YR4/8赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
(基盤層)
14.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

(205SK)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)

(地床炉)
1. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
2. 2.5YR4/6赤褐色―被熱

(273SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(焼土混)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
3. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
(炭化物混)
4. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土

(269SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
3. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入)

(地床炉)
1. 2.5YR3/6暗赤褐色
―被熱硬化

(218SD)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
3. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)

(218SD)
1. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト

(259SD)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
2. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土

(263SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土

(274SK)
1. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
2. 2.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
3. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
4. 4.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

(275SK)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
2. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)

(215SK)
1. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)
(基盤層)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

第125図　190SI・214SI・222SI・223SI・234SI遺構図２（1:80）

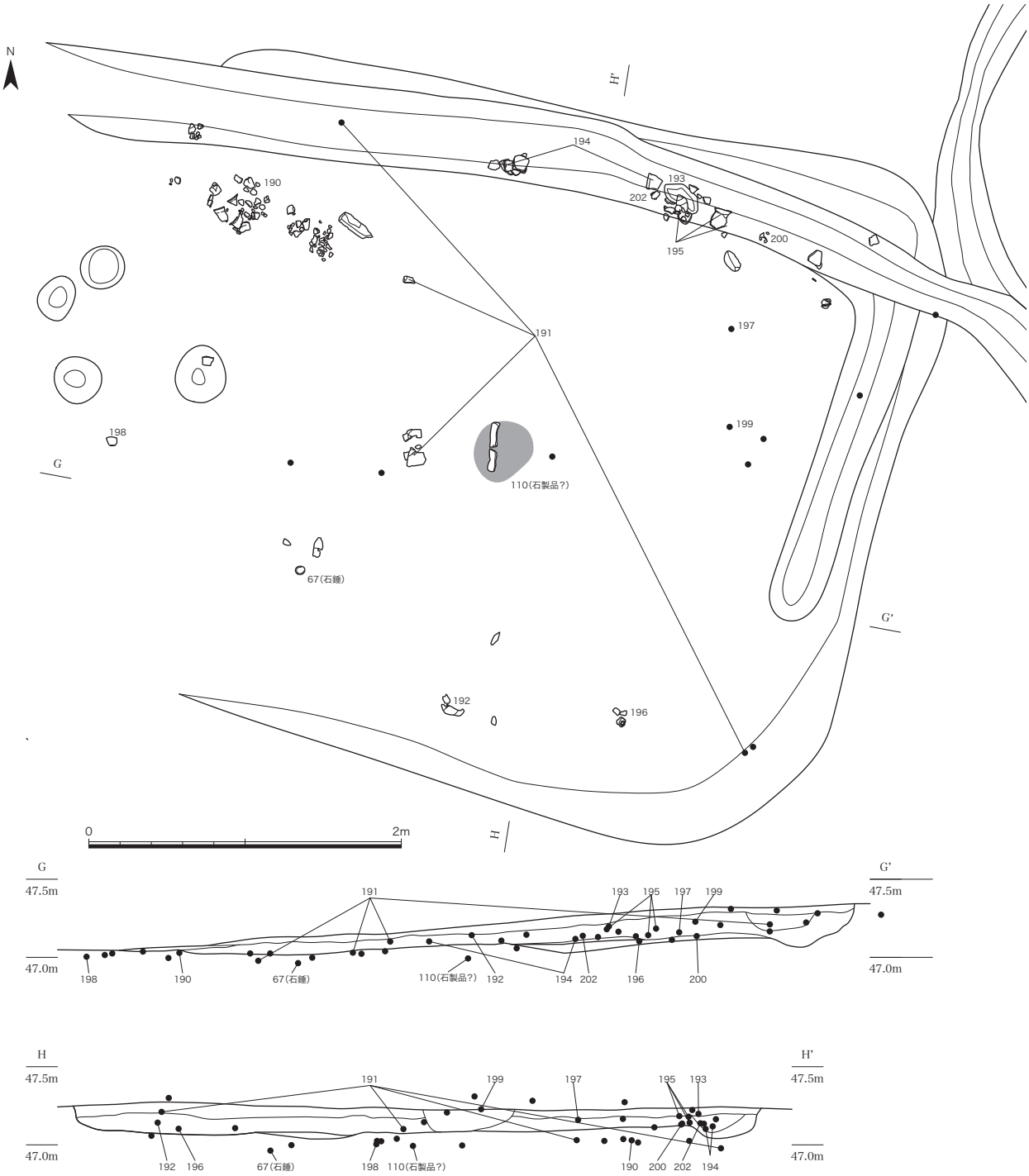
形状（196・197)、やや低い直線的な形状（198）がある（第 127 図)。その他、塩基性凝灰岩製礫石錘（67）が出土した（第 179 図)。　礫石錘

時期は出土土器の様相から２期とした。３期から４期とした 223SI（後述）の排水溝が廃絶後、埋没過程にあった 190SI を避けて掘削されたと判断したこととも整合的である。　時期

195SI

中央付近に５号墳周溝が重複し大きく欠失するが、平面長方形の中型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴として 251SK、252SK、253SK、255SK を検出した。南西隅に貯蔵穴様の土坑 255SK を検出したが、掘方が浅くやや不確実である。地床炉等は５号墳周溝の重複により欠失していると思われる（第 128 図)。　検出状況

出土土器は甕（203 ～ 209)、有段高杯（211 ～ 213）等がある。甕（203・204）の口縁部はいずれも短く緩やかに外反し、体部には張りがない。脚台は高く直線的な形状　195SI出土土器




第126図　190SI遺物出土状況図（1:40）

(206)、やや低い直線的な形状（207)、底部が薄く平坦な形状（209）がある。有段高杯杯部（211）は口縁部先端付近が張り出す（第 129 図)。その他、安山岩製砥石（97）が出土した（第 181 図)。

砥石

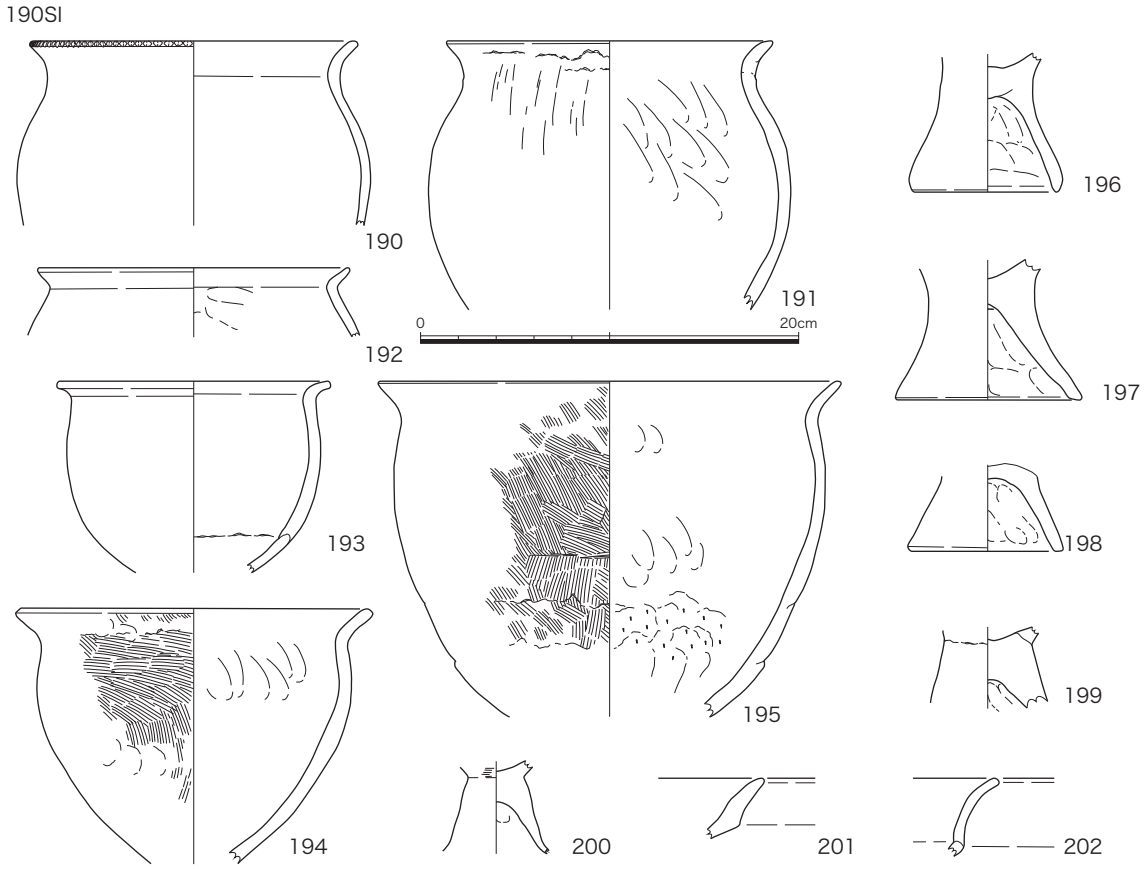
時期

時期は出土土器の様相から３期から４期とした。

196SI・198SI・199SI

196SI検出状況

196SI は平面長方形の中型竪穴建物として全形を検出した。南東隅からは排水溝



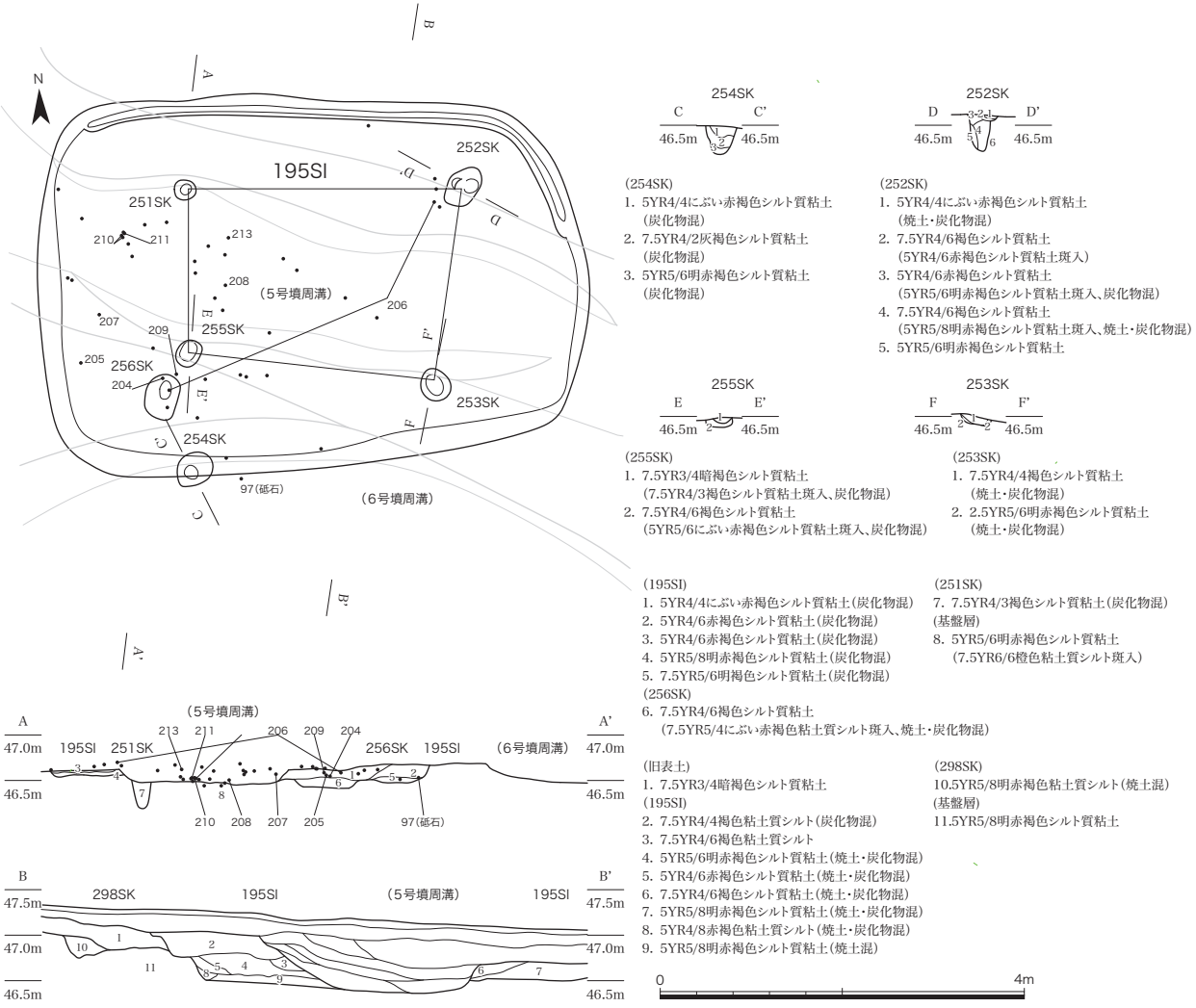

第127図　190SI出土土器実測図（1:4）

224SD・225SD が西・北西斜面に向かって伸びる。中軸線上の中央からやや偏した位置に地床炉を検出した。224SD・225SD は 198SI と重複するが、遺構検出時に排水溝の認識がなく、結果として 198SI の床面精査時に溝を検出した。先後関係については、224SD･225SD 覆土中の遺物包含状況からすると､198SI に対して 224SD･225SD（196SI）が後出することが確かめられるので、先後関係を修正した。主柱穴は明確ではない（第 130 図）。西半と排水溝 224SD･225SD から遺物がまとまって出土し､東辺に沿って小型（ミニチュア）土器が３個体（240・242・245）が出土した（第 131・134 図）。　先後関係　遺物出土状況

198SI は 199SI と重複し、199SI が後出する。198SI は西辺が土坑（倒木痕）196SK、南辺が５号墳周溝によって失われる。266SK が北東の主柱穴の可能性がある。地床炉を検出した（第 130 図）。　198SI検出状況

199SI は南半が５号墳周溝によって失われることもあって、主柱穴、地床炉は検出されなかった（第 136 図）。北東隅付近と５号墳周溝付近から遺物がまとまって出土したが、後者は周溝掘削時に露出したこともあって、表面が著しく風化していた（第 137 図）。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52477）は、2σ暦年代範囲で 8-128calAD（95.21％）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。　199SI検出状況　遺物出土状況　年代測定

196SI 出土土器は甕（215 ～ 223）、広口壷（224 ～ 228）、中型鉢（231）、有段高杯（234 ～ 236）、小型高杯（237 ～ 241）、小型鉢（242）等がある。床面上で検出した小土坑 271SK 出土土器は有段高杯（247）、小型高杯（248）等がある。付随する排水溝　196SI出土土器




(254SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(炭化物混)
2. 7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土
(炭化物混)
3. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(炭化物混)

(252SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
2. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入)
3. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
4. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土

(255SK)
1. 7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
2. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/6にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)

(253SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)
2. 2.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(焼土・炭化物混)

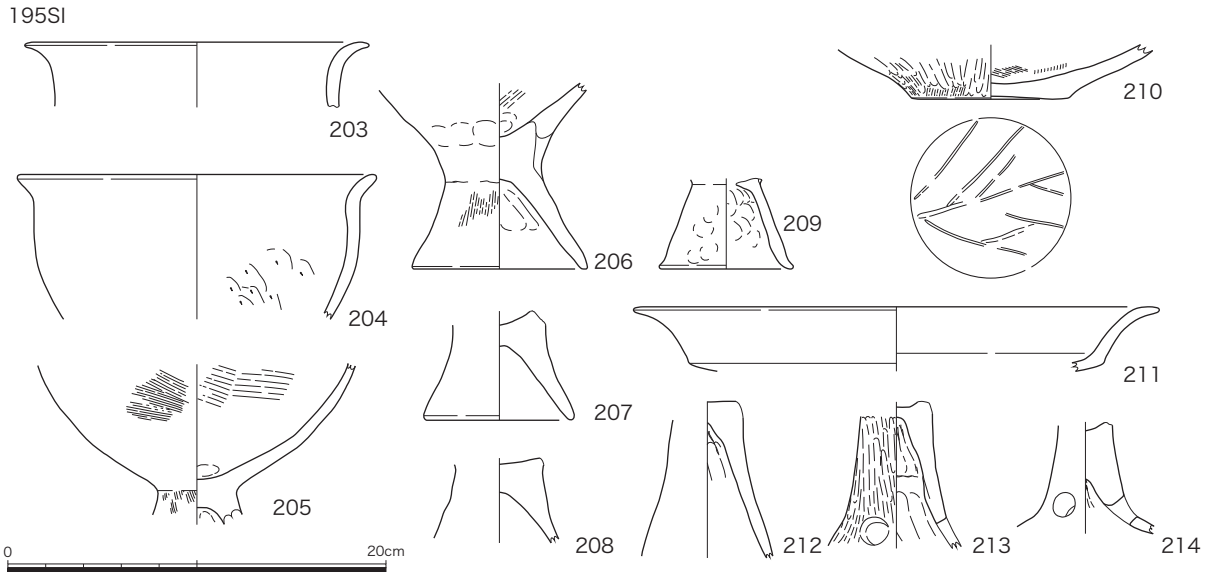
(195SI)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
2. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
3. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
4. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
5. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土(炭化物混)
(256SK)
6. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)

(旧表土)
1. 7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土
(195SI)
2. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
4. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
5. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
6. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
7. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
8. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(焼土・炭化物混)
9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(焼土混)

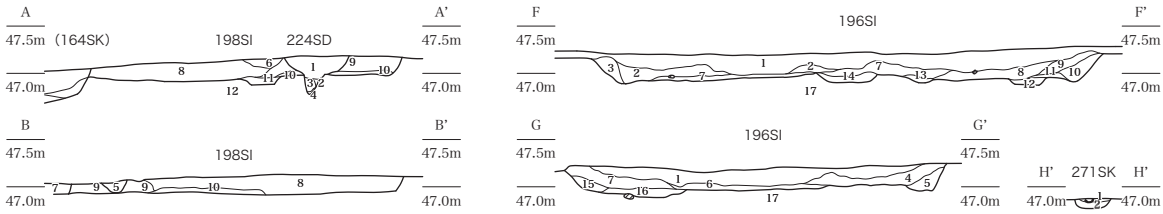
(251SK)
7. 7.5YR4/3褐色シルト質粘土(炭化物混)
(基盤層)
8. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入)

(298SK)
10.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(焼土混)
(基盤層)
11.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

第128図　195SI遺構図（1:80）




第129図　195SI出土土器実測図（1:4）




(224SD)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
3. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入)
5. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)

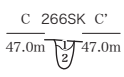
(198SI)
6. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
7. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
8. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
9. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
10. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
11. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土

(基盤層)
12. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土

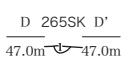
(196SI)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
4. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
5. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
6. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(7.5YR4/6褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
7. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
8. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
9. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土(炭化物混)
10. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
11. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土—硬化
12. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
13. 2.5YR4/6赤褐色シルト質粘土—被熱
14. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト
15. 5YR4/6赤褐色粘土質シルト
16. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(5YR3/6暗赤褐色粘土質シルト斑入)

(基盤層)
17. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

(271SK)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(炭化物混)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土



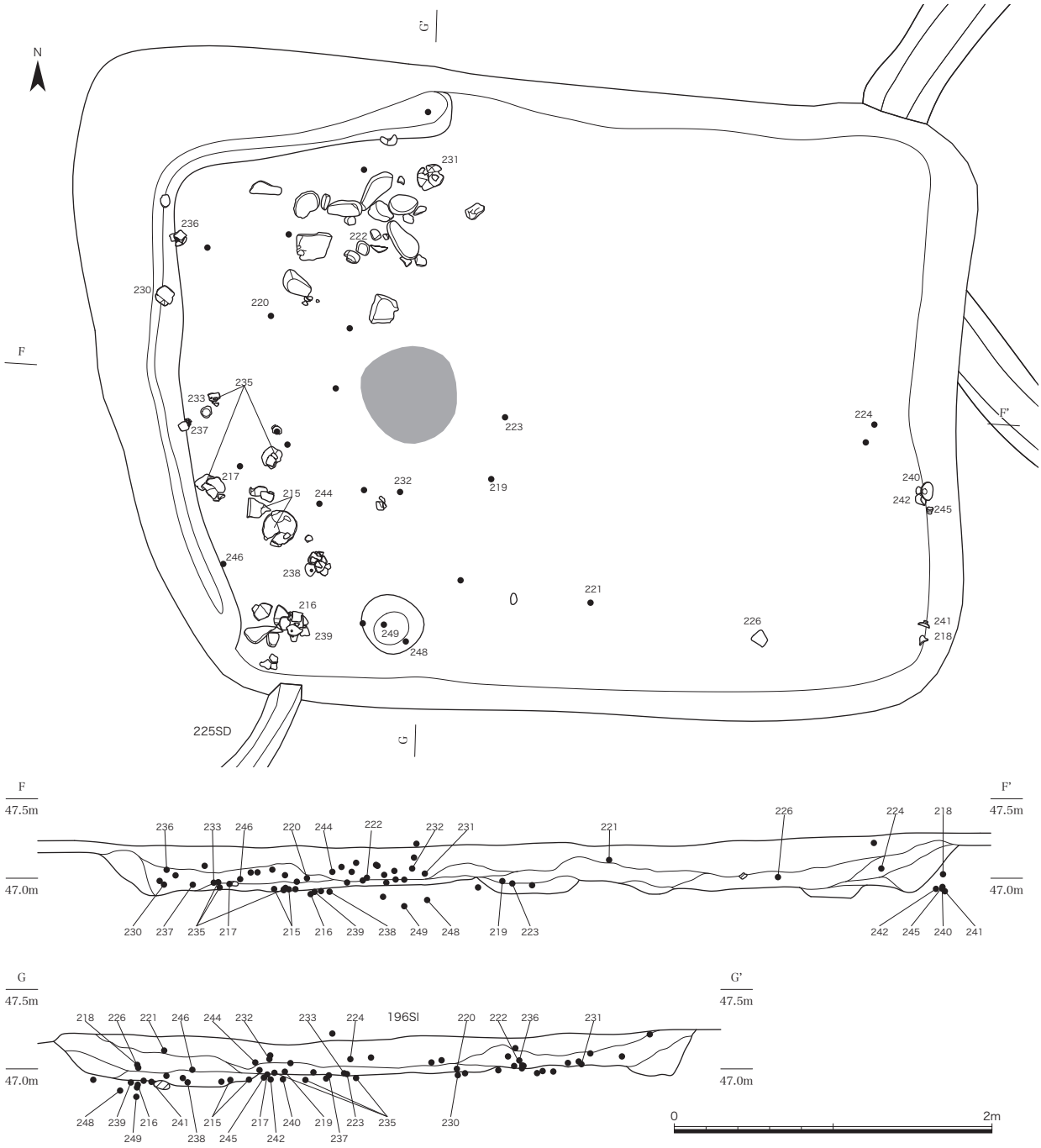

(266SK)
1. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
2. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)




(265SK)
1. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)

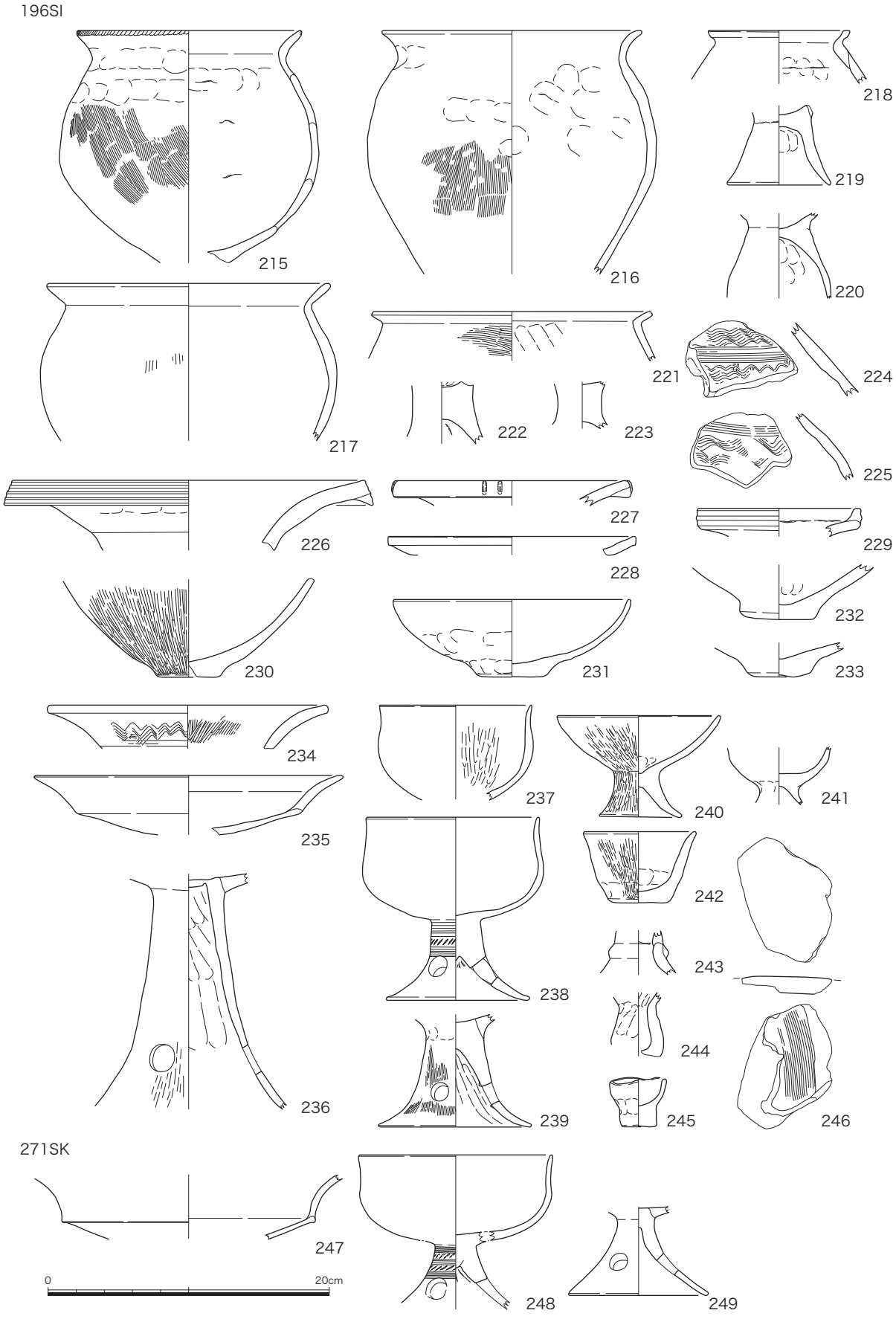
(地床炉)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土

第130図　196SI・198SI遺構図（1:80）

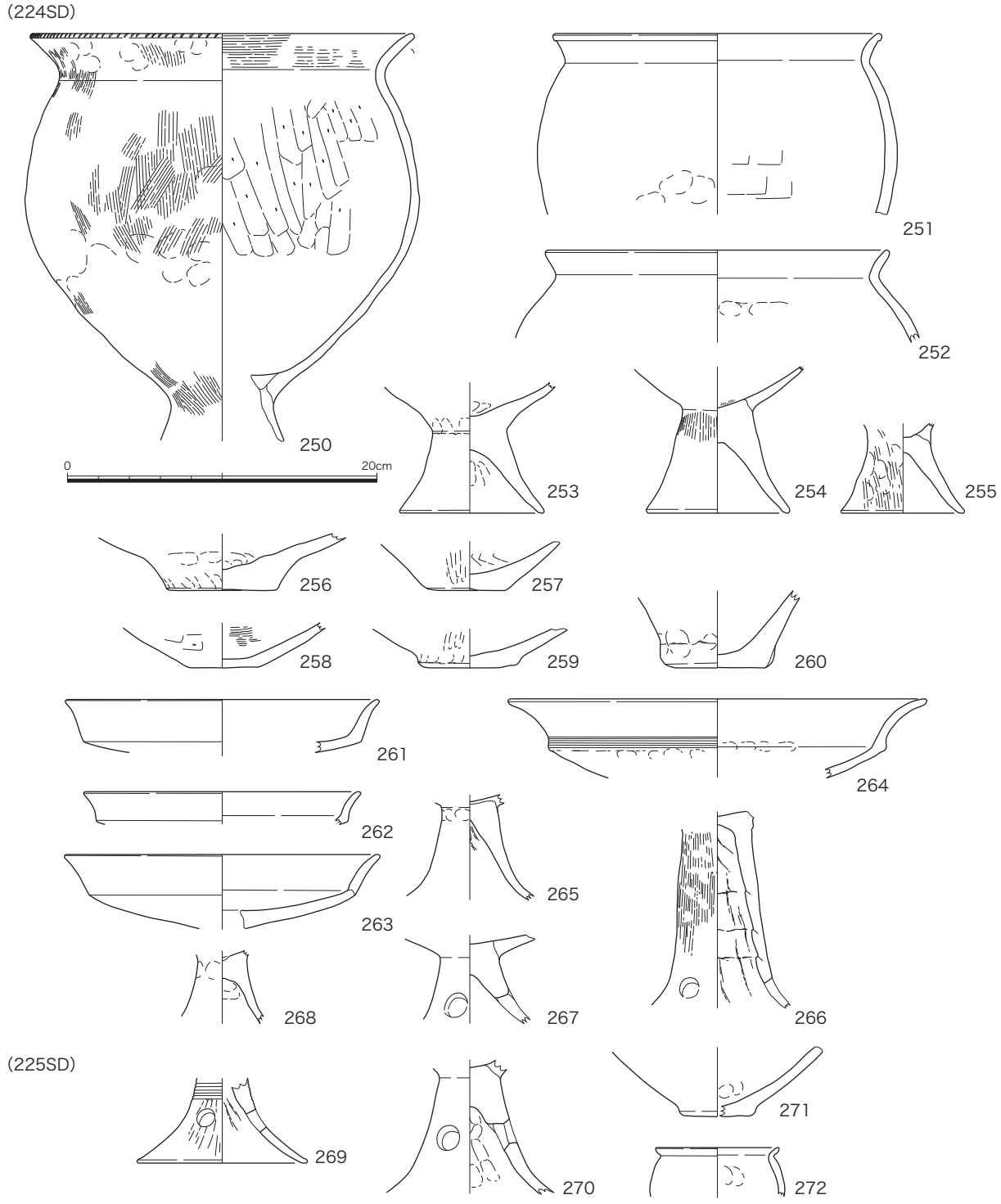



第131図　196SI遺物出土状況図（1:40）

224SD 出土土器は甕（250 ～ 255）、有段高杯（261 ～ 266）等がある。排水溝 225SD 出土土器は高杯（269・270）等がある。これらに加えて三河系の甕（221 ～ 223）、細頸壷（229･243）、台形土器（246）等、先行する時期の土器が一定量混在する。甕（215 ～ 217・250 ～ 252）はやや長く屈曲気味の口縁部が多い。脚台（253 ～ 255）はやや高く外反する形状（253･254）、やや低く外反する形状（255）がある。加飾広口壷（226･227）は断面三角形状の突帯を付加する垂下口縁で、擬凹線を施す個体（226）と細い棒状浮文を付加する個体（227）がある。中型鉢（231）は壷の体部下半と製作を同じくする。有段高杯杯部は上段が大きく外反する一群（234・235・247・264）と、わずかに外反




第132図　196SI出土土器実測図１（1:4）

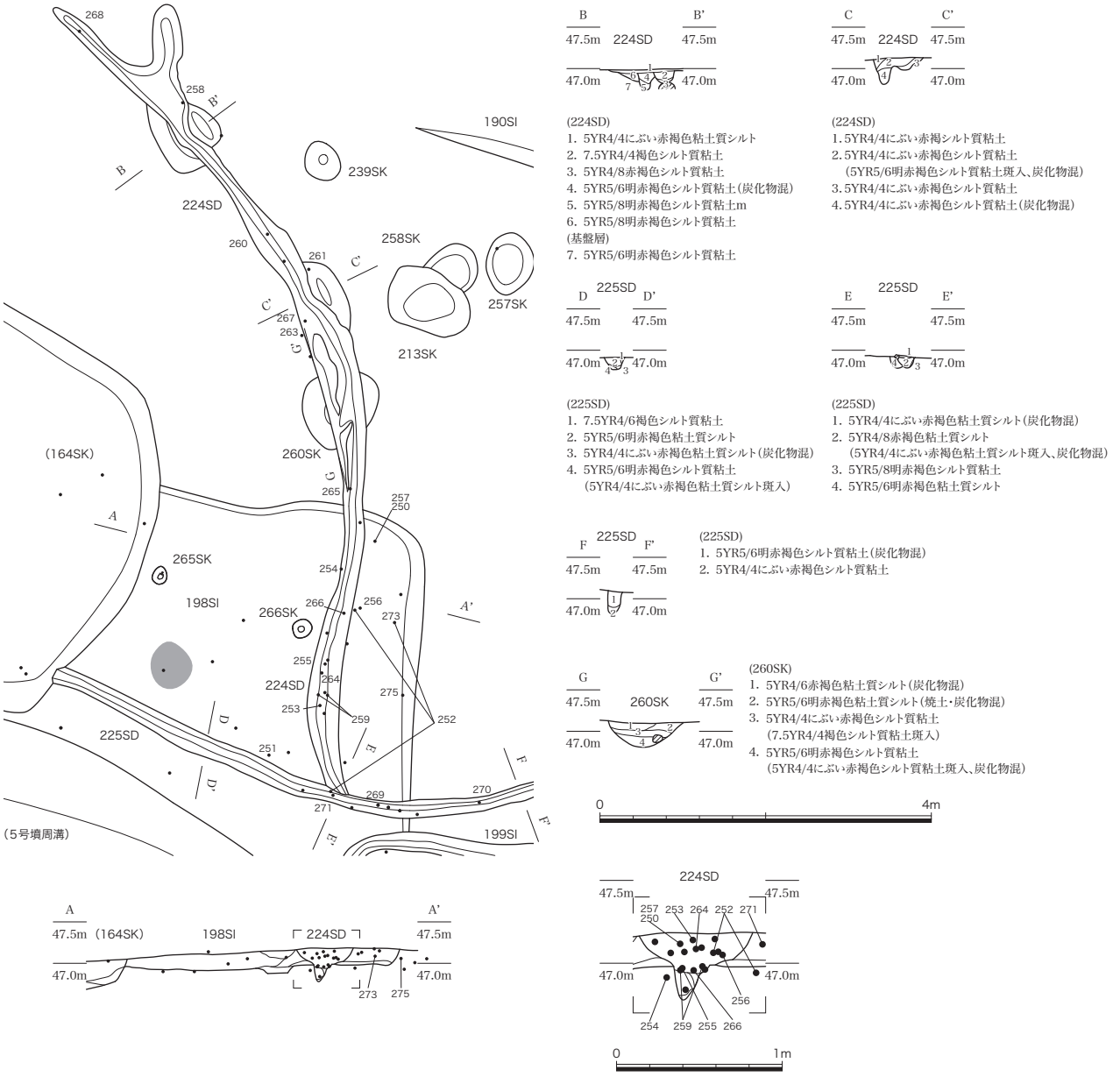



第133図　196SI出土土器実測図２（1:4）

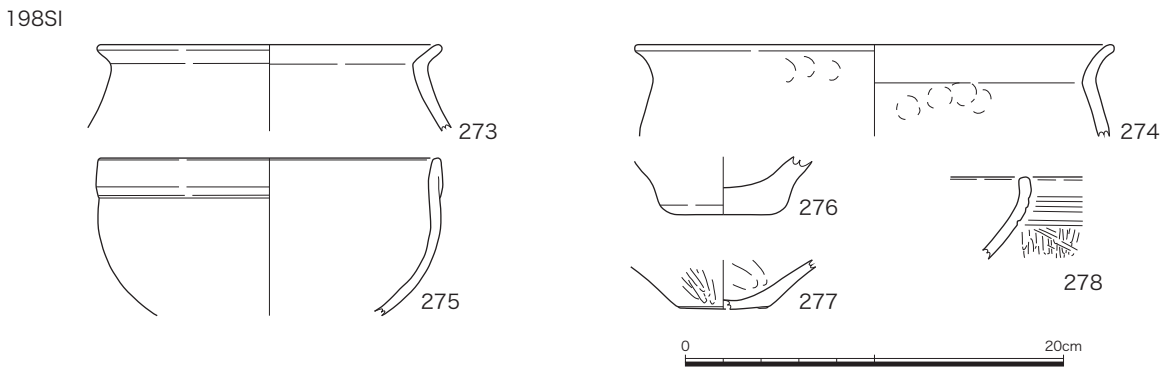
する一群（261 ～ 263）の両者がある。有段高杯脚部（236）は全体に器壁が薄い。小型高杯は鉢状の杯部（241）とワイングラス形の杯部（237・238・248）がある。後者はごくわずがに彎曲する口縁部が多い（第 132・133 図）。甕（216）の体部外面から採取した付着炭化物の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52482）は、2 σ暦年代範囲で 19-129calAD（93.94%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。その他、珪質

年代測定

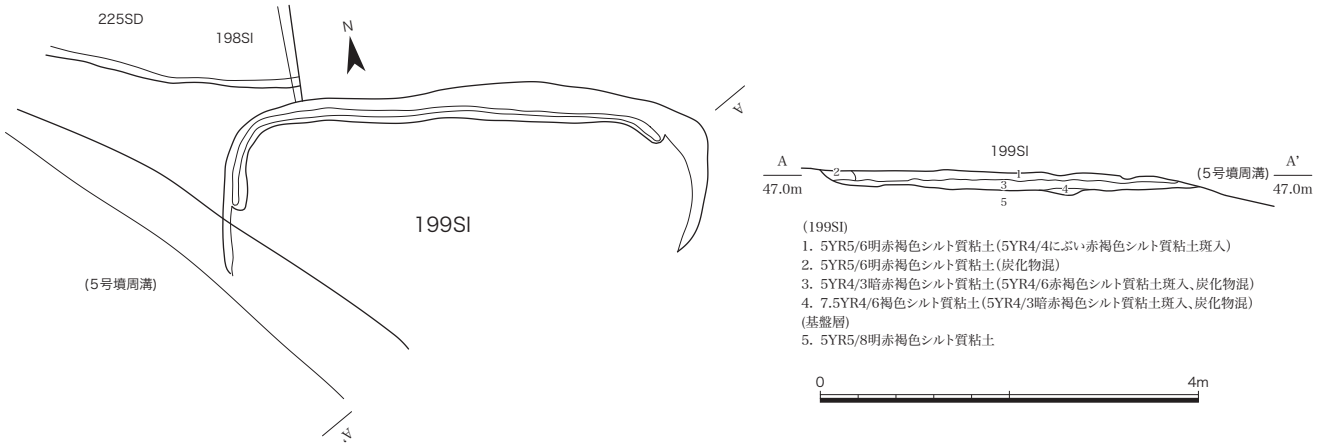
敲石？




第134図　196SI（224SD）遺物出土状況図（1:80・1:40）




第135図　198SI出土土器実測図（1:4）



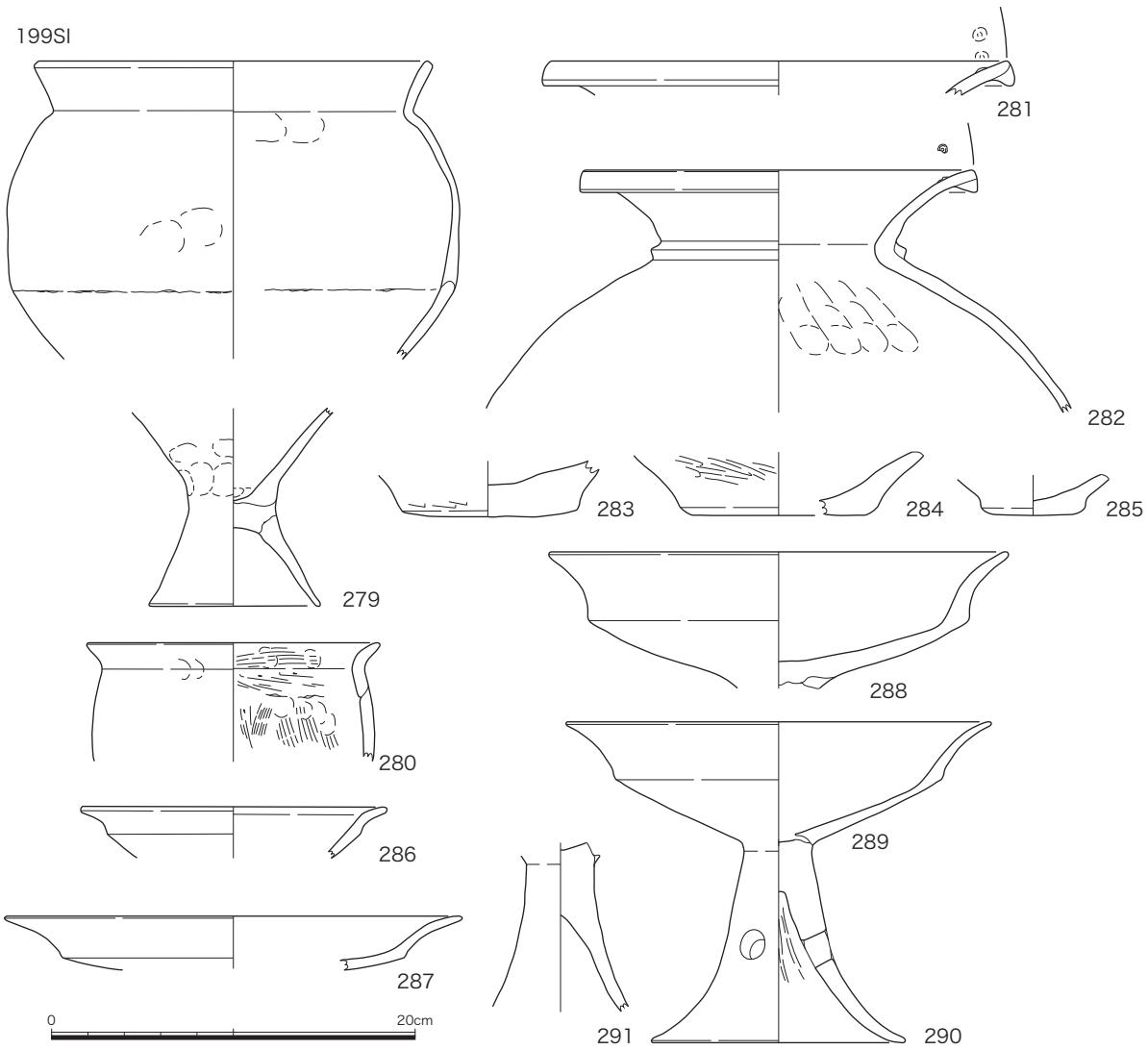

第136図　199SI遺構図（1:80）

第137図　199SI遺物出土状況図（1:40）

岩製敲石？（75）が出土した（第 180 図）。

198SI出土土器　198SI 出土土器は甕（273・274）、中型鉢（275）等がある。甕（273・274）は短くやや屈曲気味に外反する口縁部（273）、やや長く屈曲気味に外反する口縁部（274）がある。中型鉢（275）は縁帯状の口縁部を特徴とする（第 135 図）。

199SI出土土器　199SI 出土土器は甕（279・280）、広口壷（281・282）、小型有段高杯（286）、有段高杯（287 ～ 291）等がある。甕（279）は口縁部が長く屈曲気味で、脚台は直線的でやや低い。加飾広口壷（281・282）はいずれも口縁部先端に断面三角形状の突帯を付加して垂下し、内面には円形浮文を付加する。有段高杯杯部（287 ～ 289）は口径が大きく、浅い杯部（287）




第138図　199SI出土土器実測図（1:4）

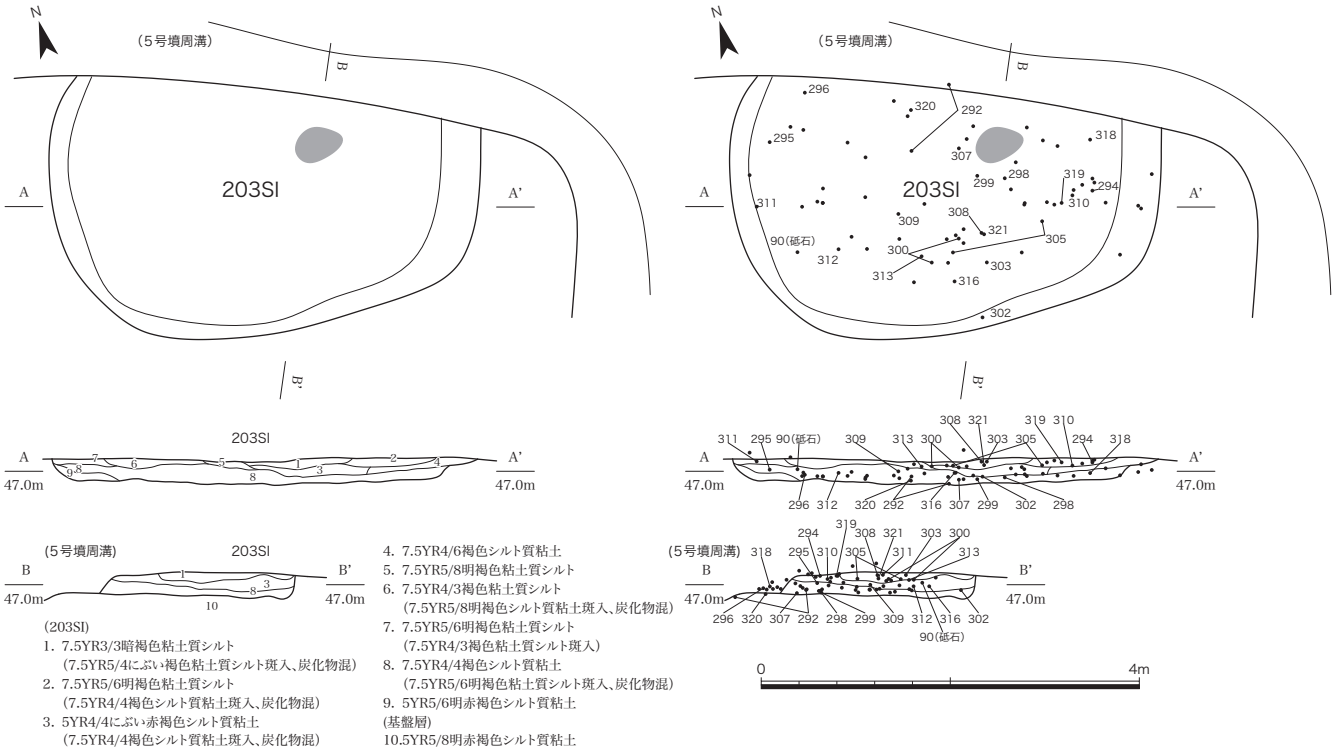
と（下段が）深い杯部（288･289）の両者がある。脚部（290）は中位に透孔を配する（第138図）。その他、片麻岩製砥石（98）が出土した（第181図）。　砥石

遺構の先後関係、出土土器の様相に遺構の平面形を加味して、196SIの時期を４期、198SIの時期を２期、199SIの時期を５期とした。　時期

### 203SI

５号墳下層の旧表土下で検出した。北辺は５号墳周溝によって失われる。中軸線上付近の中央からやや偏した位置に地床炉を検出した。主柱穴は検出されなかった。覆土上層に土器が包含される。下層では礫の集積を検出した（第139図）。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号PLD-53718）は、２σ暦年代範囲で48calBC-62calAD（95.45%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。　検出状況　遺物出土状況　年代測定

出土土器は甕（292～310）、広口壷（311～314）、有段高杯（318・319）等がある。甕の口縁部（292～295）はいずれも短く緩やかに外反し､体部上半はほとんど張らない。脚台（296～310）は柱状中実の脚台（296～298）、全体に内彎する形状（299・300・306・307）、高く直線的な形状（301～304）が多いが、底部が薄く平坦な形状（310）　203SI出土土器




第139図　203SI遺構図・遺物出土状況図（1:80）

も含む。加飾広口壷(311･312)は口縁部先端を拡張し擬凹線を施す。有段高杯杯部(318)

砥石　は上段が大きく外反する。その他、泥質凝灰岩製砥石（90）が出土した（第 181 図)。

時期　時期は出土土器の様相に、小判形の平面形を加味して３期とした。

214SI・222SI・223SI・234SI

検出状況・先後関係　214SI と 234SI、221SI と 234SI が重複し、234SI が 214SI、222SI に対して先行する。223SI 北東隅からは排水溝 218SD が北に向かって伸びる。調査時は 223SI 排水溝 218SD に対して 214SI が後出すると判断したが、出土遺物の様相等から、先後関係を修正した。竪穴建物群に混在して、(223SI 北辺中央付近の）溝 218SD、219SD、259SD 等が検出された。削剥された竪穴建物の壁周溝である可能性も想定されるが、判然としない。

214SI検出状況　214SI は中央付近が大きく剥削され、西辺も流失する。剥削もあって、地床炉、主柱穴

遺物出土状況　は検出されていない。南半から遺物が散在して出土した（第 124・125 図)。

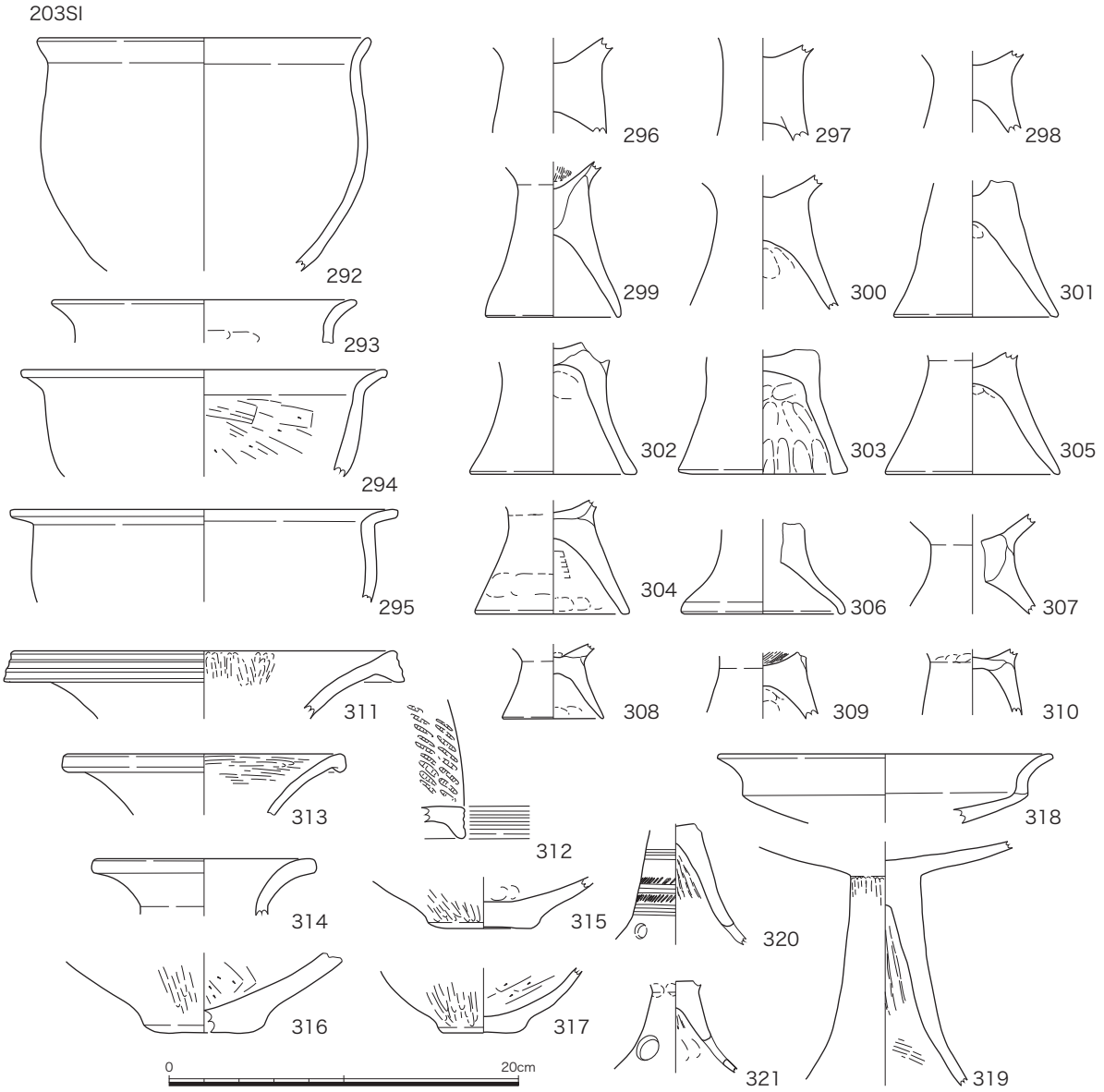
222SI検出状況　222SI は２号墳周溝により大きく欠失する。地床炉を検出したが、主柱穴は明確ではない（第 124・125 図)。

223SI検出状況　223SI は北東隅が２号墳周溝によって失われるが、平面長方形の中型竪穴建物としてほ

遺物出土状況　ぼ全形を検出した。北辺の 269SK、273SK は主柱穴の可能性がある。中軸線上の中央から偏した位置に、角柱状の片麻岩を埋設した埋石炉を検出した。その周囲にも複数の地床炉が検出された。床面付近一帯からは遺物が散在して出土した（第 124・125・143 図)。

年代測定　床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53717）は、２σ暦年代範囲で 2-83calAD（74.41％）の年代直を示した（第５章（１）を参照)。

234SI検出状況　234SI は南辺（南西辺）付近が削剥される。削剥もあって、地床炉は検出されていない。主柱穴も明確ではない（第 124・125 図)。




第140図　203SI出土土器実測図（1:4）

214SI出土土器

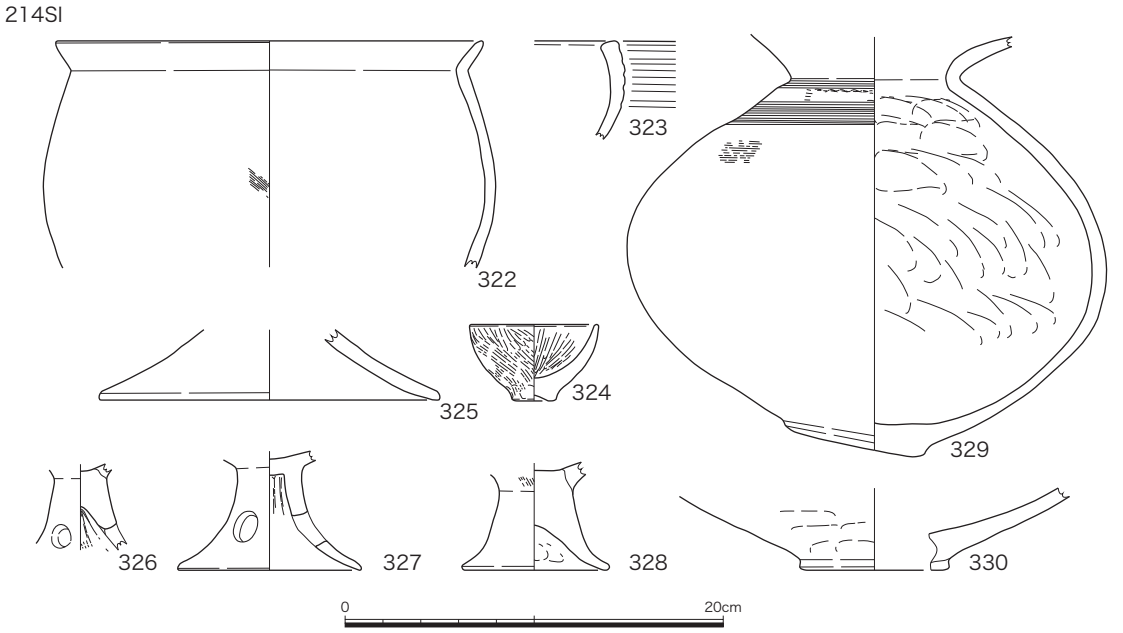
214SI 出土土器は甕（322）、小型鉢（324）、広口壷（329）等がある。甕（322）は口縁部が短く屈曲気味に外反する。小型鉢（324）は半球形に近い器形で、精製度が高い。加飾広口壷（329）は体部中位が大きく張る（第 141 図）。

222SI出土土器

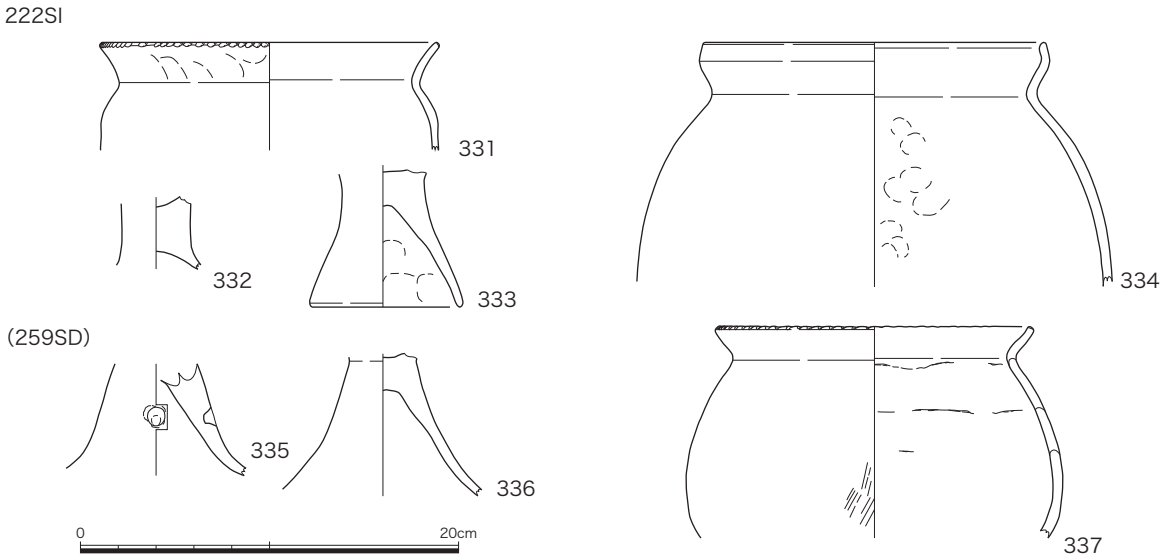
222SI 出土土器は甕（331 ～ 334）、付随する排水溝 259SD 出土土器は高杯（335・336）、甕（337）がある。甕の口縁部（331・337）はやや長く屈曲気味で、先端には密に刻みを施す。有段口縁甕（334）は加飾がなく、口縁部上段が内傾する。甕は総じて器壁が薄い。脚台（332・333）は柱状中実（332）、高く直線的な形状（333）で、いずれも先行する遺構に伴う可能性が高い。335 は 1 方向に貫通しない透孔を穿つ（第 142 図）。

223SI出土土器

223SI 出土土器は広口壷（338 ～ 345）、有段高杯（354 ～ 359）、小型高杯（360 ～ 365）、器台（368）、脚付鉢（369･370）、小型鉢（371･372）、甕（373 ～ 393）等がある。床面で検出した小土坑 269SK 出土土器は有段高杯（397・398）がある。付随する排水

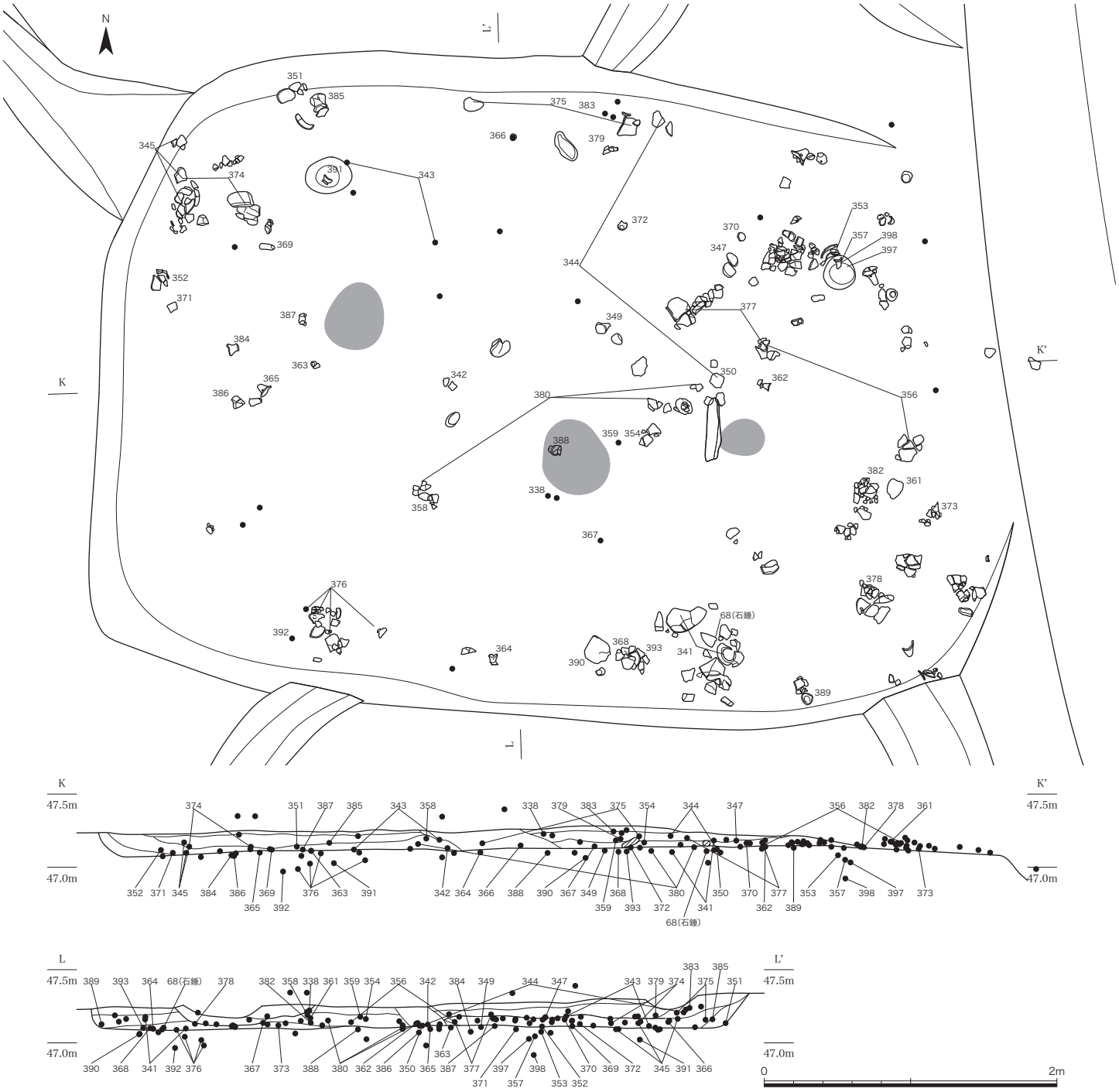



第141図　214SI出土土器実測図（1:4）




第142図　222SI出土土器実測図（1:4）

溝 218SD 出土土器は有段高杯（399・400)、中型鉢（401）等がある。加飾広口壷（338～341）の垂下口縁は、折り曲げによる個体（338・339）と断面三角形状の突帯貼り付けによる個体（340・341）の両者がある。全形が判明する有段高杯（354）は杯部は上段がわずかに外反し、脚部は太く低い。加飾が多い脚部(356) は脚裾付近に透孔を配する。小型高杯でワイングラス形の杯部（360・361）は相対的に小さい杯部（360）と大きい杯部（361）の両者がある。いずれも口縁部付近の彎曲はほとんど失われる。器台（368）は脚部全体が大きく内彎する。甕の口縁部(373～381)は短く緩やかに外反する形状(373・374・380・381)、やや長く屈曲気味の形状（375～379）がある。脚台（383～393）は全体に内彎する形状（383)、やや高く直線的な形状（384～386)、やや低く直線的または外反する形状（387･388）に加えて、底部が平坦で薄い形状（393）がある。その他、

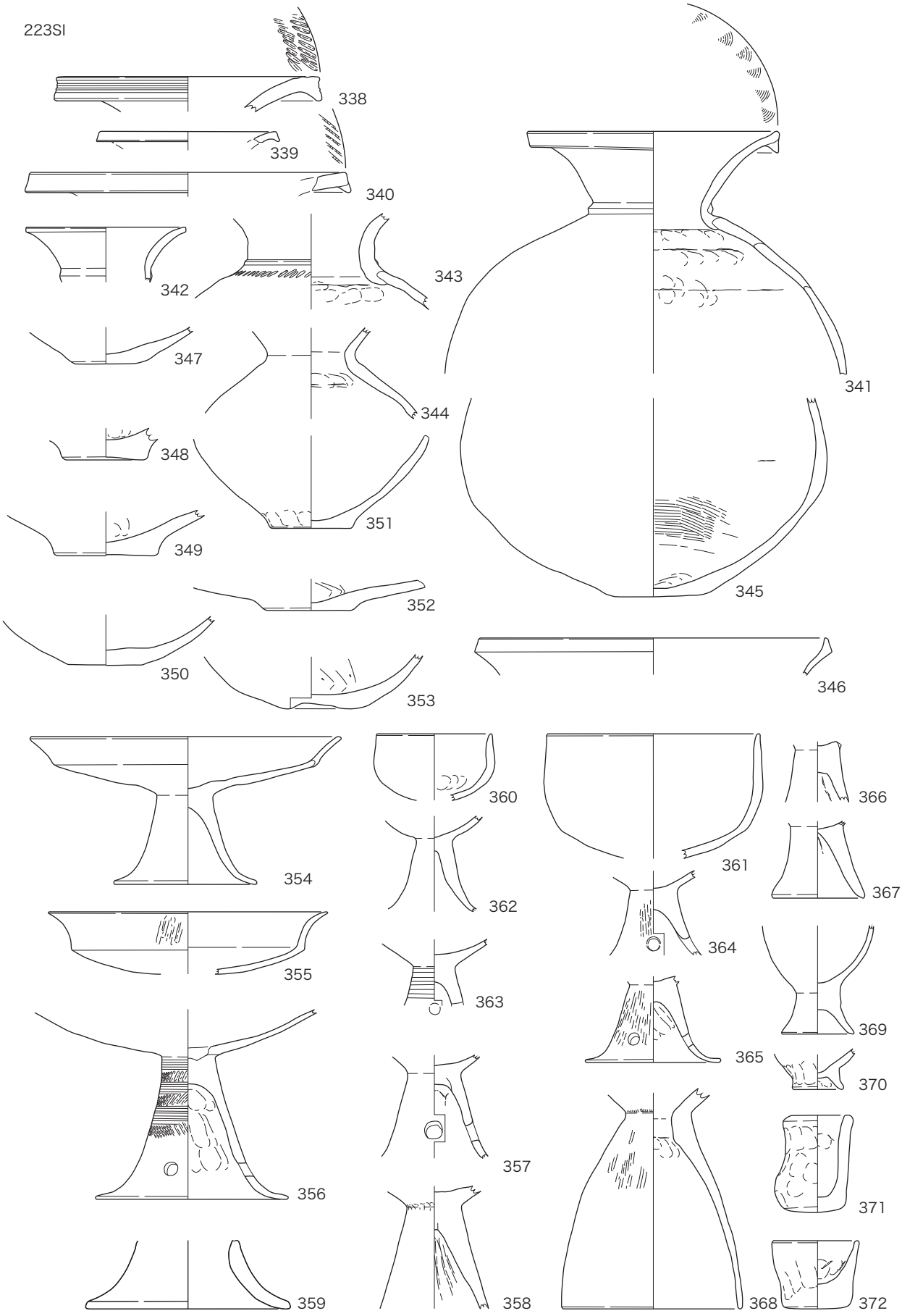



第143図　223SI遺物出土状況図（1:40）

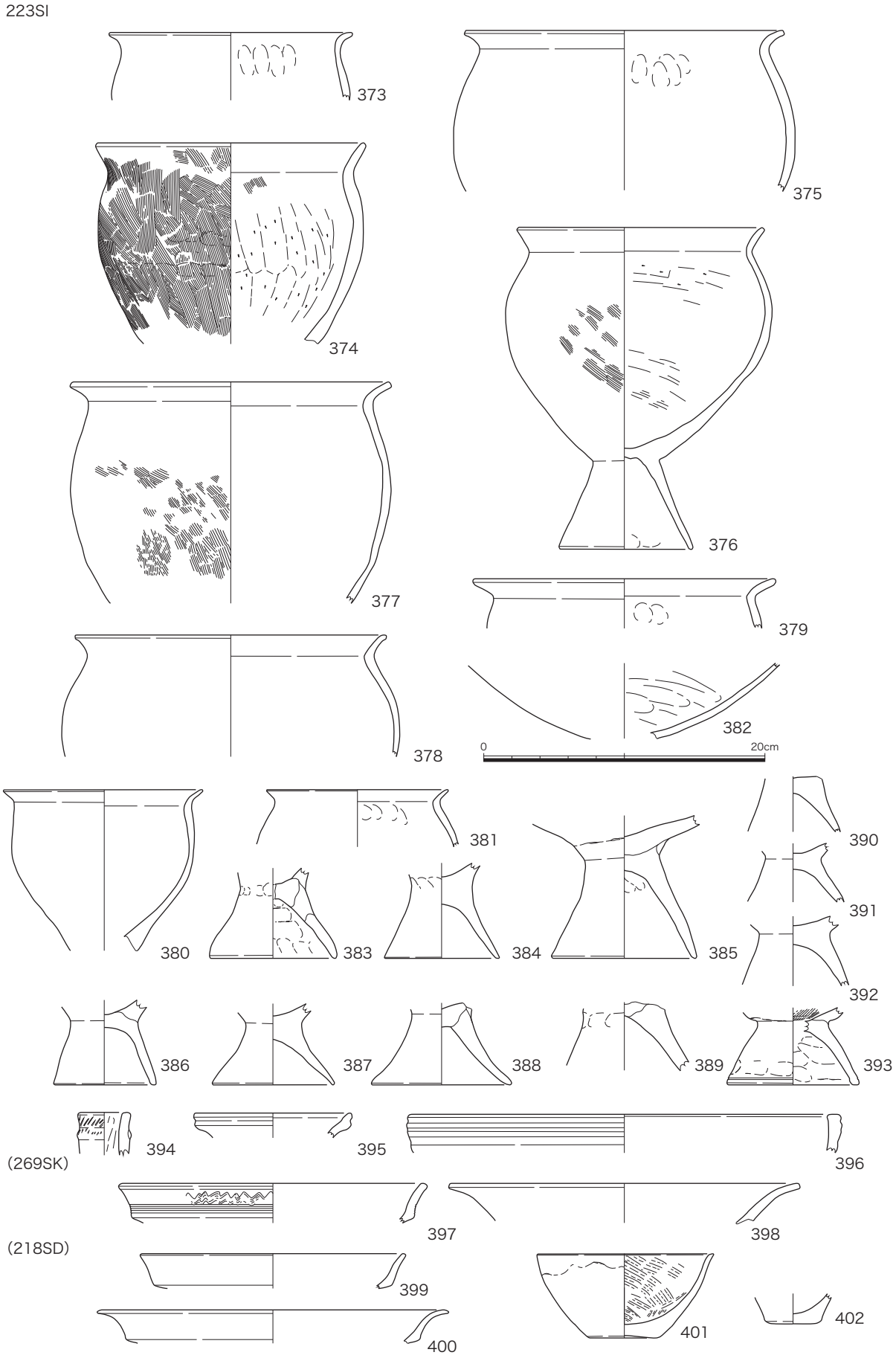
先行する時期の細頸壷（394・395）、凹線文系の鉢（396）が混在する（第 144・145 図）。その他、凝灰質砂岩製礫石錘（68）が出土した（第 179 図）。　礫石錘

234SI 出土土器は甕（403 ～ 405）、脚付小型鉢（406）がある。234SI に付属する可能性がある小土坑 275SK 出土土器は蓋（407）がある。柱状中実の脚台（404）に加えて、脚付小型鉢（406）の脚台も柱状中実である（第 146 図）。

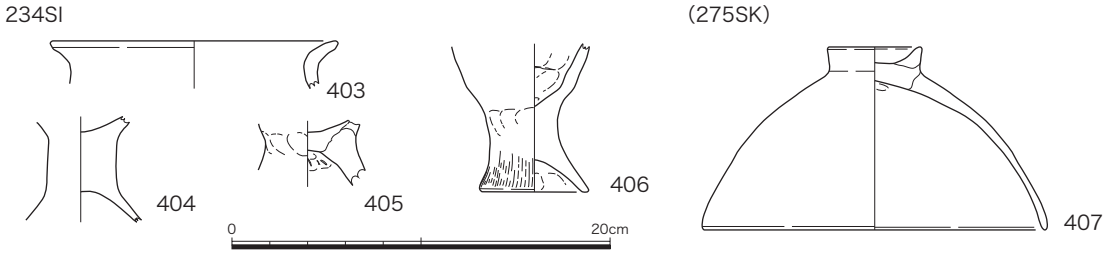
遺構の先後関係に遺構の平面形を加味して、214SI と 222SI に先行する 234SI の時期を１期、214SI の時期を３期、222SI の時期を５期に、223SI の時期を３期から４期とした。　時期




第144図　223SI出土土器実測図１（1:4）




第145図　223SI出土土器実測図２（1:4）




第146図　234SI出土土器実測図（1:4）

### 220SI・221SI・226SI

検出状況・先後関係　３号墳下層の旧表土下で３棟の竪穴建物を検出した。220SI と 221SI は重複し、220SI の床面が 221SI の覆土上面に構築されていることを確認したので、220SI が 221SI に後出することは確実である。

220SI検出状況　220SI は平面長方形の大型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。北辺から西辺が鈍角をなすように検出されたが、炭化材の分布からすると、（台形の）平面形には検討の余地もある。220SI の覆土上面の広範囲には焼土面が認められ、床面付近には北辺の中央付近に

年代測定　設置された方形土坑 276SK を中心に炭化材が散在する（第 147 図）。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52480）は、2 σ暦年代範囲で 46calBC-34calAD（82.52%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

主柱穴は検出されなかった。中軸線上の中央やや東寄り、中央と西辺のほぼ中間で地床

土坑281SK　炉を検出した。前者は土坑 281SK の上面に構築される。281SK の堆積層は黒色を基調としたシルトで、層中から高杯（449）が出土した（第 147 図）。

方形土坑276SK　方形土坑 276SK は（221SI に後出する 220SI の調査完了後、）221SI の調査時に検出した。

遺物出土状況　調査時には 221SI の南西隅に構築された土堤に伴うことを想定したが、掘方が 221SI の南辺から連続せず、方位も一致しない。遺物の平・立面分布をも加味し、本来は 220SI に付属する遺構と判断した（276SK が 221SI の覆土中に掘削されていたこともあって、220SI の床面精査時に見落としていた）。220SI の壁周溝が 276SK に連接することもそれと整合する。土坑掘方に平行する炭化材も土坑上面に残された木質遺物の痕跡であることも考えられる。276SK の覆土中には焼土・炭化物が層状に堆積し、底面は被熱、硬化する（被熱、硬化面は 221SI に伴う可能性もある）。

方形土坑 276SK 周囲からは遺物がややまとまって出土した。東辺の中央付近には礫が集積されていた（第 147・148 図）。

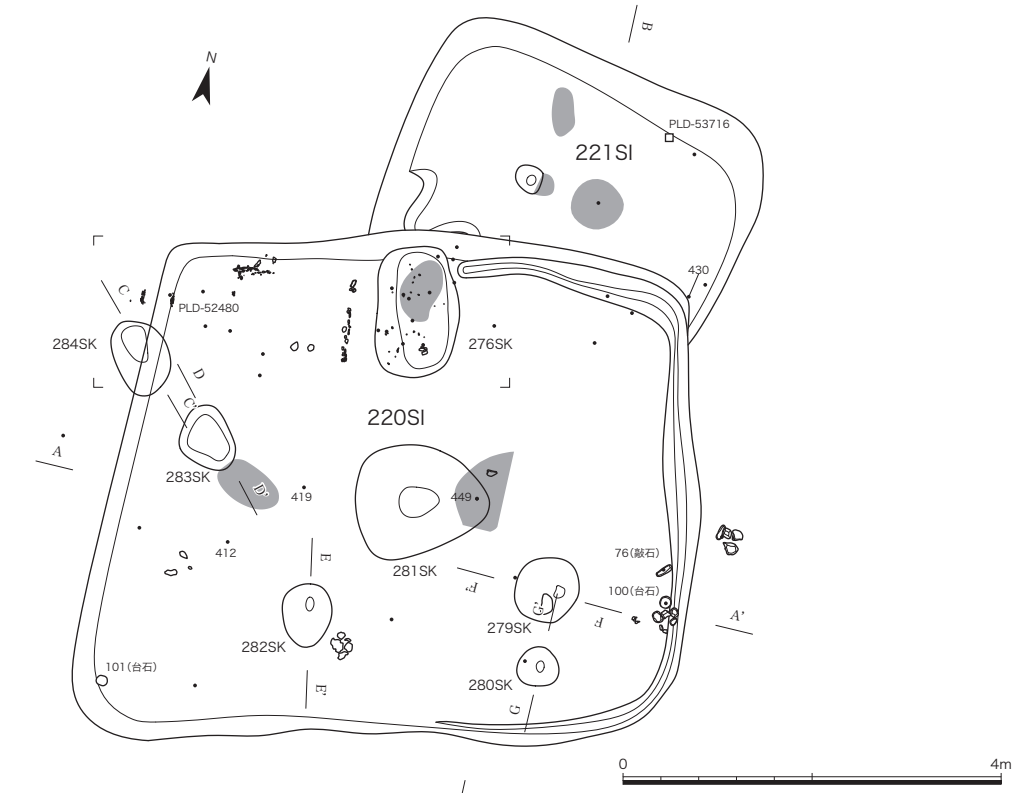
221SI検出状況　221SI は平面方形の小型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴は検出されなかった。床面は広範囲が硬化する。床面中央付近に石製品？を転用したと思われる板状の片麻岩（111）を埋設した埋石炉を検出し、その周囲にも複数の地床炉を検出した。南西隅は

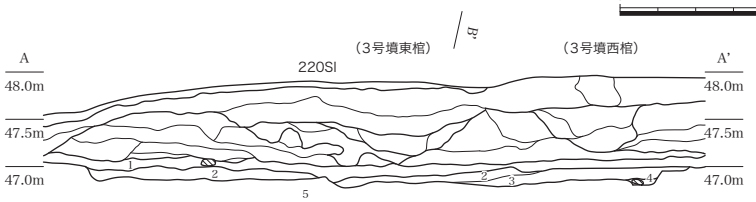
年代測定　硬化面が土堤状に高く検出された（第 150 図）。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53716）は、2 σ暦年代範囲で 8-121calAD（94.39%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

226SI検出状況　226SI は南半が調査区外で、西端が３号墳周溝によって欠失するが、大型の竪穴建物であることは確実である。

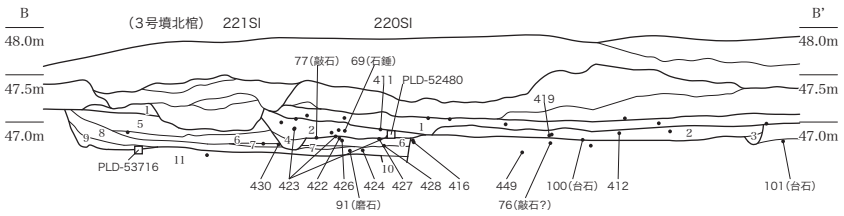
遺物出土状況　床面付近には炭化材が散在し、それに混じって遺物もややまとまって

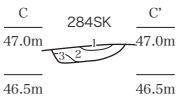
年代測定　出土した。中央からかなり偏した位置に地床炉を検出した（第 152 図）。床面付近から




(旧表土)
1. 7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(220SI)
2. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
3. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
4. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(基盤層)
5. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土



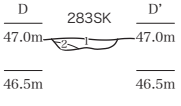




(旧表土)
1. 7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
(220SI)
2. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
3. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)

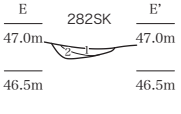
(221SI)
5. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
6. 7.5R5/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
7. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
8. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
9. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
10.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)

(基盤層)
11.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

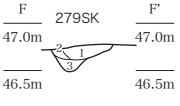
(284SK)
1. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土



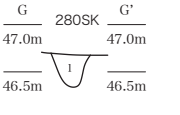

(283SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
2. 2.5YR4/8明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)




(282SK)
1. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
2. 2.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)

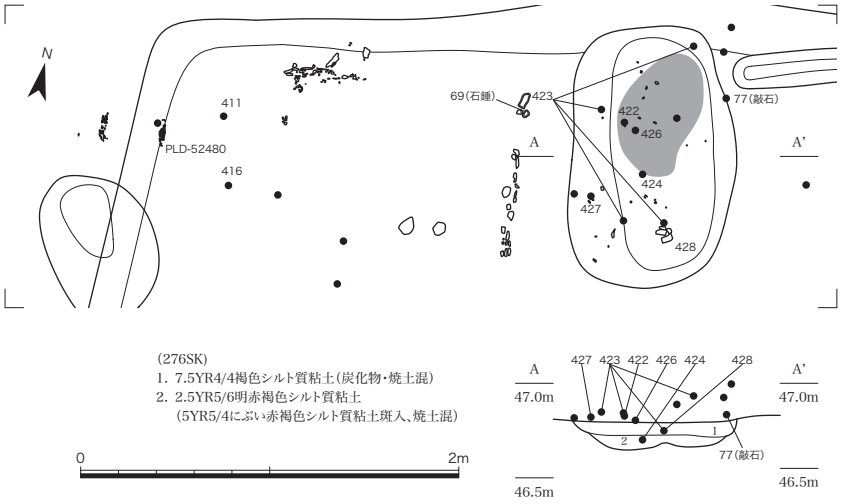



(279SK)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
2. 2.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
3. 3.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入)

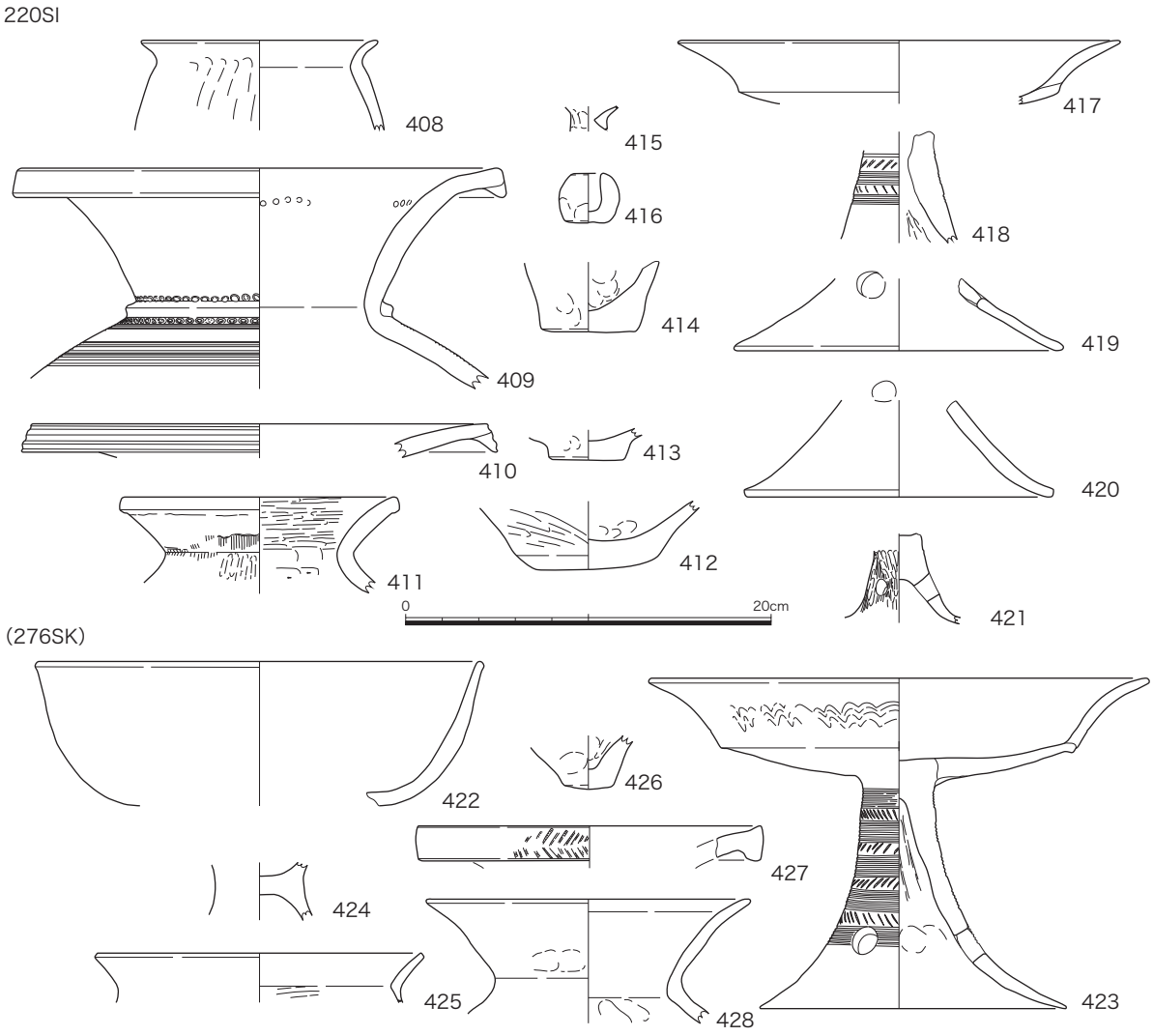



(280SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土
(7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)

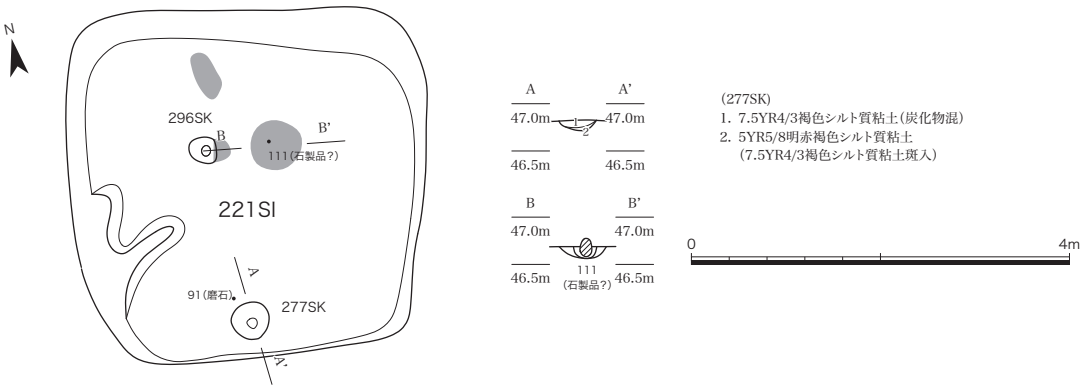
第147図　220SI遺構図（1:80）



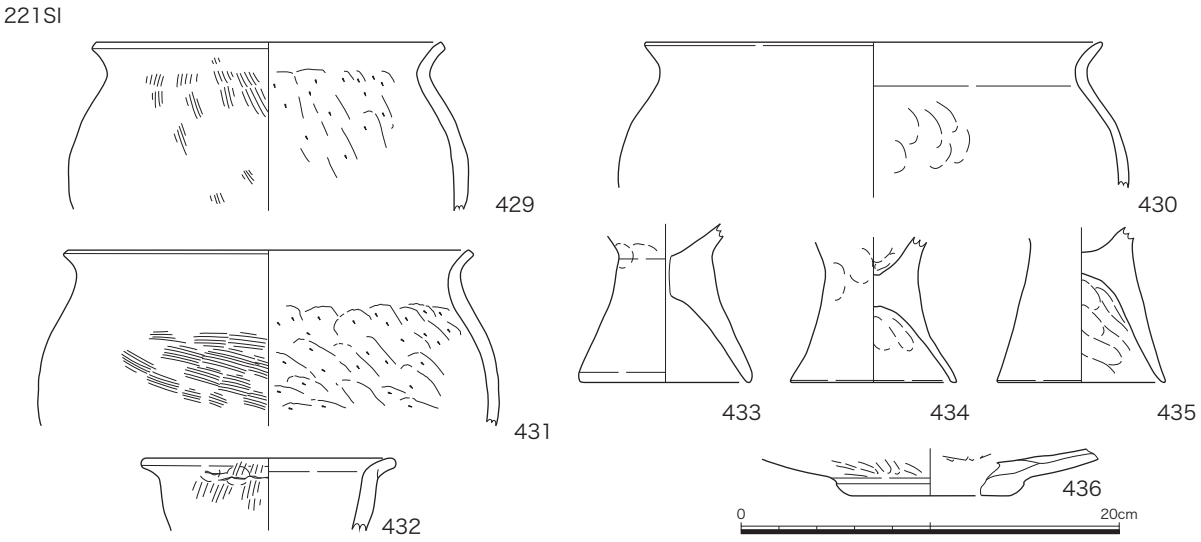

第148図　220SI遺物出土状況図（1:40）




第149図　220SI出土土器実測図（1:4）




第150図　221SI遺構図（1:80）




第151図　221SI出土土器実測図（1:4）

採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52479）は、2 σ暦年代範囲で 1-82calAD（72.48%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。

220SI 出土土器は甕（408）、広口壷（409 ～ 411）、小型（脚付）鉢（414 ～ 416）、有段高杯（417 ～ 420）等がある。付随する方形土坑出土土器は椀形高杯（422）、有段高杯（423）、広口壷（428）等がある。加飾広口壷（409・410）の垂下口縁は断面三角形状の突帯の付加による。口径が大きい（体部が相対的に浅い）杯部（422）を特徴とする高杯を椀形高杯とした。有段高杯（423）は杯部上段が大きく外反し、脚部は緩やかに大きく外反する（第 149 図）。その他、塩基性凝灰岩性礫石錘（69）、斑れい岩製敲石？（76）、砂岩製敲石（77）、軽石製磨石（80）、凝灰岩製磨石（81）、花崗岩製台石（100）、安山岩製台石（101）が出土した（第 179・180・182 図）。

220SI出土土器

礫石錘・敲石

磨石・台石

221SI 出土土器は甕（429 ～ 435）、広口壷（436）がある。甕の口縁部（429 ～ 432）はいずれも短く緩やかに外反する。体部上半はやや曖昧な縦位のヘラケズリを施す（429・430）。小型の甕（432）は中・小型の鉢の可能性もある。脚台（433 ～ 435）はいずれも高く直線的である（第 151 図）。その他、塩基性凝灰岩製磨製石鏃（8）、凝灰質砂岩製磨石（82）、安山岩製砥石（91）が出土した（第 176・180・181 図）。

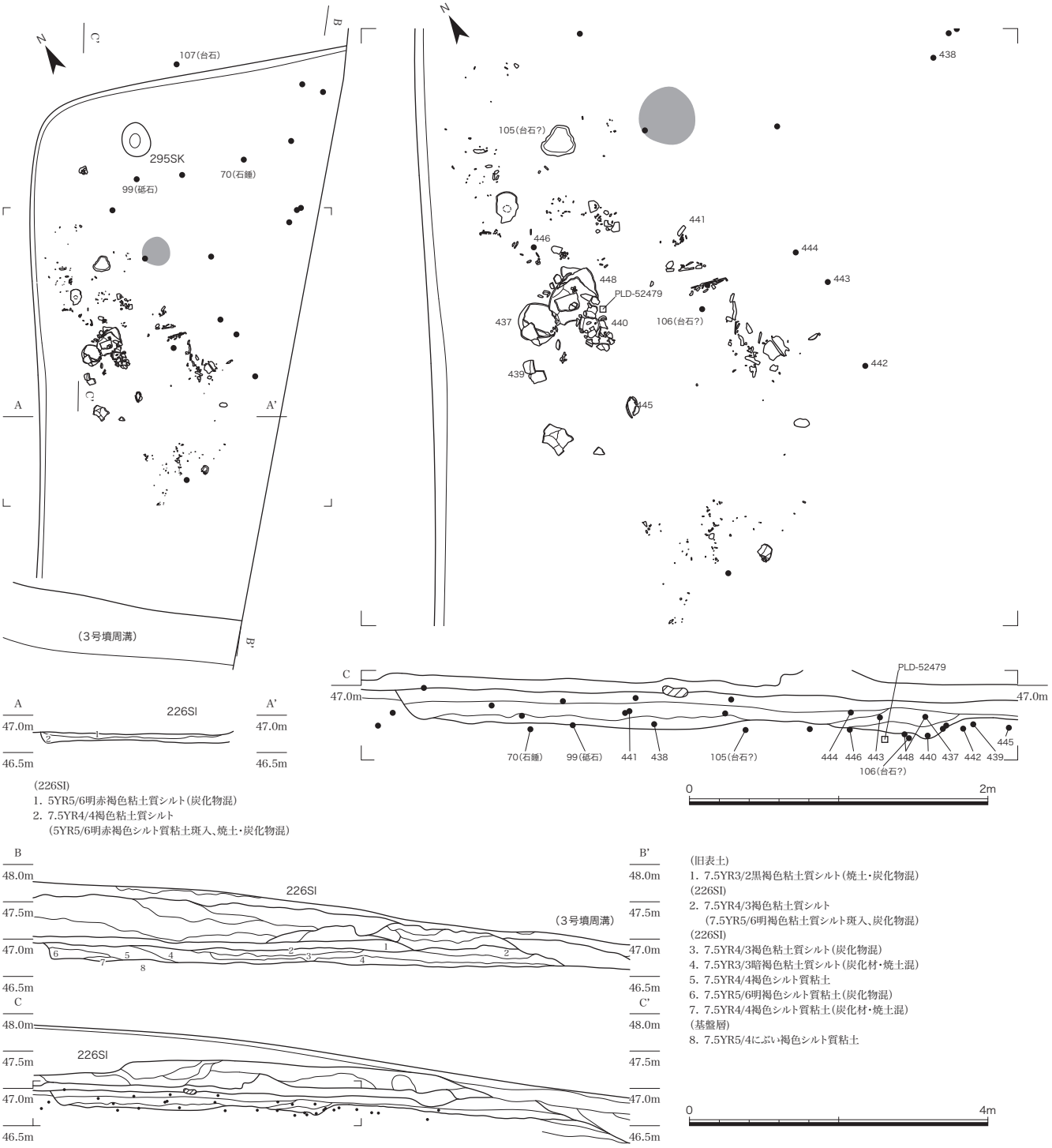
221SI出土土器

磨製石鏃

磨石・砥石

226SI 出土土器は甕（437 ～ 440）、有段高杯（441 ～ 443）、小型高杯（444）、広口

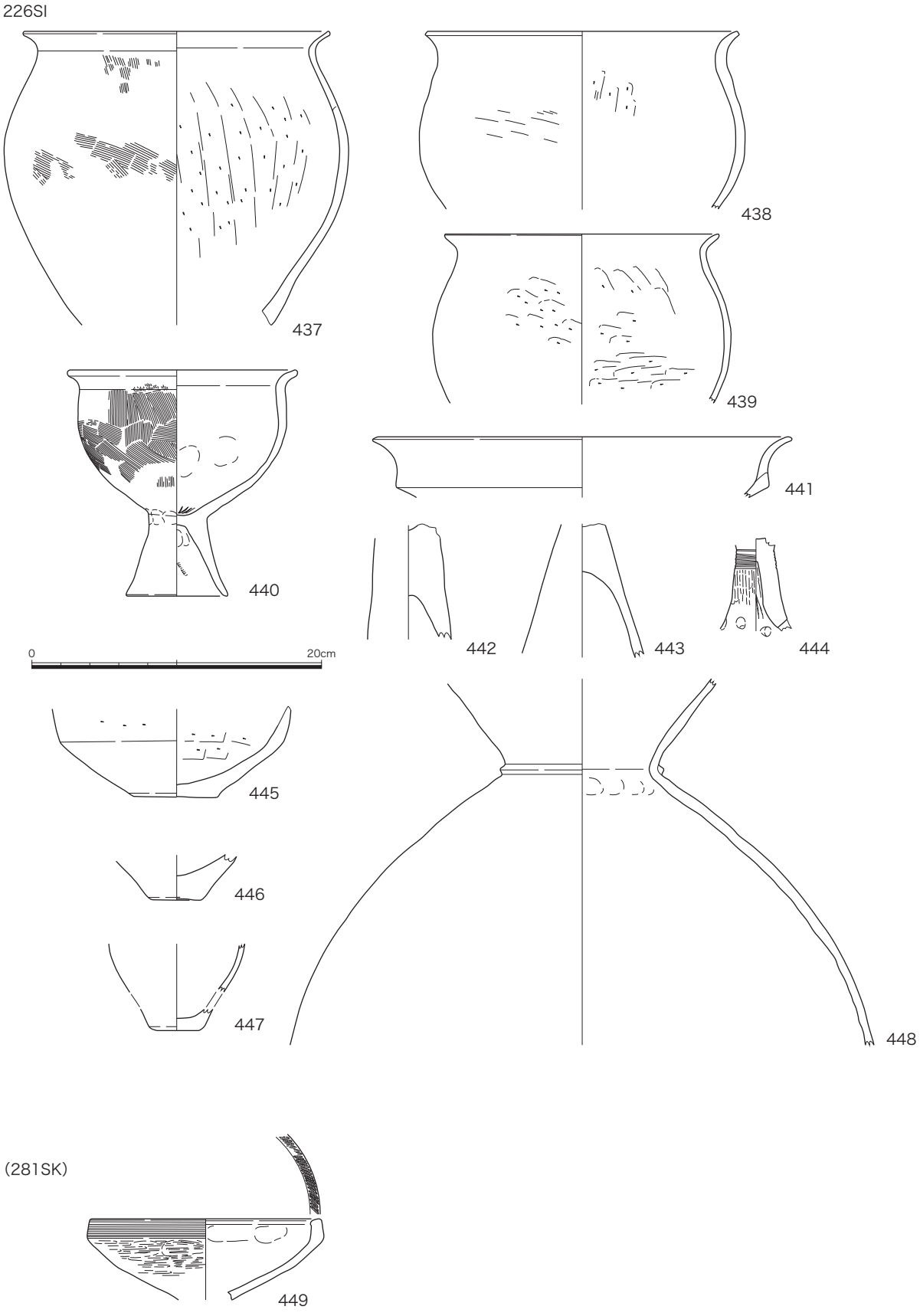
226SI出土土器



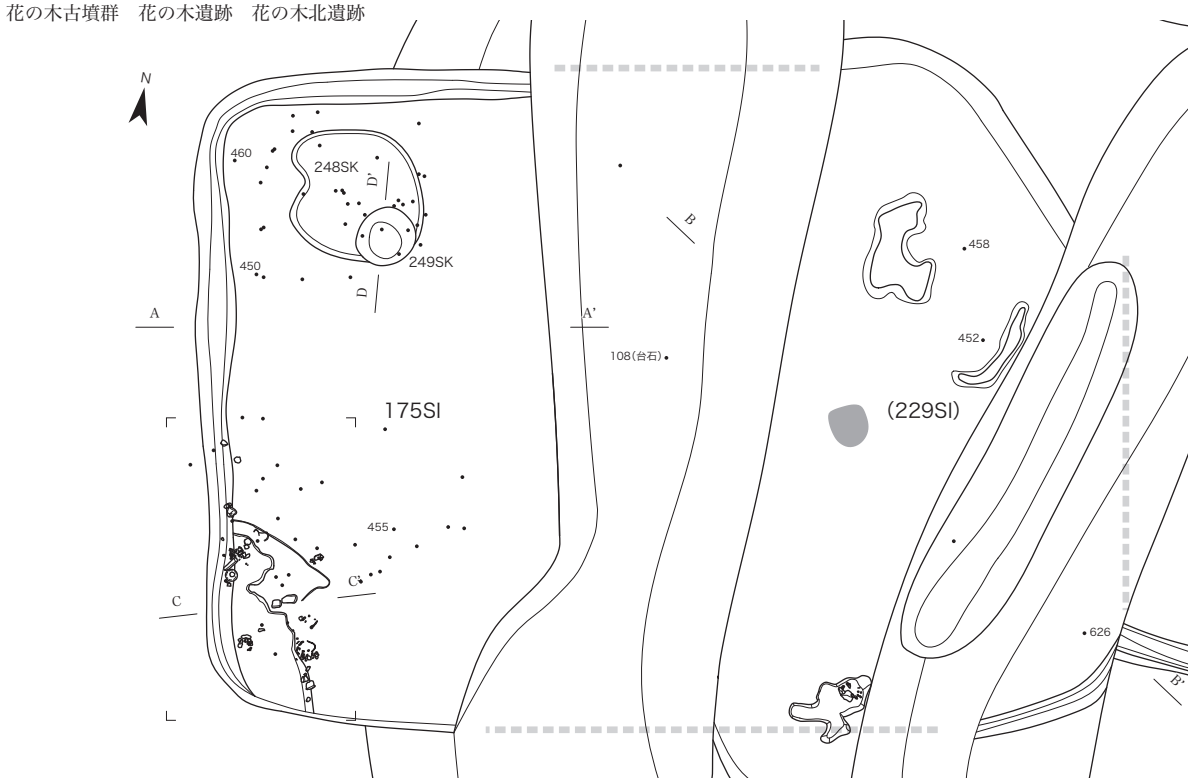

第152図　226SI遺構図・遺物出土状況図（1:80・1:40）

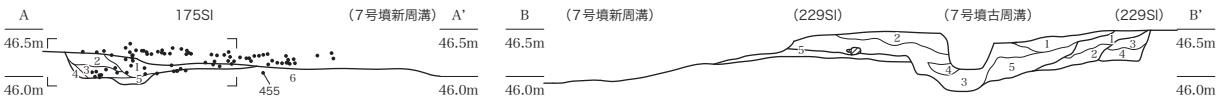
壷（448）等がある。甕（437 ～ 440）はいずれも口縁部が短く緩やかに外反し、体部が張る形状（437 ～ 439）とほとんど張らない形状（440）がある。体部内面にやや曖昧なヘラケズリが認められる個体がある（437）。脚台（440）は高くやや外反する形状である。小型高杯脚部（444）はは脚裾付近に小さな透孔を 6 方向に配する。220SI に重複し先行する土坑 281SK 出土土器は皿（盤）状杯部高杯（449）がある。口縁部外面の文様帯に直線文、口縁端部の面に刺突文を施す（第 153 図）。その他、塩基性凝灰岩製磨製石鏃（9）、

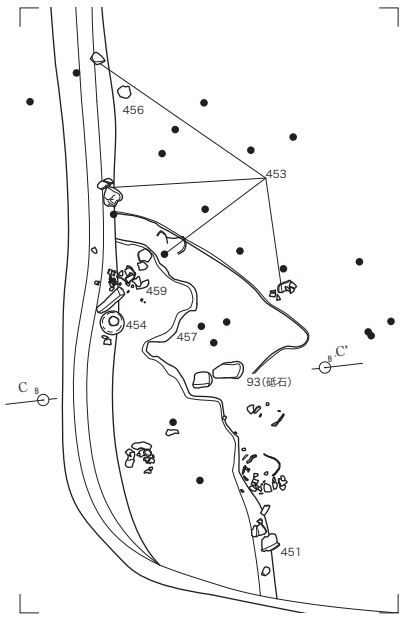
磨製石鏃




第153図　226SI・281SK出土土器実測図（1:4）

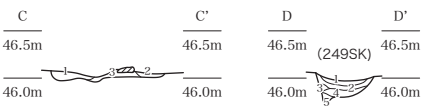


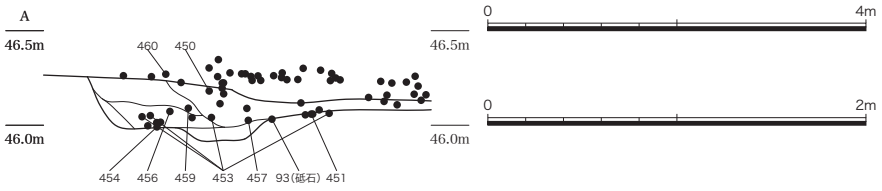

(175SI)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
2. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
3. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
4. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
5. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
(基盤層)
6. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土

(229SI)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土、10YR7/8黄橙色粘土質シルト斑入)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
5. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(7号墳古周溝)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト、7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
3. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
4. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト
5. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(5YR6/8橙色シルト質粘土、7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)

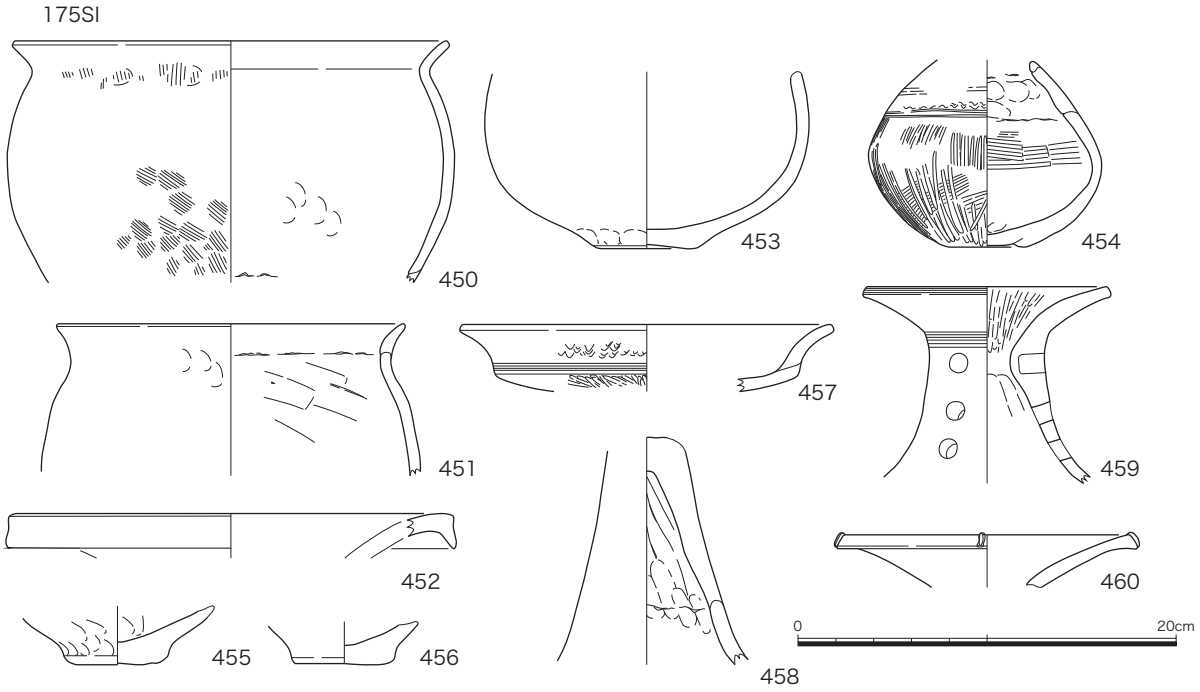



(175SI)
1. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト(焼土・炭化物混)
2. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 7.5YR6/8橙色シルト質粘土(炭化物混)

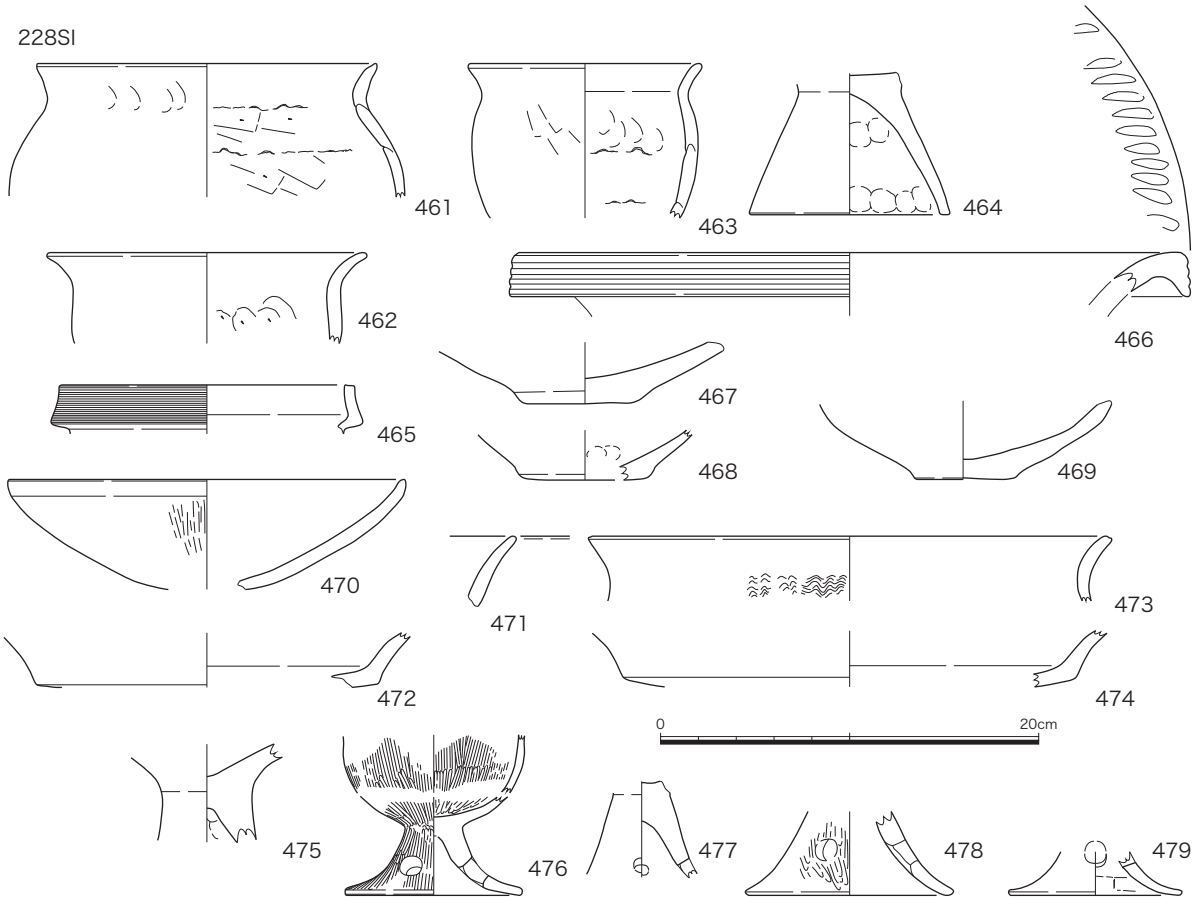
(249SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土混)
2. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR6/8橙色シルト質粘土、7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
4. 7.5YR4/3褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土、7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土



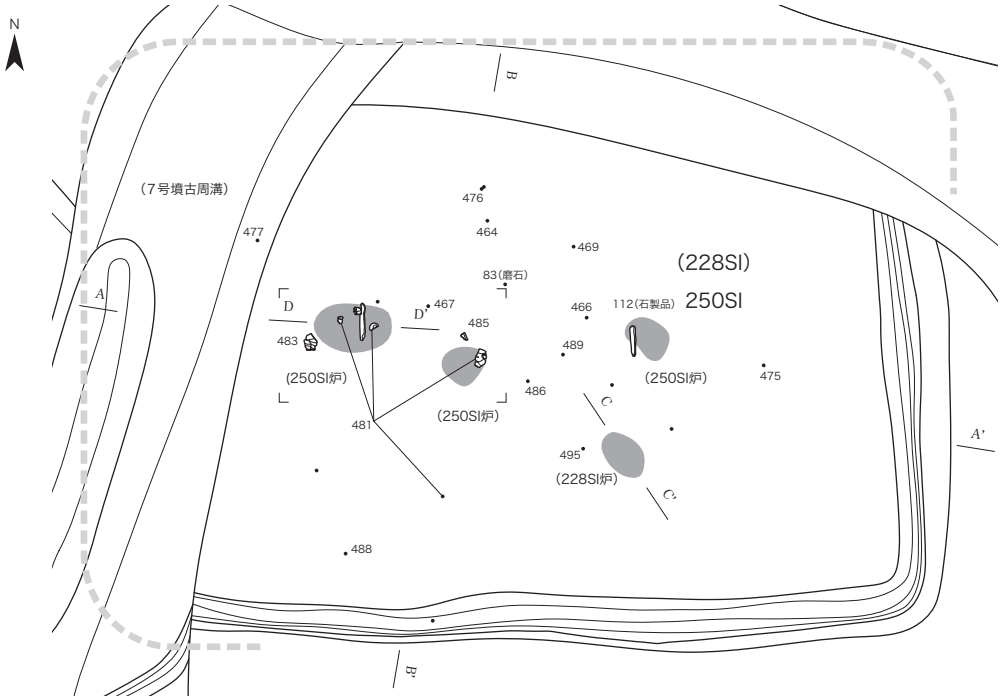

第154図　175SI（・229SI）遺構図・遺物出土状況図（1:80・1:40）

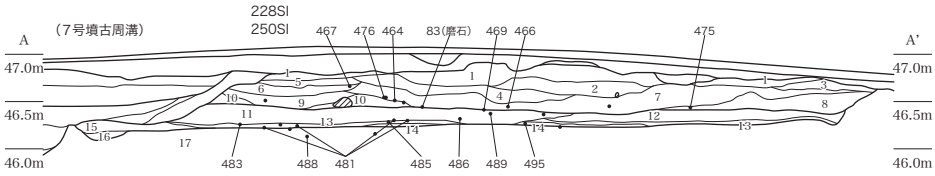



第155図　175SI出土土器実測図（1:4）



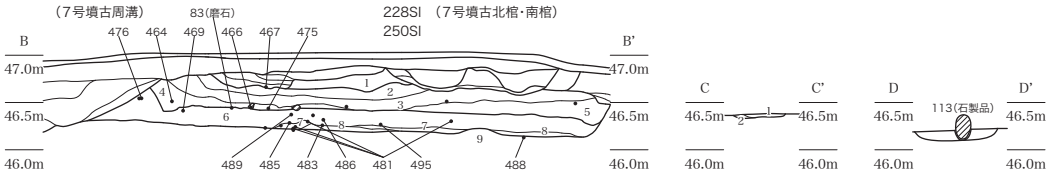

第156図　228SI出土土器実測図（1:4）



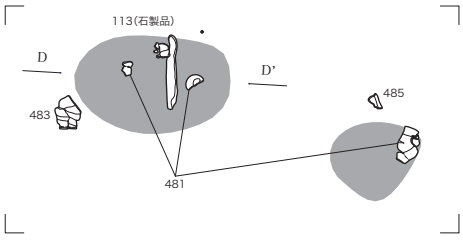

(228SI)
1. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト(7.5YR3/3暗褐色シルト質粘土斑入)
2. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
3. 7.5YR5/8明褐色粘土質シルト
4. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入)
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
6. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土(7.5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
7. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)
8. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(7.5YR4/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
9. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト(焼土・炭化物混)
10.5YR4/8赤褐色粘土質シルト(5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)

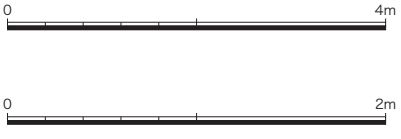
(250SI)
11.5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土、7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
12.5YR4/6赤褐色粘土質シルト(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
13.7.5YR4/6褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
14.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
15.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(焼土・炭化物混)
16.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(5YR5/8明褐色粘土質シルト斑入)
(基盤層)
17.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

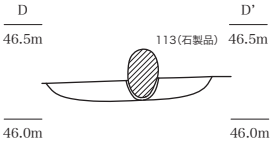



(228SI)
1. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト(7.5YR3/3暗褐色シルト質粘土斑入)
2. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト斑入)
3. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
5. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
6. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土、7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(250SI)
7. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
8. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土と7.5YR5/6明褐色粘土の互層(焼土・炭化物混)
(基盤層)
9. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土しまり強い地山

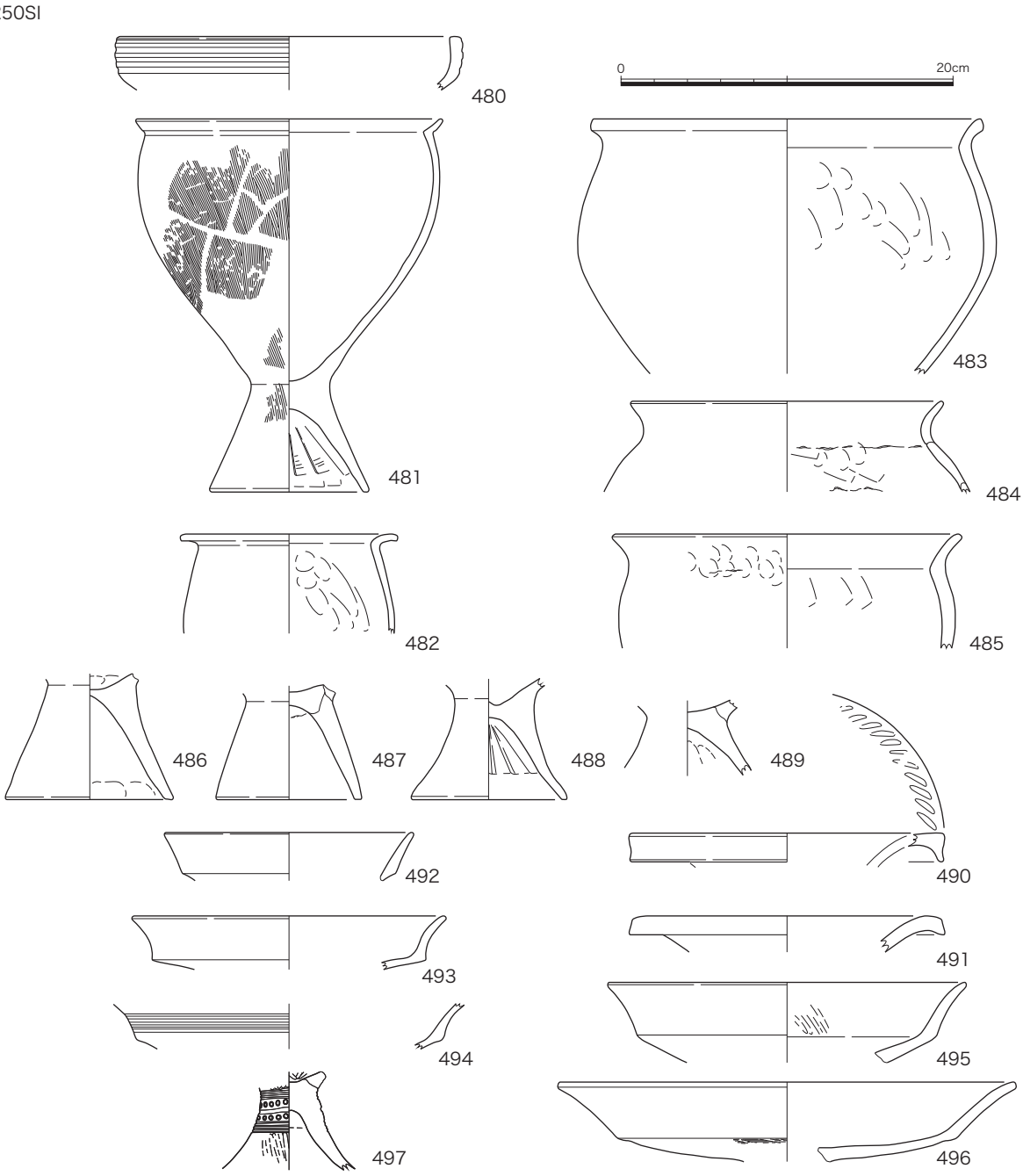
(地床炉)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土を斑入、焼土・炭化物混)
2. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土




第157図　250SI（・228SI）遺構図（1:80）・遺物出土状況図（1:40）




第158図　250SI出土土器実測図（1:4）

片麻岩製礫石錘（70）、片麻岩製砥石（99）、片麻岩製台石？（105）、閃緑岩製台石？（106）、226SI 付近から片麻岩製台石（107）が出土した（第 176・179・181・182 図）。

礫石錘・砥石
台石？・台石

遺構の先後関係、出土遺物の様相から、220SI に先行する 221SI の時期を２期、220SI の時期を５期に、226SI の時期を３期とした。

時期

### 175SI（・229SI）

検出状況　７号墳古・新周溝が大きく重複する。調査時は周溝外で検出した 175SI、（７号墳調査後に）７号墳下層の旧表土、盛土下で検出した 229SI の２棟の竪穴建物としたが、床面が硬化する状況が同様であることから、１棟の平面長方形の大型竪穴建物と判断した。平面長方形の大型竪穴建物の主軸方向がいずれも東西方向を志向すること、229SI で検出した地床炉の位置（竪穴建物の中軸線上に設置）もそれを支持する。北東隅は鈍角であるが、切株を除去できなかった関係で平面形の検出には困難が生じていることにも起因する。１棟の竪穴建物とした場合、規模は長軸 9.75m、短軸 7.00m で、遺跡最大となる（第 154 図）。

遺物出土状況　南西隅は低い土手状の硬化部分が検出され、周囲からは遺物がややまとまって出土した。中型壷（454）と器台（459）は近接して出土している。南辺付近には粘土塊が残されていた。北東付近は著しく被熱硬化（土器化）していた。

175SI出土土器　出土土器は甕（450・451）、広口壷（452・453）、中型壷（454）、有段高杯（457・458）、器台（459・460）等がある。甕（450・451）の口縁部は短く緩やかに外反する。中型壷（454）と有段高杯杯部（457）は波状文と直線文による同様の文様構成である。器台（459）は透孔を３段重列３方向に外面から穿孔するが、貫通しない孔がある。端部に棒状浮文を配する個体（460）は加飾広口壷の可能性もあるが器台とした（第 155 図）。

砥石・台石　その他、凝灰岩性砥石（93）、花崗岩製台石（108）が出土した（第 181・182 図）。

時期　時期は遺構の位置関係、出土遺物の様相から４期とした。

### 228SI・250SI

250SI検出状況　７号墳下層の旧表土、盛土下で 228SI・250SI を検出した。250SI は北辺から西辺が７号墳周溝によって失われるが、長軸 8.00m 以上、短軸 5.85m 以上の大型竪穴建物として検出した。平面形は埋石炉の配置（後述）から長方形と考えられる。主柱穴は確認されなかった。東半の床面直上に炭化物の薄層が認められた。炭化物薄層直下の床面は広く硬化し、中軸線上と思われる位置に長手に加工を施した板状の花崗岩製石製品？（第 183 図 112・113）を埋設した２基の埋石炉を検出した。炉石は長手を上に向け、長軸（中軸線）に直交して（向かい合うように）埋め込まれる。２基の埋石炉間の中間からやや南西の位置にも地床炉を検出した。埋石炉と地床炉付近からは甕（481・485）が出土した（第 157 図）。

遺物出土状況

228SI検出状況　遺構検出後、覆土を掘り下げる過程で 250SI の床面の上位に明確な硬化面を確認し、228SI とした。平面形を明確にすることは難しいが、土層断面からは掘方は南辺から東辺がほぼ一致し、北辺が縮小していることを確認した（西辺は７号墳周溝の重複により不明）。中央から偏した位置に地床炉を検出したが、主柱穴は検出されなかった（第 157 図）。

228SI出土土器　228SI 出土土器は甕（461 ～ 464）、広口壷（466）、皿（盤）状杯部高杯（470）、有段高杯（471 ～ 475）、小型高杯（476 ～ 479）等があるが、下位の竪穴建物 250SI に伴っていた土器が少なからず混在していると思われる。口縁部が内傾する甕または壷（465）は胎土も異質で、中国地方に系譜が求められる。球形に近い杯部の小型高杯（476）は精製度が高い（第 156 図）。その他、塩基性凝灰岩製礫石錘（71）、片麻岩製磨石（83）が出土した（第 179・180 図）。

礫石錘

250SI出土土器　250SI 出土土器は甕（481 ～ 489）、広口壷（490・491）、有段高杯（492 ～ 496）、小型高杯（497）等がある。口縁部は短く全体が内彎する形状（481）、短く屈曲気味の形状

(482・483)、短く緩やかに外反する形状（484)、屈曲気味の形状（485）がある。脚台は高く直線的な形状（481・486・487)、やや低く外反する形状（488）がある。有段高杯杯部は口径が小さく上段がわずかに外反する一群（492 ～ 494)、口径が大きく上段が大きく外反する一群（495・496）がある。小型高杯脚部（497）は上位の文様が直線文と竹管状工具による円形の刺突文によって構成される（第 158 図)。

遺構の先後関係、出土遺物の様相等から、先行する（下層の）250SI の時期を２期、後出する（上層の）228SI の時期を５期とした。　時期

235SI（・238SI）・236SI・237SI・241SI・289SI

２号墳下層の旧表土下で（後段の 285SI を含めて）６棟の竪穴建物を検出した（第 159・160 図)。　検出状況

241SI は 235SI、236SI、237SI（、238SI）との重複により、大半が欠失する。残された床面の広範囲が被熱赤変し、その直上から安山岩製長身鏃（7）が出土した。周囲の竪穴建物の出土遺物中に混在する弥生時代中期後葉の遺物は先行する 241SI に伴っていた可能性が高い（第 159 図)。　241SI検出状況　長身鏃　遺物出土状況

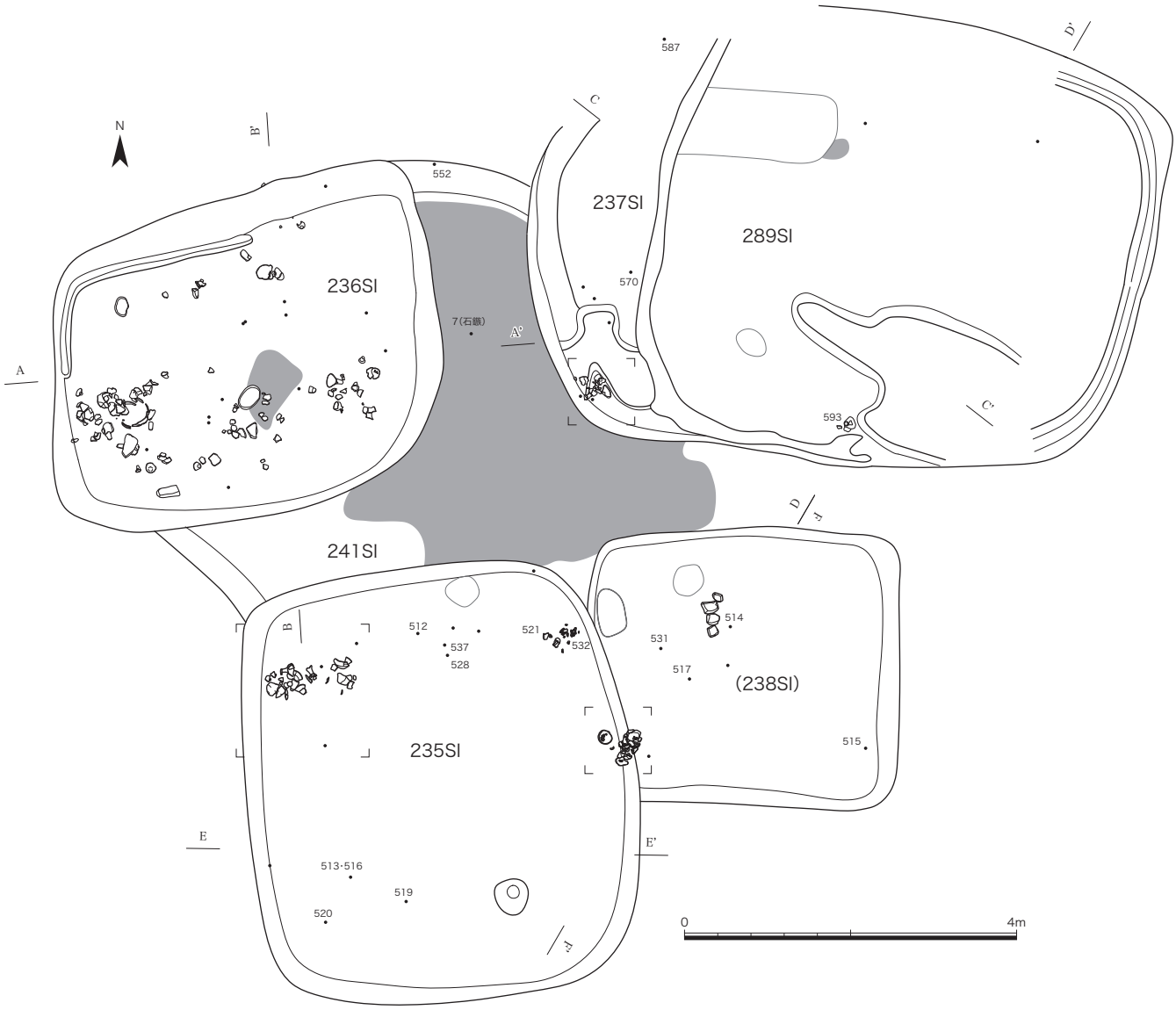
237SI、289SI は１棟の竪穴建物として調査を進めたが、床面を精査した結果、２棟分の壁周溝を検出したことから、重複する２棟の竪穴建物とした。床面精査後の調査が実施できず、２棟の北辺付近の切り株も除去できなかったこともあって、遺構の認識には不確実な部分が多い。237SI は南西隅に低い土堤状の硬化部分が検出された。289SI も同様の土堤状の硬化部分が南東隅付近に検出された。主柱穴は検出されなかった。中軸線からやや壁に寄った位置に地床炉を検出した（第 159 図)。237SI の土堤付近の床面直上からは甕（586 ～ 588）が出土した（第 161 図)。　237SI・289SI　遺物出土状況

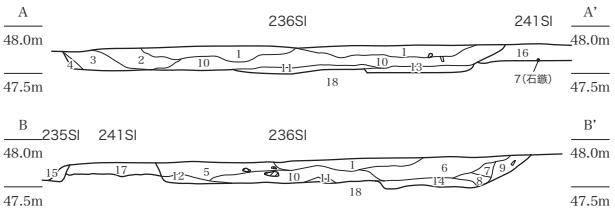
236SI は平面長方形の中型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴は検出されなかった（第 159 図)。中央付近に地床炉を検出した。南半からは遺物がややまとまって出土した（第 161 図)。　236SI検出状況　遺物出土状況

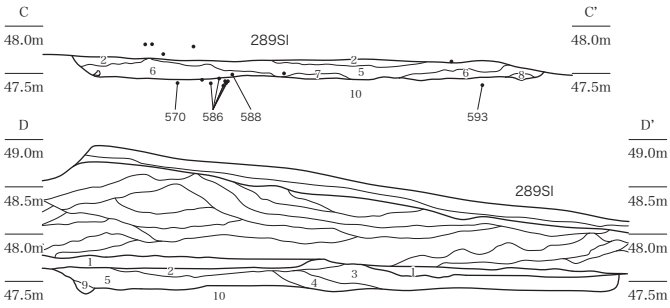
235SI（・238SI）は２号墳の埋葬施設の調査と墳丘の解体との関係から、精査や記録に制約が生じたこともあって、不確実な部分が多い。調査時は重複する２棟の竪穴建物として検出したが、235SI の東辺と 238SI の西辺が接する位置から土器群が検出されていることに加えて、235SI と 238SI の北辺、241SI の焼土面の南端と遺構の下端が線状に連なるようでもあることから、１棟の平面長方形の大型竪穴建物である可能性がある（この場合、誤って南東部分を掘り残してしまったことになる)。平面長方形の大型竪穴建物の長軸方向がいずれも東西方向を志向することもそれを支持する（第 159 図)。　235SI(・238SI)

235SI（・238SI）を１棟の平面長方形の大型竪穴建物として出土土器を扱うが、北西隅付近からまとまって出土した土器群をＡ群（498 ～ 504)、中央付近（235SI の東辺と 238SI の西辺が接する位置）からまとまって出土した土器群をＢ群（505･506）とする。その他、散在して出土した土器（507 ～ 537）には先行する時期の（241SI に伴っていたと考えられる）土器（519 ～ 537）が混在する（第 162・163 図)。床面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53719）は、2 σ暦年代範囲で 648-546calBC（55.90%）の年代直を示した（第５章（１）を参照)。　遺物出土状況　Ａ群　Ｂ群　年代測定

235SI（･238SI）Ａ群出土土器は甕（498･499)、広口壷（500･501)、有段高杯（502　235SI(・238SI)



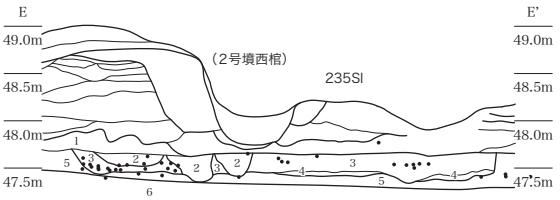



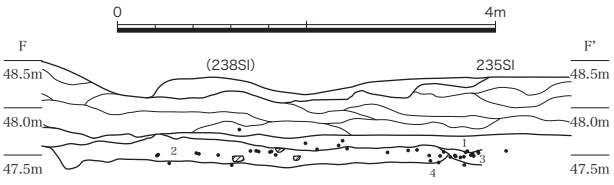




(236SI)
1. 7.5YR4/3褐色シルト質粘土(5YR5/6明褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色シルト質粘土斑入)
3. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土、5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
4. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(焼土混)
5. 5YR4/6褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
6. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
7. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土
8. 7.5YR4/6褐色シルト質粘(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土混)
9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土(5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
10.7.5YR3/3暗褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
11.7.5YR4/3褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
12.5YR4/6赤褐色シルト質粘土(焼土・炭化物混)
13.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/3にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
14.5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(235SI)
15.7.5YR4/6褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(241SI)
16.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
17.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(基盤層)
18.5YR4/8赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入)

(旧表土)
1. 7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入、焼土混)
(289SI)
2. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
3. 5YR4/8赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
4. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入、炭化物混)
5. 5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土、7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
6. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト(7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
7. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
8. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土(焼土混)
9. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
(基盤層)
10.5YR4/6赤褐色シルト質粘土

第159図　235SI（・238SI）・236SI・237SI・241SI・289SI遺構図1（1:80）

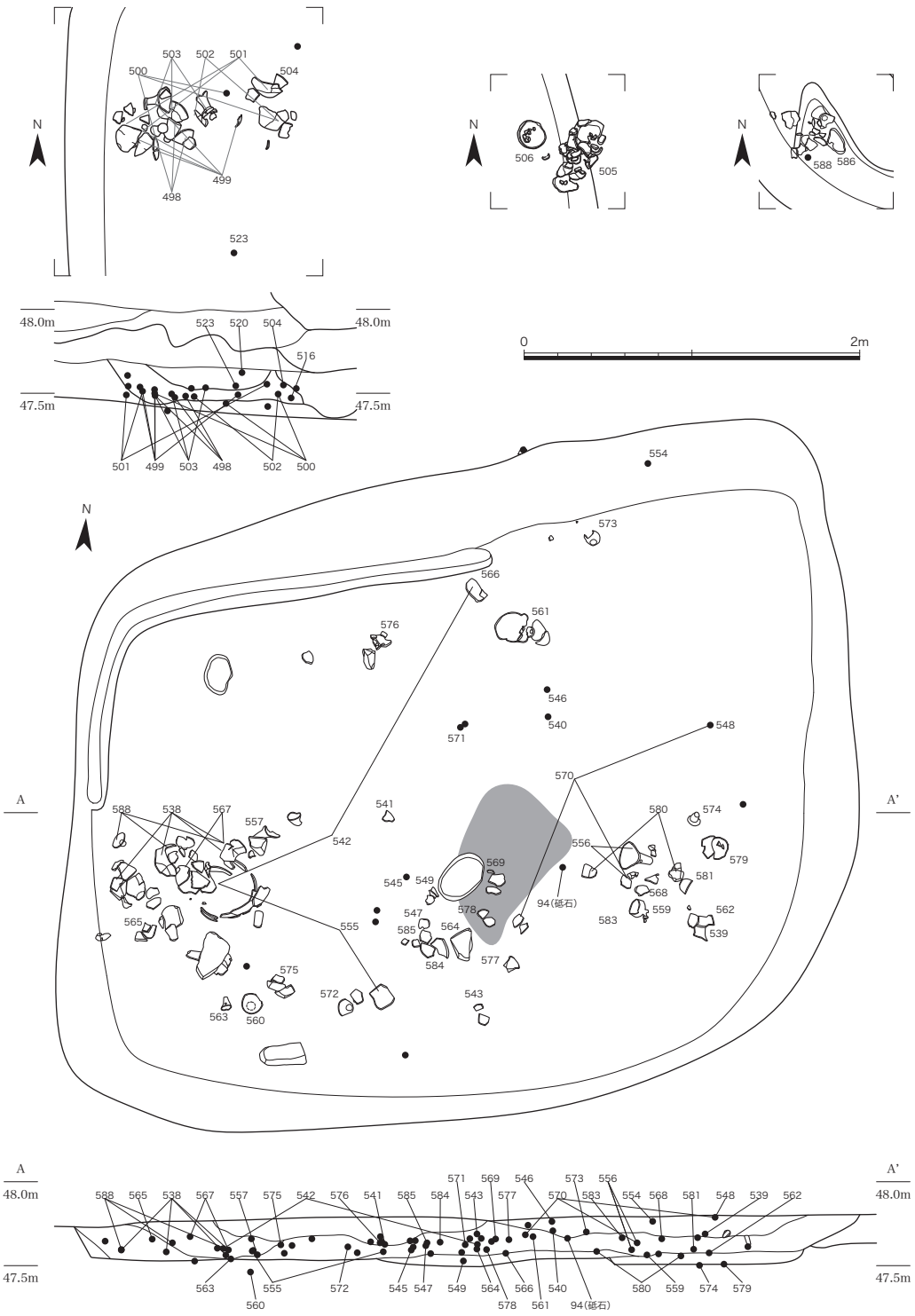



(旧表土)
1．7.5YR4/6褐色シルト質粘土(7.5YR3/1黒褐色シルト質粘土斑入)
(235SI)
2．7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
3．5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
4．5YR5/4にぶい赤褐色シルト質粘土(5YR5/8明赤褐色シルト質粘土斑入)
(基盤層)
5．7.5YR4/6褐色シルト質粘土　　6．5YR4/8 赤褐色シルト質粘土

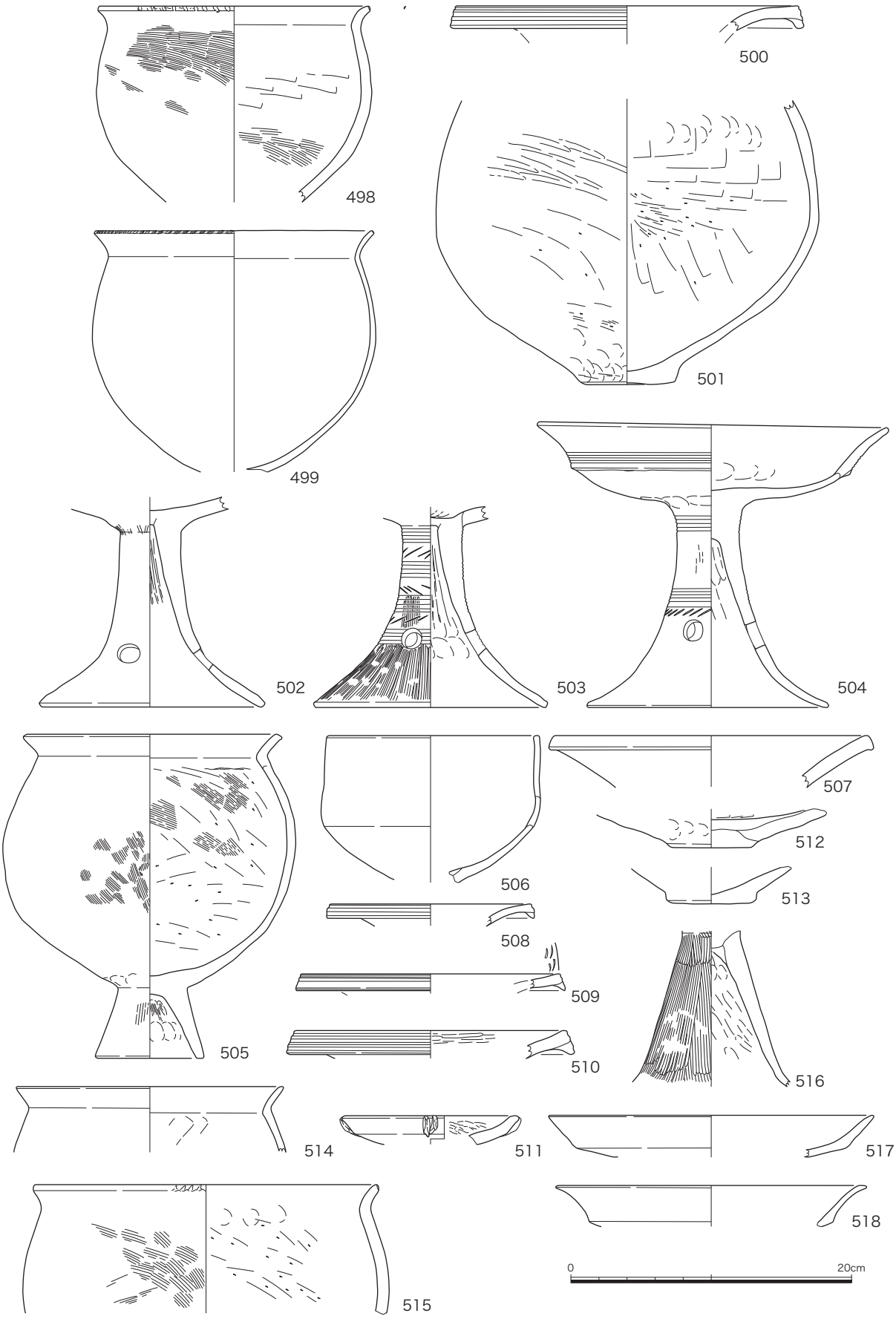
(旧表土)
1．7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土(7.5YR4/4褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
(235SI)
2．7.5YR5/3にぶい褐色粘土質シルト(7.5YR5/8明褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(238SI)
3．7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入、焼土・炭化物混)
(基盤層)
4．5YR5/8明赤褐色粘土質シルト

第160図　235SI（・238SI）・236SI・237SI・241SI・289SI遺構図２（1:80）

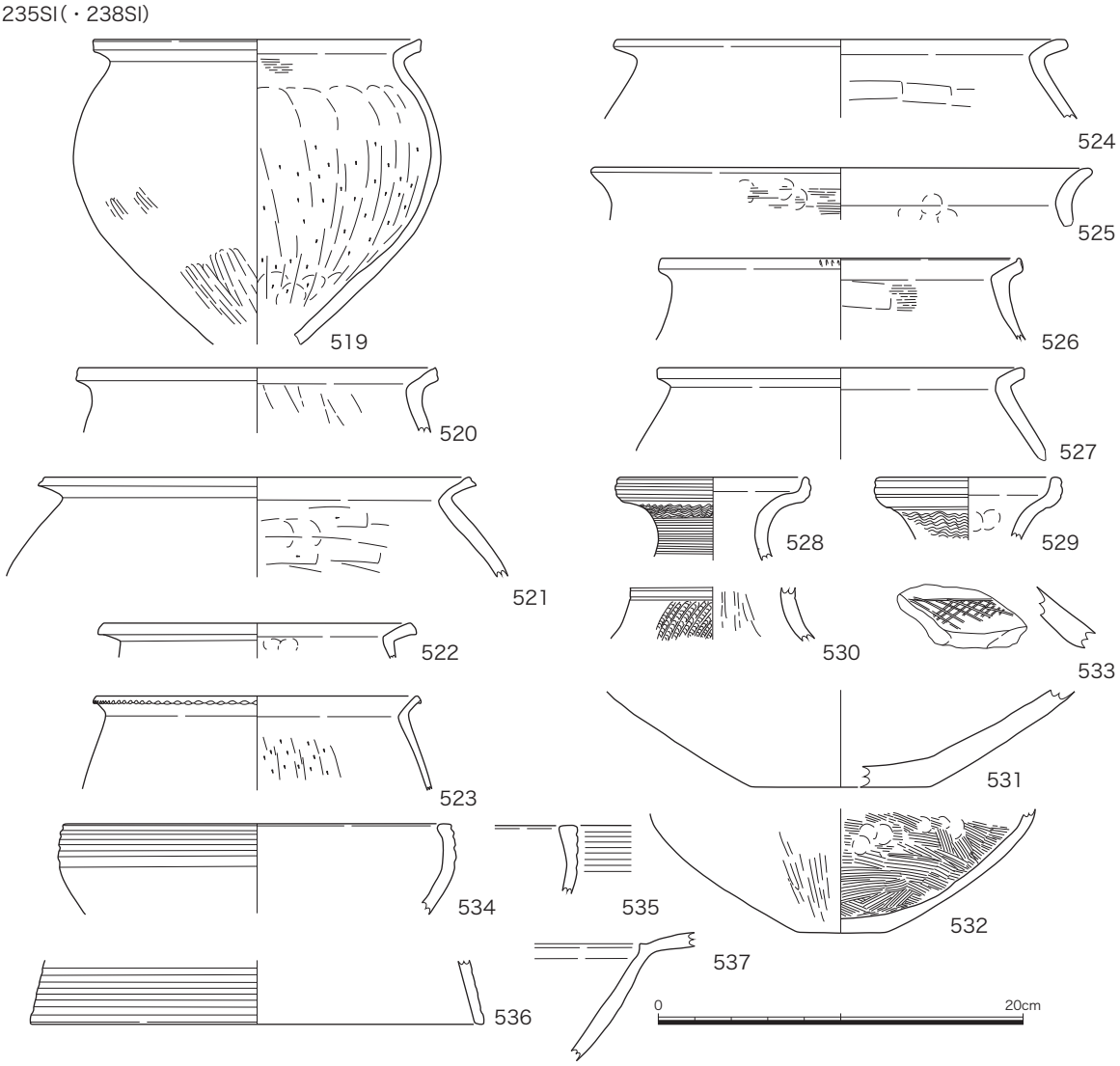



第161図　235SI（・238SI）・236SI・237SI遺物出土状況図（1:40）

235SI(・238SI)




第162図　235SI（・238SI）出土土器実測図１（1:4）



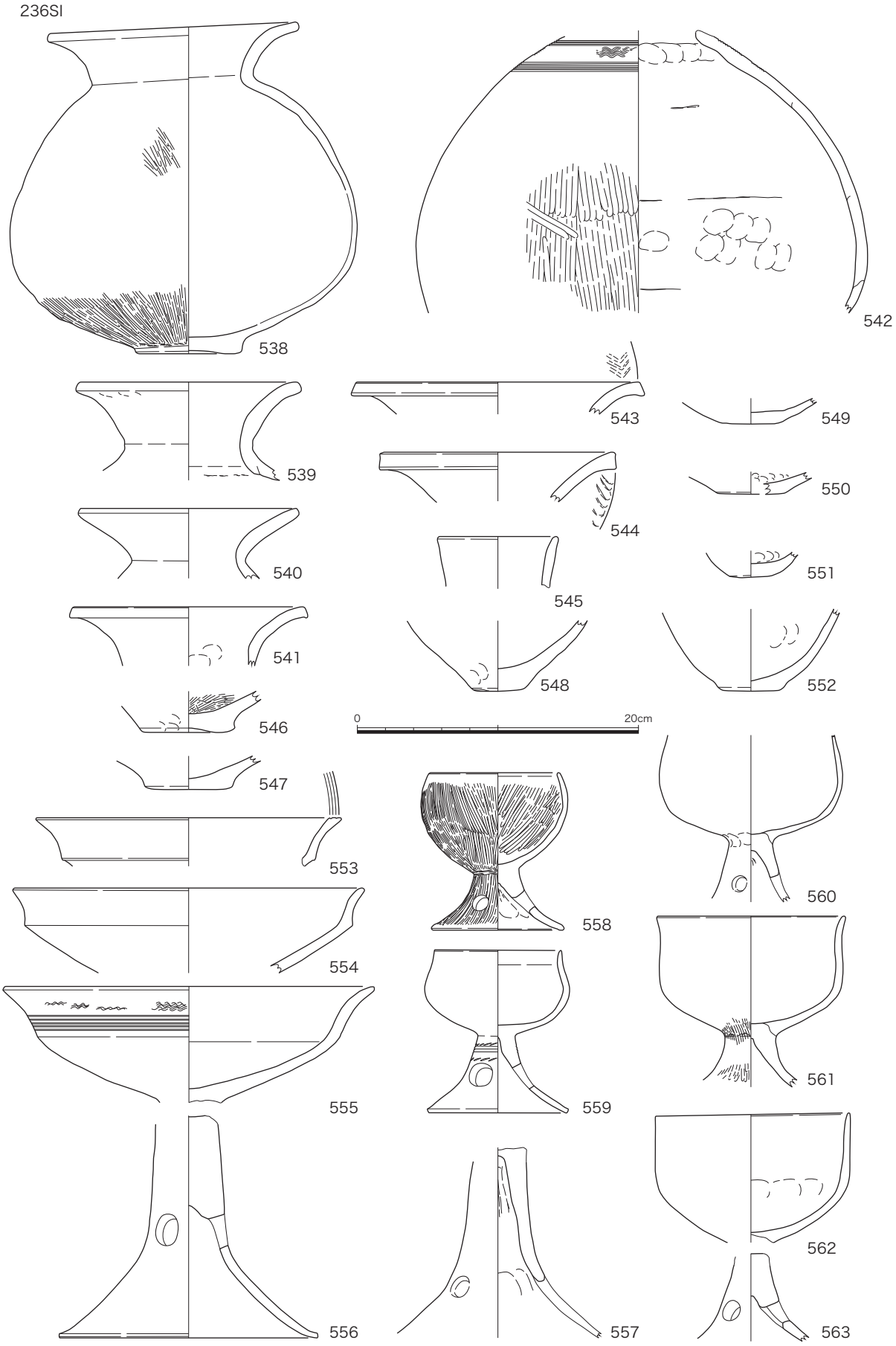

第163図　235SI（・238SI）出土土器実測図２（1:4）

～ 504）がある。甕（498・499）は口縁部が短く緩やかに外反する形状（498）、やや長く屈曲気味の形状（499）がある。前者は三河系に連なる甕で、口縁端部に刻みを施す。後者は全体に器壁が薄い。加飾広口壷（500）の垂下口縁は断面三角形状の突帯の付加による。有段高杯脚部（502 ～ 504）は全体が緩やかに外反し、相対的に高い位置に透孔を配する。有段高杯杯部（504）は段がほとんど消失する。　A群出土土器

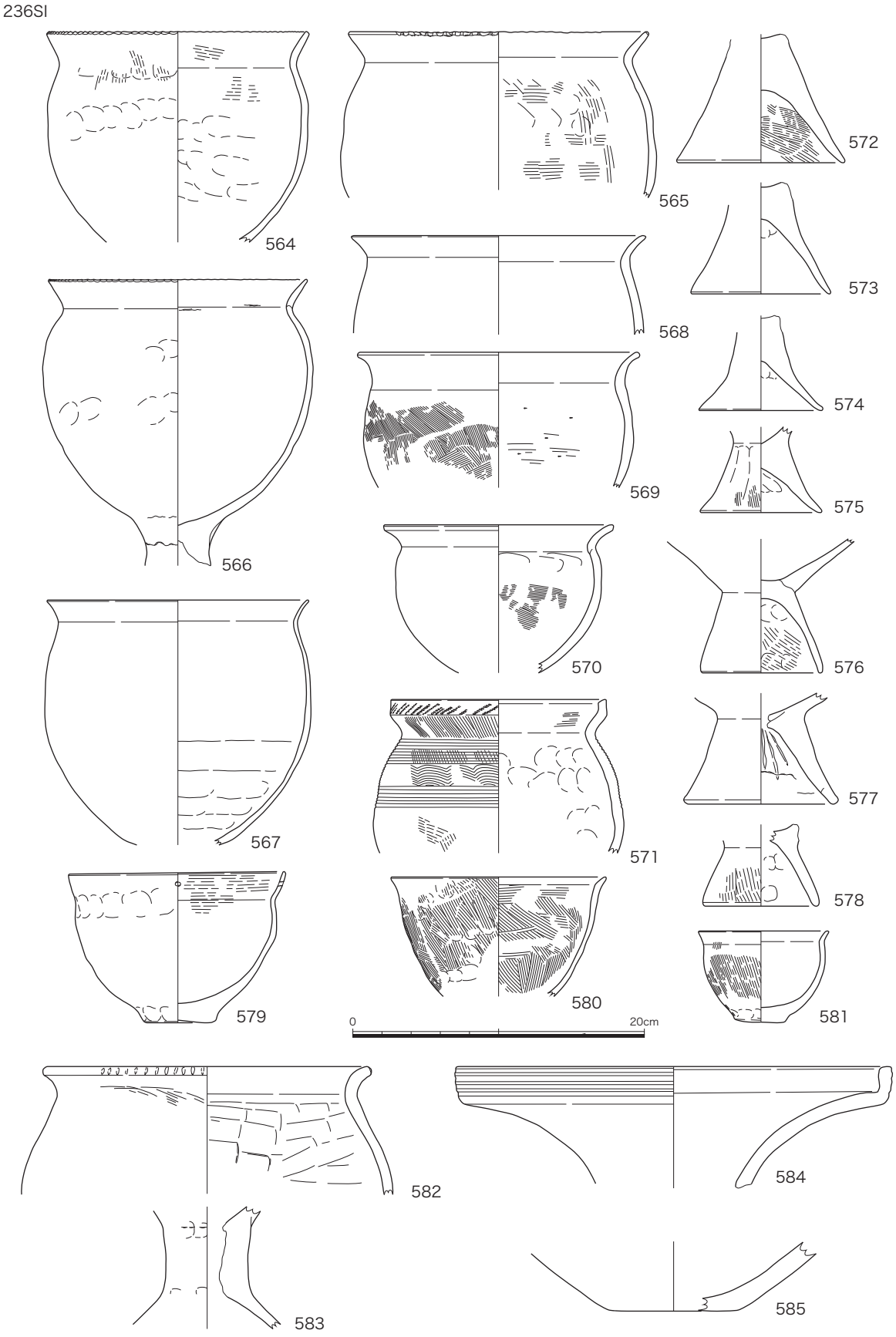
235SI（・238SI）B群出土土器は甕（505）、小型高杯（506）がある。甕（505）は屈曲する口縁部、球形の体部、全体に重厚な脚台を特徴とする。尾張系で山中型甕に類似する。小型高杯(506)は口縁部の彎曲がほとんど消失し、上半がほぼ直立する(第 162 図)。　235SI(・238SI) B群出土土器

その他の 235SI(・238SI)出土土器は広口壷(507 ～ 513)、甕（514・515)、有段高杯(516 ～ 518）がある。先行する時期の土器は凹線文系の甕（519 ～ 523)、三河系の甕（524 ～ 527)、凹線文系の細頸壷（528・529)、鍔付鉢状杯部高杯（537）等がある（第 163 図)。　235SI(・238SI) その他出土土器

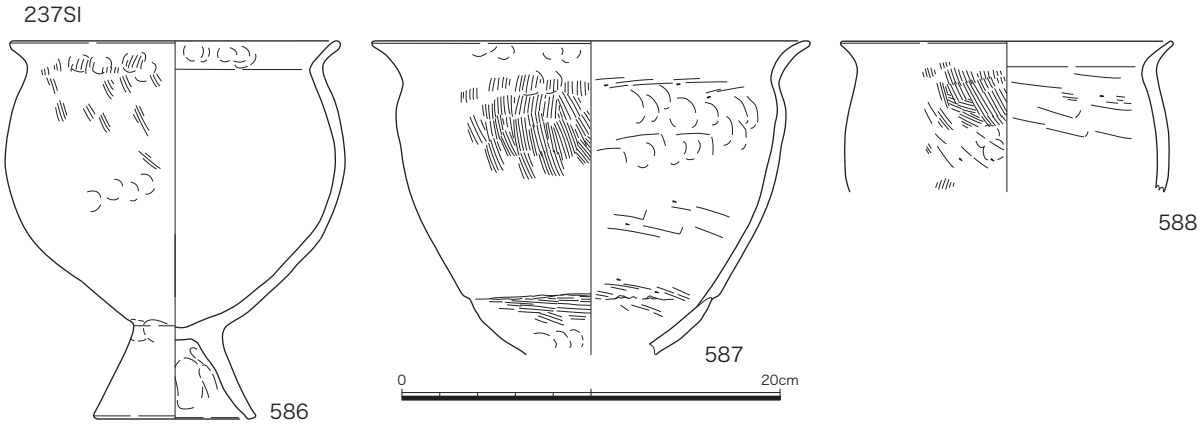
236SI 出土土器は広口壷（538 ～ 544)、有段高杯（553 ～ 557)、小型高杯（558 ～ 563)、甕（564 ～ 578)、中・小型鉢（579 ～ 581）等に、先行する時期の（241SI に伴っ　236SI出土土器



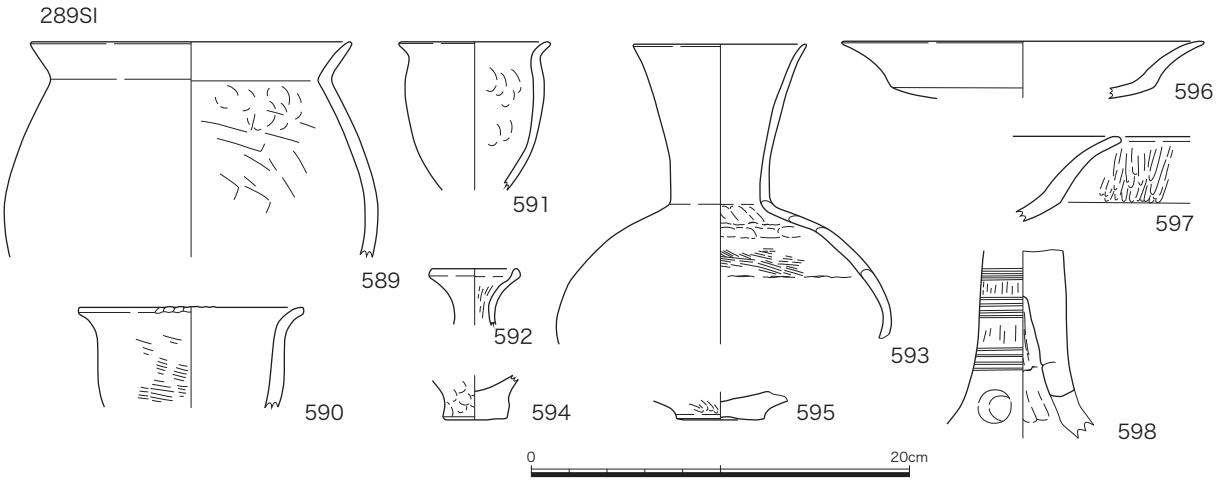

第164図　236SI出土土器実測図1（1:4）




第165図　236SI出土土器実測図２（1:4）

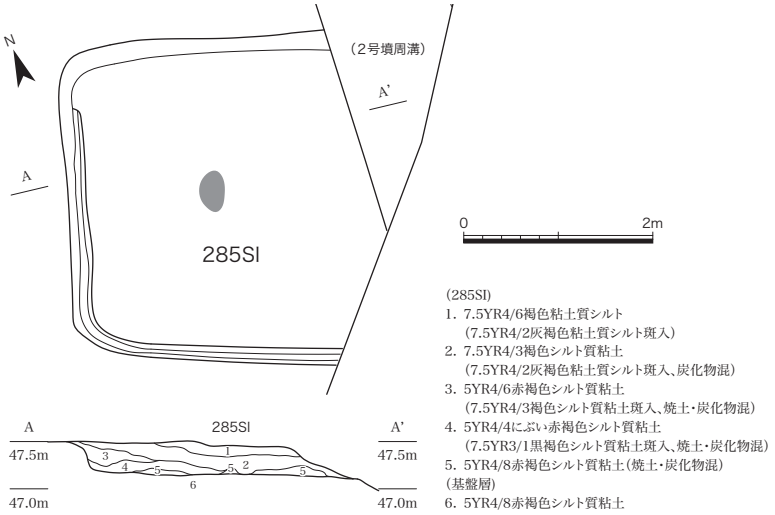



第166図　237SI出土土器実測図（1:4）

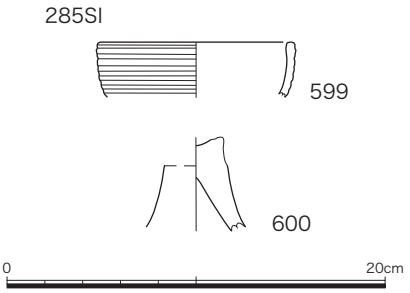



第167図　289SI出土土器実測図（1:4）

ていたと考えられる）土器（582 ～ 585）が混在する。全形が判明する広口壷（538）は口縁部高が低く頸部径が大きい。体部（538・542）はいずれも下膨れの形状を呈する。加飾広口壷の体部(542)は直線文と波状文によって文様が構成される。有段高杯杯部(553・554）はいずれも口径が大きく、上段が大きく外反する。一方（555）は杯部（下段）が深い。脚部（556・557）は上半が柱状で下半が大きく開く。透孔は大きく、相対的に高い位置に配される。全形が判明する小型高杯は杯部が球形（558)、口縁部が彎曲するワイングラス形の形状(559)がある。前者は精製度が高い。大きな透孔を配する脚部(558・559･563）が多い。甕（564 ～ 570）は口縁部がやや長く屈曲気味で体部が張る形状（564 ～ 567)、口縁部が緩やかに外反し体部がほとんど張らない形状（568 ～ 570）がある。前者は口縁端部に刻みを密に施す個体（564 ～ 566）が多く、器壁が相対的に薄い。後者は器壁が相対的に厚い。加飾がある有段口縁甕（571）は胎土もやや異質である。脚台は上位が中実で直線的またはやや外反する形状(572 ～ 575)、やや高く直線的な形状(576)、全体に重厚でわずかに外反する形状（577)、低い形状（578）があるが、上位が中実の一群（572 ～ 575）は甕の脚台ではなく、鉢状の器形に付される脚の可能性もある。中・小型鉢（579 ～ 581）はいずれも甕と製作技法が共通する。内彎気味の口縁部（579)、先




第168図　285SI遺構図（1:80）




第169図　285SI出土土器実測図（1:4）

端付近が外折する口縁部（580・581）の両者がある。先行する時期（中期後葉）の土器は三河系の甕（582・583）、凹線文系の広口壷（584・585）がある（第 164・165 図）。

甕（569）の体部外面から採取した付着炭化物の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-52481）は、2 σ暦年代範囲で 10-124calAD（95.45%）の年代直を示した（第５章（１）を参照）。その他、アプライト製磨石（84）、花崗岩製磨石（85・86）、塩基性岩製砥石（92）、片麻岩製砥石（94）が出土した（第 180・181 図）。

年代測定

磨石・砥石

237SI 出土土器は甕（586 ～ 588）がある。口縁部が屈曲気味で体部が球形に近い個体（586）、口縁部が緩やかに外反し、体部がほとんど張らない一群（587・588）の両者がある（第 166 図）。

237SI出土土器

289SI 出土土器は甕（589・590）、小型鉢（591）、細頸壷（592）、長頸壷（593）、有段高杯（596 ～ 598）等があるが、やはり先行する時期の（237SI、241SI に伴っていた）土器が一定量混在する。口縁部がやや長い屈曲気味の甕（589）、頸部から口縁部にかけて外反する長頸壷（593）等が遺構の時期に対応すると考えられる（第 167 図）。

289SI出土土器

235SI（・238SI）、236SI、237SI が重複し、いずれに対しても先行する 241SI の時期は、床面から出土した長身鏃と周辺の遺構に混在する中期後葉の土器、遺構の平面形から１期とした。他の竪穴建物の時期は、遺構の先後関係、出土遺物の様相等から、289SI に先行する 237SI を３期、それに後出する 289SI を５期、同じく 235SI（・238SI）と 236SI を５期とした。235SI（・238SI）と 236SI は相互に近接し、289SI とも大きくは距離を隔てないので、同時併存を想定することは難しい。

時期

### 285SI

285SI は東辺側が２号墳周溝によって欠失する。主柱穴は検出されなかった。角柱状のアプライトを埋設した埋石炉が中軸線上に配置されたとすれば、平面形は長方形と推定される（第 168 図）。

検出状況

285SI 出土土器は凹線文系の鉢(599)、高杯(600)が抽出されるのみである（第 169 図）。

285SI出土土器

285SI は遺構に伴う土器がごく少ないが、遺構の位置関係に、長方形の平面形を加味して、３期から４期とした。

時期

## （3）その他の弥生時代中・後期の遺構・遺物

### その他の弥生時代の遺構

概要　竪穴建物以外に性格が判明する遺構はほとんどない。個体識別が可能な弥生土器の出土もごく少ない。以下、弥生時代の遺物が出土した土坑として 124SK、133SK、158SK、197SK、倒木痕として 164SK、土器群として 298SU を報告する（第 170 ～ 174 図）。

124SK　124SK は撹乱により上層部分の約半分が欠失するが、覆土中に炭化物、土器、礫を包含する。出土土器は甕（601）等がある。133SK からの出土土器は甕の脚台（603）がある。上位は柱状中実で下位は全体に内彎する。１期から２期に対比される。

133SK

158SK　158SK は北西の谷に面した緩斜面付近で検出した土坑で、遺構の形状からは掘立柱建物の柱穴が想定されるが、調査区の制約もあって建物の復元には及ばない。出土土器は柱状中実の甕の脚台（604）、凹線文系土器（605・606）で、１期に対比される。

164SK　５号墳周溝に重複する 164SK は大型の土坑を想定して調査を進めたが、堆積が不整合で掘方の形状を把握することも困難であったことから、倒木痕と判断した。甕（607・608）、広口壷（610 ～ 612）、有段高杯（613 ～ 616）、小型高杯（617・618）等、１期から５期、各時期の弥生土器が少量出土した。有段高杯脚部（615）は横線文間を羽状の刺突文で充填する。

197SK・210SK　197SK、210SK は６号墳下層の旧表土下で検出した。周囲には小土坑が散在するが、検出面が６号墳周溝で失われる部分も多く、掘立柱建物の復元は難しいと判断した。197SK 出土土器は広口壷（619）、210SK 出土土器は甕（620・621）がある。甕の口縁部（621）は縁帯状で、古墳時代に対比される可能性もある。

298SU　３・６号墳間の検出面付近から散在して出土した土器群を 298SU とした。土器群には広口壷（622・625）等が含まれる。大型の加飾広口（有段口縁）壷（625）は平成 30 年度の確認調査時に出土し、６・７号墳間と７号墳北西の検出面付近、３号墳盛土内から出土した破片が接合した。有段口縁の上段外面の文様帯は３本１組の棒状浮文により６単位に区画され、区画内に竹管状工具による円形刺突文を上下に配する。風化が著しく、確実ではないが、それらに先行して羽状刺突文が施されているようである。口縁部端面にも竹管状工具による刺突文を施し、やはり、風化が著しくほとんど残存しないが、内面にも（羽状を構成すると思われる）刺突文が施される。

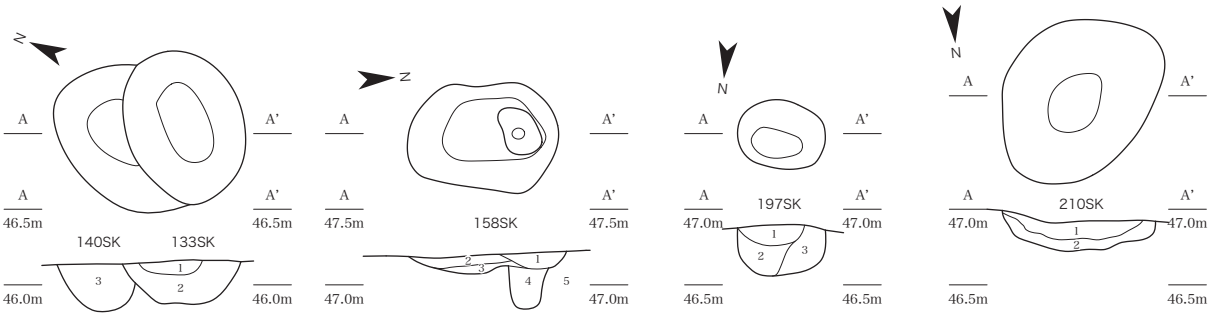
### その他の（遺構に伴わない）弥生時代の土器・土製品

表土掘削時、遺構検出時に出土した土器等を一括して報告する（第 175 図）。

１期　１期に対応する土器として、鉢（626）、細頸壷（627・628）等がある。鉢（626）は内外面にヘラミガキを施す。伊勢（南勢）系で、胎土も明確に異なる。

２期以降　２期以降に対応する土器として、甕（630 ～ 635）、手焙形土器（636）、有段口縁壷（638・639）、有段高杯（642 ～ 647）、小型高杯（648 ～ 651）等がある。小型高杯脚部（649）は小さい透孔を６方向に配する。

用途不明土製品　その他、用途不明の土製品（654・655）を抽出した。焼成は軟質で、平滑な面が認められる。



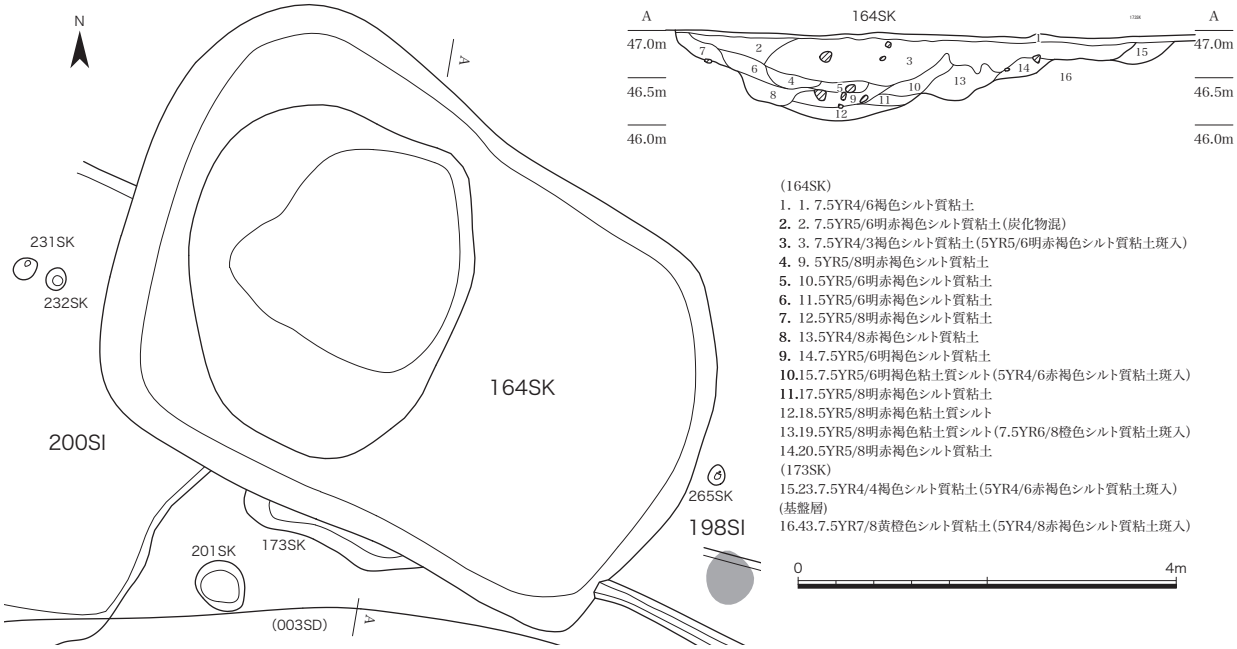

(133SK)
1. 1.5YR4/3にぶい赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
2. 2.5YR5/6明褐色シルト質粘土(炭化物混)
(140SK)
3. 3.5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
(基盤層)
4. 4.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土地山

(158SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
2. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 5YR4/8赤褐色粘土質シルト
4. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト質粘土
(基盤層)
5. 7.5YR6/8橙色粘土質シルト

(197SK)
1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
2. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土

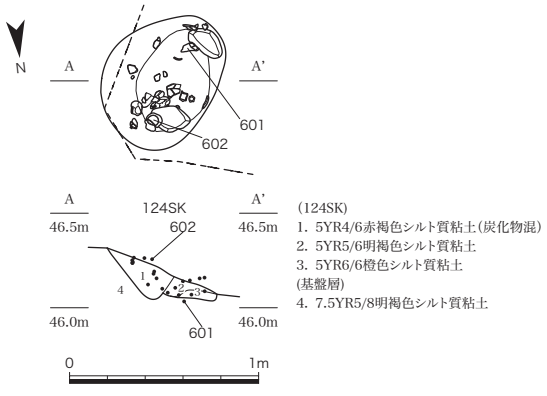
(210SK)
1. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
(7.5YR4/3褐色シルト質粘土斑入)
2. 5YR5/6明赤褐色シルト質粘土

第170図　133SK・158SK・197SK・210SK遺構図（1:50）



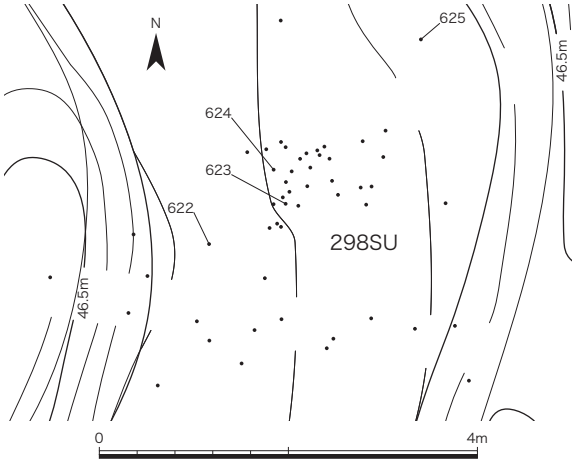

(164SK)
1. 1. 7.5YR4/6褐色シルト質粘土
2. 2. 7.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
3. 3. 7.5YR4/3褐色シルト質粘土(5YR5/6明赤褐色シルト質粘土斑入)
4. 9. 5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
5. 10.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
6. 11.5YR5/6明赤褐色シルト質粘土
7. 12.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
8. 13.5YR4/8赤褐色シルト質粘土
9. 14.7.5YR5/6明褐色シルト質粘土
10.15.7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入)
11.17.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
12.18.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト
13.19.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト(7.5YR6/8橙色シルト質粘土斑入)
14.20.5YR5/8明赤褐色シルト質粘土
(173SK)
15.23.7.5YR4/4褐色シルト質粘土(5YR4/6赤褐色シルト質粘土斑入)
(基盤層)
16.43.7.5YR7/8黄橙色シルト質粘土(5YR4/8赤褐色シルト質粘土斑入)

第171図　164SK遺構図（1:80）

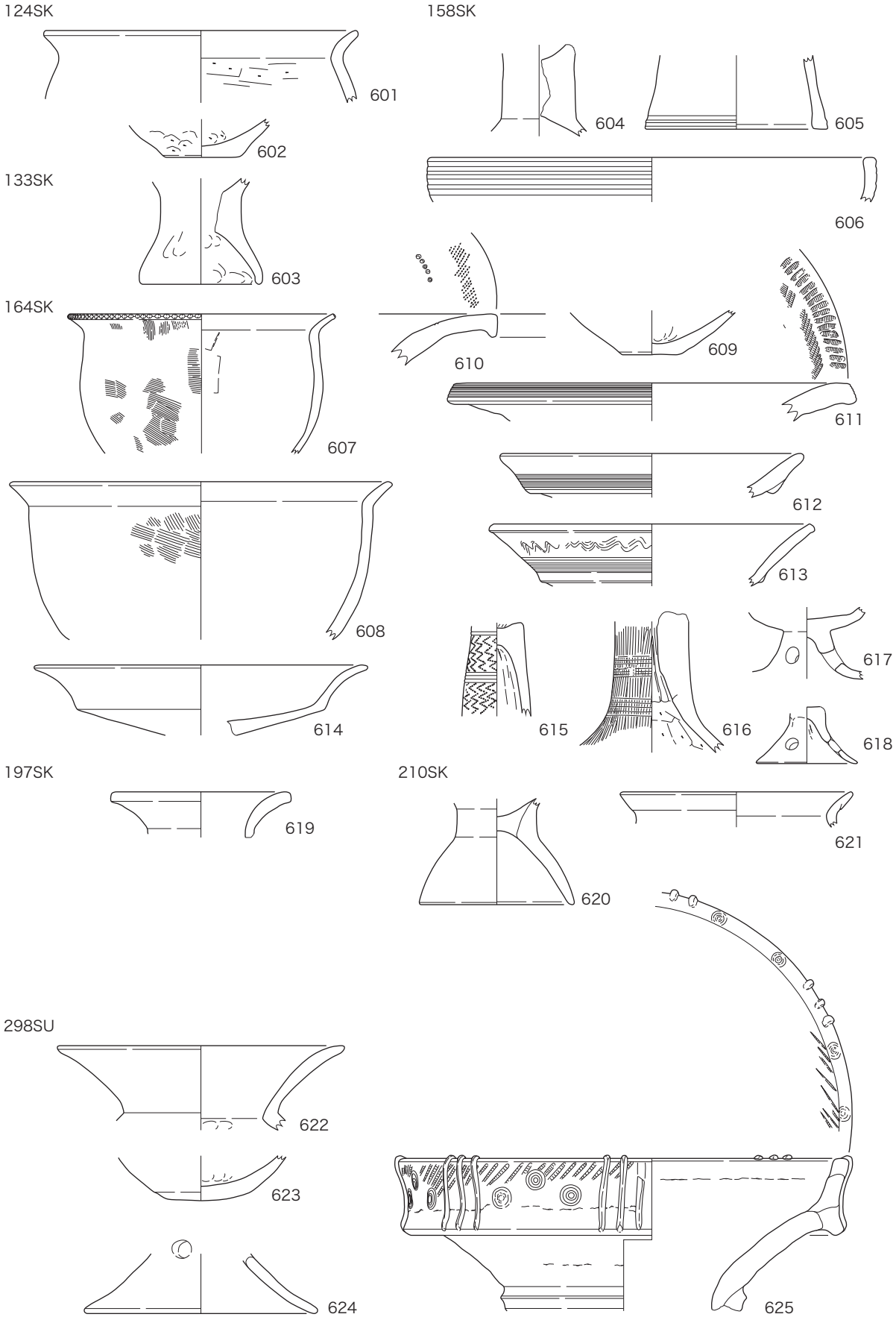



(124SK)
1. 5YR4/6赤褐色シルト質粘土(炭化物混)
2. 5YR5/6明褐色シルト質粘土
3. 5YR6/6橙色シルト質粘土
(基盤層)
4. 7.5YR5/8明褐色シルト質粘土

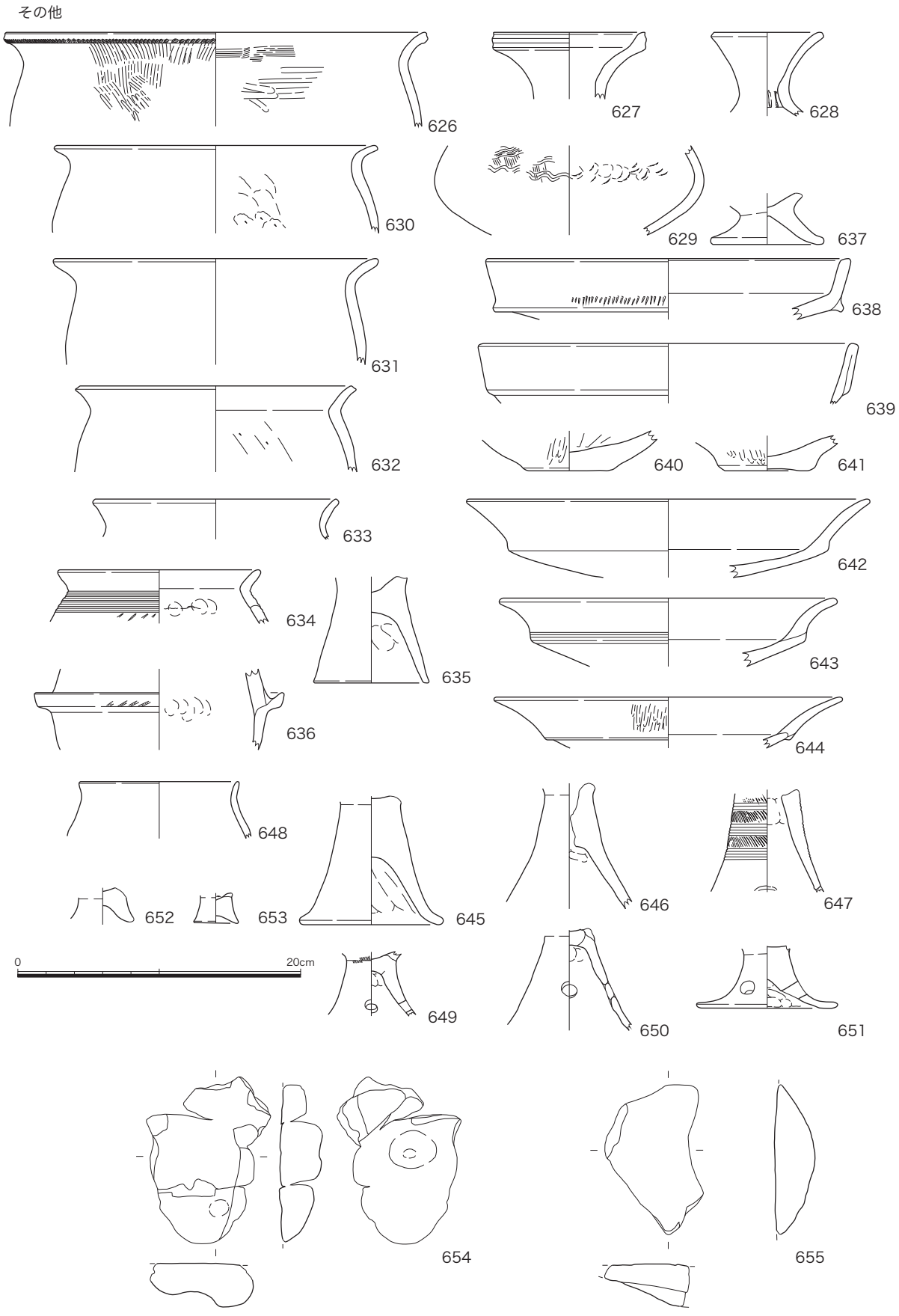
第172図　124SK遺物出土状況図（1:40）




第173図　298SU遺物出土状況図（1:80）




第174図　その他の遺構出土土器実測図（1:4）




第175図　遺構外出土土器実測図（1:4）

## （4）縄文・弥生時代の石器

### 1）花の木遺跡

概要

縄文・弥生時代の石器は、主に弥生時代の竪穴建物跡や遺構検出面からの出土が多く、大半が弥生時代に属すると考えられる。しかし、形態的特徴から縄文時代に遡るものも散見される。よって、以下器種ごとにその特徴を述べ、時期が明らかなものについてのみ、時代に言及する。また、顕著な摩耗や磨面、砥面にはトーンで示し、それ以外の用法で用いる場合はその都度説明する。なお、石材の分類については、堀木真美子による分類（堀木 2019）に基づいておこなった（第 176 ～ 183 図）。

石鏃

石鏃は 11 点（1 ～ 11）出土し、無茎（1 ～ 6）・有茎（7）・磨製（8 ～ 11）の 3 種類に分類できる。無茎は平基式（1）と凹基無茎式（2・3・5・6）・不明（4）に分けられる。平基は基部から先端に向かって基部を平坦にする加工がみられる。1 は裏面が平坦な剥片を素材としており、裏面を打面として表面に向かって急角度の剥離を施し、その後裏面を平坦にする剥離が施される。これにより、刃線が下面に偏っている。凹基無茎式は、基部に抉りを施すものである。2 は裏面を平坦に仕上げたのち、裏面を打面にして表面へ押圧剥離を施す。これにより、刃線が下面に偏る。3 は表面と裏面を交互に打面として、押圧剥離を施す。これにより、刃線は真ん中に寄っている。先端と左脚部が折損する。5 は裏面を平坦に加工したのち、裏面から表面に向かって押圧剥離が施され、刃線が下面に偏る。6 は裏面が平坦な剥片を素材とし、裏面から表面に向かって押圧剥離が施される。これにより、刃線が下面に偏る。先端と左脚部を折損するが、遺跡出土の石鏃でもっとも小形である。4 は風化が激しく剥離面が明瞭ではない。基部は折損している。石材は黒曜石 3 点（1・2・3）、泥質凝灰岩 1 点（4）、サヌカイト？ 2 点（5・6）である。

有茎は 7 が出土している。いわゆる長身鏃である。右側縁は裏面から表面に向かって押圧剥離が施されるが、左側縁の真ん中よりも下では裏面から表面に向かって押圧剥離が施される。形態的特徴から、弥生時代中期と考えられる。石材は安山岩である。

磨製は 4 点（8 ～ 11）出土している。4 点とも全面に研磨が施され、剥離面の痕跡を擦り消している。全面を磨製したのち、左右の側面を仕上げるため、表面の左右には浅い段差が生じる。10・11 は下面中央に穿孔が認められる。石材は塩基性凝灰岩（8 ～ 10）と結晶片岩（11）である（第 176 図）。

石匙

石匙は 1 点（12）出土している。刃部と摘み部分を連続した剥離を施し、丁寧に作り出している。この点と形態的な特徴から縄文時代中期またはそれ以前と考えられる。石材は溶結凝灰岩である（第 176 図）。

楔形石器

楔形石器は 3 点（14 ～ 16）出土している。両端から中心に向かって求心的な剥離が施された石器を楔形石器とした。石材はチャート（14）、凝灰岩（15）、溶結凝灰岩（16）である（第 176 図）。

加工痕ある剥片

加工痕ある剥片は 7 点出土し、6 点（13・17 ～ 22）図化する。13 は、先端と両側縁に加工が集中している。石錐の可能性も考えられる。17 は表面が左方向からの剥離によって大きく抉れている剥片である。石核の調整剥片の可能性がある。18 は両極技法によって作出された剥片である。左上端部に、表面から裏面に向かって連続した加工が

施される。19 は両側縁と先端に二次加工が認められる。基部側は素材時の剥離面を残す。石鏃の未製品の可能性がある。20 ～ 22 は側縁に加工が施される。20 は板状の礫？を素材とし、両側縁の加工によって抉入部が作出される。石材は黒曜石２点（17・18）、溶結凝灰岩２点（13）、凝灰岩２点（19）、泥質凝灰岩（21）、下呂石？（20）である。

剥片

剥片は 45 点出土し、10 点（23 ～ 32）図化する。両極技法で作出された剥片は、６点（23･25 ～ 28）あり、石材は黒曜石３点（23･26）、溶結凝灰岩１点（25）、凝灰岩２点（27･28）である（第 176 図）。

石核

石核は 13 点出土し、８点（33 ～ 40）図化する。両極技法の石核が２点（33）、剥片素材の石核が９点（34・35・37・38）ある。石材は黒曜石５点（33・34・36・38）、溶結凝灰岩１点（37）、凝灰岩１点（40）、チャート１点、安山岩Ｅ１点、安山岩Ｆ１点、凝灰質泥岩２点（39･40）、安山岩（下呂石）１点（35）である。黒曜石と溶結凝灰岩は、両極技法による剥片と石核が出土していることから、この遺跡で石器製作を行っていた可能性がある（第 177 図）。

打製石斧

打製石斧は 15 点出土し、13 点（41 ～ 53）を図化する。打製石斧は両面加工のもの（41・42・48・49・51・52）と器面が薄く周縁加工のもの（43 ～ 47・50・53）に分けられる。これらの違いは、石材にも現れている。石材は泥質凝灰岩２点（41・50）、安山岩１点（42）、安山岩Ｂ１点（48）、安山岩Ｅ１点（49）、安山岩Ｆ１点（51）、緑色片岩２点（43･45）、結晶片岩１点（44）、塩基性岩１点（53）、塩基性凝灰岩５点（46･47･52）である。両面加工のものは安山岩を主体とするが、薄手で周縁加工のものは緑色片岩や塩基性凝灰岩等、緑色系の石材が中心となる。これが時期差や集団の違いを表している可能性がある。また、塩基性岩と塩基性凝灰岩は、後述する磨製石斧の石材でもある。これら緑色系の打製石斧は、磨製石斧の製作で出た剥片等を素材としている可能性がある（第 177 図）。

磨製石斧

磨製石斧は 20 点出土し、10 点（54 ～ 63）を図化する。磨製石斧は敲打痕や剥離痕を大きく残し一部に研磨が施されるもの（54・59・61）、研磨が全面に施されるもの（56 ～ 58・63）、敲打痕や剥離痕を大きく残すもの（55・60・62）に分けられる。54・57 は刃部が両刃で、いわゆる蛤刃と呼ばれる形態である。56 は小形の石斧で、加工斧の可能性がある。60・62 は敲打痕や剥離痕等の一次整形痕を大きく残すもので、研磨や刃部の形成が認められない。形状は 54 や 57 に類似するため、これら蛤刃石斧の未製品の可能性が高い。63 は定角式磨製石斧である。石材も他の磨製石斧と異なる搬入品である。形態的特徴から縄文時代後期の可能性が高い。石材は塩基性岩 13 点（54・55・58・62）、塩基性凝灰岩６点（56・57・59 ～ 61）、蛇紋岩１点（63）である（第 178 図）。

磨製石剣

磨製石剣は１点（64）出土している。小形で全面に研磨が施される。石材は塩基性凝灰岩である（第 179 図）。

加工痕ある礫

加工痕ある礫は２点出土し、１点（65）図化する。65 は、周縁にのみ加工が施される。石材は安山岩１点（65）と塩基性岩である（第 179 図）。

石錘

石錘は８点出土し、全て図化する（66 ～ 73）。石錘は上下端部にのみ敲打痕があるもの（66・67・69 ～ 71）、上下端部と側面に敲打痕があるもの（68）、研磨痕があるもの（72）、中央に敲打痕があるもの（73）に分けられる。67 は上下端部に敲打痕があり、右側面が磨耗している。73 は中央の敲打痕が全面に回る。他の石錘とは形態が異なっている。

石材は凝灰質砂岩１点（68）、砂質凝灰岩１点（73）、塩基性岩１点（66）、塩基性凝灰岩３点（67・69・71）、結晶片岩１点（72）、片麻岩１点（70）である（第 179 図）。

敲石

敲石は５点出土し、全て図化する（74 ～ 77）。敲石は上下端部に敲打痕が認められる。74 は、磨製石斧の石材と同様な硬い石を素材としている。転用品の可能性がある。76 は裏面に研磨の痕跡が確認できる。磨製石斧の未製品の可能性も考えられる。石材は砂岩１点（77）、塩基性岩１点（74）、珪質岩１点（75）、斑れい岩１点（76）である（第 180 図）。

磨石

磨石は 14 点出土し、９点（78 ～ 86）図化する。78 は顕著な磨面が認められ、表面中央には砥面状の窪みが形成される。上下端部に顕著な敲打痕がみられることから、砥石ではなく磨石とした。79・80 は軽石製の磨石である。風化が激しく、器面が明瞭ではないが、ところどころ顕著な摩耗が認められるため、磨石とした。石材的にも搬入品である。81 は上下面と両側面に平坦な磨面が認められる。裏面には顕著な線状痕が認められる。82・83・85 は表裏面と側面に磨面や敲打痕が認められる。82・83 は側面が平坦になるほどの敲打痕が認められる。また、82 の裏面には被熱による変色が認められる。84・86 は中央に磨面が認められ、わずかに窪む。石材は凝灰岩１点（81）、凝灰質泥岩１点、凝灰質砂岩１点（82）、砂岩１点、軽石２点（79･80）、閃緑岩２点（78）、花崗岩２点（85･86）、アプライト２点（84）、片麻岩２点（83）である（第 180 図）。

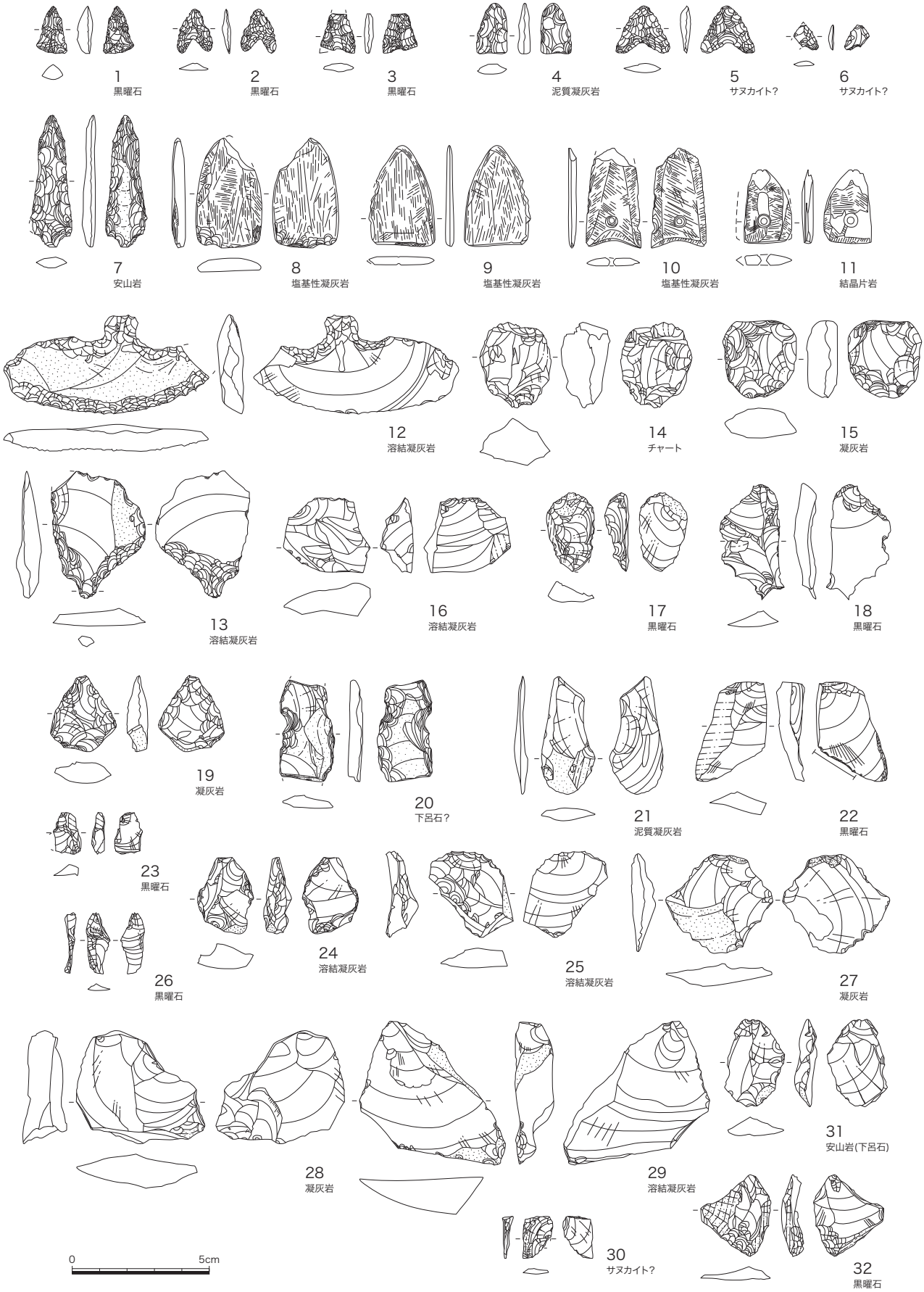
砥石

砥石は 26 点出土し、13 点（87 ～ 99）を図化する。砥石は表裏面に顕著な砥面が認められるもの（87 ～ 90）、下面が平坦になるほど顕著な砥面が認められるもの（91・92）、表裏面と側面に顕著な砥面が認められるもの（93 ～ 99）に分けられる。91・92 は下面に顕著な砥面をもつだけでなく、敲打によって生じたと考えられる剥離痕が認められる。93 は側面から裏面にかけて被熱による変色が認められる。97 は右側面にゆるく内湾するほどの砥面があるほか、裏面には被熱による変色（薄いトーン）が認められる。石材は凝灰岩４点（93･96）、泥質凝灰岩１点（90）、砂質凝灰岩１点（95）、安山岩２点（91･97）、閃緑岩２点（87・88）、塩基性岩２点（92）、花崗岩５点（89）、アプライト１点、片麻岩８点（94・98・99）である（第 181 図）。

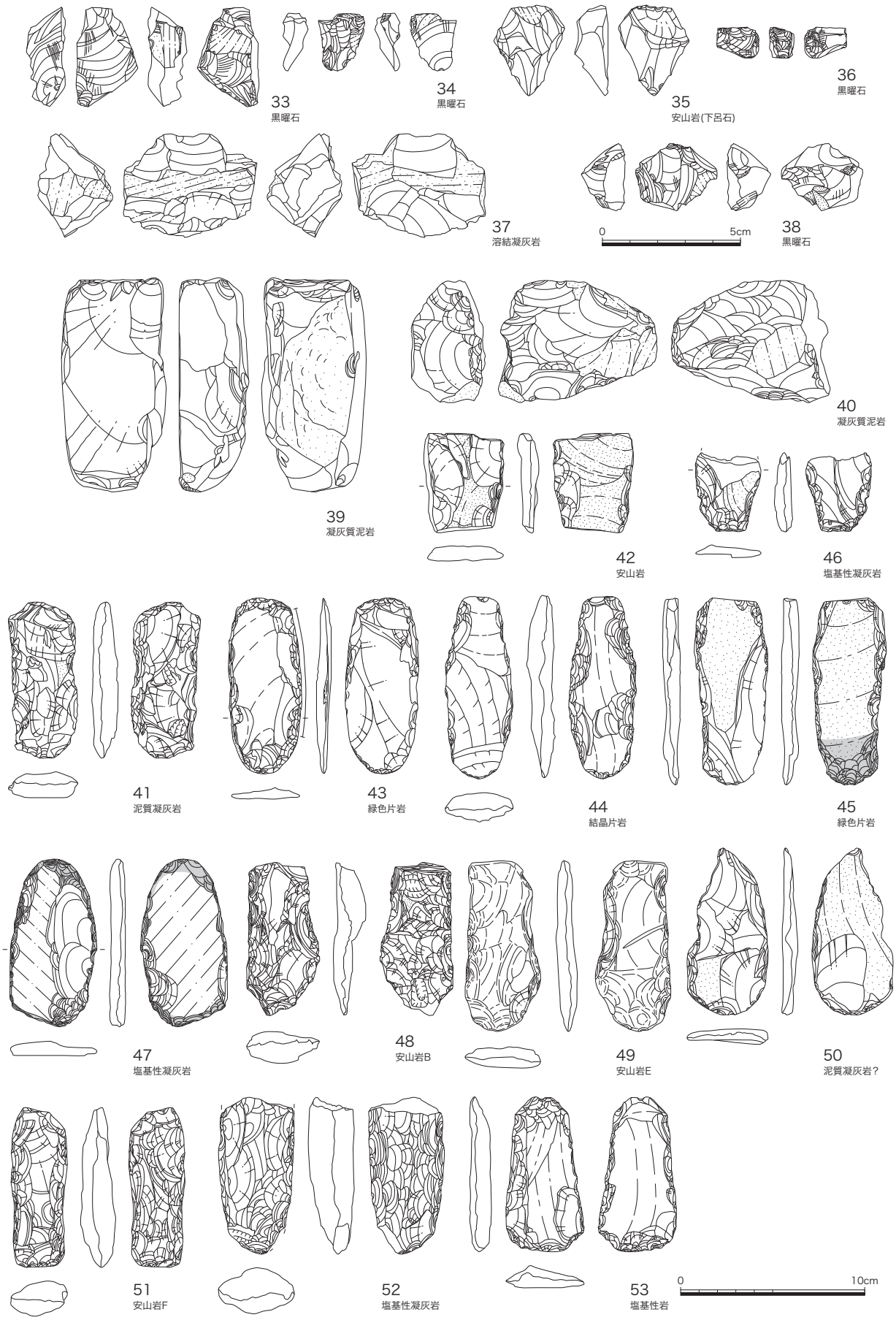
台石

台石は 17 点出土し、10 点（100 ～ 109）を図化する。台石はほとんどが円礫を利用しているが、106 や 109 のような角礫を使用したものもある。109 は裏面中央（トーンの濃い部分）が最も摩耗しており、その周囲も明瞭な磨面が認められる。石材は安山岩Ｅ１点（101）、閃緑岩２点（103・106）、花崗岩 10 点（100・102・108・109）、片麻岩４点（104・105・107）である（第 182 図）。

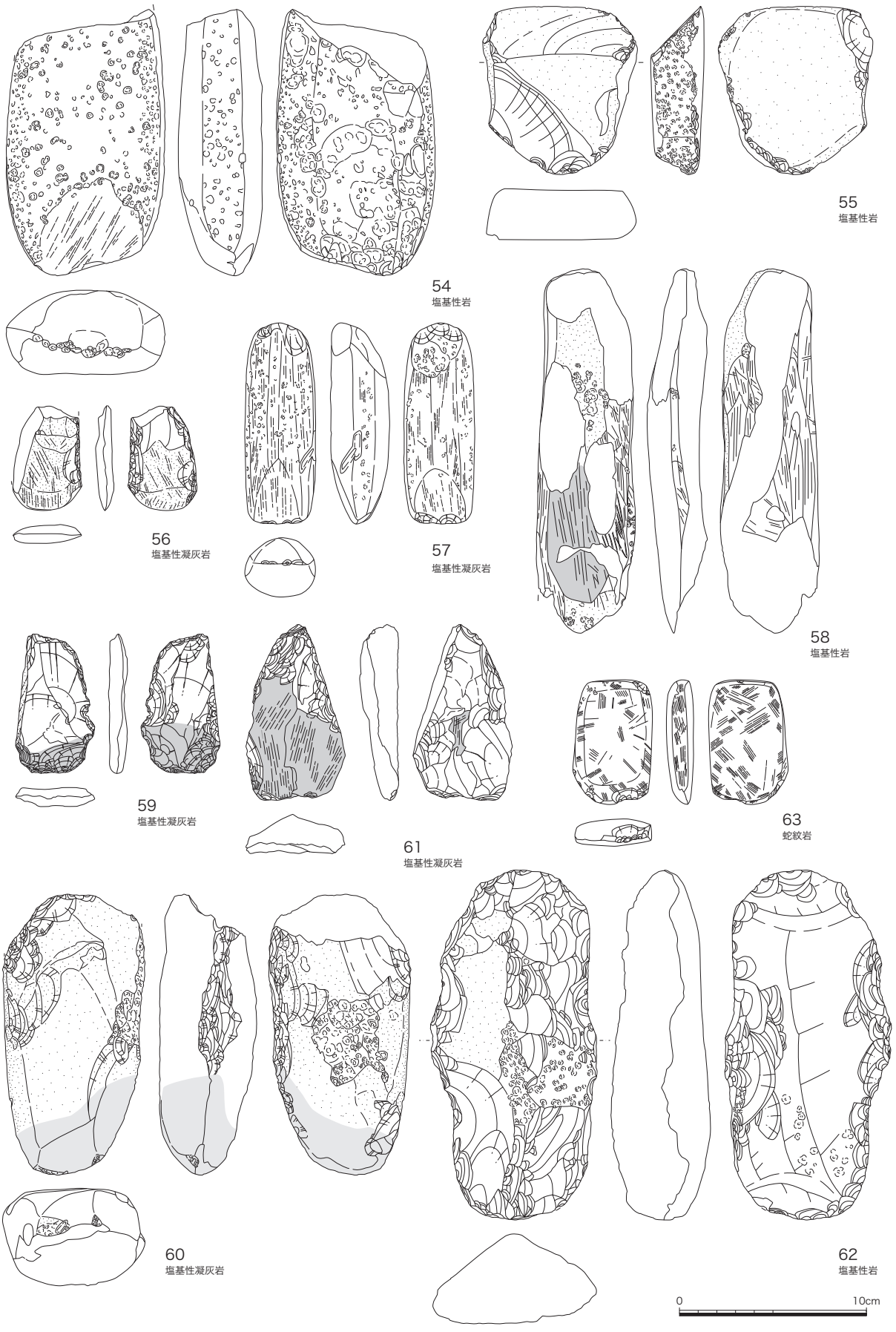
石製品としたものは、竪穴建物跡内から出土したもので、４点（110 ～ 113）ある。どれも炉石として使用されたと考えられるが、側面に連続した剥離が認められることから、素材を一部整形して使用していたと推測される。110･112 には側面に被熱による変色（薄いトーン）が認められる。113 の右側面には、顕著な磨面が認められる。石材は安山岩１点（110）、花崗岩２点（112・113）、片麻岩１点である（第 183 図）。



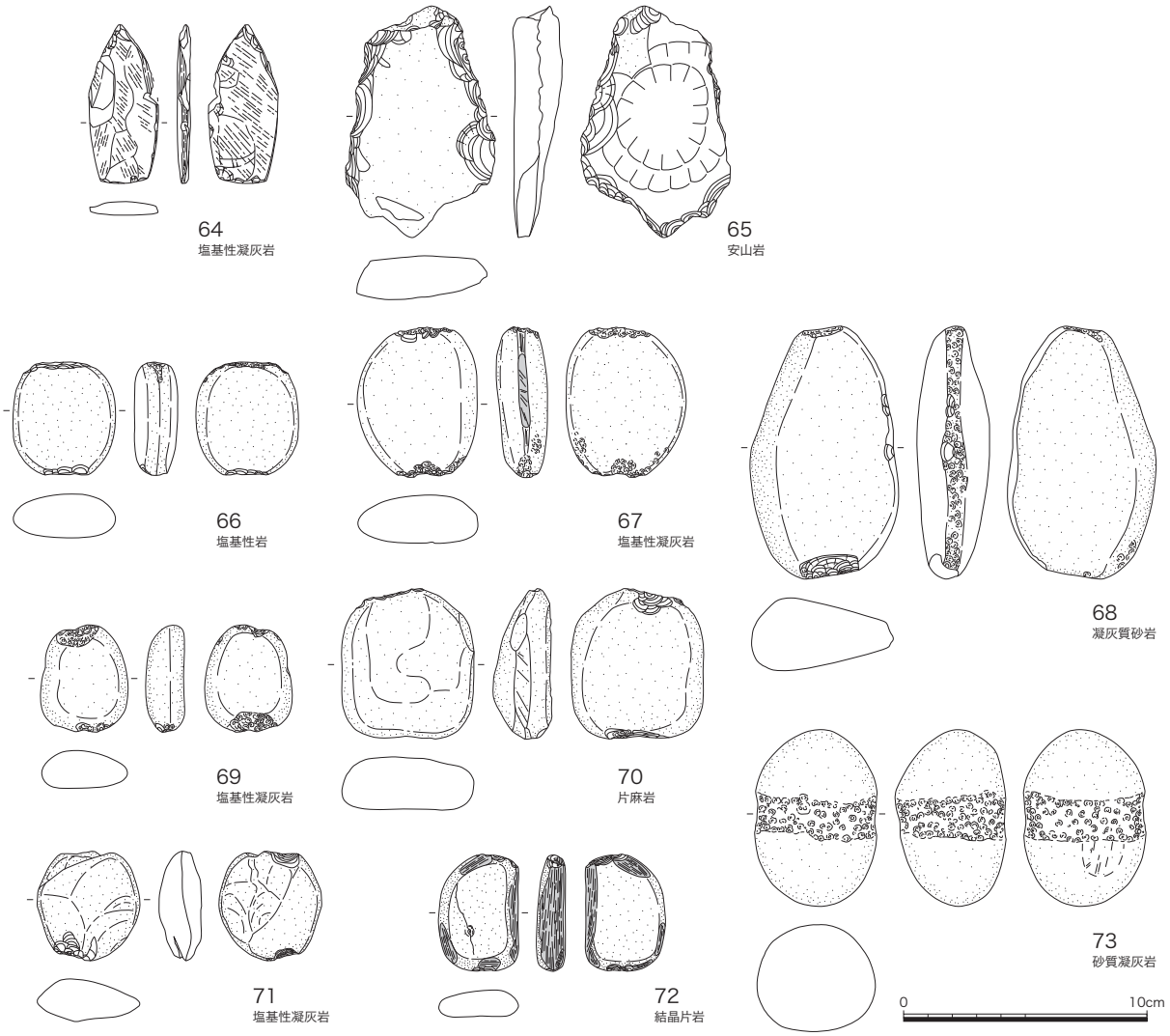

第176図　縄文・弥生時代の石器（石鏃・石匙・楔形石器・剥片）実測図（1:2）



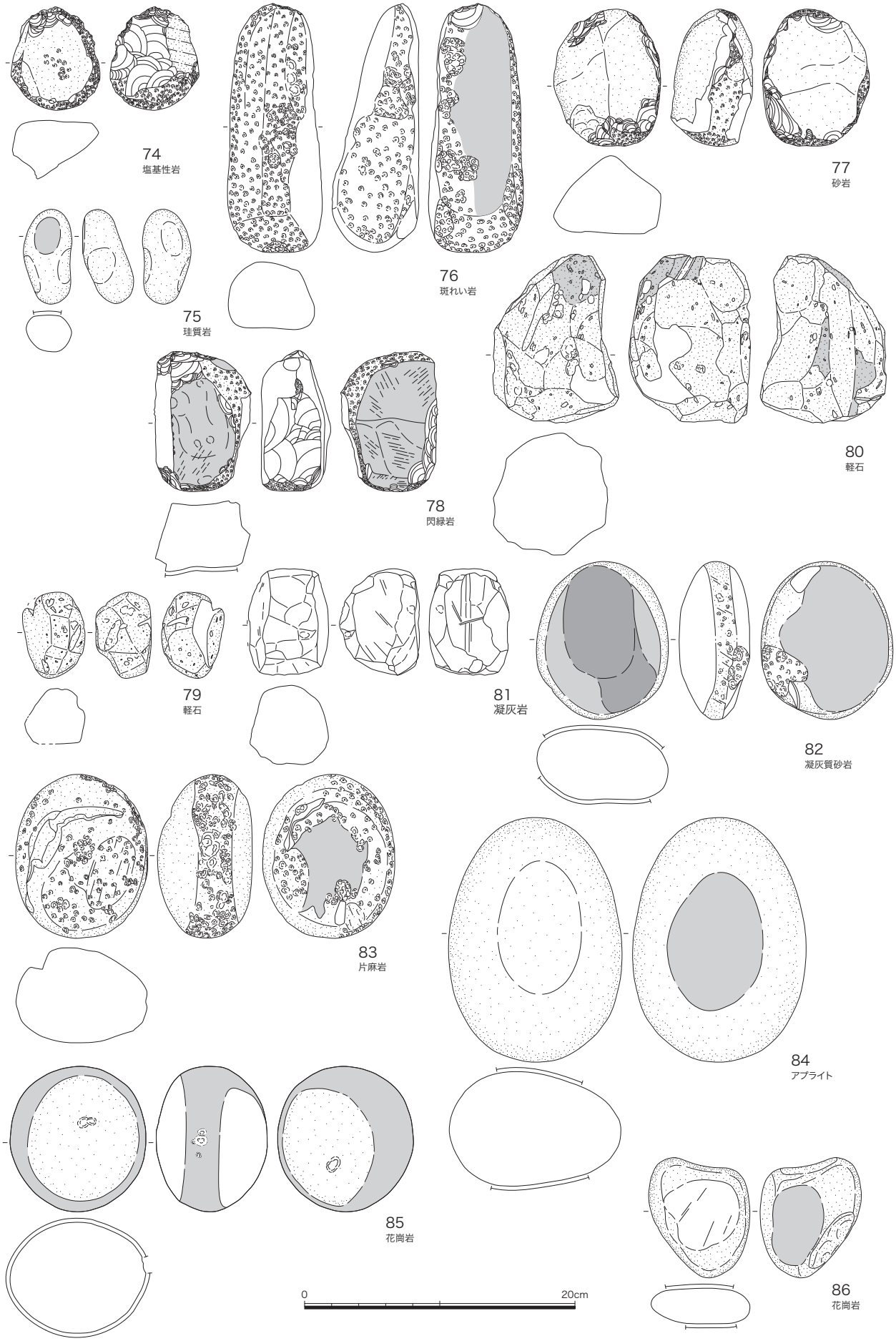

第177図　縄文・弥生時代の石器（石核・打製石斧）実測図（1:2・1:3）



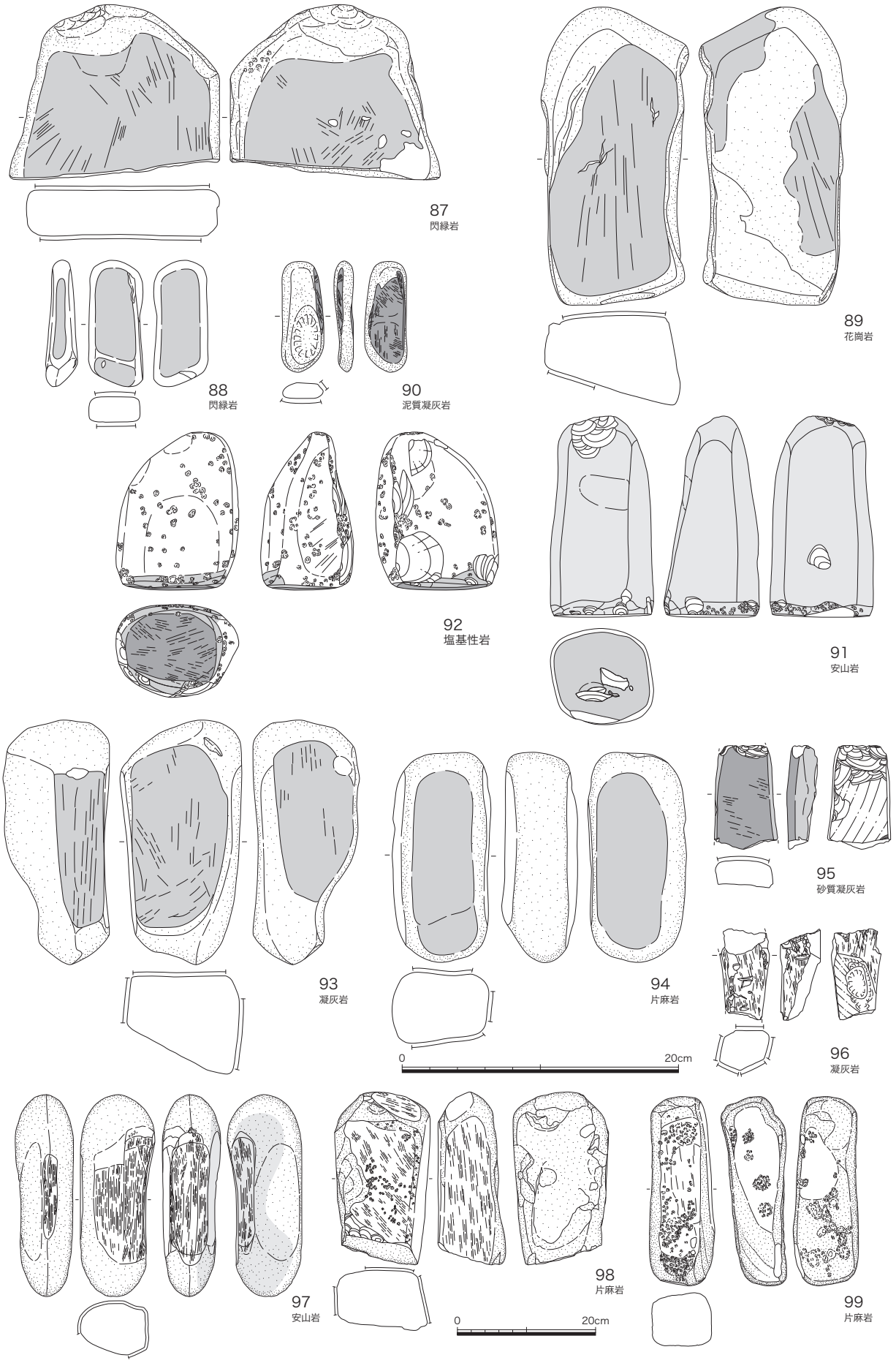

第178図　縄文・弥生時代の石器（磨製石斧）実測図（1:3）




第179図　縄文・弥生時代の石器（磨製石剣・加工痕ある礫・石錘）実測図（1:3）

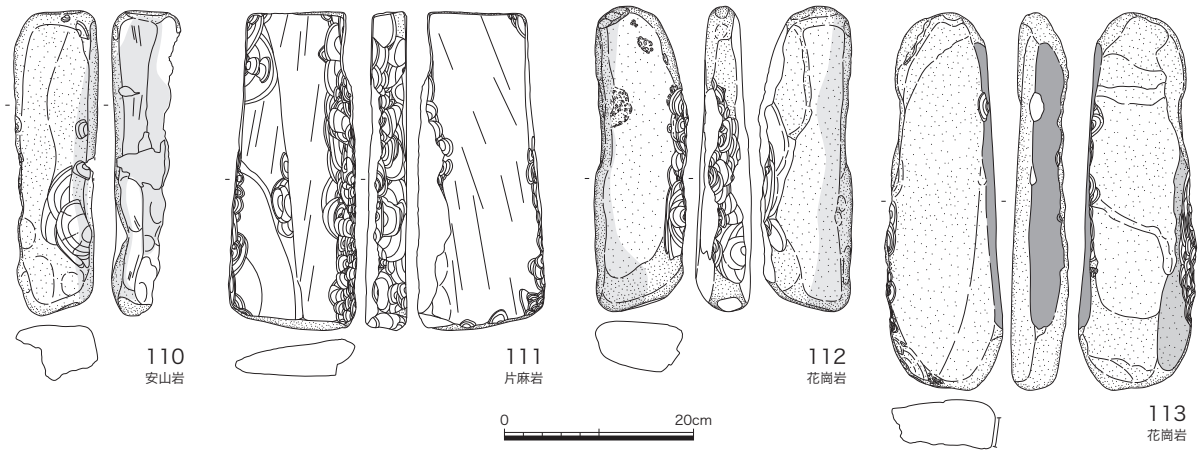



第180図　縄文・弥生時代の石器（敲石・磨石）実測図（1:4）

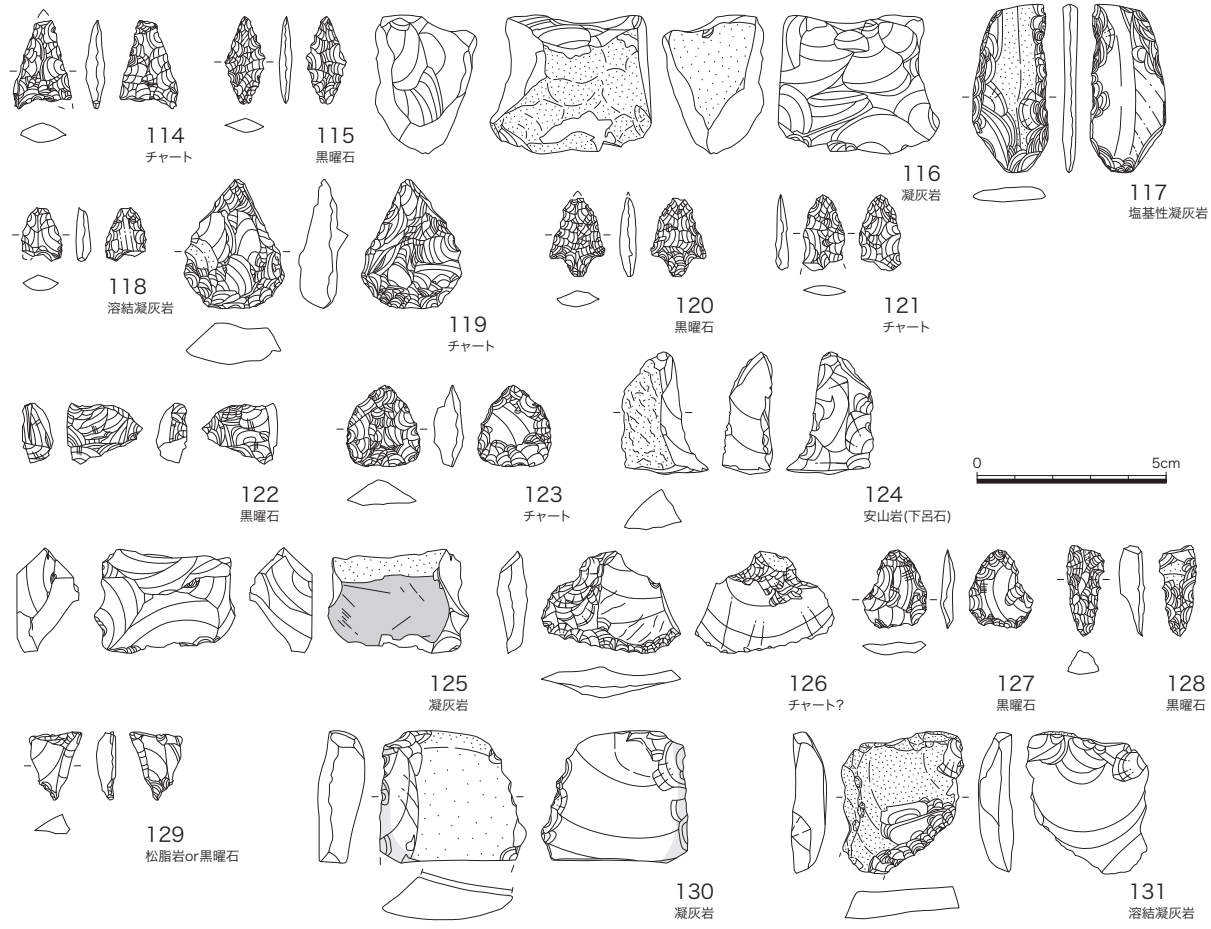



第181図　縄文・弥生時代の石器（砥石）実測図（1:4・1:8）

第182図　縄文・弥生時代の石器（台石）実測図（1:4・1:8）




第183図　縄文・弥生時代の石製品（炉石）実測図（1:8）




第184図　花の木古墳群出土石器実測図１（1:2）

## ２）花の木古墳群

概要

花の木古墳群からは、主に墳丘や周溝の埋土から石器が出土している。これらのほとんどは、周囲に展開する弥生時代の集落や縄文時代に属するものと考えられる。器種ごとに特徴を述べ、時期が推定できそうなものについては、少し言及する（第 184 ～ 188 図）。

石鏃

石鏃は８点（114・115・118 ～ 121・123・127）出土し、全て図化する。石鏃は凹基無茎式（114・118・121・127）、長身式（115）、有茎式（120）、円基式（119・123）に分けられる。119 と 123 は表面下部がコブ状に高まり剥離が止まるため、基部が円形になる。石材は黒曜石３点（115･120･127）、溶結凝灰岩１点（118）、チャート４点（114･119･121･123）である。花の木遺跡では溶結凝灰岩とチャート製の石鏃は出土していない。また、花の木遺跡で縄文時代の石器としたものには、溶結凝灰岩やチャート製の石器が確認できるため、溶結凝灰岩製とチャート製の石鏃は、縄文時代に比定できる可能性がある。黒曜石製の石鏃は、花の木遺跡でも確認できるため、弥生時代中期から後期の石器と考えられる（第 184 図）。

石匙

石匙は１点（126）出土している。上端部に原礫面を残す横型の石匙である。色調が黒色を呈するチャートで、裏面から表面に向かって急角度の刃部が形成される。花の木遺跡でも横型の石匙が出土しており、ともに縄文時代に属すると思われる（第 184 図）。

石錐

石錐は１点（128）出土している。下端部の錐部分は、裏面から表面に向かっての加工により形成され、上部は折損している。石材は黒曜石である（第 184 図）。

加工痕ある剥片

加工痕ある剥片は７点出土し、３点（117・130・131）図化する。117 は両側縁に加工が施され、上部は折損している。130 と 131 は弥生時代の土坑墓と土器棺墓から出土した。130 は両側縁に加工が施され、下部は折損している。また、両側縁に二重パティナ（トーン部分）が認められる。131 は原礫面が大きく残る剥片の右下端部に加工が施される。左下端部と右側縁が欠損している。石材は黒曜石１点、凝灰岩１点（130）、溶結凝灰岩１点（131）、チャート１点、塩基性凝灰岩１点（117）、緑色片岩２点である。

剥片

剥片は２点（124･129）図化する。124 は、原礫面が残る剥片で、礫面にはパーカッションマークがところどころ確認できる。石材は安山岩（下呂石）である。129 は両極技法により作出された剥片である。独特な光沢のある石質であることから、石材は松脂岩である（第 184 図）。

石核

石核は３点（116・122・125）図化する。116 は裏面に求心的な剥片剥離がおこなわれた石核である。表面には節理面、右側面には原礫面を残す。122 は両極技法により剥片剥離がおこなわれた石核である。上端部と下端部に節理が横方向にはしる。125 は表面に求心的な剥片剥離がおこなわれた石核である。裏面は上部が原礫面で、下部は摩滅しており、線状痕が確認できる。石材は黒曜石１点（122）と凝灰岩２点（116･125）である（第 184 図）。

打製石斧

打製石斧は 14 点出土し、12 点（132・134 ～ 136・138・140 ～ 142・145 ～ 147・149・150）図化する。打製石斧は、器面が厚手で両面加工のもの（132・140・141・145・149・150）と器面が薄く周縁加工のもの（134 ～ 136・138・142・146）に分けられる。石材は、安山岩Ｂ１点（140）、安山岩Ｄ２点（141）、安山岩Ｅ２点（132・149）、安山岩Ｆ３点（145･150）、塩基性岩２点（135･136）、塩基性凝灰岩２点（142･

146)、緑色片岩２点（134・138)、結晶片岩１点（147）である（第 184・185 図)。

磨製石斧　磨製石斧は 16 点出土し、８点（133・137・139・143・144・148・165）図化する。磨製石斧のほとんどが蛤刃（133・139・143）とよばれる弥生時代に特徴的な形態をしている。144・148・165 は製作途上で廃棄された未製品と考えられる。144 は両側縁に加工が施されるが、基部や刃部の形成が認められず、研磨も施されていない。また、下端部は折損している。148 は右側縁にのみ加工が施され、右下端部は敲打によってつぶれている。側面を刃部とする刃器？（スクレイパー？）の可能性も考えられる。165 は長楕円形の原石を素材としている。部分的な剥離と敲打で止まっているが、形状と石材からみて磨製石斧の未製品と考えられる。左側面は平坦になっているが、これは原石時の摩耗である。石材は、安山岩 E1 点、塩基性岩 15 点（133・137・139・143・144・148)、塩基性凝灰岩１点（165)、斑れい岩１点である（第 184・185 図)。

石刀？　石刀？は１点（151）出土している。柱状の礫を素材とし、全面が摩耗している。石目に沿って線状痕が散見され、人為的な研磨とも考えられるため、石刀？とした。石材は片麻岩である。

石錘　石錘は３点（152 ～ 154）出土している。どれも端部に剥離や敲打が施された打欠き石錘に分類される。石材は砂質凝灰岩１点（153)、塩基性岩１点（154)、塩基性凝灰岩１点（152）である（第 187 図)。

磨製石器？　磨製石器？は１点（155）出土している。表面と裏面の一部が摩耗しており（トーン部分)、裏面の摩耗部分には線状痕が認められる。石材は、塩基性岩である（第 187 図)。

敲石　敲石は３点出土し、２点（158・159）図化する。158 は下端部に敲打によって凹面が形成される。全面にあばた状の敲打痕が形成されることと、石材が磨製石斧に使用される石材であることから、磨製石斧の転用品と考えられる。石材は塩基性岩２点（158)、凝灰岩１点（159）である（第 187 図)。

磨石　磨石は 11 点出土し、２点（157・164）図化する。157 は全面に顕著な磨面をもつ多面体磨石である。両側面は剥落しているが、形状から推察するとどちらも磨面をもっていた可能性が高い。表裏面は敲打によってわずかに凹む。164 は、全面に顕著な磨面をもつ多面体磨石である。上下端部に敲打痕が認められ、裏面中央には顕著な凹み痕が確認できる。石材は安山岩２点、安山岩Ｅ１点、塩基性岩１点、アプライト３点（157)、片麻岩３点（164)、花崗岩１点である（第 187 図)。

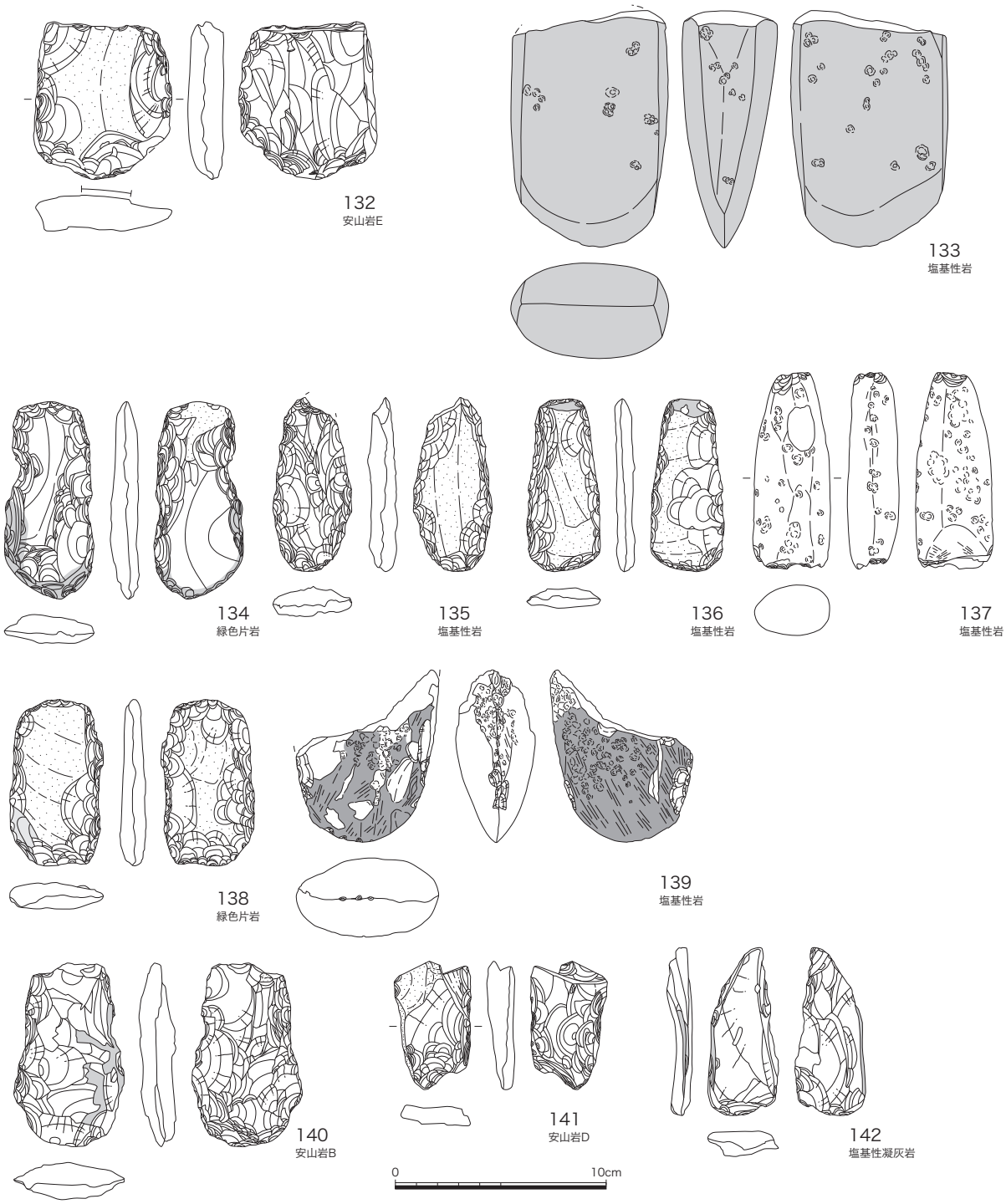
砥石　砥石は 14 点出土し、４点（160 ～ 163）図化した。160 は全面が研磨されているが、裏面が大きく欠損し、形状や器種は不明である。表面下部は被熱によって黒色に変色している。161･163 は全面に顕著な砥面をもつ。砥面と形状の関係から置き砥石に分類できる。161 の上面は剥離面というより敲打面に近い。下面は砥面が形成されたのち、右側が敲打によってつぶされている。163 は下端部に敲打による平坦面が形成され、その後表面から裏面向かって大きく折損する。砥石よりも磨製の製品に近いか。全面に被熱による変色が認められる。162 は下面に顕著な砥面をもつ。砥面と形状の関係から手持ち砥石に分類できる。石材は安山岩１点（163)、凝灰岩２点、砂質凝灰岩１点、凝灰質泥岩１点（160)、塩基性岩１点、閃緑岩２点（161)、片麻岩４点（162)、花崗岩１点である（第 187 図)。

台石　台石は 10 点出土し、５点（156・166 ～ 169）図化する。166 は表面下部に線上の敲

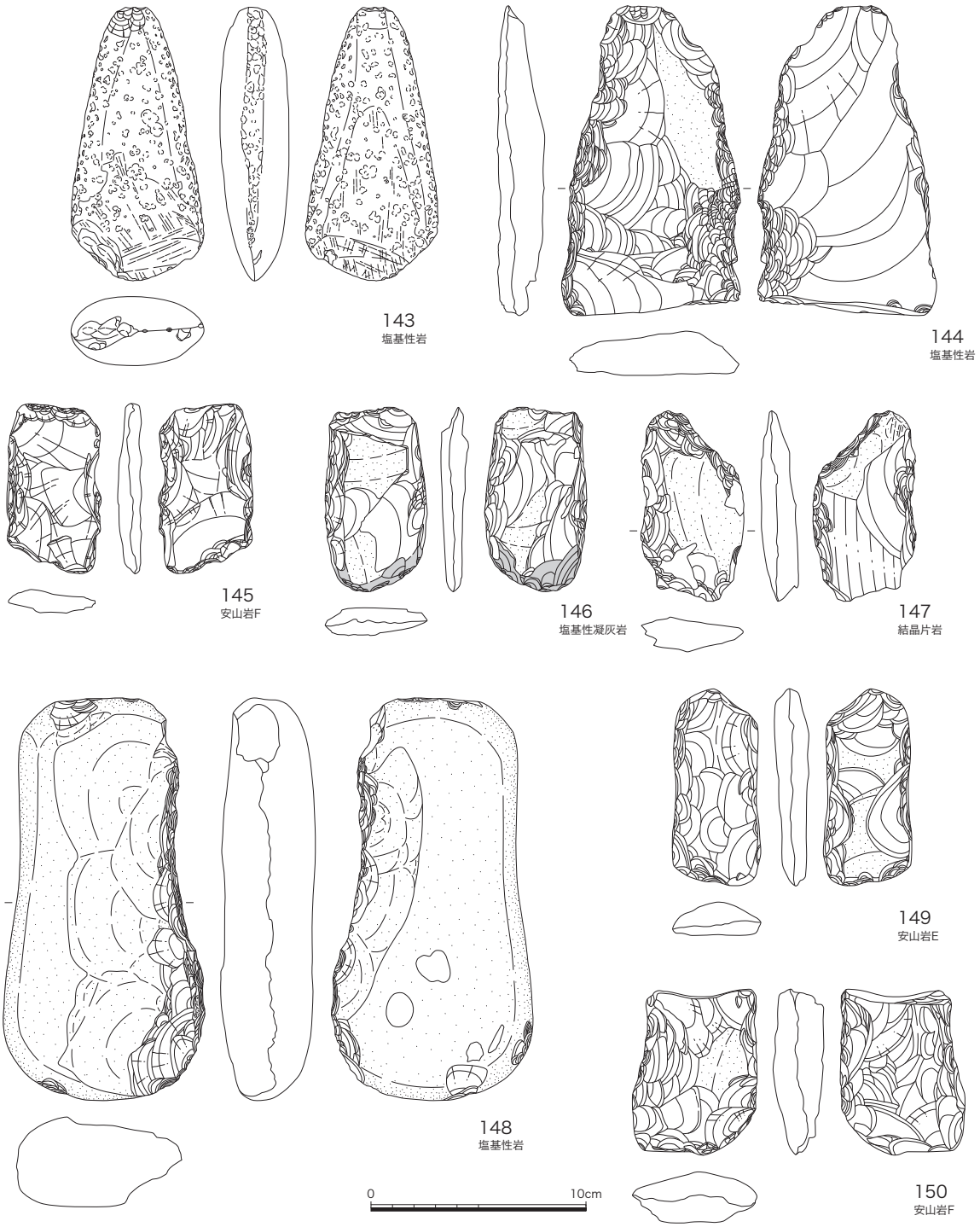
打痕が認められる。何らかの製作台として利用していた可能性が考えられる。167 は表裏面に磨面をもち、表面上部には敲打が認められる。石材はアプライト 1 点、花崗岩 11 点（166 ～ 169）、片麻岩 1 点（156）である（第 187・188 図）。

［参考文献］

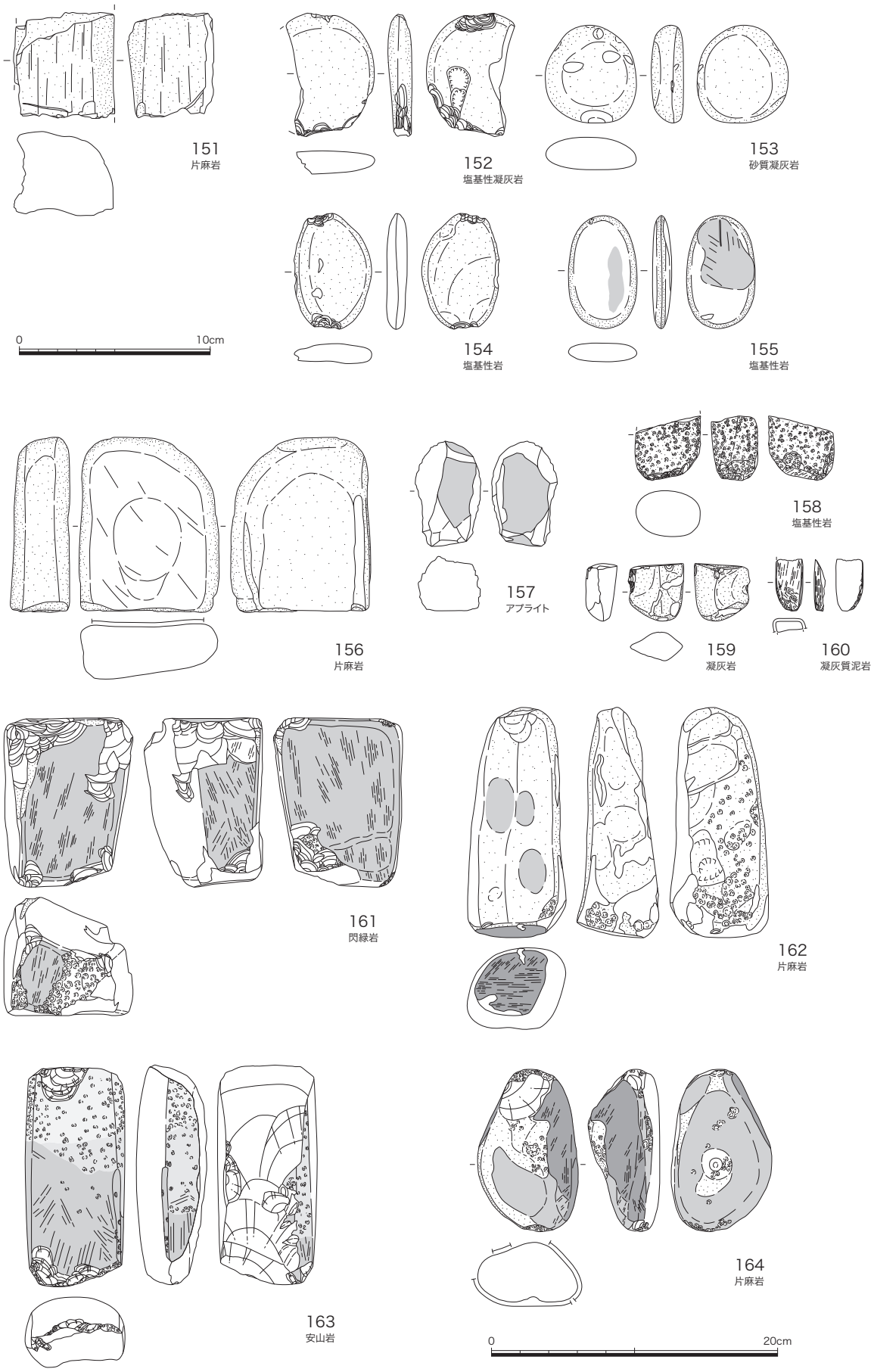
堀木真美子　2019「石材分類について」『西地・東地遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第211集　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター



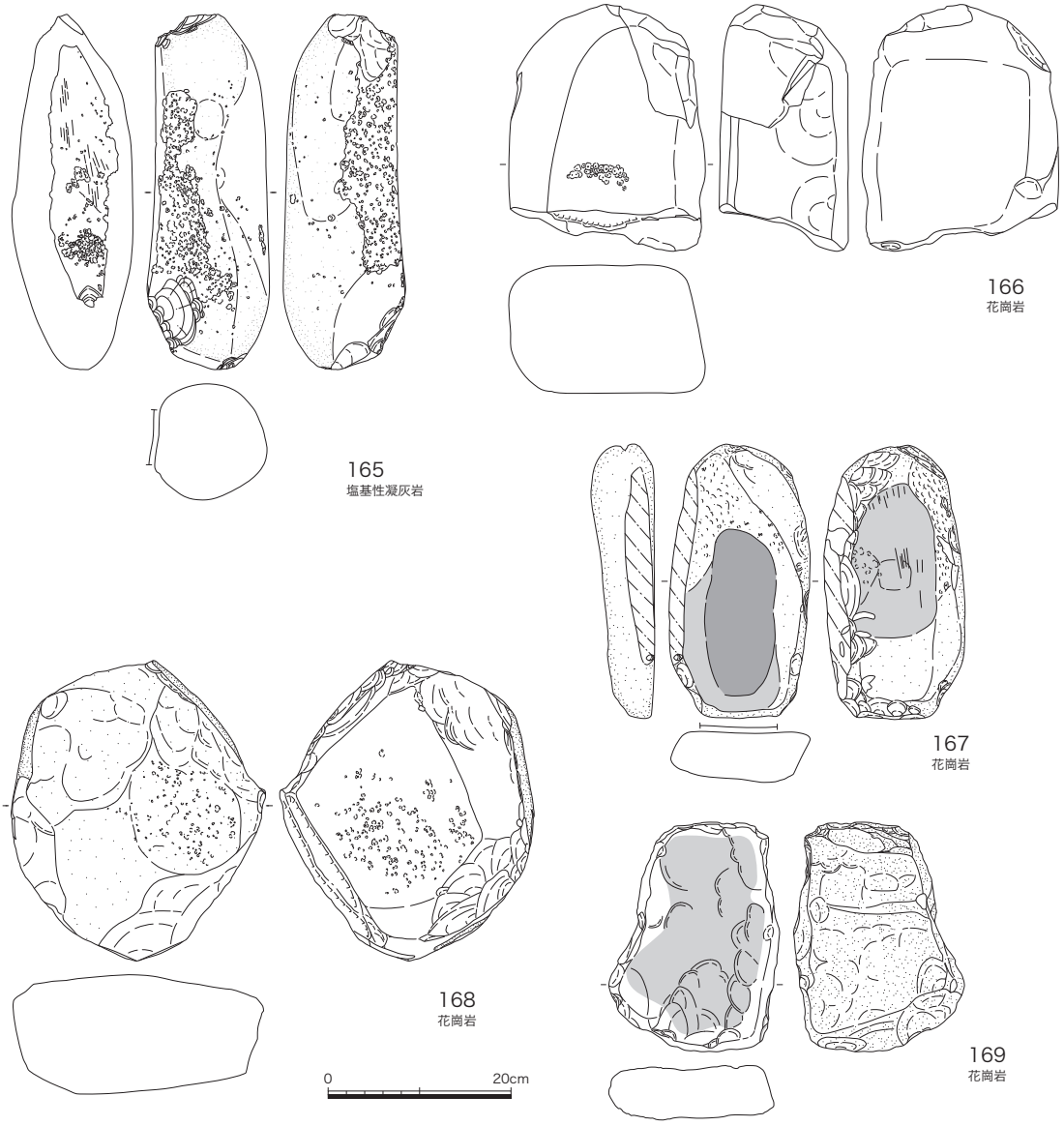

第185図　花の木古墳群出土石器実測図２（1:3）




第186図　花の木古墳群出土石器実測図３（1:3）




第187図　花の木古墳群出土石器実測図４（1:3・1:4）




第188図　花の木古墳群出土石器実測図５（1:8）

## （５）その他の遺構・遺物

### 縄文土器

概要

その他の遺構・遺物として、縄文時代の遺構は確認されていないが、縄文土器が出土している。縄文土器は標高 46m から 48m の台地先端付近に分布する。出土土器は半截竹管状工具による施文と小突起を特徴とする中期初頭から前葉の一群（656 ～ 662）と、太い沈線による文様の描出と台付深鉢が特徴的な中期後葉の一群（663 ～ 666）を主体とする。前者は中期前葉の鷹島式あるいは山田平遺跡Ａ地点下層土器群、後者は中期後葉の神明式、取組式に関連する（第 189 図）。

中期前葉

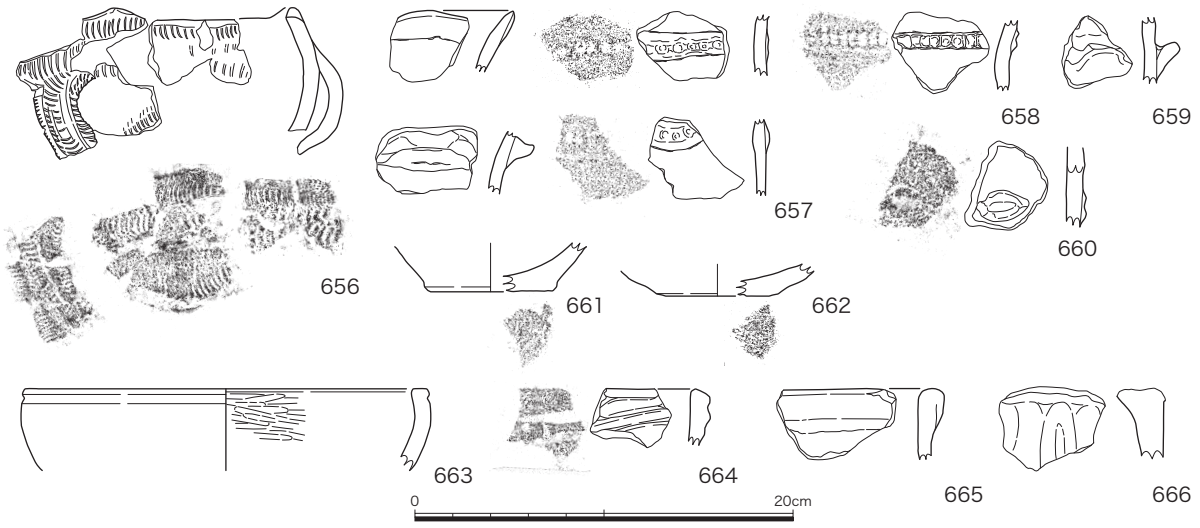
656 は内彎しつつ小さな波状を呈する深鉢の口縁部に半截竹管状工具による爪形文を多用し、橋状把手を付加する。鷹島式に関連するが、地文は不明瞭である。657 は器壁が薄く、砂粒を多く含む特徴的な胎土で、ごく低平な隆帯を貼付した口縁部、やはりごく低平な隆帯に半截竹管状工具の押し引きによると思われる文様を施した体部、小突起を貼付した体部が含まれる深鉢である。658 は同様の隆帯を貼付した深鉢の体部、659・660 は小突起を貼付した深鉢の体部である。661・662 は底部で、器壁の厚さ、胎土の特徴から同じ一群に含めた。

中期後葉

663 は精良な胎土と丁寧な調整から精製の浅鉢とした。664 は太い沈線による文様を描出する深鉢の口縁部、665 は縁帯状の深鉢の口縁部、666 は台付深鉢の台部である。

［参考文献］

泉　拓良　2008「鷹島式・船元式・里木II式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
纐纈　茂・髙橋健太郎　2008「中富式・神明式土器」『総覧　縄文土器』アム・プロモーション
増子康眞　1978「東海地方縄文中期後半土器の編年―東海地方西部地域―」『古代人』34　名古屋考古学会
山下勝年　1988「山田平遺跡出土の縄文中期初頭の土器１」『伊勢湾考古』12　知多古文化研究会




第189図　花の木遺跡（古墳群）出土縄文土器実測図（1:4）

# 第４章　花の木北遺跡

## （１）検出遺構の概要

地形

遺跡は東西を谷地形とする標高 50m 前後の舌状の台地上に立地し、東西約 50m、南北約 100m と推定される遺跡の南（南東）半部分を調査した。遺構は標高 50m 付近から上位で検出され、花の木遺跡と花の木北遺跡を隔てる谷地形の斜面に遺構と遺物はほとんど検出されなかった。遺構面は構造物の基礎等による撹乱が縦横に残され、一部または大部分が欠失する遺構も多い。

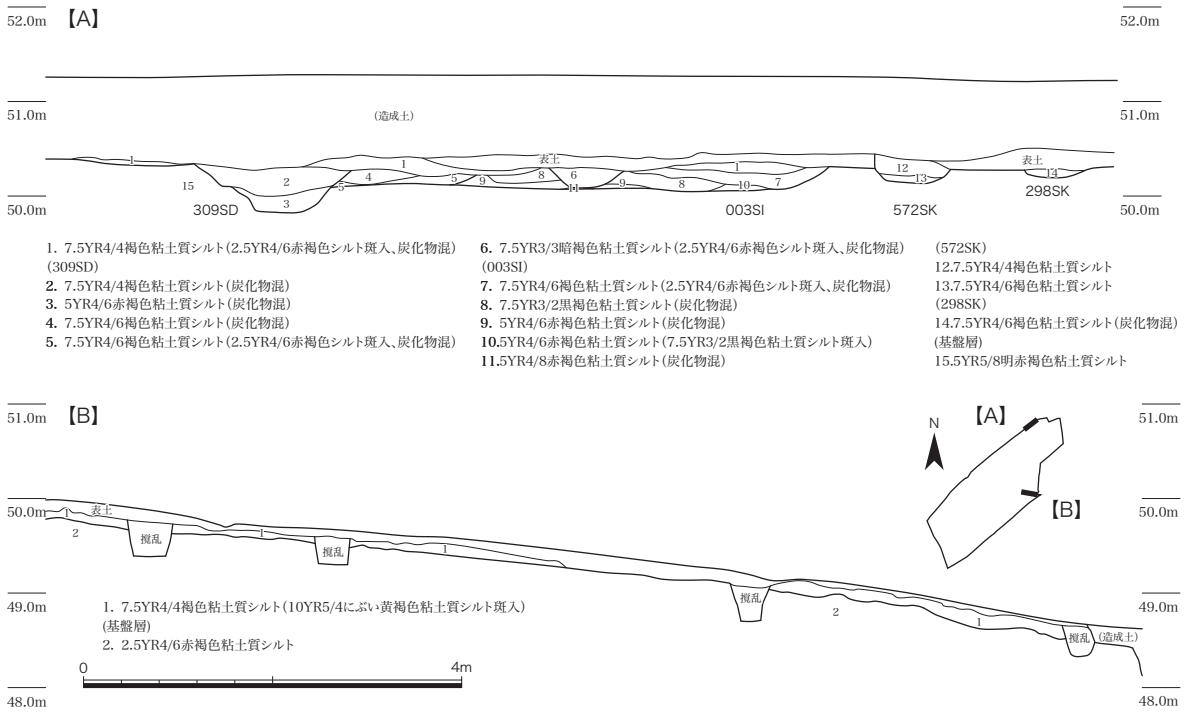
層序

基盤層

今回の調査においては、弥生時代前期後半、弥生時代中期後葉、古墳時代中期の遺構を確認した。各時期の遺構は、いずれも表土直下の基盤層上で検出された。基盤層は花の木遺跡と同様、明褐色シルト質粘土が主体で、層中には風化した礫が含まれる。遺構の覆土は基盤層に近似した明褐色粘土質シルトで、基盤層との識別は難しく、事実上、一定期間後に（最終埋没過程で）堆積した暗・黒褐色粘土質シルトの範囲を参考にして遺構を確認し、土層観察用の畦で堆積状況等を精査しながら、掘削作業を進めた（第 190 図）。

主要遺構

その結果、弥生時代前期後半の主要な遺構として、土坑３基、弥生時代中期後葉の主要な遺構として、竪穴建物３棟、土器棺墓１基、土坑１基、古墳時代中期の遺構として、竪穴建物６棟、掘立柱建物７棟と多数の土坑等を検出した。その他、遺構は明確ではないが、縄文時代の石器、古墳時代後期の土器が出土している。以下、弥生時代と古墳時代の検出遺構・遺物を報告するが、縄文時代、弥生時代、古墳時代の石器、石製品は厳密に時期を区分することは難しいので、本章（７）で別に報告する。




第190図　花の木北遺跡基本土層断面図（1:80）

## （２）弥生時代前・中期の遺構・遺物

### 検出遺構の概要と時期

弥生時代前期後半の遺構として、土坑 049SK、486SK、389SK を検出した。これらは台地頂部付近（標高 50.5m 以上）に分布する。弥生時代中期後葉の遺構として竪穴建物 011SI、020SI、021SI（・051SI)、土器棺墓 002SX、土坑 366SK を検出した。これらは台地南端の緩斜面（標高 50.0m 付近）を中心に分布する（第 191 図)。　検出遺構、分布

竪穴建物についての記述方法・方針、各属性の記述と記載については、花の木遺跡の弥生時代の竪穴建物のそれに準じた（第３章（２）を参照)。　記述方法・方針

### 049SK

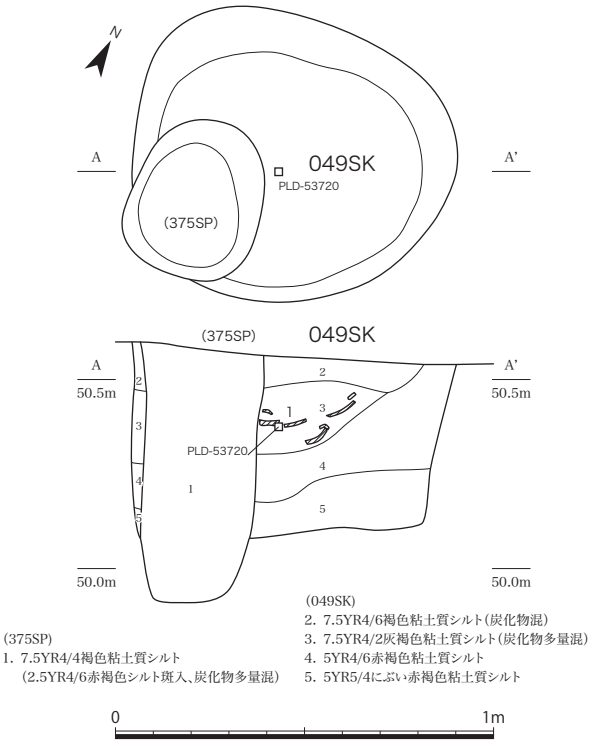
古墳時代の柱穴 375SP により欠失する部分が多いが、長軸 0.93m、短軸 0.83m の平面偏円形の土坑として検出した。炭化物を多く含む土坑中位の覆土中から弥生時代前期後半の壷（1)、溶結凝灰岩製石鏃（1･2)、安山岩製打製石斧（20）が出土した（第 192 図)。土器の付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53720）は、2 σ暦年代範囲で 765-509calBC（92.01％）の年代直を示した（第５章（１）を参照)。　検出状況　遺物出土状況　石鏃　年代測定

出土土器は壷（1・2）がある。壷底部（1）は外面全面に条痕を施す（第 193 図)。　049SK出土土器

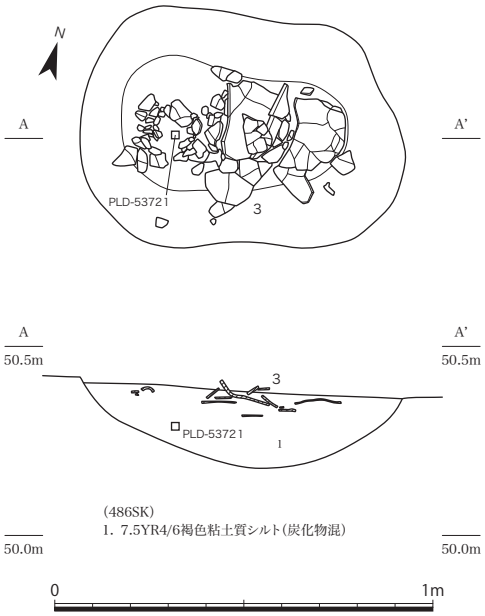
### 486SK

長軸 0.92m、短軸 0.61m の平面隅円方形の土坑として検出した。遺構検出面付近、土坑底面からやや浮いた位置で、弥生時代前期後半の縦に半裁された状態の甕（3）が外面　検出状況　遺物出土状況

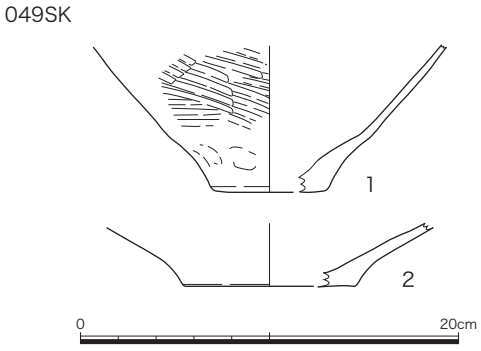
第191図　花の木北遺跡弥生時代遺構配置図（1:1,000）



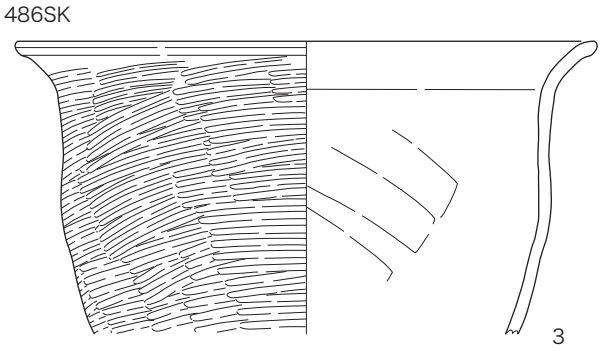

第192図　049SK遺構図（1:20）




第194図　486SK遺構図（1:20）




第193図　049SK出土土器実測図（1:4）




第195図　486SK出土土器実測図（1:4）

を上向きにして出土した。甕を蓋とした土壙墓(甕蓋土壙墓)の可能性がある(第 194 図)。

年代測定　土器の下位から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53721）は、2 σ暦年代範囲で 548-409calBC（73.62%）の年代直を示した（第 5 章（ 1 ）を参照)。

486SK出土土器　出土した甕（3）は口縁部が緩やかに外反し、外面全面に条痕を施す（第 195 図)。

389SK

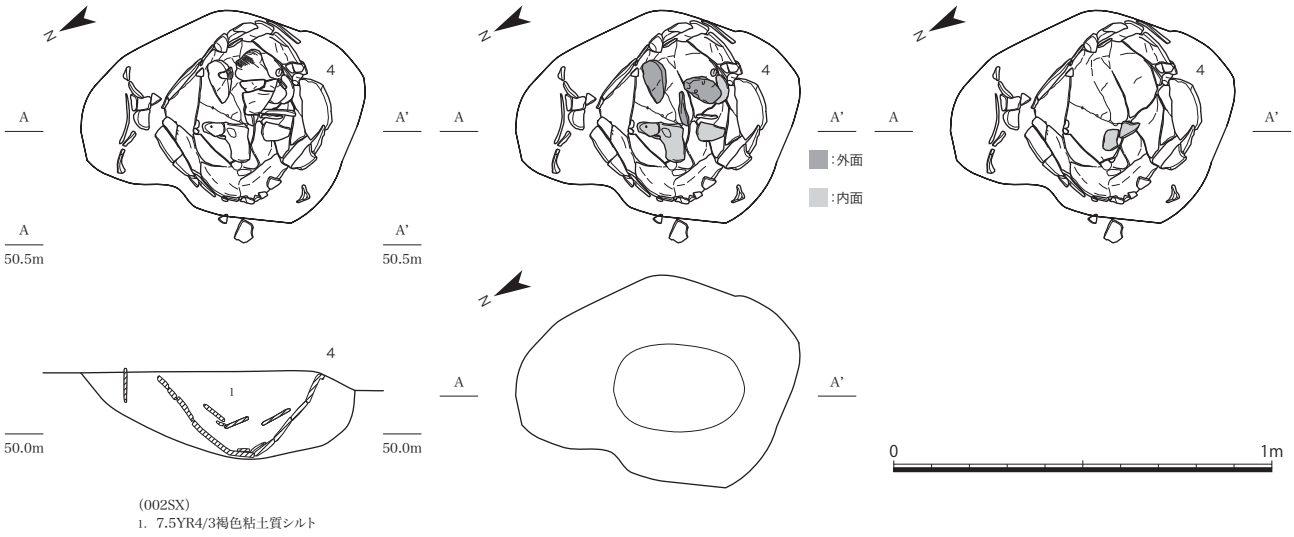
検出状況　長軸 0.52m の平面偏円形の土坑として検出した。小片で図示できないが、弥生時代前

遺物出土状況　期後半の条痕文土器が出土していることから、同時期の遺構とした。

002SX

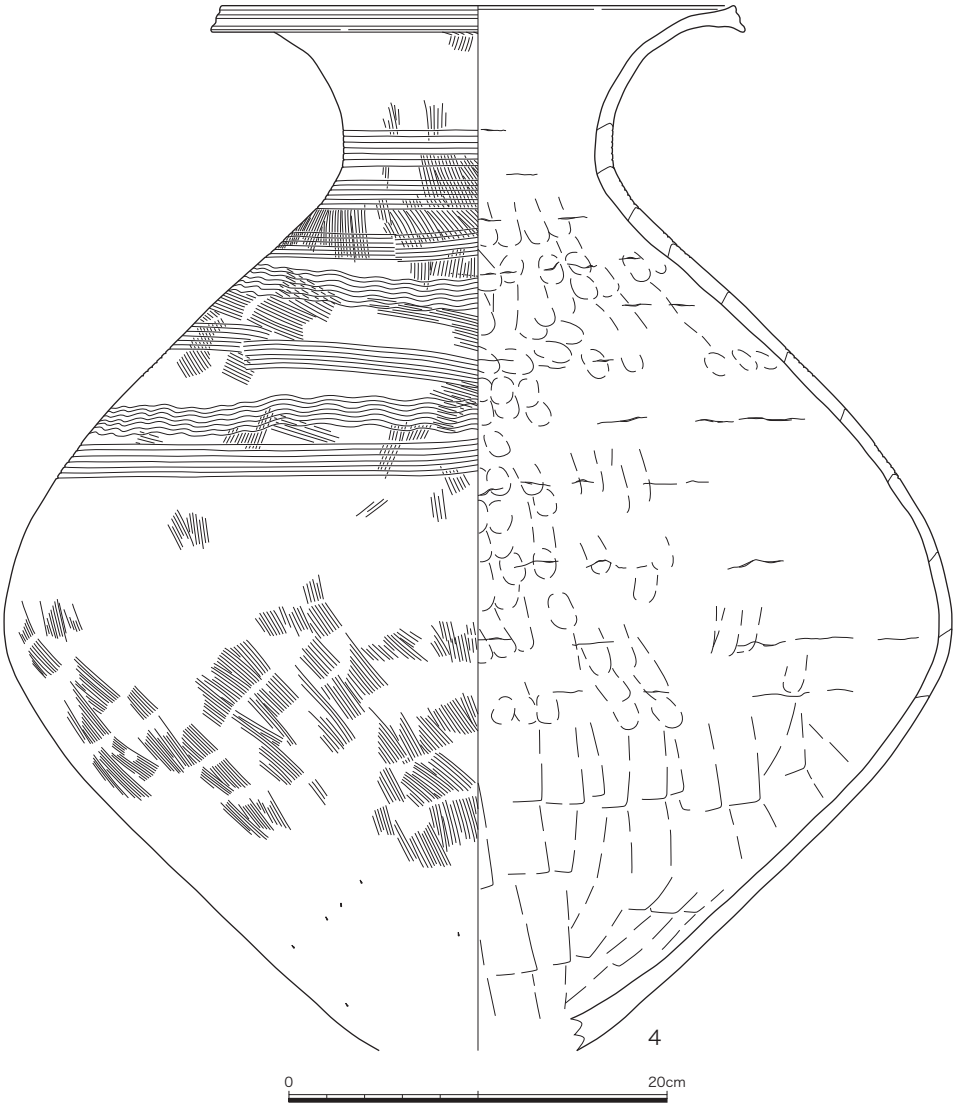
検出状況　遺構検出面に太頸壷（4）を横位に埋設した棺身の破断面が露呈し、壷の輪郭も明瞭に確認された。掘方はかなり不明瞭であったが、土器の形状に合わせた長軸 0.75m、短軸 0.55m の倒卵形を呈すると判断した。

埋設方法　口縁部は板状の礫で塞がれていたが､礫は取り上げが困難なまでに著しく風化していた。

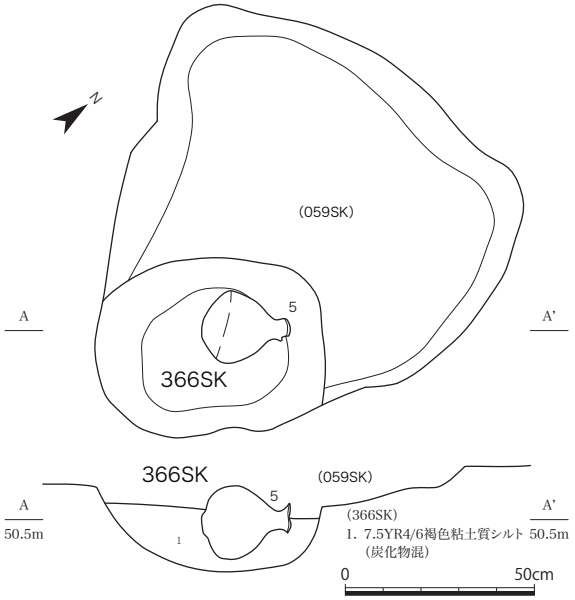



第196図　002SX遺構図（1:20）

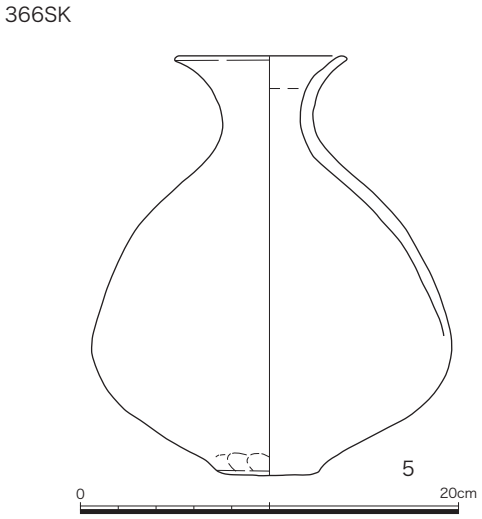
002SX




第197図　002SX出土土器実測図（1:4）




第198図　366SK遺構図（1:20）




第199図　366SK出土土器実測図（1:4）

土器内には体部内面にほぼ接して同一個体の体部破片が検出された。破片は表裏が混在した状態であった。体部中位付近を大きく打ち欠く（窓を穿つ）等して遊離した破片が落ち込んだ状況が想定される（第 196 図）。

002SX出土土器　棺身に転用された太頸壷（4）は体部中位が算盤玉状に大きく張り出し、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。体部上半にはわずかながらも膨らみを残す。口縁端部には擬凹線文、体部上半には横線文と波状文を配する（第 197 図）。

366SK

検出状況　古墳時代の土坑 059SK の重複により、上位が欠失するが、その下位で長軸 1.16m、短
遺物出土状況　軸 0.99m の平面円形の土坑として検出した。細頸壷（5）が横転した状態で出土した。
366SK出土土器　出土した細頸壷（5）は無文で、体部は算盤玉状の器形を呈する。

011SI

検出状況　南半を 2021 年度、北半を 2022 年度に調査した。長軸が東西方向を志向するやや不整な平面長方形の大型竪穴建物として検出されたが、南東隅付近の根の撹乱に加え、各部分には撹乱が及んでいることもあって、遺構の形状の把握にはやや難が生じている。

重複（拡張）　543SP と 541SK、542SP と 562SP が北辺の主柱穴の可能性があるが、542SP と 562SP の柱間方向が竪穴建物の主軸と大きく異なることからすると、竪穴建物の重複、あるいは同一地点での拡張を見落としている可能性も想定される。この想定に従って、
011SI-A　543SP と 541SK、542SP と 562SP を主柱穴とする竪穴建物をそれぞれ 011SI-A（外側）、
011SI-B　011SI-B（内側）とする。011SI-B の主柱穴間のやや内側の偏した位置の床面上に検出された小範囲の焼土を地床炉とした。

遺物出土状況　遺物は 011SI-A の主柱穴の外側（北辺と南辺付近）を中心に出土した。南西隅付近からは細頸壷（11）が正位で出土した。北辺付近は伏せた状態の甕（12）と正位の状態の細頸壷（13）が正位で納められたようにして出土した。甕の体部下半以下、細頸壷の体部上半以上は欠失する。床面上に据え置いた細頸壷（13）に甕（12）を被せた（重ねた）とも考えられたが、細頸壷の最大径（17.2cm）は甕内面の頸部径（16.6cm）より大

きいので、据え置いた細頸壷に甕を上から被せる（重ねる）ことは不可能である。つまり、甕の下半部を欠いた状態で正位の細頸壷を入れ子にしたと考えられる。調査時には竪穴建物埋没後に設置された土器埋設遺構の可能性も想定されたが（360SK）、南西隅付近の細頸壷（11）等の出土状況を踏まえると、竪穴建物に伴っていたと考えられる（第200図）。その他、玄武岩製磨製石斧原石？（15）、砂質凝灰岩製砥石？（26）、塩基性岩製磨石（27）が出土した。下層から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号PLD-51323・51324・53722）は、２σ暦年代範囲で353-283calBC（48.59％）・171-51calBC（95.45％）・202-96calBC（78.05％）の年代値を示した（第５章（１）を参照）。

磨製石斧・砥石？・磨石

年代測定

出土土器は先述の細頸壷（11）、甕（12）、細頸壷（13）に加えて、甕（6・7）、凹線文系の鉢または高杯（8）、壷（9・10）がある（第201図）。

011SI出土土器

020SI

長軸が北東南西方向を志向するやや不整な平面長方形の中型竪穴建物として検出されたが、削剥が著しい。西隅付近は連続して掘削された古墳時代の土坑群が重複する。

検出状況

（古墳時代の土坑群の下位で検出された）070SK、072SKが北西辺の主柱穴の可能性がある。床面のほぼ中央から北西辺の主柱穴間寄りに地床炉を検出した。地床炉の中央は土坑状に落ち込む（074SK）。炉石の抜き取りによる落ち込みの可能性がある。焼土面からは塩基性凝灰岩製の石錘（13）が出土した。その他、上層から安山岩（下呂石）製石鏃（3）が出土した（第202図）。

遺物出土状況

石錘・石鏃

削剥が著しいこともあって、出土土器は少ないが、壷の頸部(14)を図示した(第203図)。

020SI出土土器

021SI（・051SI）

削剥が著しく、竪穴建物の西隅付近のみを検出したのみである。調査時は２棟の重複を想定したが（021SIに051SIが先行）、遺存状況が良好ではなく判然としないので、１棟として扱った。床面付近には風化した土器、焼粘土塊がいずれとも判別がつかないような状態で散在していた。床面付近の精査により、幾つかの柱穴様の小土坑が検出されたが、いずれも浅く、主柱穴は判然としない（第202図）。

検出状況

削剥が著しいこともあって、出土土器はごく少なく、柱状中実の甕の脚台（15）等がごくわずかに出土したのみである（第203図）。採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号PLD-51325・51326）は、２σ暦年代範囲で169-51calBC（95.45％）・158-41calBC（92.72％）の年代値を示した（第５章（１）を参照）。

021SI出土土器

年代測定

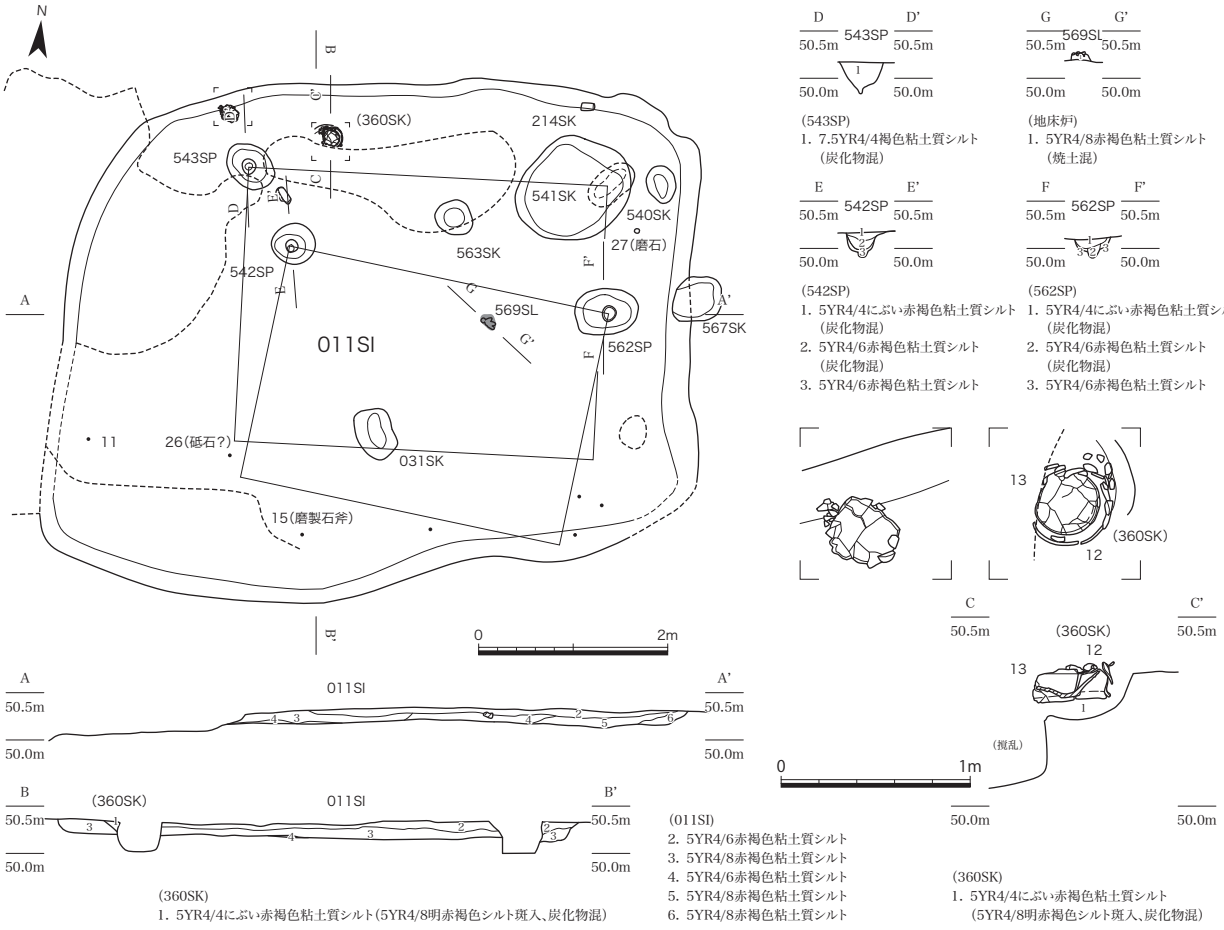
その他の（遺構に伴わない）弥生土器・土製品

その他、遺構に伴わない状態で出土した弥生土器･土製品として、広口（太頸）壷（17）、甕（18、19）に加えて台盤状土製品（20）がある（第204図）。

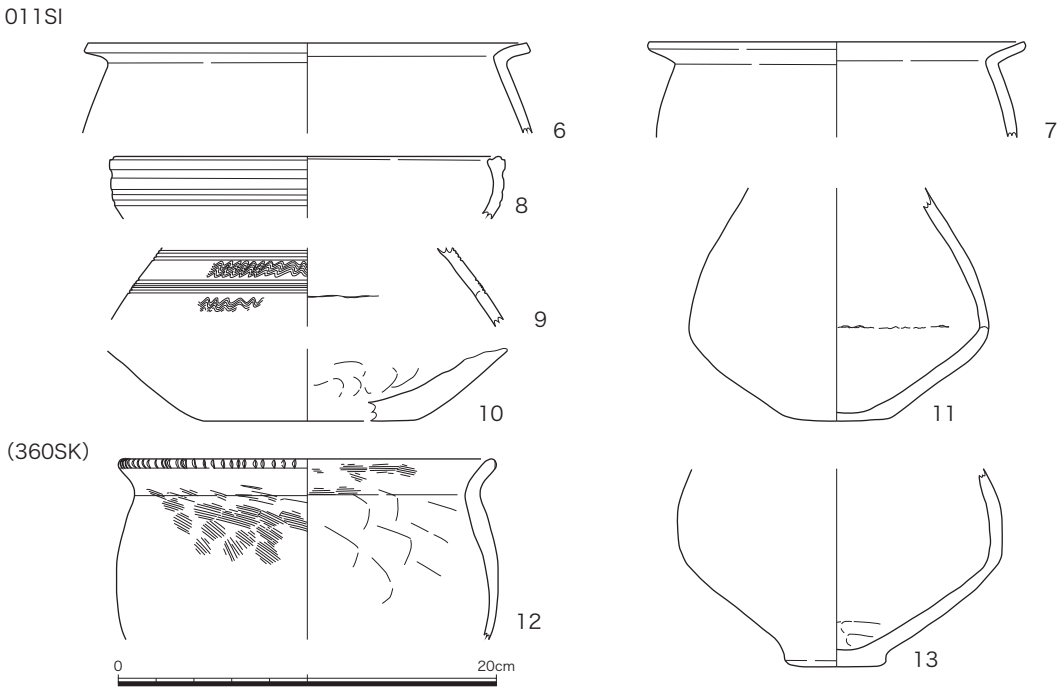
台盤状土製品

第７表　弥生時代竪穴建物一覧表

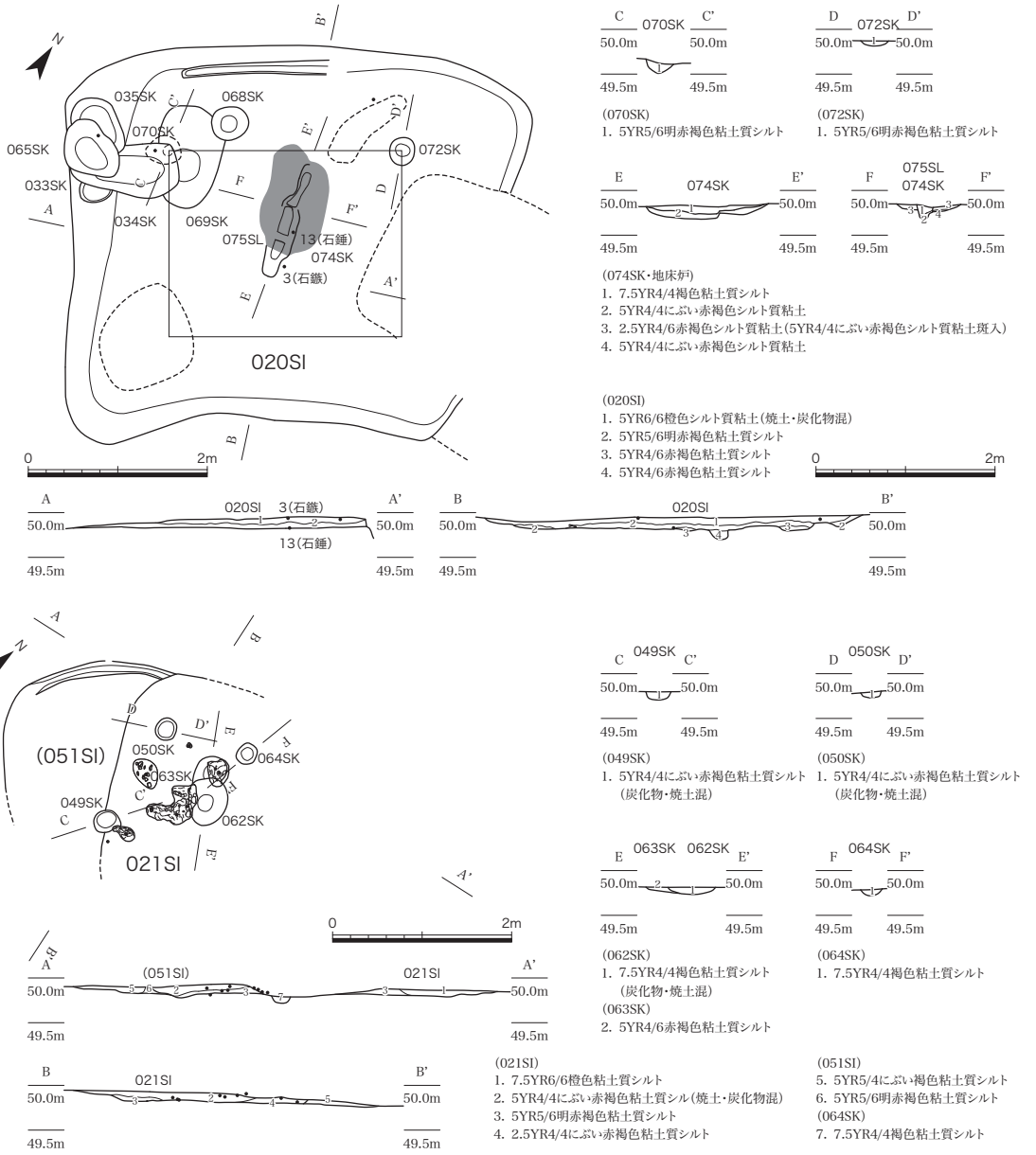
| | 遺構番号 | | 時期 | | 方位 | 規模 | | | | | 柱間 | | | 平面形 | 周壁溝 | 主柱穴 | 炉 | 貯蔵穴配置 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸(m) | 短軸(m) | 長短比 | 面積(㎡) | 分類 | 長軸(m) | 短軸(m) | 長短比 | | | | | | |
| 1 | 011SI | A | 中期後葉 | １期 | N7°E | 6.60 | 5.45 | 0.83 | 35.97 | 大型 | 3.45 | - | - | 長方形 | 無 | 2 | ○ | - | |
| | | B | 中期後葉 | １期 | N3°E | | | | | | 3.8 | | | 長方形 | | | | - | |
| 2 | 020SI | | 中期後葉 | １期 | N35°E | 5.00 | 4.10 | 0.82 | 20.50 | 中型 | 2.6 | - | - | 長方形 | 無 | 2 | ○ | - | |
| 3 | 021SI | | 中期後葉 | １期 | N37°E | -2.45 | -1.40 | - | - | | - | - | - | - | (部) | 0 | - | - | |




第200図　011SI遺構図（1:80）



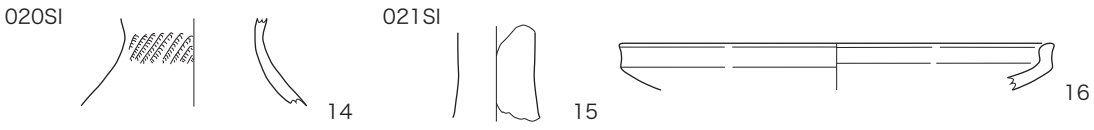

第201図　011SI出土土器実測図（1:4）



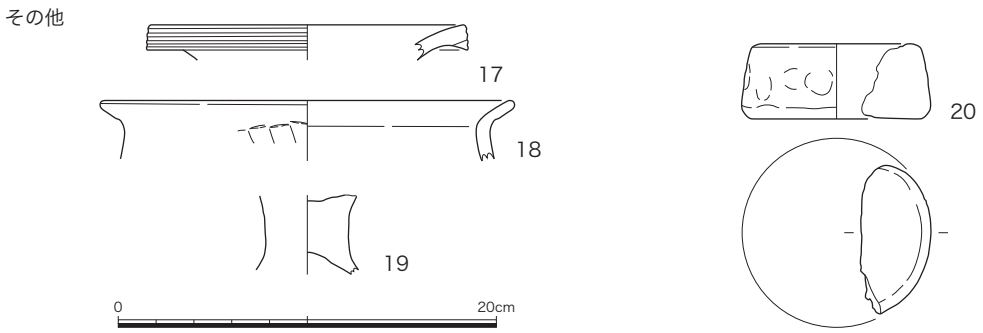




第202図　020SI・021SI（・051SI）遺構図（1:80）




第203図　020SI・021SI出土土器実測図（1:4）




第204図　その他の弥生土器・土製品実測図（1:4）

## （3）古墳時代中・後期の遺構の概要

### 検出遺構の概要と時期

検出遺構

古墳時代の検出遺構として、竪穴建物６棟、掘立柱建物７棟と多数の土坑等がある。これらの遺構は、構造物の基礎、土砂の採取等による撹乱によって欠失する部分はあるものの、弥生時代の遺構と比較して、残存状況は良好であった。

遺構の帰属時期

遺跡、遺構から出土する古墳時代の遺物の多くが古墳時代中期（初頭から）前半の土師器で、多くの遺構が同時期に帰属すると推定されるが、幾つかの遺構（竪穴建物や土坑）は、完全な埋没には長期間を要したようで、古墳時代後期の須恵器、土師器が混在する状況が認められる。特に出土遺物による帰属時期の推定が難しい掘立柱建物については、古墳時代後期に帰属する可能性も想定される。

### 検出遺構の分布

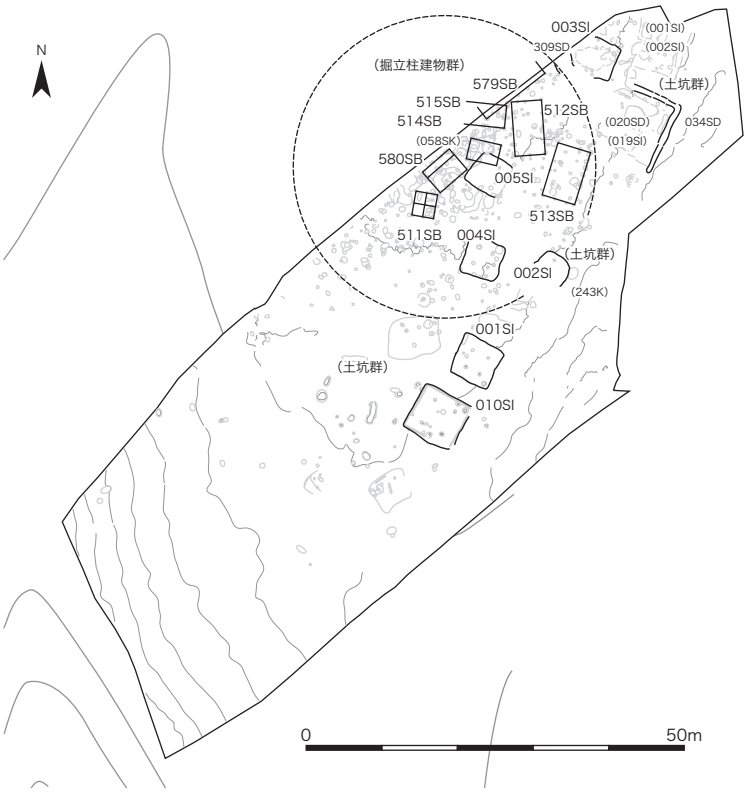
竪穴建物の分布

掘立柱建物の分布

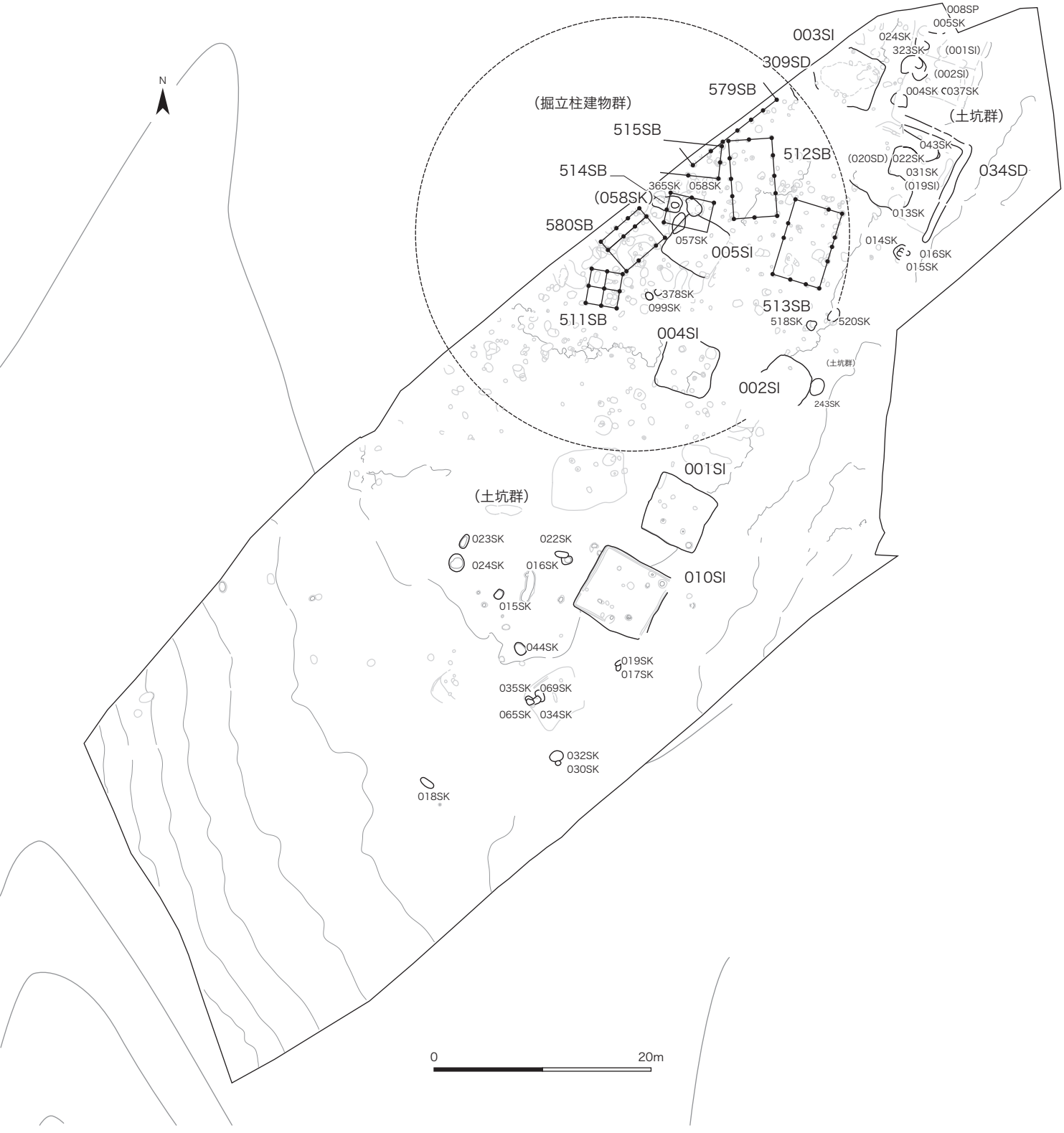
竪穴建物 001SI、002SI、003SI、004SI、005SI、010SI は台地の頂部の稜線に沿うようにして列状に分布する。台地頂部付近（標高 50.5m 以上）は柱穴様の小土坑が集中し、集中域では７棟の掘立柱建物 511SB、512SB、513SB、514SB、515SB、579SB、580SB を復元した。

土坑群の分布

平面長楕円形または倒卵形の土坑は建物群周囲の南向きと東向きの緩斜面（標高 50.0m 付近）を中心に分布する。遺跡の北東付近においては、屈曲する溝 034SD を検出した（第 205・206 図）。




第205図　花の木北遺跡古墳時代遺構配置図（1:1,000）




第206図　花の木北遺跡古墳時代遺構詳細配置図（1:500）

## （4）古墳時代中期の竪穴建物

記述方法・方針、各属性の記述と記載、時期と時期区分

報告の方針　時期区分

竪穴建物についての記述方法・方針、各属性の記述と記載については、花の木遺跡の弥生時代の竪穴建物のそれに準じた（第3章（2）を参照）。時期区分と帰属時期の判断については、遺構と出土状況を含めた遺物の検討に依拠した（第6章（6）で詳述）。

001SI

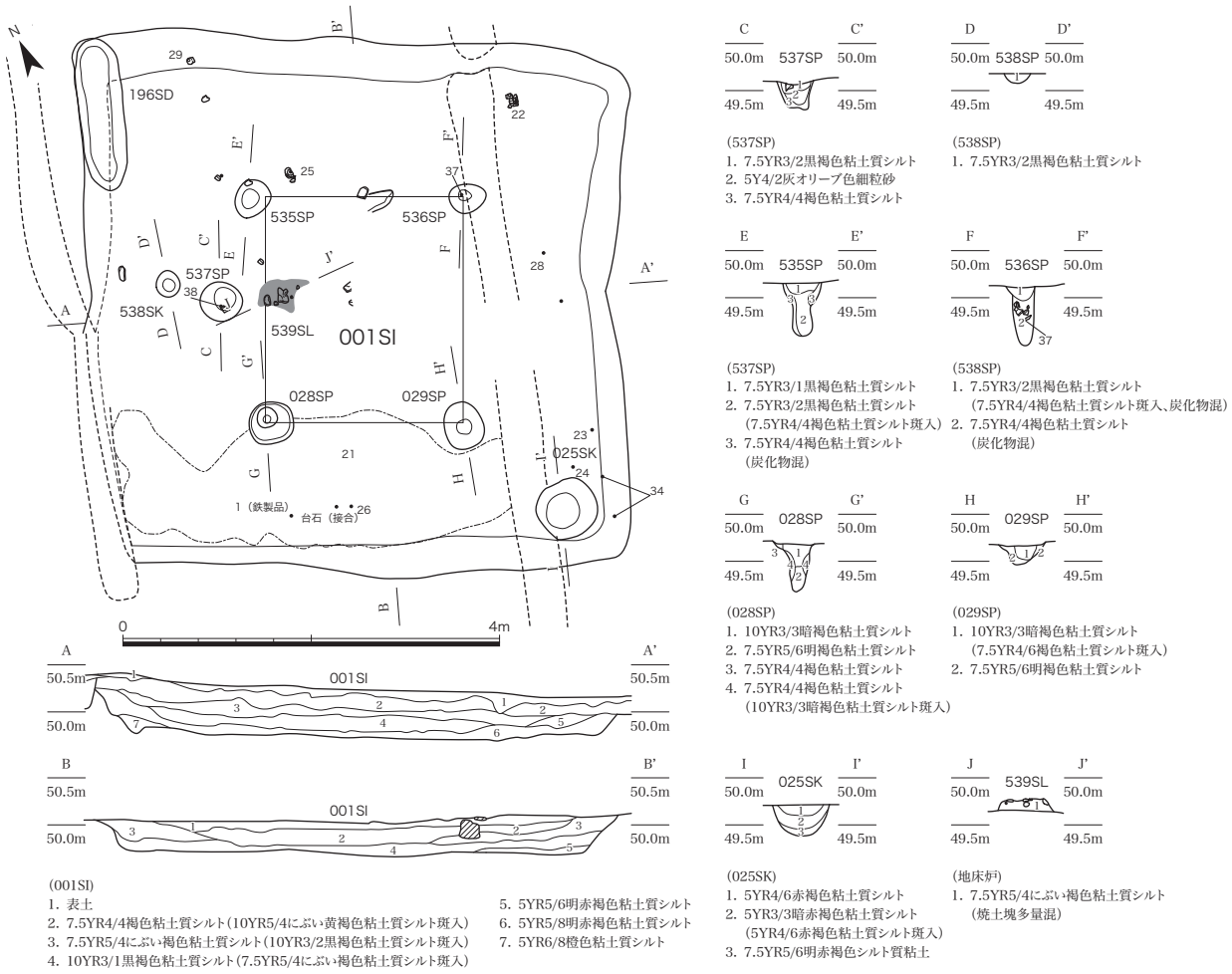
検出状況

南西半を2021年度、北東半を2022年度に分割して調査し、方形の中型竪穴建物として全形を検出した。主柱穴として028SP、029SP、535SP、536SP、南隅に貯蔵穴様の土坑025SKを検出した。主柱穴028SP、029SP以南（西）の床面は著しく硬化していた。西と北の主柱穴028SP、535SP間のほぼ中間に床面からやや浮いた状態の焼土を検出した。床面が直接に被熱した地床炉とは異なるが、それに関連する痕跡とした。

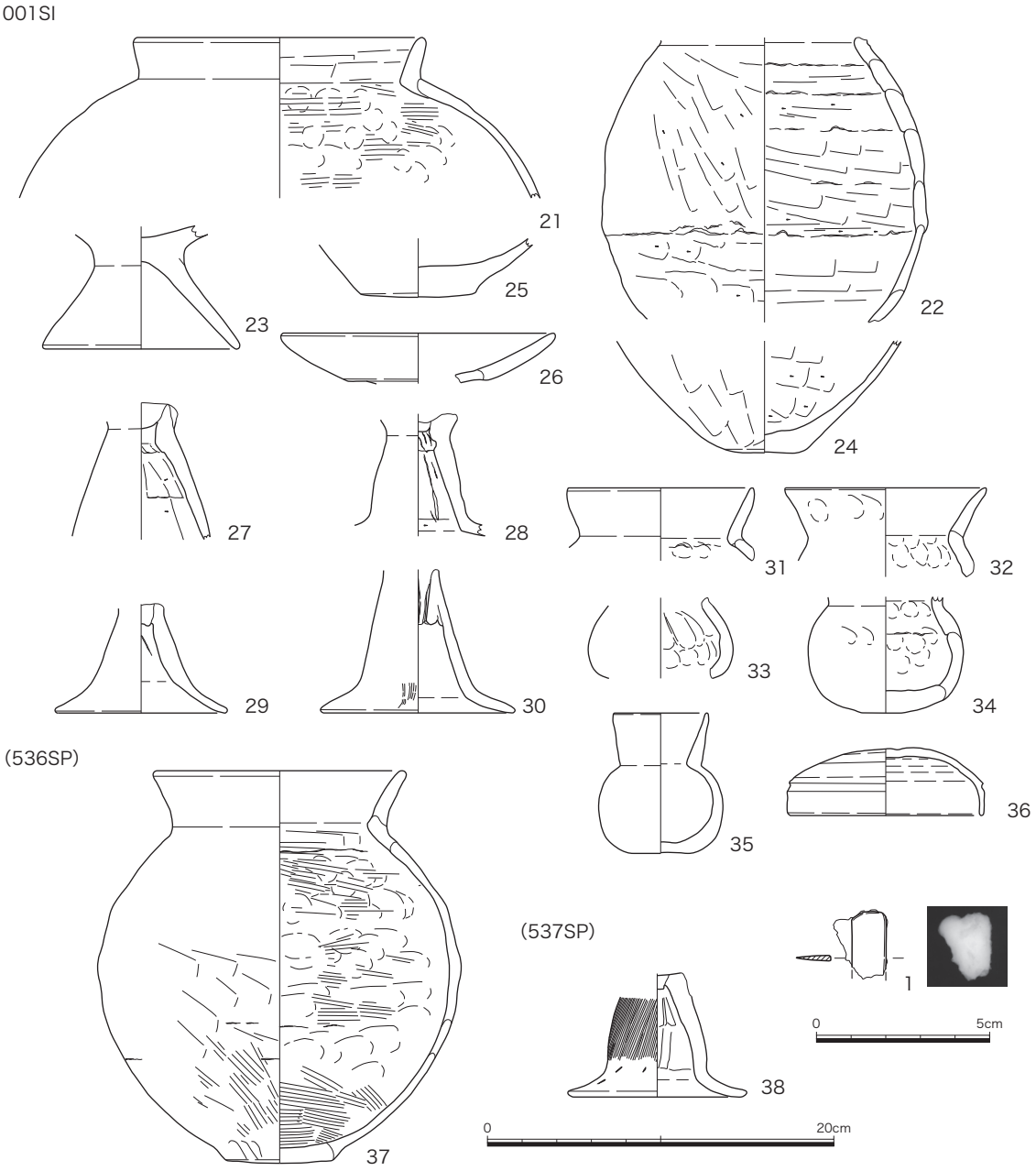
遺物出土状況

床面付近から覆土中にかけて遺物が散在する。大半が古墳時代中期の土師器（21～35）であるが、古墳時代後期の須恵器蓋杯（36）も出土した。主柱穴536SPからは残存状況が良好な土師器甕1個体（37）が出土し、床面上で検出した柱穴537SPからも土師器高杯（38）が出土した。その他、鉄製品（1）、花崗岩製台石が出土した。台石は南西

鉄製品・台石




第207図　001SI遺構図（1:80）




第208図　001SI出土土器・鉄製品実測図（1:4・1:2）

辺付近の床面付近から出土し、近接する竪穴建物 010SI の北東辺付近の床面付近から出土した台石と接合した（第 207 図）。　台石の接合関係

出土土器は土師器としてく字甕（21・22）、台付甕（23）、高杯（25 ～ 30）、小型鉢または小型甕（31・32）、小型壷（33 ～ 35）、須恵器として蓋杯（36）等がある。く字甕の口縁部（21）は短く全体に器壁が厚い。体部（22）は長胴気味で、内面には輪積み痕が明瞭に残る。高杯杯部（26）はごく浅い。台付甕の脚部（23）は全体に重厚で大きく開く。小型壷（33 ～ 35）は底部が大きく安定した形態（33・34）、体部が球形でわずかに外傾するやや短い口縁部で構成される個体（35）がある。須恵器蓋杯蓋（36）は天井と口縁部を画する稜が明瞭で、器壁は比較的薄い。主柱穴 536SP 出土のく字甕（37）は　001SI出土土器

図上で復元した。平底で、体部には張りがある。小土坑 537SP から出土した高杯脚部(38)はやや低い脚柱状部から緩やかに広がる形態である（第 208 図)。

時期

時期は出土土器から（覆土中から出土した須恵器が埋没過程で流入した遺物として)、古墳時代中期初頭とした。

002SI

検出状況

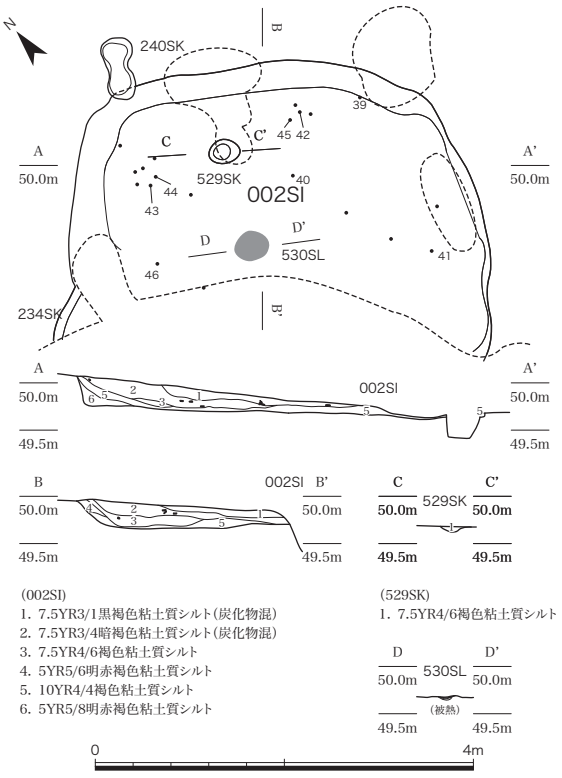
南西半が撹乱坑により失われるが、中型竪穴建物として検出した。主柱穴は検出されなかった。床面中央付近に地床炉を検出した。地床炉は中心付近が著しく硬化（土器化）する。

遺物出土状況

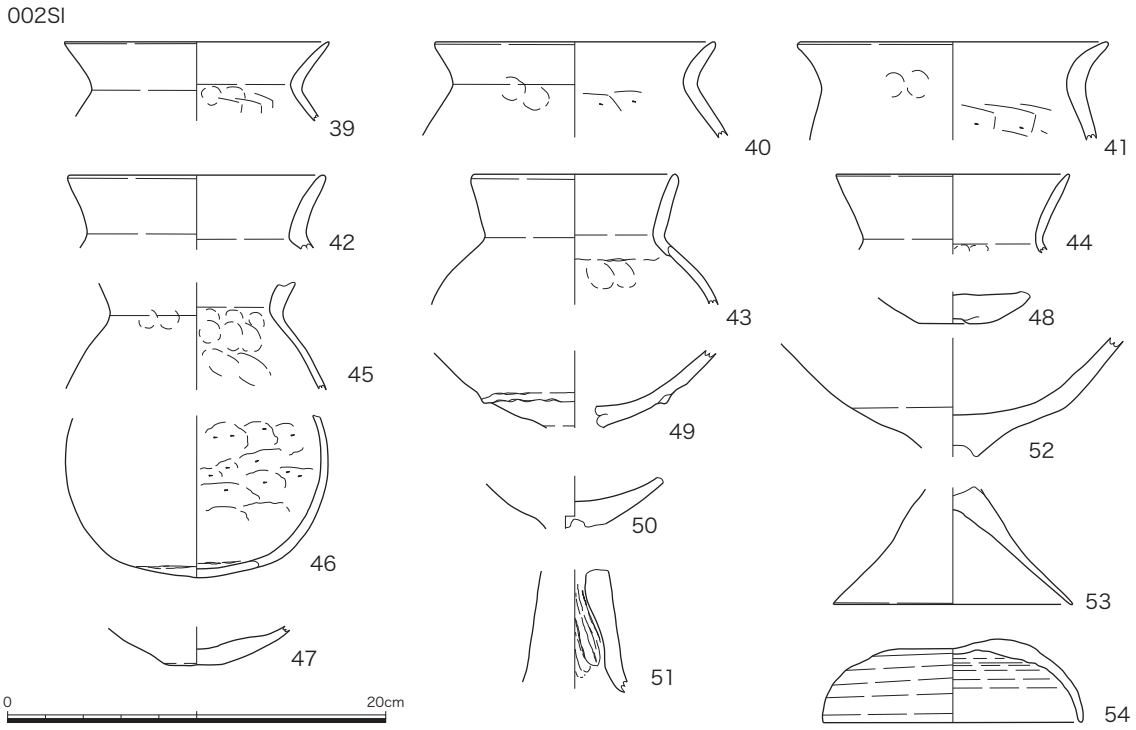
床面付近から覆土中にかけて遺物が散在する。大半が古墳時代中期の土師器（29 ～ 53）であるが、床面直上からは古墳時代後期の須恵器蓋杯蓋（54）も出土した。須恵器蓋杯蓋は近接する 004SI 上層から出土した須恵器破片と接合した。

002SI出土土器

出土土器は土師器としてく字甕

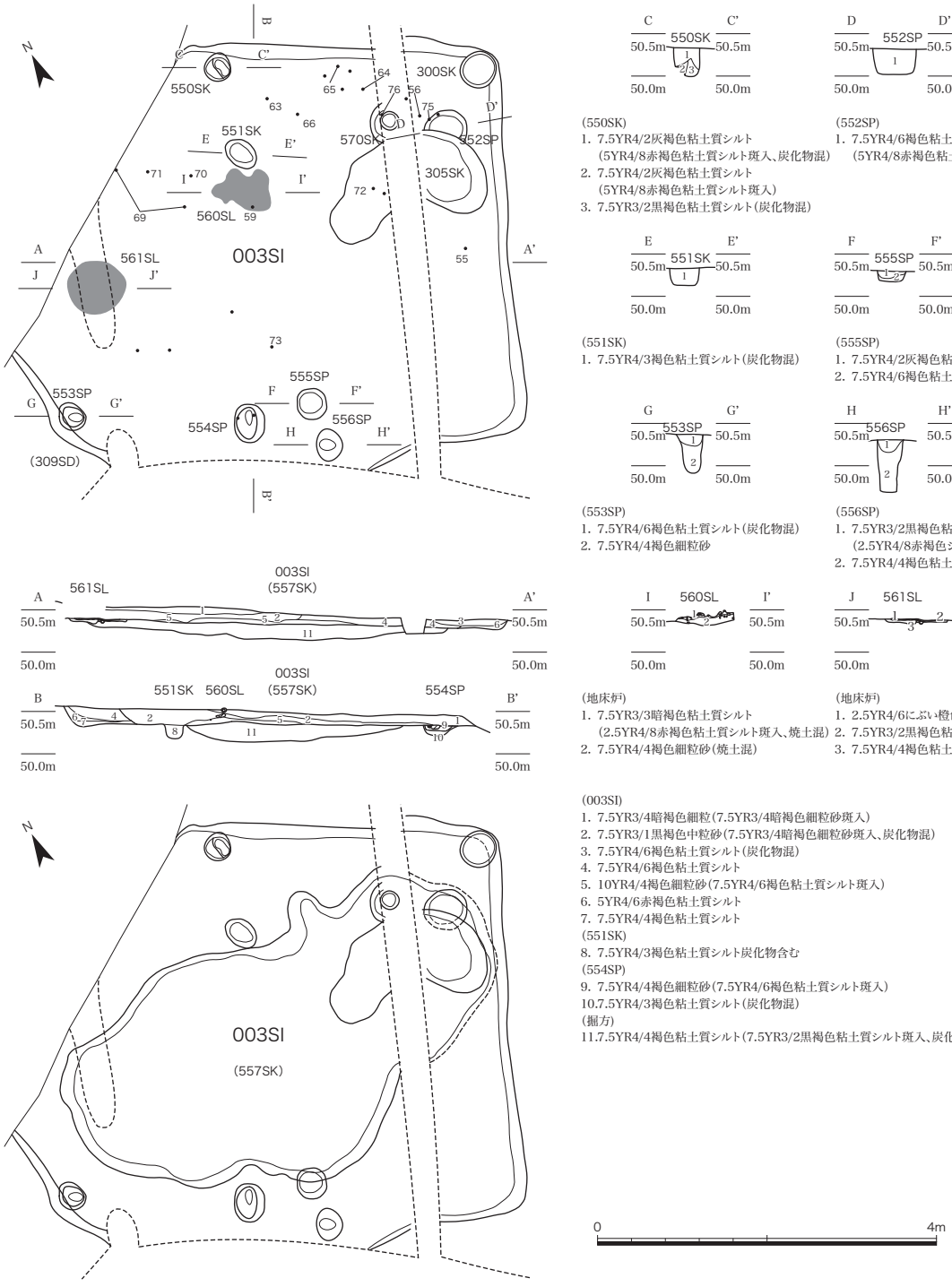



第209図　002SI遺構図（1:80）




第210図　002SI出土土器実測図（1:4）

(39 ～ 45)、高杯（49 ～ 51)、大型高杯（52・53)、須恵器として蓋杯（54）等がある。く字甕の口縁部（39 ～ 44）は口縁部先端が先細りする個体が多い。高杯は杯部下端に低い突帯を付した個体（49）が含まれる。大型高杯杯部（52）は上半が大きく外傾する。大型高杯脚部（53）は直線的に大きく開く。須恵器蓋杯は蓋（54）がある。蓋は天井付近から全体が丸みを帯びる（第 210 図)。




第211図　003SI遺構図（1:80）

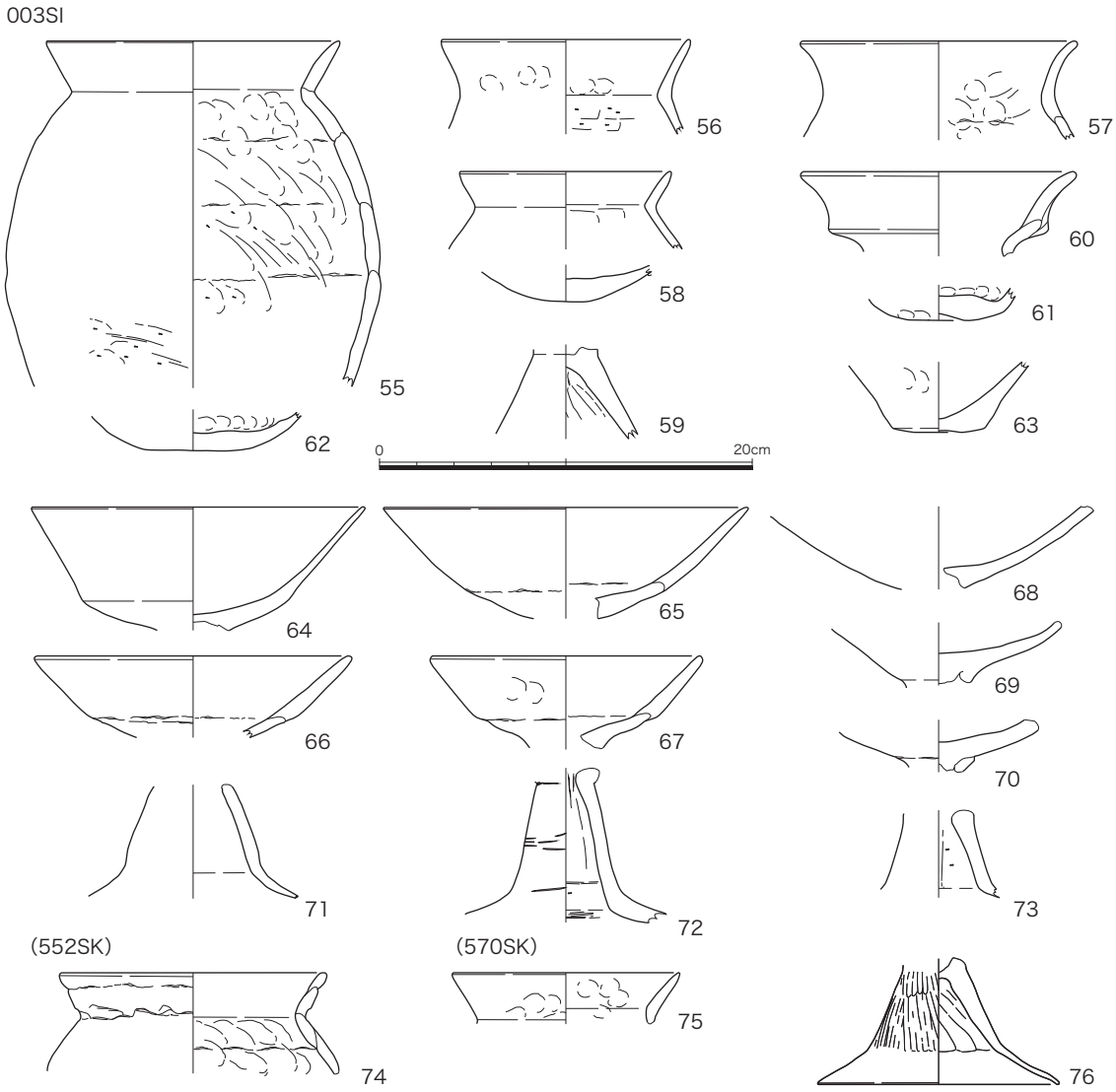
時期　時期は出土土器の大半を占める古墳時代中期の土師器に依拠した場合は古墳時代中期前半、床面から出土した須恵器に依拠した場合は古墳時代後期が想定される。

003SI

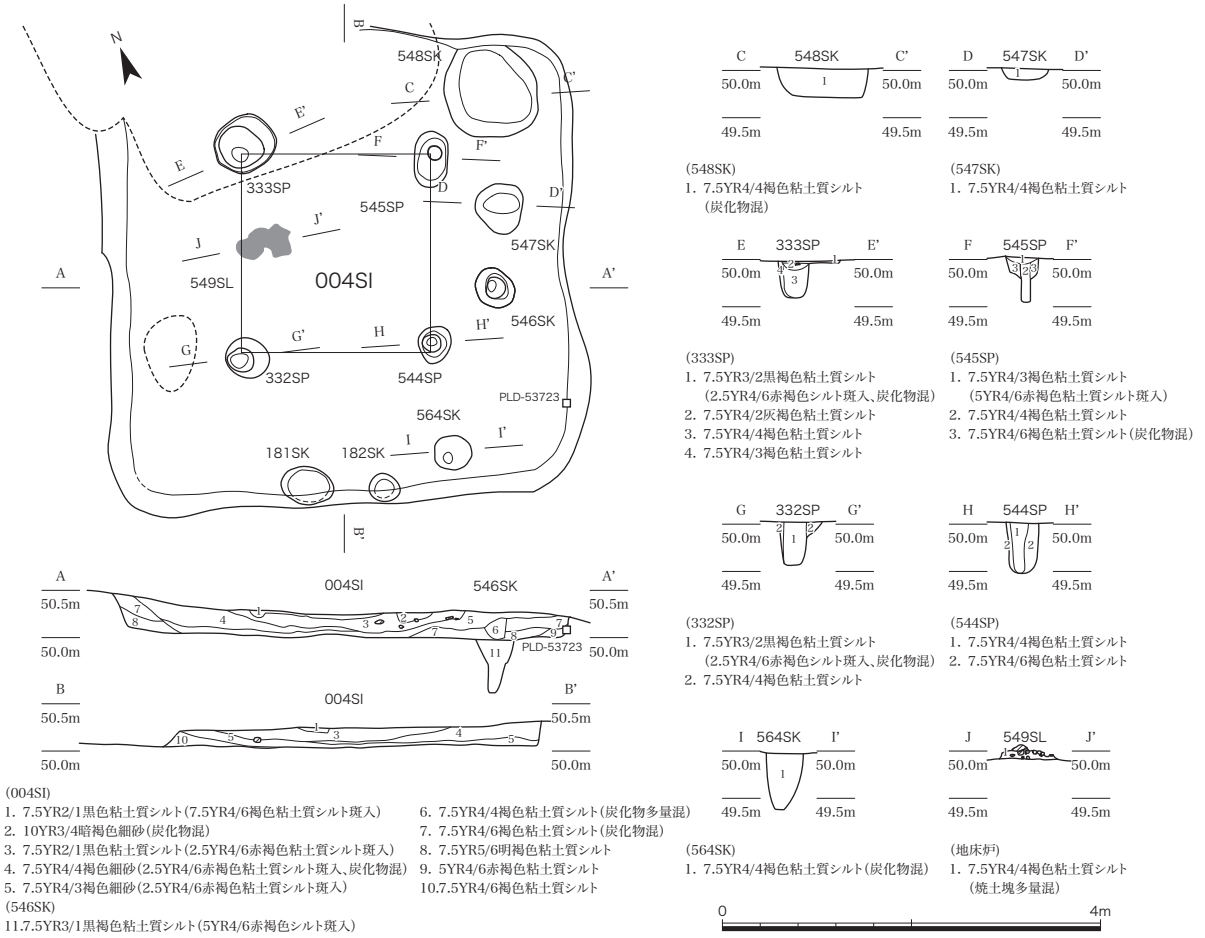
検出状況　北隅付近は調査区外で、南西辺付近は撹乱坑により失われるが、中型竪穴建物として検出した。床面上で柱穴様の小土坑数基を検出したが、主柱穴は明確でない。床面中央から北西のやや偏した位置に地床炉を検出し、北東のやや偏した位置には床面からやや浮いた状態の焼土を検出した。

遺物出土状況　北東辺付近を中心として、床面付近から覆土中にかけてやや多くの遺物が出土した。床面上で検出した柱穴様の小土坑 552SK から土師器甕（74）、570SK からも土師器甕（75）と高杯（76）が出土した。床面の下位では、遺構の掘方としての浅い不整形な落ち込みを検出した（第 211 図）。

003SI出土土器　出土土器は土師器としてく字甕（55 ～ 58）、台付甕（59）、広口壺（60）、高杯（64 ～ 73）等がある。く字甕の口縁部（55 ～ 58）は口縁部先端が先細りする個体が多い。




第212図　003SI出土土器実測図（1:4）




(004SI)
1. 7.5YR2/1黒色粘土質シルト(7.5YR4/6褐色粘土質シルト斑入)
2. 10YR3/4暗褐色細砂(炭化物混)
3. 7.5YR2/1黒色粘土質シルト(2.5YR4/6赤褐色粘土質シルト斑入)
4. 7.5YR4/4褐色細砂(2.5YR4/6赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
5. 7.5YR4/3褐色細砂(2.5YR4/6赤褐色粘土質シルト斑入)
(546SK)
11.7.5YR3/1黒褐色粘土質シルト(5YR4/6赤褐色シルト斑入)
6. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物多量混)
7. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
8. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
9. 5YR4/6赤褐色粘土質シルト
10.7.5YR4/6褐色粘土質シルト

(548SK)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)

(547SK)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト

(333SP)
1. 7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入、炭化物混)
2. 7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト
3. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
4. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト

(545SP)
1. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト(5YR4/6赤褐色粘土質シルト斑入)
2. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
3. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)

(332SP)
1. 7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入、炭化物混)
2. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト

(544SP)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
2. 7.5YR4/6褐色粘土質シルト

(564SK)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)

(地床炉)
1. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(焼土塊多量混)

第213図　004SI遺構図（1:80）

広口壷の口縁部（60）は有段状で、全体に器壁が厚い。高杯杯部（64 ～ 70）は大きく外傾し、杯部下端付近に稜がある一群（64 ～ 67）、杯部に稜がない一群（68 等）がある。前者はさらに稜線が明瞭な（接合痕が不明瞭な）杯部（64）、稜線がやや曖昧な（接合痕が明瞭な）杯部（65 ～ 67）に分けられる。脚部（71 ～ 73）は膨らみがある柱状部（71）と柱状部から緩やかに広がる一群（72・73）がある。552SP 出土の甕（74）は口縁部外面に輪積み痕が明瞭に残る。570SK 出土の甕（75）は口縁部が先細りする。同出土の高杯（76）は脚端部が先細りする（第 212 図）。その他、片麻岩製編物石？（28・29）が出土した（第 240 図）。

編物石？

時期は出土土器から古墳時代中期初頭とした。

時期

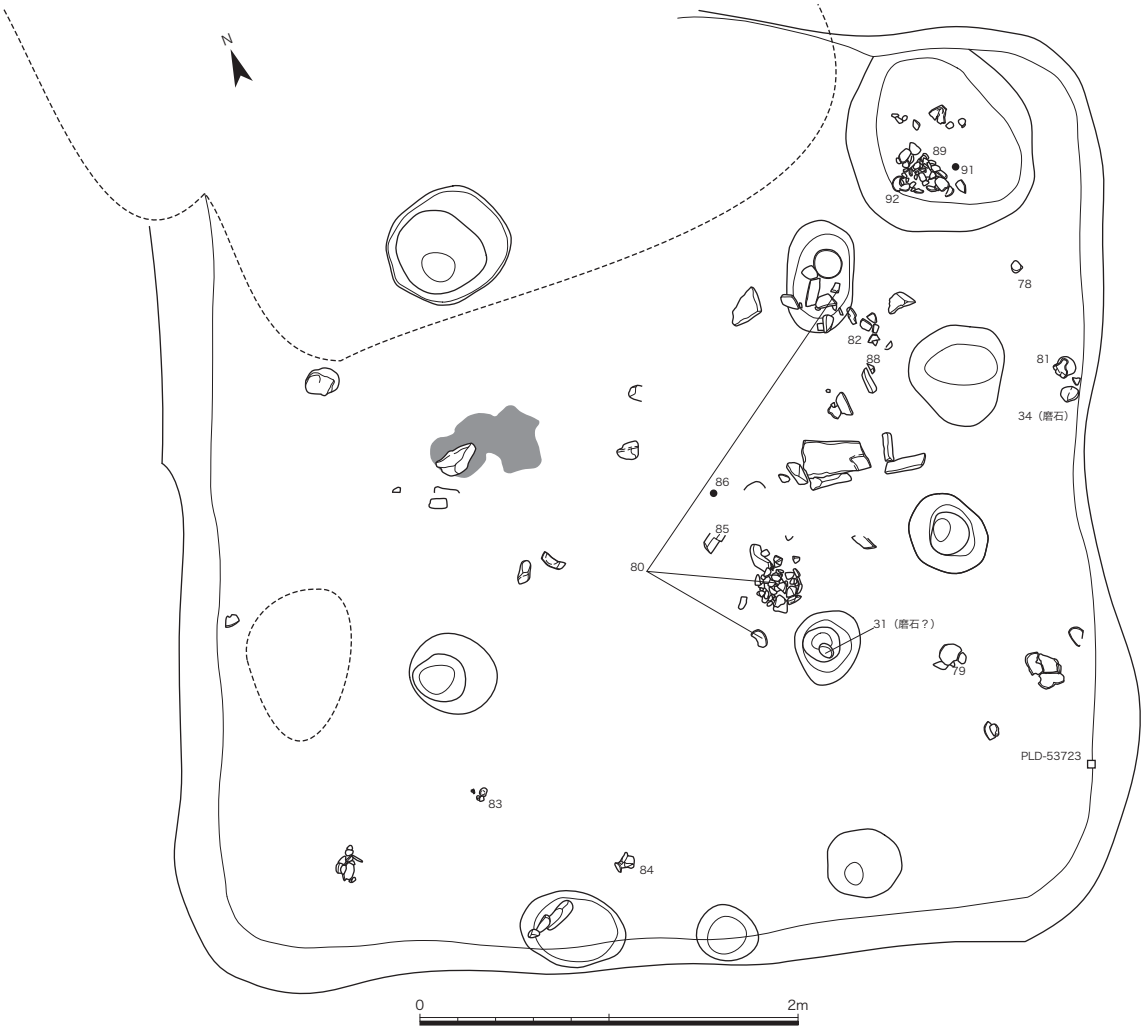
### 004SI

検出状況

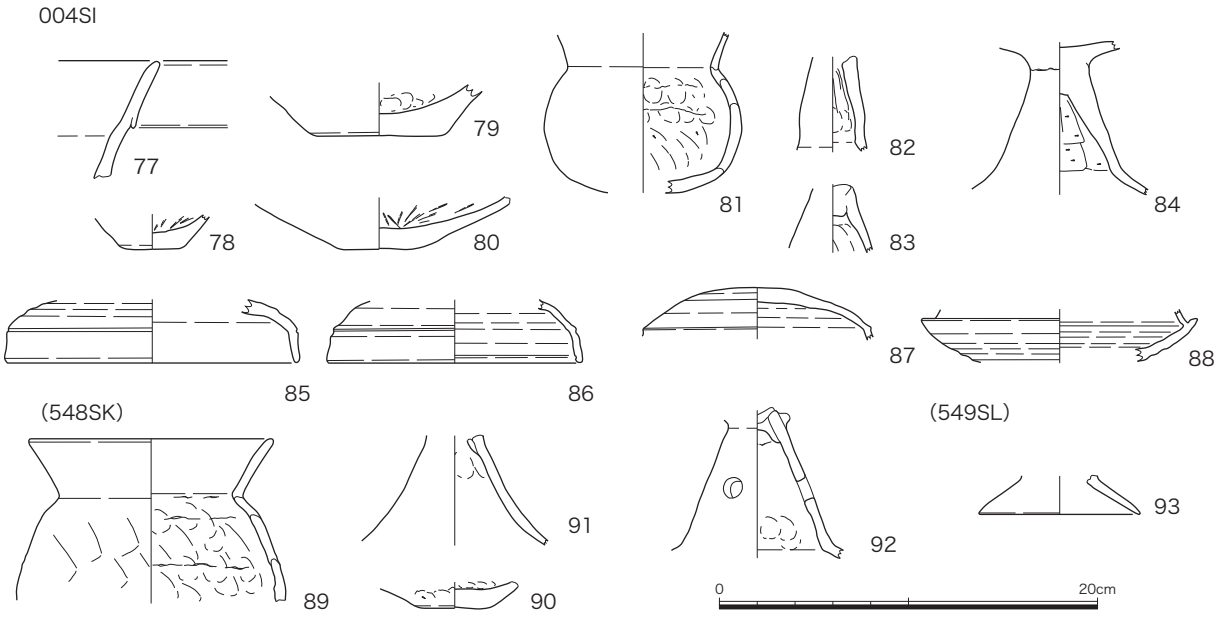
北東隅付近は撹乱坑により失われるが、方形の中型竪穴建物として検出した。主柱穴として 332SP、333SP、544SP、545SP、北東隅に貯蔵穴様の土坑 548SK を検出した。南西と北東の主柱穴 332SP、333SP 間のほぼ中間に床面からやや浮いた状態の焼土を検出した。床面が直接に被熱した地床炉とは異なるが、それに関連する痕跡とした（第 213 図）。

遺物出土状況

南東と北東の主柱穴 544SP、545SP 間を中心として、床面付近から覆土中にかけて多くの遺物が出土した。土器は古墳時代中期の土師器（77 ～ 83）が多いが、上層からは古墳時代後期の須恵器（85 ～ 89）も出土する。上層から出土した須恵器は近接する竪穴建物 002SI 床面から出土した古墳時代後期の須恵器蓋杯（54）と接合した。貯蔵穴様の土




第214図　004SI遺物出土状況図（1:40）




第215図　004SI出土土器実測図（1:4）

坑 548SK からも古墳時代中期の土師器がややまとまって出土した（第 213 図）。その他、片麻岩製砥石？（30）、塩基性岩磨石？（31）、花崗岩製磨石（34）が出土した（第 240 図）。下層から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53723）は、2 σ暦年代範囲で 1260-1111calAD（93.76%）の年代値を示した（第５章（１）を参照）。

砥石？

磨石？・磨石

年代測定

004SI 出土土器は土師器として広口壷（77）、小型鉢（81）、高杯（82 ～ 84）、須恵器として蓋杯（85 ～ 88）等がある。広口壷の口縁部（77）は有段状であるが、段が曖昧で、器壁は薄い。小型鉢（81）は体部が球形に近い。高杯脚部（84）は脚柱状部から緩やかに広がる形態である。須恵器蓋杯は蓋（85 ～ 87）、杯（88）の両者がある。蓋（85 ～ 87）は天井と口縁部を画する稜が明瞭で、杯（88）を含めて全体に器壁が薄い（第 215 図）。

004SI出土土器

貯蔵穴様の土坑 548SK 出土土器はく字甕（89）、高杯（91・92）等がある。高杯は脚柱状部が太く、大きく開く脚部（91）、透孔を３方向に穿つやや太い脚部（92）がある。地床炉出土土器は高杯脚部（93）がある。細い柱状部から明瞭に屈折する（第 215 図）。

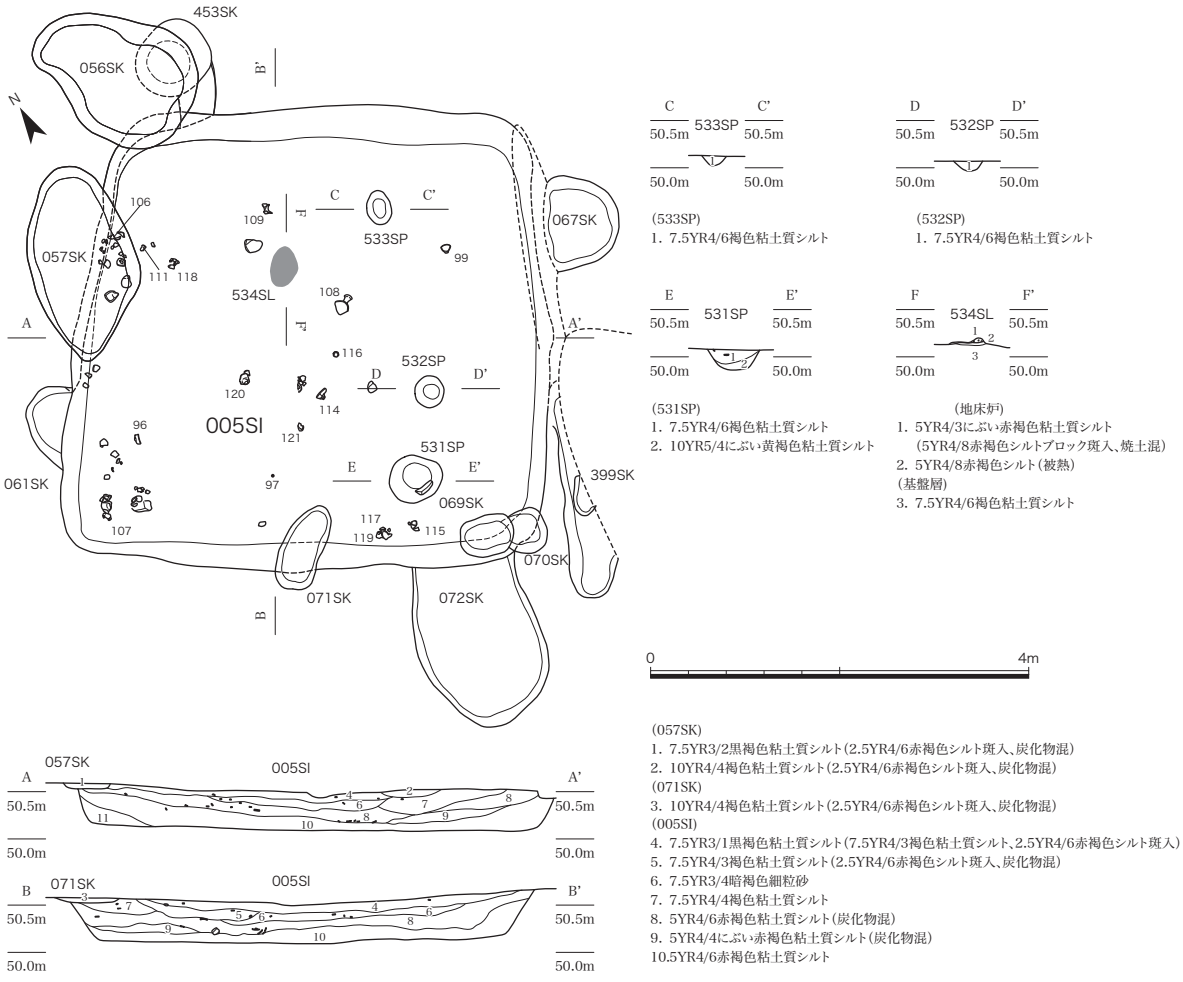
時期は出土土器から（上層出土須恵器を流入した遺物として）、古墳時代中期初頭とした。

時期

005SI

方形の中型竪穴建物として全形を検出した。主柱穴は明確ではない。南隅に貯蔵穴様の

検出状況




第216図　005SI遺構図（1:80）

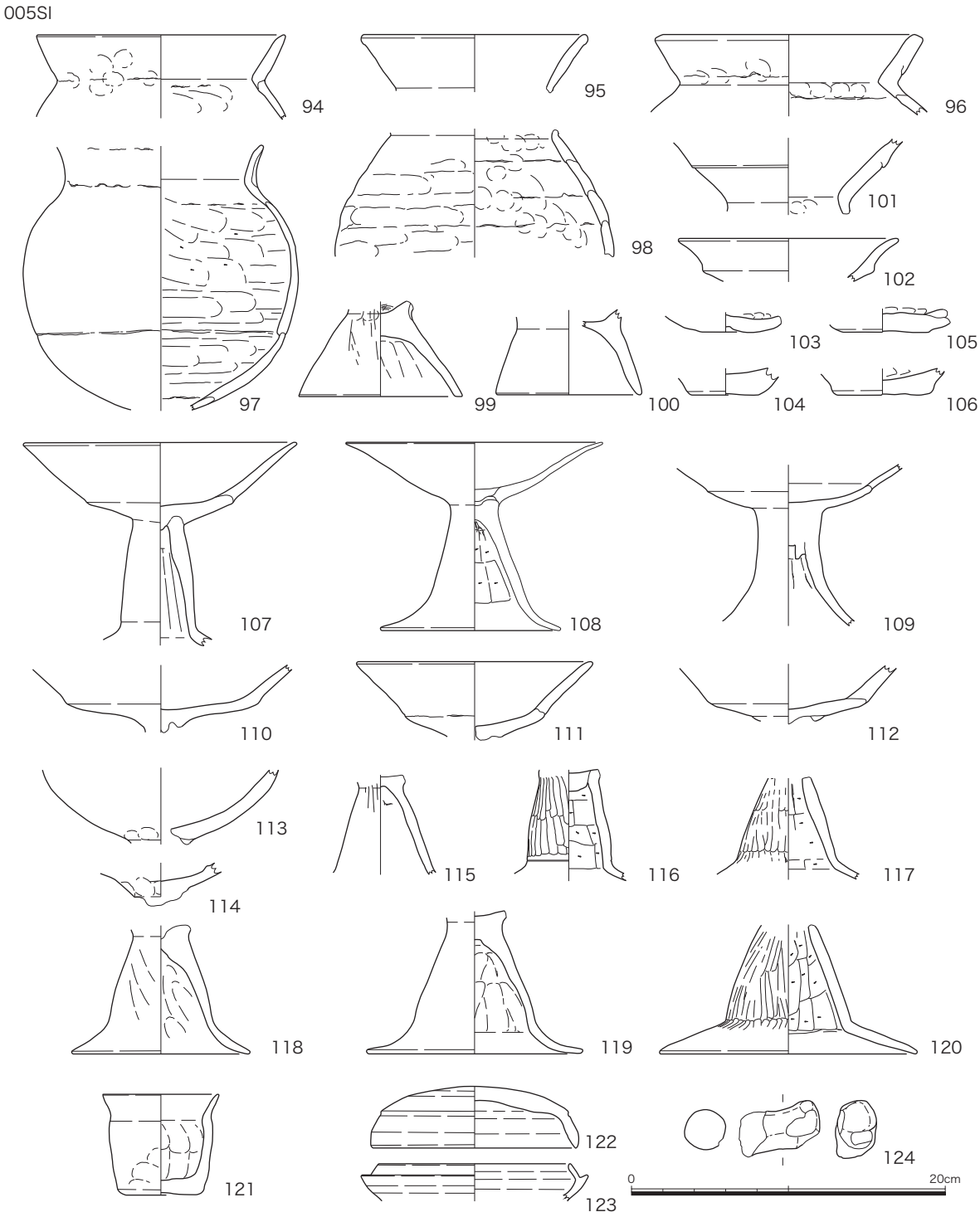
土坑 531SP を検出した。中央からやや偏した位置に地床炉を検出した。

遺物出土状況

床面付近から覆土中にかけて多くの遺物が出土した。土器は大半が古墳時代中期の土師器（94 ～ 121）であるが、わずかに古墳時代後期の須恵器蓋杯（122・123）、土師器甑または鍋（124）が混在する（第 216 図）。

005SI出土土器

005SI 出土土器は土師器としてく字甕（94 ～ 98）、台付甕（99・100）、広口壺（101・




第217図　005SI出土土器実測図（1:4）

102)、高杯（107 ～ 120)、平底鉢（121)、須恵器として蓋杯（122・123）等がある。甕は器壁が厚い口縁部（96)、下半に輪積み痕を残す体部（97)、内面全体に輪積み痕を残す体部（98)、脚台（99・100）がある。広口壷は全体が外傾し、外面のみに痕跡的な段を設けた口縁部（101)、上段が大きく外反する有段状の口縁部（102）がある。高杯は杯部が大きく外傾し、脚部は細い柱状部から屈折する形態（107)、杯部が無稜で浅く、脚部は脚柱状部から緩やかに広がる形態（108)、杯部の稜が痕跡的で、脚部は脚柱状部から緩やかに広がる形態（109）がある。その他、底部が平坦に近く、稜が下端付近にある杯部（110)、全体に外反し、底部よりやや上位に稜がある杯部（111・112）に加えて、椀（鉢）状と思われる杯部（113)、脚柱状部から緩やかに広がると思われる脚部（115・116)、膨らみがある柱状部から大きく開く脚部（117 ～ 120）がある。小型平底鉢は大きな平底から体部はほぼ直立し、口縁部が短く外折する。須恵器蓋杯は蓋 (122)、杯 (123) の両者がある。蓋（122）は全体に器壁が厚く、鋭利さを欠く（第 217 図)。

時期は出土土器から（古墳時代後期の須恵器と土師器が埋没過程で流入した遺物として)、古墳時代中期初頭とした。

### 010SI

検出状況

2019 年度の本発掘調査Ａで一部を掘削し、部分的に構造物の基礎による撹乱で失われるが、平面方形の大型竪穴建物としてほぼ全形を検出した。主柱穴として 054SP、055SP、056SP、057SP を検出した。054SP と 055SP は床面付近の高さで礫、土師器中型壷がそれぞれ検出された。東隅と南西辺中央付近に貯蔵穴様の土坑 053SK、071SK を検出した。後者は上位が浅い段状を呈する。蓋受けの可能性がある。北と西の主柱穴 055SP、057SP 間のほぼ中間に地床炉を検出した（第 218 図)。

遺物出土状況

南と西の主柱穴 056SP、057SP 間を中心として、床面付近から覆土中にかけて多くの遺物が出土した。その他、東辺に沿った床面直上で残存状況が良好な小型鉢、高杯等、南隅付近の床面付近に編物石と思われる自然石（37 ～ 41）が集積された状態で検出された。Ｓ字甕（129）は東と西の主柱穴 054SP、056SP 間の切株を除去した際に出土した。

編物石

Ｓ字甕

台石の接合関係

北東辺付近の床面付近から出土した花崗岩製台石は、近接する竪穴建物 001SI の南西辺付近の床面付近から出土した台石と接合した（第 219 図)。

年代測定

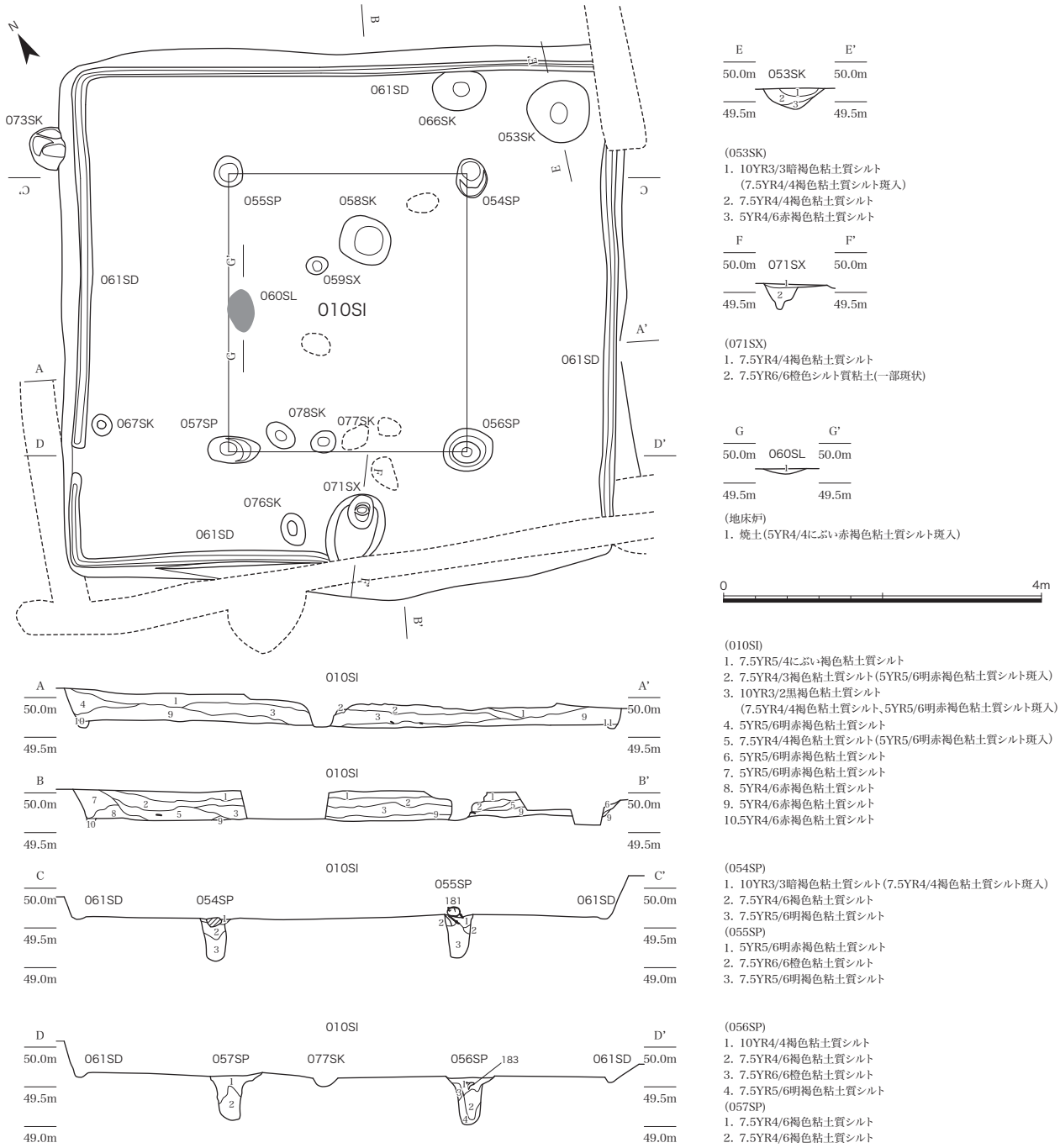
下層から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-51322）は、2 σ暦年代範囲で 338-408calAD (76.42%）の年代値を示した（第５章（１）を参照)。

010SI出土土器

010SI 出土土器は土師器としてく字甕（125 ～ 128)、Ｓ字甕（129)、広口壷（130)、短頸壷（131)、小型鉢（145･146)、小型壷（147 ～ 150)、小型平底鉢（151)、高杯（152 ～ 180）がある。く字甕の口縁部は頸部の屈折が明瞭で器壁が薄い一群（125・126)、頸部から口縁部にかけて緩やかに外折する個体（127）がある。

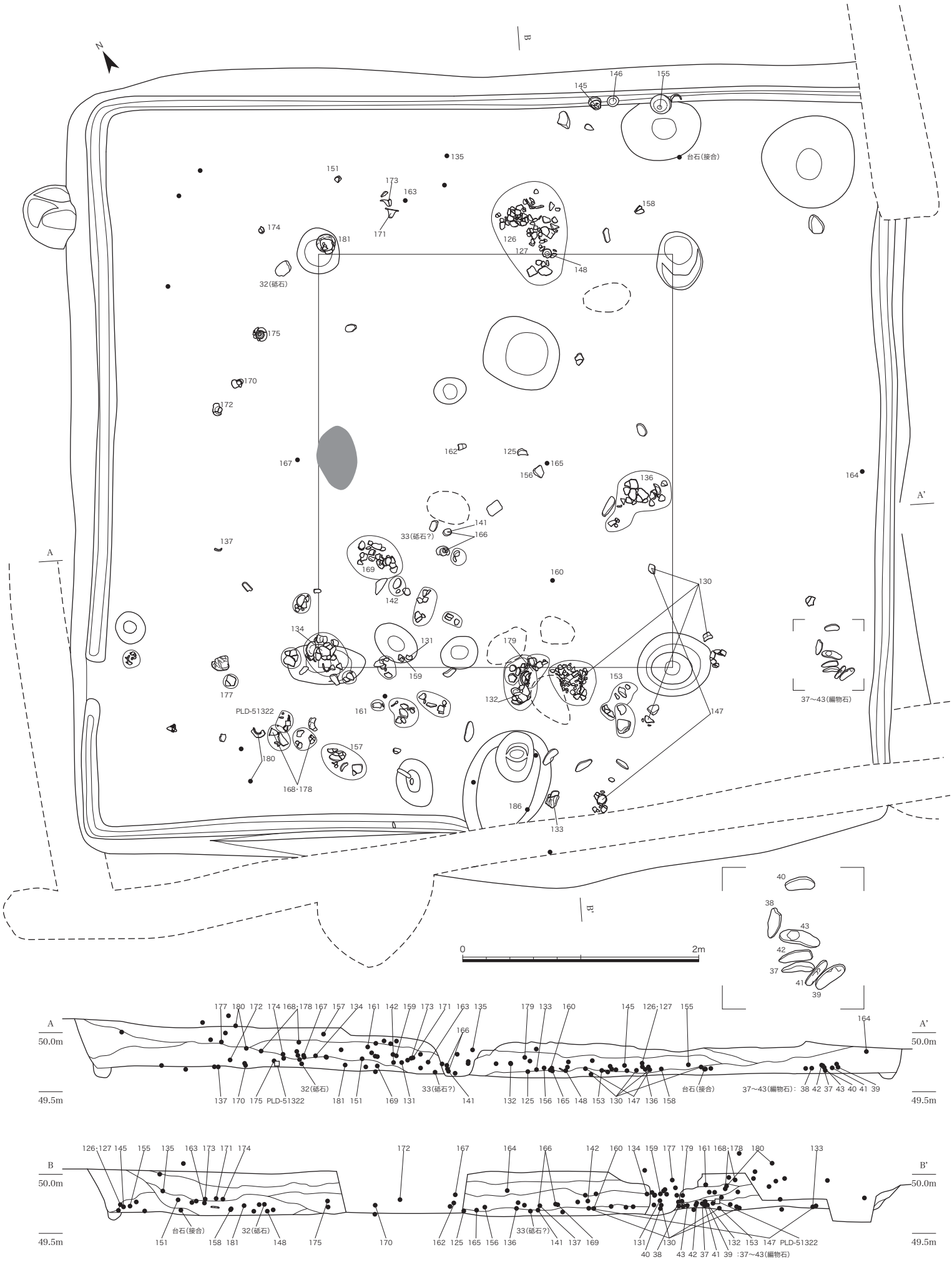
Ｓ字甕

Ｓ字甕（129）は口縁部は屈曲が曖昧で、器壁が全体に厚く、体部は中位付近が大きく張る特徴からＤ類中段階に対応させることが可能である。長胴気味の甕または壷（132）は全体に器壁が薄く、底部は小さな平底である。小型鉢は体部が球形で口縁部が外傾する個体（145)、平底気味の底部で扁平な体部から口縁部が大きく外傾する個体（146）がある。小型壷は体部が球形で口縁部が外傾する個体（147)、体部が扁平に近く、底部が大きく安定した個体（149)、口縁部がやや短くわずかに外傾する個体（150）がある。小型平底鉢（151）は小さい底

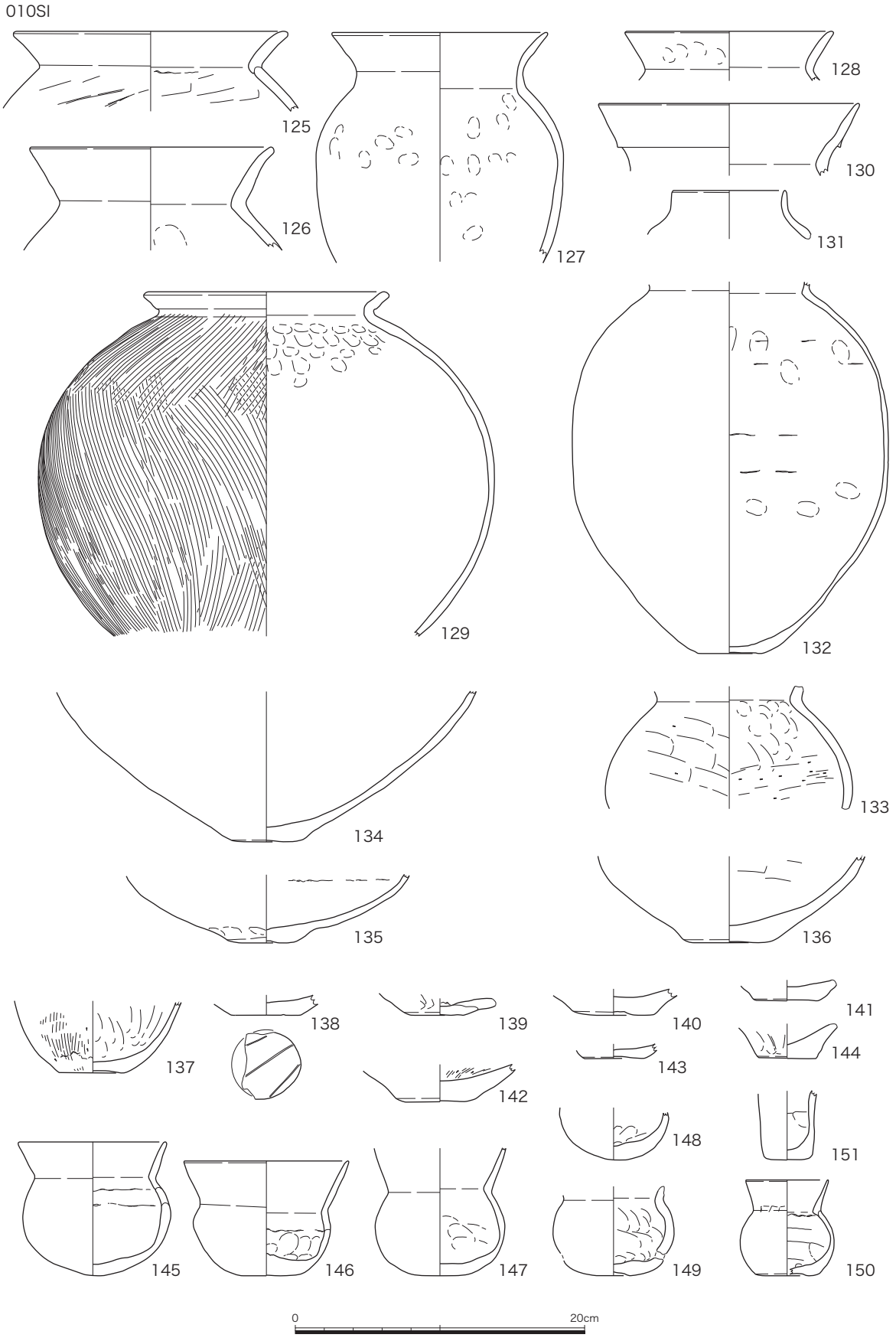



第218図　010SI遺構図（1:80）

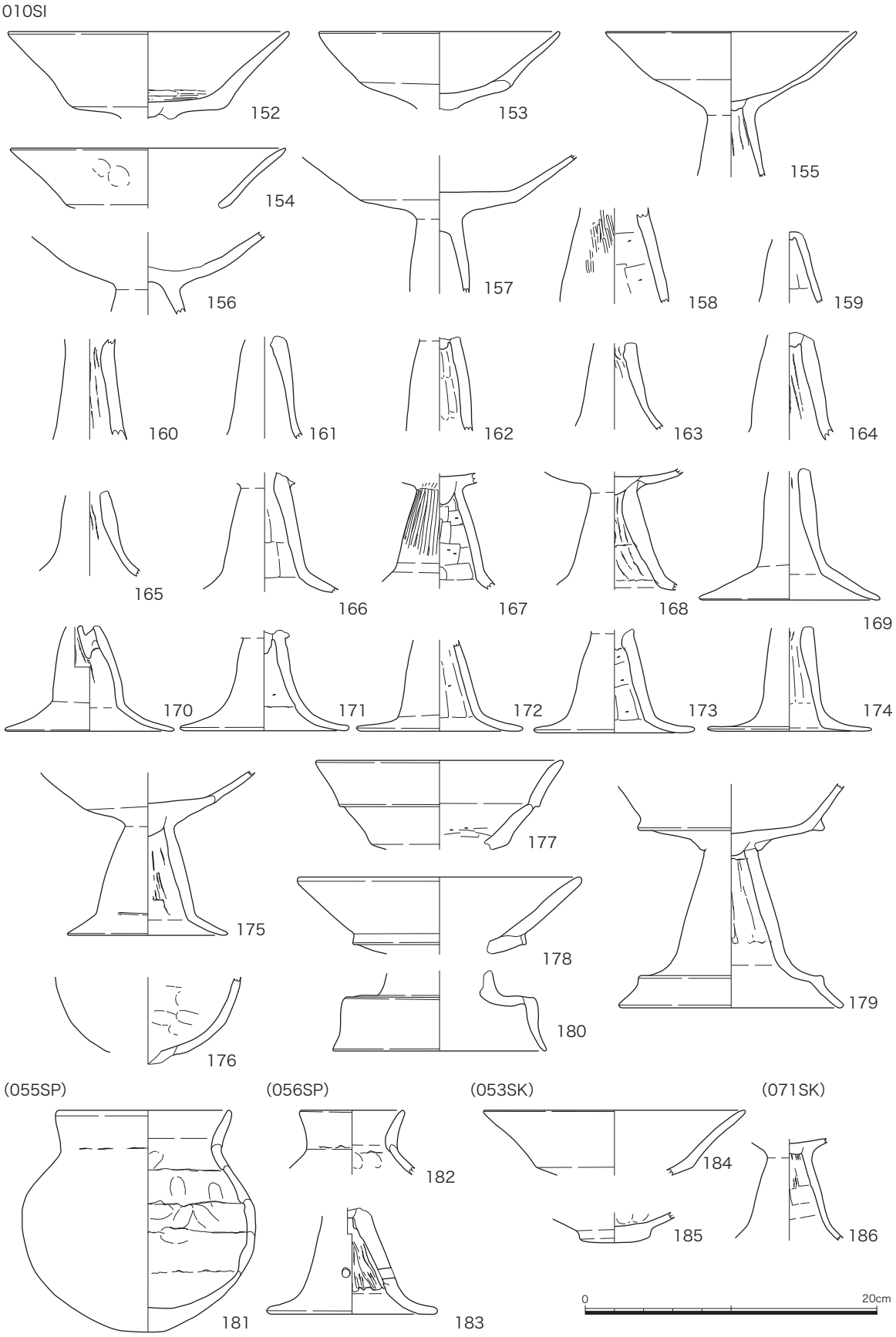
部、筒状の体部を特徴とする。高杯は底部が平坦に近く、稜が下端付近にある杯部（152）、底部よりやや上位に稜がある杯部（153・154）、中位付近に痕跡的な稜がある杯部（155）、稜がない杯部（156）、柱状部が太い脚部（158）、脚柱状部から緩やかに広がると思われる脚部（159 ～ 168）、細い柱状部から屈折する脚部（169）、脚柱状部から緩やかに広がる脚部（170 ～ 173）、かなり低い位置で広がる脚部（174）、膨らみがある柱状部からやや短く開く脚部（175）、椀（鉢）状の杯部（176）がある。これらに加えて、有段状の杯部（177）、または下端に突帯を付す杯部（178）、杯部下端に突帯を付し、脚部を有段状とする個体、やや緩やかな有段状とする脚部（180）がある。全体に法量がやや大きい。




第219図　010SI遺物出土状況図（1:40）




第220図　010SI出土土器実測図1（1:4）




第221図　010SI出土土器実測図２（1:4）

第８表　古墳時代竪穴建物一覧表

| | 遺構番号 | 時期 | | 方位 | 規模 | | | | | 柱間 | | | 平面形 | 周壁溝 | 主柱穴 | 炉 | 貯蔵穴配置 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長軸(m) | 短軸(m) | 長短比 | 面積(㎡) | 分類 | 長軸(m) | 短軸(m) | 長短比 | | | | | | |
| 1 | 001SI | 中期初頭 | 1期 | N27°E | 5.75 | 5.5 | 0.96 | 31.63 | 中型 | 2.40 | 2.10 | 0.88 | 方形 | 無 | 4 | ○ | S | |
| 2 | 002SI | 中期前半 | 2期 | N40°E | 4.40 | -3.00 | - | - | - | - | - | - | - | 無 | 0 | ○ | - | |
| 3 | 003SI | 中期初頭 | 1期 | N27°E | -5.80 | 4.70 | - | - | - | - | - | - | - | 無 | 0 | ○ | E | |
| 4 | 004SI | 中期初頭 | 1期 | N21°E | 5.00 | 5.00 | 1.00 | 25.00 | 中型 | 2.10 | 2.00 | 0.95 | 方形 | 無 | 4 | ○ | NE | |
| 5 | 005SI | 中期初頭 | 1期 | N31°E | 5.20 | 4.90 | 0.94 | 25.48 | 中型 | - | - | - | 方形 | 無 | 0 | ○ | - | |
| 6 | 010SI | 中期前半 | 2期 | N30°E | 7.10 | 6.80 | 0.96 | 48.28 | 大型 | 3.50 | 3.00 | 0.86 | 方形 | 全 | 4 | ○ | E/SE | |

主柱穴 055SP 出土のく字甕（181）は底部は曖昧な平底で、内面には輪積み痕が残る。主柱穴 056SP 出土の小型壷（182）は口縁部が短く外傾する。高杯の脚部（183）は脚柱状部から緩やかに広がる形態で、一方向にのみ、径約 6 mm の小さい透孔を穿つ（第 220･221 図）。その他､凝灰岩製砥石（32)､花崗岩製砥石？（33）が出土した（第 240 図)。

砥石・砥石？

時期

時期は出土土器から古墳時代中期前半とした。

020SD・019SI

検出状況

2022 年度に西半を主に溝状の落ち込み 020SD として、2023 年度に東半を主に床面付近まで大きく削剥された竪穴建物として調査した。中央付近に土坑 509SK、その他、関係が判然としない遺構が多く重複する。020SD は竪穴建物に伴う掘方の可能性も想定されたが、遺物を多く包含する点に違和感が生じる。主柱穴、地床炉や竈も明確ではないので、竪穴建物群の周囲の緩斜面に分布する土坑群と同様の性格も考慮される（第 222 図)。

遺物出土状況

出土土器は 020SD の西半から古墳時代中期の土師器（187 ～ 205）がややまとまって出土したが､東半からは古墳時代後期の土師器甕（209）と須恵器蓋杯（210）が出土した。019SI からは古墳時代中期の土師器小型壷（208）が良好な状態で出土した。重複する土坑から出土する土器も大半が古墳時代中期の土師器（211 ～ 213）であるが、古墳時代後期の須恵器（214）も混在する。下層から採取した炭化材の放射性炭素年代測定の結果（測定番号 PLD-53724）は、2 σ暦年代範囲で 277-338calAD（69.48%）の年代値を示した（第５章（１）を参照)。

年代測定

020SD出土土器

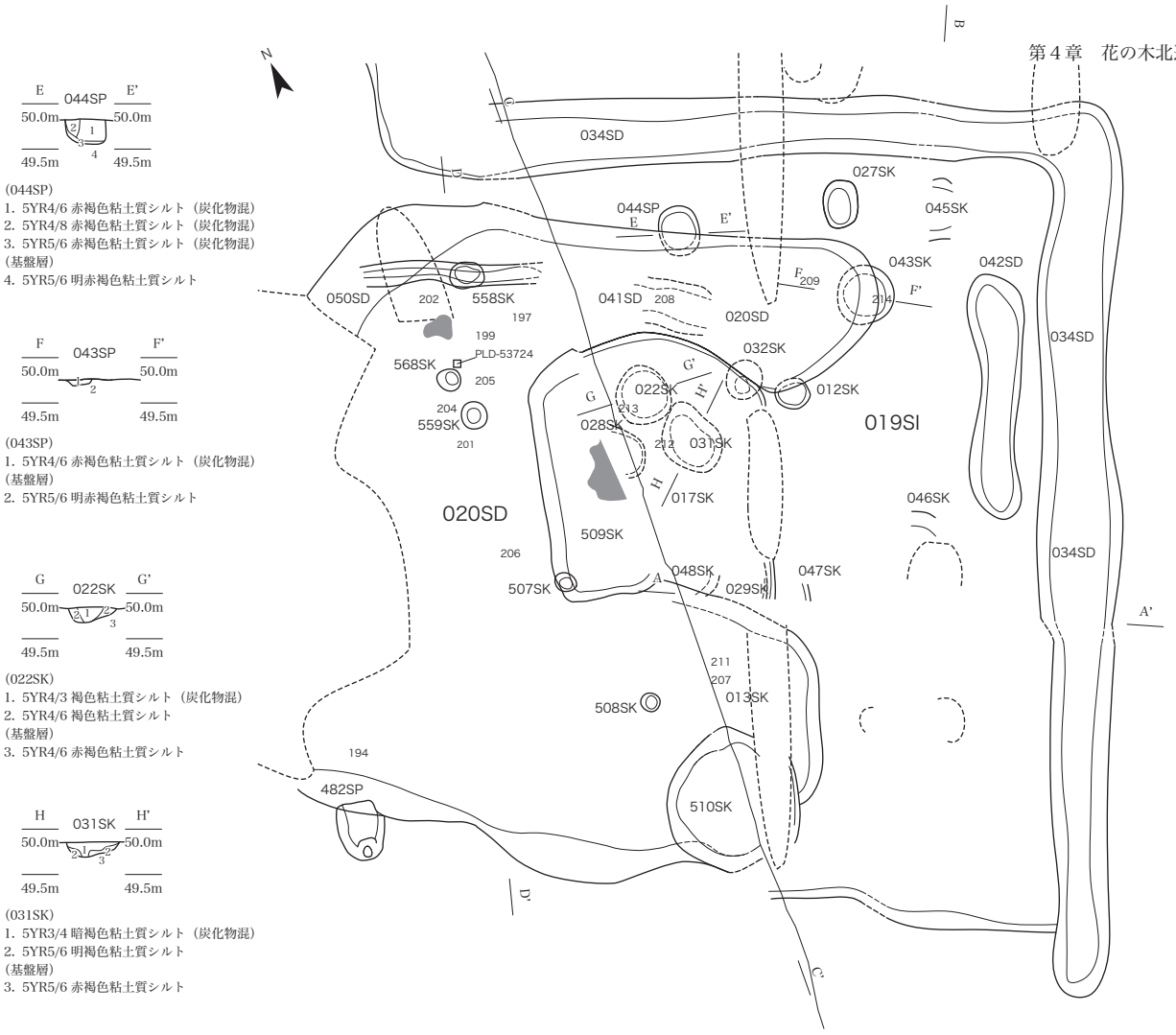
020SD 出土土器は土師器としてく字甕（187･188)､台付甕（189)､柳ヶ坪型壷（190)、小型壷（194・195)、高杯（196 ～ 205)、須恵器として蓋杯（206）等がある。後出する時期の土師器丸底甕（209)、須恵器蓋杯（210）が混在する。く字甕は単純に外反する口縁部（187）に加えて、跳ね上げ口縁状の口縁部（188）がある。柳ヶ坪型壷（190）は二重口縁状の口縁部で内面に加飾が残る。小型壷（194）は体部が球形を呈する。高杯は柱状部上位が細い脚部（200)、太い脚部（202)、膨らみがある脚部（204・205）等がある（第 223 図)。

019SI出土土器

019SI 出土土器は土師器としてく字甕（207)、小型壷（208）がある。く字甕の口縁部（207）は長く直線的に外傾する。小型壷（208）は体部が球形で、口縁部は直線的に外傾する。013SK 出土の土師器広口壷（211）は有段口縁状で、器壁は厚い。031SK 出土の土師器広口壷(212)は口縁部が単純に外反する。022SK 出土の土師器小型壷の体部(213)は球形を呈する（第 223 図)。

時期

時期は遺構の残存状況が良好でなく、性格が判然としないこと、重複する遺構の先後関係を出土土器と対応させることが難しいが、中期初頭が主体である。







(044SP)
1. 5YR4/6 赤褐色粘土質シルト（炭化物混）
2. 5YR4/8 赤褐色粘土質シルト（炭化物混）
3. 5YR5/6 赤褐色粘土質シルト（炭化物混）
(基盤層)
4. 5YR5/6 明赤褐色粘土質シルト




(043SP)
1. 5YR4/6 赤褐色粘土質シルト（炭化物混）
(基盤層)
2. 5YR5/6 明赤褐色粘土質シルト



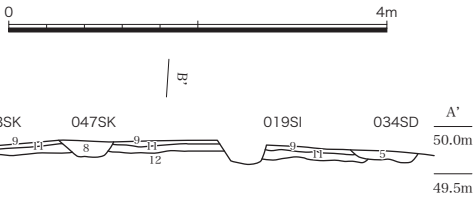

(022SK)
1. 5YR4/3 褐色粘土質シルト（炭化物混）
2. 5YR4/6 褐色粘土質シルト
(基盤層)
3. 5YR4/6 赤褐色粘土質シルト

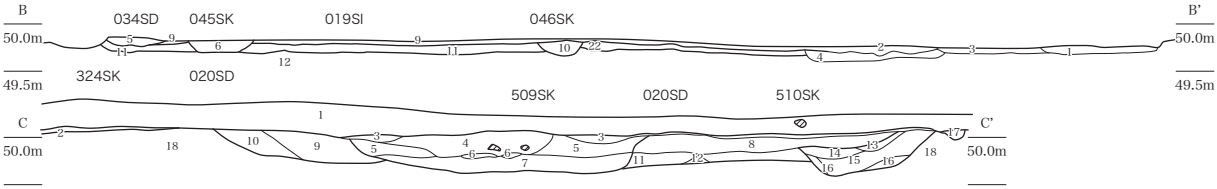



(031SK)
1. 5YR3/4 暗褐色粘土質シルト（炭化物混）
2. 5YR5/6 明褐色粘土質シルト
(基盤層)
3. 5YR5/6 赤褐色粘土質シルト

1. 5YR4/8 赤褐色粘土質シルト（炭化物混）
2. 7.5YR5/8 明褐色粘土質シルト（炭化物少量混）
3. 5YR4/6 赤褐色粘土質シルト
4. 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト
(034SD)
5. 5YR4/8 赤褐色粘土質シルト
(045SK)
6. 5YR4/4 にぶい赤褐色粘土質シルト
(5YR5/6 明褐色粘土質シルト斑入)
(048SK)
7. 5YR4/3 にぶい赤褐色粘土質シルト

(047SK)
8. 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト
(5YR5/6 明赤褐色粘土質シルト斑入)
(019SI)
9. 5YR4/4 にぶい赤褐色粘土質シルト
(2.5Y5/8 赤褐色シルト斑入)
(046SK)
10.5YR5/8 明赤褐色粘土質シルト
(019SI)
11.5YR4/8 赤褐色粘土質シルト
(基盤層)
12.5YR5/6 明赤褐色粘土質シルト





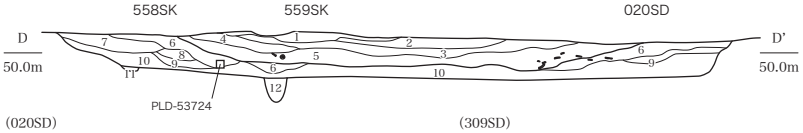


(表土)
1. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト
(324SK)
2. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト

(509SK)
3. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/8明褐色シルト斑入)
4. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(7.5YR5/6明褐色粘土質シルト斑入、炭化物多量混)
5. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物多量混)
6. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト(焼土塊)
7. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト(炭化物少量混)

(020SD)
8. 7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト
(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入、炭化物混)
9. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)
10.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
11.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
12.7.5YR3/1黒褐色細粒砂(炭化物混)

(510SK)
13.7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)
14.7.5YR4/3褐色粘土質シルト(炭化物混)
15.7.5YR4/6褐色細粒砂(炭化物混)
16.7.5YR4/4褐色細粒砂
(7.5YR4/6褐色細粒砂斑入)
17.7.5YR4/4褐色粘土質シルト
(5YR5/8明赤褐色粘土質シルト斑入、炭化物混)
(基盤層)
18.5YR5/8明赤褐色粘土質シルト

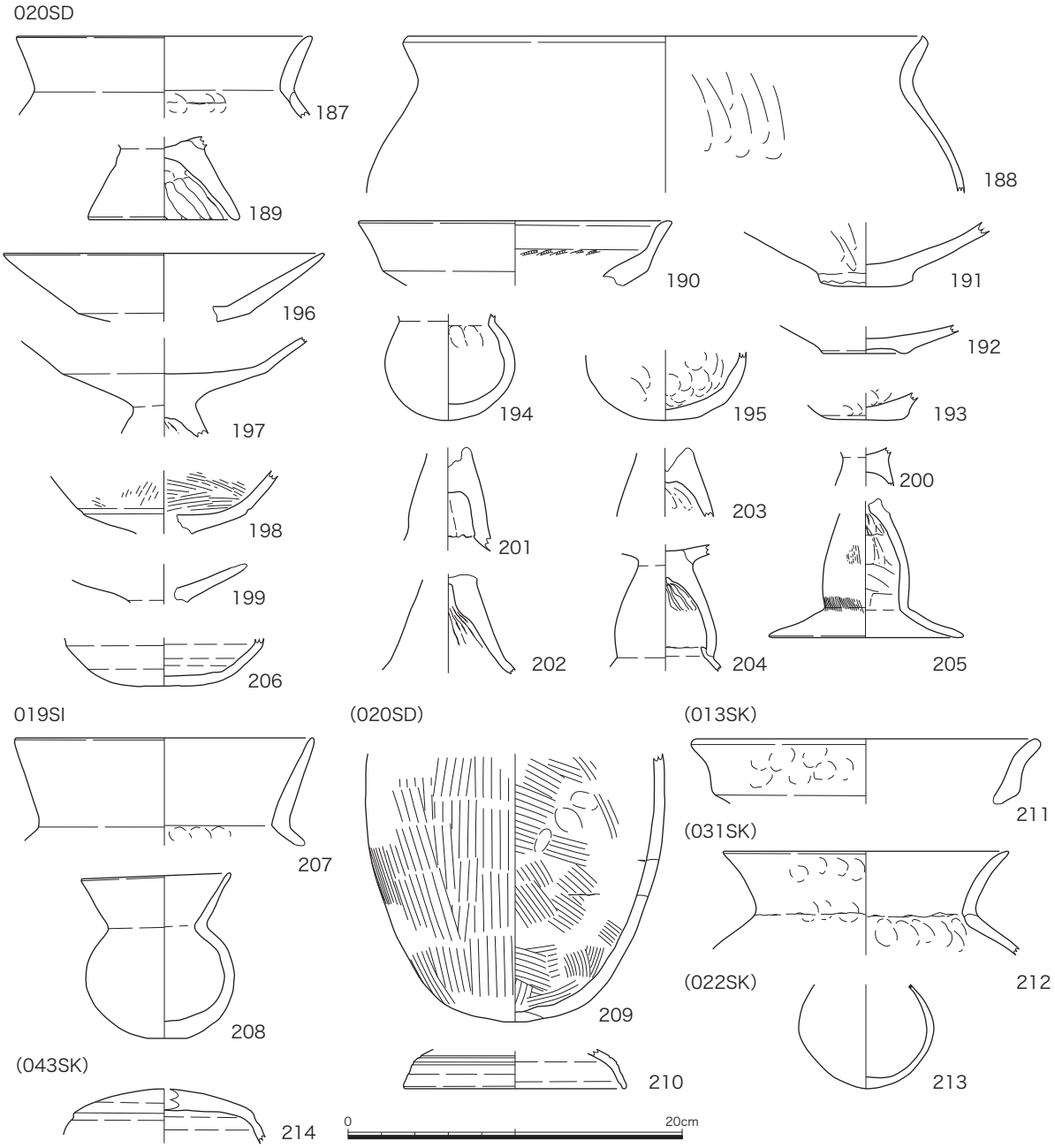



(020SD)
1. 7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト(7.5YR4/8明褐色シルト斑入、炭化物混)
2. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 7.5YR3/3暗褐色細粒砂(7.5YR4/6褐色細粒砂斑入、炭化物混)
4. 7.5YR4/4褐色粘土質シルト(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入)
5. 7.5YR3/1黒褐色シルト質粘土(7.5YR4/6褐色細粒砂斑入、炭化物混)

(309SD)
6. 10YR4/4褐色シルト
7. 7.5YR5/3にぶい褐色細粒砂(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入)
8. 5YR4/6赤褐色粘土質シルトと10YR4/4褐色シルトの互層
9. 7.5YR4/1褐灰色細粒砂
10.7.5YR4/4褐色細粒砂

(558SK)
11.7.5YR4/6褐色粘土質シルト(炭化物混)
(559SK)
12.7.5YR4/4褐色粘土質シルト(2.5YR4/6赤褐色シルト斑入)

第222図　020SD・019SI遺構図（1:80）



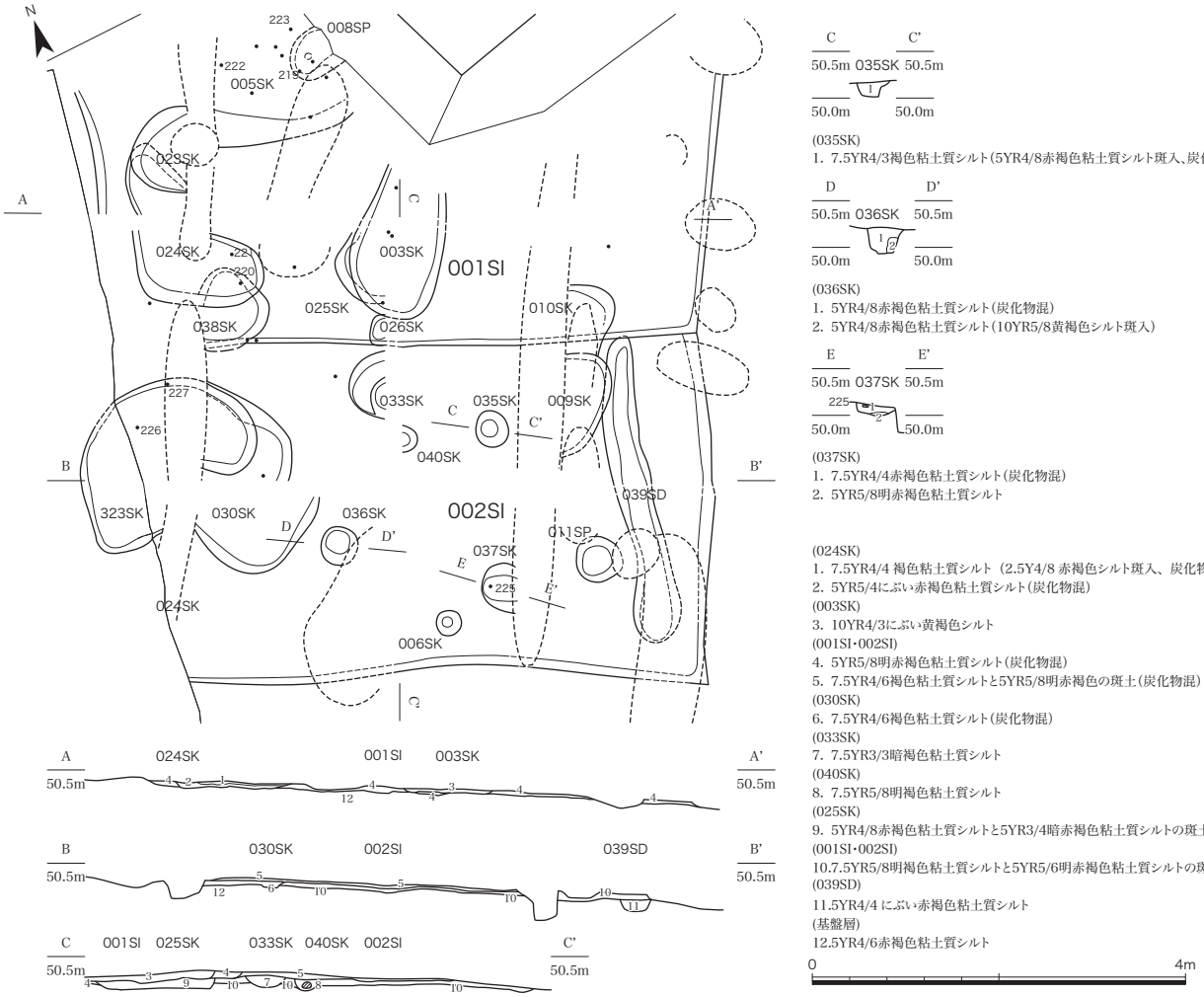

第223図　020SD・019SI出土土器実測図（1:4）

### 001SI・002SI

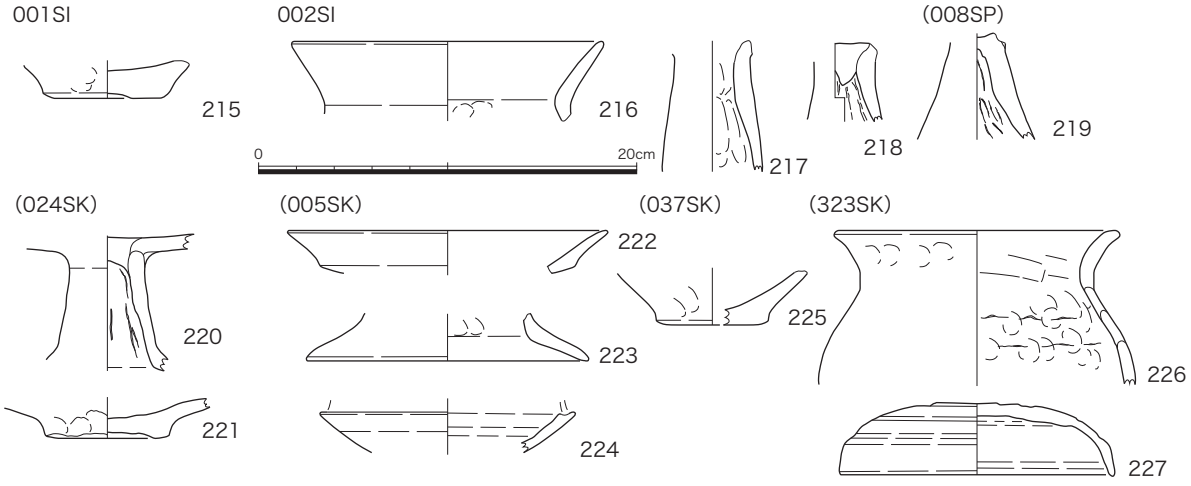
検出状況　2023 年度調査区で検出した 001SI、002SI は調査時には重複する 2 棟の竪穴建物としたが、花の木北遺跡に重複する古墳時代の竪穴建物が認められないことを踏まえると、床面がほとんど遺存しない状態で、重複を積極的に支持することは難しい。地床炉等も検出されていない。竪穴建物の掘方が残存している可能性を考慮するのみとした（第 224 図）。

遺物出土状況　重複して検出された土坑、あるいは掘方の一部からは古墳時代中期の土師器（215 ～ 226）に加えて、古墳時代後期の須恵器（227）が出土した（第 240 図）。

001SI・002SI 出土土器　001SI・002SI 出土土器は土師器としてく字甕（216）、高杯（217・218）等がある。008SP 出土土器は土師器高杯（219）、024SK 出土土器は土師器高杯（220）等、005SK




第224図　001SI・002SI遺構図（1:80）




第225図　001・002SI出土土器実測図（1:4）

出土土器は土師器として広口壷（222）、大型高杯（223）、須恵器として蓋杯（224）がある。
323SK 出土土器は土師器としてく字甕(226)、須恵器として蓋杯(227)がある(第 225 図)。
その他、花崗岩製磨石（35・36）が出土した（第 240 図)。　　磨石

## （5）古墳時代中・後期の掘立柱建物

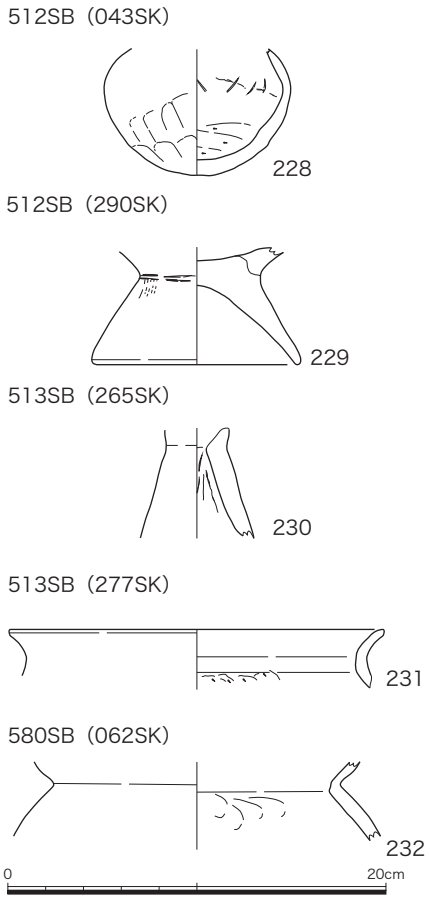
検出遺構の概要　柱穴が集中する台地頂部において7棟の掘立柱建物を復元した。511SBが総柱建物で、それ以外は側柱建物である。580SBは北西に面して庇が付された可能性がある。513SBは西側柱の復元にやや難があるが、桁行の規模が512SBに一致する点を重視して復元した（第227～234図、第9表）。

方位と群別　7棟の掘立柱建物は方位によりA群からC群の3群に大別される。A群は正方位を志向する一群で512SBが含まれる。B群は竪穴建物群の方位に近似する一群で511SB、513SB、514SB、515SBが含まれる。C群は北東南西方向を志向する一群で579SB、580SBが含まれる。

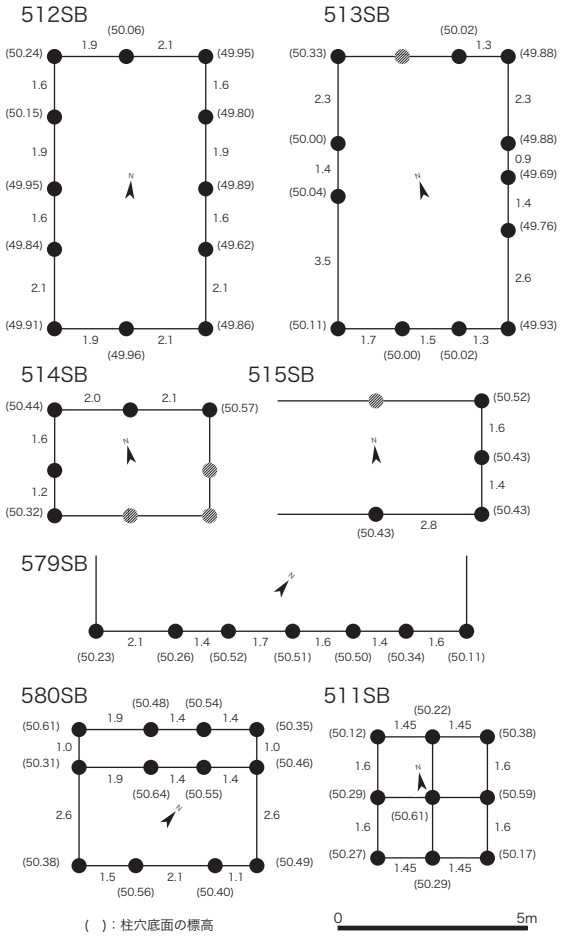
磨石

柱穴出土土器　出土土器は5121SBの柱穴043SKから出土した土師器小型壷（228）、290SKから出土した土師器台付甕（229）、513SBの柱穴266SKから出土した土師器高杯（230）、277SKから土師器く字甕(231)、580SBの柱穴062SKから出土した土師器く字甕(232)がある（第226図）。

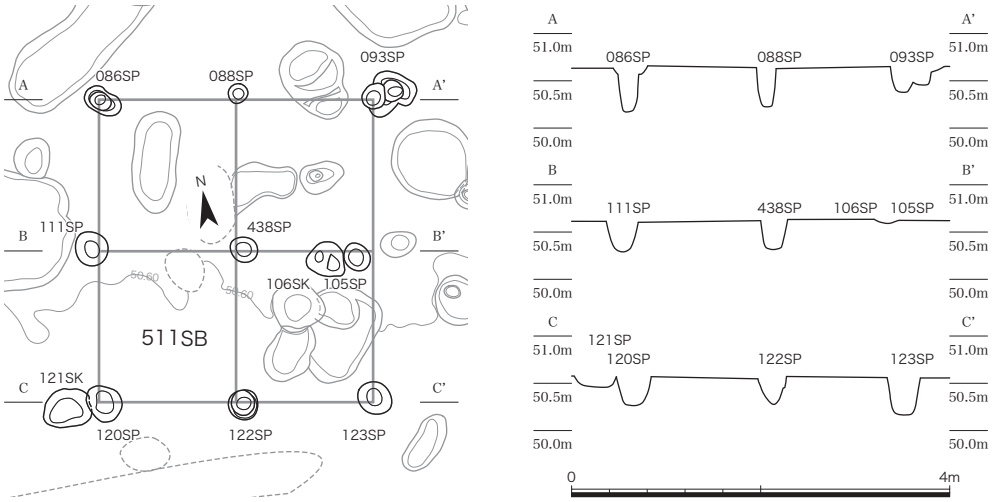
時期　時期は古墳時代中期に加えて、周辺から出土する須恵器から、古墳時代後期の可能性も想定される。



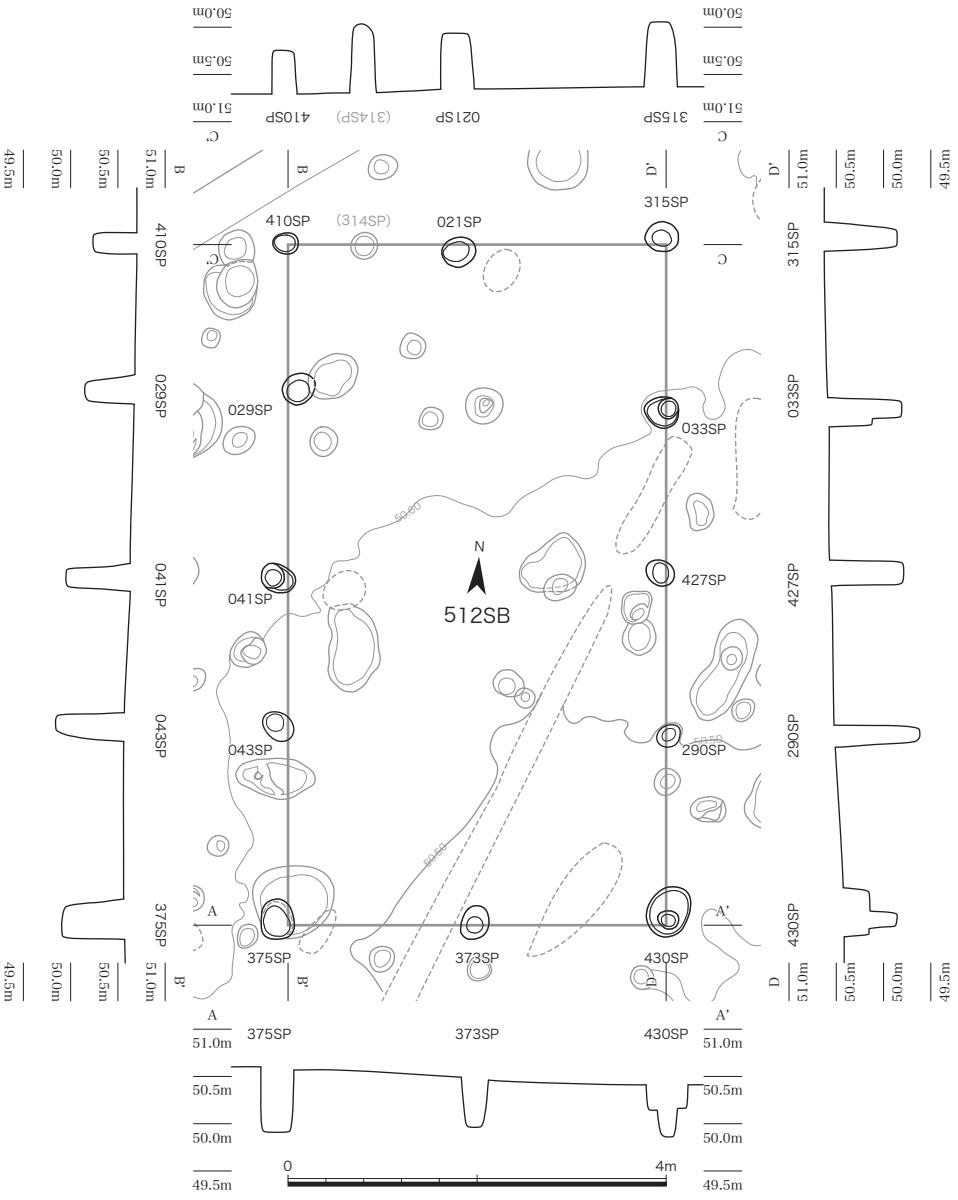

第226図　掘立柱建物出土土器（1:4）



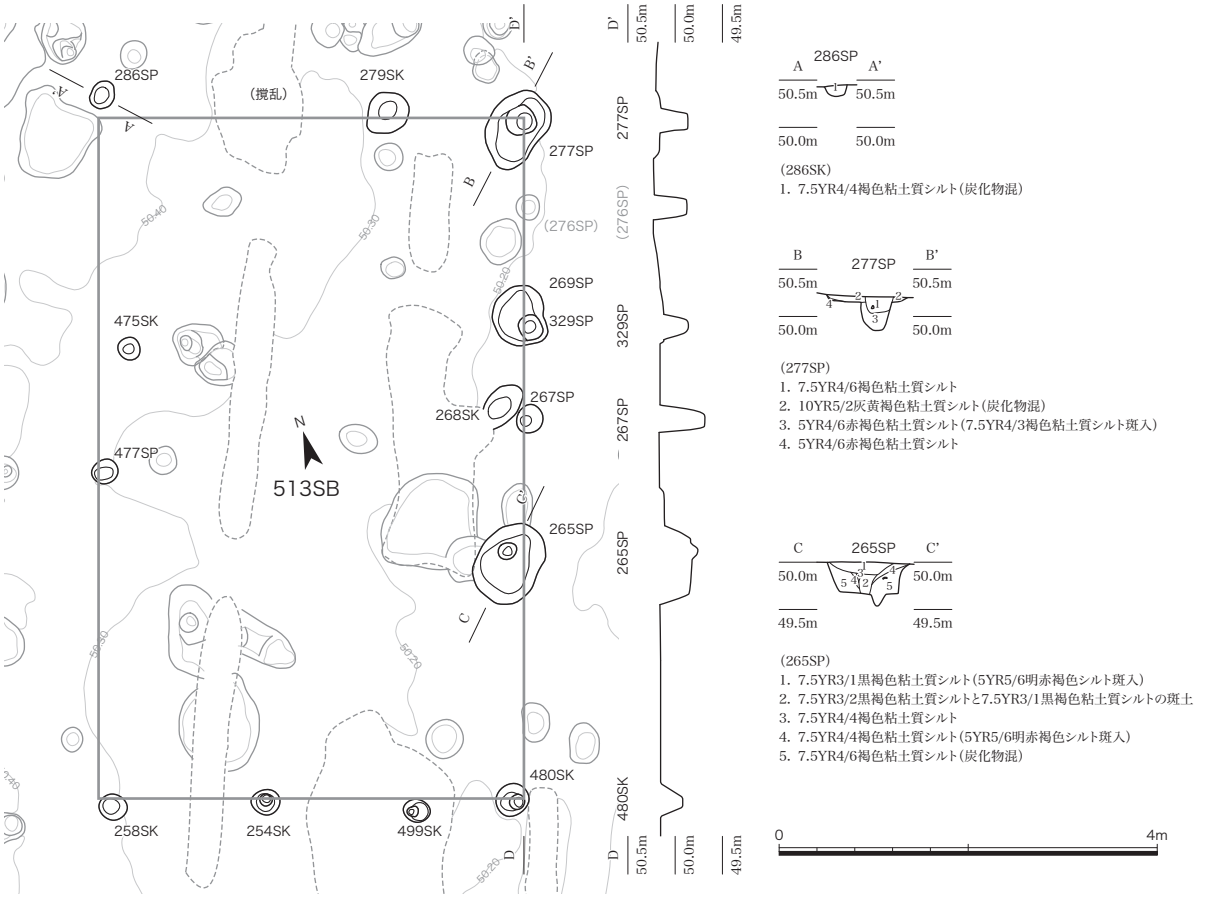

第227図　掘立柱建物模式図（1:200）



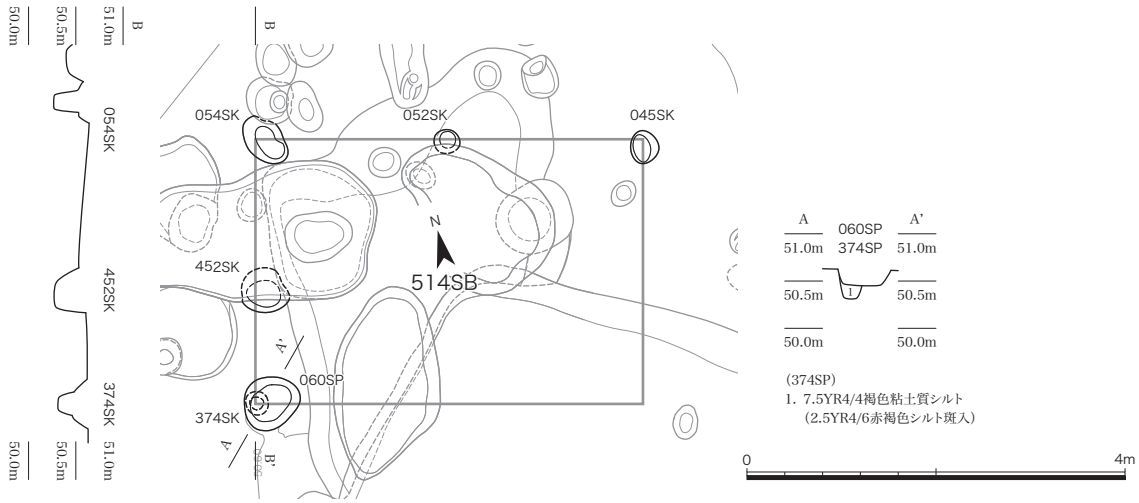

第228図　511SB遺構図（1:80）




第229図　512SB遺構図（1:80）



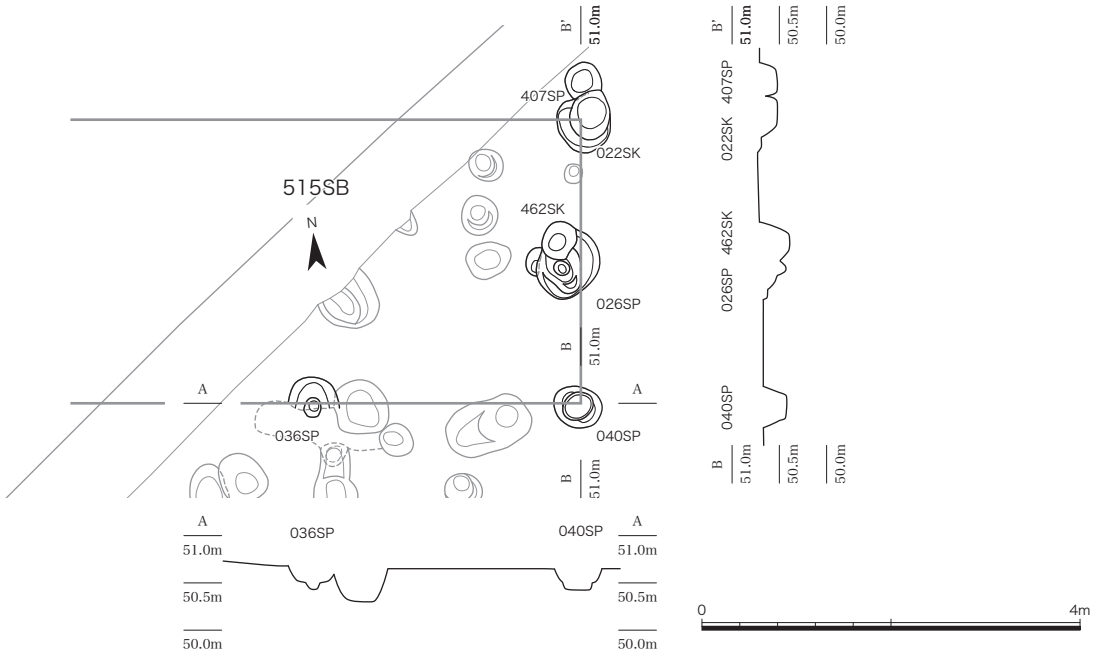

第230図　513SB遺構図（1:80）



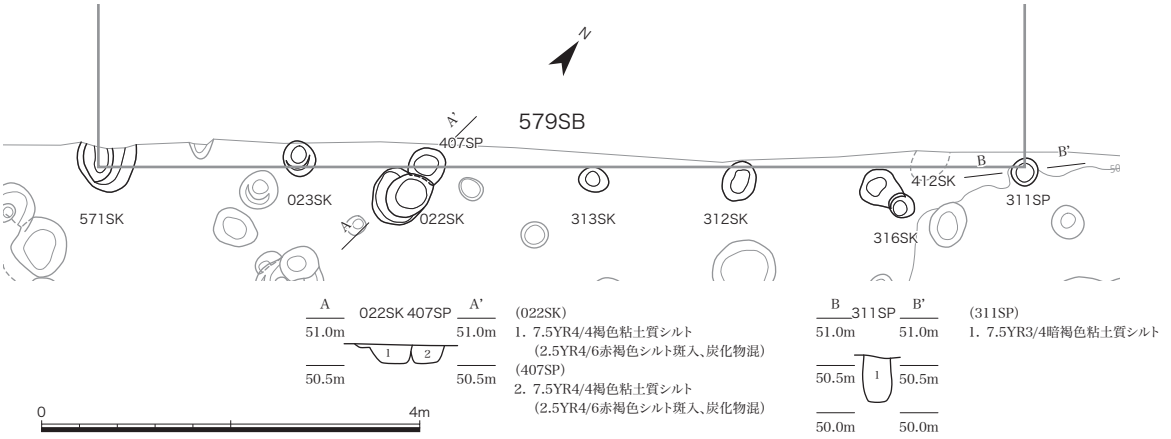

第231図　514SB遺構図（1:80）

第９表　掘立柱建物一覧表

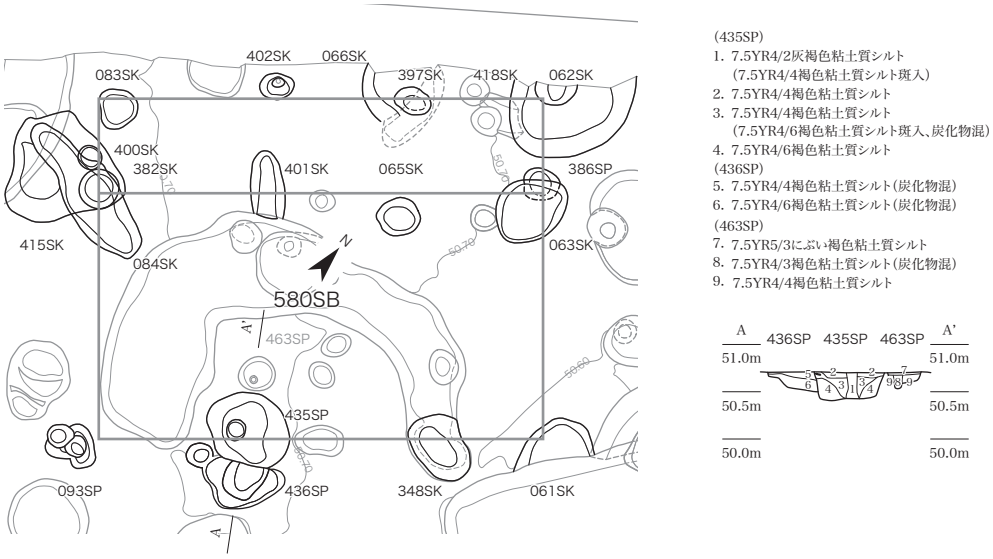
| | 遺構番号 | 形式 | 時期 | 方位 | 規模 桁行(m) | 梁行(m) | 長短比 | 面積(㎡) | その他 | 出土土器 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 511SB | 総柱建物 | 古墳時代中・後期 | N10°E | 3.2 | 2.9 | 0.91 | 9.28 | | | |
| 2 | 512SB | 側柱建物 | 古墳時代中・後期 | N4°W | 7.2 | 4.0 | 0.56 | 28.80 | | 228 | 229 |
| 3 | 513SB | 側柱建物 | 古墳時代中・後期 | N17°E | 7.2 | 4.5 | 0.63 | 32.40 | | 230 | 231 |
| 4 | 514SB | 側柱建物 | 古墳時代中・後期 | N13°E | 4.1 | 2.8 | 0.68 | 11.48 | | | |
| 5 | 515SB | 側柱建物 | 古墳時代中・後期 | N6°E | - | 3.0 | - | - | | | |
| 6 | 579SB | 側柱建物？ | 古墳時代中・後期 | N38°W | 9.8 | - | - | - | | | |
| 7 | 580SB | 側柱建物 | 古墳時代中・後期 | N41°W | 4.7 | 3.6 | 0.77 | 16.92 | 一面庇？ | 232 | |




第232図　511SB遺構図（1:80）




第233図　579SB遺構図（1:80）




第234図　580SB遺構図（1:80）

## （6）古墳時代中・後期のその他の遺構・遺物

### 土坑群

検出遺構の概要

主に竪穴建物群から谷地形に続く緩斜面に分布し、以下の特徴が認められる遺構を抽出し、土坑群として報告する（第 10 表、第 235・236 図））。

平面形は楕円形または倒卵形、断面形は一方に偏った椀形、規模は 1 m 程度である場合が多い。複数が重複し、連続して掘削されたことを推測させるような場合もある。覆土中に古墳時代中期（初頭から）前半の土師器を包含する。花の木古墳群で土壙墓として報告した遺構とも類似するが、その性格は判然としない。

遺物出土状況

023SK から高杯（233）、024SK から高杯（235）等、035SK から台付甕（236）、く字甕（237）、057SK から広口壷（240）、058SK から高杯（241 ～ 243）、く字甕（244・245）等、099SK から小型鉢（247）、く字甕（249）等、243SK から高杯（250・251）、く字甕（252・253）、365SK から広口壷（254・255）、大型高杯（256）、378SK から高杯（257）等、518SK から広口壷（259）、520SK から小型平底鉢（260）、014SK から高杯（261）、015SK から高杯（262）、016SK から高杯（263）が出土した（第 235・236 図）。

土坑群出土土器

く字甕（237）は小さな平底で、頸部から口縁部は緩やかに外反する。広口壷（240）は低い突帯を付して、痕跡的な段を作出する。く字甕（245）は口縁部が直立気味で、体部は寸胴である。広口壷（254・255）は全体に器壁が薄く、口縁部は単純に外反する。広口壷（259）は全体に器壁が薄く、低い突帯を付して、痕跡的な段を作出する。高杯の脚部（262・263）は太い柱状部から大きく開く（第 237 図）。

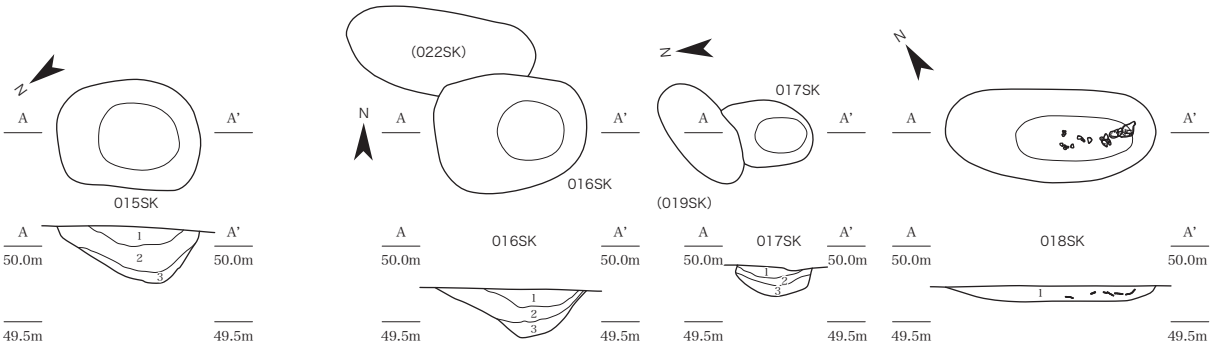
### その他の遺構・遺物

その他の出土土器

074SK から高杯（265）、091SK から高杯（266）、096SK から高杯（267）、109SK から直口壷（268）、250SK から高杯（270）、287SK からく字甕（271）、297SK から高杯（272）、478SK から台付甕（273）が出土した。その他、遺構に伴わない土器として、土師器高杯（276）、須恵器蓋杯（277）が出土した（第 237 図））。

第 10 表　土坑一覧表

| | 区 | グリッド | 遺構番号 | 規模 長軸 (m) | 短軸 (m) | 長短比 | 深さ (m) | 出土土器 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 21 | 5050 | 015SK | 0.96 | 0.72 | 1.33 | 0.35 | |
| 2 | 21 | 4951 | 016SK | 1.01 | 0.63 | 1.60 | 0.30 | |
| 3 | 21 | 5051 | 017SK | 0.49 | 0.44 | 1.11 | 0.19 | |
| 4 | 21 | 5149 | 018SK | 1.38 | 0.65 | 2.12 | 0.11 | |
| 5 | 21 | 5051 | 019SK | 0.78 | 0.37 | 2.11 | 0.29 | |
| 6 | 21 | 4951 | 022SK | 1.26 | 0.57 | 2.21 | 0.13 | |
| 7 | 21 | 4950 | 023SK | 1.35 | 0.69 | 1.96 | 0.29 | 233 |
| 8 | 21 | 4950 | 024SK | 1.62 | 1.41 | 1.15 | 0.33 | 234 ～ 235 |
| 9 | 21 | 5151 | 030SK | 0.51 | 0.44 | 1.16 | 0.10 | 238 |
| 10 | 21 | 5151 | 032SK | 1.29 | 1.09 | 1.18 | 0.22 | |
| 11 | 21 | 5050 | 044SK | 1.27 | 0.94 | 1.35 | 0.21 | |
| 12 | 21 | 5150 | 034SK | 1.21 | 0.56 | 2.16 | 0.19 | |
| 13 | 21 | 5150 | 035SK | 0.81 | 0.57 | 1.42 | 0.12 | 236 ～ 237 |
| 14 | 21 | 5150 | 065SK | 0.63 | 0.60 | 1.05 | 0.10 | |
| 15 | 21 | 5150 | 069SK | 1.12 | 0.74 | 1.51 | 0.18 | |
| 16 | 22 | 4652 | 055SP | 0.72 | 0.52 | 1.38 | 0.15 | 239 |
| 17 | 22 | 4652 | 057SK | 2.07 | 1.13 | 1.83 | 0.05 | 240 |
| 18 | 22 | 4652 | 058SK | 5.07 | -2.04 | - | 0.36 | 241 ～ 246 |
| 19 | 22 | 4751 4752 | 099SK | 0.80 | 0.64 | 1.25 | 0.30 | 247 ～ 249 |
| 20 | 22 | 4853 | 243SK | 1.68 | 1.3 | 1.29 | 0.17 | 250 ～ 253 |
| 21 | 22 | 4651 | 365SK | 1.46 | 1.22 | 1.20 | 0.04 | 254 ～ 256 |
| 22 | 22 | 4752 | 378SK | 0.59 | -0.51 | - | 0.28 | 257 ～ 258 |
| 23 | 22 | 4753 | 518SK | 0.95 | 0.89 | 1.07 | 0.32 | 259 |
| 24 | 22 | 4753 | 520SK | 0.21 | 0.18 | 1.17 | 0.28 | 260 |
| 25 | 23 | 4554 | 004SK | -1.45 | -1.15 | - | 0.23 | |
| 26 | 23 | 4454 | 005SK | -1.40 | -1.20 | - | 0.09 | 222 ～ 224 |
| 27 | 23 | 4454 | 008SP | -0.52 | -0.48 | - | 0.23 | 219 |
| 28 | 23 | 4654 | 013SK | -1.67 | -1.42 | - | 0.11 | 211 |
| 29 | 23 | 4654 | 014SK | -1.39 | -0.67 | - | 0.13 | 261 |
| 30 | 23 | 4654 | 015SK | -0.44 | -0.38 | | 0.11 | 262 |
| 31 | 23 | 4654 | 016SK | -1.02 | -0.39 | - | 0.09 | 263 |
| 32 | 23 | 4654 | 022SK | 0.64 | 0.58 | 1.10 | 0.11 | 213 |
| 33 | 23 | 4454 4554 | 024SK | -1.56 | -1.35 | - | 0.05 | 220 ～ 221 |
| 34 | 23 | 4654 | 031SK | 0.82 | 0.63 | 1.30 | 0.16 | 212 |
| 35 | 23 | 4554 | 037SK | -0.54 | -0.33 | - | 0.12 | 225 |
| 36 | 23 | 4654 | 043SK | 0.65 | 0.63 | 1.03 | 0.06 | 214 |
| 37 | 23 | 4554 | 323SK | -1.69 | -0.83 | - | 0.07 | 226 ～ 227 |

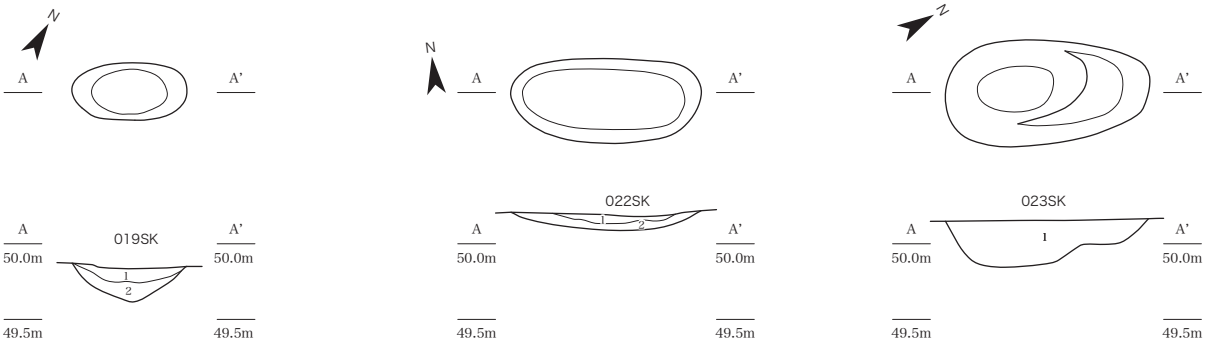



(015SK)
1. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
2. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
3. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(016SK)
1. 7.5YR6/6橙色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト
　(7.5YR6/6橙色粘土質シルト斑入)
3. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(017SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土
2. 5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト
3. 2.5YR4/6赤褐色粘土質シルト

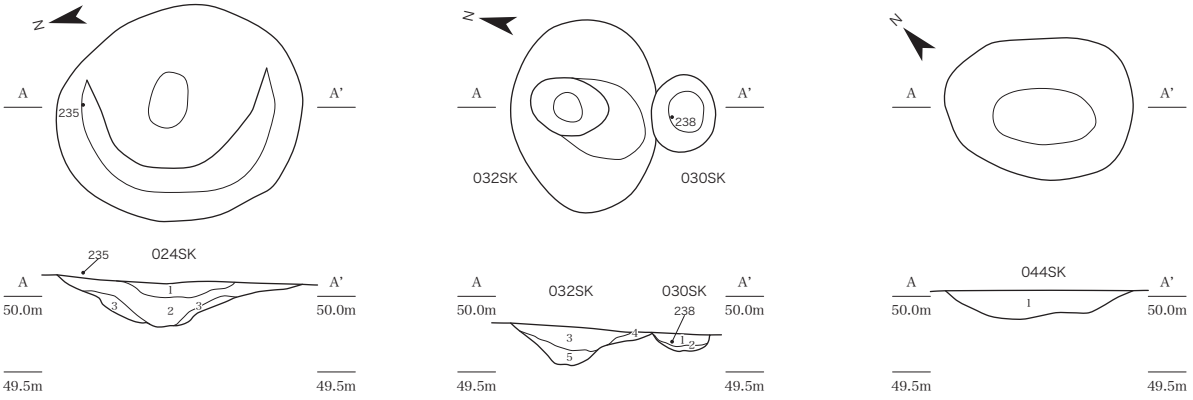
(018SK)
1. 7.5YR4/4褐色シルト質粘土




(019SK)
1. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト質粘土
2. 2.5YR4/6赤褐色粘土質シルト

(022SK)
1. 7.5YR4/3褐色粘土質シルト
2. 5YR4/6赤褐色粘土質シルト

(023SK)
1. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

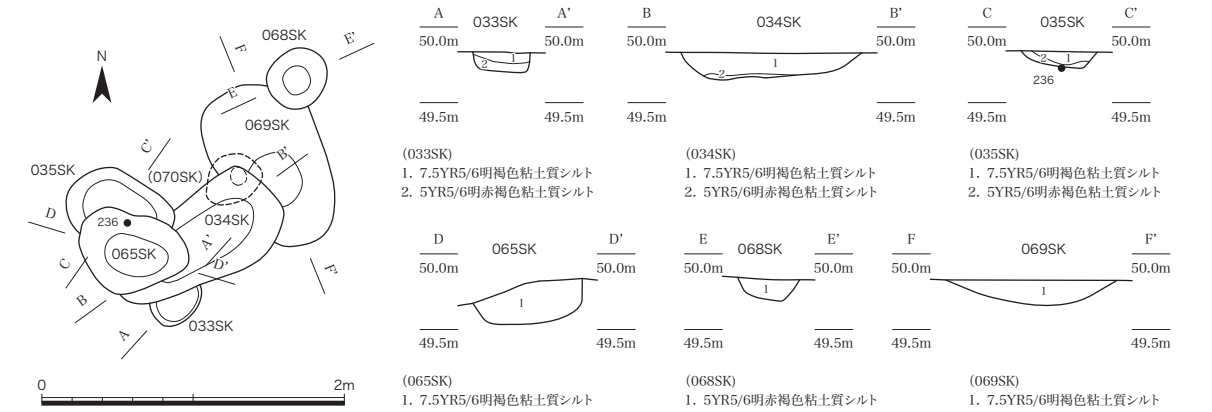



(024SK)
1. 7.5YR4/2灰褐色粘土質シルト
　(7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト斑入、焼土・炭化物混)
2. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
3. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(030SK)
1. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(032SK)
3. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
4. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土質シルト
　(5YR5/6明赤褐色粘土質シルト斑入)
5. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(044SK)
1. 7.5YR5/6赤褐色粘土質シルト




(033SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(034SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

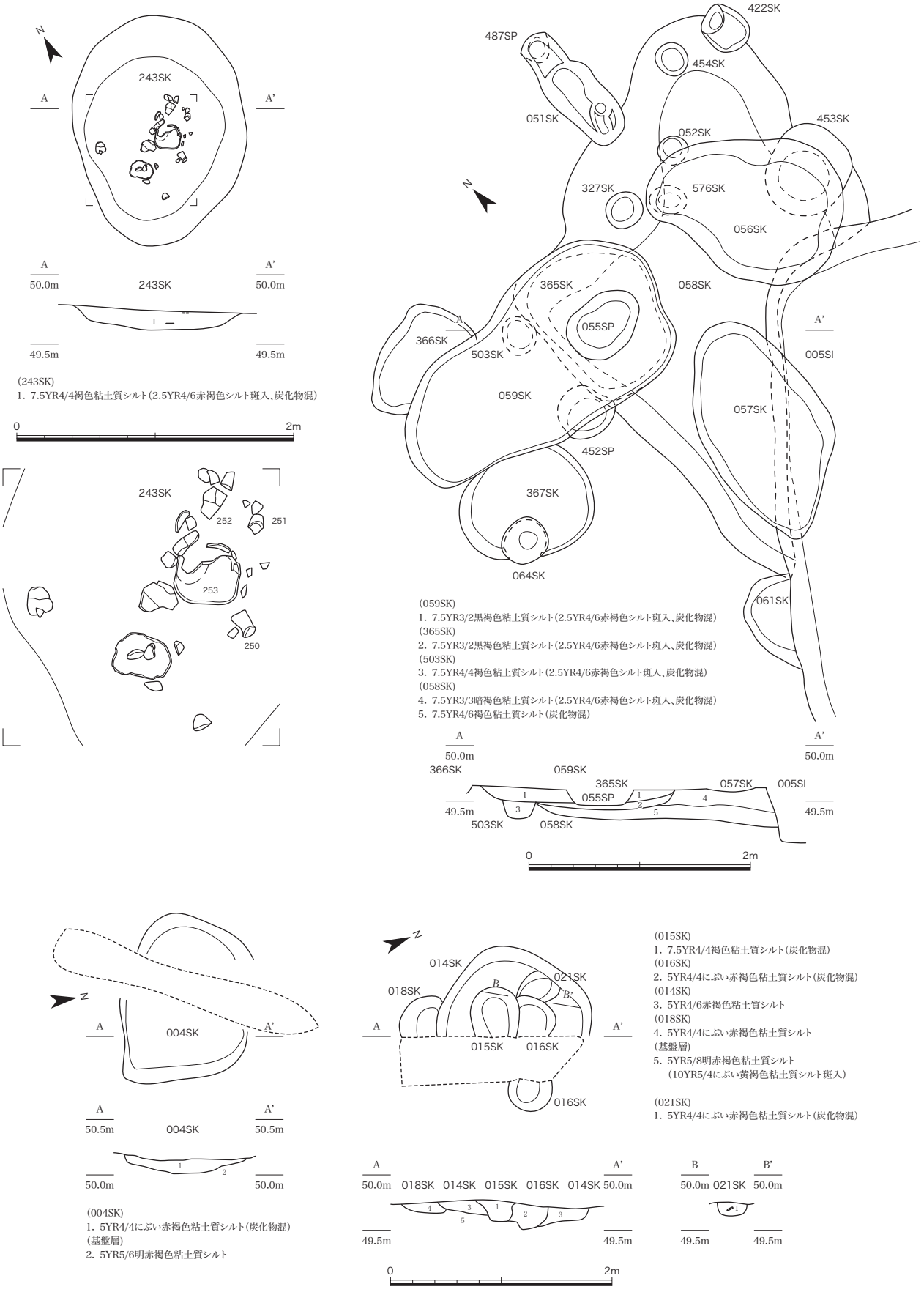
(035SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(065SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト

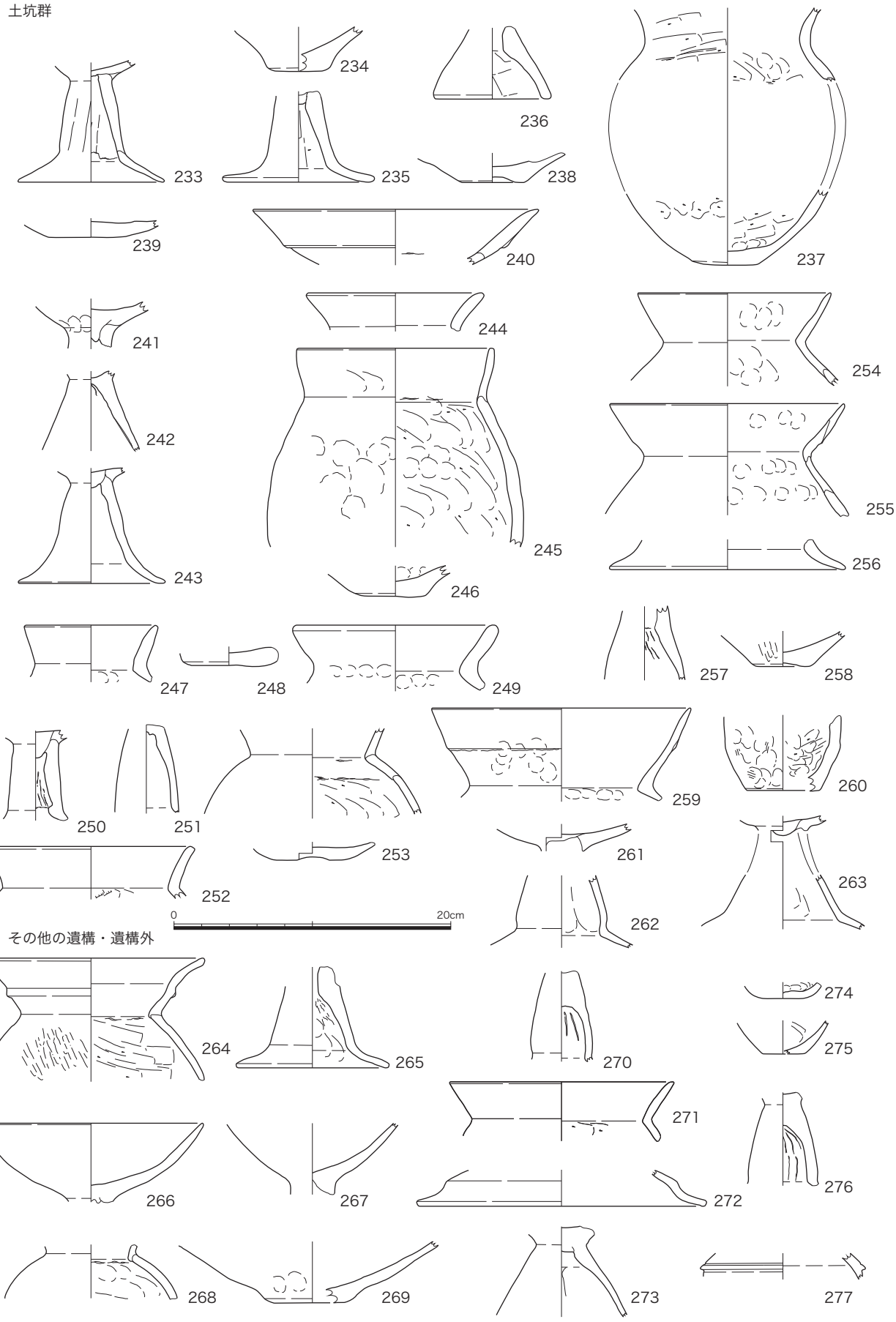
(068SK)
1. 5YR5/6明赤褐色粘土質シルト

(069SK)
1. 7.5YR5/6明褐色粘土質シルト

第235図　土坑遺構図１（1:50）




第236図　土坑遺構図２（1:40/1:50）




第237図　その他の遺構出土土器実測図（1:4）

## （7）石器・石製品

石鏃

石鏃は8点（1～8）出土し、凹基無茎式（3～7）・有茎式（1）・その他（2・8）に分類できる。凹基無茎式は基部の抉りが浅いもの（3･4）と基部の抉りが深いもの（5～7）に細分できる。1は、表面に押圧剥離が施され、裏面には素材剥離面を大きく残す。先端は丸みを帯びる。2は、1と同様に表面に押圧剥離が施され、裏面は素材剥離面を大きく残す。8は上部に連続した押圧剥離が認められるため、石鏃の未製品と考えられる。石材は溶結凝灰岩3点（1・2・6）、凝灰岩1点（8）、チャート1点（5）、安山岩（下呂石）2点（3・4）、サヌカイト1点（7）である。

楔形石器

楔形石器は1点(11)出土している。両極剥離技法によって作出され､上端は潰れている。石材は、節理の少ない良質な濃い青色チャートである。

加工痕ある剥片

加工痕ある剥片は1点(9)出土している。両側縁に加工が施され､上端部は潰れている。下端部は折損している。石材は溶結凝灰岩である。

剥片

剥片は17点出土し、1点（10）図化する。10は、表面にパーカッションマークがある原礫面が大きく残り、上端部は潰れている。左側面と下端部が折損している。石材は、溶結凝灰岩5点、泥質凝灰岩1点、砂質凝灰岩1点、凝灰岩3点、凝灰質砂岩1点、安山岩2点、安山岩B2点、安山岩D1点、安山岩（下呂石）1点（10）である。

石核

石核は1点(12)出土している。節理面が多いが､石質はガラス質な溶結凝灰岩である(第238図)。

石錘

石錘は2点（13・14）出土している。13は上下端部が敲打によって窪んでいる。14は上下端部にわずかな窪みを確認できる。石材は塩基性凝灰岩（13)、安山岩（14）である（第238図)。

打製石斧

打製石斧は9点出土し、5点（16～20）図化する。花の木遺跡と同様、緑色系で薄手・周縁加工のもの（16～19）と厚手・階段状の剥離面のもの（20）に分類できる。18は上部が被熱によって赤茶色に変色（トーン部分）する。石材は塩基性凝灰岩4点、泥質凝灰岩1点、安山岩1点（20)、黒色片岩1点（17)、緑色片岩2点（16・18）である。

磨製石斧

磨製石斧は39点出土し、6点（15・21～25）図化する。24は器面が剥落しているが、研磨された痕跡が残っている部分もあり、刃部は蛤刃となる。15・23・25は剥離・敲打整形段階の未製品である。摩耗している（トーン部分）が、その後敲打が施される。22は敲打痕が部分的なため、台石とも考えられる。石材は安山岩2点（22・25)、塩基性凝灰岩15点（21)､塩基性岩20点（24)､玄武岩1点（15)､変玄武岩1点（23）である（第238・239図)。

磨石

磨石は7点出土し、5点（27・31・34～36）図化する。多面体（27・31・34・36)、磨面と敲打痕があるもの（30）に分類できる。石材は砂質凝灰岩1点、安山岩1点、

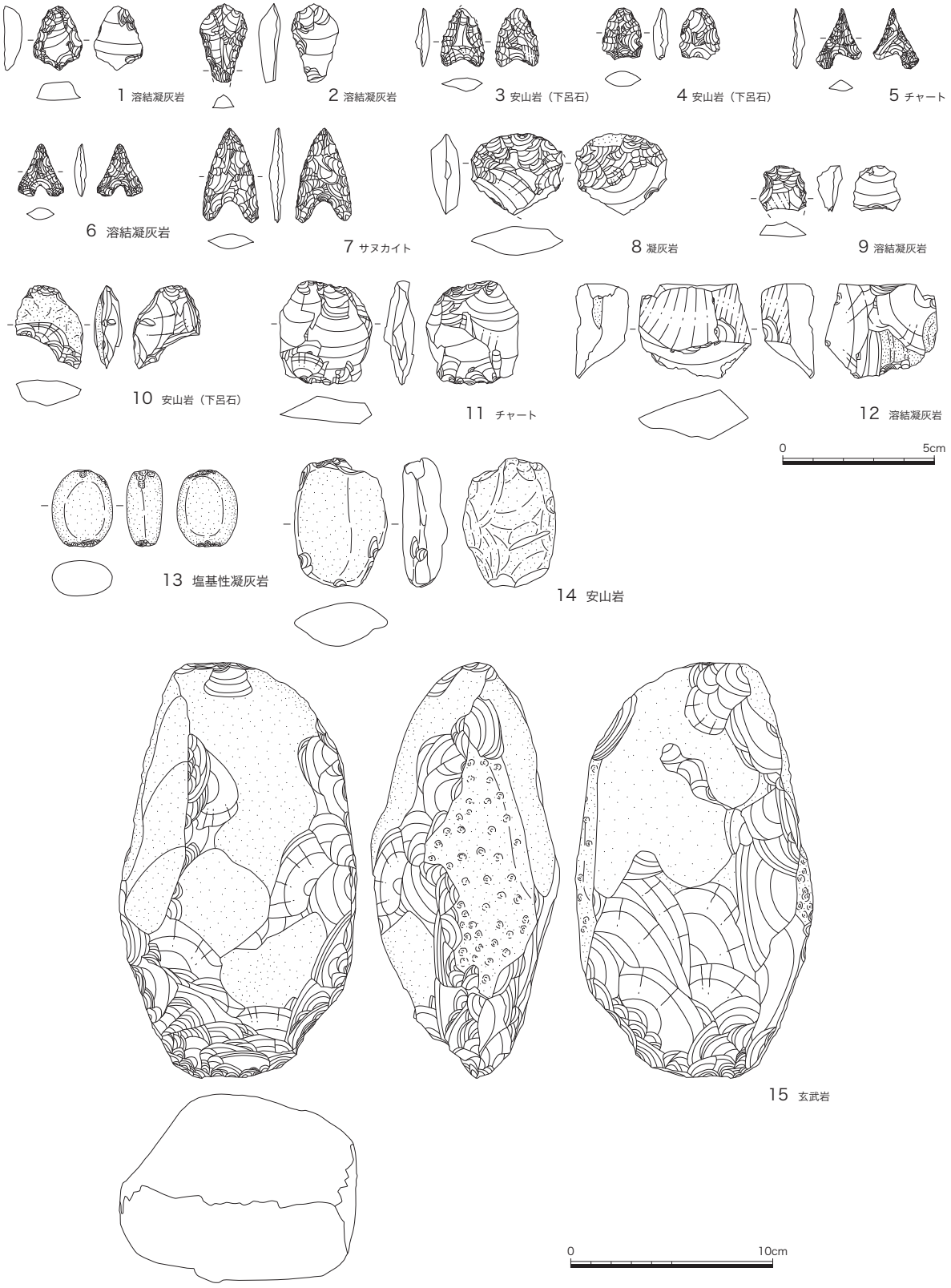
砥石

塩基性岩2点、花崗岩3点である。砥石は32点出土し、4点（26･30･32･33）図化する。手持ち砥石（26）と置き砥石（30・32・33）に分類でき、置き砥石には、敲打痕が確認できる。石材は、凝灰岩2点（32)、泥質凝灰岩1点、砂質凝灰岩3点（26)、凝灰質砂岩2点、安山岩1点、花崗岩8点（33)、アプライト1点、片麻岩11点（30）である（第

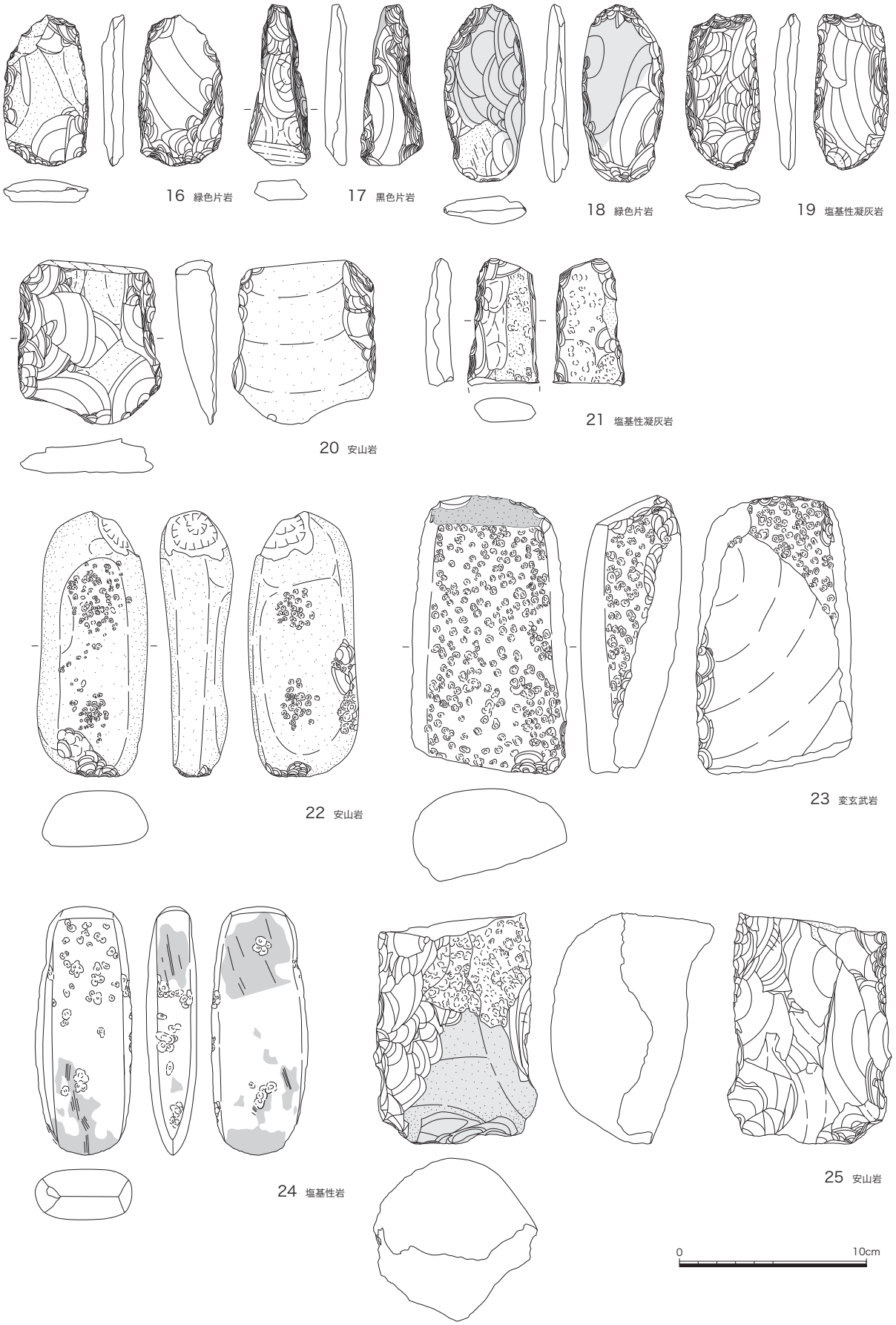
編物石

240図)。編物石は15点出土し、2点（28･29）図化し、7点（37～43）写真を撮る。

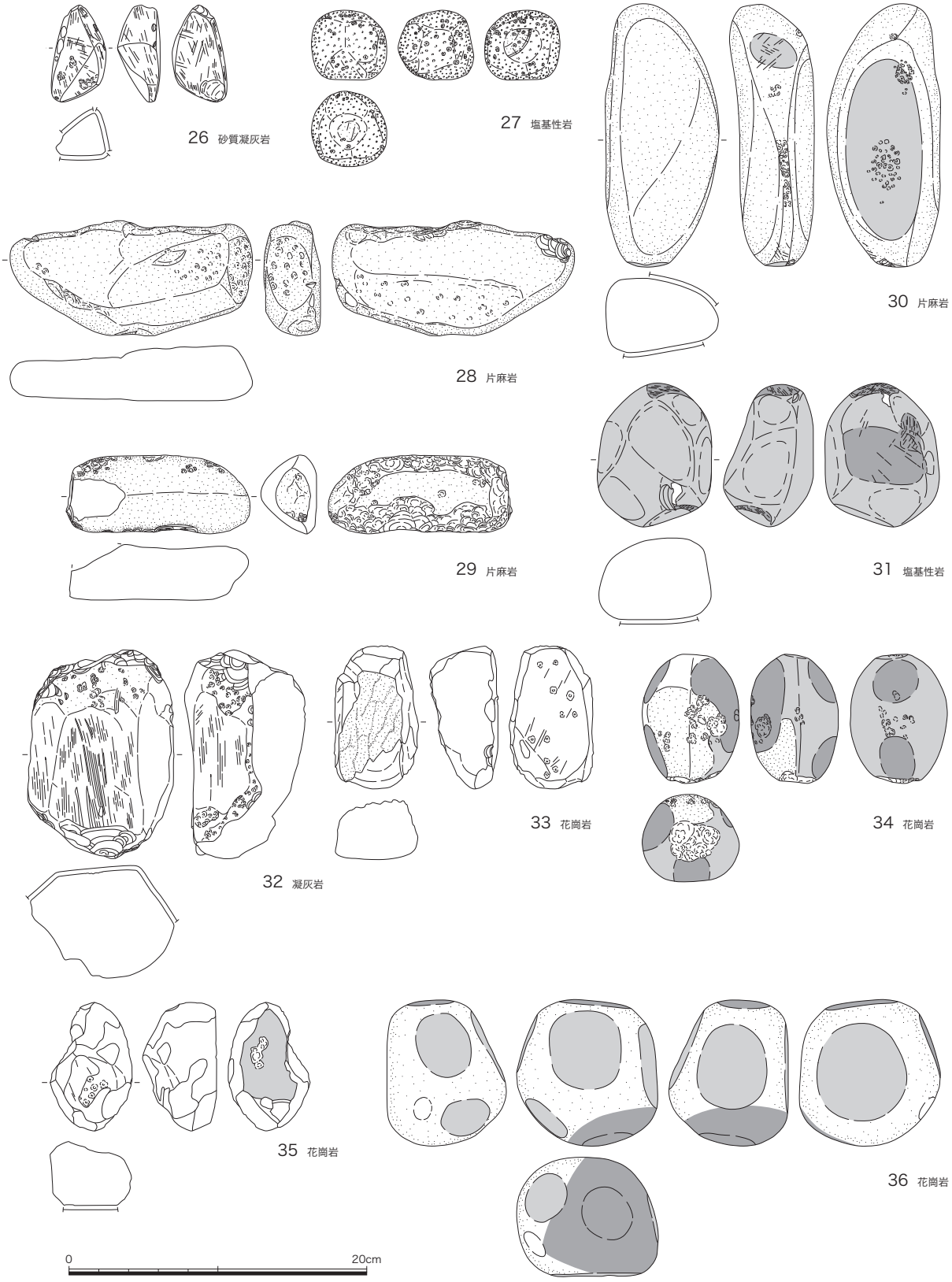
長楕円形の礫の短辺にわずかに敲打痕が認められる。石材は砂質凝灰岩３点（39・40）、安山岩１点、塩基性岩３点（37･38）、片麻岩８点（28･29･41 ～ 43）である（第 240 図）。




第238図　縄文・弥生時代の石器（1:2・1:3）




第239図　縄文・弥生時代の石器（1:3）




第240図　弥生・古墳時代の石製品（1:4）

# 第５章　自然科学分析

## （１）放射性炭素年代測定

### １）はじめに

分析の目的

花の木古墳群、花の木遺跡、花の木北遺跡の各遺跡について、遺跡の形成過程、遺構の構築、埋没過程の把握、遺構と遺物の年代観の横断的な理解を目的として、出土炭化材、土器付着炭化物の加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を実施した。測定機関は株式会社パレオ・ラボ（パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ・伊藤　茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・三谷智広・小林克也）である。測定結果と遺構、遺物との年代観との個別関係は各遺跡の報告（第２・３・４章）にも既述した通りである。

分析の結果と意義

年代測定の結果、花の木古墳群は２号墳の墳丘構築に伴う草木の焼き払い、江戸時代以降の古墳周辺における土地利用形態を明らかにした。花の木遺跡、花の木北遺跡では、弥生時代前期、弥生時代後期、古墳時代中期の遺構と土器に付随する年代の基礎資料を蓄積した。それらは、花の木北遺跡における弥生時代前期の遺構の存在形態の追認（第６章（５））、花の木遺跡における弥生時代中期から後期の土器編年（第６章（３））と集落の変遷（同（４））、花の木北遺跡における古墳時代中期の遺構変遷（同（６））の比較検証にも有用である。

### ２）試料と方法

花の木古墳群

花の木古墳群の試料は、２号墳の墳丘盛土下層から出土した炭化材１点（試料 No.1:PLD-42108）で、最終形成年輪の残る枝である。

花の木遺跡

炭化材

花の木遺跡の試料は、炭化材 10 点と土器付着炭化物４点の計 14 点である。炭化材は、土坑 020SK の試料 No.2（PLD-52475）、116SI の試料 No.3（PLD-52476）、157SI の試料 No.4（PLD-52478）、199SI の試料 No.5（PLD-52477）、203SI の試料 No.6（PLD-53718）、223SI の試料 No.7（PLD-53717）、220SI の試料 No.8（PLD-52480）、221SI の試料 No.9（PLD-53716）、226SI の試料 No.10（PLD-52479）、235SI の試料 No.11（PLD-53719）である。試料 No.2 は最終形成年輪が残っていたが、それ以外の９点はいずれも最終形成年輪が残っていなかった。

土器付着炭化物

土器付着炭化物は、112SI から出土した弥生土器甕（24）の体部外面付着炭化物（試料 No.12：PLD-52483）、115SI から出土した弥生土器甕（67）の体部外面付着炭化物（試料 No.13：PLD-52484）、196SI から出土した弥生土器甕（216）の体部外面付着炭化物（試料 No.14：PLD-52482）、236SI から出土した弥生土器甕（569）の体部外面付着炭化物（試料 No.15：PLD-52481）である。

花の木北遺跡

花の木北遺跡の試料は、049SK の炭化材（試料 No.16：PLD-53720）、486SK の炭化材（No.17：PLD-53721）、011SI の炭化材３点（No.18、19、20：PLD-51323、51324、53722）、021SI の炭化材２点（試料 No.21、22：PLD-51325、51326）、004SI の炭化材（No.23：PLD-53723）、010SI の炭化材１点（試料 No.24：PLD-51322）、020SD の炭化材（No.25：PLD-53724）の計 10 点である。いずれの試料も最終形成年

第 11 表　測定試料および処理（花の木古墳群・花の木遺跡）

| 測定番号 | 遺跡データ | 試料データ | 前処理 |
|---|---|---|---|
| PLD-42108 | 試料No.1<br>花の木古墳群<br>遺構：２号墳墳丘盛土下層 | 種類：炭化材（枝）<br>試料の性状：最終形成年輪<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52475 | 試料No.2<br>遺構：020SK | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52476 | 試料No.3<br>花の木遺跡<br>遺構：116SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52478 | 試料No.4<br>花の木遺跡<br>遺構：157SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52477 | 試料No.5<br>花の木遺跡<br>遺構：199SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53718 | 試料No.6<br>花の木遺跡<br>遺構：203SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53717 | 試料No.7<br>花の木遺跡<br>遺構：223SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52480 | 試料No.8<br>花の木遺跡<br>遺構：220SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53716 | 試料No.9<br>花の木遺跡<br>遺構：221SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52479 | 試料No.10<br>花の木遺跡<br>遺構：226SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53719 | 試料No.11<br>花の木遺跡<br>遺構：235SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52483 | 試料No.12<br>花の木遺跡<br>遺構：112SI | 種類：土器付着炭化物<br>器種：弥生土器甕（24）<br>部位：体部外面<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：0.1 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52484 | 試料No.13<br>花の木遺跡<br>遺構：115SI | 種類：土器付着炭化物<br>器種：弥生土器甕（67）<br>部位：体部外面<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：0.1 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52482 | 試料No.14<br>花の木遺跡<br>遺構：196SI | 種類：土器付着炭化物<br>器種：弥生土器甕（216）<br>部位：体部外面<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-52481 | 試料No.15<br>花の木遺跡<br>遺構：236SI | 種類：土器付着炭化物<br>器種：弥生土器甕（569）<br>状態：wet | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：0.1 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |

輪が残っていなかった。

測定試料の情報、調製データは第 11・12 表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた $^{14}C$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、$^{14}C$ 年代、暦年代を算出した。

$^{14}C$年代

第 12 表　測定試料および処理（花の木北遺跡）

| 測定番号 | 遺跡データ | 試料データ | 前処理 |
|---|---|---|---|
| PLD-53720 | 試料No.16<br>花の木北遺跡<br>遺構：049SK | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53721 | 試料No.17<br>花の木北遺跡<br>遺構：486SK | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-51323 | 試料No.18<br>花の木北遺跡<br>遺構：011SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-51324 | 試料No.19<br>花の木北遺跡<br>遺構：011SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53722 | 試料No.20<br>花の木北遺跡<br>遺構：011SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-51325 | 試料No.21<br>花の木北遺跡<br>遺構：021SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-51326 | 試料No.22<br>花の木北遺跡<br>遺構：021SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53723 | 試料No.23<br>花の木北遺跡<br>遺構：004SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-51322 | 試料No.24<br>花の木北遺跡<br>遺構：010SI | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |
| PLD-53724 | 試料No.25<br>花の木北遺跡<br>遺構：020SD | 種類：炭化材<br>試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>有機溶剤処理：アセトン<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L,<br>水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L） |

### 3）結果

年代範囲

第 13・14 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{14}C$ 年代、第 241 ～ 244 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}C$ 年代

暦年較正結果

$^{14}C$ 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。$^{14}C$ 年代（yrBP）の算出には、$^{14}C$ の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した $^{14}C$ 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}C$ 年代がその $^{14}C$ 年代誤差内に入る確率が 68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正結果

暦年較正とは、大気中の $^{14}C$ 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された $^{14}C$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}C$ 濃度の変動、および半減期の違い（$^{14}C$ の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}$C 年代の暦年較正には OxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された $^{14}$C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ暦年代範囲は 95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}$C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４）考察

以下、2σ暦年代範囲（確率 95.45%）に着目して、遺跡ごとに結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林（2017）、弥生時代の暦年代については藤尾（2013）、古墳時代の暦年代については赤塚（2009）を参照した。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。試料 No.1、2 は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。一方、試料 No.3 ～ 25 については最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもやや新しい年代であると考えられる。

2σ暦年代範囲

花の木古墳群

２号墳墳丘盛土下層より出土した炭化材（試料 No.1:PLD-42108）は、243-364 calAD(94.44%)および 370-375 cal AD(1.01%)で、３世紀中頃から４世紀後半の暦年代を示した。これは、古墳時代初頭から前期に相当する。今回測定した試料は、最終形成年輪が残っていたため、測定結果は伐採もしくは枯死した年代を示していると考えられる。

墳丘盛土下層

花の木遺跡

020SK の試料 No.2（PLD-52475）は、1665-1694 cal AD（17.98%）、1725-1784 cal AD（44.19%）、1795-1811 cal AD（9.91%）、1839-1843 cal AD（0.43%）、1864-1865 cal AD（0.11%）、1873-1877 cal AD（0.54%）、1917-1954 cal AD（22.30%）で、17 世紀後半～ 20 世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代前期から昭和時代に相当する。

020SK

116SI の試料 No.3（PLD-52476）は、31-39 cal AD（1.83%）および 61-205 cal AD (93.62%)で、紀元後 1 世紀前半から 3 世紀初頭の暦年代を示した。これは、弥生時代後期前半から終末期に相当する。157SI の試料 No.4（PLD-52478）は、46 cal BC-62 cal AD（95.45%）で、紀元前 1 世紀中頃から紀元後 1 世紀後半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期前半に相当する。199SI の試料 No.5（PLD-52477）は、22-19 cal BC（0.24%)および 8-128 cal AD（95.21%)で、紀元前 1 世紀後半から紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期後半に相当する。203SI の試料 No.6（PLD-53718）は、48 cal BC-62 cal AD（95.45%）で、紀元前 1 世紀中頃～紀元後 1 世紀後半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期前半に相当する。223SI の試料 No.7（PLD-53717）は、39-12 cal BC（14.38%）、2-83 cal AD（74.41%）、97-113 cal AD（6.66%）で、紀元前 1 世紀後半から紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期後半に相当する。220SI の試料 No.8（PLD-52480）は、46 cal BC-34 cal AD（82.52%）および 36-61 cal AD（12.93%）で、紀元前 1 世紀中頃から紀元後 1 世紀後半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期前半に相

116SI

157SI

199SI

203SI

223SI

220SI

第 13 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（花の木古墳群・花の木遺跡）

| 測定番号 | δ 13C (‰) | 暦年較正用年代 (yrBP±1σ) | 14C 年代 (yrBP±1σ) | 14C年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1σ暦年代範囲 | 2σ暦年代範囲 |
| PLD-42108<br>試料No.1<br>２号墳墳丘盛土下層 | -28.23±0.48 | 1749±19 | 1750±20 | 251-262 cal AD (12.82%)<br>276-294 cal AD (20.34%)<br>314-346 cal AD (35.12%) | 243-364 cal AD (94.44%)<br>370-375 cal AD ( 1.01%) |
| PLD-52475<br>試料No.2<br>020SK | -28.42±0.22 | 169±17 | 170±15 | Post-bomb NH2 curve (Hua et al 2021, Reimer et al 2020):<br>1671-1685 cal AD (12.21%)<br>1731-1767 cal AD (30.69%)<br>1771-1779 cal AD ( 6.36%)<br>1798-1805 cal AD ( 6.37%)<br>1927-1941 cal AD (11.81%)<br>1941-1942 cal AD ( 0.40%)<br>1947-1948 cal AD ( 0.42%) | Post-bomb NH2 curve (Hua et al 2021, Reimer et al 2020):<br>1665-1694 cal AD (17.98%)<br>1725-1784 cal AD (44.19%)<br>1795-1811 cal AD ( 9.91%)<br>1839-1843 cal AD ( 0.43%)<br>1864-1865 cal AD ( 0.11%)<br>1873-1877 cal AD ( 0.54%)<br>1917-1954 cal AD (22.30%) |
| PLD-52476<br>試料No.3<br>116SI | -25.56±0.25 | 1921±20 | 1920±20 | 67-129 cal AD (62.33%)<br>144-154 cal AD ( 4.81%)<br>195-198 cal AD ( 1.12%) | 31-39 cal AD ( 1.83%)<br>61-205 cal AD (93.62%) |
| PLD-52478<br>試料No.4<br>157SI | -29.17±0.25 | 2008±19 | 2010±20 | 41-10 cal BC (39.62%)<br>1-24 cal AD (28.65%) | 22-19 cal BC ( 0.24%)<br>8-128 cal AD (95.21%) |
| PLD-52477<br>試料No.5<br>199SI | -26.04±0.20 | 1948±21 | 1950±20 | 30-41 cal AD ( 9.46%)<br>60-87 cal AD (29.33%)<br>93-119 cal AD (29.48%) | 46 cal BC-62 cal AD (95.45%) |
| PLD-53718<br>試料No.6<br>203SI | -28.20±0.12 | 2012±21 | 2010±20 | 42-8 cal BC (41.42%)<br>2 cal BC-23 cal AD (26.85%) | 48 cal BC-62 cal AD (95.45%) |
| PLD-53717<br>試料No.7<br>223SI | -26.80±0.12 | 1981±19 | 1980±20 | 23-18 cal BC ( 3.25%)<br>8-69 cal AD (65.02%) | 39-12 cal BC (14.38%)<br>2-83 cal AD (74.41%)<br>97-113 cal AD ( 6.66%) |
| PLD-52480<br>試料No.8<br>220SI | -24.44±0.26 | 2009±19 | 2010±20 | 41-10 cal BC (40.29%)<br>0-23 cal AD (27.98%) | 46 cal BC-34 cal AD (82.52%)<br>36-61 cal AD (12.93%) |
| PLD-53716<br>試料No.9<br>221SI | -25.30±0.12 | 1963±19 | 1965±20 | 25-80 cal AD (58.71%)<br>99-108 cal AD ( 9.56%) | 23-18 cal BC ( 1.06%)<br>8-121 cal AD (94.39%) |
| PLD-52479<br>試料No.10<br>226SI | -25.85±0.23 | 1985±19 | 1985±20 | 25-17 cal BC ( 6.22%)<br>7-65 cal AD (62.05%) | 40-10 cal BC (18.41%)<br>1-82 cal AD (72.48%)<br>97-111 cal AD ( 4.56%) |
| PLD-53719<br>試料No.11<br>235SI | -23.74±0.12 | 2513±20 | 2515±20 | 771-750 cal BC (16.40%)<br>685-666 cal BC (14.32%)<br>636-589 cal BC (32.89%)<br>579-571 cal BC ( 4.65%) | 776-737 cal BC (21.31%)<br>694-663 cal BC (18.23%)<br>648-546 cal BC (55.90%) |
| PLD-52483<br>試料No.12<br>112SI（24） | -27.44±0.22 | 2002±20 | 2000±20 | 39-11 cal BC (32.06%)<br>2-26 cal AD (28.24%)<br>47-56 cal AD ( 7.97%) | 46 cal BC-69 cal AD (95.45%) |
| PLD-52484<br>試料No.13<br>115SI（67） | -26.54±0.22 | 1941±20 | 1940±20 | 64-121 cal AD (68.27%) | 18-129 cal AD (93.53%)<br>143-155 cal AD ( 1.24%)<br>193-200 cal AD ( 0.68%) |
| PLD-52482<br>試料No.14<br>196SI（216） | -26.97±0.23 | 1940±19 | 1940±20 | 65-121 cal AD (68.27%) | 19-129 cal AD (93.94%)<br>144-154 cal AD ( 1.02%)<br>194-199 cal AD ( 0.48%) |
| PLD-52481<br>試料No.15<br>236SI（569） | -27.17±0.29 | 1955±20 | 1955±20 | 28-45 cal AD (17.88%)<br>58-84 cal AD (29.43%)<br>96-115 cal AD (20.96%) | 10-124 cal AD (95.45%) |

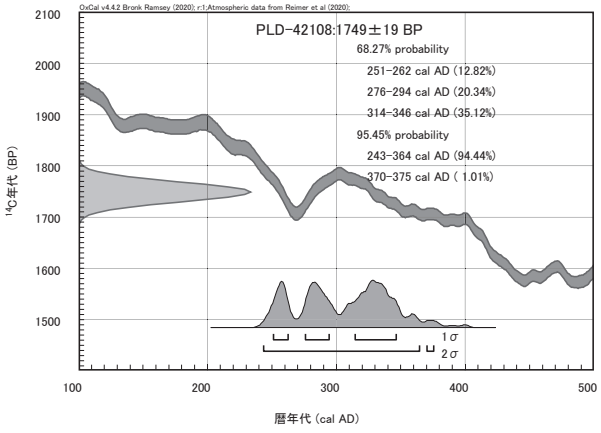
221SI　当する。221SI の試料 No.9（PLD-53716）は、23-18 cal BC（1.06%）および 8-121 cal AD（94.39%）で、紀元前 1 世紀後半から紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、

226SI　弥生時代中期後葉から後期後半に相当する。226SI の試料 No.10（PLD-52479）は、40-10 cal BC（18.41%）、1-82 cal AD（72.48%）、97-111 cal AD（4.56%）で、紀元前 1 世紀中頃から紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代中期後葉から後期後半に

235SI　相当する。235SI の試料 No.11（PLD-53719）は、776-737 cal BC（21.31%）、694-663 cal BC（18.23%）、648-546 cal BC（55.90%）で、紀元前 8 世紀前半から紀元前 6 世紀中

第 14 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（花の木北遺跡）

| 測定番号 | δ 13C (‰) | 暦年較正用年代 (yrBP±1σ) | 14C 年代 (yrBP±1σ) | 14C年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1σ暦年代範囲 | 2σ暦年代範囲 |
| PLD-53720<br>試料No.16<br>049SK | -25.68±0.13 | 2472±22 | 2470±20 | 751-716 cal BC (17.25%)<br>710-683 cal BC (13.23%)<br>667-661 cal BC ( 3.08%)<br>655-634 cal BC ( 9.65%)<br>622-613 cal BC ( 3.38%)<br>591-542 cal BC (21.68%) | 765-509 cal BC (92.01%)<br>507-480 cal BC ( 3.44%) |
| PLD-53721<br>試料No.17<br>486SK | -26.74±0.12 | 2432±20 | 2430±20 | 717-710 cal BC ( 3.94%)<br>661-654 cal BC ( 3.67%)<br>542-459 cal BC (48.56%)<br>440-418 cal BC (12.10%) | 742-692 cal BC (15.10%)<br>664-647 cal BC ( 6.73%)<br>548-409 cal BC (73.62%) |
| PLD-51323<br>試料No.18<br>011SI | -23.65±0.18 | 2168±18 | 2170±20 | 345-317 cal BC (34.02%)<br>203-174 cal BC (34.24%) | 353-283 cal BC (48.59%)<br>230-152 cal BC (46.86%) |
| PLD-51324<br>試料No.19<br>011SI | -28.01±0.13 | 2104±18 | 2105±20 | 154-96 cal BC (53.60%)<br>72-56 cal BC (14.67%) | 171-51 cal BC (95.45%) |
| PLD-53722<br>試料No.20<br>011SI | -24.59±0.15 | 2137±19 | 2135±20 | 337-328 cal BC ( 6.42%)<br>198-149 cal BC (46.11%)<br>135-113 cal BC (15.74%) | 344-319 cal BC (12.66%)<br>202-96 cal BC (78.05%)<br>72-57 cal BC ( 4.75%) |
| PLD-51325<br>試料No.21<br>021SI | -26.85±0.13 | 2101±18 | 2100±20 | 152-95 cal BC (51.46%)<br>74-55 cal BC (16.81%) | 169-51 cal BC (95.45%) |
| PLD-51326<br>試料No.22<br>021SI | -27.22±0.12 | 2076±18 | 2075±20 | 145-142 cal BC ( 1.98%)<br>106-45 cal BC (66.29%) | 158-41 cal BC (92.72%)<br>9-1 cal BC ( 2.73%) |
| PLD-53723<br>試料No.23<br>004SI | -26.35±0.14 | 2959±20 | 2960±20 | 1216-1187 cal BC (25.60%)<br>1180-1155 cal BC (22.13%)<br>1147-1126 cal BC (20.53%) | 1260-1111 cal BC (93.76%)<br>1091-1084 cal BC ( 0.84%)<br>1064-1057 cal BC ( 0.85%) |
| PLD-51322<br>試料No.24<br>010SI | -27.55±0.13 | 1706±17 | 1705±15 | 264-274 cal AD (10.63%)<br>349-402 cal AD (57.63%) | 259-280 cal AD (19.03%)<br>333-408 cal AD (76.42%) |
| PLD-53724<br>試料No.25<br>020SD | -24.93±0.14 | 1778±19 | 1780±20 | 243-254 cal AD (14.99%)<br>288-324 cal AD (53.28%) | 234-260 cal AD (25.97%)<br>277-338 cal AD (69.48%) |




第241図　暦年較正結果１（花の木古墳群）

頃の暦年代を示した。これは、弥生時代前期に相当する。

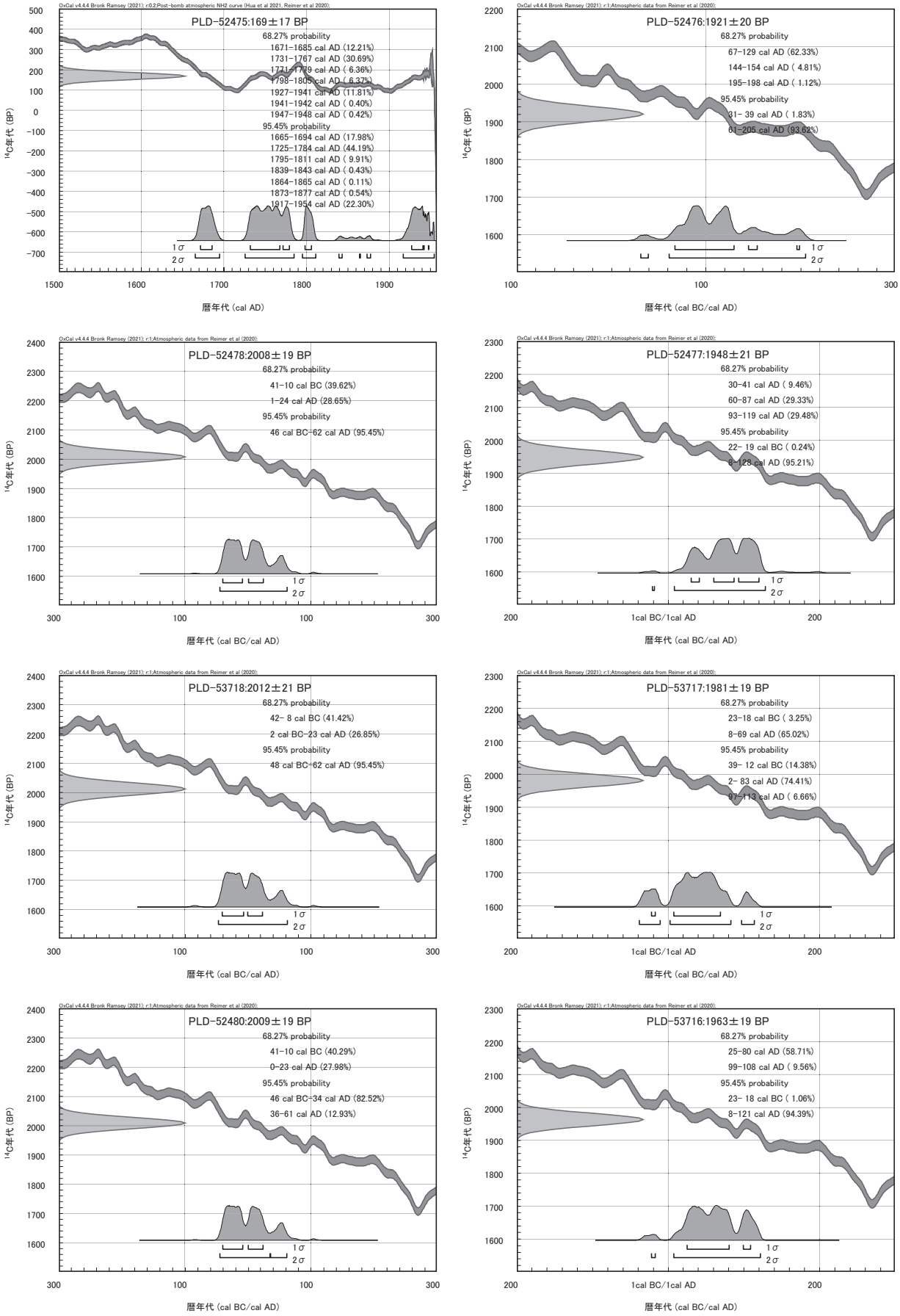
112SI の弥生土器甕（24）の体部外面付着炭化物（試料 No.12：PLD-52483）　は、46 cal BC–69 cal AD (95.45%) で、紀元前１世紀中頃から紀元後１世紀後半の暦年代を示した。115SI の弥生土器甕（67）の体部外面付着炭化物（試料 No.13：PLD-52484）　は、18–129 cal AD (93.53%)、143–155 cal AD (1.24%)、193–200 cal AD (0.68%) で、紀元後１世紀前半から２世紀末の暦年代を示した。196SI の弥生土器甕（216）の体部外面付着炭化物（試料 No.14：PLD-52482）は、19–129 cal AD (93.94%)、144–154 cal AD (1.02%)、194–199 cal AD (0.48%) で、紀元後１世紀前半から２世紀末の暦年代を示した。236SI の弥生土器甕（569）の体部外面付着炭化物（試料 No.15：PLD-52481）は、10–124 cal AD (95.45%) で、紀元後１世紀初頭から２世紀前半の暦年代を示した。

112SI弥生土器

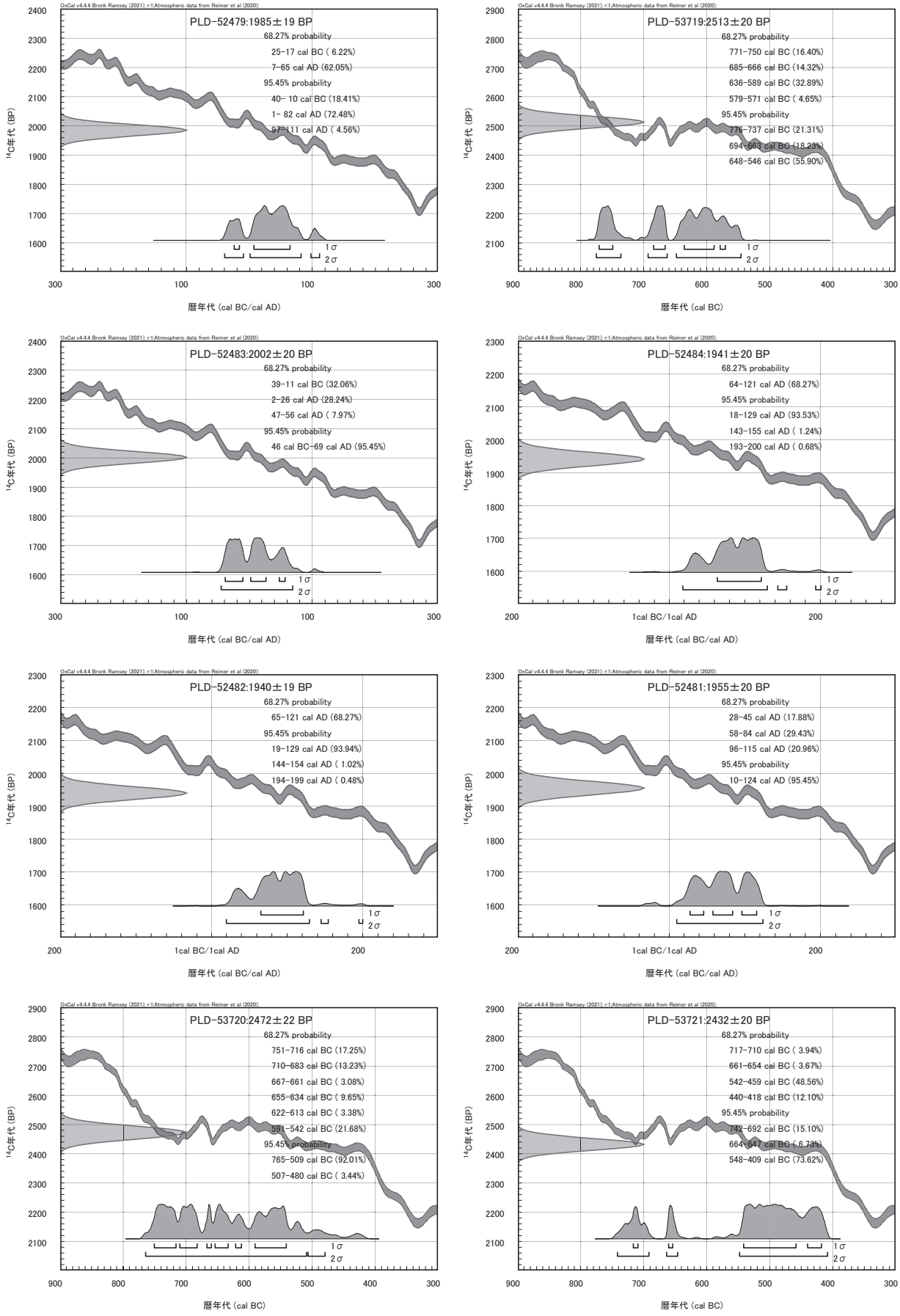
115SI弥生土器

196SI弥生土器

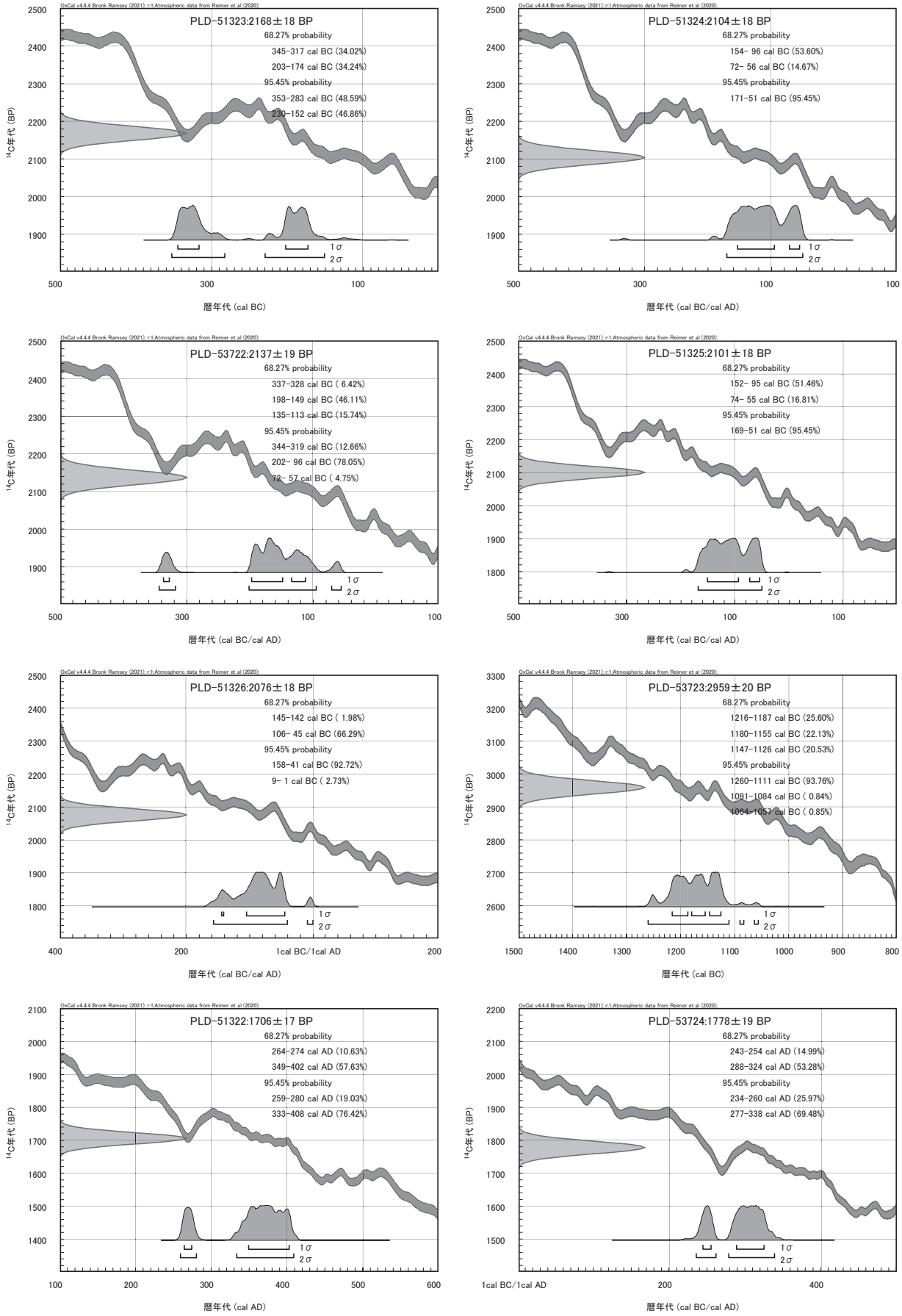
236SI弥生土器




第242図　暦年較正結果２（花の木遺跡）




第243図　暦年較正結果３（花の木遺跡・花の木北遺跡）




第244図　暦年較正結果４（花の木北遺跡）

花の木北遺跡

049SK の試料 No.16（PLD-53720）は、765-509 cal BC（92.01%）および 507-480 cal BC（3.44%）で、紀元前８世紀前半から紀元前５世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代前期に相当する。486SK の試料 No.17（PLD-53721）は、742-692 cal BC（15.10%）、664-647 cal BC（6.73%）、548-409 cal BC（73.62%）で、紀元前８世紀中頃から紀元前５世紀末の暦年代を示した。これは、弥生時代前期に相当する。

049SK

486SK

011SI の試料 No.18（PLD-51323）は、353-283 cal BC（48.59%）および 230-152 cal BC（46.86%）で、紀元前４世紀中頃から紀元前２世紀中頃の暦年代を示した。試料 No.19（PLD-51324）は、171-51 cal BC（95.45%）で、紀元前２世紀前半から紀元前１世紀中頃の暦年代を示した。２点とも、弥生時代中期に相当する。No.20（PLD-53722）は、344-319 cal BC（12.66%）、202-96 cal BC（78.05%）、72-57 cal BC（4.75%）で、紀元前４世紀中頃～紀元前１世紀中頃の暦年代を示した。これは、弥生時代中期前葉から後葉に相当する。021SI の試料 No.21（PLD-51325）は、169-51 cal BC（95.45%）で、紀元前２世紀前半から紀元前１世紀中頃の暦年代を示した。試料 No.22（PLD-51326）は、158-41 cal BC（92.72%）および 9-1 cal BC（2.73%）で、紀元前２世紀中頃から紀元前１世紀末の暦年代を示した。２点とも、弥生時代中期に相当する。

011SI

021SI

004SI の試料 No.23（PLD-53723）は、1260-1111 cal BC（93.76%）、1091-1084 cal BC（0.84%）、1064-1057 cal BC（0.85%）で、紀元前 13 世紀前半から紀元前 11 世紀中頃の暦年代を示した。これは、縄文時代晩期前葉に相当する。010SI の試料 No.24（PLD-51322）は、259-280 cal AD（19.03%）および 333-408 cal AD（76.42%）で、３世紀中頃から５世紀初頭の暦年代を示した。これは、古墳時代前期から中期に相当する。020SD の試料 No.25（PLD-53724）は、234-260 cal AD（25.97%）および 277-338 cal AD（69.48%）で、紀元後３世紀前半から４世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期末から古墳時代前期に相当する。

004SI

010SI

020SD

［引用・参考文献］

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代．日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集」：14-20，日本文化財科学会．

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎（2013）弥生時代文化像の新構築．275p，吉川弘文館．

Hua, Q., Turnbull, J., Santos, G., Rakowski, A., Ancapichún, S., De Pol-Holz, Hammer, S., Lehman, S., Levin, I., Miller, J., Palmer, J., Turney, C. (2021) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2019. Radiocarbon, 64(4), 723-745. doi:10.1017/RDC.2021.95. https://doi.org/10.1017/RDC.2021.95 (cited 23 November 2021)

小林謙一（2017）縄紋時代の実年代．263p，同成社．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の$^{14}$C年代編集委員会編「日本先史時代の$^{14}$C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

# 第６章　総括

## （１）花の木古墳群の調査成果

### １）はじめに

古墳群の調査成果　花の木古墳群の今回の発掘調査の成果として、以下の点が列記される。

墳形と規模　・花の木古墳群を構成する２・３・５・６・７号墳について、墳形と規模が確定した。

墳丘構築過程　・２号墳と３号墳の墳丘構築過程について、埋葬施設の構築過程と併せて詳細が判明した。

墳丘斜面の剣　・２号墳の墳丘斜面（周溝内）には、(埋葬儀礼の過程で）剣が置かれたことを確認した。

棺床粘土　・昭和 43 年の緊急調査で発掘調査された２号墳の埋葬施設について、東棺・中央棺に

集水土坑　棺床粘土、西棺に集水土坑が敷設されていることを新たに確認した。

拡張、再利用　・７号墳は墳丘を拡張、再利用し、新たに埋葬施設も構築していることが判明した。

墳丘斜面の玉類　・７号墳の墳丘斜面からは、(埋葬儀礼の過程で使用された）滑石製を主体とする 200 点の玉類が出土した。

埋葬施設の構造　・３号墳、５号墳、６号墳、７号墳古・新の埋葬施設について、いずれも（竪穴系埋葬施設の）木棺直葬であることが判明した。

３号墳の副葬品　・３号墳の埋葬施設（西棺）について、副葬品（の一部）の内容が判明した。

７号墳新の副葬品　・７号墳新の埋葬施設（北・南棺）について、副葬品の配置、内容が判明した。

葬地の構成　・花の木古墳群は方墳群に加えて、その周囲に配置された（石敷）土壙墓群、土器棺墓群により葬地が構成されることが明らかになった。

花の木古墳群の今回の発掘調査の総括として、多岐に及ぶ上記の内容を以下のように、より詳細に検討する。

古墳群の構成　２）花の木古墳群の構成について、豊川流域の前・中期の小型墳としての位置を確認する。

小金古墳との比較　３）２号墳の墳丘構築過程について、同じく発掘調査によって墳丘構築過程が判明した至近の小金古墳と比較する。

２号墳の埋葬施設　４）２号墳の埋葬施設に敷設された棺床粘土と集水土坑について、それらの系譜を確認する。

拡張、再利用　５）７号墳で判明した古墳を拡張、再利用した特異な状況について、特に岐阜県各務原市熊田山北Ａ地区１号墳との比較を踏まえ、その特質を

熊田山北古墳群　明らかにする。

墳丘出土の玉類　６）７号墳の墳丘出土の玉類について、関連する調査事例を参照しつつ、

副葬品の配置　その系譜と変遷の一端を明らかにする。

玉類の時期　７）７号墳新の埋葬施設の空間利用と副葬品配置の特徴的な諸点の位置を確認する。

鉄製品の時期　８）花の木古墳群の玉類について、編年上の位置を確認する。

蛇行剣　９）７号墳新に副葬された鉄製品でも特に鉄鏃と鎌について、類例の比較検討を通じてそれらの系譜や時期を示す。

10）７号墳新北棺に副葬された蛇行剣について、その集成と分布を踏まえ、特に三重県伊勢市落合３号墳、奈良県宇陀市北原古墳との存在形態の類似を指摘する。

葬地の構成　11）花の木古墳群の葬地の構成について、土器棺墓を中心とした

土器棺墓　比較検討を踏まえ、その系譜と変遷を確認する。

古墳群の形成過程　なお、花の木古墳群の形成過程については、上記で確認した鉄製品、玉類、土器の編年上の位置、本章（５）の花の木北遺跡の古墳時代中期の土器と集落についての検討を踏まえ、本章（６）で「花の木古墳群、花の木北遺跡と地域社会」として改めて総括する。

## ２）花の木古墳群の構成―豊川流域の前・中期の小型墳としての位置

### 豊川左岸の前・中期の小型墳との比較

左岸の中・小型墳

豊川左岸における前・中期の小型墳については、岩原剛がその様相を適格に整理している（岩原 2011）。実例として示された豊橋市浪ノ上１号墳、同稲荷山古墳群、同西側北古墳群、同眼鏡下池北遺跡の古墳群、同洗島１号墳、同高井古墳群、同森岡古墳群は、中期後半の高井（日南坂）１号墳が円墳で、それ以外はいずれも方墳である。埋葬施設は高井（日南坂）１号墳が礫を用いたやや特異な埋葬施設である以外はいずれも木棺直葬であると思われる。これらは群集して築造され、規模は 10m から 20m 程度で周溝を有するが、段築、葺石、埴輪はない。西側北１・２号墳、洗島１号墳は武器と農工具、先述の高井（日南坂）１号墳は農工具と玉類を副葬する。

墳形

埋葬施設

周溝と外表施設

副葬品

岩原が整理したように、群集する点、墳形や規模、外表施設（葺石、埴輪、段築）の欠如、埋葬施設の構造、武器と農工具の副葬等、豊川左岸の前期から中期前半の小型墳と花の木古墳群には一致する点が多く認められ、両者は同様の背景によって築造されたことが推察される。加えて、花の木古墳群には同時期の集落として花の木北遺跡が近接するように、西側北古墳群にも同時期の集落として西側遺跡（本章（５）を参照）が近接することも示唆的である。同時に、前期前半の円墳（円形周溝墓）である境松遺跡 SZ-2 を例外として、前期前半まで墳形ほぼ方形（方墳）で、円墳の顕在化は基本的に中期後半以降であることも明確である。

花の木古墳群

古墳群と集落

円墳の顕在化

特に花の木７号墳新北棺に副葬された蛇行剣（6）との関連において、洗島１号墳における「「柄先金具」を伴うヤリ」（岩原 2011）または「鎗身鉾」（大谷 2004）の出土も注目される。「鎗身鉾」の詳細を検討した大谷宏治は、石川県加賀市二子塚狐山（狐塚）古墳、佐賀県三養基郡上峰町船石２号墳に副葬された「鎗身鉾」の身が蛇行する点、大阪府豊中市桜塚古墳群中の御獅子塚古墳に「鎗身鉾」、豊中大塚古墳に蛇行剣が副葬される点、奈良県宇陀市後出３号墳第２主体にその両者が副葬される特徴的な武器である点等を踏まえ、両者には同様の性格が反映されていたことを指摘する（大谷 2004）。特殊な武器の副葬の観点からしても、豊川両岸における小型墳の様相、性格の類似が確かめられる。

「柄先金具」

「鎗身鉾」

蛇行剣との関連

### 豊川右岸の前・中期の小型墳との比較

右岸の中・小型墳

国分寺北遺跡

他方、花の木古墳群を含む豊川右岸については、豊川市国分寺北遺跡において、弥生時代終末期から古墳時代前期後半の一辺 10m 程度の方形墳墓群（方形周溝墓群）が検出されている。周溝からは高杯、壷、甕等の供献土器が出土することも多く、供献土器がごく少ない花の木古墳群とは様相が異なる。この様相の差異からすると、前期後半以降、方形周溝墓と密接に関係していた土器の供献が低調化した可能性、国分寺北遺跡の方形墳墓群から花の木古墳群への質的な変化も想定される。部分的な発掘調査で詳細は明らかではないが、前方後円墳（帆立貝式古墳）や円墳ともされる花の木古墳群至近の年長古墳群（第４図左上）についても、古墳に伴うような土器はほとんど出土していないことから、花の木古墳群と同様の古墳時代前・中期の小型墳（方墳）から構成される古墳群であった可能性が高いと思われる。豊川右岸と比較して十分に古墳時代前・中期の小型墳の様相が判明していなかった豊川左岸において、花の木古墳群の詳細が明らかになった意義は大きい。

年長古墳群

### 3）花の木２号墳の墳丘構築過程―小金古墳との比較

花の木２号墳

花の木２号墳については、墳丘土層断面を主軸方向とそれに直交する方向（東西・南北方向）、既設のトレンチとそれに直交する方向の計４方向で観察、記録した。それにより判明した墳丘構築過程は第２章（４）に報告した通りである（第 27 図）。

小金古墳

花の木古墳群が立地する西原台地に対向する日吉原台地上には豊川市小金古墳が立地する（第２図）。古墳は径約 35.3m の円墳で、葺石を備える（第 245 図左上）。墳丘中心付近等、損壊が著しい部分もあるが、それ以外は葺石を含めた墳丘が良好に遺存し、全面的な発掘調査、墳丘土層断面の詳細な観察により、以下に示すような墳丘の構築過程が判明している（第 245 図下）。

墳丘構築過程

《第１工程》旧地表の整地、焼き払い
《第２工程》墳丘基底部に土手状盛土を形成
《第３工程》土手状盛土に重ねて盛土し、平坦面を形成（下段墳丘の完成）
《第４工程》平坦に整えた下段墳丘上の中心に小丘を形成し、小工程を重ねて順次拡大
《第５工程》前工程で形成した小丘をさらに拡張
《第６工程》小丘をさらに水平方向に拡張し、墳頂部を除く上段墳丘の基礎が完成
《第７工程》 葺石施工に備え、墳丘斜面を被覆整形し、墳丘構築が完了
《第８工程》葺石を施工し、２段築成の円墳が完成

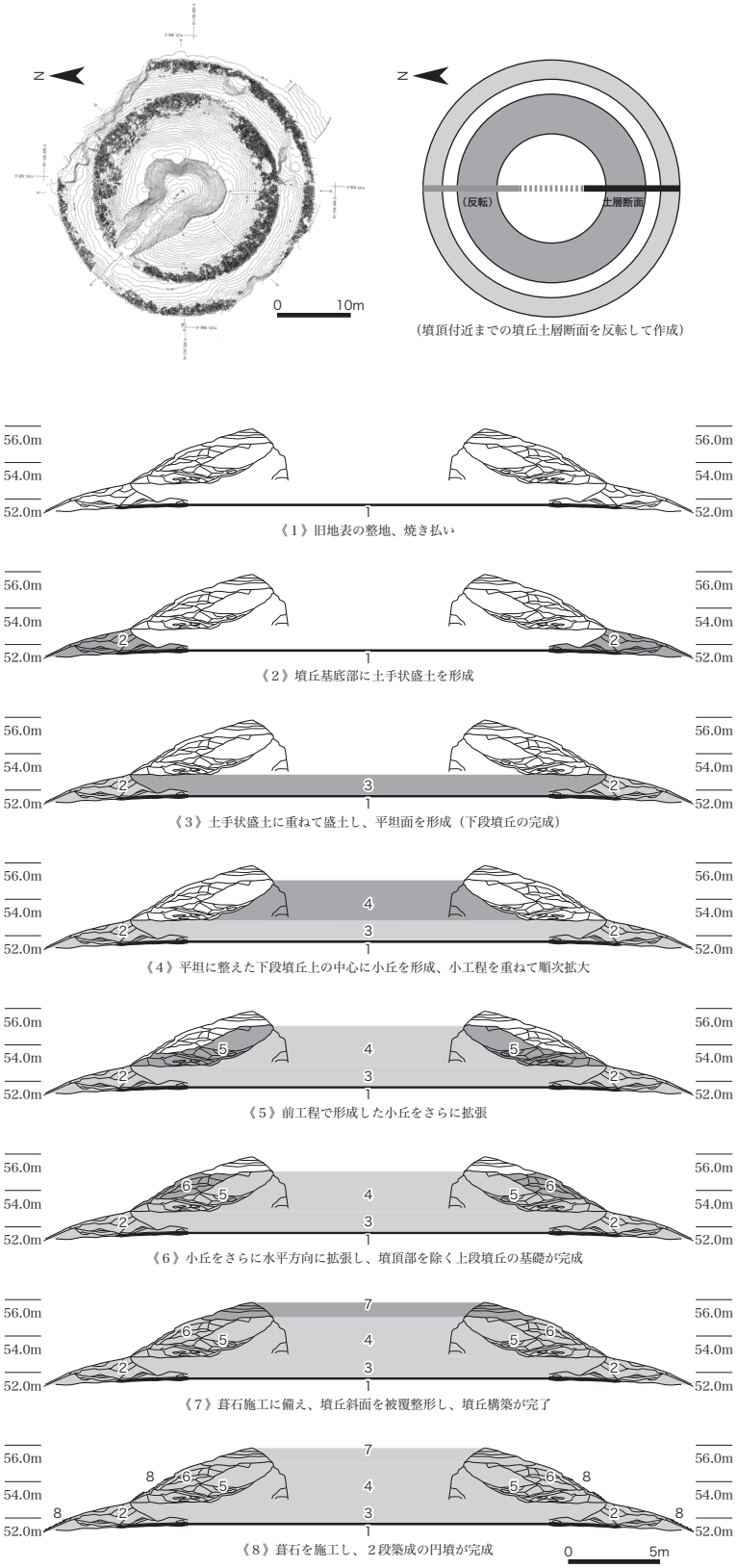
両者の比較

小金古墳には周溝、花の木２号墳には葺石がなく、小金古墳は墳丘中心付近が大きく損壊しているので、周溝の掘削、葺石の施工、埋葬施設の構築を含めた比較はできないが、花の木２号墳の墳丘構築過程（第 27 図）で示した「草木の焼き払い・旧表土上面の整地」は小金古墳の墳丘構築過程の「第１工程」（以下同）に、「周囲に低平な土堤状盛土」は「第２工程」に、「土堤状盛土間を充填・水平面の構築」は「第３工程」に、「中央付近から小丘を構築・墓壙の構築」は「第４工程」と「第５工程」に、墳丘の流出等により明確ではないが「（構築）墓壙内を充填・墳丘の完成」は「第６工程」と「第７工程」にそれぞれ明確に対応する。前半の工程に土手状盛土、後半の工程に小丘状盛土を施工するように、工程に応じて異なった工法を併用し、前半と後半の工程を明確に分かつ水平面（の構築）が小金古墳は段築、花の木２号墳は墓壙底面に対応する点を含め、両者の墳丘構築過程が相関することは明らかである。

小金古墳は埋葬施設や副葬品が完全に失われ、土器や埴輪も出土していないので、築造時期を明確に示すことが難しい。本章（６）においても触れるように、小金古墳が花の木古墳群（２号墳）に若干後出するとすれば、花の木古墳群において採用された工法が小金古墳が築造される過程において（規模の拡大に対応して）、より進化したことが推察される。

「西日本的工法」
「東日本的工法」

墳丘構築を体系的に整理した青木敬の研究によれば、土手状盛土は「西日本的工法」、小丘状盛土は「東日本的工法」に分類される（青木 2003）。墳丘構築の工法は青木が明らかにしたような地域性に加え、実際には構築から埋葬までに伴う儀礼、地形や土壌環境を含めた諸条件により、可変的であったことが説かれることも多い。いずれにせよ、当地域における事例の蓄積が今後の研究に大きく資することは疑いない。




第245図　小金古墳の墳丘（1:1,000）と墳丘構築過程（1:400）

### ４）２号墳の埋葬施設の構造

#### 棺床粘土と集水土坑

再発掘調査の成果

２号墳の埋葬施設はすでに昭和 43 年に発掘調査が実施されたが、今回の再発掘調査によって、埋葬施設の構造に関係する幾つかの新しい知見があった。墳丘を含めてその構築過程は第２章（４）で述べたので（第 27 図）、ここでは特に東棺・中央棺の棺床粘土、西棺の集水土坑（第 23 ～ 26 図）について、若干の検討を試みる。

棺床粘土

集水土坑

#### ２号墳東棺・中央棺の粘土床

静岡県内の施設

中嶋郁夫は静岡県内の棺被覆施設を整理し、棺全体を被覆する構造の埋葬施設はごく少なく、棺の一部を粘土で被覆する構造が多いことを述べる。中嶋によると、墓壙底面に棺床粘土を敷設する埋葬施設は富士市東坂古墳（前方後円墳・全長約 60m）、同薬師塚古墳（船津 L-第 131 号墳、円墳・径約 24m）、静岡市清水区午王堂山３号墳（前方後方墳・全長約 77.6m）、袋井市地蔵ヶ谷１号墳（井守塚５号墳に名称変更、円墳・長軸約 14 m、短軸約９m）、（木炭を敷設して粘土床を構築した）浜松市中区妙法塚古墳（円墳・径約 15 m）、同浜名区馬場平古墳（前方後円墳・全長約 47.5m）等に認められ、部分的な調査のみで詳細は不明ながら、沼津市神明塚古墳（前方後円墳・全長約 53m）、午王堂山１号墳（前方後円墳・全長約 77.6m）、掛川市春林院古墳（円墳・径約 35m）、同瓢塚古墳（前方後円墳・全長約 63m）等もそれに類する可能性があるとする（中嶋 2001）。これらに加えて、磐田市新豊院山Ｄ２号墳（前方後円墳・全長約 28m）も墓壙底面への棺床粘土の敷設後に礫と粘土を用いて入念に埋葬施設を構築している（第 246 図左）。棺床粘土のみを確認した花の木２号墳東棺・中央棺は前期前半の新豊院山Ｄ２号墳の埋葬施設を簡略化した形式として把握することも可能である。新豊院山Ｄ２号墳の特異な副葬品配置（同右）については後述する。

新豊院山Ｄ２号墳

成塚向山１号墳

群馬県太田市成塚向山１号墳は前期後半の一辺約 21m の方墳で、埋葬施設の設置を含めた墳丘構築過程の詳細が明らかにされている（第 264 図）。古墳は土手状盛土による「構築墓壙」の底面（整地面）に棺床粘土を敷設する。棺床粘土敷設を含めた埋葬施設の構築の段階は異なるが、規模と墳形、墳丘構築以前における土器の埋設を含めて花の木２号墳と類似する点が多い（後述）。その他、地域、時期が近い木棺の両小口部分に粘土を使用した埋葬施設としては、一辺約 22m の方墳である小牧市三ツ山１号墳主体部、一辺約 18m の方墳である同２号墳第１主体部がある（第 247 図）。

三ツ山１号墳

三ツ山２号墳

#### ２号墳西棺の集水土坑

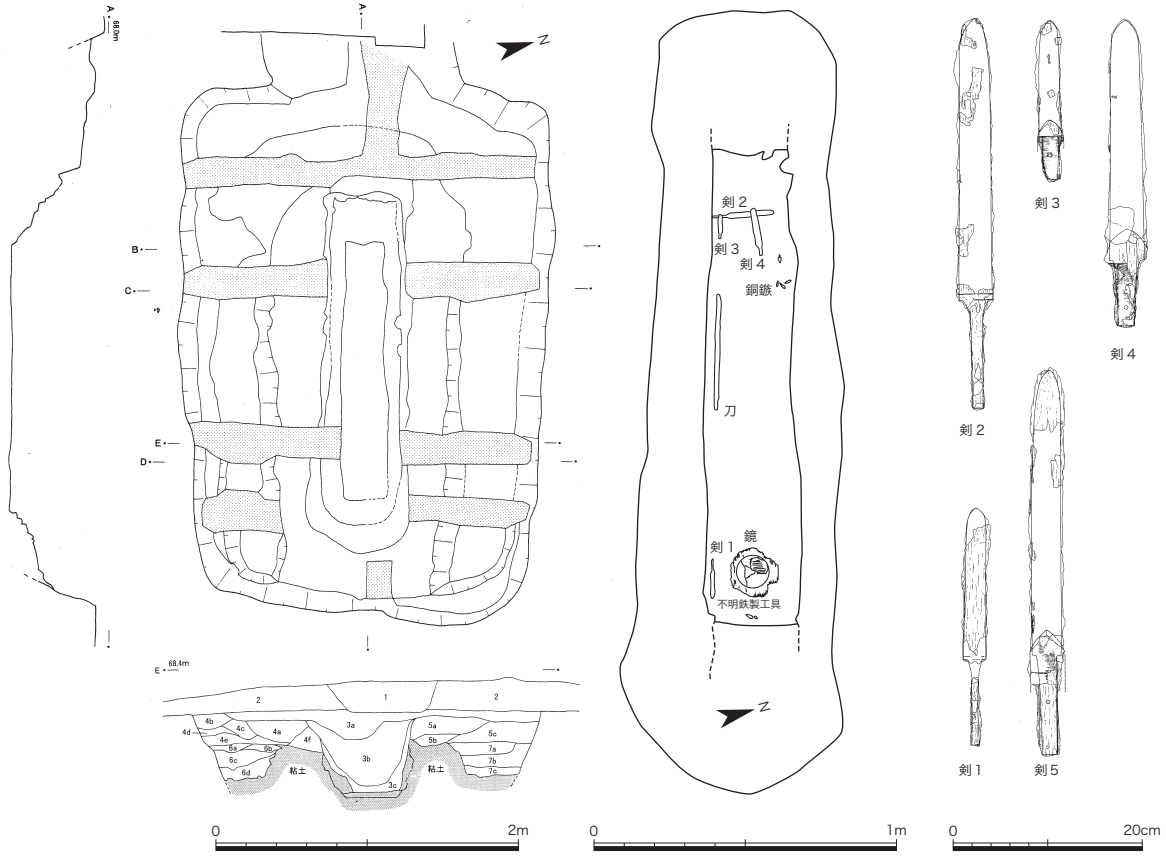
集水土坑の研究

花の木２号墳西棺の集水土坑として報告した施設は棺床の小土坑、排水坑、排水土坑、集水坑とも呼称される。岐阜県岐阜市龍門寺 15 号墳の調査で排水用、排湿用の機能が想定されたこと（楢崎 1965）を起点として、朴美子や滝沢誠等により研究が進められた結果、竪穴式石室や粘土槨に敷設された排水用の長方形土坑の簡略形態として排水用の小土坑が出現したことが説かれるに至っている（朴美子 1986、滝沢 2014 等）。滝沢等の研究によると、集水土坑は配置（中央、小口側）、平面形（方形、円形等）、礫の有無によって分類され、前期末から中期前葉を主体として、多くが小型古墳の埋葬施設に採用された割竹形木棺に伴うことが明らかにされている。

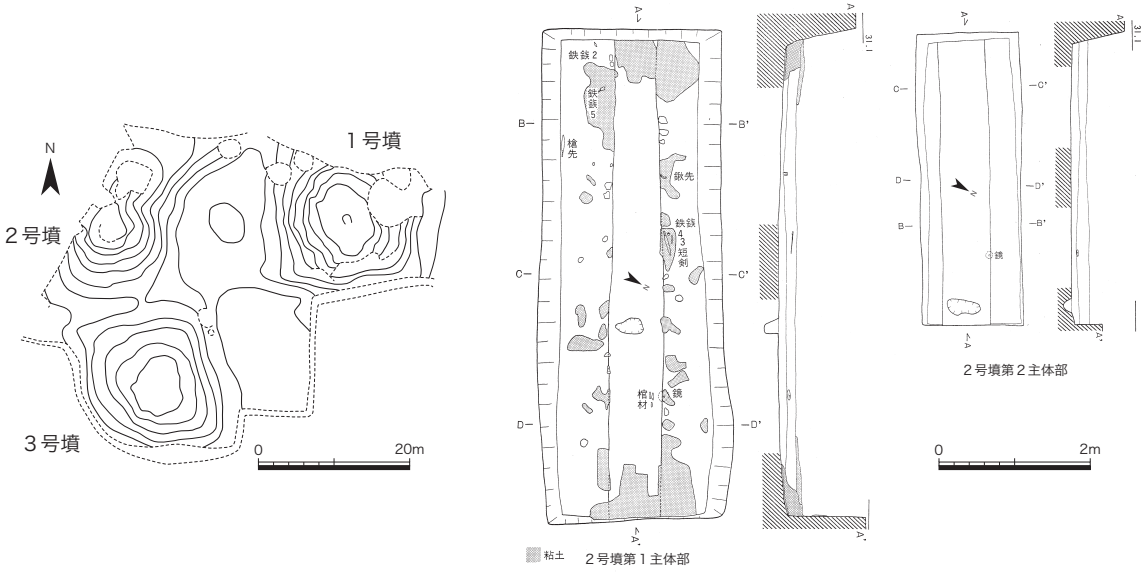
集水土坑の分類

北原古墳

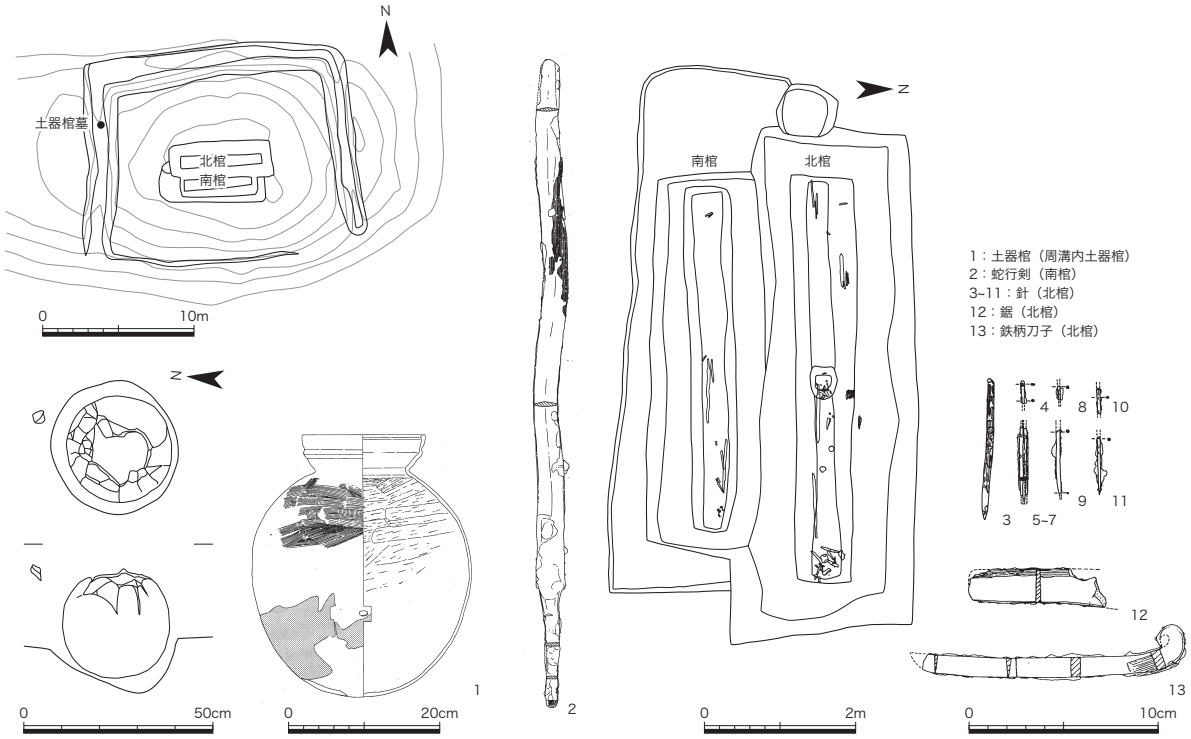
中期前半の奈良県宇陀市北原古墳はその一例である（第 248 図）。古墳は長軸約 16m、




第246図　新豊院山Ｄ２号墳の埋葬施設（1:50）、副葬品配置（1:25）と剣（1:8）




第247図　三ツ山古墳群（1:1,000・1:100）




第248図　北原古墳（1:500・1:100）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）、副葬品（1:10・1:4）

集水土坑

短軸約 14.5m の方墳で、北棺と南棺の２基の木棺が重複して設置され、後出する北棺の中央付近に集水土坑が伴う。先行する南棺における蛇行剣（2）、北棺における針（3～11）の副葬は、花の木古墳群における７号墳新北棺の蛇行剣、２号墳東棺の針の副葬に共通する。北原古墳北棺に副葬された鋸（12）、鉄柄刀子（13）、周溝内において検出された土器棺墓については後述する。

蛇行剣と針の副葬

鋸と鉄柄刀子

伊勢から遠江

東海地方において集水土坑は伊勢から遠江にかけて多く分布し、花の木２号墳西棺の集水土坑に認められるような小口側に配される特徴は伊勢(西日本)、礫を伴う特徴は遠江(東日本）に多い。花の木古墳群は伊勢から遠江の中間にあって、両者または東西日本の特徴を具備することは興味深い。三河に他の検出例は知られていないが、尾張は先述の三ツ山古墳群において確認されている（第 247 図)。三ツ山２号墳第１主体部は木棺の中央からやや偏して、同第２主体部は小口付近に集水土坑を設ける。いずれも土坑に礫を伴わない。

三ツ山２号墳

古墳群の構成

埋葬施設の特徴

副葬品の特徴

三ツ山古墳群は「前期末～中期初頭」の時期で、20m 前後の方墳による古墳群の構成、先述した１号墳と２号墳第１主体部の粘土を使用した埋葬施設、２号墳第１主体部の短茎三角形式と短茎長三角形式の鉄鏃を含めた武器、農工具の副葬にはやはり花の木古墳群と類似する点が多い。

以上に述べたように、２号墳の埋葬施設は隣接する遠江とより関係が深いことが確かめられる。他方、集水土坑を敷設する遠江の小型古墳の多くに特徴的に認められる土器の棺内副葬は花の木古墳群においては認められない。改めて尾張や伊勢、その他の地域を含めた諸関係を整理する必要がある。

土器の棺内副葬

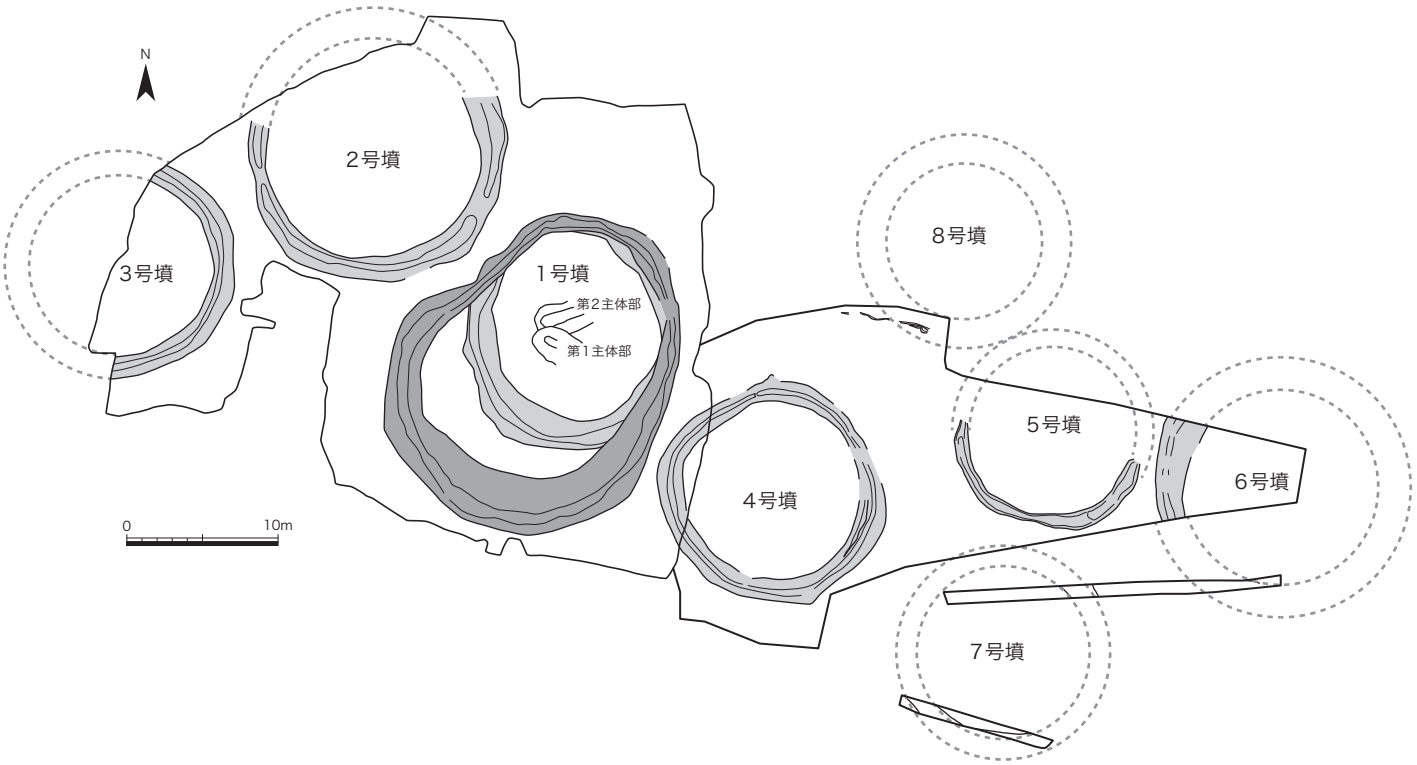
５）花の木７号墳と古墳の再利用、拡張

熊田山北Ａ地区１号墳

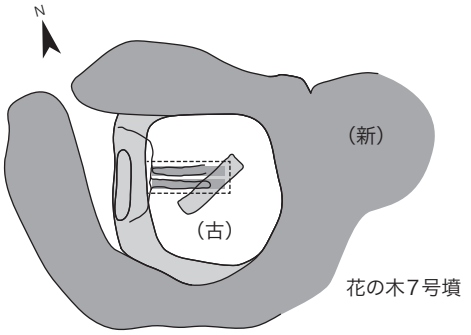
花の木７号墳は古墳を再利用、拡張していることが判明した（第 52・53 図）。ごく稀な事例であると思われるが、類似する古墳として、岐阜県各務原市熊田山北Ａ地区１号墳がある。熊田山北古墳群は熊田山北麓に分布する古墳群で、41 基の古墳（墳形が判明する古墳はいずれも円墳）により構成される。Ａ地区は 13 基の円墳（推定を含む）により構成され、Ｂ地区は発掘調査により、４基の円墳の内容が判明している（第 249 図）。　熊田山北古墳群

熊田山北Ａ地区１号墳は、整円に近い周溝（内濠）に囲まれた径約 11.5m の円墳を大きく取り込むようにして、南西方向に大きく張り出す周溝（外濠）を掘削し、長軸約 16.5m の平面倒卵形に古墳を拡張する。１号墳の拡張については、２号墳と４号墳が近接し、新たに古墳を築造する空間がなかったことに起因することが推測されている。その他、調査時の重要な所見として、前者（内濠）が後者（外濠）に対して先行すること、周溝の再掘削時に周溝（内濠）が埋め戻される一方、先行する墳丘を破壊したり、追加して盛土しないことが示されている。　Ａ地区１号墳　周溝の再掘削

円墳のほぼ中央には墳丘の追加、拡張に対応するように、２基の木棺として第１主体部と第２主体部が重複して直葬され、第２主体部が第１主体部に先行するとされる。第２主体部と第１主体部の須恵器から古墳は５世紀後半、TK23 型式期前後に築造されたことが想定される。第２主体部は須恵器蓋杯各１点、瑞１点、広口壷１点、甕１点、土師器甕１点、製塩土器１点、鉄製品として、大刀１点、鉄鏃８点、鎌（曲刃鎌）１点、刀子１点、第１主体部は須恵器蓋杯各１点、広口壷１点に加えて鉄製品として、素環頭大刀１点、鎌　埋葬施設　副葬品

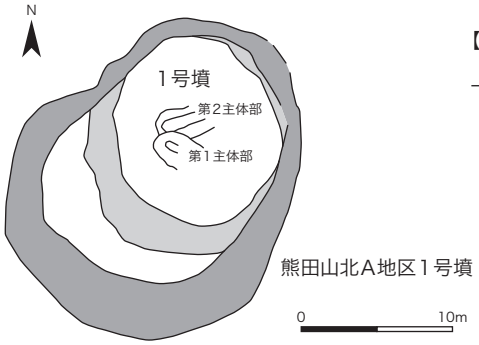



第249図　熊田山北古墳群Ａ地区（1:500）




【花の木７号墳古】方墳　一辺約 10m
【花の木７号墳新】方墳　長軸（東西）13m・短軸（南北）10m

| | | |
|---|---|---|
| ［北棺］ | 武　器 | 大刀１・剣４（蛇行剣１）・鉄鏃４ |
| | 農工具 | 直刃鎌１・袋斧１・刀子１・曲刃鎌１ |
| | 装身具 | 勾玉３ |
| ［南棺］ | 武　器 | 刀１・剣１ |
| | 農工具 | 袋斧１・刀子１・直刃鎌１ |




【熊田山北Ａ地区１号墳】　円墳　径約 11.5m　（倒卵形）
円墳　長軸約 16.5m

| | | |
|---|---|---|
| ［第２主体部］ | 武　器 | 大刀１・鉄鏃８ |
| | 農工具 | 刀子１・曲刃鎌１ |
| | 須恵器 | 蓋杯各１・𤭯１・広口壺１・甕１ |
| | 土師器 | 甕１　製塩土器１ |
| ［第１主体部］ | 武　器 | 大刀１（二本芯並列コイル状二重構造糸巻き） |
| | 農工具 | 刀子２・曲刃鎌１ |
| | 装身具 | 耳環１・勾玉１・丸玉１・ガラス玉 1,784 |
| | 須恵器 | 蓋杯各１・甕１ |

第250図　花の木７号墳と熊田山北古墳群Ａ地区１号墳の比較（1:500）

（曲刃鎌）１点、刀子２点、鉸具１点、装身具として耳環１点、勾玉１点、丸玉１点、ガラス玉 1,784 点を副葬する。素環頭大刀の柄には、沢田むつ代が詳細を明らかにした「二本芯並列コイル状二重構造糸巻き」（沢田 2008・2015・2017）が認められることを繰納民之が指摘している（繰納 2023）。沢田や繰納は、同様の仕様が地下式横穴墓や鉄製武器を大量に副葬する古墳に伴う特殊な刀剣類であることも指摘している。特に築地地下式横穴墓、大萩地下式横穴墓、島内地下式横穴墓など、蛇行剣を副葬する地下式横穴墓が含まれる墓群に認められることは両者の関連が深いことを示唆する。

素環頭大刀

地下式横穴墓

蛇行剣との相関

花の木７号墳

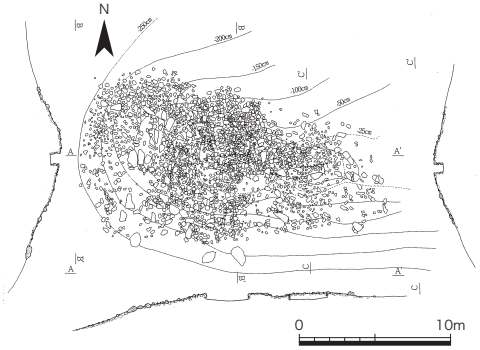
10m 程度の古墳を（古墳が位置する空間上の制約もあって）、一方向に数 m 程度拡張し、同時に周溝を埋め戻している点、群集する小型墳でありながら、特殊な刀剣を含む質量豊富な鉄製品を副葬する点において、花の木７号墳と熊田山北Ａ地区１号墳は類似の度が高く、築造時期も前者は古墳時代中期前半（TG232 型式期前後）、後者は中期後半（TK 23 型式期前後）で比較的近い。墳形、埋葬施設内への須恵器の副葬は異なるが、これらの様相差は大局としては築造時期に起因する。初期群集墳の展開過程、その背景について多くの示唆を与えるものであろう（第 250 図）。

時期

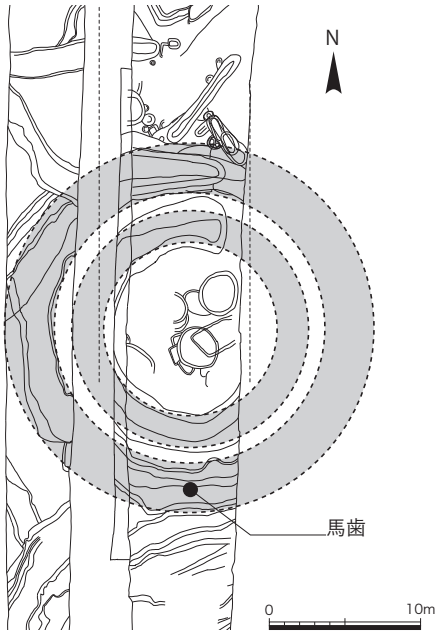
### 連接墳、「二重周溝」の円墳

連接墳

森泰通は熊田山北Ａ地区１号墳、積石塚古墳の新城市旗頭山尾根 17 号墳（第 251 図）、横穴式石室（両袖型石室）を埋葬施設とする豊田市不動１・２号墳について、大邱不老洞 91 号墳のような朝鮮半島の連接墳（鄭仁郤・呉東墀・尹亨準 2021）に準えて理解した（森 2025）。この理解において、TK23 型式期前後の径約 18m の円墳である熊田山北Ｂ地区１号墳が木棺に鋌を使用し（守田 2023）、朝鮮半島南部から舶載された可能性がある鑣轡、鑷子状鉄製品を含む豊富な鉄製品を副葬する点（諫早 2023）に加えて、同じく朝鮮




第251図　旗頭山尾根17号墳（1:500）



第252図　川田遺跡の円墳（1:500）と馬歯

半島南部から舶載された可能性がある瑪瑙製管玉が出土している点（谷澤・田村2023）、花の木７号墳新北棺が導入期の曲刃鎌（後述）を副葬する経緯、背景も重要な意味を帯びることになる。あるいは、豊川流域における花の木古墳群と旗頭山尾根古墳群との関係、積石塚古墳が出現する背景についても、重要な問題を提起する（本章（６）で後述）。

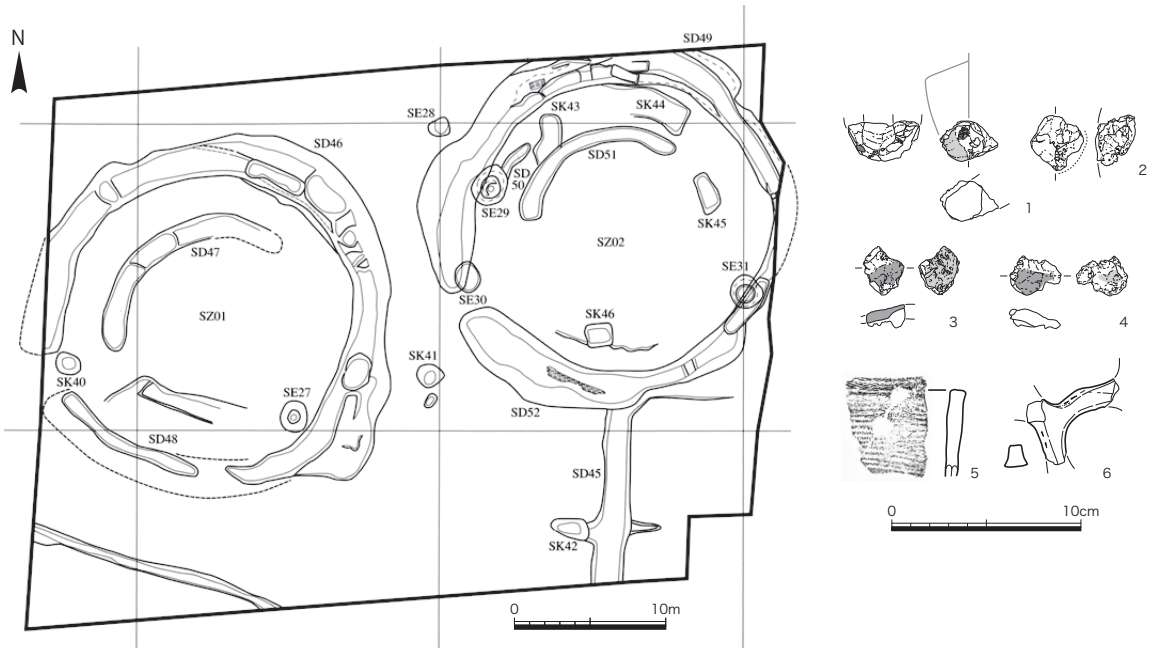
積石塚古墳

その他、熊田山北Ｂ地区２号墳は周溝が「二重」に検出され、墳丘構築の第一工程として内側の周溝を掘削後に、小墳丘と墓壙を構築し、第二工程として、外側の周溝を掘削し、墳丘を完成させると同時に内側の周溝を埋め戻したことが確認されている。内側の周溝と外側の周溝が重複する同１・３・４号墳についても、同様の墳丘構築過程が想定されている（西村 2023）。

「二重周溝」の円墳

木曽川下流、あるいは対岸の尾張低地においても「二重周溝」の円墳として、愛西市川田遺跡Ａ区 SD28（第 252 図）、一宮市門間沼遺跡 94 Ｃ区 SZ01・SZ02（第 253 図）が検出されている。時期は前者が古墳時代中期前半、後者が中期後半から後期である。川田遺跡や門間沼遺跡の円墳の周溝についても、周溝の遺物出土状況をも勘案すれば、「（同時に存在した）二重周溝」として理解するよりもむしろ、墳丘構築過程との関係において、あるいは（花の木７号墳や熊田山北Ａ地区１号墳が一方向への拡張であるとすれば、それに対して）同心円状の拡張としての把握が適当であろう。川田遺跡の（外側の）周溝において馬歯（第 252 図写真）、門間沼遺跡の（外側）の周溝において韓式系土器（第 253 図５・６）に伴って、鞴羽口（同 1）、鉄滓等の鍛冶関連遺物（同２～４）が検出されていることも朝鮮半島との関連において決して無関係ではないと思われる。

川田遺跡
門間沼遺跡
馬歯
韓式系土器
鍛冶関連遺物




第253図　門間沼遺跡の円墳（1:500）、鍛冶関連遺物と韓式系土器（1:4）

### ６）７号墳墳丘出土の玉類

#### 玉類と埋葬儀礼

墳丘出土の玉類

７号墳墳丘斜面からは滑石製を主体とする 200 点の玉類が出土した（第 62 ～ 64 図）。出土状況から玉類は埋葬施設に伴う副葬品ではなく、埋葬儀礼の過程で使用されたと解釈

出土状況の類型

される。玉城一枝は古墳構築に伴う玉使用の祭祀を墳丘構築以前（Ⅰ）、埋葬施設設営時(II)、埋葬時（III)、埋葬直後（IV)、埋葬終了後（Ⅴ)、墳丘形成後（VI）の各段階に分別し、時期、材質等との諸関係を考察している（玉城 1994)。花の木７号墳は実際には埋葬と

墳丘形成後

の関係を考慮しなければ、墳丘形成後（VI）に対応する。以下、関連すると思われる事例を参照し、墳丘周辺における埋葬儀礼の系譜と変遷の一端を確認する。

#### 玉類の出土状況

島の山古墳

奈良県磯城郡川西町島の山古墳は全長約 190m の前方後円墳で、前方部埋葬施設の粘

玉類の出土状況

土槨の構築時における滑石製玉類を使用した儀礼の詳細が明らかにされている。古墳の時

蛇行剣

期は前期後半で、玉類は棺の被覆粘土上に配置された夥しい数の腕輪形石製品、蛇行剣を含む刀剣を被覆した粘土の上に撒かれたとされる。さらに、最終的な被覆後、被覆粘土に赤色顔料（ベンガラ）を塗布し、一連の埋葬儀礼が完結する。

玉類の組成

玉類は丁字頭勾玉２点を含む勾玉 483 点、棗玉 15 点、管玉 140 点、臼玉 2,053 点で構成され、これらに滑石製琴柱形石製品１点が伴う。勾玉は長さ 30 ～ 40mm の大型が８点､長さ 20 ～ 30mm の中型が 160 点､長さ 10 ～ 20mm の小型が 281 点に大別される。組成比には異同もあるが、材質、全体の構成、特に相対的に法量が大きい少数の丁字頭勾玉を含む点、勾玉法量の変異幅は花の木７号墳墳丘出土の玉類の様相とよく類似する。他方、島の山古墳前方部の粘土槨においては、一部に勾玉のみ、臼玉のみ、臼玉と管玉のみがそれぞれ連珠の状態で出土したような状況も認められたが、類似した状況を花の木７号墳の墳丘出土の玉類に認めることは難しい。

岐阜県大垣市昼飯大塚古墳は全長約 150m の前方後円墳で、後円部墳頂から土師器、笊形土器と食物形土製品、形象埴輪に加えて、滑石製を主とする大量の玉類が出土した。古墳の時期は中期初頭（前期末葉）で、出土状況からは、墳丘上の儀礼行為に伴うものに加えて、埋葬施設から混入したものも含まれていることが判明している。

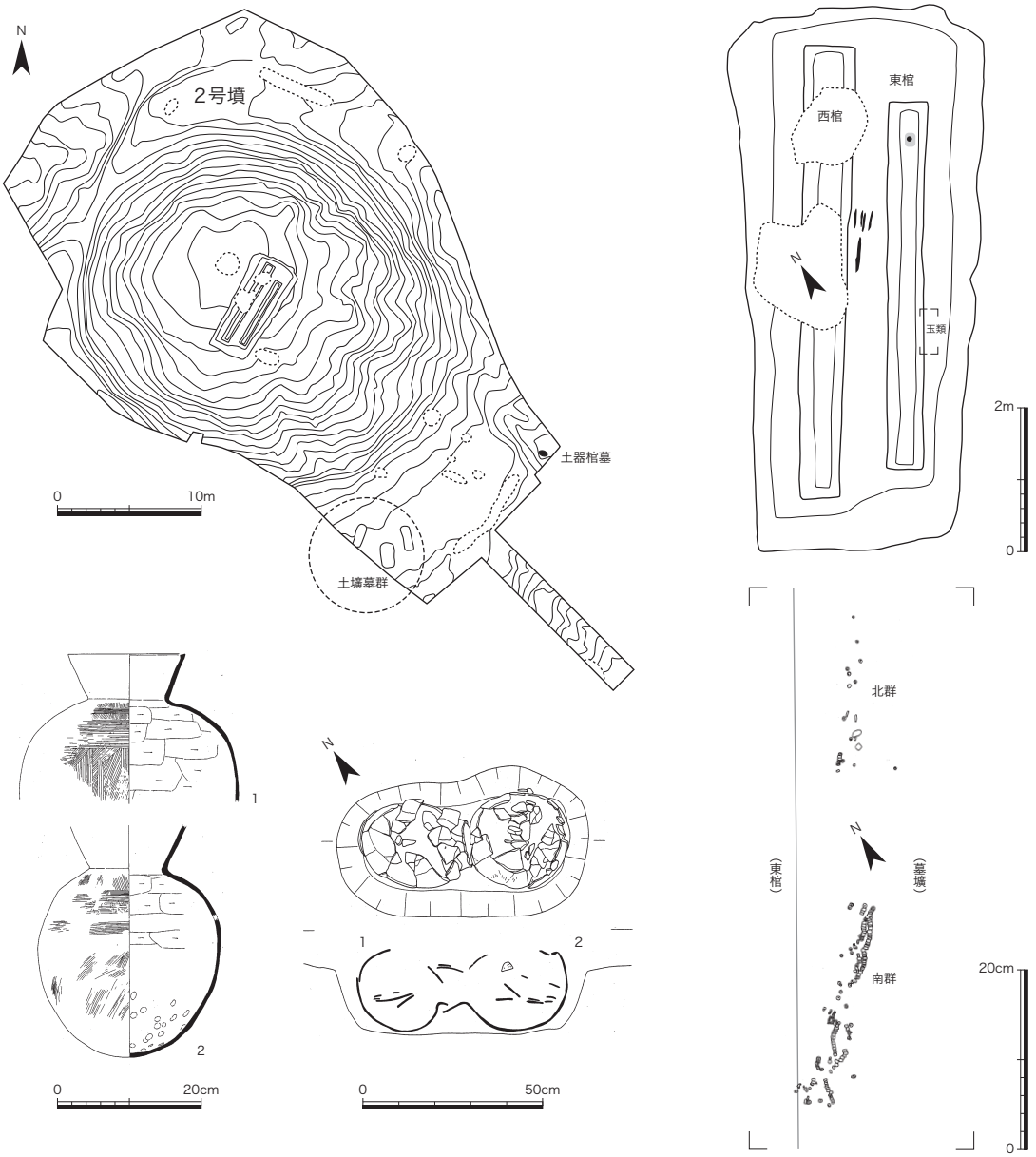
昼飯大塚古墳
玉類の出土状況

玉類は臼玉 3,555 点、ガラス玉 338 点、勾玉 234 点、棗玉 154 点、算盤玉 76 点、管玉 55 点、丸玉 1 点で構成され、ガラス玉、翡翠製勾玉 1 点、水晶製算盤玉 1 点、緑色凝灰岩製管玉 40 点、碧玉製管玉 1 点を除く全てが滑石製である。滑石製の臼玉、勾玉、棗玉が多い組成はやはり花の木７号墳の墳丘出土の玉類に類似する。

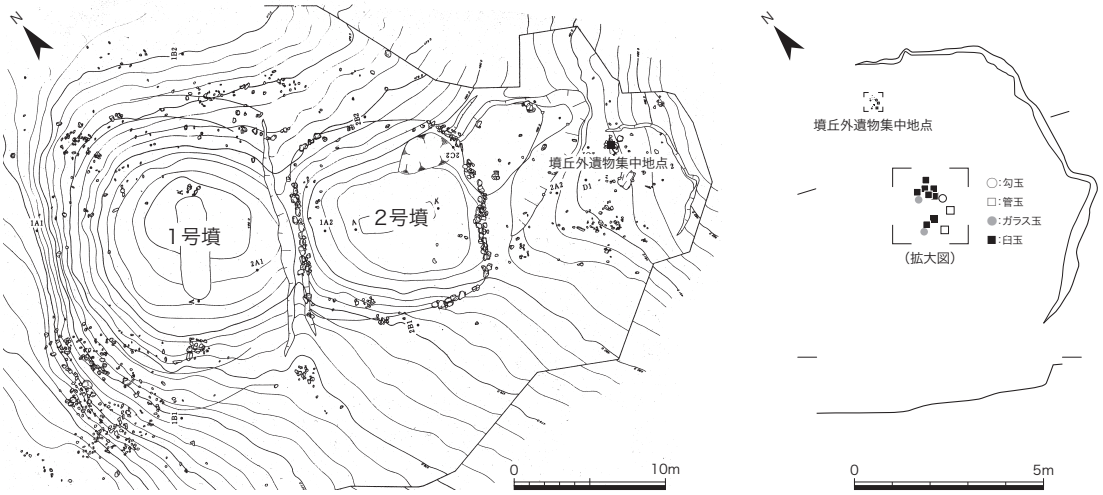
玉類の組成

京都府相楽郡精華町鞍岡山２号墳は長軸約 27m、短軸約 24m の不整形な円墳で、同一墓壙内に東棺と西棺の２基の木棺を検出した（第 254 図）。東棺の棺内には滑石製勾玉４

鞍岡山２号墳
玉類の出土状況




第254図　鞍岡山２号墳（1:500・1:100・1:8）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）




第255図　東平１・２号墳（1:500）と墳丘外遺物集中地点の玉類出土状況（1:200）

点、緑色凝灰岩製管玉 10 点、緑色凝灰岩製棗玉２点、滑石製臼玉４点が副葬され、東棺棺外の東辺中央付近から北群として滑石製勾玉４点、ガラス玉２点、滑石製臼玉 17 点、南群として滑石製臼玉 195 点が出土した。勾玉は長さ 10 ～ 20mm の小型のみで占められる。時期は中期前半と推定される。

玉類の組成

東平２号墳

長野県上田市東平２号墳は長軸約 12.8m、短軸約 12.1m の方墳で、葺石と埴輪（円筒埴輪・壺形埴輪）を伴う。埋葬施設上、墳丘から出土した土器から推定される時期は中期前半である。

墳丘外遺物集中

玉類の出土状況

玉類の組成

２号墳を見下ろす斜面を掘削して形成された台形区画の墳丘外遺物集中地点からは土師器甕、直口壷、高杯を伴い、緑色凝灰岩製管玉３点、滑石製勾玉２点、滑石製臼玉 26 点、ガラス玉９点が散在して出土した（第 255 図）。勾玉は長さ 30 ～ 40mm の大型、長さ 20 ～ 30mm の中型で、古墳の規模と墳形、時期、玉類の出土状況と組成、勾玉の法量が花の木７号墳の墳丘出土の玉類と類似する。

公事塚１号墳

玉類の出土状況

玉類の組成

蛇行剣

茨城県行方市公事塚１号墳は径約 27m の円墳で、木棺の棺内には瑪瑙製勾玉１点、緑色凝灰岩製管玉２点、琥珀製棗玉７点以上、ガラス玉 25 点、滑石製臼玉９点が副葬され、棺外からは滑石製臼玉 159 点が出土した。墳丘構築以前の竪穴建物状の遺構からは石製模造品有孔円板５点、剣形２点、臼玉１点も出土した。時期は古墳時代中期後半で、棺外から出土した蛇行剣は未検出の木棺に伴っていた可能性が高い。

熊田山北Ｂ地区１号墳

玉類の出土状況

先述した熊田山北Ｂ地区１号墳は、墳丘盛土内から瑪瑙製管玉１点、ガラス玉 65 点が出土した。同３号墳は径約 18m の円墳で、墓壙内から石製模造品勾玉２点、臼玉 1,582 点が出土している。

松ヶ洞19号墳

玉類の出土状況

玉類の組成

愛知県名古屋市守山区松ヶ洞 19 号墳は径約 9.6m の円墳で、木棺を直葬した埋葬施設の陥没坑から滑石製勾玉 50 点が出土した。時期は中期後半で、勾玉は 8.0 ～ 9.5mm の小型のみで占められる。玉類の組成、勾玉法量の小型化、均一化は花の木７号墳の墳丘出土の玉類との時期差を反映している可能性がある。

小結

装飾から儀礼へ

林正憲は滑石製管玉と滑石製勾玉が装飾的側面から儀礼的側面が強調されるようになる

変化を認識し、古墳時代中期の墳丘出土をその到達点としつつ、昼飯大塚古墳をその先駆的存在とした（林 2003）。ここで比較検討に供した事例はごく限られるが、前期後半から中期初頭（前期後葉）に畿内から畿内周縁の前方後円墳の埋葬施設とその周辺で顕在化した玉類を使用した儀礼が中期前半以降、地方の中小の古墳に浸透する過程として把握される。中期前半から中期後半にかけては、組成が滑石製勾玉と臼玉、またはそのいずれかに単純化し、滑石製勾玉は小型化する傾向も認められる。その過程に前期後半の畿内の島の山古墳、中期後半の東関東の公事塚１号墳の蛇行剣、両地域、両時期の中間に花の木７号墳が位置することは示唆的である。

儀礼の波及過程

変化の過程

蛇行剣との相関

７）７号墳新の埋葬施設の空間利用と副葬品配置

７号墳新北棺の空間利用

（墳丘を拡張、再利用した）７号墳新の埋葬施設は副葬品配置のほぼ全容が判明した（第55・57 図）。副葬品配置が葬送観念と密接に関係し、特に北棺は蛇行剣を副葬することからしても、その特質の一端を明らかにしておくことには一定の意義がある。葬送観念の変化の過程､地域的な展開､あるいは蛇行剣の性格を理解する一助となることも期待される。

調査上の不備もあって、木棺の規模、形状を正確に把握することは困難であるが、墳丘との位置関係、副葬品の検出状況から、北棺の木棺の長さは約 4.8m と推定した。北棺の勾玉（3・4）の出土位置を被葬者の胸部付近とすると、人体埋葬は木棺の中央の空間に想定される。これは岡林孝作による棺内空間利用法の「中央型」に対応する（岡林 2018）。北棺の頭部側（東側）は埋葬空間を中央に設けたことによって生じた空間で、木棺の小口付近が想定される位置には農工具を配置する。対して足元側（西側）は主要な副葬品を配置する空間で、副葬品は刀（大刀）、剣（蛇行剣）、鎌（曲刃鎌）、鉄鏃群（短茎式）で構成される。中央の人体埋葬に伴う副葬品が装身具としての玉類、佩用品としての刀剣等に限定されることも「中央型」の様相に一致する。仮に中央の人体埋葬空間の長さを副葬品の位置関係、被葬者の身長を考慮して長さ約 1.6m とすると、頭部側（東側）の空間の長さは約 1.6m、足元側（西側）の副葬品を配置する空間の長さは約 1.6m で、ほぼ１：１：１の３分割構造であることが判明する。木棺には仕切りがあった可能性もあるが、その痕跡等は確認されなかった。

「中央型」

頭部側の空間

足元側の空間

空間の３分割構造

短茎式鉄鏃の副葬

主要な副葬品を配置した足元側（西側）の空間においては、短茎式鉄鏃が切先方向を揃えずに出土した（第 55 図）。川畑純は同様の出土状況の詳細な検討を踏まえつつ、短茎式鉄鏃を「分離式」として捉え、鏃と矢柄が分離された状態で（矢柄が装着されずに）副葬された、つまり、「武器として不完全な形態である矢柄を伴わない鏃が選択的に副葬された」ことを重視する（川畑 2013）。短茎式鉄鏃が蛇行剣と接する位置に副葬されている点は蛇行剣副葬の意味、背景に対しても一定の示唆を与えよう。

鉄鏃の出土状況

「分離式」

７号墳新南棺の刀剣配置

南棺の空間利用法を把握するための有意な成果は乏しいが、同時埋葬とした北棺と同様の位置に被葬者が埋葬されたことを想定した場合、頭部側に刀（18）に直交させるように剣（19）を重ねて置くやや特異な副葬品配置が注意される（第 55・57 図）。福永伸哉は刀剣類を埋葬施設主軸と平行に剣を配置するという原則（用田 1980、宇垣 1997）に

特異な副葬品配置

「近接直交配置」

対して、「被葬者の頭部、足部の近い位置に埋葬主軸と直交する方向で剣を副葬する方式」を「近接直交配置」として、剣の「近接直交配置」は前方後円墳集成編年（広瀬 1992）の３期から４期に増加するとしつつ、２期にその萌芽がある可能性を示した。その２期に対応する事例が先述した新豊院山Ｄ２号墳で、被葬者の足元下方（棺内の小口付近）には、主軸と直交する方向に「剣２」を置き、それに重ねるように「剣３」と「剣４」を主軸に平行して配置する（第 246 図）。

新豊院山Ｄ２号墳

花の木７号墳新の南棺が頭部側に主軸に平行する刀（18）の柄の上に、剣（19）の柄を直交させて重ねるように置く点に対して、新豊院山Ｄ２号墳の場合は足元側であることにも関係して、主軸に直交する「剣２」の身と柄にそれぞれ主軸に平行させて「剣３」と「剣４」の切先を重ねるように置く点は異なり、時期も新豊院山Ｄ２号墳が先行するが、地理上の関係に加えて、先述した埋葬施設の構造上の類似をも加味すれば、何らかの関係を想定することも無理ではない。あるいは福永は「近接直交配置」が大阪府茨木市紫金山古墳等、朝鮮半島南部勢力との交渉が関係する３・４期の特徴的な古墳に表出することに注目している。この意味において、北棺足元側（西側）の刀（5）と蛇行剣（6）に直交させて渡来系の農工具として評価される（後述）曲刃鎌（15）が副葬されていた点も示唆的である。

紫金山古墳

渡来系の農工具

### ８）花の木古墳群の玉類と編年上の位置

２号墳の玉類

７号墳の玉類

花の木古墳群においては、今回の発掘調査で２号墳の周辺から碧玉製勾玉（1）、７号墳の墳丘斜面から滑石製を主とする玉類（5 ～ 204）が出土した。７号墳新北棺には瑪瑙製勾玉（2・3）、翡翠製勾玉（4）が副葬されていた。昭和 43 年の発掘調査でも２号墳東棺・中央棺から玉類が出土している。以下、大賀克彦の研究（大賀 2002・2013 等）に従って、これらの編年上の位置を確認する。

碧玉製勾玉

瑪瑙製勾玉

大賀は「古墳時代前期後葉」に山陰系工人が密接に関係することで玉類の組成が変化し、勾玉の材質が転換すること、碧玉製勾玉と瑪瑙製勾玉は中期にしばしば共伴することを述べる。つまり、２号墳出土の碧玉製勾玉、７号墳北棺に副葬された瑪瑙製勾玉は「前期後葉」以降で、両者は共伴こそしないが、中期の様相に近いことが理解される。

滑石製玉類

また、大賀は山陰系工人による勾玉の材質転換とほぼ同時に、滑石製の勾玉、管玉、棗玉、算盤玉、臼玉等が出現することも述べる。「中期後半」には板状でやや大型の勾玉と臼玉の組み合わせに変化することも踏まえると、７号墳の墳丘出土の玉類は「前期後葉」以降、「中期後半」以前に対応することが理解される。

翡翠製勾玉

７号墳北棺に副葬された翡翠製勾玉は不透明の白色で、厚みがあり、腹部の断面形が「Ｄ」字形を呈する「Nn 型」で（大賀 2013 等）、大賀は「前期末から中期初頭」に出現することを述べる。「中期後半から後期前半」の様相変化を踏まえると、２号墳北棺に副葬された翡翠製勾玉は「前期末から中期初頭」以降、「中期前半」を中心とする時期に対応することが理解される。

緑色凝灰岩製勾玉

加えて、花の木２号墳東棺・中央棺に副葬された緑色凝灰岩製勾玉は、大賀によると製作時期が短く、その開始時期は古墳時代中期の「中Ⅰ期」であるとする（大賀 2023）。

編年上の位置

以上、各種の玉類の編年上の位置について、前後関係までを詳細に論じることは難しいが、およそ「前期後葉」以降で、中期前半が主体であることが確かめられる。この理解は次に述べる鉄製品の年代観とも矛盾しない。

### ９）７号墳新の鉄製品―鉄鏃と鎌

#### 鉄鏃の構成と年代観

鉄製品の年代観

７号墳新の築造時期、つまり、古墳の拡張、再利用の時期について、副葬された鉄製品（武器と農工具）による理解を示す。ここでは特に年代の理解において、最も重要な位置を占めると思われる鉄鏃と鎌を対象に検討する。

鉄鏃の分類と構成

鉄鏃は川畑純の分類（川畑 2009）による短茎長三角式（10・11）と短茎三角式（12・13）各２点で構成される。前者は腸抉先端が欠損するが、辺を有する「短茎長三角Ａ」が想定される。後者は重抉がない「短茎三角Ａ」である。両者が含まれる様相は川畑が示す前期、「Ⅰ期」から「II 期」に対応し、同時期の構成は大阪府茨木市紫金山古墳（第256 図１～９）を典型とする。なお、川畑は中期初頭から中期中葉の「III 期」の短茎式には「典型的な重抉」が採用されるとする。

紫金山古墳

白山藪古墳

様相が類似する比較的近隣の古墳としては、同形・同大の「短茎長三角Ａ」のみを副葬する名古屋市北区白山藪古墳（第 256 図 10 ～ 13）がある。白山藪古墳は紫金山古墳の鉄鏃との比較等から、前期後半から末葉の時期が想定されている（深谷 2012）。花の木７号墳新の鉄鏃形式は前期の様相を示す一方で、紫金山古墳や白山藪古墳の鉄鏃と比較して明らかに小さく、全体に薄い。時期、生産・流通との関係は今後の検討課題である。

#### 鎌の構成と年代観

直刃鎌と曲刃鎌

７号墳新南棺は直刃鎌（22）、同北棺は直刃鎌（16）と曲刃鎌（15）の両者を副葬する。二棺が同一墓壙に同時に設置されたとすれば、その時期は直刃鎌と曲刃鎌の両者が共存する時期、あるいは曲刃鎌の導入期として把握される。

アリ山古墳

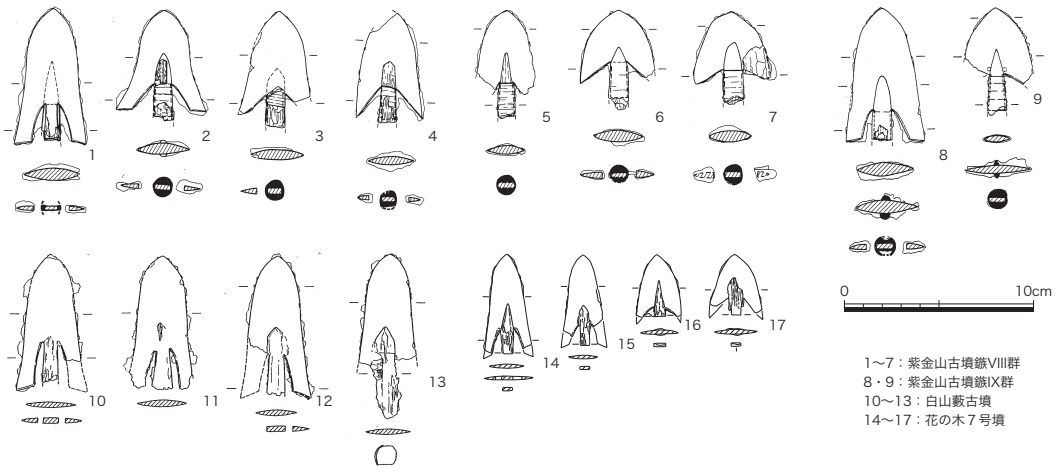
北原古墳

堂山古墳

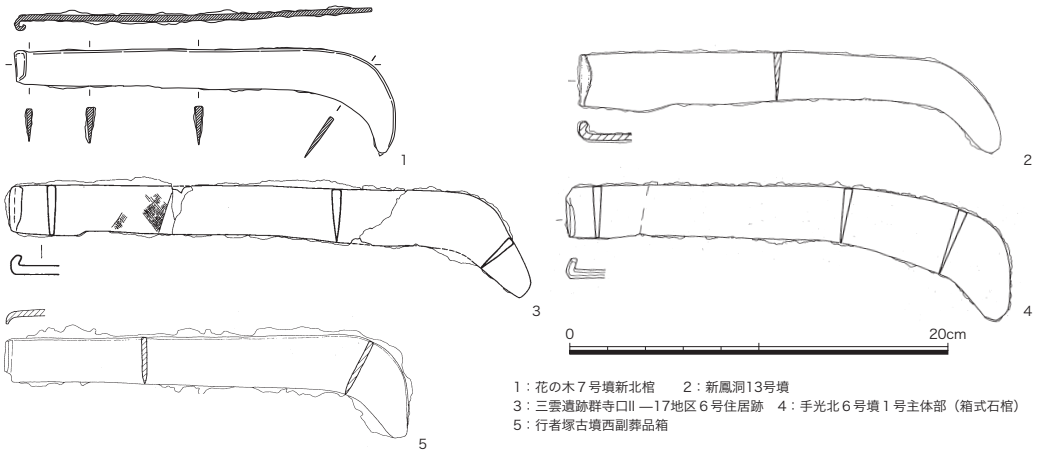
野毛大塚古墳

岩場古墳

魚津知克によると、「中期前葉」に折り返し甲技法（都出 1967）の曲刃鎌の副葬が一気に広がるとされ、直刃鎌と曲刃鎌の両者を副葬する古墳として、大阪府藤井寺市アリ山古墳、奈良県宇陀市北原古墳、静岡県磐田市堂山古墳、曲刃鎌のみを副葬する古墳として、東京都世田谷区野毛大塚古墳第３主体を挙げる（魚津 2017）。鈴木一有も直刃鎌から曲刃鎌への移行期は「中期中葉古段階」で、須恵器型式としては TK73 型式が対応し、その様相を示す東海の古墳として、愛知県西尾市岩場古墳、堂山古墳、静岡県袋井市五ヶ




第256図　短茎長三角式・三角式鉄鏃の比較（1:4）




1：花の木７号墳新北棺　　2：新鳳洞13号墳
3：三雲遺跡群寺口II —17地区６号住居跡　4：手光北６号墳１号主体部（箱式石棺）
5：行者塚古墳西副葬品箱

第257図　曲刃鎌の比較（1:4）

五ヶ山B2号墳

山 B2 号墳等を挙げる（鈴木 2005b）。これらの理解に従えば、花の木７号墳新は中期前葉から中期中葉で、須恵器型式としては TK73 型式が対応する。

折り返し乙技法
新鳳洞古墳群
三雲遺跡群
手光北６号墳
行者塚古墳

他方、花の木７号墳新の北棺の曲刃鎌（第 257 図１）は「折り返し乙技法」で、細身で長く、彎曲する部分の幅が最も広い。この形態の特徴は忠清北道清州市新鳳洞古墳群（同 2）等、同技法が新たに生成した朝鮮半島南部、福岡県糸島市三雲遺跡群寺口 II—17 地区６号住居跡（同 3）、福岡県福津市手光北６号墳１号主体部（箱式石棺）（同 4）等、それが先行して導入された北部九州、あるいは豊富な渡来系文物を副葬する兵庫県加古川市行者塚古墳の西副葬品箱（5）等の曲刃鎌に類似する。先に直刃鎌から曲刃鎌への移行期として挙げた曲刃鎌の多くが「折り返し甲技法」であることからしても、「折り返し乙技法」の花の木７号墳新北棺の曲刃鎌は導入最初期、あるいは渡来系として評価され、中期前半でも須恵器型式としては TG232 型式が対応する時期が想定される。

小結

鉄鏃と鎌の年代観
花の木北遺跡

以上、鉄製品の年代観を比較検討した結果、鉄鏃については前期の様相が認められ、鎌、特に曲刃鎌については、中期前半でも早い段階とする理解を示した。総体としては、中期初頭（前期末葉）から著しく隔たらない中期前半で、須恵器型式としては TG232 型式、尾張の土師器編年としては松河戸 II 式２段階の前後、花の木北遺跡の時期区分としては２期（本章（５）を参照）に後続する時期が対応する。

10）７号墳新の鉄製品—蛇行剣

蛇行剣の集成と分布

蛇行剣の集成

花の木７号墳の特筆される副葬品として、７号墳新北棺に副葬された蛇行剣 (6) がある。蛇行剣については、楠本哲夫による集成（楠本 1986）、北山峰生による集成の追補と検討（北山 1999ab・2003）等がある。その後も、当地域を含めた中部地方を主たる対象とした伊藤雅文による検討（伊藤 2008）、蛇行剣の分布が集中する九州南部においても沖野誠による検討、集成（沖野 2017）、東日本を対象とした瀧瀬芳之による検討、集成（瀧瀬 2020）等により研究が重ねられている。沖野の集成によると、日本列島は 54 遺跡 85 例、朝鮮半島は４遺跡４例、瀧瀬の集成によると、東日本は 17 遺跡 19 例を数えることが示されている。

花の木７号墳等、楠本、北山、沖野、瀧瀬の集成後に確認された事例を加えると、（身が蛇行する鉾等を含めて）現在、（古墳群を一遺跡として）68 遺跡 101 例の事例が列挙される（第 15 表、第 258 図）。分布については、従来から明確に示されているように、九州南部、特に地下式横穴墓に集中する。時期は古墳時代前期後半の奈良県磯城郡川西町島の山古墳前方部等を初源とするが、多くは中期に帰属し、後期にも一部が存続する。東海においては、先述したように、同時に副葬された鎌の比較から花の木７号墳の蛇行剣が五ヶ山 B2 号墳の蛇行鉾に先行するとすれば、東日本の蛇行剣としては最も古く、日本列島としても前期後半に続く先行する事例としての位置が与えられる。

68遺跡101例

蛇行剣の分布

蛇行剣の時期

東海の蛇行剣

花の木古墳群との関連において、特に注目される東海の蛇行剣を副葬した古墳が三重県

第 15 表　蛇行剣出土遺跡地名表

| | 遺跡名（n：点数） | 所在地 |
|---|---|---|
| 1 | 公事塚１号墳 | 茨城県行方市 |
| 2 | 桑57号墳 | 栃木県小山市 |
| 3 | 岩鼻古墳群 | 埼玉県東松山市 |
| 4 | 入西石塚古墳 | 埼玉県坂戸市 |
| 5 | 飯積上台１号墳 | 千葉県印旛郡酒々井町 |
| 6 | 黒田古墳群木棺墓 | 新潟県上越市 |
| 7 | 二子塚狐山（狐塚）古墳 | 石川県加賀市 |
| 8 | 和田山５号墳(2) | 石川県能見市 |
| 9 | 下開発茶臼山２号墳 | 石川県能見市 |
| 10 | フネ古墳（東梯） | 長野県諏訪市 |
| | フネ古墳（西梯） | 長野県諏訪市 |
| 11 | 京塚古墳 | 長野県中野市 |
| 12 | 倉科２号墳 | 長野県千曲市 |
| 13 | 南沼上３号墳 | 静岡県静岡市 |
| 14 | 高田遺跡第35次SF02 | 静岡県掛川市 |
| 15 | 五ヶ山B-2号墳 | 静岡県袋井市 |
| 16 | 石ノ形古墳 | 静岡県袋井市 |
| 17 | 花の木７号墳 | 愛知県豊川市 |
| 18 | 落合３号墳 | 三重県伊勢市 |
| 19 | 天王山１号墳 | 三重県松阪市 |
| 20 | 奥大石２号墳 | 京都府綾部市 |
| 21 | 芝山古墳群R-4地区III-2号墳(2) | 京都府城陽市 |
| 22 | 城谷口２号墳 | 京都府南丹市 |
| 23 | 七観古墳 (2) | 大阪府堺市堺区 |
| 24 | 豊中大塚古墳 | 大阪府豊中市 |
| 25 | 亀山古墳 (2) | 兵庫県加西市 |
| 26 | 火山13号墳 | 兵庫県丹波市 |
| 27 | 茶すり山古墳(2) | 兵庫県朝来市 |
| 28 | 富雄丸山古墳 | 奈良県奈良市 |
| 29 | 北原古墳 | 奈良県宇陀市 |
| 30 | 後出３号墳 | 奈良県宇陀市 |
| | 後出７号墳 | 奈良県宇陀市 |
| | 後出18号墳 | 奈良県宇陀市 |
| 31 | 島の山古墳 | 奈良県磯城郡川西町 |
| 32 | 寺内63号墳 | 和歌山県和歌山市 |
| 33 | 陵山古墳 | 和歌山県橋本市 |
| 34 | 頭根後谷６号墳 | 鳥取県倉吉市 |
| 35 | 結11号墳 | 島根県出雲市 |
| 36 | 五反田３号墳 | 島根県安来市 |
| 37 | 藤蔵池頭古墳 | 岡山県津山市 |
| 38 | 中小田２号墳 | 広島県広島市 |
| 39 | 空長１号墳 | 広島県広島市 |
| 40 | 蓮華谷１号墳 | 徳島県板野郡板野町 |
| 41 | 南方浦山古墳 | 福岡県北九州市小倉南区 |
| 42 | 竹並A-34号横穴墓 | 福岡県行橋市 |
| 43 | 高畠古墳 | 佐賀県佐賀市 |
| 44 | 船石１号墳 | 佐賀県三養基郡上峰町 |
| | 船石２号墳 | 佐賀県三養基郡上峰町 |
| 45 | 姫塚古墳（伝） | 大分県日田市 |
| 46 | 灰ヶ野１号地下式横穴墓 | 宮崎県宮崎市 |
| 47 | 牧ノ原２号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| | 牧ノ原21号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| 48 | 築池59-1号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| | 築池92-8号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| | 築池92-15号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| | 築池1998-1号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| 49 | 菓子野３号地下式横穴墓 | 宮崎県都城市 |
| 50 | 浄土寺山古墳（南方39号墳） | 宮崎県延岡市 |
| 51 | 大萩31号地下式横穴墓 | 宮崎県小林市 |
| 52 | 須木上ノ原10号地下式横穴墓 | 宮崎県小林市 |
| 53 | 児屋根塚古墳（茶臼原１号墳） | 宮崎県西都市 |
| 54 | 島内21号地下式横穴墓(3) | 宮崎県えびの市 |
| | 島内24号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内32号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内50号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内55号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内62号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内63号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内96号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内117号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| | 島内143号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| 55 | 久見迫３号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| 56 | 馬頭５号地下式横穴墓 | 宮崎県えびの市 |
| 57 | 日守地下式横穴墓 | 宮崎県西諸県郡高原町 |
| 58 | 鎧古墳 | 宮崎県児湯郡新富町 |
| 59 | 祓川10号地下式横穴墓 | 鹿児島県鹿屋市 |
| 60 | 立小野堀128号地下式横穴墓 | 鹿児島県鹿屋市 |
| | 立小野堀148号地下式横穴墓 | 鹿児島県鹿屋市 |
| | 立小野堀176号地下式横穴墓 | 鹿児島県鹿屋市 |
| 61 | 宮ノ上地下式横穴墓群 | 鹿児島県鹿屋市 |
| 62 | 松ノ尾遺跡 | 鹿児島県指宿市 |
| 63 | 成川遺跡(7) | 鹿児島県指宿市 |
| 64 | 横岡VII号地下式板石積石室墓 | 鹿児島県薩摩川内市 |
| 65 | 瀬ノ上２号地下式横穴墓 | 鹿児島県伊佐市 |
| | 瀬ノ上５号地下式横穴墓 | 鹿児島県伊佐市 |
| 66 | 前目灰塚３号地下式横穴墓 | 鹿児島県伊佐市 |
| 67 | 別府原地下式板石積石室墓 | 鹿児島県薩摩郡さつま町 |
| 68 | 上ノ原９号地下式横穴墓 | 鹿児島県肝付郡肝付町 |

第258図　蛇行剣の分布

規模・墳形　伊勢市落合３号墳である（第 259 図）。落合３号墳は長軸約 11m、短軸約 10m の方墳で、

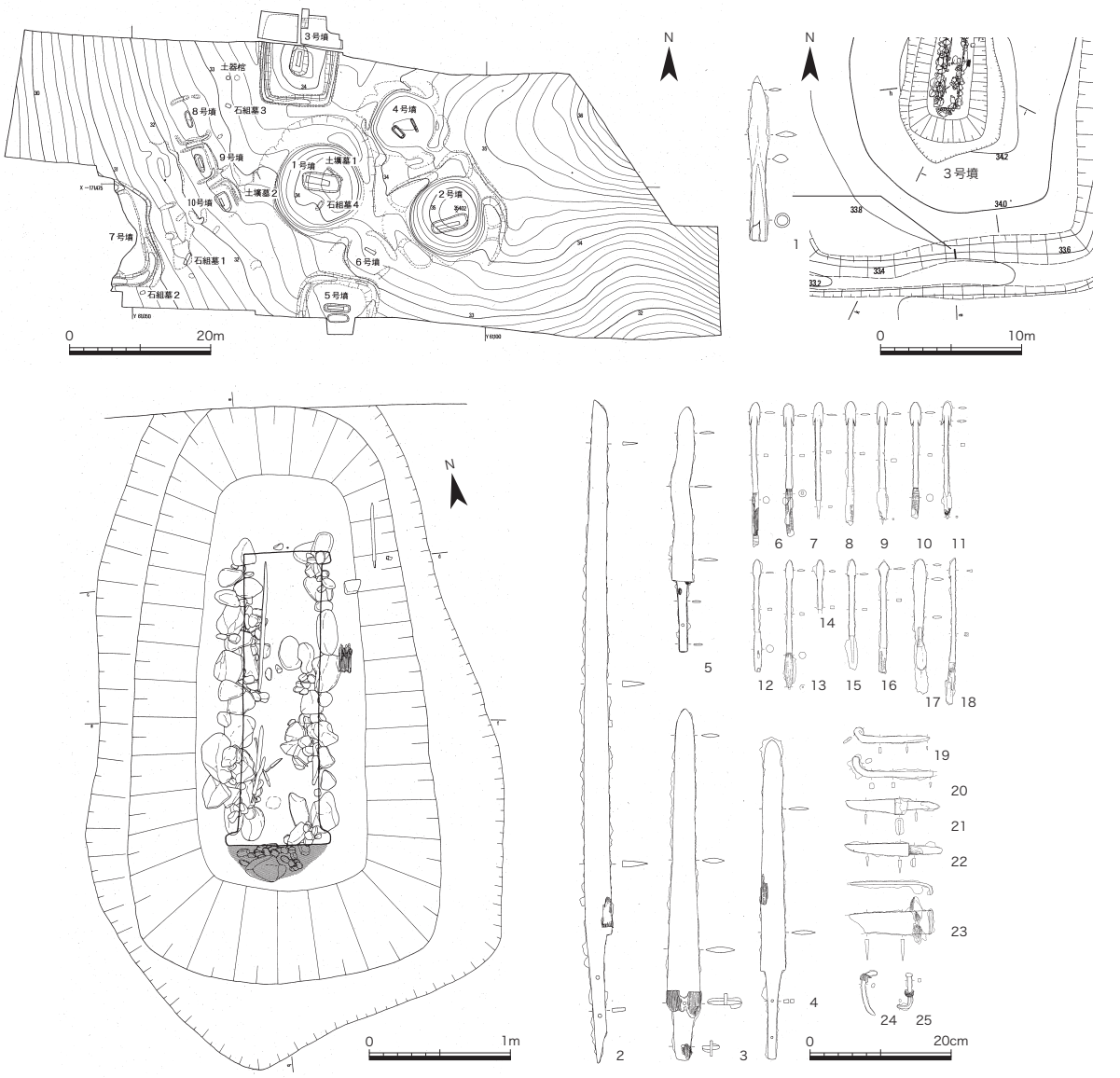
時期　時期は中期後半、須恵器型式としては TK216 型式から TK208 型式が対応する。古墳が

鉾の出土状況　中小の方墳である点に加えて、特に鉾（1）を墳丘主軸線上の周溝（墳丘下端）に切先を埋葬施設に向けて（埋葬施設の主軸に合わせて）置く点は花の木２号墳の周溝（墳丘下端）に剣を置く出土状況とも酷似し、鉄製武器を主眼とする同様の所作が蛇行剣を保有した古墳群間､あるいは両地域間に一定期間共有されていたことを示す。３号墳を含めた古墳群、葬地の構成と変遷については後述する。

渡来系の鉄製品との相関

渡来系の農工具　花の木７号墳新北棺西群の渡来系としても評価した曲刃鎌とも関連して、落合３号墳には蛇行剣（5）に近接して渡来系として評価される（鈴木 2005a）鉄柄刀子（19・20）

北原古墳　が副葬されていたことも注目される。先述した北原古墳南棺の蛇行剣の副葬と同北棺の鋸




第259図　落合古墳群（1:1,000）、３号墳（1:500・1:50）と武器・農工具等（1:10）

と鉄柄刀子の副葬についても同様の評価が与えられる（第 248 図）。

加えて、大阪府堺市堺区七観古墳第１槨における環板轡の副葬と第３槨における蛇行剣の副葬、奈良県宇陀市後出３号墳第１主体部における鑣轡と第２主体部における蛇行剣の副葬、環板轡が出土した茨城県行方市城口遺跡（片平 2021）至近の先述した同公事塚１号墳における蛇行剣の副葬（環板轡と蛇行剣の両者の分布の東限が一致すること）によって示されるように、蛇行剣には初期馬具（轡）の副葬（諫早 2010）との関連も確認される。墳丘の拡張、再利用の状況が花の木７号墳と類似する熊田山北Ａ地区１号墳に蛇行剣とも関連が深い特殊な刀剣が副葬され、同一古墳群中のＢ地区１号墳には鑣轡が副葬されることについても、先に触れた通りである。魚津知克は列島における導入期の曲刃鎌が漢城百済期や馬韓の例に類似することについて、同時期に列島に導入された馬具の一部の系譜が百済の領域に求められることとの関連を示唆した（魚津 2017）。蛇行剣と渡来系文物の移入との関連を示唆するようでもあり、興味深い。

七観古墳
後出３号墳
公事塚１号墳
初期馬具（轡）
熊田山北古墳群

11）葬地の構成と変遷―土器棺墓を中心に―

古墳群の周辺埋葬施設と葬地の構成

花の木古墳群は古墳時代前期後半から中期前半の方墳群とその周囲の（石敷）土壙墓群、土器棺墓群により葬地が構成される（第８・72・73・76・78・80・82・84・86 図）。群中の古墳以外に、周辺埋葬を含めた葬地の構成が明らかになった点も重要な成果である。

葬地の構成

土器を埋葬用の棺として使用する土器棺墓は、縄文時代から弥生時代の日本列島の広範な地域で認められる。花の木古墳群が位置する伊勢湾東岸もその例外ではなく、弥生時代前期から中期に多く、後期には激減することが示されている（神谷 2004、石黒 2006 等）。あるいは終末期にも残存することが伊勢湾東岸（三河）の地域性ともされる（西島 2012）。終末期に残存する土器棺墓が豊田市栃原遺跡の３基の土器棺墓で、終末期では初見とされる（田中 2010）。

土器棺墓
伊勢湾東岸
終末期の土器棺墓

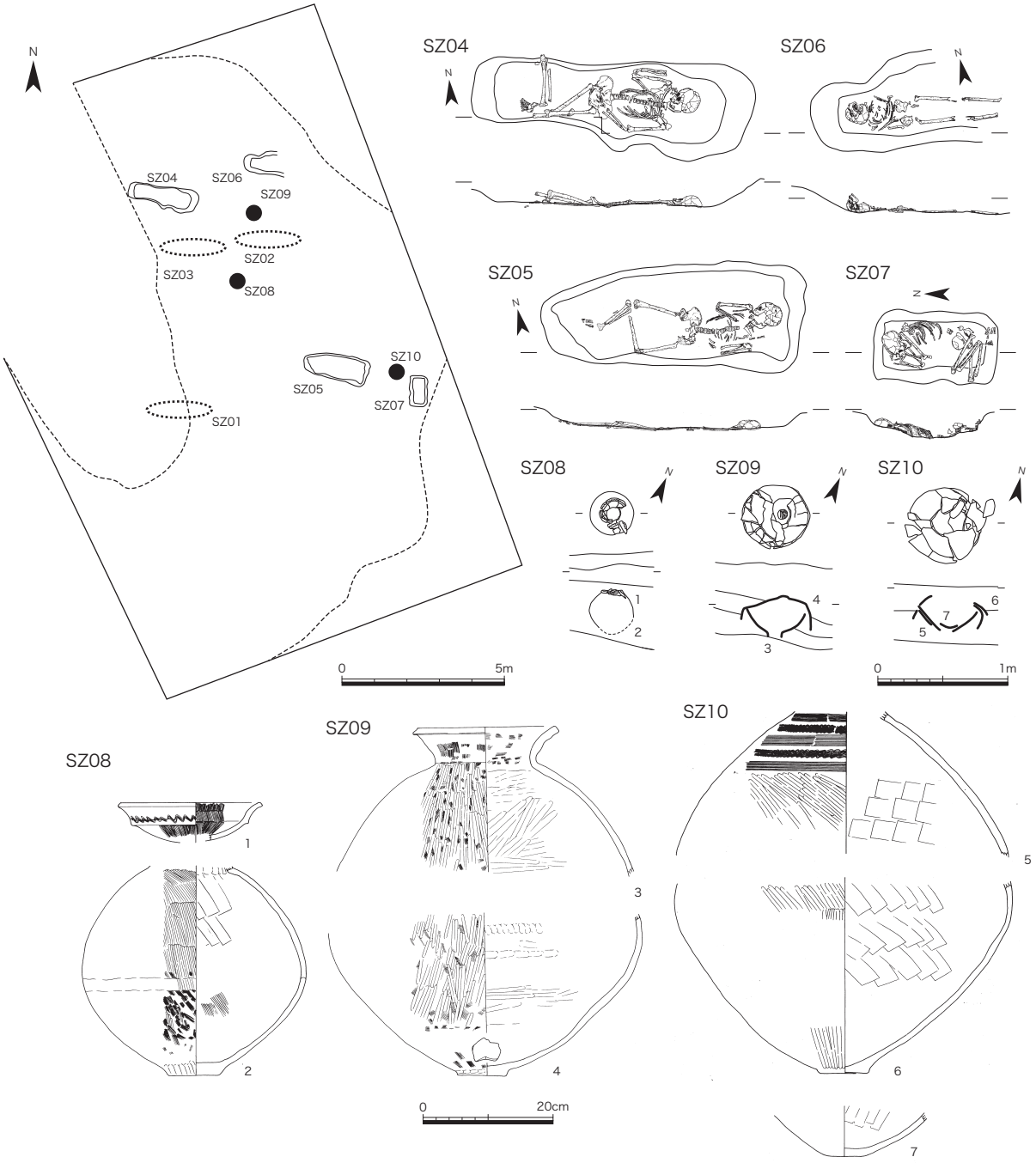
古墳時代前期後半から中期前半にかけて形成された花の木古墳群においては、人骨（歯）、副葬品等は検出されなかったが、検出状況を根拠にして５基の土器埋設遺構を土器棺墓として報告した。土器棺墓とすれば、少なくとも当地域において認識が希薄な古墳時代の埋葬遺構であることは間違いなく、その性格、評価については、他地域との比較検討も必要である。ただ、古墳時代の土器棺墓を扱った研究は少なく、古墳時代前期の岡山県岡山市津寺遺跡の土器棺墓を対象とした亀山行雄、小林利晴の研究（亀山 1995、小林 2002）、東北・関東を主な対象とした神林幸太郎、佐久間正明の研究（神林 2024、佐久間 2025）が管見に触れる程度である。近畿の土器棺墓を扱った中西常雄の研究もあるが（中西 2014）、古墳時代前期の系譜上にある土器棺墓については、ごく簡単に触れられている程度である。以下、花の木古墳群の周辺埋葬、特に土器棺墓の位置を明らかにする基礎作業として、地域、葬法（設置方法）、存在形態（葬地の構成）が関係する土器棺墓を提示し、若干の検討を試みる。

土器棺墓の報告
土器棺墓の研究

伊勢湾東岸（三河）の土器棺墓

伊勢湾東岸（三河）における弥生時代後期の土器棺墓は、豊田市高橋遺跡、西尾市岡島遺跡、同新御堂遺跡等において検出されている（神谷 2004）。高橋遺跡中央区第５次調査 SZ06 は広口壺を正位で埋設した土器棺墓とされるが、詳細な記録がない。岡島遺跡

弥生時代後期
高橋遺跡
岡島遺跡



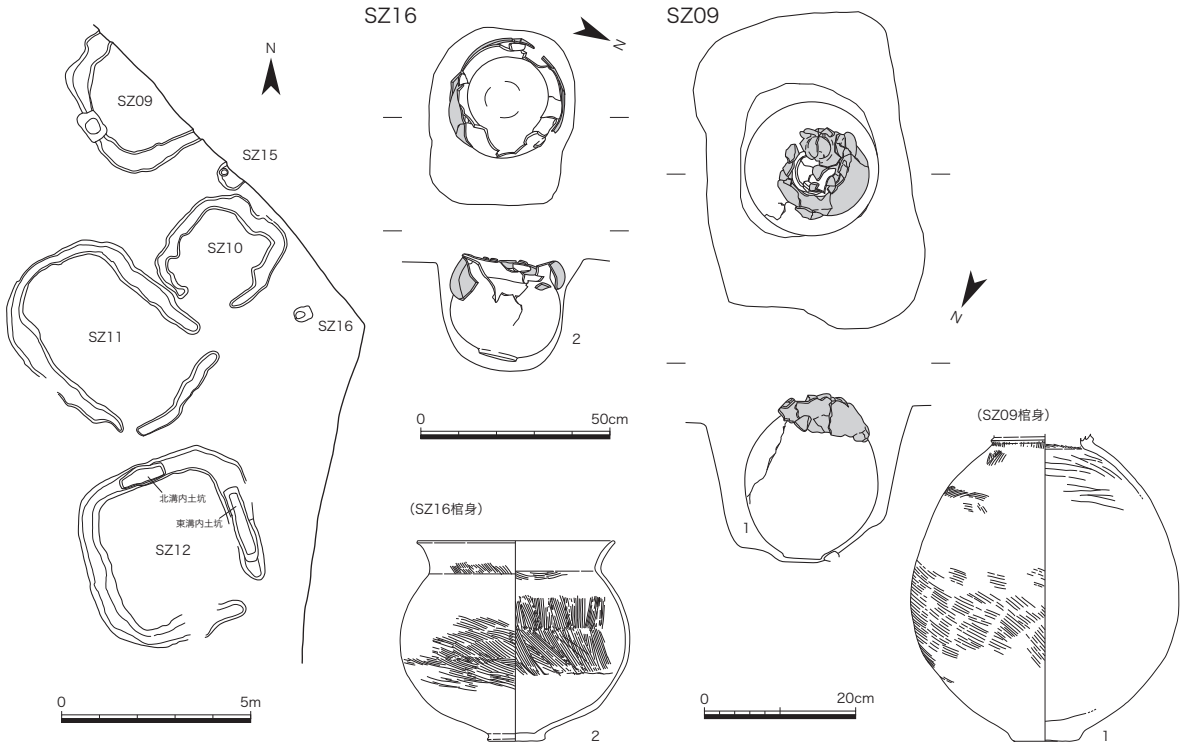

第260図　新御堂遺跡（1:200）と土壙墓・土器棺墓（1:50）、土器棺（1:10）

においては、弥生時代中期後葉の土器棺墓に混在して、弥生時代後期から古墳時代前期の土器棺墓２基が検出されている。SZ27 は大型の加飾広口壺を逆位で埋設した土器棺墓、SZ28 は底部を欠く大型の広口壺を正位で埋設した土器棺墓とされるが、検出状況の詳細な記録がなく、埋設状況等の詳細な検討は難しい。

新御堂遺跡

土壙墓

新御堂遺跡は埋葬人骨を伴う土壙墓群と土器棺墓群から構成される葬地が検出されている（第 260 図）。土壙墓は７基（SZ01 ～ 07）が検出され、埋葬形態は仰臥伸展葬と仰臥屈葬の両者がある。SZ02 は頭位を東(N89° E)とする仰臥伸展葬、SZ03 は頭位を東(N100




第261図　栃原遺跡（1:200）と土器棺墓（1:20)、土器棺（1:10）

°E）とする仰臥屈葬、SZ04 は長軸 2.14m、短軸 0.64m の長方形で、頭位を東（N96°E）とする仰臥屈葬、SZ05 は長軸 2.02m、短軸 0.78m の長方形で、頭位を東（N103°E）とする仰臥屈葬、SZ06 は規模不明の長方形、頭位を西（N80°W）とする仰臥伸展葬、SZ07 は長軸 0.94m、短軸 0.54m の長方形、頭位を北（N0°E）とする仰臥屈葬である。

土器棺墓

土器棺墓は 3 基（SZ08 ～ 10）が検出されている。いずれも埋設時の掘方は確認されていない。SZ08 は棺身として口縁部を打ち欠いた広口壷 (2) を正位で埋設し、高杯杯部 (1) を逆位に被せて棺蓋とする。SZ09 は棺身として、打ち欠いた広口壷の上半（3）を逆位で埋設し、同一個体の下半（4）を逆位に被せて棺蓋とする。SZ10 は棺身として打ち欠いた広口壷の上半（5）を逆位で埋設し、同一個体の下半（6）を逆位に被せて棺蓋とする。さらに、棺身には別個体の壷の底部（7）を置く。

栃原遺跡

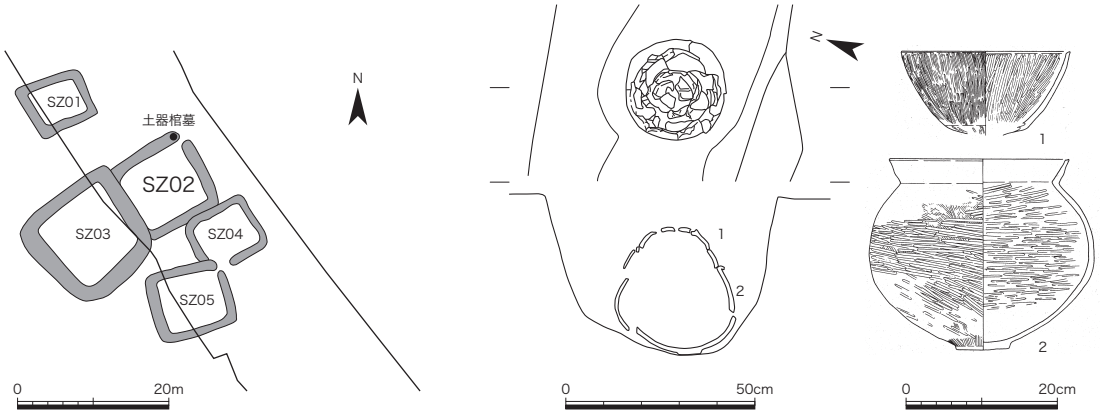
先述した栃原遺跡の土器棺墓は一辺 3.0m 前後の小型の方形周溝墓 SZ09 溝内に 1 基、その周辺に SZ15 と SZ16 の 2 基が検出されている（第 261 図）。時期は弥生時代終末期とされるが、終末期に限定することは難しく、SZ15 は弥生時代後期から終末期、SZ09、SZ16 は弥生時代終末期から古墳時代前期初頭として把握するのが穏当であろう。

SZ09

SZ09 溝内の土器棺墓は長方形の土坑内に棺身として頸部より上位を打ち欠いた広口壷（1）を正位で埋設し、別個体の壷の下半部を逆位に被せて棺蓋とする。棺蓋に混じって、棺身内部から出土した別個体の壷体部片は中蓋として使用された可能性が推定されている。

SZ16

SZ15 は棺身として広口壷を横位で埋設する。SZ16 は棺身として大型の鉢（2）を長方形の土坑内に正位で埋設する。下半を欠く広口壷を正位で被せて棺蓋とした可能性、棺身内部から出土した別個体の壷の体部片を中蓋として使用された可能性も推定されている。




第262図　島田陣屋遺跡（1:1,000）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）

小型の方形集溝墓

近在するSZ10は長軸約2.4m、短軸約2.1mのより小型の方形周溝墓で、小型の方形周溝墓と土器棺墓群で構成される群集形態については、土器棺墓を新生児の埋葬、小型の方形周溝墓を小児の埋葬として、未成人埋葬の集中を想定する向きもある（黒沢2010）。

島田陣屋遺跡

花の木古墳群と同じく豊川流域の上流側に位置する新城市島田陣屋遺跡においては、栃原遺跡と類似する土器棺墓が検出されている（第262図）。土器棺墓は一辺約10.6mの方形周溝墓SZ02の溝内（北東隅の陸橋部付近）に棺身として大型の鉢（1）を正位で埋設し、高杯杯部（2）を逆位に被せて棺蓋とする。時期は弥生時代終末期で、新城市石座神社遺跡の編年の4期に対応する（早野2015）。

設置方法

土坑内正位埋設
三重の棺蓋

花の木古墳群の土器棺墓群中、特に検出状況が良好で、棺身の土坑内正位埋設、三重の棺蓋が特徴的な土器棺墓1の好適な比較対象として、千葉県木更津市高部32号墳、群馬県太田市成塚向山1号墳、茨城県つくば市中台64号墳、千葉県佐倉市岩名4号墳墳丘下の土器棺墓がある。なお、成塚向山1号墳については土器棺としてではなく、「正置された壷」または「据え置き壷」として報告されている。千葉県佐倉市岩名4号墳墳丘下の土器棺墓については、次の葬地の構成と変遷と併せて言及する。

高部32号墳
D土坑
上蓋と下蓋

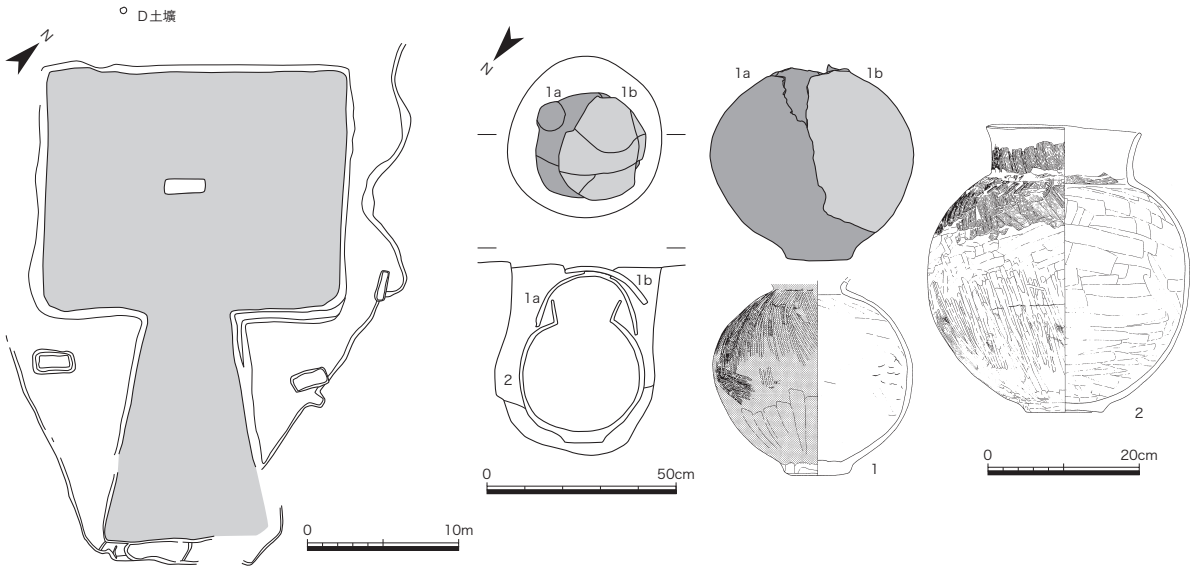
高部32号墳は全長約31.2mの古墳時代前期初頭の前方後方墳で、後方部背後の周溝内のD土壙において土器棺墓が検出されている（第263図）。土器棺墓D土壙は棺身よりわずかに大きい土坑内に壷（2）を正位で埋設し、別個体の壷の頸部以下を縦方向に二分割して上蓋（1b）、下蓋（1a）として被せている。棺身の埋設方法、棺蓋の使用法は花の木古墳群の土器棺墓1に酷似する。

成塚向山1号墳
正置された壷
上蓋、中蓋、下蓋

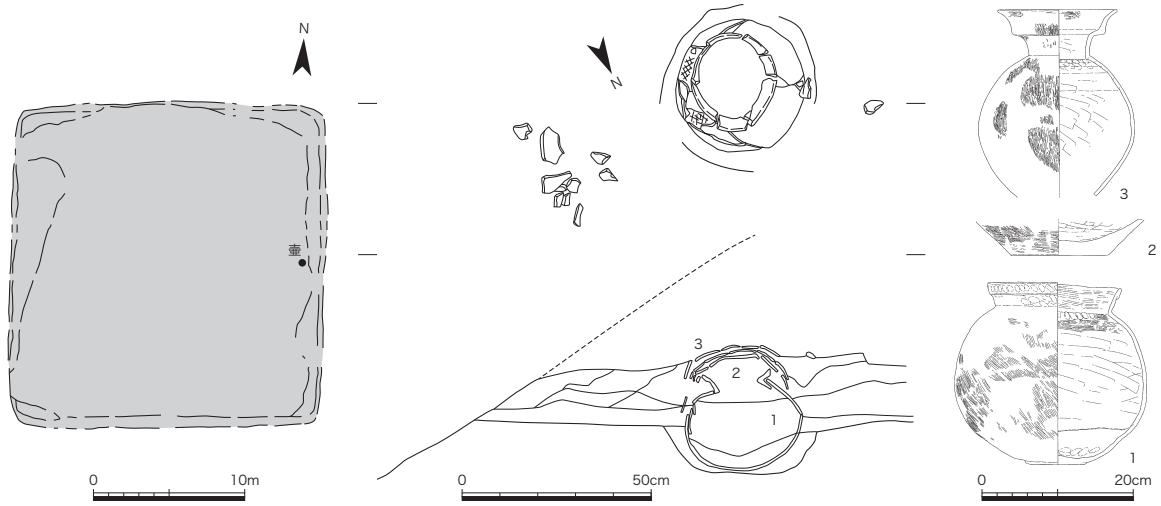
成塚向山1号墳は一辺約21mの前期後半の方墳で、墳丘の一辺（墳丘内）の中央付近に「正置された壷」または「据え置き壷」が検出されている（第264図）。壷（3）は体部下半を土坑内に正位で設置し、下蓋は別個体の壷の底部（2）、中蓋と上蓋として用いられた土器は墳丘下端の土坑から出土した二重口縁壷（1）の口縁部と同一個体であることが判明している。

中台64号墳
下蓋と中蓋

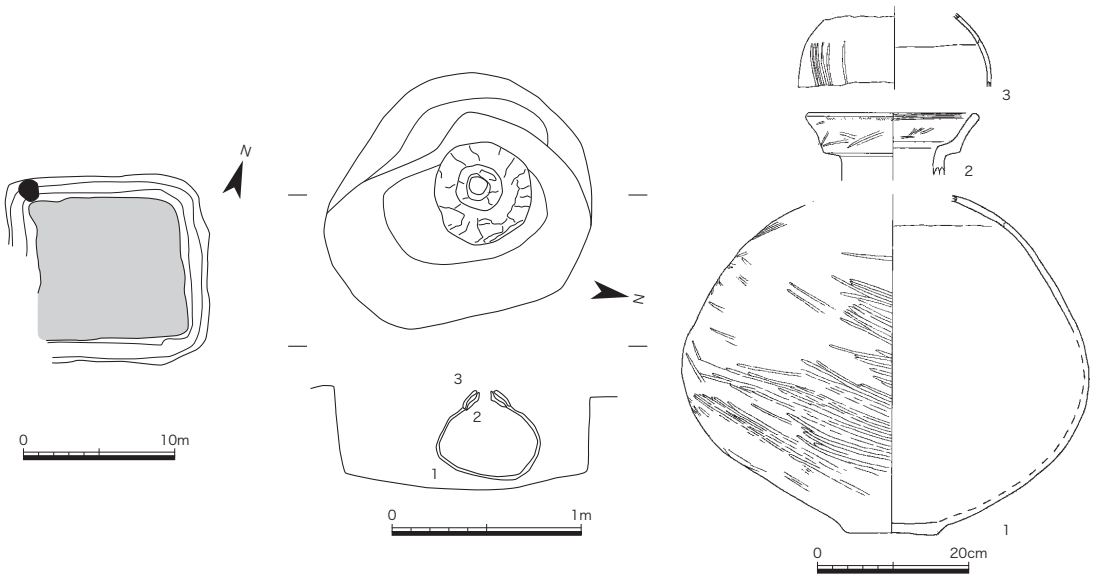
中台64号墳は長軸約9.5m、短軸約9.3mの前期後半の方墳（方形周溝墓）で、周溝内において土器棺墓が検出されている（第265図）。土器棺墓は周溝内に棺身として頸部より上位を打ち欠いた壷を正位で埋設し、二重口縁壷の口縁部を逆位に重ね、さらに壷の




第263図　高部32号墳（1:500）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）




第264図　成塚向山1号墳（1:500）と「正置された壷」（1:20・1:10）




第265図　中台64号墳（1:500）と土器棺墓（1:20）、土器棺（1:10）

体部上半を重ねている。重ねられた壺の口縁部と体部上半は蓋として閉塞する機能を有していないので、それらは下蓋、中蓋として重ねられ、上蓋は削剥によって失われている可能性もある。棺身内部においては少量の骨片が検出されている。

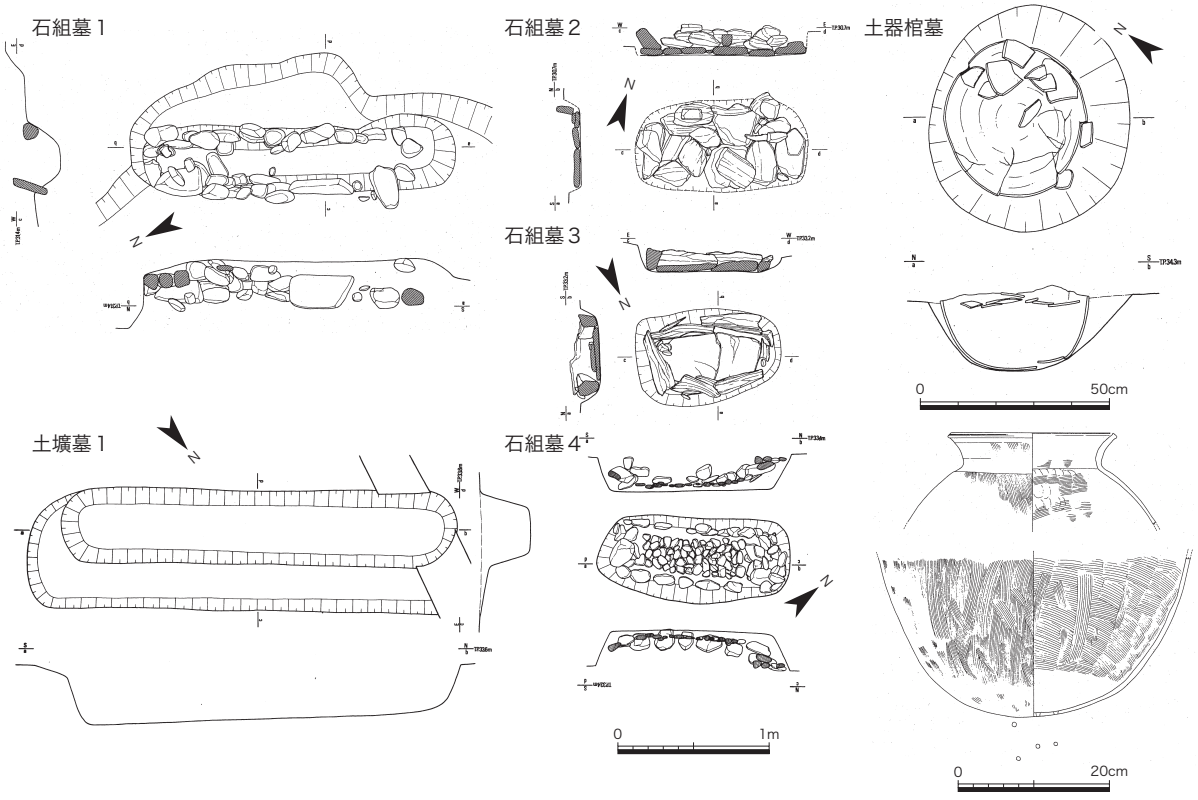
### 葬地の構成と変遷

落合古墳群

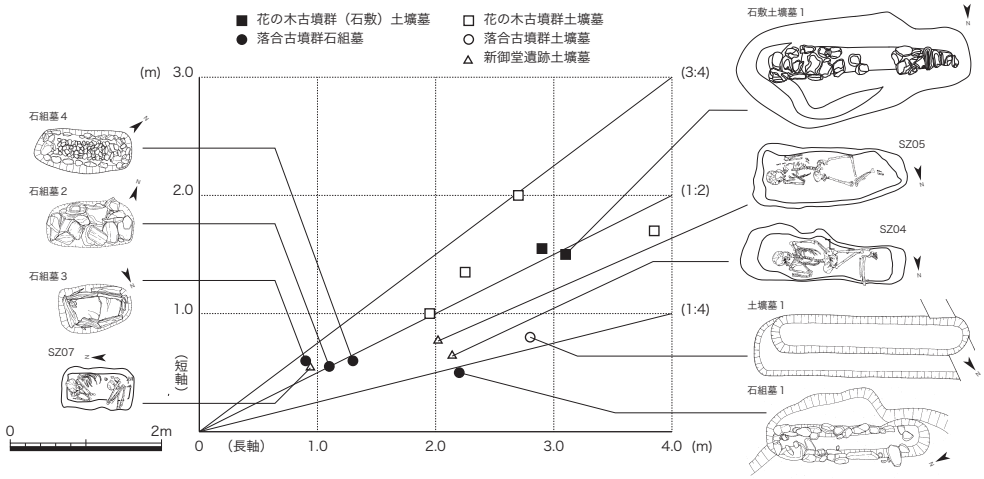
先述した三重県伊勢市落合古墳群は前期後半から後期前半にかけて形成された古墳群で、７基の方墳、３基の円墳、４基の石組墓、２基の土壙墓（７号墳と 10 号墳の周辺において検出された不定形な土坑についても、土壙墓の可能性が示唆されている）、１基の土器棺墓から葬地が構成される。古墳時代中期前半の方墳、石組墓、土壙墓による葬地の構成が花の木古墳群と類似する好例である（第 259・266 図）。

特に石組墓１は花の木古墳群の石敷土壙墓１と酷似する。石組墓と土壙墓の法量は短小な一群（石組墓２・３・４）と、長い一群（石組墓１・土壙墓１）が認められる。新御堂遺跡の土壙墓群とも比較すると、前者が屈葬、後者が仰臥伸展葬に近似するので、法量の差異は埋葬姿勢に起因する可能性が想定される（第 267 図）。

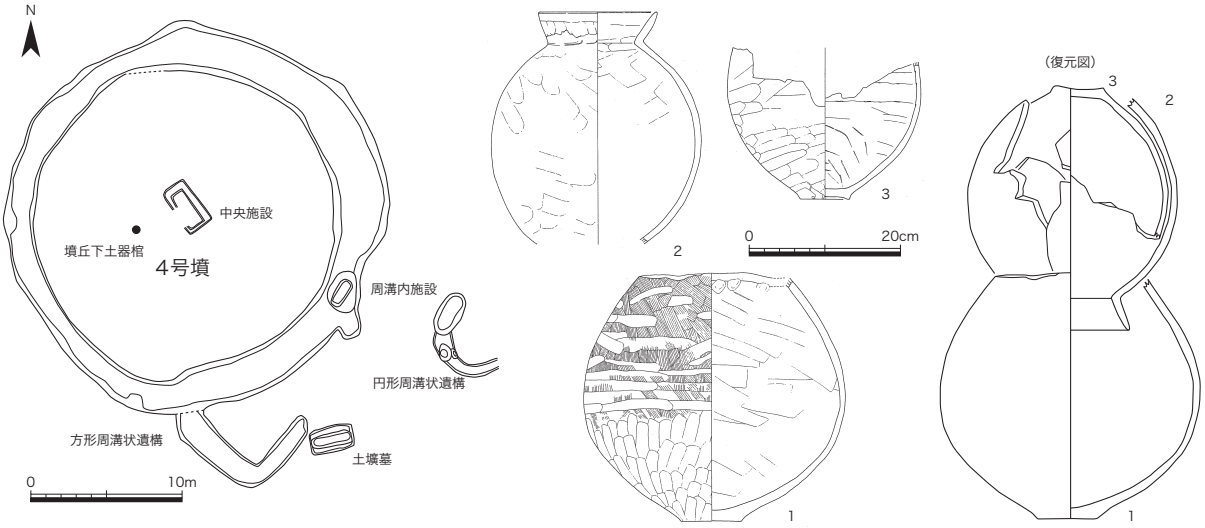
古墳群形成の端緒は前期後半の７号墳で、近接する石組墓１、土壙墓１・２の構築も同時期である可能性が想定されている。土壙墓１と石組墓４が中期後半の１号墳の下位において検出されていることからも、古墳以外の埋葬遺構が先行する状況が確認される。その後、中期前半までは方墳のみが築造され、中期後半には墳形が方墳から円墳に転換する。土器棺墓は土坑内に古墳時代後期前半の土師器伊勢型甕を正位で埋設する。古墳以外の周辺埋葬施設に副葬品は認められない。




第266図　落合古墳群の石組墓と土壙墓（1:50）、土器棺墓（1:20）と土器棺（1:10）




第267図　土壙墓等の規模の比較




第268図　岩名４号墳（1:500）と土器棺（1:10）

同じく先述した鞍岡山２号墳の周辺においても土壙墓３基と土器棺墓１基が検出されている。土壙墓の１基（SX01）は後期後半の須恵器を伴う。土器棺墓は布留式の直口壷を合口にして埋設する（第 254 図）。北原古墳においては、周溝内の北西隅付近で有段口縁甕を棺身とした土器棺墓（供献土器）が検出されている（第 248 図）。

鞍岡山２号墳

北原古墳

千葉県佐倉市岩名４号墳は古墳時代中期後半の径約 21m の円墳で、墳丘下において前期後半（五領式新相）の土器棺墓が検出されている（第 268 図）。土器棺墓は棺身として頸部より上位を打ち欠いた平底甕をやや斜めに設置し、底部を打ち欠いた甕を逆位にして棺蓋とし、さらに打ち欠いた平底甕の体部下半から底部を壷と入れ子状に重ねた状況が推定復元されている。棺身の平底甕内においてはガラス玉４点が検出されている。土器棺墓は岩名古墳群の造営に先行し、続く前期に小規模な方形墳（岩名町前遺跡方形周溝状遺構）、前期後半から中期前半にかけて土壙墓（岩名町前遺跡）、一辺約 14m の方墳の３号墳、一辺約 24m の方墳の２号墳、その後、中期後半に４号墳の築造に至る。

岩名４号墳

## 小結

葬地の構成

花の木古墳群の葬地の構成は伊勢湾東岸（三河）の諸例との比較において、土壙墓群と土器棺墓群による葬地の構成、加えて土壙墓の形状や埋葬頭位が弥生時代後期の新御堂遺跡とも類似する状況が認められた。また、小規模な方形墳に付随しての土器棺墓群の設営、単棺の正位または斜位埋設、別個体の土器の一部を転用した棺蓋は、終末期前後の栃原遺跡、島田陣屋遺跡と共通する。栃原遺跡 SZ16 と島田陣屋遺跡の土器棺墓は大型の鉢を使用し、新御堂遺跡 SZ08、島田陣屋遺跡の土器棺墓は高杯杯部を逆位にして棺蓋とする。弥生時代終末期には壷に加えて同時期に組成する大型鉢が転用されることも少なくなかったと思われ、高杯の棺蓋としての利用は古墳時代前期初頭以降、杯部法量の縮小に伴い、それが低調になったのであろう。

土器棺墓の設営

土器棺の器種

土器棺墓の設置

土器棺墓の設置方法については、弥生時代後期以前は掘方が明確でない場合も多い（新御堂遺跡等）。弥生時代終末期から古墳時代前期初頭には方形周溝墓、方墳の溝内が利用されるようになる（島田陣屋遺跡、高部 32 号墳、中台 64 号墳）。栃原遺跡においては、方形周溝墓溝内に土坑を設けて土器を埋設した SZ09、方形周溝墓付近に土器棺専用の土坑を掘削して土器を埋設した SZ16 が混在することから、弥生時代終末期を前後して、土器棺を埋設するための土坑の掘削（掘方）が明確化し、方形周溝墓の溝内から分離する傾向も顕在化する。古墳時代前期初頭の高部 32 号墳Ｄ土壙もその変化の過程に位置し、その後、前期後半の成塚向山 1 号墳の「正置された壷」の埋設にも推移する。花の木古墳群における土器棺墓の設置方法についても、弥生時代終末期から古墳時代前期の伊勢湾東岸（三河）以外の各地の諸例にも照らしつつ、その連続した推移の系譜上にあることが理解される。現状においては、関東地方との関係も十分に看取されるが、より多くの事例を詳細に検討する必要がある。

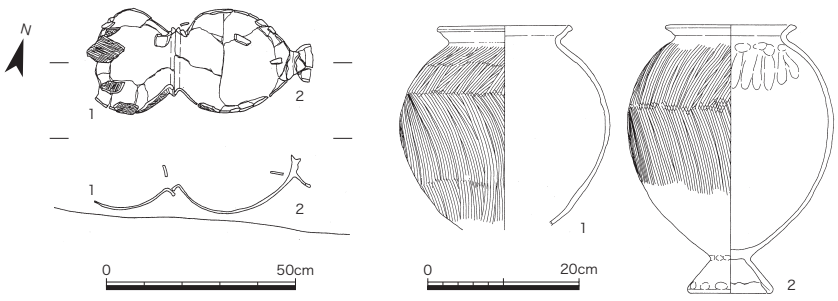
関東地方との関係

西野遺跡（古墳群）

他方、鞍岡山２号墳の土器棺に加えて、古墳時代中期前半の三重県四日市市西野遺跡（古墳群）の土器棺墓 SX02（第 269 図）は、Ｓ字甕Ｄ類新段階（1）と宇田型甕 1 類（2）を合口に埋設していることを踏まえると、中期前半には東海以西に合口の土器棺墓が顕在化し、前期までの葬法、土器棺の埋設方法が中期にかけて大きく変化している可能性もある。同時に落合古墳群の土器棺墓が示すように、土坑内正位埋設も後期前半まで併存するようである。

葬地の構成と変遷

古墳群における周辺埋葬を含めた葬地の構成については、落合古墳群や岩名古墳群のように、古墳時代中期の古墳群（初期群集墳）に土壙墓、土器棺墓が先行して古墳時代前期




第269図　西野遺跡（古墳群）土器棺墓SX02（1:20）と土器棺（1:10）

に設営される状況も認められた。成塚向山１号墳の「正置された壷」も土器棺墓の設営後に古墳（１号墳）が築造されたことを示すのであろう。以上の土壙墓、土器棺墓を含めた葬地の構成、変遷を踏まえた花の木古墳群の形成過程は本章（６）において総括する。

### 12）花の木古墳群の位置

以上、花の木古墳群から派生する問題は多岐に及び、それぞれに意義深い内容を包摂する。これらの意義は別個に存在するのではなく、地域性、時代性、あるいは政治性を帯びつつ、相互に深く関係しながら、古墳時代の特質を反映していることは明らかであろう。

古墳群の意義

古墳時代の特質

［参考文献］


青木　敬　2003『古墳築造の研究』六一書房

諫早直人　2010「日本列島初期の轡の技術と系譜」『考古学研究』第56巻第４号　考古学研究会

諫早直人　2023「熊田山北古墳群Ｂ地区１号墳出土渡来系遺物からみた熊田山北古墳群造営集団」『熊田山北古墳群Ｂ地区』各務原市埋蔵文化財調査報告書第56号　各務原市埋蔵文化財調査センター

石黒立人　2006「「伊勢湾周辺地域における方形周溝墓に関わる問題」覚書'05」『第13回東海考古学フォーラム　墓場の考古学』第13回東海考古学フォーラム実行委員会

伊藤雅文　2008「中部地方出土の蛇行剣」『古代学研究』第180号　古代学研究会

岩原　剛　2011「豊川左岸における前・中期小型墳の様相」『豊橋市美術博物館研究紀要』17号　豊橋市美術博物館

魚津知克　2017「鉄製農具」『モノと技術の古代史　金属編』吉川弘文館

宇垣匡雅　1997「前期古墳における刀剣副葬の地域性」『考古学研究』第44巻第１号　考古学研究会

大賀克彦　2002「弥生・古墳時代の玉」『考古資料大観９　弥生・古墳時代　石器・石製品・骨角器』小学館

大賀克彦　2013「玉類」『古墳時代の考古学４　副葬品の型式と編年』同成社

大賀克彦　2023「玉からみた「伝世」―緑色凝灰岩製勾玉を例に―」『器物の「伝世・長期保有」「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成と維持』2019～2022年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書　島根大学文学部

大谷宏治　2004「鉄鉾について」『寺山古墳群』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第149集　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

岡林孝作　2018『古墳時代棺槨の構造と系譜』同成社

沖野　誠　2017「宮崎県都城市所在築地遺跡出土の蛇行剣（１）」『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第13号　宮崎県立西都原考古博物館

片平雅俊　2021「茨城県域での初期馬具の事例・行方市（旧麻生町）城口遺跡―茨城県域における古墳時代馬具の研究(9)―」『茨城県考古学協会誌』第33号　茨城県考古学協会

神谷友和　2004「土器棺墓と方形周溝墓」『新編安城市史』10　資料編　考古　安城市

亀山行雄　1995「土器棺墓について」『津寺遺跡２』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98　岡山県教育委員会

川畑　純　2009「前・中期古墳副葬鏃の変遷とその意義」『史林』第92巻第２号　史学研究会

川畑　純　2013「古墳時代の矢の構造」『考古学研究』第60巻第１号　考古学研究会

神林幸太郎　2024「古墳時代前期の土器埋設遺構を考える―福島県高木遺跡の事例から―」『考古学論究』第23号　立正大学考古学会

北山峰生　1999a「蛇行剣の集成」『石ノ形古墳』袋井市教育委員会

北山峰生　1999b「副葬された蛇行剣―意義と特質に関する予察―」『石ノ形古墳』袋井市教育委員会

北山峰生　2003「蛇行剣の分布と変遷」『考古学ジャーナル』No.498　ニュー・サイエンス社

楠本哲夫　1986「蛇行剣出土地名表」『宇陀　北原古墳』大宇陀町文化財調査報告書第１集　大宇陀町・奈良県立橿原考古学研究所

黒沢　浩　2010「栃原遺跡における方形周溝墓群の構成」『栃原遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集　豊田市教育委員会

小林利晴　2002「岡山県内の土器棺墓」『環瀬戸内海の考古学―平井勝氏追悼論文集―』古代吉備研究会

佐久間正明　2025「墳丘と埋葬施設の特徴」『正直古墳群―総括報告書―』郡山市教育委員会

沢田むつ代　2008「古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き―繊維などの種類と仕様―」『MUSEUM』第617号　東京国立博物館

沢田むつ代　2015「古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例」『文化財と技術』第７号　特定非営利活動法人工芸文化研究所

沢田むつ代　2017「島内地下式横穴墓より出土した遺物に付着する繊維等について」『島内地下式横穴墓群Ⅴ　灰塚地下式横穴墓群』えびの市埋蔵文化財調査報告書第54集　えびの市教育委員会

鈴木一有　2005a「蕨手刀子の盛衰」『待兼山考古学論集―都出比呂志先生退任記念―』大阪大学考古学研究室

鈴木一有　2005b「鉄器の受容からみた古墳時代中期の東海」『考古学フォーラム』17　考古学フォーラム

繰納民之　2023「武器・農工具からみる熊田山北B1号墳の性格と美濃の鉄器副葬」『熊田山北古墳群Ｂ地区』前傾
滝沢　誠　2014「古墳時代前半期における小型古墳の性格―小土坑をともなう埋葬施設の検討―」『筑波大学先史学・考古学研究』第25号　筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻
瀧瀬芳之　2020「入西石塚古墳出土の刀剣と鉾について」『入西石塚古墳出土遺物整理報告書』坂戸市教育委員会
田中俊輔　2010「弥生時代後期～終末期の集落」『栃原遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集　豊田市教育委員会
谷澤亜里・田村朋美　2023「熊田山北古墳群Ｂ地区出土玉類の位置づけ」『熊田山北古墳群Ｂ地区』前掲
玉城一枝　1994「古墳構築と玉使用の祭祀」『博古研究』第８号　博古研究会
都出比呂志　1967「農具鉄器化の二つの画期」『考古学研究』第13巻第３号　考古学研究会（都出比呂志　1991「農具鉄器化の諸段階」『日本農耕社会の成立過程』岩波書店に改稿）
中嶋郁夫　2001「主体部」『静岡県の前方後円墳―総括編―（静岡県内前方後円墳発掘調査事業報告書その１）』静岡県文化財調査報告書第55集　静岡県教育員会
中西常雄　2014「近畿地方土器棺の研究」『古文化談叢』第72集　九州古文化研究会
楢崎彰一　1965「岐阜市長良龍門寺古墳群」『名古屋大学文学部研究論集XXXVIII　史学13』名古屋大学文学部
西島庸介　2012「古墳出現前後の三河」『東海の古代３　尾張・三河の古墳と古代社会』同成社
西村勝広　2023「熊田山北古墳群の墳丘盛土工法」『熊田山北古墳群Ｂ地区』前掲
林　正憲　2003「滑石製玉類の出現とその意義」『史跡昼飯大塚古墳』大垣市埋蔵文化財調査報告書第12集　大垣市教育委員会
早野浩二　2015「弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年」『石座神社遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
広瀬和雄　1992「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成　近畿編』山川出版社
深谷　淳　2012「白山薮古墳の研究―特異な埋葬施設と豊富な副葬品をもつ前期古墳―」『東海の古代３　尾張・三河の古墳と古代社会』同成社
福永伸哉　2000「古墳における副葬品配置の変化とその意味―鏡と剣を中心にして―」『待兼山論叢』第34号　史学篇　大阪大学大学院文学研究科
森　泰通　2025「横穴式石室導入期の竪穴式石室―豊田市神明社古墳の歴史的意義―」『三河考古』第34号　三河考古学談話会
守田　悠　2023「熊田山北B-1号墳出土鎹からみた木棺の復元」『熊田山北古墳群Ｂ地区』前掲
用田政晴　1980「前期古墳の副葬品配置」『考古学研究』第27巻第３号　考古学研究会
朴　美子　1986「埋葬施設底部における土坑・溝に関する若干の考察」『宇陀北原古墳』前掲
鄭仁郁・呉東壎・尹享準　2021「古代日韓における古墳築造技法の比較検討―嶺南・湖南地域と日本の大型封土墳を中心に―」『日韓文化財論集IV』奈良文化財研究所学報第100冊　奈良文化財研究所

## ［遺跡文献］

［茨城県つくば市］中台64号墳：財団法人茨城県教育財団　1995『(仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書　中台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第102集
［茨城県行方市］公事塚１号墳：麻生町教育委員会・公事塚古墳群発掘調査会　1989『常陸公事塚古墳群』
［茨城県行方市］城口遺跡：麻生町教育委員会・城口遺跡調査会　2001『城口遺跡調査報告書』
［群馬県太田市］成塚向山１号墳：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2008『成塚向山古墳群　太田地域における前期古墳の調査』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第426集
［千葉県木更津市］高部32号墳：木更津市教育委員会　2002『高部古墳群Ⅰ―前期古墳の調査―』千束台遺跡群発掘調査報告書VI
［千葉県佐倉市］岩名４号墳：財団法人千葉県文化財センター　2005『佐倉印西線（緊急地方道路整備）埋蔵文化財調査報告書2―佐倉市岩名古墳群―』千葉県文化財センター調査報告書第520集
［東京都世田谷区］野毛大塚古墳：世田谷区教育委員会・野毛大塚古墳調査会　1999『野毛大塚古墳』
［長野県上田市］東平２号墳：長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター　1999『上信越自動車道埋蔵文化財調査報告書21―上田市内・坂城町内―　大日ノ木　七ツ塚古墳群　染屋台条里　陣馬塚古墳　宮平　上原古墳群　山崎古墳群　山崎　山崎北　東平古墳群　土井ノ入窯跡　観音平経塚　小山製鉄』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書41
［岐阜県岐阜市］龍門寺15号墳：岐阜市教育委員会　1969『岐阜市埋蔵文化財調査報告書』第２輯
［岐阜県大垣市］昼飯大塚古墳：大垣市教育委員会　2003『史跡昼飯大塚古墳』大垣市埋蔵文化財調査報告書第12集
［岐阜県各務原市］熊田山北古墳群：八賀　晋　1969「岐阜県考古資料　岐阜県各務原市蘇原町天王神社古墳出土遺物」『岐阜史学』第56号　岐阜史学会／各務原市　1983『各務原市史』考古・民俗編　考古／各務原市埋蔵文化財調査センター　2008『熊田山北古墳群発掘調査報告書』各務原市埋蔵文化財調査報告書第48号／各務原市埋蔵文化財調査センター　2023『熊田山北古墳群Ｂ地区発掘調査報告書』各務原市埋蔵文化財調査報告書第56号
［静岡県磐田市］堂山古墳：磐田市教育委員会　1995『遠江堂山古墳』
［静岡県磐田市］新豊院山Ｄ２号墳：磐田市教育委員会　2006『新豊院山古墳群　Ｄ地点の発掘調査』新豊院山遺跡発掘調査報告書III
［静岡県袋井市］五ヶ山B2号墳：浅羽町教育委員会　1999『五ヶ山B2号墳』
［愛知県名古屋市北区］白山藪古墳：南山大学人類学研究所　1977『白山薮古墳発掘調査報告』
［愛知県名古屋市守山区］松ヶ洞19号墳：株式会社ハウス・サポート・株式会社Ｃ-ファクトリー　2021『松ヶ洞19号墳発掘調

査報告書』
［愛知県豊橋市］洗島１号墳：豊橋市教育委員会　2008『洗島遺跡・洗島１号墳』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第95集／豊橋市教育委員会　2009『洗島遺跡(II)・西側遺跡(IV)・眼鏡下池北遺跡(II)・中郷西遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第107集
［愛知県豊橋市］稲荷山古墳群：豊橋市教育委員会　2010『浪ノ上(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
［愛知県豊橋市］境松遺跡：豊橋市教育委員会　2018『境松遺跡(VIII)・若宮遺跡(XI)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第147集
［愛知県豊橋市］高井（日南坂）１号墳：豊橋市教育委員会　2002『日南坂１号墳・神ヶ谷遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第70集
［愛知県豊橋市］浪ノ上１号墳：豊橋市教育委員会　2010『浪ノ上(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
［愛知県豊橋市］西側北古墳群：豊橋市教育委員会　2007『中郷西遺跡・西側北遺跡・西側北１号墳』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第99集
［愛知県豊橋市］眼鏡下池北遺跡：豊橋市教育委員会　2010『西側遺跡(VII)・西側古墓群(III)・洗島遺跡(III)・眼鏡下池北遺跡（V）・中郷遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第114集
［愛知県一宮市］門間沼遺跡：財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　1999『門間沼遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第80集
［愛知県豊川市］小金古墳：豊川市教育委員会　2025『船山第１号墳　小金古墳』
［愛知県豊川市］国分寺北遺跡：豊川市教育委員会　2011『国分寺北遺跡Ⅰ』
［愛知県豊川市］年長古墳群：愛知大学考古学研究会　1964『郷土考古学展　三河一宮足山田55号古墳　豊清町比舎古古窯群』／大参義一　1969「愛知県宝飯郡足山田55号墳」『日本考古学年報』17　日本考古学協会／一宮町　1976『一宮町誌』
［愛知県豊川市・新城市］旗頭山尾根17号墳：岩原　剛　2017「東三河、中・東濃」『積石塚大全』雄山閣
［愛知県豊田市］高橋遺跡：豊田市教育委員会　2015『高橋遺跡　中央区・南西区』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第66集
［愛知県豊田市］栃原遺跡：豊田市教育委員会　2010『栃原遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集
［愛知県豊田市］不動１・２号墳：豊田市教育委員会　2001『不動１・２号墳　山ノ神古墳　神明社古墳』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集
［愛知県西尾市］岩場古墳：鈴木敏則　1994「岩場古墳の鉄製品」『ホリデー考古』第10号　ホリデー考古刊行会
［愛知県西尾市］岡島遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1993『岡島遺跡II　不馬入遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第43集
［愛知県西尾市］新御堂遺跡：西尾市教育委員会　1995『貝ス遺跡・新御堂遺跡』西尾市埋蔵文化財発掘調査報告書第３集
［愛知県小牧市］三ツ山古墳群：小牧市教育委員会　1980『三ツ山古墳群発掘調査報告書』
［愛知県新城市］島田陣屋遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1995『島田陣屋遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第58集
［愛知県愛西市］川田遺跡：財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2002『川田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第103集
［三重県四日市市］西野遺跡・西野古墳群：四日市市遺跡調査会　2003『西野遺跡　西野古墳群』四日市市埋蔵文化財調査報告書XIX
［三重県伊勢市］落合古墳群：三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1992『近畿自動車道（勢和～多気）埋蔵文化財発掘調査報告―第７分冊―　落合古墳群』三重県埋蔵文化財調査報告101―７
［京都府相楽郡精華町］鞍岡山２号墳：京都府埋蔵文化財調査研究センター　2010「八幡木津線関係遺跡発掘調査報告（鞍岡山２号墳・片山遺跡・下馬遺跡）」『京都府遺跡調査報告集』第140冊
［大阪府堺市堺区］七観古墳：七観古墳研究会　2014『七観古墳の研究―1947年・1952年出土遺物の再検討』
［大阪府茨木市］紫金山古墳：京都大学大学院文学研究科　2005『紫金山古墳の研究―古墳時代前期における対外交渉の考古学的研究―（課題番号：14310186）』平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究（B)(2)）研究成果報告書
［大阪府藤井寺市］アリ山古墳：大阪大学文学部国史研究室　1964『河内における古墳の調査』大阪大学文学部国史研究室研究報告第一冊
［兵庫県加古川市］行者塚古墳：加古川市教育委員会　1997『行者塚古墳発掘調査概報』加古川市文化財調査報告書15
［奈良県宇陀市］後出古墳群：奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所　2003『後出古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書第61冊
［奈良県宇陀市］北原古墳：大宇陀町・奈良県立橿原考古学研究所　1986『宇陀北原古墳』大宇陀町文化財調査報告第１集
［奈良県磯城郡川西町］島の山古墳：奈良県立橿原考古学研究所　2019『島の山古墳―前方部埋葬施設の調査―』奈良県文化財調査報告第183集
［福岡県福津市］手光北６号墳：福間町教育委員会　1999『手光古墳群II　手光北６号墳　福岡県宗像郡福間町大字手光所在古墳の調査』福間町文化財調査報告書第15集
［福岡県糸島市］三雲遺跡：福岡県教育委員会　1983『三雲遺跡』福岡県文化財調査報告書第65集
［韓国忠清北道清州市］新鳳洞古墳群：忠北大学校博物館・清州市　1995『清州新鳳洞古墳群』調査報告第44冊

## （２）花の木遺跡における弥生時代中期から後期の土器編年

### １）土器編年の意義と課題

土器編年の意義

弥生時代中期後葉から後期における花の木遺跡の集落動態を明らかにする際の前提として、遺跡出土土器の編年を提示する。遺跡は弥生時代中期後葉から後期に継続し、遺構単位で一定量の土器が出土しているので、従来、不明確であった同時期の土器編年に資する部分も大きいと思われる。

５期区分
弥生時代後期
弥生時代中期後葉

編年は集落の変遷に即した５期区分としたが、中期後葉の遺構と遺物は相対として少なく、後期に安定して継続する器種もほとんどないので、主に弥生時代後期を対象として検討した。中期後葉から後期への接続にはなお大きな課題が残る。

### ２）器種（形式）分類

構成

弥生時代中期後葉から後期の土器は、甕、壷、鉢、蓋、高杯、器台各種から構成される。最初に器種（形式）分類を提示する（第 270 図、第 16 表）。

甕
壷
鉢
蓋

甕はほぼ全てが脚台を付した台付甕で（平底の底部は未確認）、口縁部の形状から「く字状口縁台付甕（く字甕）」、「有段口縁台付甕（有段口縁甕）」に区分した。壷は中期後葉を主体とする「細頸壷」、大型を主体とする「広口壷」、中型を主体とする「直口壷」と「長頸壷」がある。鉢は「大型鉢」と各種の「中型鉢」、「小型鉢」がある。その他、「有段浅鉢（手焙形土器）」、蓋がごくわずかに認められる。

高杯

高杯は杯部に段を有し、大型を主体とする「有段高杯」、杯部がワイングラス形、椀（鉢）形で小型を主体とする「小型高杯」が多くを占める。その他、全形は不明であるが、凹線文系の「鍔付鉢状杯部高杯」と「鉢状杯部高杯（口縁部が抽出されるのみで、鉢との弁別は不可能である）」、「皿（盤）状杯部高杯」、「小型有段高杯」、「椀形高杯」がある。

### ３）器種（形式）の細別、型式分類と組列

#### く字状口縁台付甕（「く字甕」または単に「甕」）

三河系と凹線文系
型式変化

く字状口縁台付甕は中期後葉の三河系の甕Ａ、凹線文系の甕Ｂが併存し、両者の系譜を受けた甕Ｃが後期に盛行する。甕Ａ、甕Ｂとの関係を前提とすれば、型式変化の方向性として、口縁部の伸長化、相対的な頸部径の縮小と体部径の増加、体部内面のヘラケズリの範囲の縮小、消失等が想定される。形態、技法上の相関関係を明確に示すことは難しいが、

甕Ｃ１
甕Ｃ２
型式変化

全体的な形状から、口縁部が短く緩やかに外反し、体部がほとんど張らない「Ｃ１」、口縁部がやや長く屈曲気味に外反し、体部が張る「Ｃ２」に区分する。原則的にはＣ１からＣ２への推移が想定される。加えてＣ２については、器壁全体が薄くなる傾向が認められる。

脚台の分類
脚台a・b
脚台c・d
脚台a1・a2
脚台b1・b2

全形の把握が可能な甕は少ないので、口縁部から体部の形態との相関を考慮しつつ、脚台を全体に内彎する脚台「a」、直線的または、やや外反する脚台「b」、直線的または、やや外反し、全体に重厚な脚台「c」、底部（脚台頂部）が平坦で比較的薄い脚台「d」に分類した。脚台ａは甕Ａの柱状中実の部位から内彎して大きく開く形状からの変化が想定されるので、底部が厚い脚台を「a1」、薄い脚台を「a2」に細分した。脚台ｂは口縁部、体部との相関を考慮すれば、高い脚台から低い脚台への変化が想定されるので、相対として脚高が高い脚台「b1」、脚高が低い「b2」に細分した。全体に重厚な脚台「c」は、脚端部にかけて器壁が薄くなる脚台ｂと区別した。全体の器形から、尾張の山中式の台付

「山中型」甕

甕（「山中型」甕）との関連が想定される。

有段口縁甕

有段口縁甕は平底の可能性もあるが、多くは台付甕と考えられる。その場合、広義の伊勢・濃尾系として把握される。波状文や直線文等の加飾がある「有段口縁甕Ａ」と加飾がない「有段口縁甕Ｂ」に区分する。

伊勢・濃尾系
有段口縁甕Ａ
有段口縁甕Ｂ

広口壷

広口壷は口縁部が単純に外反する「広口壷Ａ」、受口状口縁の外面に凹線文を配する「広口壷Ｂ」、口縁端部の面を拡張、垂下し、擬凹線文を施す「広口壷Ｃ（加飾広口壷）」、口縁部が有段状の「広口壷Ｄ」に区分する。広口壷Ｃの口縁端部の文様帯は、折り曲げによって垂下する一群と断面三角形状、舌状の突帯を付加して垂下口縁を形成する一群がある。前者を「Ｃ１」、後者を「Ｃ２」とする。弥生時代中期後葉からの変化を前提とすれば、Ｃ１からＣ２への推移が想定される。その他、広口壷については頸部の屈曲化、口縁部高が低下し、頸部が広径化する傾向が認められる。

広口壷Ａ・Ｂ
広口壷Ｃ
広口壷Ｄ
広口壷Ｃ１・Ｃ２

鉢・蓋

「大型鉢」は口縁部が内傾し、体部は下膨れの形態を呈する。口縁部が短く外折する鉢状の器形を法量に応じて「中型鉢Ａ」、「小型鉢Ａ」とした。器形や調整は甕に類似する（薄い器壁から甕Ｃ２との関連が想定される）。口縁部が縁帯状の鉢を「中型鉢Ｂ」とした。大型鉢、中型鉢Ｂは安定して組成しないが、後者は豊橋市森岡遺跡 SK14（第 273 図 18）に類例がある。

大型鉢
中型鉢・小型鉢

三河に通有の笠状を呈する台付甕の蓋（森 2024 等）は認められない。鉢状の器形に低い脚を付した脚付鉢である可能性もあるが、豊川市駒場遺跡Ｆ地点の蓋（第 273 図 21）を参考にして、伏鉢状の器形に低い摘みを付した蓋として分類した。

台付甕の蓋
駒場遺跡Ｆ地点

有段高杯

有段高杯はほぼ有段高杯Ａで占められ、杯部の形状により、杯部上段が直線的、わずかに外反する「Ａ１」、杯部上段が大きく外反する「Ａ２」、杯部下段が著しく深い（高い）「Ａ３」、杯部の段がほとんど消失した「Ａ４」に区分した。台付甕と同様、全形の把握が可能な有段高杯は少ないので、杯部との相関を考慮しつつ、脚部が全体に太く低い脚部を「a」、長く大きく開く脚部を「b」に分類した。脚部ａは概ね皿（盤）状杯部高杯、有段高杯Ａ１との対応が想定される。脚部ｂは透孔の位置等を考慮し、透孔が低い位置に配される「b1」、高い位置に配される「b3」、b1 と b3 の中間に配される「b2」に細分した。透孔の相対的な高低には透孔の大小が対応する傾向にある。脚部 b1 は透孔がない、または小さい透孔、脚部 b3 は大きい透孔、脚部 b2 はその中間的な大きさの透孔が多い。原則的にはＡ１からＡ２、Ａ２からＡ３、Ａ４、脚部はａからｂに推移し、透孔の位置の上昇、大きさの拡大、b1 から b2、b2 から b3 に推移することが想定される。

有段高杯Ａ
Ａ１・２・３・４
脚部の分類
脚部a
脚部b
脚部b1・b2・b3
透孔の有無
透孔の大きさ
型式組列

小型高杯

小型高杯は上位の柱状部から脚が低い位置で大きく開く「小型高杯Ａ」、杯部がいわゆるワイングラス形を呈する「小型高杯Ｂ」、杯部が球形を志向する「小型高杯Ｃ」に区分する。小型高杯Ａの多くは杯部の形態が不明で、脚付鉢、脚付壷を含んでいると思われるが、高杯として一括した。脚部には透孔がない。小型高杯Ｂは口縁部の形状により、口縁

小型高杯の分類
小型高杯Ａ
ワイングラス形

部が彎曲する「Ｂ１」、ごくわずかに彎曲する（彎曲が痕跡的な）「Ｂ２」、彎曲をほとんど失い口縁部がほぼ直立する「Ｂ３」に区分した。Ｂ２、Ｂ３は法量が多様（大型）化する傾向にある。杯部が箱形に近い小型高杯もＢ３に含めた。口縁部の彎曲が失われるＢ１からＢ２、Ｂ２からＢ３への推移が想定される。

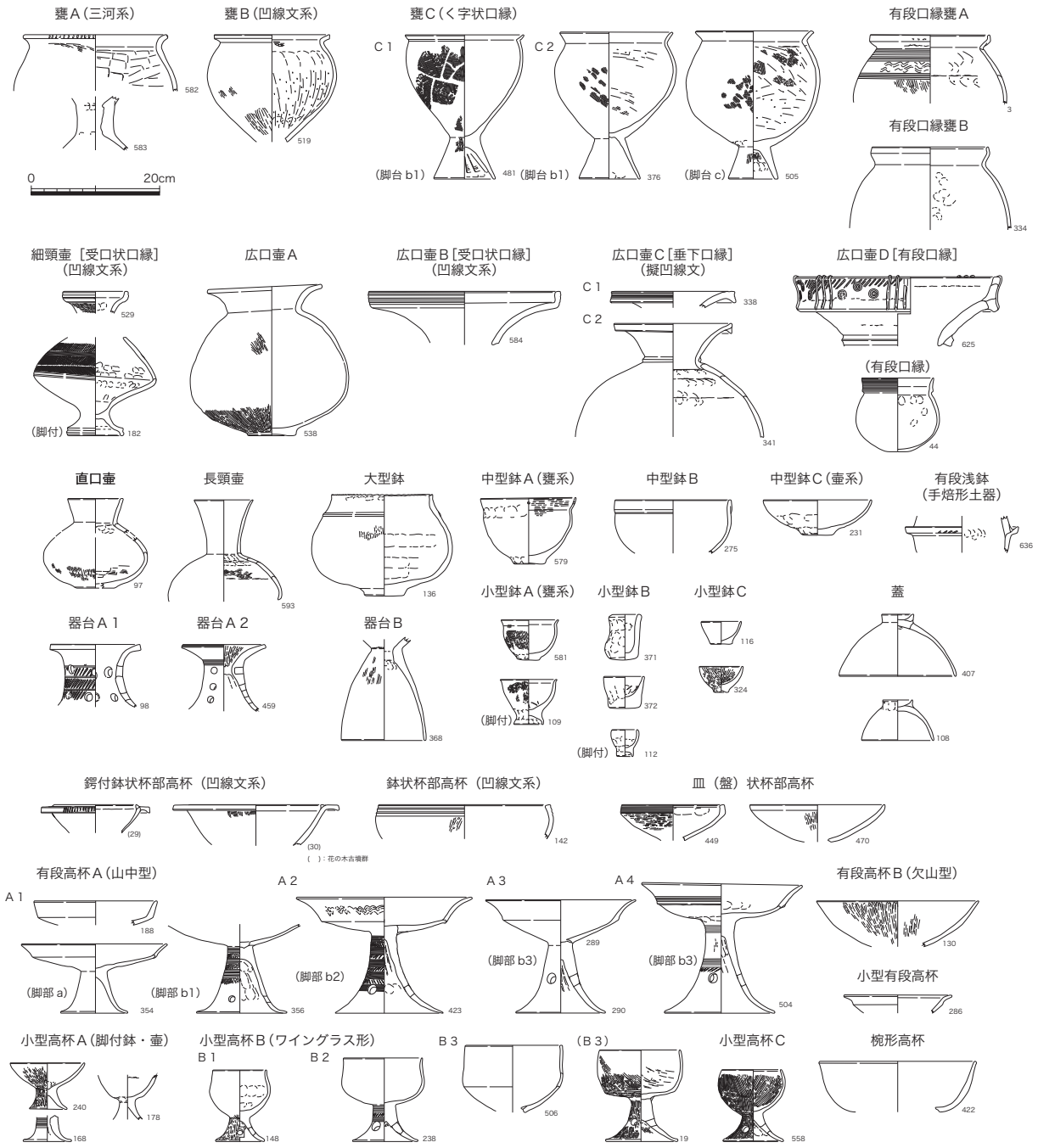
型式組列

器台

器台Ａ１・２

器台Ｂ

器台は受部と脚部が未分化の（上下対称に近い）「器台Ａ１」、受部と脚部が分化する「器台Ａ２」、脚部全体が内彎する「器台Ｂ」に区分した。




第270図　花の木遺跡弥生土器器種分類（1:10）

第 16 表　花の木遺跡弥生土器器種分類

| | 器種・形式 | 細別形式 | 型式 | 分類要素 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 甕 | く字状口縁台付甕 | 甕Ａ（三河系） | | 緩やかに折れる口縁部に柱状中実の脚台 | |
| | | 甕Ｂ（凹線文系） | | 短く屈曲する口縁部 | |
| | | 甕Ｃ（く字状口縁） | Ｃ１ | 短く外反する口縁部 | |
| | | | Ｃ２ | やや長く屈曲気味に外反する口縁部 | |
| | | | 脚台 (a) | 全体に内彎する | (a1)　厚い底部 |
| | | | | | (a2)　薄い底部 |
| | | | (b) | 直線的かやや外反する | (b1)　脚高が高い |
| | | | | | (b2)　脚高が低い |
| | | | (c) | 直線的かやや外反、全体に重厚 | |
| | | | (d) | 底部が平坦で薄い | |
| | 有段口縁台付甕 | 有段口縁甕Ａ | | 受口状の口縁部（加飾多い） | |
| | | 有段口縁甕Ｂ | | 受口状の口縁部（加飾少ない） | |
| 壷 | 細頸壷 | 細頸壷Ａ（櫛描文系） | | 単純に外反、わずかに屈曲する口縁部 | |
| | ［受口状口縁］ | 細頸壷Ｂ（凹線文系） | | 受口状の口縁部 | |
| | ［袋状口縁］ | 細頸壷Ｃ（凹線文系） | | 袋状の口縁部 | |
| | 広口壷 | 広口壷Ａ | | 単純に外反する口縁部（加飾少ない） | |
| | ［受口状口縁］ | 広口壷Ｂ（凹線文系） | | 受口状の口縁部（加飾多い） | |
| | ［垂下口縁］ | 広口壷Ｃ（擬凹線文） | Ｃ１ | 折り曲げによる垂下口縁（加飾多い） | |
| | | | Ｃ２ | 突帯貼り付けによる垂下口縁（加飾多い） | |
| | ［有段口縁］ | 広口壷Ｄ | | 有段状の口縁部 | |
| | 直口壷（中型壷） | | | 短く直立気味の口縁部 | |
| | 長頸壷（中型壷） | | | 長く直立気味の口縁部 | |
| 鉢 | 大型鉢 | | | 内傾する口縁部、下膨れの器形 | |
| | 中・小型鉢 | 中型鉢Ａ（甕系） | | 短く外折する口縁部 | |
| | | 中型鉢Ｂ | | 縁帯状の口縁部 | |
| | | 中型鉢Ｃ（壷系） | | 壷の体部下半と同じ器形 | |
| | 有段浅鉢（手焙形土器を含む） | | | 有段状の口縁部（手焙形土器を含む） | |
| | 小型鉢（脚付を含む） | 小型鉢Ａ（甕系） | | 短く外折する口縁部 | |
| | | 小型鉢Ｂ | | 上方に立ち上がる器形 | |
| | | 小型鉢Ｃ | | 大きく外傾する器形 | |
| 蓋 | | | | 伏鉢状の器形 | |
| 高杯 | 鍔付鉢状杯部高杯（凹線文系） | | | 大きく水平に張り出す口縁部 | |
| | 鉢状杯部高杯（凹線文系） | | | 浅い鉢状の杯部（外面上端付近に凹線文） | |
| | 皿（盤）状杯部高杯 | | | 杯部下段は皿（盤）状で上段は短く立ち上がる器形 | |
| | 有段高杯 | 有段高杯Ａ（山中型） | Ａ１ | 杯部上段が直線的、わずかに外反する | |
| | | | Ａ２ | 杯部上段が大きく外反する | |
| | | | Ａ３ | 杯部下段が著しく深い | |
| | | | Ａ４ | 杯部の段がほとんど消失する | |
| | | | 脚部 (a) | 太く低い脚部 | |
| | | | (b) | 長く大きく開く脚部 | (b1)　透孔の位置が低い |
| | | | | | (b2)　b1とb2の中間 |
| | | | | | (b3)　透孔の位置が高い |
| | | 有段高杯Ｂ（欠山型） | | 杯部上段が大きく外傾、杯部下段はほぼ消失 | |
| | 小型有段高杯 | | | 小型で杯部上段が外反 | |
| | 小型高杯（ワイングラス・椀形） | 小型高杯Ａ（脚付鉢・壷） | | 上位が柱状で低い位置で大きく開く脚部 | |
| | | 小型高杯Ｂ（ワイングラス形） | Ｂ１ | 彎曲する口縁部 | |
| | | | Ｂ２ | ごくわずかに彎曲する口縁部 | |
| | | | Ｂ３ | 杯部上半がほぼ直立（彎曲を失った口縁部） | |
| | | 小型高杯Ｃ | | 球形に近い杯部（精製） | |
| | 椀形高杯 | | | 浅い椀状の杯部 | |
| 器台 | | 器台Ａ | Ａ１ | 受部と脚部が未分化 | |
| | | | Ａ２ | 受部と脚部が分化 | |
| | | 器台Ｂ | | 内彎する脚部 | |

### ４）器種組成の変化、時期区分

遺構の先後関係

調査時、あるいは調査後の検討により、確実に把握した遺構の先後関係として、115SI（先）と 118SI（後）、221SI（先）と 220SI（後）、198SI（先）と 196SI（後）、250SI（先）と 228SI（後）がある。これにより、土器の様相が明らかに異なる中期後葉を含め、まず大きくは、中期後葉と後期前半、後期後半の大別が可能である。

時期の大別

時期の細別

時期の大別を前提として、土器が良好に出土した遺構について、前項の器種（形式）の細別、型式組列を考慮して、器種組成を比較した（第 17 表）。点数は提示した実測図に従った（抽出した土器は個体識別に近いので、実態を一定程度、正確に反映していると考えられる）。結果、後期前半、後期後半をそれぞれ二分し、後期初頭、後期前葉、後期中葉、後期後葉として把握した。これに中期後葉を加えて、花の木遺跡出土土器を１期から５期に区分する。

１期の遺構

２期の主要遺構

３期の主要遺構

４期の主要遺構

５期の主要遺構

１期の遺構として、160SI、200SI がある。その他、241SI 周辺の遺構に同時期の土器が混在する。２期の主要な遺構として、190SI、221SI、250SI がある。126SI、148SI、198SI は組成の比較が難しいが、参考として掲出する。３期の主要な遺構として、115SI（一部混在）、203SI（一部混在）、226SI、237SI がある。155SI、176SI、214SI（一部混在）、223SI（一部混在）を参考として掲出する。４期の主要な遺構として、112SI、154SI、196SI（224SD・225SD）、175SI がある。114SI、157SI、195SI を参考として掲出する。５期の主要な遺構として、110SI、118SI、199SI、220SI（276SK）、235SI Ａ・Ｂ群、236SI がある。116SI、113SI、222SI、289SI を参考として掲出する。以下、器種組成の推移を詳述する。

甕Ｃ・脚台の推移

甕Ｃについては、甕Ｃ１、脚台 a1、b1、b2 で占められる２期、甕Ｃ１、脚台 a1、b1、b2 が主体で、甕Ｃ１、脚台 a2、d が加わる３期、甕Ｃ１と甕Ｃ２、脚台 a2、b1、b2、d が混在する４期、甕Ｃ２が主体で脚台 c が加わる５期として各時期の内容が把握される。ここで示した組成の変化は４期、５期を通じて甕の器壁が薄くなる変化の傾向とも同調する。有段口縁甕が確実に組成するのも５期である。

広口壷Ｃの推移

長頸壷の推移

広口壷Ｃ（加飾広口壷）は２・３期（後期前半）は広口壷Ｃ１、４・５期（後期後半）は広口壷Ｃ２が組成し、組成比も高くなる傾向がある。長頸壷は数量が少なく明確ではないが、確実に組成するのは４・５期（後期後半）で、４期から５期にかけて組成比が高くなる傾向がある。

器台の推移

器台も少ないが、３期に器台Ａ１、４期に器台Ａ２が組成する。器台Ｂは３期の遺構に伴うが、他例がなく、共伴、個体識別（長頸壷の可能性）に問題を残す（出土状況からは明確に区別できない）。

有段高杯Ａの推移

有段高杯Ａは後期前半（2・３期）の組成がやや不安定であるが、後期後半（４・５期）はほぼ確実に一定量が組成する。組成上、各時期の内容はＡ１が組成するのみの２期、Ａ１、Ａ２が混在し、脚部は a、b1 で前者が主体の３期、Ａ２が主体で、脚部は b2 が主体の４期、Ａ３が新たに加わり、脚部は b2、b3 で後者が主体の５期として把握される。

小型高杯Ａの推移

小型高杯Ｂの推移

小型高杯Ａ（脚付鉢・壷の脚部）は２期、３期を通じて過半数の遺構に組成する。４期の遺構に組成することは少なく、５期の遺構には組成しない。小型高杯Ｂは３期に出現、組成する可能性はあるが、確実ではない。４期には確実に組成し、各型式が混在する。５期はＢ３が多くを占める。その他、小型高杯Ｂから派生したと思われる杯部が箱形の小型

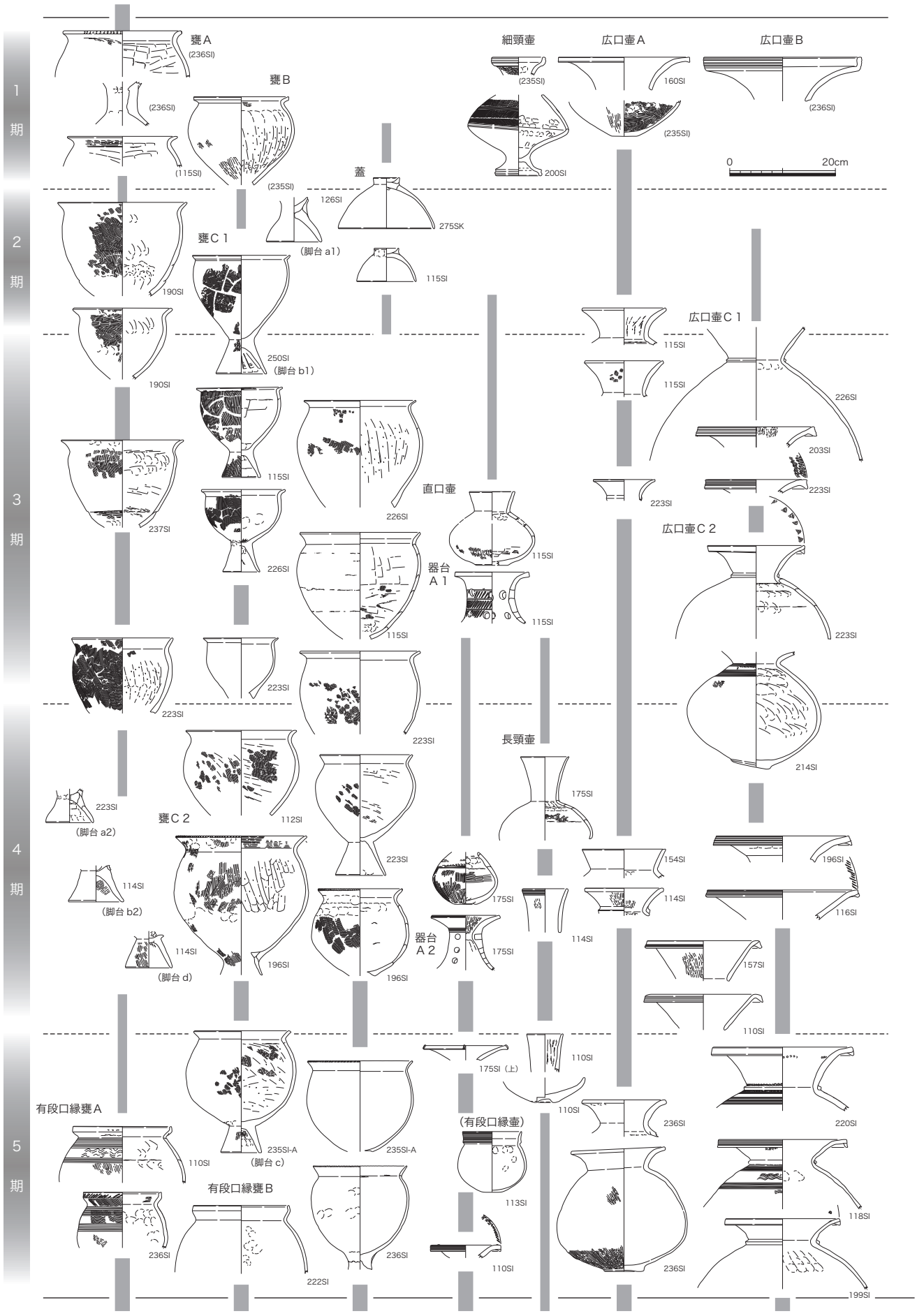
高杯に加えて、椀形高杯が５期に出現する。小型高杯Ｃは数量は少ないが、５期に組成する。

以上の器種（形式）分類、器種（形式）の細別、型式分類と型式組列、器種組成の推移　　土器編年に依拠して５期に区分した土器編年を提示する（第 271・272 図）。

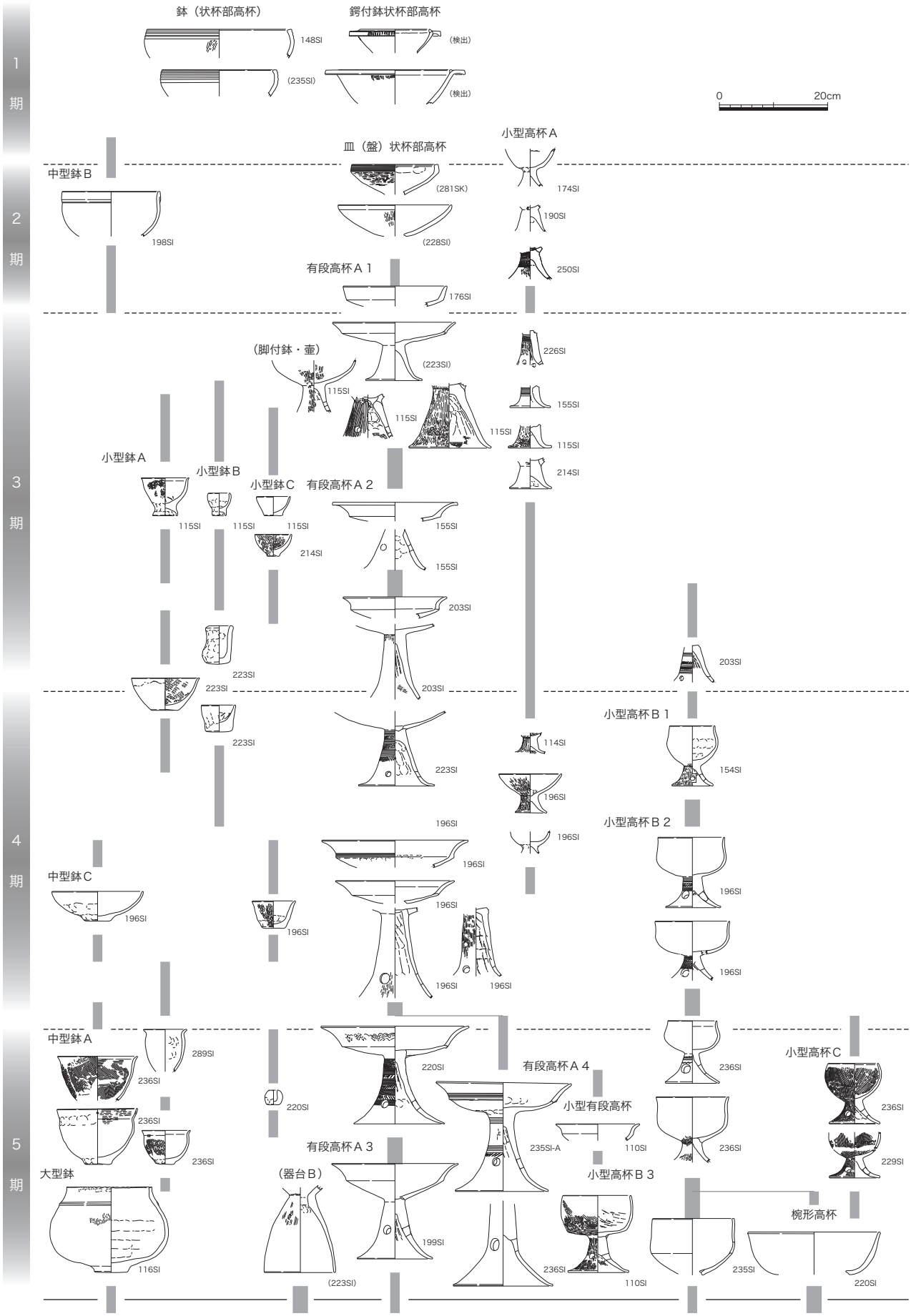
第 17 表　出土土器組成の比較

| | 遺構番号 | 時期 | 「く」字甕 | | | | | | | | 有段口縁甕 | 広口壺 | | | | 長頸壺 | 器台 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | C１ | C２ | (脚台) | | | | | | | A | C１ | C２ | D | | A | | B |
| | | | | | (a1) | (a2) | (b1) | (b2) | (c) | (d) | | | | | | | A１ | A２ | |
| 20 | 190SI | ２期 | 4 | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 31 | 221SI | ２期 | 4 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | |
| 35 | 250SI | ２期 | 5 | | | | 2 | 1 | | | | | 2 | | | | | | |
| 7 | 115SI | ３期 | 3 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | | 2 | | 2 | | | (1) | | 1 | | |
| 15 | 155SI | ３期 | | | | | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | | | |
| 19 | 176SI | ３期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 203SI | ３期 | 4 | | 4 | | 4 | 2 | | 1 | | 2 | 2 | | | | | | |
| 26 | 214SI | ３期 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | 226SI | ３期 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 38 | 237SI | ３期 | 2 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 28 | 223SI | ３・４期 | 4 | 5 | | 2 | 4 | 2 | | 1 | | 1 | 2 | 2 | | | | | (1) |
| 3 | 112SI | ４期 | 1 | 2 | | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 5 | 114SI | ４期 | | | | | 1 | 1 | | 2 | | 1 | | | 1 | 1 | | | |
| 12 | 154SI | ４期 | 1 | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | |
| 16 | 157SI | ４期 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 21 | 195SI | ４期 | 1 | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | |
| 22 | 196SI | ４期 | 1 | 5 | | 1 | 3 | 1 | | | (1) | (1) | | 2 | | | | | |
| 33 | 175SI | ４期 | 2 | | | | | | | | | | (1) | | | | | 2 | |
| 9 | 116SI | ４・５期 | 1 | 1 | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | |
| 1 | 110SI | ５期 | | 2 | | 2 | | | | | 1 | | | 1 | 2 | 1 | | (1) | |
| 4 | 113SI | ５期 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | |
| 8 | 118SI | ５期 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 24 | 199SI | ５期 | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | |
| 27 | 222SI | ５期 | 2 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | |
| 30 | 220SI | ５期 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | |
| 36 | 235SI | ５期 | 1 | 2 | | | | | 1 | | | 1 | | 1(3) | | | | | |
| 37 | 236SI | ５期 | 3 | 4 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 4 | | | 1 | | | | |
| 40 | 289SI | ５期 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | |

| | 遺構番号 | 時期 | 有段高杯 | | | | | | | | | 小型高杯 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | A１ | A２ | A３ | A４ | 脚部 | (脚部) | | | | A | B | | | | C | |
| | | | | | | | | (a) | (b1) | (b2) | (b3) | | B１ | B２ | B３ | 脚部 | | |
| 20 | 190SI | ２期 | | (1) | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 31 | 221SI | ２期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35 | 250SI | ２期 | 5 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 7 | 115SI | ３期 | | | | | 5 | 4 | | | | 3 | | | | | | |
| 15 | 155SI | ３期 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | |
| 19 | 176SI | ３期 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 25 | 203SI | ３期 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | | |
| 26 | 214SI | ３期 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | | |
| 32 | 226SI | ３期 | | 1 | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | |
| 38 | 237SI | ３期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 223SI | ３・４期 | 3 | 3 | | | 5 | 2 | 1 | | | 2 | | 1 | 1 | 4 | | |
| 3 | 112SI | ４期 | (1) | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 114SI | ４期 | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | | 1 | | |
| 12 | 154SI | ４期 | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | |
| 16 | 157SI | ４期 | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| 21 | 195SI | ４期 | | 1 | | | 2 | | | | 1 | | | | | 1 | | |
| 22 | 196SI | ４期 | 3 | 4 | | | 3 | 1 | | 1 | 1 | 3 | | 2 | 1 | 7 | | |
| 33 | 175SI | ４期 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | |
| 9 | 116SI | ４・５期 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 1 | 110SI | ５期 | | | | | 3 | | | | 1 | | | | 1 | 3 | | |
| 4 | 113SI | ５期 | | 1 | 1 | | (1) | | | | | | | | 1 | | | |
| 8 | 118SI | ５期 | | 3 | | 1 | 2 | | | 2 | | | | | 1 | 1 | | |
| 24 | 199SI | ５期 | | 1 | 2 | | 2 | | | | 1 | | | | | | | |
| 27 | 222SI | ５期 | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| 30 | 220SI | ５期 | | 2 | | | 4 | | | 2 | 1 | | | | 1 | 1 | | |
| 36 | 235SI | ５期 | (1) | (1) | | 1 | 3(1) | (1) | | | 3 | | | | 1 | | | |
| 37 | 236SI | ５期 | | 1 | 2 | | 2 | | | | 2 | | 1 | 2 | 1 | 5 | 1 | |
| 40 | 289SI | ５期 | | 2 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | |




第271図　花の木遺跡の弥生土器編年１（1:10）




第272図　花の木遺跡の弥生土器編年2（1:10）

### 5）成果と課題

成果

型式組列と器種組成の変化との対応から、中期後葉の1期を含めて時期区分の妥当性を確認した。後述する集落、竪穴建物の変遷とも整合する土器編年を提示したことは一つの成果である。最後に課題を挙げつつ、既往の土器編年（鈴木 1996、前田・鈴木 2002）にも触れ、土器編年の全体的な位置を明らかにする。特に遺跡出土土器による編年を検証し、集落動態を比較する意味においても、近在の環濠集落である豊川市山ノ奥遺跡の出土土器とそれによって示された土器編年（栗原 2008）との関係についても一定程度明らかにすることが求められる。

山ノ奥遺跡

花の木遺跡1期

中期後葉に対応する花の木遺跡1期は甕Aに加えて、甕B、細頸壷B、広口壷B、鍔付鉢状杯部高杯、鉢状杯部高杯等の凹線文系の各器種で構成される。しかし、2期にかけて甕以外の各形式の系譜の連続性を示すことは難しい。既往の編年とは長床式、鈴木とよ江による三河 VII 様式（前田・鈴木 2002）等が対応する。

長床式

花の木遺跡2期

森岡遺跡

続く後期初頭は2期との対応が想定される。中期後葉から後期初頭への接続については、森岡遺跡（第 273 図 1 ～ 18）が参考となる。2期は甕の個体数が多く（特に 190SI、221SI）、壷、器台、高杯等の組成を明確にすることが難しい。遺構の性格を反映している可能性もあるが、類似した組成が複数の遺構に加えて、森岡遺跡 SB09（第 273 図 8 ～ 16）によっても示されるので、必ずしも抽出に客観性を欠く、あるいは遺構に特殊な状況が反映されているとは考えにくい。

内田貝塚

水神貝塚（第2貝塚）

駒場遺跡F地点

それとは対照的に、ほぼ同時期と想定される豊橋市内田貝塚(II) B地区 SD-4 上土器溜まり 1・2（第 274 図 1 ～ 28）、同包含層（第 274 図 29 ～ 49）は壷や高杯に対して甕がごく少ない状況が認められる。その他、同水神貝塚（第2貝塚）（第 274 図 50 ～ 65）、駒場遺跡F地点（第 273 図 19 ～ 22）もそれに類似した組成を示す。これら他遺跡の組成を補完して同時期の組成をある程度把握することは可能であるが、対照的な組成が示される背景を明らかにすることが今後の課題として残される。

寄道様式

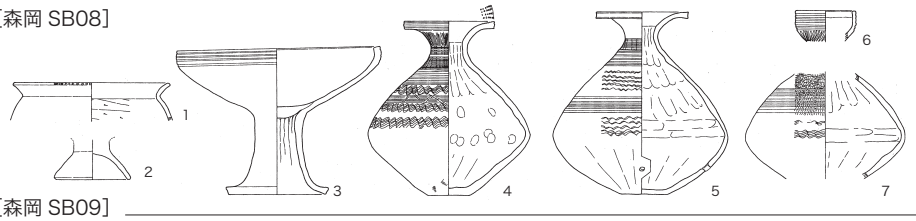
既往の鈴木敏則の編年において、後期（寄道様式）は寄道Ⅰ・II・III 様式により構成されるが、寄道Ⅰ様式は「一括資料はなく、様式としては未確定」とされる（鈴木 1996）。

第 18 表　編年対照表

| （尾張） | 〔花の木遺跡〕 | （豊川中流域） | 〔石座神社遺跡〕 | （豊川上流域） | ●鈴木 1996 （尾張） | 【東三河】 | ●前田・鈴木 2002 【東三河】 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中期後葉 1期 | 160SI 200SI (241SI) ［森岡 SB08］ | | | | | VII 様式 橋良 SZ01（長床溝状遺構）（牧野城跡） |
| 八王子古宮式 | 後期初頭 2期 | 190SI ［森岡 SB09］ 221SI （森岡 SK14） 250SI ［駒場F地点］ | 1期 2093SI 3186SI 1138SI | | 山中式 寄道様式（山中様式(三河型)） I（不確定） | 郷中 E- 包含層 瓜郷第 II 貝塚 中央貝層下竪穴他（東光寺 4D- 大溝底） | VIII 様式 （瓜郷）（高井） |
| 山中I式 1 | 後期前葉 3期 | 115SI ［山ノ奥遺跡］ | | | | | |
| 山中I式 2 | 後期前葉 3期 | 203SI SB046 | 2期 1231SI 上 ［吉竹 071SI］ 1139SI 3261SI 3097SI 1181SI 3621SI | | II | 東光寺 SD08・SD10 郷中 SB10・SB12 行明包含層 | IX 様式 1 郷中 GN14-2 号住 郷中 SB10（欠山 SD3 黒色土） |
| 山中I式 3 | 後期前葉 3期 | 226SI （SB017） 237SI SB018-A | | | | | |
| 山中I式 3 | 後期中葉 4期 | 112SI SB043 154SI 196SI 175SI | | | | 高井表採 1988 高井 SD-1.6 層 | |
| 山中II式 1 | 後期中葉 4期 | | | | | | |
| 山中II式 2 | 後期後葉 5期 | 118SI SB028 199SI SB013 | 3期 3099SI ［吉竹 047SI］ 1251SI ［諏訪 SB114］ 1200SI 下 ［諏訪 SB101］ 3832SI 0016SI 1938SI | | III | 高井 SD-1.4･5 層（東光寺 4D- 大溝上層礫間） 高井 SD-1.3 層 A 欠山第 III 貝塚 | 2 高井 SD-1.5 層 |
| 山中II式 3 | 後期後葉 5期 | 235SI 236SI | | | | | |

中期後葉 1期

[森岡 SB08]



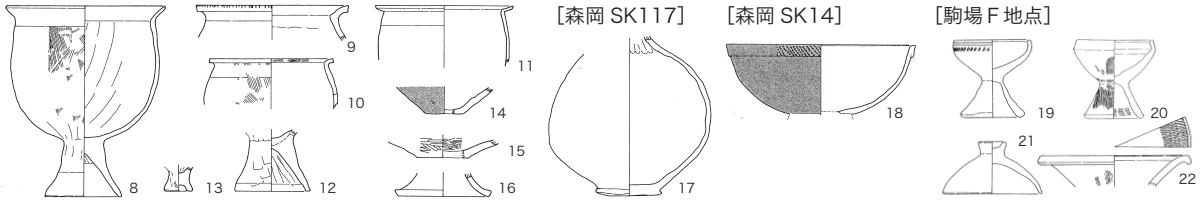

後期初頭 2期

[森岡 SB09]

[森岡 SK117]

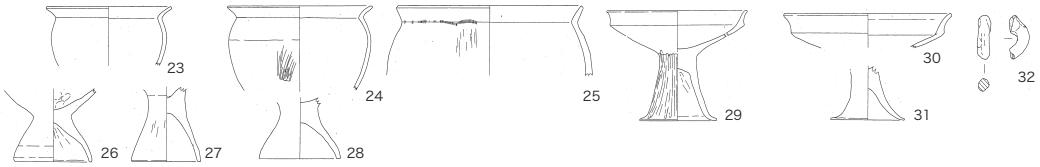
[森岡 SK14]

[駒場F地点]




後期前葉 3期

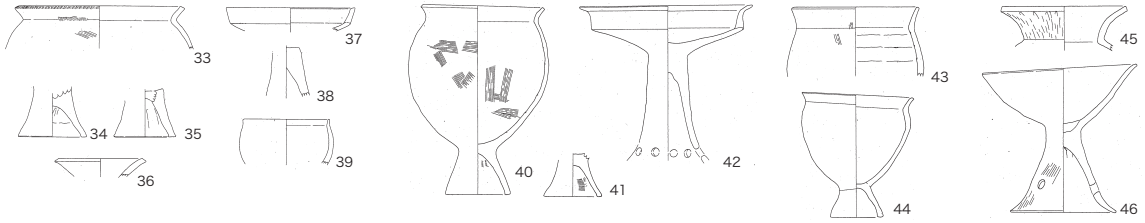
[山ノ奥 SB046]




(山ノ奥 SB017)

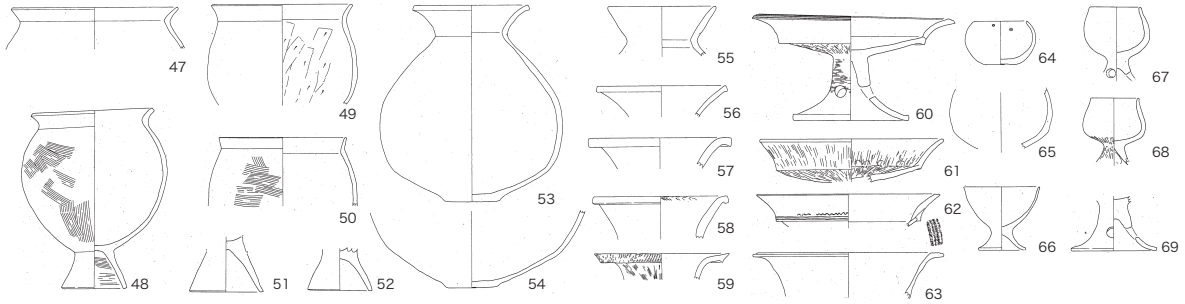
[山ノ奥 SB018]（SB018-A）

(SB018-B)



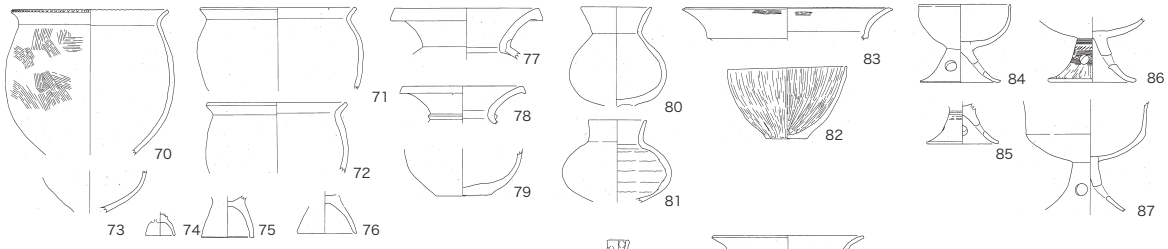

後期中葉 4期

[山ノ奥 SB043]



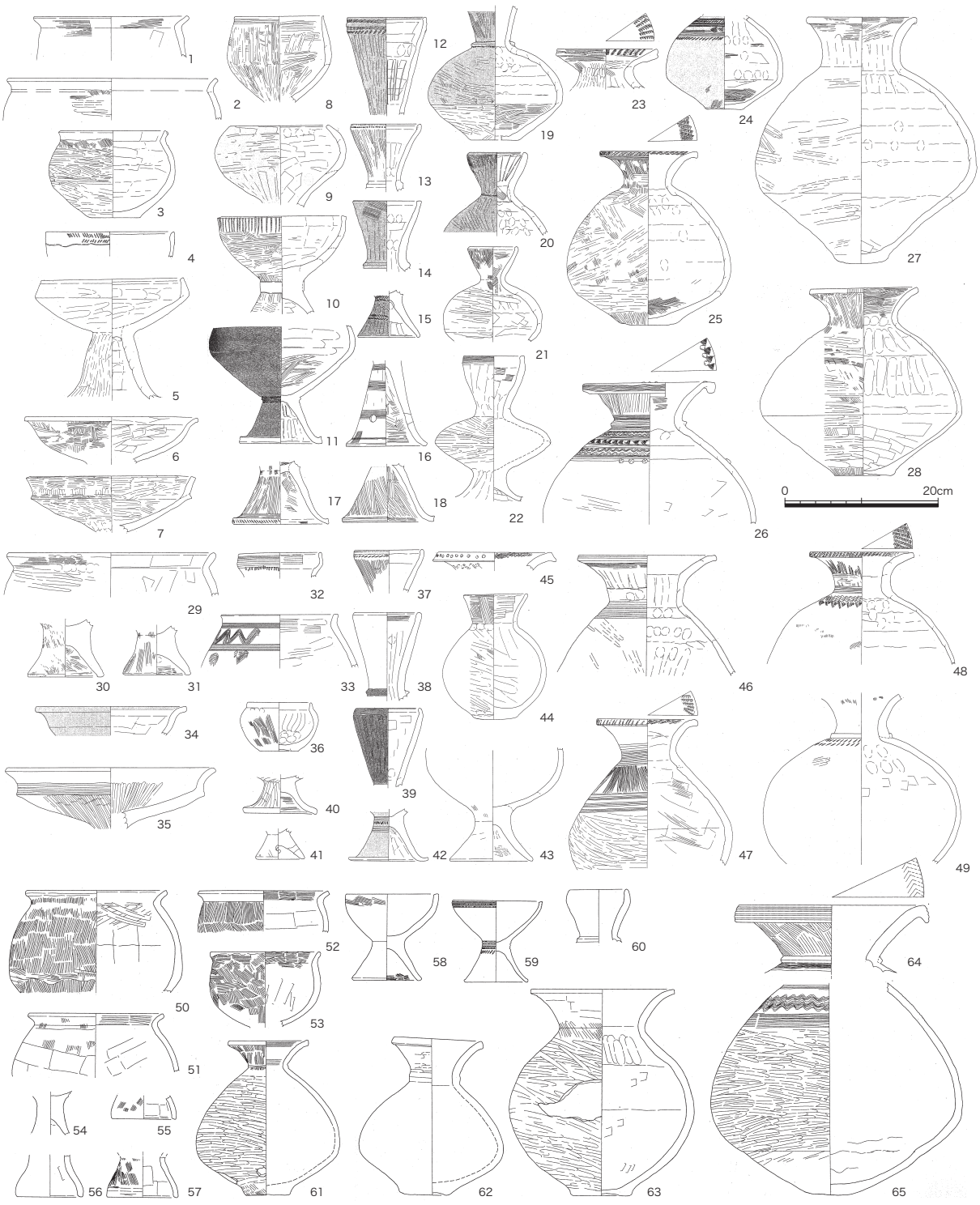

後期後葉 5期

[山ノ奥 SB028]




[山ノ奥 SB013]

第273図　周辺遺跡の土器との対比（1:10）




1～28：内田貝塚(II) B地区SD-4上土器溜まり１・２　29～49：内田貝塚(II)包含層　50～65：水神貝塚（第２貝塚）

第274図　内田貝塚・水神貝塚（第２貝塚）の土器群（1:8）

具体的には同時期の出土土器として、豊川市郷中遺跡Ｅ地区包含層出土土器等が挙げられる程度で、編年表には（西三河の）岡崎市矢作川河床遺跡（採集）の小型高杯、同豊橋市高井遺跡の環濠 SD-1 から出土した有段高杯のみが掲載されるのみである。後者は環濠 SD-1 でも上位の３層出土であるが、高井遺跡 SD-1、あるいは遺跡の形成自体が寄道 II 様式以降なので、出土状況に依拠せず、型式観を優先していることは明らかである（型式組列の根拠も明確ではない）。寄道Ｉ様式は鈴木とよ江による VIII 様式との対応が想定されるが、同様式は西三河の額田郡幸田町東光寺遺跡 SD11、矢作川河床遺跡、西尾市毘沙門遺跡 SK02 が提示されるのみである（前田・鈴木 2002）。

山ノ奥遺跡の土器

山ノ奥遺跡は弥生時代後期から終末期以降まで継続する環濠集落である。出土土器は鈴木による東三河の弥生時代後期の土器編年を援用し、寄道Ｉ様式の基準資料が SB018、参考資料が SB046、SB017、寄道 II 様式古相の基準資料が SB043、新相の基準資料が SB028、寄道 III 様式の参考資料が SB013、SB052 とされている。しかし、寄道Ｉ様式の基準資料とされる SB018 は SB018A と SB018B の２棟に分けられ、SB017 がそれに先行する（SB017 の平面形には突出する部分が認められ、２棟が重複する可能性も想定される）。遺跡で最も先行する時期の土器（基準資料）が出土する遺構に対して、重複し、先行する竪穴建物３棟を想定することは難しい。SB017 に想定される主柱配置が平面形と必ずしも整合しない点等も考慮すれば、遺構の検出状況や先後関係には再検討の余地が大きい。寄道 III 様式は基準資料がなく、参考資料が挙げられるのみで、次期の欠山Ｉ様式との接続には不安定な側面もある。

石座神社遺跡

花の木遺跡の編年とも照らした場合、弥生時代後期の土器（寄道様式）としては、SB046 と SB018A（・SB018B・SB017）、SB043、SB028 の順序で変遷し、それぞれ３期、４期、５期との対応を想定して大過ないと思われる。既往の編年とは、それぞれ寄道Ｉ・II・III 様式の各様式、別に検討した石座神社遺跡の編年（早野 2015）とは、１・２・３期の各時期との対応を想定するが、寄道Ｉ様式、石座神社遺跡１期は（内容は不安定であるが）、花の木遺跡２期（後期初頭）と一部重複することが見込まれる（第 18 表）。

［参考文献］


楽原将人　2008『山ノ奥遺跡』豊川市教育委員会
鈴木敏則　1996「三河の後期弥生土器の編年」『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集　豊橋市教育委員会
早野浩二　2015「弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年」『石座神社遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
前田清彦・鈴木とよ江　2002「三河地域」『弥生土器の様式と編年―東海編―』木耳社
森　泰通　2024「台付甕の蓋」『渡辺誠先生追悼論集　列島の考古学III』渡辺誠先生追悼論集刊行会


［遺跡文献］


［愛知県豊橋市］内田貝塚：豊橋市教育委員会　2010『内田貝塚（II）・若宮遺跡（III）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第110集
［愛知県豊橋市］水神貝塚：豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会　1998『水神貝塚（第２貝塚）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第44集
［愛知県豊橋市］森岡遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1991『森岡遺跡　淡洲神社北遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第22集
［愛知県豊川市］駒場遺跡：豊川市教育委員会　1996『駒場遺跡』
［愛知県豊川市］山ノ奥遺跡：豊川市教育委員会　2008『山ノ奥遺跡』

## （3）花の木遺跡における弥生時代集落の構成と変遷

### 1）竪穴建物の諸属性

#### 規模・平面形

長・短軸の計測値

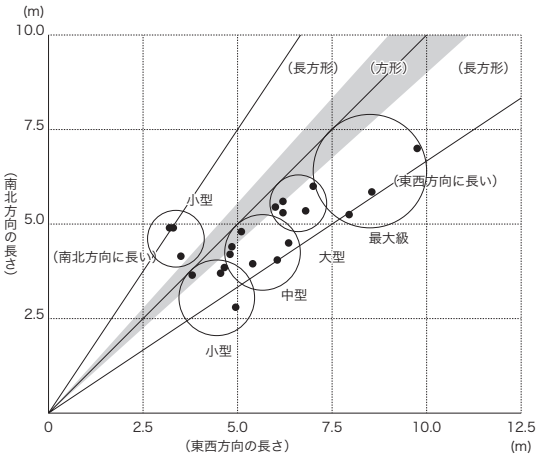
長軸と短軸の計測値を示した21棟の竪穴建物は計測値の分布から、短軸（南北方向の長さ）でも5m以上の規模が「大型」に区分される。「大型」については、特に長軸（東西方向の長さ）が7.5m以上、または長軸（東西方向の長さ）が7m以上、短軸（南北方向の長さ）が6m以上の規模が「最大（級）」として区分される。それ以下は長軸4.7m、短軸3.9m付近で「中型」と「小型」にそれぞれ区分される（第275図）。

「大型」
「最大（級）」
「中型」
「小型」

規模の構成

この区分に従うと、計測値を示した21棟は「最大」が3棟から5棟（約2割）、「大型」が4棟（約2割）、「中型」が6棟（約3割）、「小型」が7棟（約3割）で構成され、「中型」と「小型」がやや多いが、規模の著しい偏りは認められない。時期による構成としては、1期の241SIを含めると、各時期に「最大」が1棟含まれ（1期の241SI、2期の250SI、3期の155SI、4期の175SI、5期の235SI）、時期による増減もないことがまずは注意される。より詳細には、1期が「小型」と「最大」の比で2：1（241SIを含めた場合）、2期が「最大」、「中型」、「小型」の比で1：1：1、3期が「中型」、「最大」の比で2：1（223SIを3期に含めた場合）、4期が「小型」、「中型」、「大型」、「最大」の比で2：3：1：1、5期が「小型」、「大型」、「最大」の比で2：3：1（116SIを5期に含めた場合）で、中期後葉は規模の格差が顕著である一方、後期を通じて段階的に「中型」、「大型」の区分が生じ、格差が縮小する傾向にあることが分かる（第276図）。

時期との関係

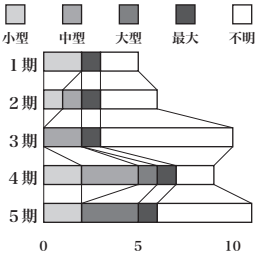



第275図　竪穴建物の規模の計測値

「小判形」
「長方形」
「方形」

平面形は1期が「小判形」でほぼ占められ、2期以降は「長方形」が主体化する。より詳細には後期前半（2期から3期）は「長方形」を主体としながらも「小判形」と「方形」が混在し、後期中葉（4期）は「長方形」で占められ、後期後葉（5期）は「方形」が一定数を占めるようになる（第277図）。「最大」は「方形」の155SIを除いていずれも長軸と短軸の比がほぼ3：2の「長方形」である。

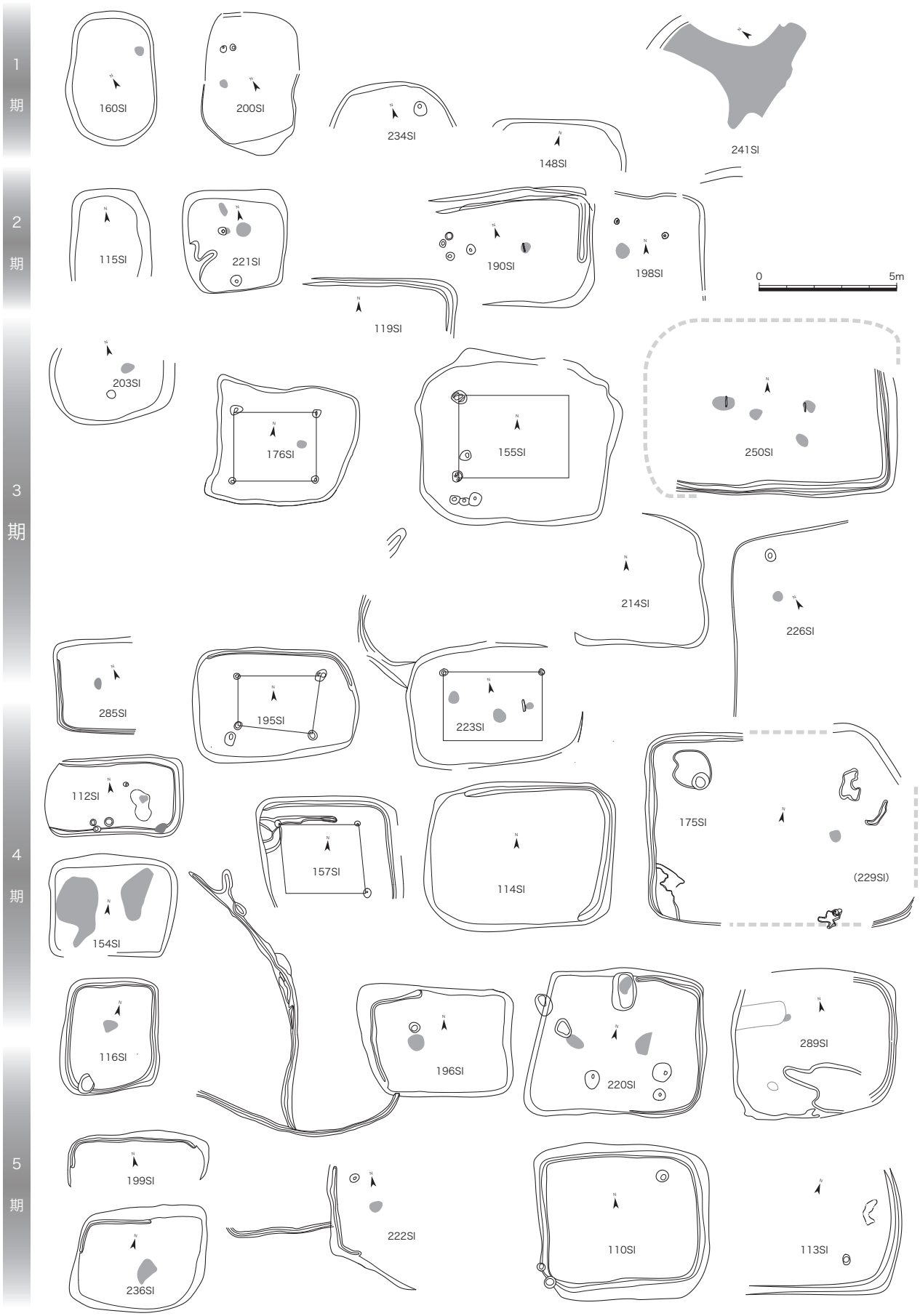
| | 小型 | 中型 | 大型 | 最大 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 2 | | | (1) |
| 2期 | 1 | 1 | | 1 |
| 3期 | | 2 | | 1 |
| 4期 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 5期 | 2 | | 3 | (1) |
| 計 | 7 | 6 | 4 | 3(5) |



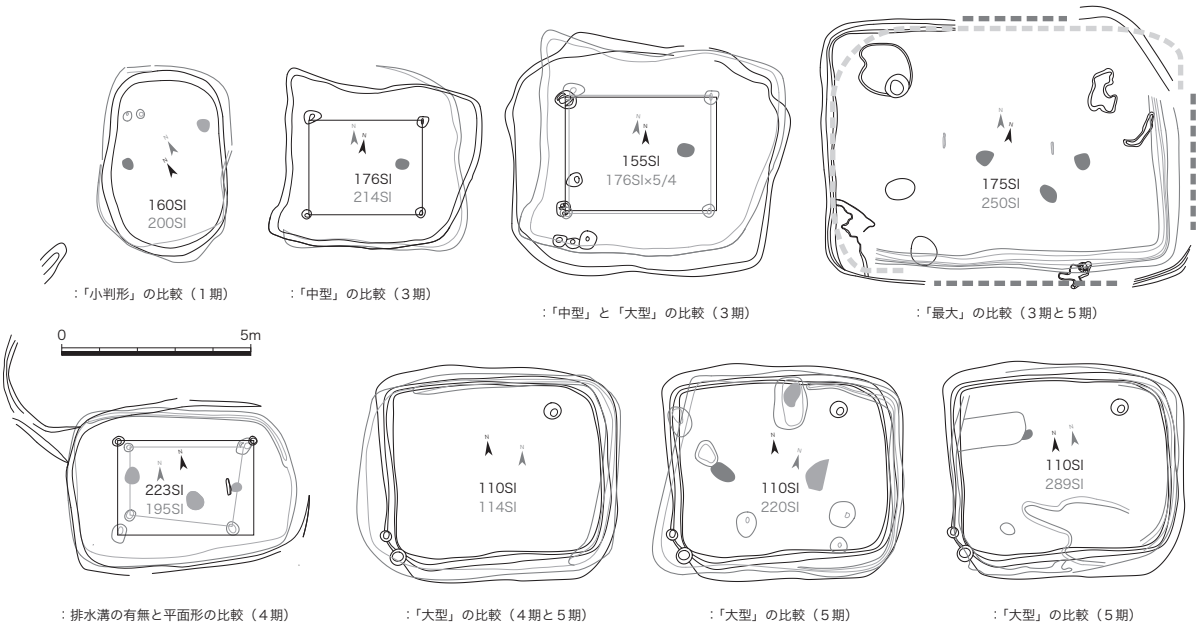

第276図　竪穴建物の規模と時期の相関

平面形の比較

中期後葉の「小判形」、後期に多い「長方形」の平面形を相互に比較しても、各時期を通じて規模と平面形がよく類似することが分かる（第278図）。規模が異なる場合でも、平面形（長軸と短軸の比率）には一定の基準があった




第277図　竪穴建物の変遷（1:200）




第278図　竪穴建物の平面形の比較（1:200）

ことを類推させるような例もある(155SI と 176SI 等)。排水溝が付属する竪穴建物(196SI 等）も、他の同時期の竪穴建物の平面形を踏襲する。５期には平面形が方形化する傾向も認められるが、５期の平面形が４期の平面形の短軸を踏襲し、長軸を減じているような状況も認められる（４期の 114SI と５期の 110SI)。「最大」の２期とした 250SI と４期とした 175SI も規模、平面形が類似することも注意される。「最大」規模の平面形が長期間踏襲された可能性等（あるいは帰属時期の問題）が想定される。

方位

多くは長軸方向、短軸方向のいずれかが東西方向（南北に 15°幅の範囲内）を志向する。

中期後葉　１期の平面形が「小判形」の 160SI、200SI のみ北西南東方向を志向し、時期と平面形を

後期　同じくする 241SI も同様と推測される。後期は 116SI、115SI、118SI、221SI のみ長軸方向が南北方向（真北から東西に 15°幅の範囲内に分布）を志向（短軸方向は東西方向を

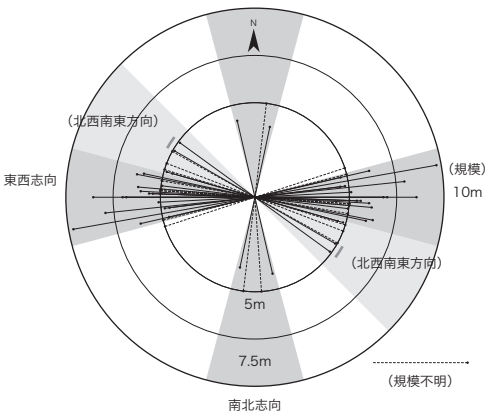
規模との相関　志向）するが、いずれも規模は「小型」に属する（中型以上の規模はいずれも長軸方向は東西方向を志向する)。221SI は平面形が「方形」なので、長軸方向と短軸方向を明確に区分することにほとんど意味はない。それ以外は規模が「小型」で、遺跡南西端に分布する点が共通する（第 279 図)。

その他諸属性

１期　規模・平面形、方位が明らかに後期と異なる１期は、壁周溝、主柱穴がなく、地床炉が竪穴内の偏した位置にある点等、（特に 160SI と 200SI は）近似の度が高い。

壁周溝　壁周溝は後期前半に散見され、後期後半以

主柱穴　降、普遍化する。主柱穴は明確でないものが圧倒的に多く、明確な傾向を認めること




第279図　竪穴建物の方位と規模の相関

は難しいが、３・４期に比較的多く認められる。

地床炉

地床炉の有無の判別が可能な竪穴建物は 28 棟で、地床炉がある竪穴建物は 19 棟、地床炉に礫を埋設した「埋石炉」は５棟、床面の大部分を精査したにもかかわらず、地床炉が認められない竪穴建物は４棟である。埋石炉は２期から３期が主体で、地床炉が認められない竪穴建物は４期から５期が主体である。埋石炉は２期には敲打、加工等が加えられた礫、あるいは台石を炉石に転用するが、３期から４期の炉石には加工、使用した痕跡が認められない。地床炉と埋石炉の設置位置は「長方形」の平面形の普遍化と合わせるようにして、中軸線上の中央から偏した位置に設置されるようになる。「方形」が混在する後期後葉はその規則性も失われるようである。

埋石炉

転用の有無

設置位置

貯蔵穴（様の土坑）

貯蔵穴（様の土坑）は明確なものはごく少なく、４期から５期に南西隅に設置する竪穴建物（116SI、157SI）、５期に北辺の中央に方形の土坑を設置する竪穴建物（220SI）がある。方形の土坑の機能については、貯蔵穴、集水坑等の機能が想定される（亀山 1996・1997、松井 2015 等）。

方形の土坑

排水溝

排水溝は３期に出現している可能性もあるが、明確な存在は４期から５期である。分布域も限られる（後述）。土堤は構築される高さが低く、多くは不明確である。時期、分布の傾向を指摘することも難しい。

土堤

２）竪穴建物の構成、分布と変遷

構成

棟数の推移

各時期の棟数は（時期の確定が難しい竪穴建物を案分した結果）、１期が５棟、２期が６棟、３期が 10 棟、４期が９棟、５期が 11 棟である。５期は相互に近接する竪穴建物もあるので、さらに分期される可能性も想定されるが、中期後葉から後期初頭は５棟前後で推移し、後期前葉から後期後葉は 10 棟前後で安定して推移することが分かる。

分布

「最大」の分布

古墳の占地

北群

南東群

南西群

南群

中央群

「最大（級）」とした竪穴建物は台地上でもより平坦な地形を選んで分布する。建物の構築に際して広い面積を確保する意図によるものと推測される。同様の状況は古墳時代の古墳の占地にも反映されている。このような分布の傾向を考慮して、155SI、235SI を含む一群（２号墳周辺）を北群、226SI を含む（３号墳周辺）を南東群、175SI、250SI を含む（５・６・７号墳周辺）を南西群、台地南西端付近を南群、北群と南東・南西群の間（２号墳、３号墳、５・６・７号墳の間）の一群を中央群とする。地形がより平坦な北群、南東群、南西群には「最大」に加えて、「大型」が多く分布し、南群には「小型」が集中する。排水溝が付属する竪穴建物は中央群にのみ分布する。

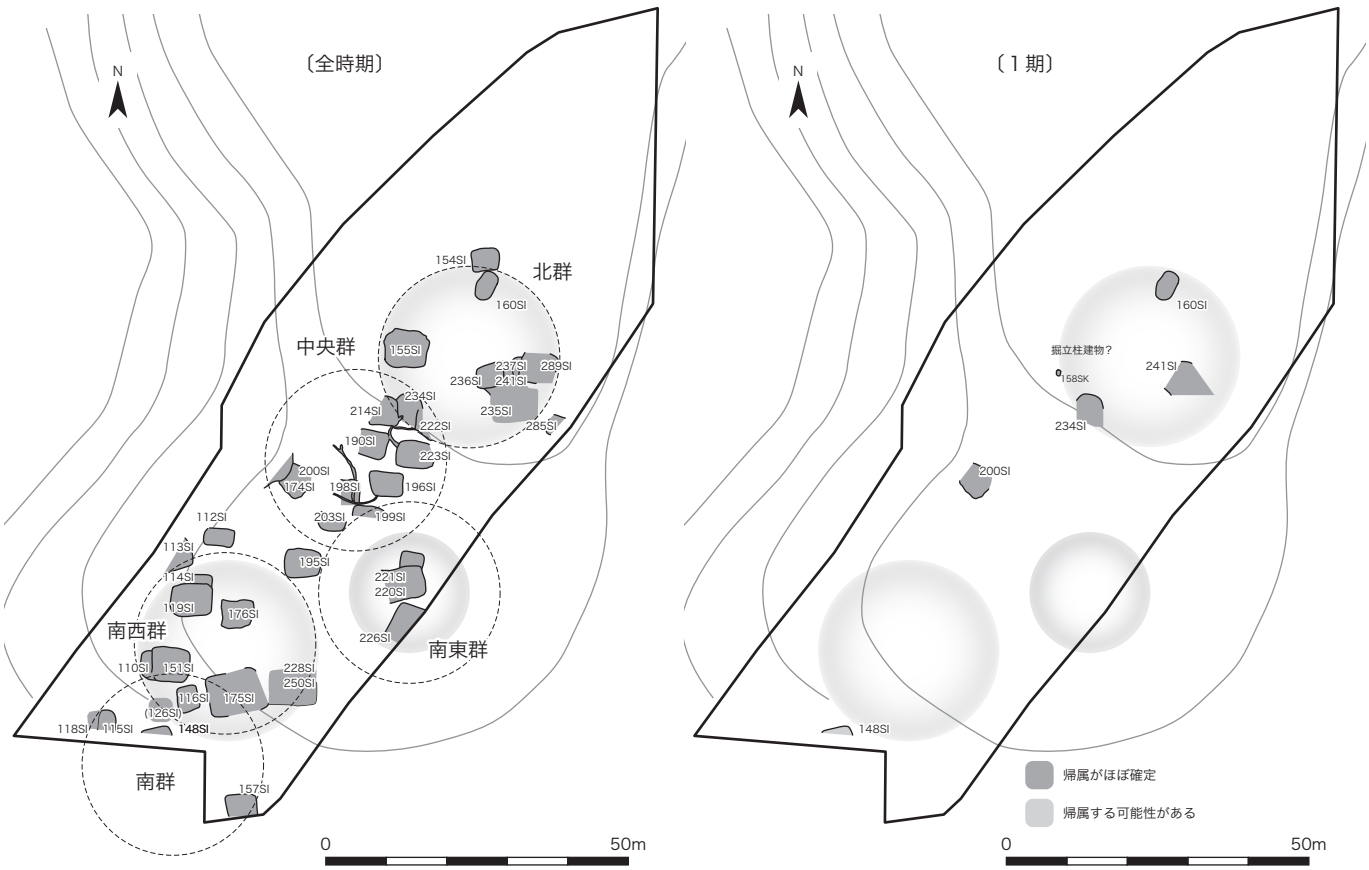
変遷

占有面積の問題

重複建物の問題

５期区分

前段の竪穴建物の諸属性をも参考にしつつ、発掘調査で明らかになった遺構の先後関係、土器編年（本章（２）を参照）に依拠して集落の変遷を検討する。検討に際しては、竪穴建物の構造間の距離、延焼予防措置を考慮した占有面積の問題（藤田 1984）、重複する竪穴建物が規則的な重複をしない（同心状の重複ではない）「非連続的重複」（田中 1976）の場合、先行する竪穴建物が埋没し、一定期間の経過後、後出する竪穴建物が構築された（新旧の竪穴建物間に非居住期間が存在した）とする理解（浜田 2008）を踏まえた。遺跡は２棟の重複が多く、（調査の不備もあって確実ではないが、）同位置に３棟の「非




第280図　集落の変遷1（1:1,250）

連続重複」（241SI、237SI、289SI）があったとすれば、非居住期間を含めて５期に区分される。この区分は土器編年に照らしても大きくは矛盾しない（第 280・281 図）。

１期　１期は「最大」の 241SI を含めて北群を中心に分布する。中期を中心とする花の木北

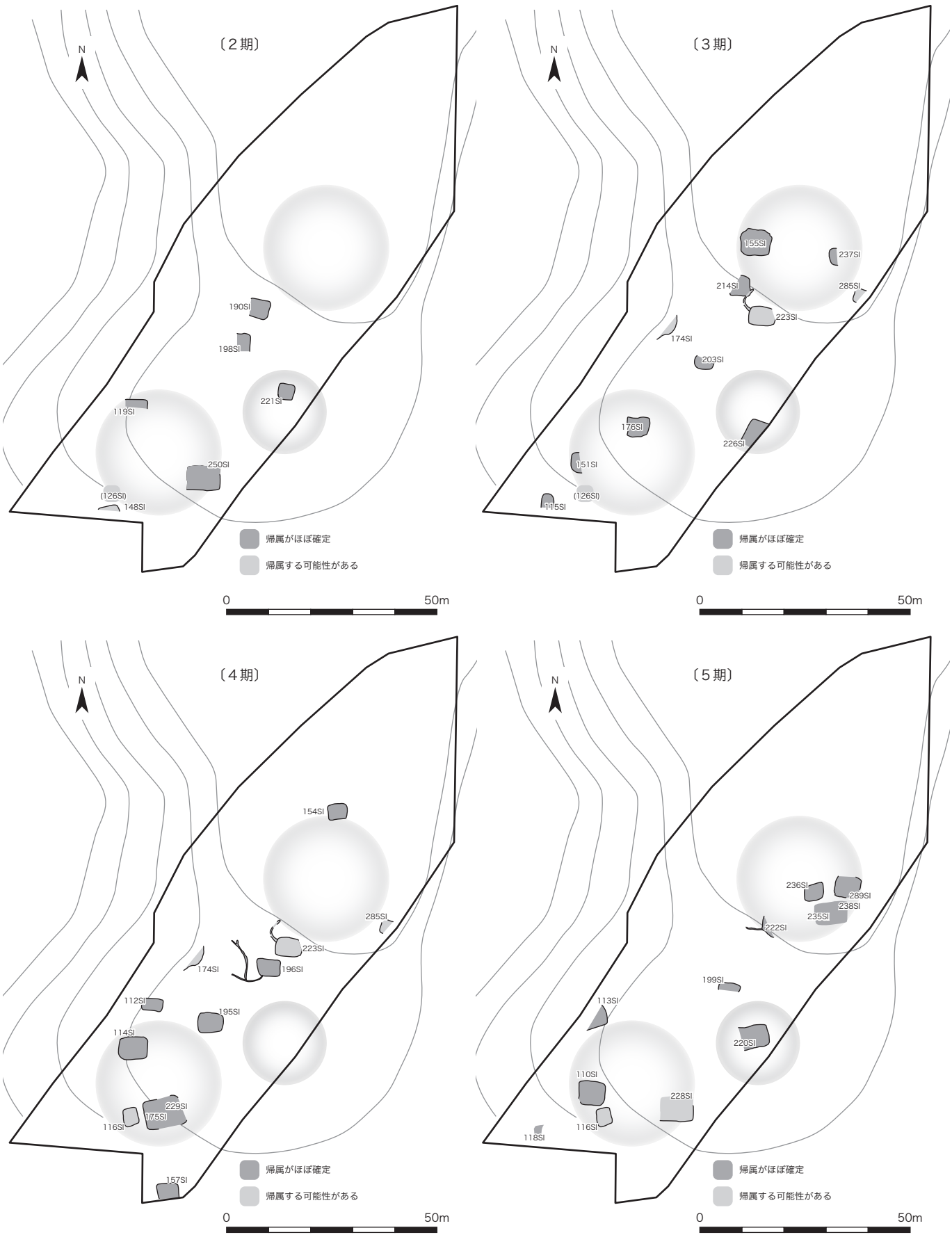
２期　遺跡との関係を反映した分布と考えられる。２期は中央群、南東群、南西群に分布が変移し、「最大」の 250SI を中心として、周囲に「中型」と「小型」が分布する。１期と２期を通じて、「最大」の１棟とその周囲の３棟から４棟の竪穴建物による構成が復元される。

３期　３期は北群、中央群、南東群、南西群、南群の各群に分布し、集落規模が拡大する。「最大」から「大型」は北群の 155SI、南東群の 226SI に分布し、それぞれの周囲に「中型」、「小

４期から５期　型」が数棟分布する構成は踏襲されるが、規模の格差は縮小する傾向にある。４期から５期を通じて、集落分布、規模、構成に大きな変化は認められない。規模の格差が縮小する傾向も継続する。４期を前後して中央群には排水溝が付属する竪穴建物が構築される。

［参考文献］

亀山行雄　1996「古墳時代の竪穴住居」『津寺遺跡３』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104　岡山県教育委員会
亀山行雄　1997「古墳時代前期の遺構・遺物」『津寺遺跡４』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116　岡山県教育委員会
田中義昭　1976「南関東における農耕社会の成立をめぐる若干の問題」『考古学研究』第22巻第３号　考古学研究会
浜田晋介　2008「弥生時代の重複住居からみる集落の動態」『考古学研究』第55巻第１号　考古学研究会
藤田憲司　1984「単位集団の居住領域―集落研究の基礎作業として―」『考古学研究』第31巻第２号　考古学研究会
松井孝宗　2015「屋内土坑の再検討―弥生、古墳時代の竪穴住居跡内の貯蔵穴をめぐって―」『駒沢考古』第40号　駒澤大学考古学研究室




第281図　集落の変遷２（1:1,250）

## （4）花の木北遺跡と花の木遺跡の弥生時代前・中期の遺構と遺物

### 花の木北遺跡の弥生時代の遺構と遺物

弥生時代前期
弥生時代中期後葉

花の木北遺跡の弥生時代の遺構として、前期の土器棺墓、中期後葉の土器棺墓と竪穴建物がある。前期の土器棺墓は土器の埋設方法、中期後葉の土器棺墓と竪穴建物は両者の分布状況に特徴が認められる。

天間遺跡

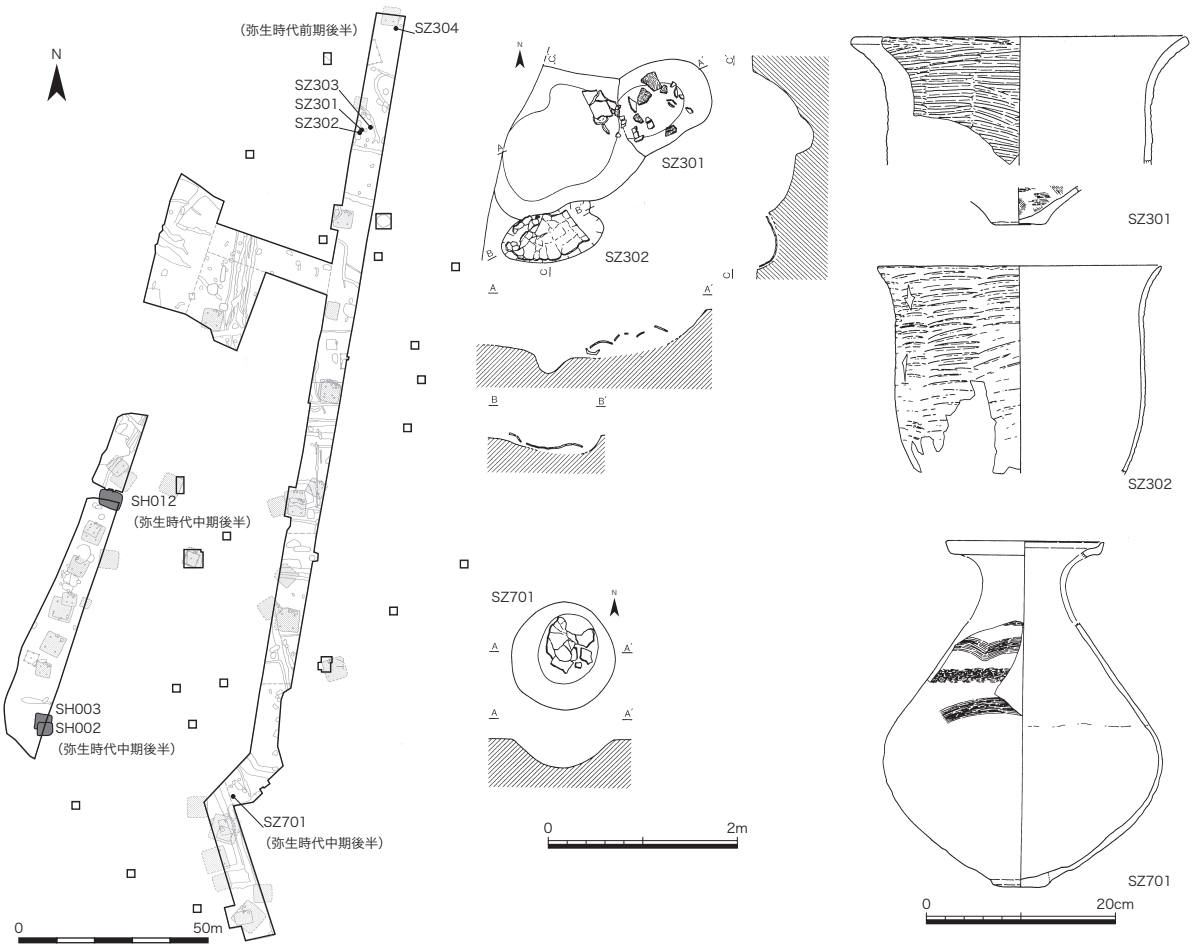
これら弥生時代の遺構・遺物の理解については、花の木北遺跡の西８km に位置する豊川市天間遺跡に参考となる部分が多い。天間遺跡は舌状台地上に立地する旧石器時代、縄文時代晩期から弥生時代前期、弥生時代中期、古墳時代後期、中世以降の遺跡である。

弥生時代前期

天間遺跡の弥生時代前期の遺構としては、水神平式の土器棺墓４基が検出されている。SZ301 は水神平式の甕を棺身に用いた土器棺墓で、「壊滅的に破壊」されていたとされるが、遺構図から判断する限り、花の木北遺跡の土器棺墓（甕蓋土壙墓）と同様、縦に半裁した甕の外面を上向きにして土坑内に埋設しているようである（第 282 図）。

弥生時代中期後半

中期後半の遺構としては、土器棺墓１基と数棟の竪穴建物が確認されている。土器棺墓 SZ701 は中型の広口壺を斜位に埋設する。竪穴建物は重複する SH002 と SH003、SH012 の３棟が検出されているが、出土土器は少なく、土器棺墓との前後関係を含めて




第282図　天間遺跡の遺構（1:2,500・1:80）と遺物（1:8）

詳細な時期を判断することが難しい。検出遺構の密度と内容、分布状況はやはり花の木北遺跡と類似する（第 282 図）。

花の木北遺跡周辺の豊川市鎧水Ｂ遺跡、同水神平遺跡、同麻生田大橋遺跡を含めて、前期の検出遺構は土器棺を主とする埋葬遺構が主で、日常生活に関係する明確な遺構は弥生時代中期前半までほとんど検出されない。天間遺跡の中期後半の竪穴建物もやや不明確で、周辺地域を含めた本格的な集落形成は近接する花の木遺跡が示すように、中期後葉に凹線文土器を伴って進行すると考えられる。

前期の遺跡
中期後半の遺跡
集落の形成

台盤状土製品と有溝石錘

弥生時代中期後葉の特徴的な遺物として花の木遺跡の竪穴建物 160SI 出土の有溝石錘（73）、花の木北遺跡出土の台盤状土製品（20）がある。前者は遺跡の北東部、後者は遺跡の南西部に分布し、出土位置が比較的近接する。

花の木遺跡
花の木北遺跡

有溝石錘は「瀬戸内型石錘」として分類される石錘とも類似する（和田 1985）。「瀬戸内型石錘」は海岸部が分布の中心で、内陸部からも出土するが、同種同大多量出土の例は少ないとされる。三河における出土は豊橋市内田貝塚、西尾市岡島遺跡、豊田市川原遺跡が知られる一方、清須市朝日遺跡の出土が突出して多い（早野 2023）。

有溝石錘
出土分布
朝日遺跡

台盤状土製品の三河における出土は豊川市山ノ奥遺跡、同篠束遺跡、岡島遺跡が知られている。やはり朝日遺跡の出土が突出して多い（森 1998、永井 2009）。

台盤状土製品
出土分布

西遠江の浜松市将監名遺跡においては、有溝石錘と多様な形態の台盤状土製品がまとまって出土している。朝日遺跡における分布の集中、岡島遺跡における出土を含め、両者の相関性、遺跡間の関係は今後の検討課題である。

将監名遺跡
岡島遺跡

［参考文献］

永井宏幸　2009「台盤状土製品」『朝日遺跡VIII』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第154集　財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二　2023「弥生・古墳時代の石錘と伊勢湾沿岸地域」『網漁の諸問題』海洋考古学会第13回研究会資料集　海洋考古学会・岡山大学考古学研究室
森　泰通　1998「台付甕の出現II」『楢崎彰一先生古希記念論文集』楢崎彰一先生古希記念論文集刊行会
和田晴吾　1985「土錘・石錘」『弥生文化の研究　第５巻　道具と技術Ⅰ』雄山閣

［遺跡文献］

［静岡県浜松市］将監名遺跡：静岡県埋蔵文化財センター　2012『将監名遺跡』静岡県埋蔵文化財センター調査報告書第11集
［愛知県豊橋市］内田貝塚：豊橋市教育委員会　2014『内田貝塚（III）・若宮遺跡（VII）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第130集
［愛知県豊川市］麻生田大橋遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1991『麻生田大橋遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第21集／豊川市教育委員会　1993『麻生田大橋遺跡』
［愛知県豊川市］篠束遺跡：小坂井町教育委員会　1960『篠束　第一次調査報告』
［愛知県豊川市］水神平遺跡：須川勝以　1985「水神平遺跡」『〈条痕文土器〉文化をめぐる諸問題―縄文から弥生―』資料編Ⅰ／前田清彦　2022「豊川市大池遺跡出土の弥生前期土器」『三河考古』第32号　三河考古学談話会
［愛知県豊川市］天間遺跡：豊川市教育委員会　1995『天間遺跡』
［愛知県豊川市］鎧水Ｂ遺跡：紅村　弘　1963『東海の先史遺跡・綜括編』名古屋鉄道
［愛知県豊川市］山ノ奥遺跡：豊川市教育委員会　2008『山ノ奥遺跡』
［愛知県豊田市］川原遺跡：財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2001『川原遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集
［愛知県西尾市］岡島遺跡：西尾市教育委員会　1994『岡島遺跡』西尾市埋蔵文化財発掘調査報告書第１集／財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1993『岡島遺跡II　不馬入遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第43集

## （５）花の木北遺跡の古墳時代中期の土器と集落

### １）古墳時代中期土器の器種（形式）分類

構成

花の木北遺跡の古墳時代中期の土器は、甕、壷、鉢、高杯各種から構成される。最初に器種（形式）分類を提示する（第 283 図、第 19 表）。

甕

甕は口縁部の形状から、く字状口縁甕（く字甕）とＳ字状口縁台付甕（Ｓ字甕）に大別した。後者は台付甕であるが、前者は台付甕と平底甕の両者がある。

平底甕

平底甕は大きな平底、小さな平底に加えて、底がない丸底気味の底部も含めた（明らかな丸底の甕も出土しているが、一群の須恵器と同様、後期に帰属すると判断して、分類の対象には含めていない）。ただ、く字甕は底部（付近）が残存しない限り、その判別はほとんど不可能であることから、器種（形式）分類の属性としては考慮していない。法量、口縁部の形状、体部の形状（長さ）、調整等によっても細分される可能性はあるが、明確ではないことから、同じく器種（形式）分類の属性としては設定せず、必要に応じて各属性を考慮する。

Ｓ字甕

Ｓ字甕はＤ類で、口縁部全体が肥厚し、独特な屈曲もほとんど失われる特徴から、新段階に対比される（赤塚・早野 2001）。安定して組成しない（濃尾平野または伊勢湾西岸からの搬入）。

壷

壷は大型の広口壷、中型の短頸壷、直口壷、小型壷に大別した。小型壷に器形、法量が類似する頸部径が大きい一群は小型鉢として区別した。

広口壷

広口壷は口縁部が単純に外反する広口壷Ａ、口縁部が有段状の広口壷Ｂ（有段口縁壷）、二重口縁で加飾する広口壷Ｃ（柳ヶ坪型壷）に細別した。広口壷Ｂ（有段口縁壷）は口縁部の屈曲の程度や厚さ、屈曲部分の突帯の有無等よって型式細分される可能性もある。

小型壷

小型壷は体部が球形に近く、口縁部が大きく外傾する小型壷Ａ、体部が扁平に近く、口縁部が外傾する小型壷Ｂ、口縁部が短くわずかに外傾する小型壷Ｃに細別した。後二者の多くは底部が厚く、安定する。

小型鉢

小型鉢は体部が球形に近く、口縁部が外傾する小型鉢Ａ、体部が扁平で口縁部が大きく外傾する小型鉢Ｂに細別した。これらの小型鉢とは異なり、明確な平底で体部が直立する小型鉢を小型平底鉢とした。

高杯

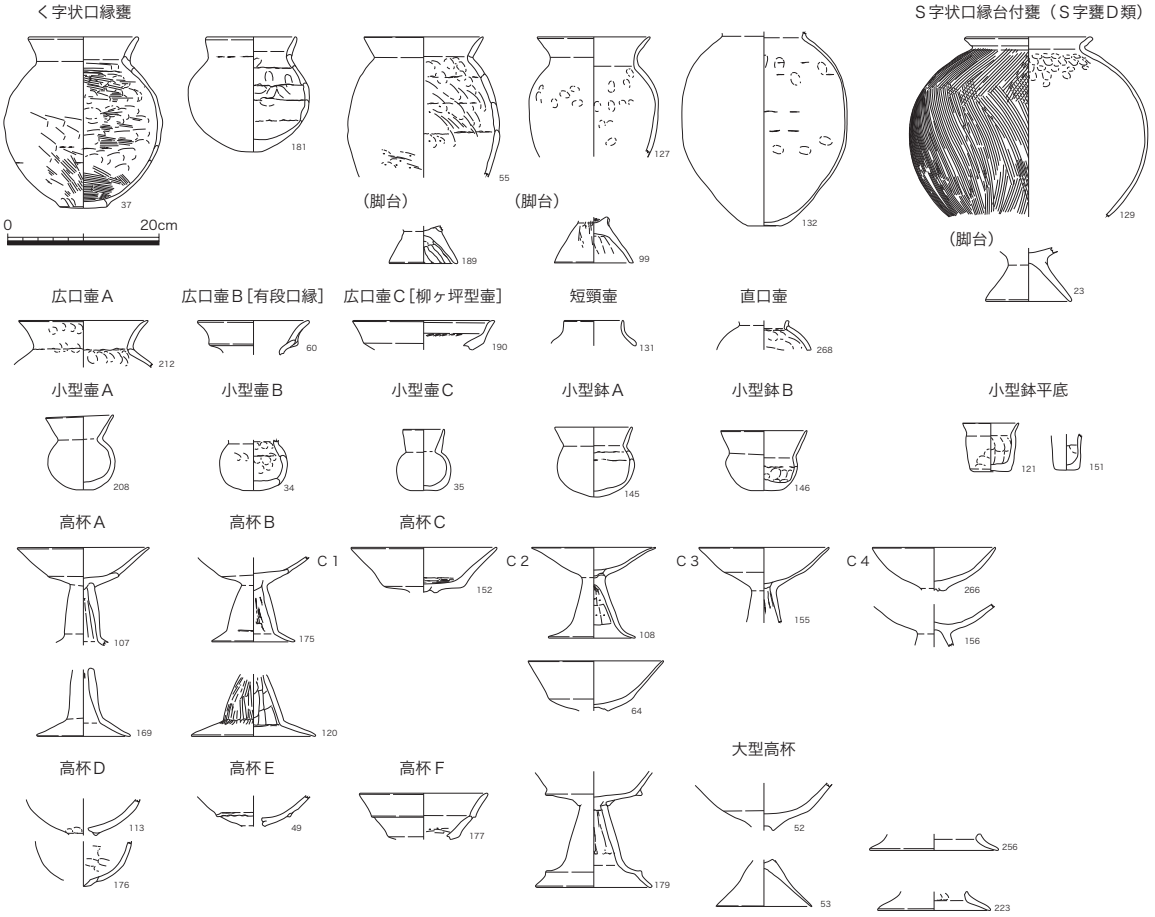
高杯は脚部が柱状（または円錐形）の部分から下端付近で大きく屈折する（または緩やかに広がる）一群に対し、主として脚部の形状により高杯Ａ、高杯Ｂ、高杯Ｃ、その他の特徴的な高杯を高杯Ｄ、高杯Ｅ、高杯Ｆに大別した。これらに加えて、法量から明確に区別される大型の高杯を大型高杯とした。

高杯Ａ・高杯Ｂ
高杯Ｃ

高杯Ａは杯部が大きく外傾し、脚部は細い柱状部から明瞭に屈折する。高杯Ｂは杯部が大きく外反し、脚部は膨らみがある柱状部から大きく開く。高杯Ｃは脚部が脚柱状部から緩やかに広がる形状で、特に杯部の形状（杯部下端の稜の位置）により、底部付近に稜があるＣ１、底部よりやや上位に稜があるＣ２、杯部の中位付近に稜があるＣ３、稜がないＣ４に細別した。

その他の高杯

その他の特徴的な高杯について、杯部が椀状の高杯を高杯Ｄ、杯部下端に突帯を付す高杯を高杯Ｅ、杯部または脚部に段を有する高杯を高杯Ｆとした。




第283図　花の木北遺跡古墳時代中期土器器種分類（1:10）

第 19 表　花の木北遺跡古墳時代中期土器器種分類

| | 器種・形式 | 細別形式 | 型式 | 分類要素 |
|---|---|---|---|---|
| 甕 | く字状口縁甕（く字甕） | | | 単純に外反する口縁部 |
| | S字状口縁台付甕（S字甕） | | | 屈曲が痕跡的な口縁部（S字甕D類） |
| 壷 | 広口壷 | 広口壷A | | 単純に外反する口縁部 |
| | ［有段口縁］ | 広口壷B | | 有段状の口縁部 |
| | ［柳ヶ坪型壷］ | 広口壷C | | 加飾した二重口縁 |
| | 短頸壷 | | | 短く直立する口縁部（口縁部と体部の区別は不明瞭） |
| | 直口壷（中型壷） | | | 球形の体部、直線的に外傾する口縁部 |
| | 小型壷 | 小型壷A | | 球形の体部、直線的に外傾する口縁部 |
| | | 小型壷B | | 大きく安定した底部 |
| | | 小型壷C | | わずかに外傾するやや短い口縁部 |
| 鉢 | 小型鉢 | 小型鉢A | | 球形の体部、外傾する口縁部 |
| | | 小型鉢B | | 扁平な体部、大きく外傾する口縁部 |
| | 小型平底鉢 | | | 大ききな平底、ほぼ直立する体部 |
| 高杯 | | 高杯A | | 外傾する杯部、細い柱状部から屈折する脚部 |
| | | 高杯B | | 大きく外反する杯部、膨らみがある柱状部から大きく開く脚部 |
| | | 高杯C | | 脚柱状部から緩やかに広がる脚部、杯部形状により細分 |
| | | | C１ | 大きく外傾、底部付近に稜がある杯部 |
| | | | C２ | 大きく外傾、底部よりやや上位に稜がある杯部 |
| | | | C３ | 大きく外傾、中位付近に稜がある杯部 |
| | | | C４ | 大きく外傾、稜がない杯部 |
| | | 高杯D | | 椀（鉢）状の杯部（脚付鉢） |
| | | 高杯E | | 杯部下端に突帯を付した高杯 |
| | | 高杯F | | 杯部または脚部に段を有する高杯 |
| | 大型高杯 | | | 大型に法量分化した高杯 |

## 2）東三河の古墳時代中期土器

検討の意義

花の木北遺跡で検出した古墳時代中期集落の詳細な時期、変遷を明らかにすることを目的として、東三河の古墳時代中期（第 284 図）を対象とした土器群の変遷を検討する。その成果は花の木古墳群の築造時期、相互に隣接する遺跡と古墳群の対応関係の問題にも直結する。

既往の研究

東三河の古墳時代中期を対象とした土師器の編年研究として、須恵器出現以降を対象とした小林久彦による研究がある（小林 1990）。小林は豊川市宮沢遺跡遺物集積 SU-1（第 287 図 115 ～ 152）、同堂前遺跡溝状遺構 SD1（第 286 図 49 ～ 61）を I 段階、田原市青山貝塚（第 286 図 91 ～ 96・第 288 図 29 ～ 35）を II 段階として設定し、I 段階に（遺構では共伴しないものの、）須恵器が出現していることを示唆した。

土師器の変遷
編年の対比

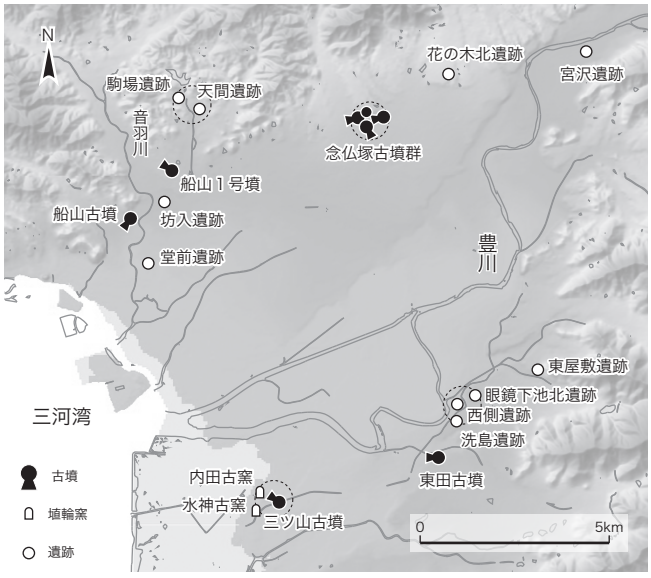
以下、中期初頭から中期前半の検討を主眼として、その前後を含めて土師器の変遷を改めて確認する。同時に小林の研究以後に進展した尾張の松河戸・宇田式編年（赤塚 1994、赤塚・早野 2001）との関係を含め、より詳細に検討する。

出土遺跡と土器群

前期後半前後は宮沢遺跡（第 285 図 1 ～ 88・96 ～ 100・第 287 図 115 ～ 152）、中期初頭（前期末葉）から中期前半は豊橋市西側遺跡（第 286 図 1 ～ 89）、中期後半は豊川市駒場遺跡（第 288 図 36 ～ 91）において、竪穴建物を主とする遺構単位で良好な土器群が出土している。これらにより、前期後半前後（宮沢遺跡）から中期前半（西側遺跡）にかけて台付甕が減少し、平底甕が増加する傾向、無透孔柱状屈折脚高杯が出現し、高杯が急激に増加する傾向、小型丸底土器が消滅し、粗製の小型壺が増加する傾向が把握される。中期前半（西側遺跡）から中期後半（駒場遺跡）にかけて須恵器が出現、増加する変化は明確で、その間の土器群としては、西側遺跡周辺の豊橋市眼鏡下池北遺跡（V）（遺構名前の（ローマ数字）は調査報告書の巻号）方墳 SZ2・3（第 288 図 1 ～ 7）、同洗島 1 号墳周溝（同 8 ～ 15）に伴う土師器と須恵器等が充てられると思われる。その他、豊川市坊入遺跡において、その前後に対応すると思われる土器群（第 288 図 16 ～ 28）が出土している。

高杯法量の比較

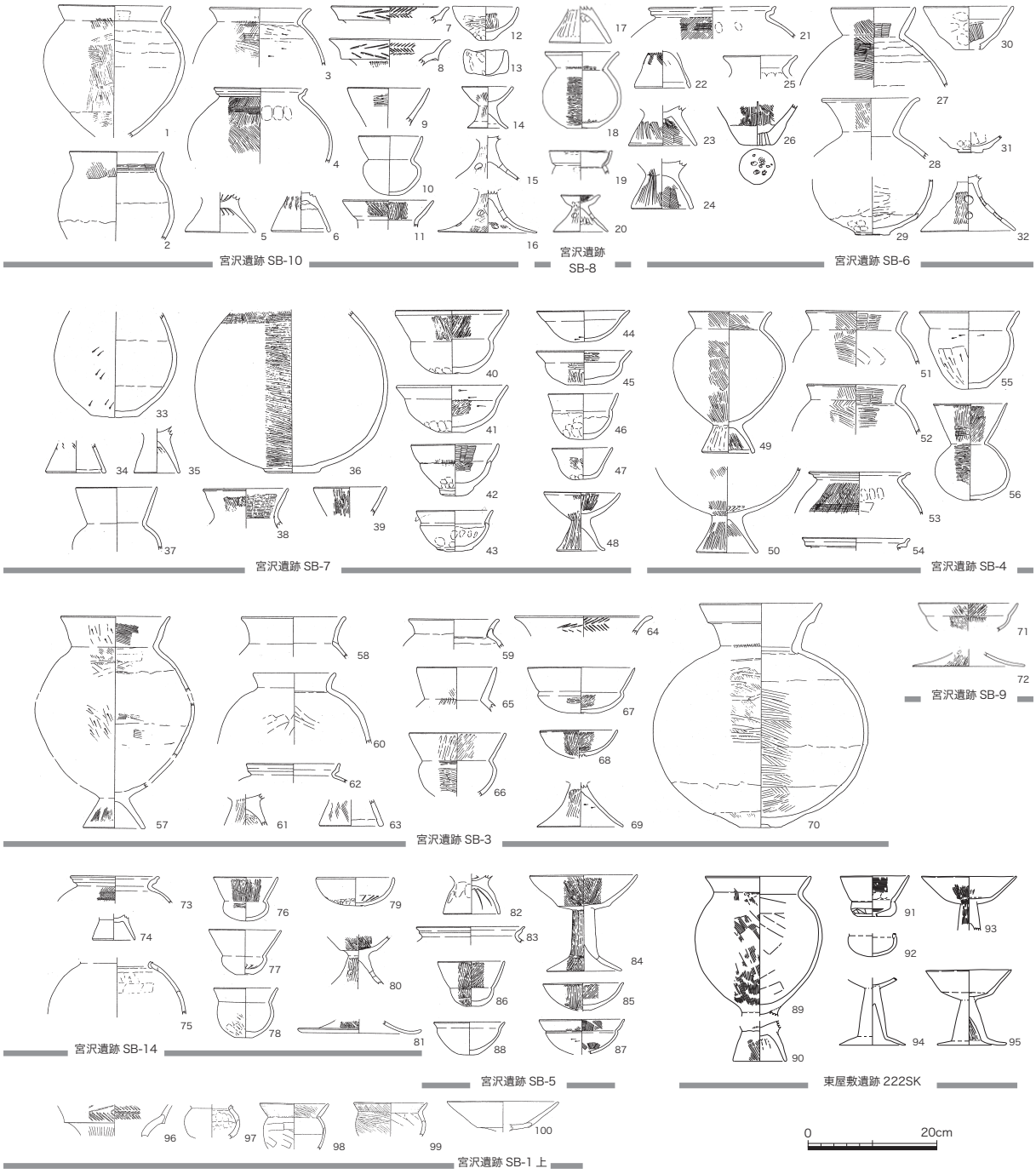
宮沢遺跡、西側遺跡と花の木北遺跡における前期後半から中期前半の土器群の推移を検討するに際しては、特に主要器種の一つの高杯について、遺構単位で杯部法量（口径）を比較した（第 289 図）。以下、その結果を踏まえ、土器群の推移を確認する。




第284図　関連遺跡の分布（1:200,000）

宮沢遺跡

宮沢遺跡は遺構の変遷とも対比させることにより、前期前半の SB-6、SB-8、SB-10、前期後半の SB-3、SB-4、SB-7、SB-9（古相）

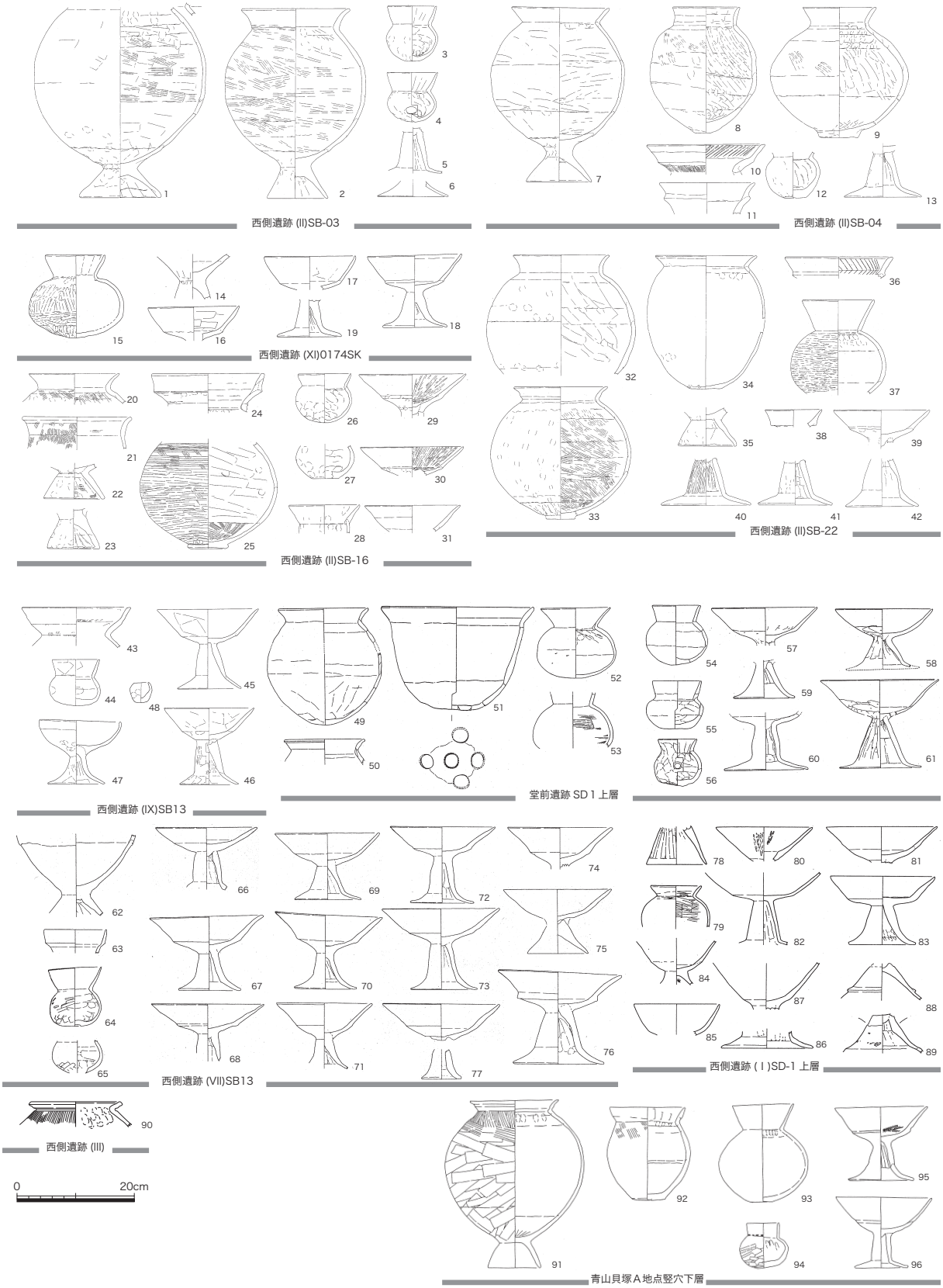



第285図　前期前半から後半の土器群（1:10）

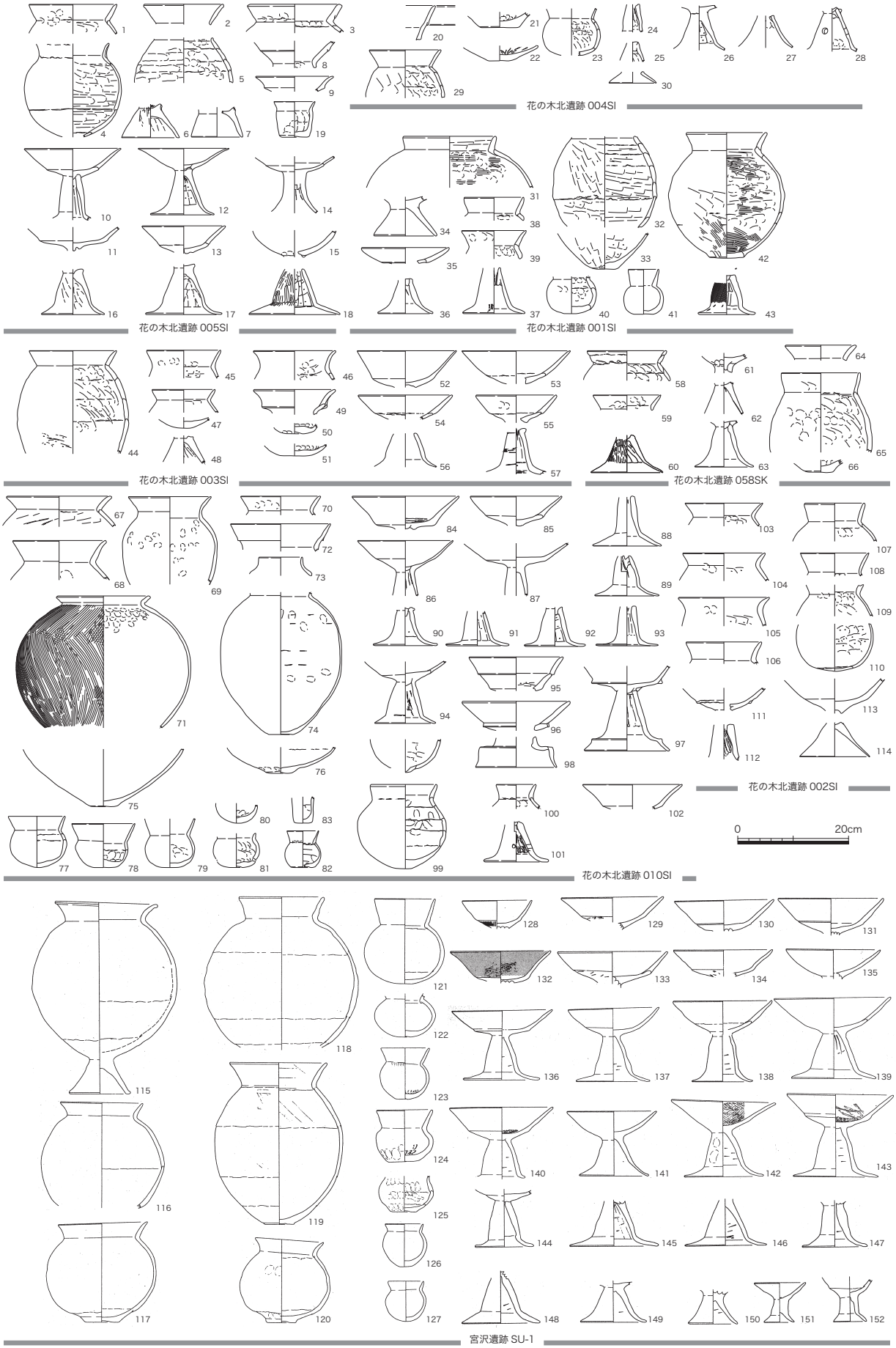
から SB-5、SB-14（新相）への連続した変化を確認することが可能である。以下、前期前半（新相）を（宮沢遺跡の）１期、前期後半（古相）を２期、前期後半（新相）を３期として扱う（第 285 図）。

１期とした SB-10 は古相の柳ヶ坪型壷（7･8）、SB-10、SB-6 はＳ字甕Ｃ類古段階（4･21）が伴う。２期とした SB-3 は典型的な柳ヶ坪型壷（64）、SB-4、SB-3 はＳ字甕Ｃ類新段階（53・54・62）が伴い、SB-7 は各種の浅鉢が組成する。弥生時代終末期以降、高率で組成した有段高杯はごく少ない。その他､SB-4 に細かいヨコミガキを施した直口壷(56)

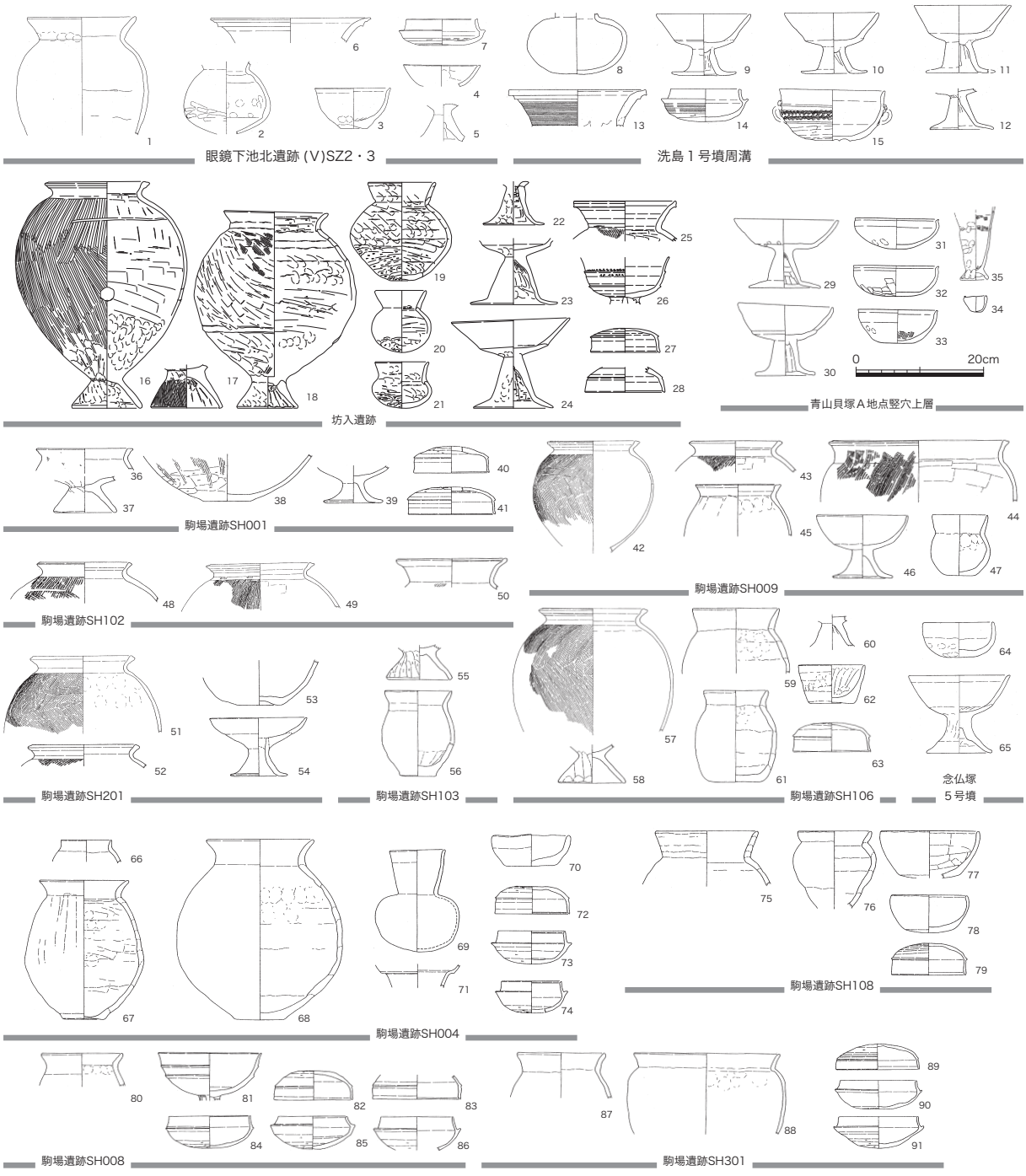
宮沢遺跡１期
宮沢遺跡２期




第286図　中期初頭（前期末葉）から中期前半の土器群１（1:10）




第287図　中期初頭（前期末葉）から中期前半の土器群2（1:10）



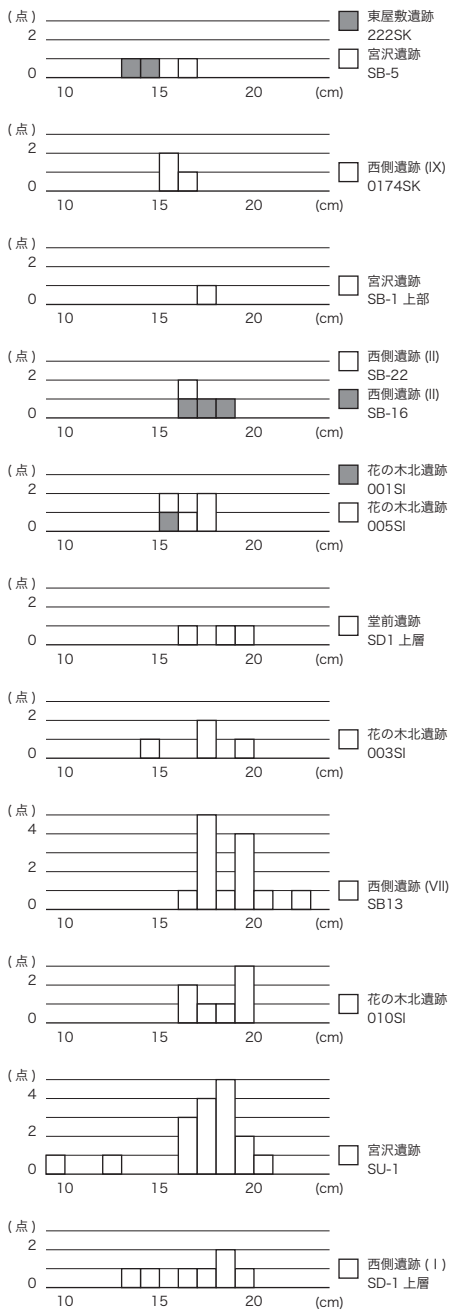

第288図　中期後半の土器群（1:10）

宮沢遺跡３期

が伴う。３期としたSB-5は無透孔中実柱状屈折脚高杯（84）、小型丸底土器（86）、有段口縁鉢（87）が伴う。豊橋市東屋敷遺跡の土坑222SK（第285図89～95）は同時期に

宮沢遺跡３期以降

対応する。３期に伴う高杯（杯部容量）は相対的に小型（最小）で、以後、大型化（増加）に転じるようになる。宮沢遺跡SB-1上部の土器群（第285図96～100）は（文様の省略化が進む以前の）柳ヶ坪型壷（96）が伴う一方、高杯（100）には大型化の傾向が認められるので、前期後半から中期初頭に対応することが想定される（上部と下部の遺物が混在している可能性もある）。




第289図　高杯杯部法量（口径）の比較

西側遺跡においては、各竪穴建物に伴って中期初頭（前期末葉）から中期前半に相当する土器群が出土している（第 286 図）。台付甕と高杯の相対的な多寡、柳ヶ坪型壷の伴出等からは、(II)SB-03（1 ～ 6）、(II)SB-04（7 ～ 13）、(II)SB-22（32 ～ 42）等が相対的に古相で、(VII)SB13（62 ～ 77）等が新相に区分されることが予測される。後者は前者と比較して、一部の高杯の法量が大型化し、全体としては法量が多様化する傾向（法量分化の兆候）が認められる。同時に杯部（脚部に）突帯や段を有する高杯も出現する。以下、中期初頭（前期末葉）に対応する古相の一群を（西側遺跡の）１期、中期前半に対応する新相の一群を２期として扱う。

西側遺跡

時期区分

これら器種組成と高杯の変化の傾向の把握により、堂前遺跡 SD1 上層、宮沢遺跡 SU-1、西側遺跡 SD-1 は概ね後者に対応することが理解される。ここでは前者を中期初頭（前期末葉）、後者を中期前半として把握する。

堂前遺跡SD1

宮沢遺跡SU-1

西側遺跡SD-1

花の木北遺跡の土器群（第 287 図）については、003SI（44 ～ 57）、002SI（103 ～ 114）、010SI（67 ～ 102）に高杯法量の大型、多様化の傾向が認められる。加えて後二者は杯部下端に突帯を付す高杯Ｅ（111）、杯部または脚部に段を有する高杯Ｆ（95 ～ 98）、大型高杯（113・114）の出現から、新相、中期前半として区分される。（後述する遺構の変遷をも勘案し、）それ以外の前者は古相、中期初頭（前期末葉）として区分され、003SI はその中間に充てられる。以下、古相、新相の一群に対応する時期をそれぞれ、（花の木北遺跡の）１期、２期として扱う。なお、花の木北遺跡１期は西側遺跡１期、花の木北遺跡２期は西側遺跡２期にほぼ対応し、両遺跡の１期は宮沢遺跡３期に後出する。

花の木北遺跡

新相、中期前半

古相、中期初頭

時期区分

花の木北遺跡 010SI においては、Ｓ字甕Ｄ類新段階の良好な個体（第 287 図 71）が伴う。これにより中期前半、花の木北遺跡の２期が濃尾平野の松河戸Ⅰ式４段階・松河戸Ⅱ式１段階と接点があることが判明する。西側遺跡(III)においても同じくＳ字甕Ｄ類中段階（第 286 図 90）が出土していることとも整合的である（各遺跡出土土器群の時期区分、編年上の位置関係、尾張の土器編年との併行関係は本章（６）を参照）。

Ｓ字甕の共伴

併行関係

### 3）遺構の時期、構成と変遷

検出遺構の分布

（残存状況が良好でない 2023 年度調査区の 001SI・002SI、019SI・020SI を除いた）６棟の竪穴建物は台地頂部の稜線上、復元した７棟の掘立柱建物は台地頂部付近に分布する。

竪穴建物

竪穴建物については、主柱穴がある相対的に規模が大きい一群（001SI、004SI、010SI）、主柱穴がない相対的に規模が小さい一群（002SI、003SI、005SI）に大別され、前者は掘立柱建物の外縁（台地南東縁）に分布し、後者は掘立柱建物に混在する（第 205・206 図）。

竪穴建物は相互に重複せず、方位も N30° E ± 10°で近似するので、比較的短期間に構築されたと考えられる。001SI と 010SI、002SI と 004SI は相互に近接し、同時併存を想定することは難しいが、001SI と 010SI から出土した大型砥石、002SI 床面と 004SI 上層から出土した須恵器蓋杯には接合関係が認められた。

須恵器の出土状況

須恵器蓋杯が床面から出土した 002SI は出土土器に依拠すれば、古墳時代後期に帰属する可能性もあるが、出土土器の大半が古墳時代中期の土師器であることに加えて、竪穴建物には地床炉が付属し、他の属性も周辺の古墳時代中期に帰属する竪穴建物と変わらないので、竪穴建物の機能時は古墳時代中期で、何らかの理由により、古墳時代後期の須恵器が竪穴建物の床面に残された状況も想定する必要がある。

竪穴建物廃絶後の埋没過程については、例外なく遺構の中央付近は床面付近から黒色を基調とする覆土が厚く堆積することから、廃絶後の自然埋没には相当の期間を要したことが推測される。遺跡から出土する土器の多数が古墳時代中期の土師器でありながら、竪穴建物からは少量の古墳時代後期の須恵器と土師器が混在して出土する事実もそれに起因するのであろう。002SI と 004SI から出土した接合関係にある須恵器からは、先行して構築された 004SI の廃絶後、それに近接して 002SI が構築され、002SI の廃絶後も埋没が進行するまでには一定の期間を要したことにより、古墳時代後期に須恵器の一方が床面に残されることになったが、もう一方の須恵器は埋没が一定程度に進行していた 004SI の覆土中に流入した状況が想定される。それと同時に 004SI が 002SI に先行することも示される。

大型砥石の接合

001SI と 010SI から出土した接合関係にある花崗岩製大型砥石は、対向する前者の南西辺付近、後者の北東辺付近のいずれも床面付近から出土した。出土状況から両遺構の先後関係を確定することは難しいが、(同時併存にも)近い近接した時期の構築が示唆される。

群別と変遷

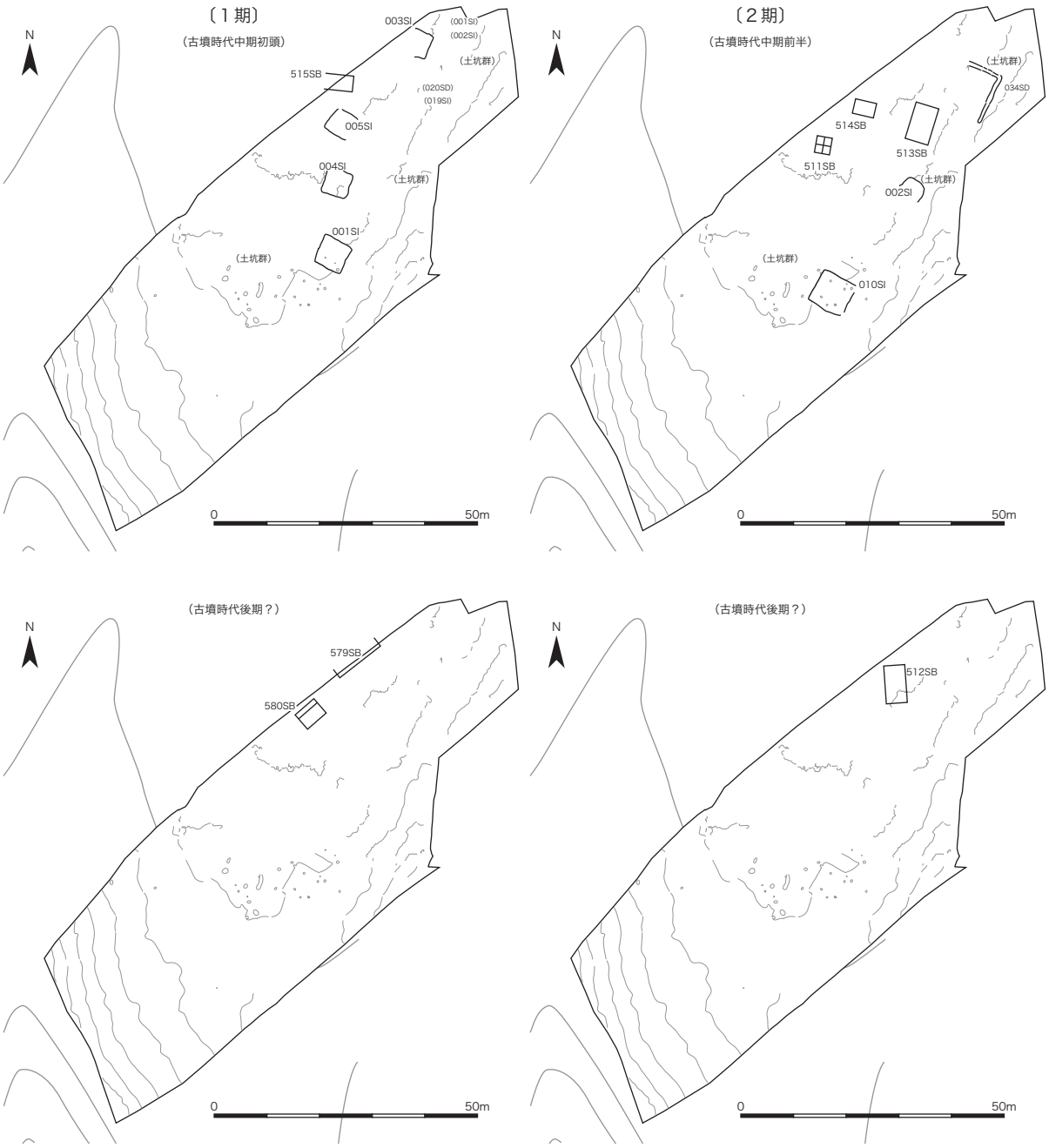
出土した古墳時代中期の土師器は 001SI、004SI、005SI が 002SI、010SI に対して先行する様相が認められることから、前者の一群から後者の一群への変遷が想定される。前者を竪穴建物ａ群、後者を竪穴建物ｂ群とする(両者の中間様相の 003SI は前者に含めた)。ａ群の方位は N35° E ± 5°、ｂ群の方位は N26°E ± 5°でより近似する傾向がある。

掘立柱建物

掘立柱建物は出土土器からすると、古墳時代中期（初頭から）前半に構築された可能性もあるが、埋没過程の竪穴建物と周辺の遺構からは古墳時代後期の須恵器、土師器も出土

群別と変遷

するので、古墳時代後期に構築された可能性もある。根拠としては消極的ながら、ここでは方位を参考にして、竪穴建物群と方位が近似するＢ群（N12°E ± 6°）が古墳時代中期（初頭から）前半、それを除くＡ群（N0°± 5°）とＣ群（N40°W ± 2°）が古墳時代後期に構築された可能性を想定する。Ｂ群は 514SB と 515SB が近接し、514SB は 005SI と重




第290図　集落の変遷

複するので、それぞれの同時併存が難しいとすれば、515SB と 005SI、514SB の構築には時期差を想定することが妥当である。屈曲する溝 034SD については、出土土器が明確ではなく、やはり消極的ながら、竪穴建物ａ群に 003SI を含めた場合、竪穴建物ｂ群と掘立柱建物Ｂ群に伴う区画溝の可能性も想定される。

以上から、古墳時代中期初頭から前半にかけて、竪穴建物ａ群と掘立柱Ｂ群の 515SB から、竪穴建物ｂ群と掘立柱建物Ｂ群の 511SB、513SB、514SB とそれに伴う区画溝 034SD、古墳時代後期にかけて掘立柱建物Ｃ群の 579SB、580SB と同Ａ群の 512SB に変遷したことを想定し、変遷案として提示する（第 290 図）。

集落の変遷

### 4）編物石

出土状況
法量

竪穴建物 010SI 主柱穴外の空間、西隅の床面付近で編物石と考えられる棒状礫７点が集積された状態で出土した（第 219 図）。７点の重さは 160.5 ～ 401.6g（平均 294.0g）、長さ 12.3 ～ 16.8cm（平均 13.9cm）、厚さ 2.2 ～ 3.6cm（平均 3.1cm）である。北東辺付近の床面付近から出土した花崗岩製大型砥石はワラ打ち用の台石の可能性もある。

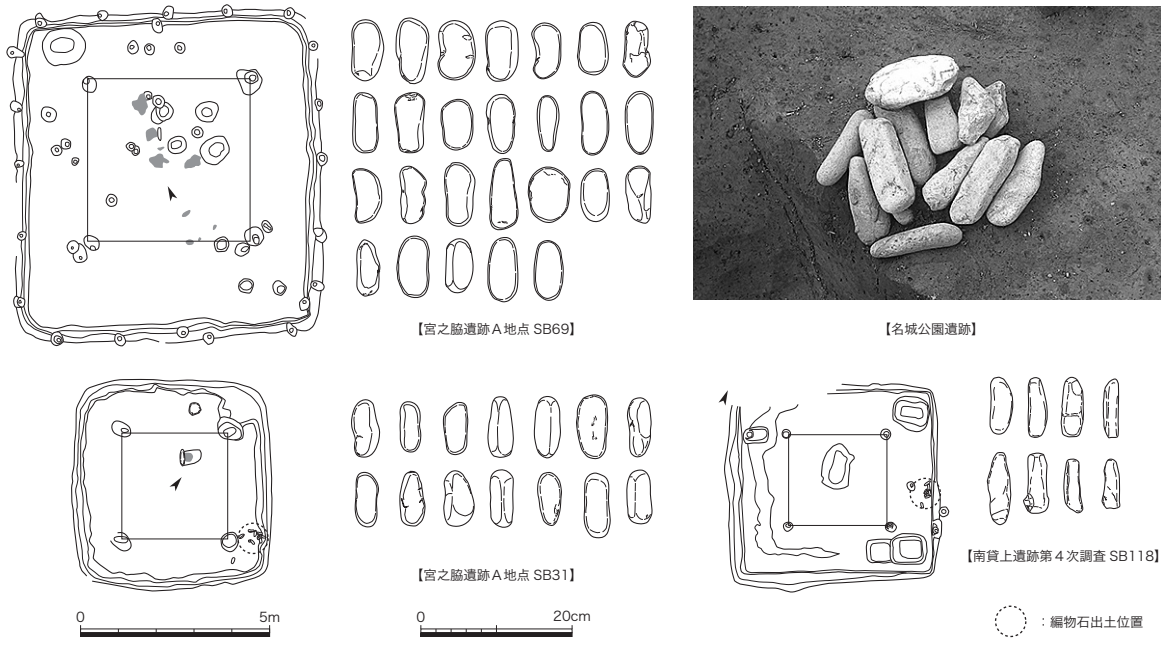
編物石の研究

渡辺誠の研究によると、編物石は西関東から中部地方の古墳時代の遺跡、竪穴建物で多く確認され、重さは大部分が 100g から 450g までで、対をなして並んだ状態で出土することも多く、８点の場合は米俵、炭俵を編んだ可能性が高いとする（渡辺 1981・2011）。渡辺は竪穴建物の奥とは逆の手前（入口を入ってすぐ）の左右のいずれかの空間で一括出土する事例が多く、その空間が俵編み等の作業空間や保管場所として利用されていたことも述べている（渡辺 1981）。その後、岐阜県可児市宮之脇遺跡Ａ地点 SB31、同 SB69、同関市南貸上遺跡第４次調査 SB118 でも編物石の出土が報告されている。前者の時期は古墳時代前期後半で、出土した編物石 14 点の重さは 600g から 800g が多く（平均 827.9g）、重さの分布域は花の木北遺跡と大きく異なっている。後者の時期は中期前半で、出土した編物石８点の重さの平均は 386.1g である。出土位置はいずれも主柱穴外の空間である。その他、名古屋市北区名城公園遺跡においても、前期後半の溝に伴って編物石と思われる棒状の礫が集積された状態で出土している（第 291 図）。

宮之脇遺跡Ａ地点
南貸上遺跡
名城公園遺跡

花の木北遺跡 010SI

花の木北遺跡 010SI 出土の編物石は、竪穴建物の入口が南西側であるとすれば、入口を入ってすぐの右側に置かれていたことになる（地床炉の位置が正面奥側だとすれば南東側が入口で入ってすぐの左側となる）。集積していた７点は２点が対であるような出土状況を示す。８点には満たないが、周辺で出土した棒状礫が何らかの理由で移動した可能性があるとすれば、米俵等を編んだことが考えられる。




第291図　各遺跡における編物石の出土状況

５）集落構造

集落構造の分析

前段までの土器群の推移、集落の変遷、編物石に対する考察を踏まえ、集落構造の特質について述べる。分析の主な対象は竪穴建物である。

既往の研究

東三河（豊川流域）における弥生時代中期から平安時代の竪穴建物を対象とした基礎的な分析は北村和宏によって提示されているが、古墳時代中期の竪穴建物は検出事例が挙げられていない。それもあって、北村は古墳時代前期における竪穴建物の構造変化（壁周溝の消滅）から、この段階に炉から竈に移行したことを想定した（北村 1991）。

宮沢遺跡
西側遺跡
駒場遺跡

今回の花の木北遺跡の発掘調査、報告を受け、古墳時代前期から中期の土器の比較検討に際して対象とした宮沢遺跡、西側遺跡、駒場遺跡について、集落構成の分析についても同じく検討の対象とした（第 284 図）。比較検討に際しては、花の木北遺跡の報告に準じた属性を抽出し（第 20 表）、規模、主柱穴や地床炉、竈等の内部施設の相関関係を示した（第 292 図）。

古墳時代前期

前期前半から前期後半に継続する宮沢遺跡は中・小型の竪穴建物のみで構成される。これらは規模の差も小さく、均質的である。先に示した土器群の変遷に従って、竪穴建物の諸属性を比較すると、規模が小型化し、主柱穴、地床炉が不明瞭化する傾向が認められる（第 293 図）。

古墳時代中期前半

宮沢遺跡に後続し、中期初頭（前期末葉）から中期前半に継続する花の木北遺跡は竪穴建物の規模が中型と大型に分化する。ほぼ同時期とした西側遺跡も検出状況がやや不明瞭な小型を除外すると、花の木北遺跡と類似した規模の構成を示す。花の木北遺跡について、先に示した時期区分に従って規模の構成を示すと、中期初頭（前期末葉）の１期が中型のみで、中期前半の２期は中型と大型に分化する。花の木北遺跡と西側遺跡とも主柱穴が検出された竪穴建物は全体の約半数である。大型竪穴建物は主柱穴は明瞭である一方、中型竪穴建物は明確な相関が認められない。

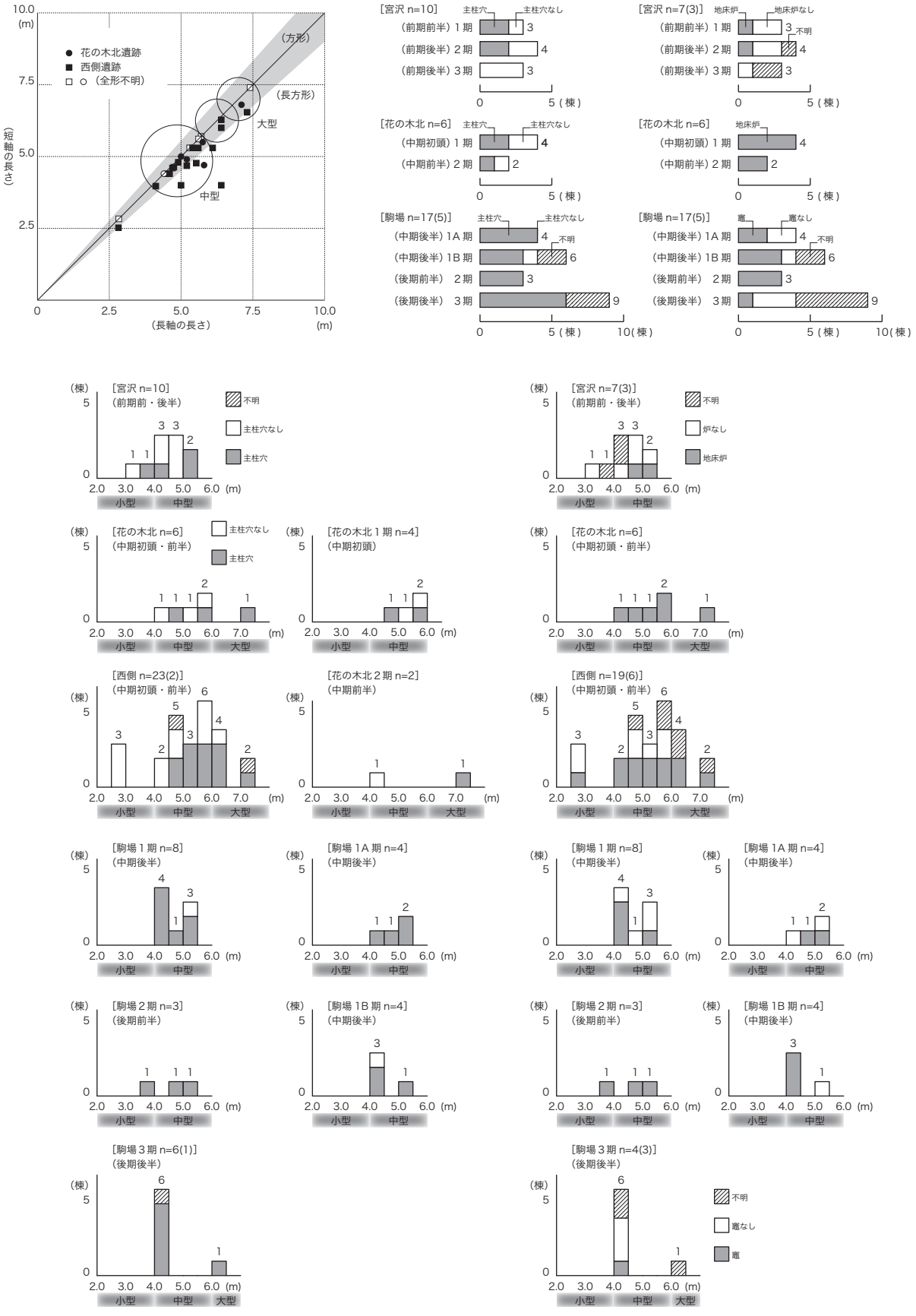
上記の比較から、前期（中期初頭）まで竪穴建物は均質的で、中期前半に大型竪穴建物が分化する傾向が指摘される。この変化は豊川の右岸域（花の木北遺跡）と左岸域（西側遺跡）で大きくは異ならない。規模に加えて、竪穴建物の全体の平面形や柱穴、地床炉、貯蔵穴様の土坑の位置等についても、特に大型に含まれる花の木北遺跡 010SI（1）、西側遺跡（IX）B 地区 SB-1（2）等が示すように、両地域（遺跡）は類似の度が高い（第 294 図）。上記を前期から中期にかけて、集落内で竪穴建物の規模は分化しつつも、集落間で構造は均質化（単純化）した状況として把握することも可能であろう。中期初頭（前期末葉）から中期前半に継続する集落の存続期間が一致すること、遺跡の近隣に前・中期の小型墳が築造されること（本章（１）を参照）、あるいはＳ字甕Ｄ類の出土を含めた土器相の類似も無関係ではないように思われる。

竪穴建物の機能
編物石

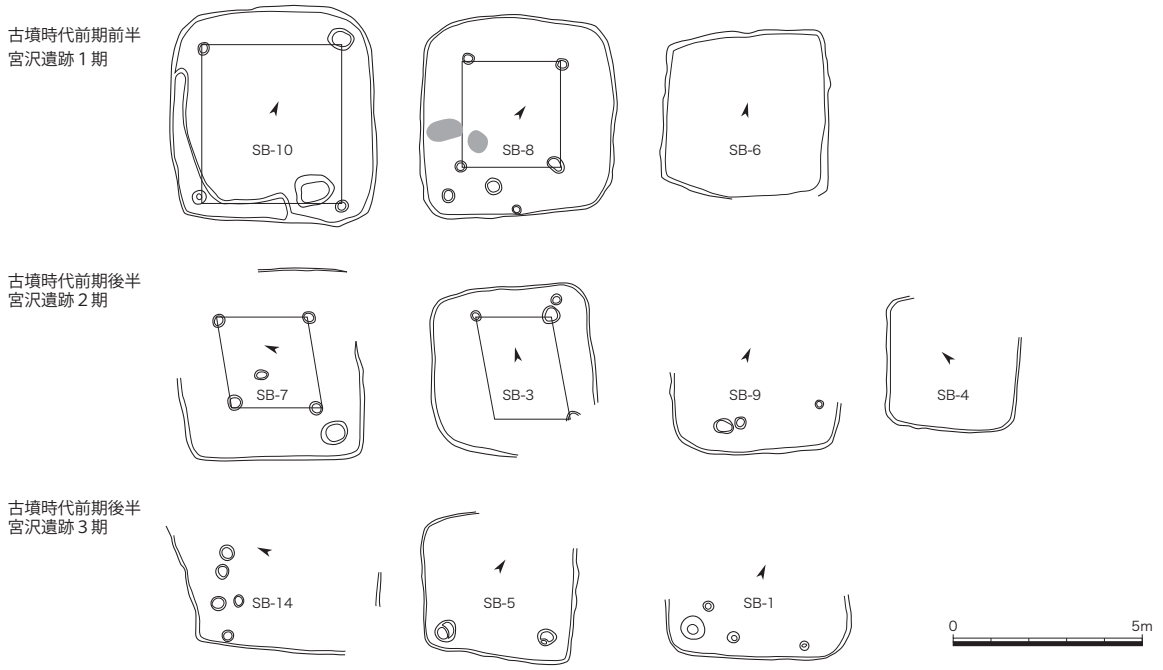
その背景を明らかにすることは容易ではないが、改めて花の木北遺跡の大型竪穴建物 010SI の編物石に着眼する。遺跡最大規模の 010SI は米俵等を編んだことが考えられる編物石が保管されたような状態で残されていた。この状況は大型竪穴建物が居住空間として利用されながら、作業空間、あるいは道具の保管庫としての機能を兼備していたことを示唆する。先行する宮沢遺跡の前期後半の竪穴建物は主柱穴や地床炉が不明瞭であったことを想起すれば、主柱穴や地床炉を欠く小規模な竪穴建物は作業空間や倉庫として利用さ

第 20 表　宮沢遺跡・西側遺跡・駒場遺跡竪穴建物一覧表

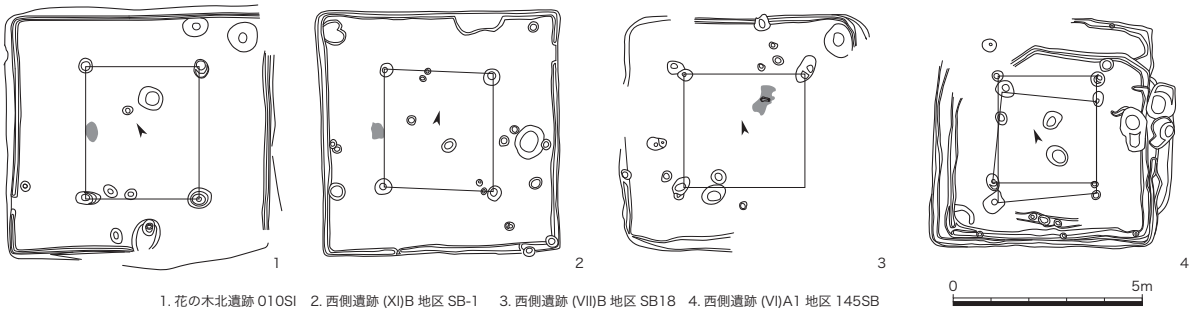
| 遺跡 | | 遺構番号 | 時期 | 方位 | 規模 | | | | | 平面形 | 周壁溝 | 主柱穴 | 炉 | 貯蔵穴配置 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 長短比 | 面積 (㎡) | 分類 | | | | | | |
| 宮沢遺跡 | 1 | SB-1 | 前期後半　3期 | N23°W | 4.90 | - | - | - | 中型 | 方形 | 無 | 0 | - | S | |
| 宮沢遺跡 | 2 | SB-3 | 前期後半　2期 | N13°E | 4.40 | 4.40 | 1.00 | 19.36 | 中型 | 方形 | 無 | (4) | × | | |
| 宮沢遺跡 | 3 | SB-4 | 前期後半　2期 | N43°W | 3.50 | 3.50 | 1.00 | 12.25 | 小型 | 方形 | 無 | 0 | × | | |
| 宮沢遺跡 | 4 | SB-5 | 前期後半　3期 | N35°W | 4.00 | 3.50 | 0.88 | 14.00 | 中型 | 長方形 | 無 | 0 | × | S/E | |
| 宮沢遺跡 | 5 | SB-6 | 前期前半　1期 | N12°W | 4.50 | 4.50 | 1.00 | 20.25 | 中型 | 方形 | 無 | 0 | × | | |
| 宮沢遺跡 | 6 | SB-7 | 前期後半　2期 | N20°W | 5.00 | 5.00 | 1.00 | 25.00 | 中型 | 方形 | 無 | 4 | ○ | SW | |
| 宮沢遺跡 | 7 | SB-8 | 前期前半　1期 | N37°W | 5.30 | 5.30 | 1.00 | 28.09 | 中型 | 方形 | 無 | 4 | ○ | S | |
| 宮沢遺跡 | 8 | SB-9 | 前期後半　2期 | N25°W | 4.50 | - | - | - | 中型 | 方形 | 無 | 0 | - | | |
| 宮沢遺跡 | 9 | SB-10 | 前期前半　1期 | N17°W | 5.50 | - | - | - | 中型 | 方形 | 半 | 4 | × | | |
| 宮沢遺跡 | 10 | SB-14 | 前期後半　3期 | N23°W | 4.90 | - | - | - | 中型 | 方形 | 無 | 0 | - | | |
| 西側遺跡 (II) | 1 | SB-02 | 中期初頭・前半 | N18°E | -6.10 | 5.30 | - | - | 大型 | 長方形 | 全 | 4 | × | NW | |
| 西側遺跡 (II) | 2 | SB-03 | 中期初頭・前半 | N32°E | -7.40 | -0.80 | - | - | 大型 | - | 全 | - | - | | |
| 西側遺跡 (II) | 3 | SB-04 | 中期初頭・前半 | N29°E | 6.40 | 4.00 | 0.63 | 25.60 | 大型 | 長方形 | 全 | (4) | - | SE | |
| 西側遺跡 (II) | 4 | SB-05 | 中期初頭・前半 | N33°E | -3.20 | -1.30 | - | - | - | - | 全 | - | - | - | |
| 西側遺跡 (II) | 5 | SB-09 | 中期初頭・前半 | N1°W | 5.70 | -3.10 | - | - | 中型 | - | 無 | 0 | × | | |
| 西側遺跡 (II) | 6 | SB-11 | 中期初頭・前半 | N14°E | -4.90 | 4.80 | - | - | 中型 | - | 半 | 0 | - | | |
| 西側遺跡 (II) | 7 | SB-14 | 中期初頭・前半 | N50°E | 4.70 | 4.60 | 0.98 | 21.62 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | × | | |
| 西側遺跡 (II) | 8 | SB-16 | 中期初頭・前半 | N6°W | -5.30 | 5.30 | - | - | 中型 | - | 無 | 4 | ○ | NE | |
| 西側遺跡 (II) | 9 | SB-20 | 中期初頭・前半 | N8°E | 5.40 | 5.30 | 0.98 | 28.62 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | × | NE | |
| 西側遺跡 (II) | 10 | SB-22 | 中期初頭・前半 | N13°W | 5.60 | -5.30 | - | - | 中型 | - | 全 | 0 | - | | |
| 西側遺跡 (II) | 11 | SB-23 | 中期初頭・前半 | N10°W | 6.40 | 6.00 | 0.94 | 38.40 | 大型 | 方形 | 全 | 0 | ○ | N/NE/SE | 間仕切り溝 |
| 西側遺跡 (VI) | 12 | A1地区145-1SB | 中期初頭・前半 | N65°W | -4.20 | -3.80 | - | - | 中型 | - | 全 | 4 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VI) | 13 | A1地区145-2SB | 中期初頭・前半 | N68°W | 5.30 | 5.00 | 0.94 | 26.50 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VI) | 14 | A1地区145-3SB | 中期初頭・前半 | N68°W | 6.00 | 5.90 | 0.98 | 35.40 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | ○ | SE | |
| 西側遺跡 (VI) | 15 | A1地区146SB | 中期初頭・前半 | N13°E | 5.67 | -3.50 | - | - | 中型 | - | 全 | (4) | ○ | E | |
| 西側遺跡 (VI) | 16 | A4地区1150SB | 中期初頭・前半 | N89°W | 2.83 | -2.30 | - | - | 小型 | - | 無 | 0 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VI) | 17 | A4地区1170SB | 中期初頭・前半 | N13°E | 5.53 | 4.77 | 0.86 | 26.38 | 中型 | 長方形 | 無 | 0 | × | | |
| 西側遺跡 (VI) | 18 | A4地区1152SB | 中期初頭・前半 | N77°W | 2.83 | -1.60 | - | - | 小型 | - | 無 | 0 | × | | |
| 西側遺跡 (VI) | 19 | A4地区1154SB | 中期初頭・前半 | N57°W | 4.75 | 4.63 | 0.97 | 21.99 | 中型 | 方形 | 部 | 0 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VI) | 20 | A4地区1155SB | 中期初頭・前半 | N68°W | -1.70 | -1.30 | - | - | - | - | 部 | 0 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VII) | 21 | A地区SB1 | 中期初頭・前半 | N76°W | 5.61 | -3.7 | - | - | 中型 | - | 全 | (4) | - | | |
| 西側遺跡 (VII) | 22 | A地区SB2 | 中期初頭・前半 | N41°W | 4.12 | 3.97 | 0.96 | 16.36 | 中型 | 方形 | 半 | 0 | ○ | | |
| 西側遺跡 (VII) | 23 | A地区SB12 | 中期初頭・前半 | N80°W | 5.00 | 4.00 | 0.80 | 20.00 | 中型 | 長方形 | 全 | 0 | × | | |
| 西側遺跡 (VII) | 24 | A地区SB13 | 中期初頭・前半 | N12°E | -3.00 | -2.50 | - | - | - | - | 全 | - | - | | |
| 西側遺跡 (VII) | 25 | B地区SB18 | 中期初頭・前半 | N76°W | 7.30 | 6.54 | 0.90 | 47.74 | 大型 | 方形 | 半 | (4) | ◎ | NE | |
| 西側遺跡 (IX) | 26 | SB13 | 中期初頭・前半 | N29°E | 4.50 | 4.40 | 0.98 | 19.80 | 中型 | 方形 | 半 | 0 | ○ | | |
| 西側遺跡 (XI) | 27 | B地区SB-1 | 中期初頭・前半 | N15°W | 6.40 | 6.28 | 0.98 | 40.19 | 大型 | 方形 | 全 | 4 | ○ | E | |
| 西側遺跡 (XII) | 28 | B地区SB-4 | 中期初頭・前半 | - | 2.82 | 2.52 | 0.89 | 7.11 | 小型 | 不整形 | 無 | 0 | × | | 掘方のみ |
| 西側遺跡 (XII) | 29 | B地区SB- 5 | 中期初頭・前半 | N30°E | 4.60 | 4.40 | 0.96 | 20.24 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | ○ | W | 間仕切り溝 |
| 西側遺跡 (XII) | 30 | B地区SB-7 | 中期初頭・前半 | N25°E | 5.20 | 4.68 | 0.90 | 24.34 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | ○ | | 間仕切り溝 |
| 駒場遺跡 | 31 | SH001 | 中期後半　1A期 | N32°W | 5.30 | 5.10 | 0.96 | 27.03 | 中型 | 方形 | 半 | 4 | NW | NE？ | |
| 駒場遺跡 | 32 | SH002 | 後期前半　2期 | N60°W | 4.70 | - | - | 22.09 | 中型 | - | 無 | (4) | NW | NE？ | |
| 駒場遺跡 | 33 | SH004 | 後期前半　2期 | N38°W | 5.30 | 4.60 | 0.87 | 24.38 | 中型 | 長方形 | 無 | (4) | NE | NE | |
| 駒場遺跡 | 34 | SH005 | 後期後半　3A期 | N45°W | 4.40 | - | - | 19.36 | 中型 | - | 無 | - | - | - | |
| 駒場遺跡 | 35 | SH008 | 後期後半　3A期 | N49°W | 6.50 | - | - | 42.25 | 大型 | - | 無 | (4) | - | - | |
| 駒場遺跡 | 36 | SH009 | 中期後半　1A期 | N51°W | 4.90 | 4.50 | 0.92 | 22.05 | 中型 | 方形 | 無 | (4) | NW | E？ | |
| 駒場遺跡 | 37 | SH101 | 中期後半　1A期 | N20°W | 4.50 | 4.50 | 1.00 | 20.25 | 中型 | 方形 | 部 | 4 | × | NE | |
| 駒場遺跡 | 38 | SH102 | 中期後半　1A期 | N11°W | 5.20 | 4.60 | 0.88 | 23.92 | 中型 | 長方形 | 無 | 4 | × | SE/NE？ | |
| 駒場遺跡 | 39 | SH103 | 中期後半　1B期 | N38°W | 4.40 | 4.20 | 0.95 | 18.48 | 中型 | 方形 | 無 | (4) | NW | | |
| 駒場遺跡 | 40 | SH104 | (後期後半)（3B期） | N21°W | 4.20 | - | - | 17.64 | 中型 | - | 半 | (4) | - | | |
| 駒場遺跡 | 41 | SH105 | 後期後半　3B期 | N23°W | 4.10 | 4.00 | 0.98 | 16.40 | 中型 | 方形 | 無 | 4 | × | | |
| 駒場遺跡 | 42 | SH106 | 中期後半　1B期 | N49°W | 5.10 | 4.80 | 0.94 | 24.48 | 中型 | 方形 | 部 | 4 | × | | |
| 駒場遺跡 | 43 | SH108 | 後期前半　2期 | N66°W | 3.90 | 3.60 | 0.92 | 14.04 | 中型 | 方形 | 半 | 4 | NE | NE | |
| 駒場遺跡 | 44 | SH201 | 中期後半　1B期 | N38°W | 4.10 | - | - | 16.81 | 中型 | - | 半 | 4 | NW | S？ | |
| 駒場遺跡 | 45 | SH202 | (後期後半)（3B期） | N62°W | - | - | - | - | - | - | 半 | - | - | | |
| 駒場遺跡 | 46 | SH203 | (中期後半)（1B期） | N40°W | - | - | - | - | - | - | 無 | - | - | | |
| 駒場遺跡 | 47 | SH204 | 中期後半　1B期 | N38°W | 4.20 | - | - | 17.64 | 中型 | - | 部 | 0 | NW | | |
| 駒場遺跡 | 48 | SH205 | (中期後半)（1B期） | N48°W | - | - | - | - | - | - | 全 | - | - | | |
| 駒場遺跡 | 49 | SH206 | (後期後半)（3B期） | N26°W | - | - | - | - | - | - | 部 | - | - | | |
| 駒場遺跡 | 50 | SH301 | 後期後半　3C期 | N9°W | 4.40 | 4.20 | 0.95 | 18.48 | 中型 | 方形 | 無 | 4 | N | | |
| 駒場遺跡 | 51 | SH401 | (後期後半)（3B期） | N14°W | 4.50 | 4.20 | 0.93 | 18.90 | 中型 | 方形 | 全 | 4 | × | | |
| 駒場遺跡 | 52 | SH502 | (後期後半)（3B期） | N5°W | 4.20 | 3.60 | 0.86 | 15.12 | 中型 | 長方形 | 半 | 4 | × | | |




第292図　竪穴建物諸属性の比較（宮沢遺跡・西側遺跡・花の木北遺跡・駒場遺跡）

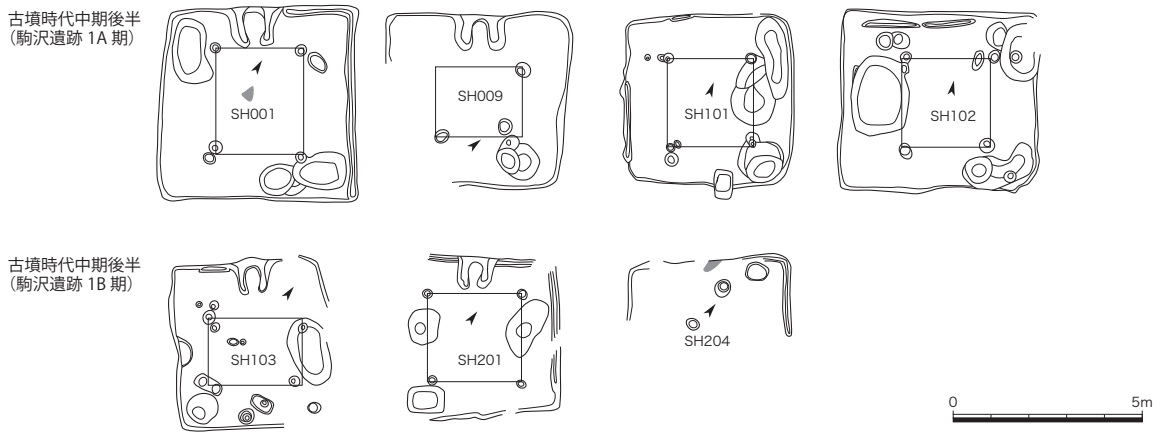



第293図　宮沢遺跡の古墳時代前期の中・小型の竪穴建物（1:200）




1. 花の木北遺跡 010SI　2. 西側遺跡 (XI)B 地区 SB-1　3. 西側遺跡 (VII)B 地区 SB18　4. 西側遺跡 (VI)A1 地区 145SB

第294図　花の木北遺跡と西側遺跡における古墳時代中期前半の大型竪穴建物の比較（1:200）




第295図　駒場遺跡の古墳時代中期後半の竪穴建物（1:200）

れた可能性もある。つまり、中期前半にはそれらの機能を包摂する竪穴建物が析出したこと、あるいは、作業や労働の単位、それに関係する道具の管理の形態に変化が生じていたことも想定される。ただ、平面形や構造が類似することを指摘した西側遺跡の竪穴建物を含めて、他にそれを補強するような材料は乏しい。

古墳時代中期後半

中期後半の駒場遺跡に大型竪穴建物は認められず、再び竪穴建物の規模は均質化する。中期後半でも前半期（1A 期）には炉と竈を併設する竪穴建物 SH001 が認められ、中期後半の後半期（1B 期）から後期前半（２期）にかけて、主柱穴、竈の敷設も明瞭化する（第295 図）。竈の導入に伴う竪穴建物の構造変化と相俟って居住環境が均質化したようにも把握されるが、一転して後期後半には主柱穴が不明瞭になる。中期後半は甕の主体が宇田型甕であるように、土器相の大きな異同が関係している可能性もある（早野 2018）。別途、周辺遺跡の状況、掘立柱建物の存在形態等を含めた詳細な検討が必要である。

炉と竈

竈と主柱穴

古墳時代後期後半

［参考文献］

赤塚次郎　1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
赤塚次郎・早野浩二　2001「松河戸・宇田様式の再編」『研究紀要』第２号　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
北村和宏　1991「豊川流域における竪穴住居に関する一考察」『森岡遺跡　淡洲神社北遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第22集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
小林久彦　1990「須恵器出現以降の土師器の変遷―特に須恵器生産の開始と煮沸継体の変化に注目して―」『三河考古』第３号　三河考古刊行会
早野浩二　2018「埴輪の生産・供給と生産者の動静―須恵器系埴輪を中心として―」『古代文化』第70巻第１号　公益財団法人古代学協会
渡辺　誠　1981「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集』LXXX　名古屋大学文学部
渡辺　誠　2011「中部地方における編物石について」『旃檀林の考古学　大竹憲治先生還暦記念論文集』大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会

［遺跡文献］

［岐阜県関市］南貸上遺跡：関市教育委員会　2015『関市埋蔵文化財発掘調査報告書』平成21年度
［岐阜県可児市］宮之脇遺跡Ａ地点：可児市教育委員会　1994『川合遺跡群』
［愛知県名古屋市北区］名城公園遺跡：公益財団法人愛知県埋蔵文化財センター愛知県埋蔵文化財センター　2026『名城公園遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第232集
［愛知県豊橋市］洗島１号墳：豊橋市教育委員会　2009『洗島遺跡(II)・西側遺跡(IV)・眼鏡下池北遺跡(II)・中郷西遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書107集
［愛知県豊橋市］西側遺跡：豊橋市教育委員会　2006『西側遺跡(Ⅰ)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第82集／豊橋市教育委員会　2006『西側遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第84集／豊橋市教育委員会　2007『西側遺跡(III)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第89集／豊橋市教育委員会　2010『眼鏡下池北遺跡(IV)・西側遺跡(VI)・西側古墓群(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第113集／豊橋市教育委員会　2010『西側遺跡(VII)・西側古墓群(III)・洗島遺跡(III)・眼鏡下池北遺跡(Ⅴ)・中郷遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第114集／豊橋市教育委員会　2014『眼鏡下池北遺跡(VII)・東側遺跡(III)・西側遺跡(IX)・洗島遺跡(Ⅴ)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第132集／豊橋市教育委員会　2018『西側遺跡(XI)・眼鏡下池北遺跡(VIII)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第146集／豊橋市教育委員会　2019『西側遺跡(XII)・眼鏡下池北遺跡(IX)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第151集
［愛知県豊橋市］東屋敷遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター　2014『東屋敷遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第185集
［愛知県豊橋市］眼鏡下池北遺跡：豊橋市教育委員会　2010『西側遺跡(VII)・西側古墓群(III)・洗島遺跡(III)・眼鏡下池北遺跡(Ⅴ)・中郷遺跡(II)』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第114集
［愛知県豊川市］駒場遺跡：豊川市教育委員会　1994『豊川市内遺跡発掘調査概報III』／豊川市教育委員会　1996『駒場遺跡』
［愛知県豊川市］堂前遺跡：豊川市教育委員会　1987『為当条里遺跡発掘調査報告書』
［愛知県豊川市］坊入遺跡：横山将三郎　1949「豊川市国府遺跡調査報告」『文学論叢』愛知大学文学会
［愛知県豊川市］宮沢遺跡：一宮町教育委員会　1988『一宮東部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』／一宮町教育委員会　1989『宮沢遺跡』
［愛知県田原市］青山貝塚：小林久彦　1987「青山貝塚出土の土器について」『ホリデー考古』第７号　ホリデー考古刊行会

## （6）花の木古墳群、花の木北遺跡と地域社会

### 1）はじめに

花の木古墳群
花の木北遺跡

本章（1）において花の木古墳群の鉄製品と玉類の年代観と葬地の変遷、本章（5）において花の木北遺跡を中心とした土器群と集落の変遷について述べた。古墳群と遺跡の位置関係からしても、また、連続して発掘調査を実施し、同時に報告する経緯からしても、両者の対応関係について最後に一定の理解を示しておく必要がある。それを踏まえて、古墳群と遺跡を含めた地域社会像を素描し総括とする（第 296 図）。

### 2）花の木古墳群の形成過程

形成過程の所見

群中の古墳の形成過程に関係する所見として、改めて以下の点が列記される。

・7号墳古（拡張、再利用前）は7号墳新（拡張、再利用後）に先行する。

・2号墳の築造と東棺と中央棺の設置後、追加で西棺が設置される。

・周溝の掘削状況（形状、方向）から、相前後した築造が想定される5号墳、6号墳、7号墳古に3号墳が後出する。

・5号墳、6号墳、7号墳の墳丘主軸は南西に向けて緩やかに傾斜する地形に影響を受ける一方、2号墳、3号墳の墳丘主軸はほぼ南北（真北）方向で、埋葬施設も前者の一群は墳丘主軸に斜行する一方、後者の一群は墳丘主軸に平行または直交する。

・5号墳、6号墳、7号墳古の墳丘規模は 10m 程度の低墳丘で、副葬品は認められない。3号墳、2号墳の墳丘規模は 20m 程度で、高さを含めて規模が増大し、3号墳は農工具、2号墳東棺・中央棺は農工具と装身具を副葬する。2号墳西棺は武器、7号墳新の二棺は農工具と武器、それに加えて北棺は装身具を副葬する。

先後関係と断絶

以上から、5号墳、6号墳、7号墳の築造が先行し、3号墳と2号墳の築造、7号墳の拡張、再利用が後出することが推定される。特に5号墳以下と2号墳、7号墳新との間には墳丘と埋葬施設、それらの方位観、副葬品の有無、内容には小さくない断絶がある。そこで、墳丘規模の増大、副葬品の様相差を踏まえ、5号墳以下の築造、3号墳の築造、2号墳の築造と東棺・中央棺の設置、2号墳西棺の設置、7号墳の拡張、再利用と北棺・南棺の設置を段階、時期の差に対応させた理解を提示する。

年代観
土器型式
緑色凝灰岩製管玉

相対年代としては、最新相と理解される7号墳新の築造（7号墳古の拡張、再利用）が北棺と南棺の副葬品の内容等から中期前半で、土器型式としては松河戸 II 式2段階、TG232 型式が対応することを想定した。花の木2号墳東棺・中央棺に副葬された緑色凝灰岩製勾玉の製作開始時期は大賀克彦によると「中Ⅰ期」で（大賀 2023）､大賀による「中Ⅰ期」に比定される代表的な古墳としては、大阪府豊中市豊中大塚古墳、同藤井寺市盾塚古墳、同堺市西区百舌鳥大塚山古墳等が挙げられている（大賀 2013 等）。土器編年としては、およそ松河戸Ⅰ式4段階・松河戸 II 式1段階、あるいは西側遺跡・花の木北遺跡2期が対応する。

2号墳の時期

つまり、花の木2号墳の築造、東棺・中央棺の設置は大賀による「中Ⅰ期」以降で、西棺の追加はさらに後出することも予測される｡後出の程度を明らかにする根拠はないが(著しく後出することがないとすれば)、ここでは中期前半、土器編年上の松河戸Ⅰ式4段階・松河戸 II 式1段階から松河戸 II 式2段階、TG232 型式に対応する時期に相前後して、2

号墳の築造と東棺・中央棺の設置、２号墳西棺の設置、７号墳の拡張、再利用と北棺・南棺の設置が継起した理解を提示する。

出土土器の時期

他方、確実に古墳に伴う土器の出土はごく少なく、一定の評価が可能な個体は６号墳周溝（南溝）から出土した広口壷（86）のみである。ただ、前期後半から中期前半に帰属することは確かであろうが、それ以上の詳細な時期比定は難しい。

土器棺墓５

あるいは、土器棺墓５の棺身として埋設された有段口縁壷（122）は豊川市宮沢遺跡竪穴建物 SB-3 出土の有段口縁壷（第 285 図 70）との類似から、前期後半、土器編年上は廻間 III 式３・４段階に対応することが想定される。６号墳、７号墳との位置関係から、土器棺墓５がそれらと近い時期に設置されたとすれば、５号墳以下の築造時期は前期後半が主体と考えられる。この理解は本章（１）で検討したように、三重県伊勢市落合古墳群、群馬県渋川市成塚向山１号墳、千葉県佐倉市岩名４号墳において、土壙墓、土器棺墓、あるいはそれに混在する小規模、低墳丘の方形墳が古墳群形成前から形成当初に葬地を構成していた状況とも調和的である。

葬地の構成と変遷

古墳群の形成過程

以上、花の木古墳群は前期後半に（石敷）土壙墓、土器棺墓を含めた小規模、低墳丘の墳墓群として５号墳以下が造営され、中期前半には墳丘規模が増大した２号墳の築造に及び、２号墳と７号墳新には、農工具、玉類、武器が副葬された。この間、古墳の時期と内容に小さくない断絶があるようにも思われるが、３号墳が両者の中間的な規模で、副葬品として農工具のみがわずかに検出されていることからすると、完全な断絶を想定するまでには及ばない。実年代としては、およそ前期後半を４世紀前葉、中期前半を５世紀前葉とすると、古墳群が造営された期間としては約１世紀が想定される。

### ３）花の木古墳群の評価

「古式群集墳」

現状（登録上）で７基の古墳から構成される花の木古墳群は古墳時代前期後半から中期前半に築造されたことを明らかにした。古式群集墳の史的意義を説く和田晴吾は「小型で墳丘をもつ墳墓の群集」をａ類からｅ類に分類し、古墳時代後期前半を中心とする時期までのａ類からｃ類を以下のように説明し、特にｃ類を「古式群集墳」とした。

・ａ類　弥生時代の、溝や盛土や地山の立ち上がりで区画した方形の墳墓で、方形周溝墓や方形台状墓、あるいは総称で方形区画墓などと呼ばれているもの。

・ｂ類　古墳時代前・中期を中心とする墳墓で、基本的にはａ類とほぼ同様のものであるが、古墳時代のものとして小型低方墳と呼び分けるもの。

・ｃ類　古墳時代後期前半を中心とするもので、前二者同様、木棺直葬のほかに多様な埋葬施設をもつ円墳。小型低方墳の円墳化したもの。

従来の評価

和田の理解に従えば、花の木５・６・７号墳古は「ｂ類」に対応する。それらからやや飛躍した２号墳、７号墳新は方墳であることから「ｃ類」には含められないものの、「ｂ類」の「小型低方墳」に含めることにはやはり違和感がある。同時に和田は大阪府大阪市平野区長原古墳群等を「群集墳に先立って、政権に掌握された渡来人をも含む有力家長層の墳墓」と推測し、「他の小型低方墳と質的にはほとんど変わらない」ともする。同一墓域に含まれながら、質的な発展が認められる花の木古墳群は「古式群集墳」とは異なるが、それに至る諸階梯を反映した存在として評価することも可能であろう。この評価に加えて、「古式群集墳」に至る過程に、小規模な方形墳を伴う弥生時代後期以前に系譜が求められ

新たな視点、知見

る葬地が想定されること、花の木７号墳の調査で明らかになったように、既存の古墳を拡張、再利用する場合もあったこと、それが「古式群集墳」として評価される岐阜県各務原市熊田山北古墳群に先行して同様の古墳群が形成されていたこと、落合古墳群のように古墳時代中期後半に円墳に転換する古墳群がある一方、花の木古墳群は「小型低方墳」から「方墳」に変化し、円墳には転換しないまま古墳の築造を終えたこと等々は「古式群集墳」の研究における一つの重要な視点、知見とすることも可能であろう。この階梯における被葬者集団の交替、性格、意識の変化の有無、程度がなお、今後の重要な検討課題として残される。

４）花の木古墳群と花の木北遺跡

遺跡の消長

花の木北遺跡において検出された竪穴建物は相互に重複せず、比較的短期間に構築されたことを想定した。時期は古墳時代中期初頭（前期末葉）から中期前半で、１期と２期に区分した。土器型式としては１期が松河戸Ⅰ式２・３段階、２期が松河戸Ⅰ式４段階・松河戸Ⅱ式１段階が対応する。

古墳群との対比

前期後半から中期前半に形成された花の木古墳群と対比した場合、相対として竪穴建物の存続期間は古墳群が形成された期間よりも短く、集落の主体は群中の古墳の規模、内容に質的な転換が進行していた時期におよそ対応する。古墳群の最新相とした７号墳新の築造（７号墳古の拡張、再利用）が松河戸Ⅱ式２段階、TG232 型式に対応することを想定したので、古墳の築造、利用が継続している期間に集落の実態は不明瞭化したことになる。竪穴建物群に混在、近接して検出された数棟の掘立柱建物によって集落が構成されていた可能性はあるが、いずれにしても、同時期に集落景観が大きく変化していたことは確実である。ここでは「古式群集墳」への階梯としても評価した古墳の質的な転換と集落景観の変化が対応する可能性、意義を提示しておきたい。ただ、花の木北遺跡が花の木古墳群の造営基盤であった可能性は十分にあるが、両者の具体的な関係を積極的に論じることは難しい。本章（５）において示したように、花の木北遺跡と集落の消長、構成が類似する遺跡として、豊橋市西側遺跡を比較検討の対象とした。その西側遺跡に隣接する同西側北遺跡、同眼鏡下池北遺跡、同洗島１号墳においても中期後半の小型の方墳（の周溝）が確認される。それに対する評価は本章（１）に述べた通りである。

古墳の質的な転換

集落景観の変化

５）花の木古墳群と薬師古墳から小金古墳、念仏塚古墳群の築造へ

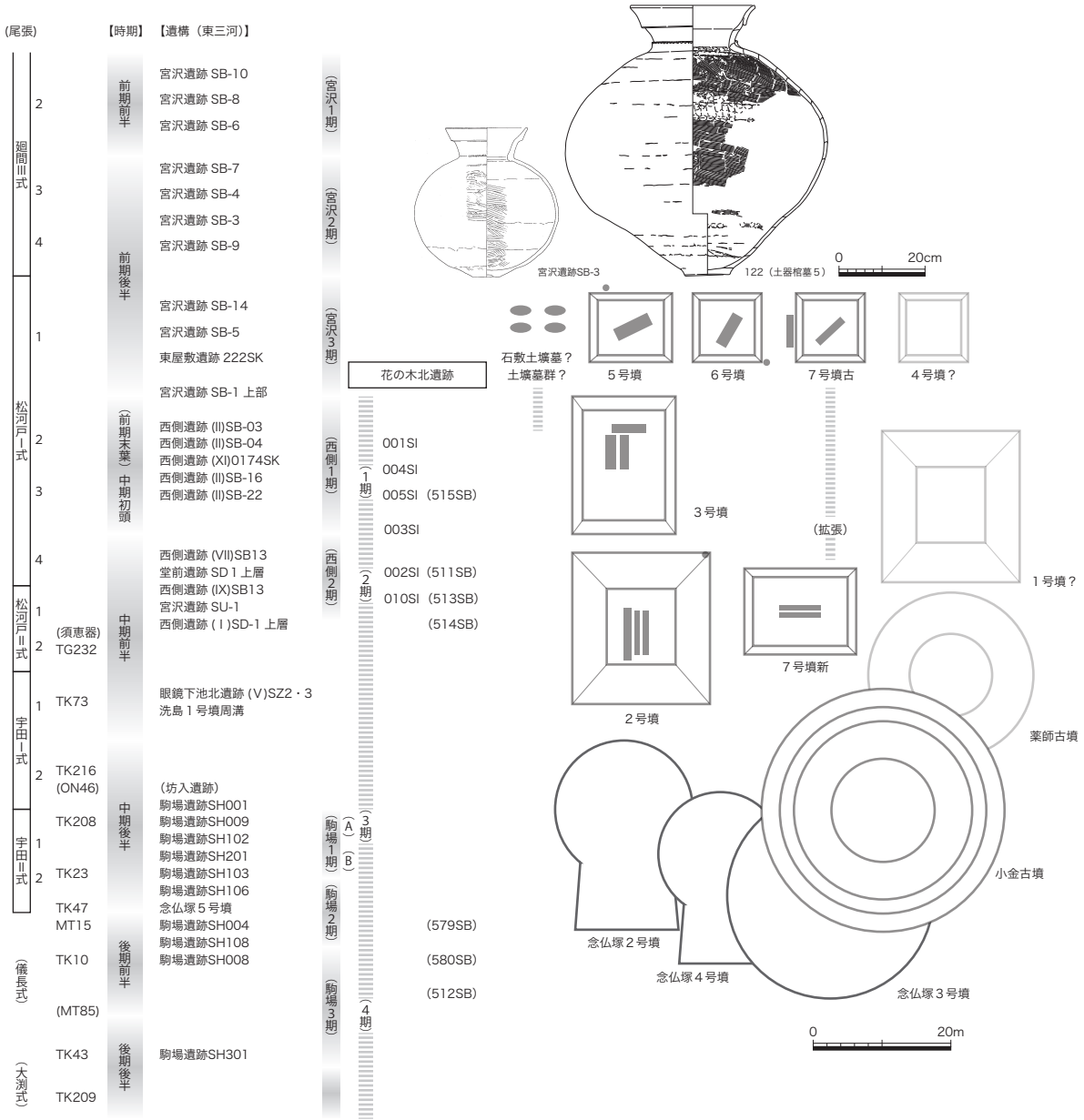
薬師古墳

中期前半までの花の木古墳群の造営と前後して、甲冑を副葬する豊川市薬師古墳が築造される（第４図）。古墳は径約 24m の円墳で、葺石があるとされるが、正式な発掘調査を経ていないので（花の木古墳群の各古墳と同様に）、方墳であった可能性も十分にある。花の木７号墳新北棺にも副葬された蛇行剣には甲冑を含めた豊富な武器類を伴うことも多く、同一古墳群でこそ同時に副葬されないものの、東三河唯一の甲冑と蛇行剣がほぼ同時期に古墳群周辺にもたらされている事実は、甲冑と蛇行剣を副葬する有力な古墳の出現、展開と背景を同じくするものであろう。

小金古墳

豊川市小金古墳は発掘調査の結果、葺石を備えた径約 35.3m の二段築成の円墳であることが判明している。花の木古墳群、薬師古墳との前後関係を含めて、詳細な時期を示すことが難しいが、葺石、埴輪がない方墳のみで構成される花の木古墳群から、墳丘の大規模化、外観の整備充実化を伴い、墳形も円墳に転換したことを想定することが自然である。

同一工法の採用

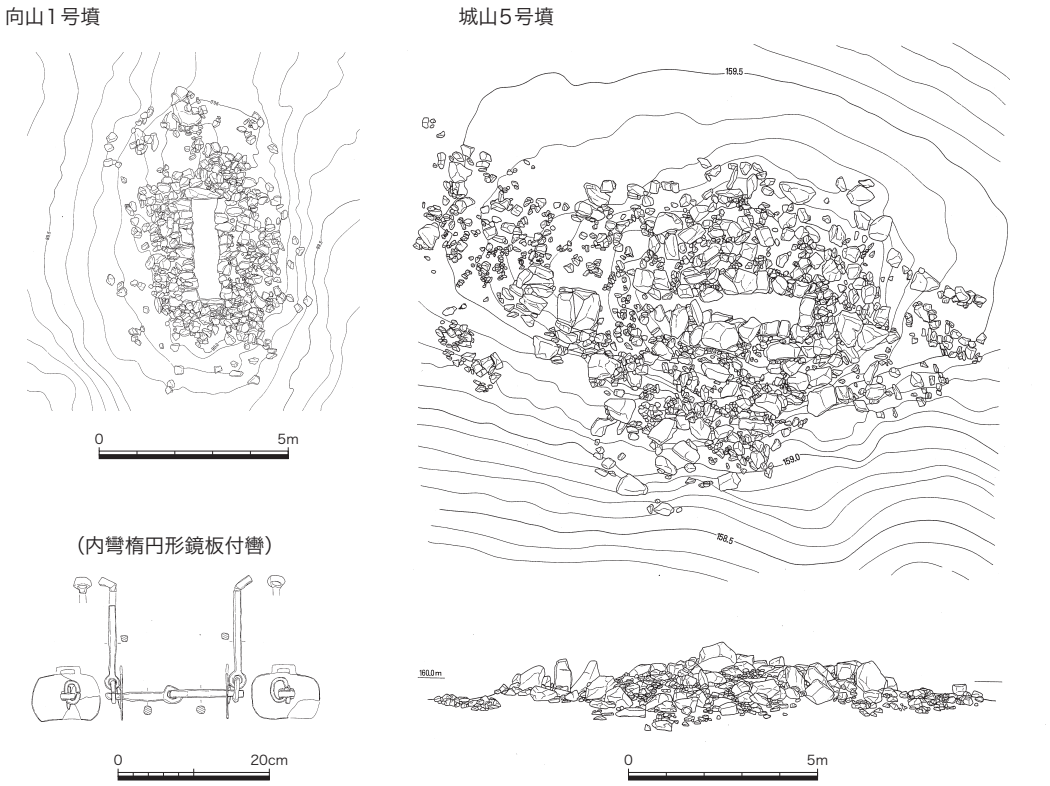



第296図　花の木北遺跡の時期区分と花の木古墳群、周辺の古墳との対応関係

本章（１）で述べたように、花の木２号墳と小金古墳の墳丘構築過程に同一の工法が採用されていることは明らかで、地域社会において古墳の築造にかかる土木技術が地域社会において継承、あるいは共有されていたことが判明した意義は大きい。

中期後半には全長約 95m の三段築成の大型前方後円墳である船山１号墳の築造に続くようにして、中型前方後円墳、帆立貝式古墳を含む念仏塚古墳群が造営される。同時に円筒埴輪、形象埴輪が当地域にも導入される。　念仏塚古墳群

後期から終末期にかけては、本宮山南麓に炭焼平古墳群、舟山古墳群等、東海でも有数の群集墳が形成される。その嚆矢が城山古墳群、向山古墳群に含まれる積石塚古墳で、向山１号墳には東三河最古の馬具である内彎楕円形鏡板付轡が副葬される（第 297 図）。積　積石塚古墳




第297図　本宮山南麓の積石塚古墳（1:200）と馬具（1:10）

石塚古墳の構築と馬具の副葬に至るまでの過程に渡来系農工具を含む花の木古墳群の鉄製品が位置することが示された意義も大きい。

古墳時代前期
古墳時代中期
古墳時代後期

以上、本書において報告したように、花の木古墳群は古墳時代前期の土壙墓と土器棺墓と混在する小型の方墳群が古墳時代中期にかけて広域に共有される器物、埋葬儀礼の授受にも付随して墳丘が大型化する。その後、花の木古墳群を含めた地域社会は、より外観、形質が整った円墳、前方後円墳、帆立貝式古墳の築造に及び、埴輪祭式、渡来系の集団、習俗、器物も介在しつつ、古墳時代後期には大規模な群集墳の造営に帰結する。つまり、時代性、地域性、政治性を多彩に帯びた墳墓の造営を通じて地域社会が発展する過程、日本列島の古墳時代の重要な局面を花の木古墳群は多分に胚胎しているのである。

［参考文献］

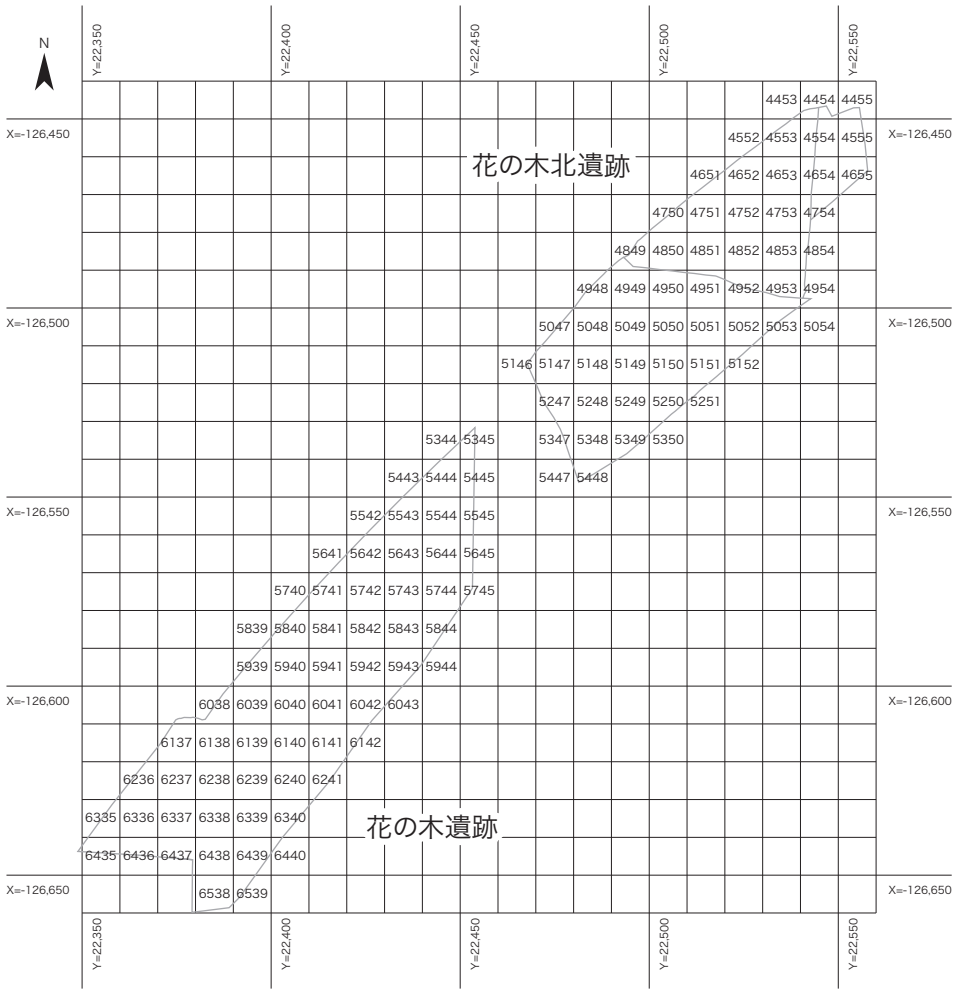
大賀克彦　2013「玉類」『古墳時代の考古学４　副葬品の型式と編年』同成社
大賀克彦　2023「玉からみた「伝世」―緑色凝灰岩製勾玉を例に―」『器物の「伝世・長期保有」「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成と維持』2019～2022年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書　島根大学文学部
和田晴吾　1992「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本　第５巻　近畿Ⅰ』角川書店

［遺跡文献］

［愛知県豊川市］向山１号墳・城山５号墳：一宮町教育委員会　1995『城山』
その他は第１章（３）、本章（１）・（５）前掲。

〈出土遺物一覧表〉

花の木古墳群出土土器一覧表
花の木古墳群出土鉄製品一覧表
花の木古墳群出土玉類一覧表
花の木遺跡出土土器一覧表
花の木遺跡（古墳群）出土石器・石製品一覧表
花の木北遺跡出土土器一覧表
花の木北遺跡出土鉄製品一覧表
花の木北遺跡出土石器・石製品一覧表




（グリッドの呼称・位置）

## 花の木古墳群出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n./12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2WS | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 太頸壺 | | | | | -7.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126602.725 | 22415.576 | 47.262 |
| 2 | 2SW | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 広口壺D | 22.8 | 3/12 | | | -7.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 3 | 2WS | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 9.2 | 3/12 | -3.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126600.379 | 22416.973 | 47.139 |
| 4 | 2EN | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.8 | 12/12 | -2.6 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 5 | 2WS | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.4 | 12/12 | -2.1 | 2.5Y5/2暗灰黄色 | | | | |
| 6 | 2WN | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.2 | 12/12 | -1.9 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 7 | 2NE | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.0 | 5/12 | -1.5 | 7.5YR4/4褐色 | | | | |
| 8 | 2SW | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 小型壷B | | | | | -3.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 9 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 小型壷B | | | 3.4 | 9/12 | -3.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 10 | 5842 | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 10.8 | 4/12 | -7.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126580.929 | 22428.317 | 47.651 |
| 11 | 6042 | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 7.4 | 6/12 | -7.0 | 10YR6/2灰黄褐色 | | -126602.436 | 22422.427 | 47.110 |
| 12 | 2NE | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | S字甕 | 22.6 | 2/12 | | | -2.1 | 2.5Y7/6明黄褐色 | | | | |
| 13 | 2EN | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | く字甕 | 19.2 | 2/12 | | | -6.9 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 14 | 2WS | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型鉢B | | | 6.0 | 12/12 | -3.9 | 5YR5/8明赤褐色 | | -126597.524 | 22416.605 | 47.145 |
| 15 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -5.2 | 10YR8/6黄褐色 | | -126577.090 | 22428.784 | 47.664 |
| 16 | 2WS | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126597.474 | 22415.996 | 47.186 |
| 17 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.2 | 10YR8/6黄褐色 | | -126576.849 | 22428.213 | 47.799 |
| 18 | 2WN | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -7.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126586.400 | 22418.557 | 47.265 |
| 19 | 2SW | 2号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | | | -11.4 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126602.092 | 22432.158 | 47.208 |
| 20 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 高杯A | | | | | -2.8 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 21 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 高杯A | | | | | -4.3 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 22 | 2SE | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 高杯A | | | 9.4 | 1/12 | -5.4 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126603.427 | 22429.750 | 46.814 |
| 23 | 2NW | 2号墳 | | 周溝 | 土師器 | 高杯A | | | | | -5.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 24 | 2EN | 2号墳 | | 周溝 | 灰釉陶器 | 椀 | 14.4 | 2/12 | 7.0 | 2/12 | 5.0 | 2.5Y7/6明黄褐色 | | | | |
| 25 | 2EN | 2号墳 | | 周溝 | 灰釉陶器 | 椀 | | | 6.8 | 11/12 | -2.0 | 2.5Y7/3浅黄色 | | -126587.700 | 22442.889 | 46.549 |
| 26 | 2EN | 2号墳 | | 周溝 | 灰釉陶器 | 椀 | | | 6.0 | 2/12 | -2.0 | 2.5Y7/3浅黄色 | | -126581.027 | 22446.885 | 46.922 |
| 27 | 5942 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 広口壺A | 25.6 | 4/12 | | | -2.6 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126596.052 | 22429.836 | 47.397 |
| 28 | 5843 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 無頸壺 | 14.8 | 2/12 | | | -4.2 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 29 | 5843 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 鍔付鉢状杯部高杯 | 12.8 | 2/12 | | | -4.4 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 30 | 5943 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 鍔付鉢状杯部高杯 | 20.6 | 6/12 | | | -6.4 | 5YR5/4にぶい赤褐色 | | -126592.581 | 22432.212 | 47.476 |
| 31 | 5943 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕C 2 | 21.6 | 2/12 | | | -7.9 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 32 | 5842 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕C 2 | 23.0 | 2/12 | | | -6.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 33 | 5943 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 12.4 | 1/12 | -6.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126596.820 | 22430.731 | 47.441 |
| 34 | 5942 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 広口壺A | 15.4 | 2/12 | | | -8.7 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 35 | 2EN | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 8.4 | 12/12 | -3.4 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | | | |
| 36 | 5842 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.8 | 7/12 | -4.0 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 37 | 5842 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 7.6 | 12/12 | -3.3 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 38 | 2EN | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.8 | 7/12 | -3.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 39 | 2SE | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 3.8 | 12/12 | -2.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 40 | 5843 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 16.8 | 2/12 | | | -3.4 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | | | |
| 41 | 2EN | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -4.3 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 42 | 5942 | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -8.7 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | | | |
| 43 | 2NW | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | | | -11.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 44 | 2ES | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 小型高杯B 1 | 8.6 | 2/12 | | | -4.2 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 45 | 2SE | 2号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 小型高杯B 1 | 9.2 | 2/12 | | | -5.0 | 2.5Y3/1黒褐色 | | -126600.354 | 22432.422 | 48.092 |
| 46 | 3NE | 3号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 広口壺D | 16.0 | 6/12 | | | -3.8 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126610.898 | 22414.895 | 46.429 |
| 47 | 3NW | 3号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 32.8 | 6/12 | | | -5.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126613.489 | 22408.818 | 46.690 |
| 48 | 3SW | 3号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | （内彎口縁甕） | 16.0 | 1/12 | | | -4.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 49 | 3NE | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕C 1 | 24.8 | 1/12 | | | -13.6 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 50 | 3NW | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段口縁甕A | 21.6 | 1/12 | | | -1.7 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 51 | 3WS | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 有段高杯B | 20.6 | 2/12 | | | -9.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126624.718 | 22409.388 | 47.142 |
| 52 | 3NE | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 3.4 | 2/12 | -3.4 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 53 | 3NE | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 8.6 | 7/12 | -3.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126617.830 | 22419.134 | 47.505 |
| 54 | 6141 | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.8 | 12/12 | -2.6 | 10YR7/8黄橙色 | | -126617.883 | 22418.942 | 47.216 |
| 55 | 3NE | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 25.6 | 2/12 | 2.9 | | -2.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126619.431 | 22419.109 | 47.502 |
| 56 | 3NE | 3号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 25.8 | 3/12 | | | -3.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126616.856 | 22419.467 | 47.536 |
| 57 | 5NE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 太頸壺 | | | | | -11.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126606.159 | 22400.678 | 46.975 |
| 58 | 5NW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 20.6 | 1/12 | | | -4.1 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 59 | 6040 | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | く字甕 | 16.4 | 2/12 | | | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 60 | 6040 | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | く字甕 | 15.6 | 2/12 | | | -3.8 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 61 | 6040 | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | 高杯 | | | 16.4 | 2/12 | -3.1 | 7.5YR5/2灰褐色 | | | | |
| 62 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | 11.6 | 2/12 | -3.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126616.872 | 22392.958 | 46.593 |
| 63 | 5SE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型有段高杯 | 13.4 | 2/12 | | | -2.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 64 | 5SE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B 3 | 13.6 | 2/12 | 11.6 | 5/12 | 15.0 | 7.5YR6/8橙色 | | -126617.958 | 22400.680 | 46.660 |
| 65 | 5SE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -6.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126615.771 | 22403.135 | 46.648 |
| 66 | 6040 | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | 広口壺B | | | | | -3.5 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 67 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | 広口壺A | 17.0 | 3/12 | | | -4.8 | 7.5YR6/8橙色 | | -126617.961 | 22394.423 | 46.633 |
| 68 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 土師器 | 広口壺A | 14.0 | 5/12 | | | -4.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126616.848 | 22392.912 | 46.566 |
| 69 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.6 | 6/12 | -3.0 | 10YR5/6黄橙色 | | -126616.263 | 22393.758 | 46.540 |
| 70 | 5NE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.0 | 12/12 | -2.5 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126607.302 | 22397.989 | 46.780 |
| 71 | 5NW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.8 | 12/12 | -2.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126606.240 | 22393.357 | 46.830 |
| 72 | 5NE | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.7 | 12/12 | -2.5 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126609.297 | 22402.681 | 47.039 |
| 73 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.4 | 7/12 | -1.2 | 10YR6/1褐灰色 | | | | |
| 74 | 5SW | 5号墳 | | 周溝 | 弥生土器 | 小型鉢B | 7.6 | 2/12 | 3.8 | 12/12 | 6.2 | 10YR4/1褐灰色 | | -126616.593 | 22394.639 | 46.509 |
| 75 | 5NE | 5号墳 | | 木棺 | 土師器 | 広口壺A | 13.0 | 1/12 | | | -4.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 76 | 5NE | 5号墳 | | 木棺 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 5.6 | 11/12 | -2.8 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 77 | 5NW | 5号墳 | | 木棺 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -4.4 | 2.5Y7/3浅黄色 | | | | |
| 78 | 5NE | 5号墳 | | 木棺 | 土師器 | 高杯A | | | | | -2.7 | 5YR6/6橙色 | | -126612.762 | 22397.880 | 47.162 |
| 79 | 6139 | 5号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕A | 18.8 | 2/12 | | | -8.5 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126616.636 | 22399.945 | 47.062 |
| 80 | 5NW | 5号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 10.4 | 2/12 | -8.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126611.136 | 22387.239 | 46.791 |
| 81 | 5SE | 5号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.4 | 12/12 | -3.6 | 5YR6/6橙色 | | -126614.664 | 22400.536 | 47.249 |
| 82 | 6139 | 5号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -6.6 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126614.049 | 22397.236 | 47.188 |
| 83 | 6NW | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | く字甕 | 16.2 | 1/12 | | | -7.9 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126620.487 | 22394.024 | 46.538 |
| 84 | 6SW | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | 広口壺C | | | 6.0 | 4/12 | -8.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126629.543 | 22388.162 | 46.317 |
| 85 | 6SE | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | 甕（壷） | | | 5.8 | 7/12 | -2.4 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126631.520 | 22394.942 | 46.281 |
| 86 | 7NW | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | 広口壺A | 16.4 | 3/12 | 7.4 | 12/12 | 34.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126631.427 | 22393.318 | 46.532 |
| 87 | 6SE | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | 小型壷B | | | | | -5.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126626.542 | 22399.818 | 46.484 |
| 88 | 6SW | 6号墳 | | 周溝 | 土師器 | 小型鉢A | | | 2.8 | 6/12 | -6.6 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126629.224 | 22388.194 | 46.278 |
| 89 | 6139 | 6号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 細頸壺 | 6.4 | 2/12 | | | -3.3 | 7.5YR4/1褐灰色 | | | | |
| 90 | 6NE | 6号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 脚付鉢 | | | 6.0 | 12/12 | -7.5 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126625.284 | 22397.816 | 46.830 |
| 91 | 6SW | 6号墳 | | 墳丘 | 弥生土器 | 広口壺B | 22.2 | 2/12 | | | -6.1 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126625.412 | 22394.735 | 47.098 |
| 92 | 7NW | 7号墳 | 新 | 周溝 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -7.7 | 7.5YR7/6橙色 | | -126635.190 | 22384.611 | 46.063 |
| 93 | 6439 | 7号墳 | 新 | 周溝 | 弥生土器 | 広口壺D | 15.6 | 2/12 | | | -4.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 94 | 7SE | 7号墳 | 新 | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126647.361 | 22393.529 | 46.024 |
| 95 | 7SE | 7号墳 | 新 | 周溝 | 土師器 | 甕（脚台） | | | 11.8 | 2/12 | -5.8 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126648.417 | 22394.508 | 45.711 |
| 96 | 7SE | 7号墳 | 新 | 周溝 | 灰釉陶器 | 椀 | | | 7.8 | 12/12 | -2.3 | 5Y8/2灰白色 | | -126647.645 | 22396.105 | 45.930 |
| 97 | 7SW | 7号墳 | 古 | 周溝 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 25.0 | 1/12 | | | -3.1 | 2.5Y6/6明黄褐色 | | | | |
| 98 | 7NW | 7号墳 | 古 | 周溝 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 10.2 | 3/12 | -5.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126634.788 | 22389.494 | 46.396 |
| 99 | 7SW | 7号墳 | 古 | 周溝 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.0 | 12/12 | -2.1 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 100 | 7SW | 7号墳 | | 墓壙 | 土師器 | 短頸壺 | 9.4 | 3/12 | | | -3.7 | 2.5Y7/3浅黄色 | | | | |

## 花の木古墳群出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n./12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 6339 | 7号墳　　墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 3.8 | 12/12 | -1.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 102 | 7SW | 7号墳　　墳丘 | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.6 | 12/12 | -4.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 103 | 7 | 7号墳　　墳丘 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -3.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126643.474 | 22393.466 | 46.487 |
| 104 | 7 | 7号墳　　墳丘 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126643.150 | 22393.741 | 46.572 |
| 105 | 6237 | （石敷）土壙墓2 | 土師器 | 甕（壷） | | | 6.4 | 7/12 | -2.7 | 10YR6/6明黄褐色 | 弥生土器？ | -126627.645 | 22374.391 | 46.186 |
| 106 | 6237 | （石敷）土壙墓2 | 土師器 | 広口壷 | 長-29.4 | | 幅-14.4 | | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126627.866 | 22375.773 | 45.826 |
| 107 | 6238 | 土壙墓4 | 土師器 | 直口壷 | | | | 12/12 | -11.9 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 108 | 5542 | 土壙墓6 | 土師器 | く字甕 | 16.6 | 2/12 | | | -2.6 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | | | |
| 109 | 5642 | 土壙墓7 | 弥生土器 | 甕（壷） | | | 4.8 | 12/12 | -4.7 | 7.5YR6/8橙色 | 土師器？ | -126568.826 | 22429.509 | 47.638 |
| 110 | 5643 | （土壙墓7周辺） | 土師器 | 広口壷B | 20.0 | 1/12 | | | -4.0 | 10YR6/6明黄褐色 | 土坑墓161SK付近？ | | | |
| 111 | 5643 | （土壙墓7周辺） | 土師器 | 直口壷 | | | | | -9.0 | 7.5YR6/6橙色 | 土坑墓161SK付近 | -126567.882 | 22431.432 | 47.905 |
| 112 | 5642 | （土壙墓7周辺） | 須恵器 | 蓋杯 杯 | 10.6 | 1/12 | 5.4 | 9/12 | 4.7 | 5YR7/2灰色 | | -126567.631 | 22428.147 | 48.032 |
| 113 | 5642 | （土壙墓7周辺） | 山茶碗 | 碗 | 14.8 | 2/12 | | | -4.6 | 2.5Y7/1灰白色 | | -126567.370 | 22428.299 | 48.096 |
| 114 | 5444 | （1号墳？周辺） | 須恵器 | （瓶類） | 7.8 | 5/12 | | | -3.4 | 2.5Y7/1灰白色 | | -126607.966 | 22401.492 | 47.063 |
| 115 | | 表採 | 土師器 | 小型壷 | | | | | -5.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 116 | 5844 | 土器棺墓1 | 土師器 | 壷（甕） | | | 6.3 | 12/12 | -31.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126581.289 | 22440.092 | 46.921 |
| 117 | 5844 | 土器棺墓1 | 土師器 | 広口壷B | 20.6 | 11/12 | 8.8 | 12/12 | 45.2 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126581.295 | 22440.055 | 46.478 |
| 118 | 6039 | 土器棺墓2 | 土師器 | 広口壷A | 15.8 | 9/12 | 7.2 | 4/12 | 30.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.622 | 22396.692 | 46.478 |
| 119 | 5644 | 土器棺墓3 | 土師器 | 広口壷B | 16.6 | | 5.0 | 12/12 | | 7.5YR6/8橙色 | | -126569.650 | 22444.891 | 47.610 |
| 120 | 5644 | 土器棺墓4 | 土師器 | 壷（甕） | | | 7.0 | 12/12 | 28.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126569.004 | 22440.447 | 47.369 |
| 121 | 6339 | 土器棺墓5 | 土師器 | 壷（甕） | | | 5.4 | 12/12 | -3.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126632.278 | 22397.913 | 46.574 |
| 122 | 6339 | 土器棺墓5 | 土師器 | 広口壷B | 28.6 | 6/12 | 10.0 | 12/12 | 62.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126644.580 | 22398.941 | 45.753 |

## 花の木古墳群出土鉄製品一覧表

| 番号 | グリッド | 古墳 | 器種 | 全長 (cm) | 身部（刃部） 長さ(cm) | ／ 幅 (cm) | ／ 厚さ | 茎部（基部） 長さ(cm) | ／ 幅 (cm) | ／ 厚さ | 重さ (g) | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5942 | 2号墳　　周溝 | 剣 | -30.6 | 身長 -30.6 | 身幅 -3.0 | 身厚 0.5 | | | | 62.8 | -126592.426 | 22420.766 | 47.155 |
| 2 | 6043 | 2号墳　　墳丘 | 鉄鏃 | -4.9 | 身長 -4.7 | 身幅 -2.6 | 身厚 0.4 | | | | 7.5 | -126601.616 | 22432.000 | 47.585 |
| 3 | 6241 | 3号墳　　東棺 | 刀子 | -12.5 | 身長 8.8 | 身幅 1.7 | 身厚 0.4 | 茎長 -3.7 | 茎幅 -0.8 | 茎厚 0.4 | 16.7 | -126621.511 | 22412.983 | 47.129 |
| 4 | 6241 | 3号墳　　東棺 | 刀子（ヤリガンナ？） | -4.3 | | | | 茎長 -4.3 | 茎幅 -1.1 | 茎厚 0.4 | | -126621.511 | 22412.983 | 47.129 |
| 5 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 刀 | 84.6 | 身長 67.2 | 身幅 3.6 | 身厚 0.9 | 茎長 17.4 | 茎幅 2.0 | 茎厚 0.8 | 725.9 | -126638.369 | 22391.791 | 46.676 |
| 6 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 剣（蛇行剣） | 64.8 | 身長 52.6 | 身幅 3.0 | 身厚 0.6 | 茎長 12.2 | 茎幅 1.4 | 茎厚 0.4 | 266.8 | -126638.304 | 22391.769 | 46.696 |
| 7 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 剣 | -5.3 | 身長 -5.3 | 身幅 - | 身厚 - | | | | 6.8 | -126638.060 | 22391.024 | 46.689 |
| 8 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 剣 | -31.8 | 身長 26.4 | 身幅 3.0 | 身厚 0.5 | 茎長 -5.4 | 茎幅 -1.4 | 茎厚 0.4 | 81.3 | -126638.629 | 22392.624 | 46.714 |
| 9 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 剣 | -33.8 | 身長 -26.1 | 身幅 2.5 | 身厚 0.5 | 茎長 7.7 | 茎幅 1.4 | 茎厚 0.4 | 58.1 | -126638.792 | 22393.144 | 46.683 |
| 10 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鉄鏃 | -5.3 | 身長 -5.3 | 身幅 -2.5 | 身厚 0.3 | 茎長 1.2 | 茎幅 0.6 | 茎厚 0.2 | 5.5 | -126638.215 | 22391.595 | 46.726 |
| 11 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鉄鏃 | -4.8 | 身長 -4.3 | 身幅 -2.0 | 身厚 0.3 | 茎長 1.0 | 茎幅 0.6 | 茎厚 0.2 | 4.0 | -126638.403 | 22391.589 | 46.728 |
| 12 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鉄鏃 | -3.4 | 身長 -3.3 | 身幅 -2.8 | 身厚 0.4 | 茎長 0.5 | 茎幅 0.6 | 茎厚 0.2 | 2.8 | -126638.343 | 22391.477 | 46.708 |
| 13 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鉄鏃 | -3.2 | 身長 -3.1 | 身幅 -2.8 | 身厚 0.4 | 茎長 1.0 | 茎幅 0.6 | 茎厚 0.2 | 3.3 | -126638.348 | 22391.431 | 46.699 |
| 14 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 刀子 | -11.4 | 身長 8.8 | 身幅 1.7 | 身厚 0.3 | 茎長 -2.4 | 茎幅 1.4 | 茎厚 0.3 | 13.5 | -126638.612 | 22393.242 | 46.679 |
| 15 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鎌（曲刃鎌） | 20.2 | | 身幅 2.5 | 身厚 0.4 | | 基幅 1.7 | 基厚 0.3 | 40.5 | -126638.248 | 22391.370 | 46.690 |
| 16 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 鎌（直刃鎌） | -7.6 | | 身幅 -2.8 | 身厚 0.3 | | | | 15.8 | -126639.322 | 22395.216 | 46.745 |
| 17 | 6339 | 7号墳　新 北棺 | 斧 | 16.1 | | 刃幅 6.4 | | | 基幅 4.6 | 基厚 3.8 | 314.7 | -126639.258 | 22395.305 | 46.753 |
| 18 | 6339 | 7号墳　新 南棺 | 刀 | -45.7 | 身長 -33.7 | 身幅 3.4 | 身厚 0.8 | 茎長 12.0 | 茎幅 1.1 | 茎厚 0.6 | 326.0 | -126639.622 | 22393.678 | 46.699 |
| 19 | 6339 | 7号墳　新 南棺 | 剣 | 30.7 | 身長 26.8 | 身幅 3.2 | 身厚 0.6 | 茎長 3.9 | 茎幅 1.0 | 茎厚 0.3 | 99.3 | -126639.650 | 22393.822 | 46.752 |
| 20 | 6339 | 7号墳　新 南棺 | 斧 | 14.4 | | 刃幅 6.4 | | | 基幅 5.8 | 基厚 3.0 | 387.8 | -126639.835 | 22394.091 | 46.703 |
| 21 | 6339 | 7号墳　新 南棺 | 刀子 | -8.0 | 身長 -3.6 | 身幅 1.5 | 身厚 0.4 | 茎長 -4.4 | 茎幅 0.9 | 茎厚 0.3 | 8.1 | -126639.835 | 22394.091 | 46.703 |
| 22 | 6339 | 7号墳　新 南棺 | 鎌（直刃鎌） | 12.1 | | 身幅 3.0 | 身厚 0.3 | | | | 37.5 | -126639.157 | 22392.077 | 46.699 |

## 花の木古墳群出土玉類一覧表

| 番号 | 古墳 | グリッド | 材質 | 器種 | 長さ (mm) | 幅/直径 | 厚さ (mm) | 孔径 (mm) | 重さ (g) | 色調 | 形態 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2号墳　　墳丘 | | 碧玉 | 勾玉 | 37.00 | 25.00 | 12.00 | 1.80 | 14.40 | 濃緑 | | | | | |
| 2 | 7号墳　新　北棺 | 棺上 | 瑪瑙 | 勾玉 | 30.00 | 17.00 | 9.00 | 1.90 | 4.90 | 淡褐 | | | -126638.969 | 22393.564 | 46.890 |
| 3 | 7号墳　新　北棺 | 棺内 | 瑪瑙 | 勾玉 | 30.00 | 18.00 | 10.00 | 1.61 | 6.30 | 淡褐 | | | -126638.696 | 22393.332 | 46.710 |
| 4 | 7号墳　新　北棺 | 棺内 | 翡翠 | 勾玉 | 31.00 | 20.00 | 13.00 | 2.72 | 10.60 | 灰白 | | | -126638.707 | 22393.384 | 46.701 |
| 5 | 7号墳　　墳丘 | 4298 | 滑石 | 勾玉 | 35.00 | 22.00 | 14.00 | 1.56 | 12.30 | 灰 | | | -126642.001 | 22398.934 | 46.113 |
| 6 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 勾玉 | 33.00 | 18.00 | 8.00 | 1.53 | 6.10 | 緑 | | | -126641.778 | 22399.059 | 46.062 |
| 7 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 20.00 | 12.00 | 4.00 | 2.28 | 1.30 | 白 | | | -126641.964 | 22398.914 | 46.119 |
| 8 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 勾玉 | 20.00 | 13.00 | 4.00 | 1.45 | 1.30 | 緑 | | | -126641.968 | 22399.055 | 46.056 |
| 9 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 勾玉 | 20.00 | 12.00 | 5.00 | 1.28 | 1.20 | 白 | | | -126641.969 | 22399.117 | 46.028 |
| 10 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 19.00 | 12.00 | 4.00 | 1.24 | 1.00 | 緑 | | | -126641.954 | 22398.934 | 46.109 |
| 11 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 勾玉 | 18.00 | 12.00 | 5.00 | 1.64 | 1.10 | 灰 | | | -126641.603 | 22399.056 | 46.115 |
| 12 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 16.00 | 8.00 | 4.00 | 1.99 | 0.60 | 白 | | | -126641.905 | 22398.813 | 46.176 |
| 13 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 14.00 | 9.00 | 4.00 | 1.57 | 0.60 | 白 | | | -126641.937 | 22398.717 | 46.196 |
| 14 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 13.00 | 8.00 | 4.00 | 1.45 | 0.50 | 緑 | | | -126641.820 | 22398.962 | 46.113 |
| 15 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 勾玉 | 12.00 | 7.00 | 3.00 | 1.46 | 0.30 | 緑 | | | -126641.845 | 22398.972 | 46.090 |
| 16 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 勾玉 | -15.00 | -12.00 | 6.00 | 1.23 | -0.90 | 緑 | | 破片 | -126641.742 | 22399.008 | 46.079 |
| 17 | 7号墳　　墳丘 | 4000 | 滑石 | 勾玉 | -13.00 | -8.00 | 5.00 | - | -0.40 | 緑 | | 破片 | -126641.420 | 22399.529 | 46.068 |
| 18 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 勾玉 | -9.00 | -8.00 | 4.00 | 1.03 | -0.30 | 緑 | | | -126642.401 | 22399.393 | 46.017 |
| 19 | 7号墳　　墳丘 | 4298 | 緑色凝灰岩 | 管玉 | 21.84 | 7.28 | | 1.02 | 0.60 | 淡緑 | | | -126642.023 | 22398.741 | 46.143 |
| 20 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 管玉 | 14.15 | 4.29 | | 1.48 | 0.60 | 灰 | | | -126641.975 | 22399.089 | 46.040 |
| 21 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 棗玉 | 11.48 | 5.93 | | 1.71 | 0.60 | 灰 | | | -126641.959 | 22399.080 | 46.082 |
| 22 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 10.82 | 6.22 | | 1.56 | 0.40 | 白 | | | -126641.911 | 22398.571 | 46.206 |
| 23 | 7号墳　　墳丘 | 4298 | 滑石 | 棗玉 | 10.39 | 5.45 | | 1.73 | 0.40 | 緑 | | 水洗選別 | | | |
| 24 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 棗玉 | 9.80 | 5.78 | | 1.63 | 0.40 | 緑 | | | -126641.867 | 22399.034 | 46.066 |
| 25 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 棗玉 | 8.74 | 6.44 | | 1.08 | 0.50 | 緑 | | | -126641.851 | 22399.100 | 46.039 |
| 26 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 8.45 | 4.73 | | 1.61 | 0.30 | 灰 | | | -126641.945 | 22398.985 | 46.092 |
| 27 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 7.55 | 5.34 | | 1.43 | 0.30 | 灰 | | | -126641.884 | 22398.786 | 46.144 |
| 28 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 7.32 | 4.96 | | 1.62 | 0.30 | 緑 | | | -126641.905 | 22398.873 | 46.141 |
| 29 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 6.87 | 4.78 | | 1.63 | 0.20 | 灰 | | | -126641.858 | 22398.887 | 46.116 |
| 30 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 棗玉 | 6.48 | 4.83 | | 1.46 | 0.20 | 灰 | | | -126641.908 | 22399.019 | 46.080 |
| 31 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | 6.44 | 4.96 | | 1.55 | 0.20 | 緑 | | | -126641.837 | 22398.932 | 46.101 |
| 32 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 棗玉 | -5.33 | 4.99 | | 0.56 | -0.10 | 白 | | | -126641.936 | 22398.911 | 46.114 |
| 33 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 5.98 | 6.50 | | 1.73 | 0.52 | 白 | C | | -126641.943 | 22398.954 | 46.102 |
| 34 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 3.65 | 7.57 | | 1.43 | 0.39 | 白 | C | | -126641.857 | 22398.878 | 46.138 |
| 35 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 3.02 | 4.56 | | 1.54 | 0.13 | 白 | C | | -126641.873 | 22398.749 | 46.166 |
| 36 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.43 | 5.07 | | 1.98 | 0.12 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 37 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.56 | 4.52 | | 1.22 | 0.11 | 緑 | C | | -126641.785 | 22399.027 | 46.055 |
| 38 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.90 | 4.36 | | 1.50 | 0.10 | 灰 | A | 水洗選別 | | | |
| 39 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 臼玉 | 3.32 | 4.48 | | 1.68 | 0.10 | 灰 | C | | -126642.007 | 22399.101 | 46.033 |
| 40 | 7号墳　　墳丘 | 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.80 | 4.39 | | 1.38 | 0.10 | 緑 | A | 水洗選別 | | | |
| 41 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.27 | 4.88 | | 1.49 | 0.09 | 灰 | B | 水洗選別 | | | |
| 42 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.80 | 4.59 | | 1.90 | 0.09 | 灰 | C | 水洗選別 | | | |
| 43 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 3.14 | 4.59 | | 1.88 | 0.09 | 灰 | A | 水洗選別 | | | |
| 44 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.74 | 4.51 | | 1.90 | 0.09 | 緑 | A | 水洗選別 | | | |
| 45 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 3.11 | 4.09 | | 1.41 | 0.09 | 灰 | A | 水洗選別 | | | |
| 46 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.58 | 4.61 | | 1.75 | 0.09 | 緑 | B | | -126641.906 | 22398.807 | 46.150 |
| 47 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.68 | 4.13 | | 1.26 | 0.08 | 白 | A | 水洗選別 | | | |
| 48 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.33 | 4.56 | | 1.40 | 0.07 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 49 | 7号墳　　墳丘 | 4298 | 滑石 | 臼玉 | 3.01 | 4.12 | | 1.41 | 0.07 | 緑 | A | 水洗選別 | | | |
| 50 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.70 | 4.48 | | 0.88 | 0.07 | 緑 | A | | -126641.834 | 22399.099 | 46.035 |
| 51 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.38 | 4.35 | | 1.34 | 0.07 | 緑 | A | 水洗選別 | | | |
| 52 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.80 | 4.02 | | 1.44 | 0.07 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 53 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.10 | 4.41 | | 1.46 | 0.07 | 灰 | B | | -126641.918 | 22398.843 | 46.143 |
| 54 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.46 | 4.05 | | 1.42 | 0.07 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 55 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.24 | 4.19 | | 1.40 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 56 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.14 | 4.12 | | 1.09 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 57 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.60 | 3.82 | | 1.44 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 58 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.62 | 3.72 | | 1.41 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 59 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.98 | 4.06 | | 1.31 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 60 | 7号墳　　墳丘 | 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.55 | 3.98 | | 1.30 | 0.06 | 白 | B | | -126642.228 | 22399.705 | 45.986 |
| 61 | 7号墳　　墳丘 | 4197 | 滑石 | 臼玉 | 2.54 | 3.81 | | 1.43 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 62 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.70 | 3.63 | | 1.35 | 0.06 | 白 | B | | -126641.921 | 22398.788 | 46.154 |
| 63 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.15 | 3.93 | | 1.35 | 0.06 | 白 | B | | -126641.898 | 22399.196 | 46.017 |
| 64 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.70 | 3.83 | | 1.30 | 0.06 | 白 | A | | -126641.870 | 22398.865 | 46.113 |
| 65 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.14 | 3.73 | | 1.24 | 0.06 | 白 | A | 水洗選別 | | | |
| 66 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 臼玉 | 2.34 | 4.31 | | 1.43 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 67 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.10 | 4.23 | | 1.55 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 68 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.70 | 3.83 | | 1.12 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 69 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 臼玉 | 2.09 | 3.97 | | 1.11 | 0.06 | 緑 | B | | -126642.334 | 22399.277 | 46.059 |
| 70 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.18 | 3.92 | | 1.57 | 0.06 | 灰 | B | 水洗選別 | | | |
| 71 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.51 | 3.69 | | 1.45 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 72 | 7号墳　　墳丘 | 4100 | 滑石 | 臼玉 | 2.37 | 3.63 | | 1.23 | 0.06 | 白 | B | | -126641.911 | 22399.777 | 45.985 |
| 73 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.38 | 3.48 | | 1.43 | 0.06 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 74 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 臼玉 | 2.03 | 3.92 | | 1.17 | 0.06 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 75 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.95 | 3.99 | | 1.34 | 0.05 | 白 | B | | -126641.889 | 22399.019 | 46.060 |
| 76 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.44 | 3.68 | | 1.38 | 0.05 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 77 | 7号墳　　墳丘 | 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.00 | 3.58 | | 1.42 | 0.05 | 白 | B | | -126642.301 | 22399.852 | 45.974 |
| 78 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.77 | 3.88 | | 1.35 | 0.05 | 白 | A | | -126641.832 | 22399.241 | 46.005 |
| 79 | 7号墳　　墳丘 | 4298 | 滑石 | 臼玉 | 2.47 | 3.64 | | 1.38 | 0.05 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 80 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.28 | 4.28 | | 1.37 | 0.05 | 白 | B | | -126641.854 | 22398.945 | 46.108 |
| 81 | 7号墳　　墳丘 | 4197 | 滑石 | 臼玉 | 2.34 | 3.81 | | 1.08 | 0.05 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 82 | 7号墳　　墳丘 | 4100 | 滑石 | 臼玉 | 2.45 | 3.77 | | 1.47 | 0.05 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 83 | 7号墳　　墳丘 | 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.02 | 4.04 | | 1.12 | 0.05 | 白 | B | | -126642.393 | 22399.752 | 45.959 |
| 84 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.91 | 3.97 | | 1.32 | 0.05 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 85 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.29 | 3.70 | | 1.24 | 0.05 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 86 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.35 | 4.04 | | 1.39 | 0.05 | 緑 | B | | -126641.870 | 22398.852 | 46.135 |
| 87 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.75 | 4.02 | | 1.37 | 0.05 | 白 | B | | -126641.811 | 22398.987 | 46.085 |
| 88 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.93 | 3.80 | | 1.51 | 0.05 | 灰 | B | 水洗選別 | | | |
| 89 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.55 | 3.69 | | 1.29 | 0.05 | 緑 | B | | -126641.888 | 22398.901 | 46.099 |
| 90 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.55 | 3.78 | | 1.38 | 0.05 | 白 | B | | -126641.825 | 22399.064 | 46.049 |
| 91 | 7号墳　　墳丘 | 4300 | 滑石 | 臼玉 | 2.28 | 3.78 | | 1.36 | 0.05 | 緑 | B | | -126642.619 | 22399.971 | 45.896 |
| 92 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.25 | 3.96 | | 1.23 | 0.05 | 白 | B | | -126641.775 | 22398.963 | 46.109 |
| 93 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.18 | 3.56 | | 1.42 | 0.05 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 94 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.11 | 4.09 | | 1.36 | 0.04 | 白 | B | | -126641.860 | 22398.890 | 46.117 |
| 95 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.82 | 3.67 | | 1.35 | 0.04 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 96 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.05 | 3.13 | | 1.13 | 0.04 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 97 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.83 | 3.80 | | 1.28 | 0.04 | 緑 | B | | -126641.740 | 22399.057 | 46.091 |
| 98 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.89 | 3.66 | | 1.19 | 0.04 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 99 | 7号墳　　墳丘 | 4299 | 滑石 | 臼玉 | 2.17 | 3.20 | | 1.06 | 0.04 | 緑 | B | | -126642.161 | 22399.218 | 46.014 |
| 100 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.30 | 3.64 | | 1.41 | 0.04 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 101 | 7号墳　　墳丘 | 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.45 | 3.08 | | 1.05 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 102 | 7号墳　　墳丘 | 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.75 | 3.17 | | 1.09 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |

花の木古墳群出土玉類一覧表

| 番号 | 古墳 | グリッド | 材質 | 器種 | 長さ (mm) | 幅/直径 | 厚さ (mm) | 孔径 (mm) | 重さ (g) | 色調 | 形態 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 103 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.18 | 3.08 | | 1.02 | 0.04 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 104 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.12 | 3.03 | | 1.04 | 0.04 | 白 | C | | -126641.869 | 22398.802 | 46.157 |
| 105 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.11 | 3.25 | | 1.08 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 106 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.88 | 3.18 | | 0.98 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 107 | 7号墳 | 墳丘 4298 | 滑石 | 臼玉 | 1.64 | 3.96 | | 1.36 | 0.04 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 108 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.02 | 3.03 | | 1.05 | 0.04 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 109 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.86 | 3.01 | | 1.05 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 110 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.11 | 2.96 | | 1.09 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 111 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.88 | 3.76 | | 1.33 | 0.04 | 白 | B | | -126641.813 | 22399.016 | 46.091 |
| 112 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.14 | 3.05 | | 1.03 | 0.04 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 113 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.38 | 3.00 | | 1.08 | 0.04 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 114 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.91 | 3.09 | | 0.96 | 0.04 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 115 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.80 | 2.97 | | 1.09 | 0.04 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 116 | 7号墳 | 墳丘 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.33 | 2.95 | | 0.96 | 0.04 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 117 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.31 | 3.32 | | 1.43 | 0.03 | 白 | B | | -126641.862 | 22398.926 | 46.106 |
| 118 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.71 | 3.30 | | 1.06 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 119 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.66 | 3.27 | | 1.01 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 120 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.54 | 3.17 | | 1.23 | 0.03 | 白 | B | | | | |
| 121 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.97 | 3.04 | | 1.01 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 122 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.07 | 3.77 | | 1.37 | 0.03 | 緑 | B | | -126641.675 | 22399.025 | 46.103 |
| 123 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.06 | 3.35 | | 1.43 | 0.03 | 白 | C | | -126641.909 | 22398.918 | 46.114 |
| 124 | 7号墳 | 墳丘 4200 | 滑石 | 臼玉 | 1.95 | 3.34 | | 1.03 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 125 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.93 | 3.22 | | 1.03 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 126 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.87 | 3.16 | | 1.10 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 127 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.01 | 3.14 | | 1.02 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 128 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.36 | 3.10 | | 1.09 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 129 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.84 | 3.04 | | 0.95 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 130 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.72 | 3.00 | | 1.02 | 0.03 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 131 | 7号墳 | 墳丘 4298 | 滑石 | 臼玉 | 2.23 | 3.95 | | 0.98 | 0.03 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 132 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.88 | 3.24 | | 0.99 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 133 | 7号墳 | 墳丘 4100 | 滑石 | 臼玉 | 1.79 | 3.11 | | 1.05 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 134 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.80 | 2.97 | | 1.02 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 135 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.58 | 3.12 | | 0.97 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 136 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.63 | 3.02 | | 0.91 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 137 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.12 | 3.11 | | 1.09 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 138 | 7号墳 | 墳丘 4299 | 滑石 | 臼玉 | 1.71 | 2.95 | | 0.97 | 0.03 | 緑 | B | | -126642.033 | 22399.236 | 45.975 |
| 139 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.73 | 2.90 | | 1.05 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 140 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.70 | 3.13 | | 1.02 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 141 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.38 | 3.36 | | 0.88 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 142 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.66 | 3.28 | | 1.01 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 143 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.80 | 3.17 | | 1.09 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 144 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.90 | 3.10 | | 1.14 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 145 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.56 | 3.01 | | 1.09 | 0.03 | 緑 | C | | -126641.912 | 22399.043 | 46.089 |
| 146 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.90 | 3.00 | | 1.03 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 147 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.75 | 3.13 | | 0.97 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 148 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.78 | 3.13 | | 1.05 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 149 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.64 | 3.12 | | 1.00 | 0.03 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 150 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.47 | 3.03 | | 0.98 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 151 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.74 | 3.00 | | 1.04 | 0.03 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 152 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.34 | 3.20 | | 1.05 | 0.03 | 白 | C | | -126641.830 | 22399.124 | 46.040 |
| 153 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.27 | 3.05 | | 1.03 | 0.03 | 白 | C | | -126641.931 | 22398.858 | 46.137 |
| 154 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.69 | 2.96 | | 0.98 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 155 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.50 | 3.09 | | 1.01 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 156 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.25 | 3.06 | | 1.00 | 0.03 | 白 | B | | -126641.840 | 22399.068 | 46.036 |
| 157 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.97 | 3.03 | | 0.95 | 0.03 | 白 | B | | -126641.877 | 22398.893 | 46.123 |
| 158 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.62 | 3.00 | | 1.06 | 0.03 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 159 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.94 | 2.95 | | 1.05 | 0.03 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 160 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.38 | 3.12 | | 1.03 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 161 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.81 | 3.08 | | 1.05 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 162 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.77 | 2.99 | | 1.04 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 163 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.42 | 2.85 | | 1.01 | 0.02 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 164 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.88 | 3.15 | | 1.00 | 0.02 | 白 | B | | -126641.905 | 22398.860 | 46.137 |
| 165 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.74 | 2.93 | | 1.07 | 0.02 | 緑 | B | | -126641.885 | 22398.831 | 46.147 |
| 166 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.02 | 3.49 | | 0.99 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 167 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.06 | 3.20 | | 1.03 | 0.02 | 緑 | C | | -126641.840 | 22398.984 | 46.110 |
| 168 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.96 | 3.20 | | 1.03 | 0.02 | 白 | B | | -126641.893 | 22398.985 | 46.089 |
| 169 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.91 | 3.15 | | 1.04 | 0.02 | 緑 | B | | -126641.873 | 22398.892 | 46.114 |
| 170 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.60 | 2.88 | | 0.89 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 171 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 1.66 | 3.14 | | 1.01 | 0.02 | 緑 | C | | -126641.910 | 22399.002 | 46.082 |
| 172 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.42 | 2.94 | | 0.99 | 0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 173 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.05 | 3.36 | | 1.08 | 0.02 | 緑 | B | | -126641.849 | 22398.883 | 46.122 |
| 174 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.72 | 2.86 | | 0.93 | 0.02 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 175 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.75 | 3.19 | | 1.03 | 0.02 | 白 | B | | -126641.846 | 22398.807 | 46.128 |
| 176 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.79 | 2.97 | | 1.04 | 0.02 | 緑 | C | | -126641.871 | 22398.915 | 46.105 |
| 177 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.52 | 3.26 | | 1.03 | 0.02 | 白 | B | | -126641.865 | 22398.847 | 46.116 |
| 178 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.68 | 3.21 | | 1.06 | 0.02 | 白 | C | | -126641.897 | 22398.859 | 46.124 |
| 179 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.02 | 3.17 | | 0.98 | 0.02 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 180 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.76 | 3.08 | | 0.97 | 0.02 | 白 | C | | -126641.922 | 22398.823 | 46.136 |
| 181 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.50 | 3.06 | | 1.02 | 0.02 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 182 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | 2.61 | 3.05 | | 1.00 | 0.02 | 白 | B | | -126641.851 | 22399.020 | 46.083 |
| 183 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.37 | 2.95 | | 1.03 | 0.02 | 白 | C | | -126641.931 | 22398.858 | 46.137 |
| 184 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.57 | 3.46 | | 1.05 | 0.01 | 緑 | B | | -126641.860 | 22398.896 | 46.116 |
| 185 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.35 | 3.29 | | 1.06 | 0.01 | 白 | C | | -126641.912 | 22398.833 | 46.135 |
| 186 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.89 | 3.19 | | 1.18 | 0.01 | 灰 | C | | -126641.855 | 22398.943 | 46.094 |
| 187 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.50 | 2.98 | | 1.00 | 0.01 | 緑 | C | | -126641.870 | 22398.735 | 46.139 |
| 188 | 7号墳 | 墳丘 4298 | 滑石 | 臼玉 | 1.64 | 2.93 | | 0.99 | 0.01 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 189 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.92 | 2.90 | | 1.02 | 0.01 | 白 | B | | -126641.845 | 22398.914 | 46.113 |
| 190 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.68 | 2.98 | | 0.98 | 0.01 | 緑 | C | | -126641.855 | 22398.858 | 46.120 |
| 191 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.06 | 2.76 | | 0.94 | 0.01 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 192 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.76 | 3.02 | | 1.05 | 0.01 | 緑 | B | | -126641.970 | 22398.911 | 46.110 |
| 193 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.48 | 2.96 | | 1.03 | 0.01 | 白 | B | | | | |
| 194 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.48 | 3.22 | | 1.02 | 0.01 | 緑 | C | | -126641.817 | 22398.939 | 46.099 |
| 195 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.33 | 2.98 | | 1.07 | 0.01 | 緑 | C | | -126641.882 | 22398.856 | 46.112 |
| 196 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 2.66 | 3.99 | | 1.27 | -0.07 | 白 | B | | -126641.867 | 22398.925 | 46.126 |
| 197 | 7号墳 | 墳丘 4200 | 滑石 | 臼玉 | 2.39 | 3.61 | | 1.42 | -0.04 | 白 | B | 水洗選別 | | | |
| 198 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | -1.43 | 3.65 | | 1.38 | -0.03 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 199 | 7号墳 | 墳丘 4199 | 滑石 | 臼玉 | -1.24 | 3.13 | | 0.93 | -0.03 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 200 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | -1.75 | 3.33 | | 0.98 | -0.02 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 201 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.09 | 3.69 | | 0.96 | -0.02 | 白 | C | 水洗選別 | | | |
| 202 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | 1.28 | 3.16 | | 0.97 | -0.02 | 緑 | C | 水洗選別 | | | |
| 203 | 7号墳 | 墳丘 4198 | 滑石 | 臼玉 | -1.23 | 2.97 | | 0.99 | -0.02 | 緑 | B | 水洗選別 | | | |
| 204 | 7号墳 | 墳丘 4298 | 滑石 | 臼玉 | -2.02 | 3.11 | | 0.97 | -0.02 | 白 | B | | -126642.043 | 22398.923 | 46.093 |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 25.0 | 2/12 | | | -5.5 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 2 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 14.0 | 2/12 | | | -3.9 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 3 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 有段口縁甕A | 18.6 | 1/12 | | | -10.7 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126633.265 | 22376.505 | 46.108 |
| 4 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -6.2 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126634.01 | 22372.292 | 45.742 |
| 5 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | | | -5.9 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | -126633.788 | 22372.85 | 45.944 |
| 6 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | 8.8 | 2/12 | -6.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126632.58 | 22374.93 | 45.836 |
| 7 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺D | 25.6 | 1/12 | | | -3.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 8 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺D | | | | | 12.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126633.063 | 22372.369 | 45.875 |
| 9 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 22.6 | 2/12 | | | -6.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126635.445 | 22376.434 | 45.92 |
| 10 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -9.7 | 10YR4/1褐灰色 | 図上復元 | | | |
| 11 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 長頸壺 | 6.8 | 1/12 | | | -7.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126634.444 | 22372.511 | 45.689 |
| 12 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 壺（長頸壺） | | | 3.8 | 11/12 | -4.7 | 7.5YR7/6橙色 | | -126633.966 | 22376.474 | 45.817 |
| 13 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 鉢 | | | 5.0 | 5/12 | -2.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126635.457 | 22374.967 | 45.762 |
| 14 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 器台A 2 | 13.4 | 2/12 | | | -2.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 15 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -7.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126631.503 | 22374.873 | 46.082 |
| 16 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -8.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126633.127 | 22372.229 | 45.926 |
| 17 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | 16.0 | 2/12 | -11.2 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | | | |
| 18 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 小型有段高杯 | 15.4 | 1/12 | | | -3.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 19 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 小型高杯B 3 | 12.4 | 1/12 | 11.0 | 5/12 | 14.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126631.779 | 22376.214 | 45.785 |
| 20 | 6337 | 110SI | 下層 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126635.738 | 22375.206 | 45.829 |
| 21 | 6337 | 110SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 22 | 6336 | 151SI | 上層 | 弥生土器 | 甕（脚台d） | | | 10.6 | 3/12 | -6.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126633.077 | 22369.587 | 45.948 |
| 23 | 6337 | 151SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺 | | | 7.0 | 3/12 | -2.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126633.427 | 22370.334 | 45.855 |
| 24 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 21.0 | 1/12 | | | -11.2 | 7.5YR7/6橙色 | 年代測定(PLD-52483) | -126613.43 | 22383.935 | 46.287 |
| 25 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 14.8 | 2/12 | | | -3.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126614.07 | 22382.033 | 46.171 |
| 26 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 15.2 | 1/12 | | | -4.4 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 27 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | | | -4.8 | 5YR6/6橙色 | | -126613.538 | 22382.936 | 46.276 |
| 28 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | | | -6.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126613.605 | 22383.865 | 46.284 |
| 29 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 4.4 | 2/12 | -2.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126612.264 | 22383.186 | 46.246 |
| 30 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.6 | 3/12 | -2.2 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | | | |
| 31 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 21.2 | 1/12 | | | -4.5 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 32 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 21.0 | 1/12 | | | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126613.578 | 22382.494 | 46.181 |
| 33 | 6138 | 112SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | - | 1/12 | | | -3.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 34 | 6138 | 112SI | 上層 | 弥生土器 | 小型鉢B | | | 5.2 | 6/12 | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126612.142 | 22382.991 | 46.281 |
| 35 | 6138 | 137SK | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 22.2 | 1/12 | | | -2.7 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 36 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 16.2 | 2/12 | | | -3.7 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126613.865 | 22376.498 | 45.643 |
| 37 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台c） | | | 9.6 | 11/12 | -8.3 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126616.862 | 22376.173 | 45.695 |
| 38 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -5.6 | 2.5YR5/6明赤褐色 | | -126616.14 | 22376.44 | 45.675 |
| 39 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A 3 | 24.6 | 2/12 | | | -8.3 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126616.448 | 22376.016 | 45.63 |
| 40 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -3.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126615.509 | 22375.284 | 45.62 |
| 41 | 6137 | 113SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | 12.8 | 2/12 | -1.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 42 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 小型高杯B 3 | 15.6 | 1/12 | | | -4.5 | 5YR6/8橙色 | | -126616.417 | 22375.9 | 45.611 |
| 43 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺D | 23.4 | 2/12 | | | -4.3 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126616.201 | 22376.212 | 45.669 |
| 44 | 6137 | 113SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺D | 11.0 | 1/12 | | | 11.5 | 10YR8/4浅黄橙色 | 北近畿系？ | -126615.751 | 22376.037 | 45.667 |
| 45 | 6137 | 139SK | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.0 | 6/12 | -3.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126616.422 | 22375.613 | 45.484 |
| 46 | 6137 | 139SK | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.6 | 5/12 | -5.4 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126616.458 | 22375.606 | 45.515 |
| 47 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 21.0 | 1/12 | | | -3.4 | 10YR5/6黄橙色 | | -126622.097 | 22376.598 | 46.044 |
| 48 | 6138 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 14.4 | 1/12 | | | -6.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 49 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 16.6 | 2/12 | | | -4.8 | 10YR5/6黄橙色 | | -126625.203 | 22377.818 | 46.314 |
| 50 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.0 | 5/12 | -7.4 | 5YR6/6橙色 | | -126620.958 | 22375.354 | 45.875 |
| 51 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 10.2 | 1/12 | -6.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 52 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 8.8 | 2/12 | -5.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126624.376 | 22377.117 | 46.14 |
| 53 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 9.2 | 7/12 | -7.9 | 5YR6/6橙色 | | -126622.404 | 22377.134 | 46.239 |
| 54 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -6.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126623.02 | 22374.733 | 46.187 |
| 55 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.5 | 5YR6/6橙色 | | -126624.53 | 22374.428 | 45.855 |
| 56 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 長頸壺 | 8.4 | 2/12 | | | -8.4 | 10YR8/6黄褐色 | | | | |
| 57 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺A | 15.0 | 6/12 | | | -5.3 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126621.624 | 22378.396 | 46.073 |
| 58 | 6436 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺D | 18.2 | 1/12 | | | -2.9 | 7.5YR6/8橙色 | | -126644.182 | 22364.01 | 45.597 |
| 59 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.0 | 12/12 | -3.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126623.038 | 22379.23 | 46.174 |
| 60 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 20.6 | 1/12 | | | -3.4 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126623.067 | 22376.649 | 46.075 |
| 61 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -6.7 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126623.261 | 22376.286 | 46.179 |
| 62 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 8.0 | 2/12 | -6.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126623.837 | 22377.12 | 46.059 |
| 63 | 6237 | 114SI | 下層 | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -3.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126624.448 | 22377.572 | 46.166 |
| 64 | 6237 | 114SI | 上層 | 弥生土器 | （把手） | | | | | 2.0 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126623.923 | 22374.141 | 45.996 |
| 65 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕A | 20.8 | 2/12 | | | -5.6 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 66 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 23.0 | 1/12 | | | -8.4 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126643.199 | 22363.148 | 45.296 |
| 67 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 （脚台b1） | 16.2 | 10/12 | 7.2 | 10/12 | 17.1 | 7.5YR6/6橙色 | 年代測定(PLD-52484) | -126642.425 | 22363.321 | 45.337 |
| 68 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 11.8 | 2/12 | | | -5.0 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 69 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 19.0 | 2/12 | | | -5.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 70 | 6436 | 115SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 19.4 | 1/12 | | | -5.1 | 10YR4/4褐色 | | | | |
| 71 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 22.6 | 9/12 | | | -20.2 | 7.5YR6/3にぶい橙色 | | -126641.995 | 22363.181 | 45.388 |
| 72 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 8.8 | 2/12 | -11.8 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126643.058 | 22362.929 | 45.243 |
| 73 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.8 | 7/12 | -8.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126644.192 | 22361.91 | 45.111 |
| 74 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 7.6 | 2/12 | -6.2 | 5YR6/6橙色 | | -126643.182 | 22362.955 | 45.276 |
| 75 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -7.2 | 2.5Y7/6明黄褐色 | | -126642.213 | 22362.919 | 45.331 |
| 76 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | 9.2 | 7/12 | -6.6 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126643.797 | 22364.284 | 45.289 |
| 77 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.238 | 22363.783 | 45.458 |
| 78 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | | | -4.3 | 7.5YR8/3浅黄橙色 | | -126643.963 | 22362.807 | 45.237 |
| 79 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | 7.6 | 12/12 | -5.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126642.101 | 22364.062 | 45.31 |
| 80 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 10.4 | 7/12 | -7.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126641.983 | 22363.77 | 45.431 |
| 81 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 8.0 | 5/12 | -4.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126644.387 | 22363.565 | 45.356 |
| 82 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺D | | | | | -4.6 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126642.266 | 22363.57 | 45.384 |
| 83 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺A | 15.6 | 11/12 | | | -7.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126643.92 | 22363.468 | 45.244 |
| 84 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺A | 14.6 | 2/12 | | | -6.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126642.006 | 22363.834 | 45.447 |
| 85 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -9.5 | 10YR8/6黄褐色 | | -126642.77 | 22364.44 | 45.522 |
| 86 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺 | | | 7.0 | 12/12 | -9.1 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126642.051 | 22364.281 | 45.454 |
| 87 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.8 | 6/12 | -3.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126642.194 | 22363.634 | 45.378 |
| 88 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.4 | 12/12 | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126641.799 | 22362.676 | 45.317 |
| 89 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 8.2 | 12/12 | -2.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126643.864 | 22362.942 | 45.321 |
| 90 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.4 | 12/12 | -2.9 | 5YR6/8橙色 | | -126642.246 | 22363.683 | 45.444 |
| 91 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.6 | 12/12 | -5.6 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126642.081 | 22363.653 | 45.423 |
| 92 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.4 | 9/12 | -3.5 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126642.731 | 22363.122 | 45.342 |
| 93 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.8 | 9/12 | -3.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126642.279 | 22363.894 | 45.274 |
| 94 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.6 | 6/12 | -2.7 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126641.997 | 22363.861 | 45.443 |
| 95 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.0 | 3/12 | -3.3 | 10YR8/6黄褐色 | | -126642.413 | 22362.822 | 45.382 |
| 96 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.2 | 12/12 | -2.5 | 2.5Y8/4淡黄色 | | -126643.674 | 22363.249 | 45.268 |
| 97 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 直口壺 | 8.6 | 11/12 | 6.0 | 4/12 | 14.0 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126641.958 | 22363.75 | 45.364 |
| 98 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 器台A 1 | 13.8 | 10/12 | | | -9.8 | 7.5YR6/6橙色 | 透孔２段８方向 | -126641.935 | 22363.554 | 45.381 |
| 99 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 高杯（脚付壺） | | | | | -9.6 | 7.5YR7/6橙色 | | -126642.358 | 22362.983 | 45.359 |
| 100 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | 14.8 | 1/12 | -12.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.754 | 22363.078 | 45.293 |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | 12.4 | 9/12 | -9.8 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126643.034 | 22363.238 | 45.295 |
| 102 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -8.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.861 | 22362.678 | 45.341 |
| 103 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -5.6 | 5YR5/4にぶい橙色 | | -126643.205 | 22363.055 | 45.289 |
| 104 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -6.6 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126642.576 | 22362.608 | 45.307 |
| 105 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -5.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126643.637 | 22362.277 | 45.156 |
| 106 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -4.9 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126642.058 | 22363.148 | 45.346 |
| 107 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯A | | | 7.8 | 8/12 | -4.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.712 | 22363.373 | 45.312 |
| 108 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 蓋 | 11.0 | 3/12 | 4.6 | 12/12 | 6.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126643.407 | 22362.688 | 45.272 |
| 109 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢A | 8.8 | 1/12 | 7.0 | 11/12 | 7.0 | 7.5YR7/3にぶい橙色 | | -126642.23 | 22363.006 | 45.349 |
| 110 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 4.4 | 12/12 | -6.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126641.915 | 22363.697 | 45.328 |
| 111 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 3.4 | 7/12 | 5.2 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126643.444 | 22362.899 | 45.25 |
| 112 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢B | 3.8 | 1/12 | 2.4 | 12/12 | 4.2 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 113 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 2.8 | 12/12 | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.915 | 22363.402 | 45.323 |
| 114 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 3.6 | 12/12 | -2.4 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 115 | 6436 | 115SI | 下層 | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 2.4 | 7/12 | -3.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 116 | 6436 | 115SI | 上層 | 弥生土器 | 小型鉢C | 6.2 | 2/12 | 5.4 | 12/12 | 3.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126641.922 | 22363.718 | 45.33 |
| 117 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 7.2 | 10/12 | -5.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126644.416 | 22362.184 | 45.278 |
| 118 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 7.2 | 5/12 | -4.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.358 | 22362.139 | 45.272 |
| 119 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 4.2 | 12/12 | -4.2 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126643.552 | 22360.804 | 45.267 |
| 120 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 24.0 | 4/12 | | | -13.2 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126641.996 | 22362.091 | 45.299 |
| 121 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -5.1 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126643.786 | 22361.187 | 45.286 |
| 122 | 6336 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 8.0 | 6/12 | -2.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126637.089 | 22364.17 | 45.68 |
| 123 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 21.0 | 1/12 | | | -2.3 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 124 | 6436 | 118SI | 下層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 19.8 | 10/12 | | | -5.3 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126642.99 | 22360.479 | 45.204 |
| 125 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 2（脚部b2） | 21.2 | 10/12 | | | -16.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126641.957 | 22363.656 | 45.311 |
| 126 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | | | -14.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126643.523 | 22362.48 | 45.236 |
| 127 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯A 4 | 23.8 | 3/12 | | | -7.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126642.657 | 22360.989 | 45.222 |
| 128 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 小型高杯B 3 | 9.2 | 1/12 | | | -11.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126644.385 | 22362.072 | 45.189 |
| 129 | 6237 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 11.2 | 1/12 | | | -6.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126623.441 | 22375.057 | 46.187 |
| 130 | 6436 | 118SI | 上層 | 弥生土器 | 有段高杯B | 25.0 | 2/12 | | | -7.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 131 | 6437 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 甕C 2 | 17.8 | 8/12 | | | -17.7 | 7.5YR6/8橙色 | | -126640.626 | 22375.792 | 46.072 |
| 132 | 6437 | 116SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 22.8 | 10/12 | | | -10.3 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126640.387 | 22375.581 | 46.014 |
| 133 | 6437 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺A | 12.8 | 2/12 | | | -2.6 | 5YR4/6赤褐色 | | -126640.674 | 22375.948 | 46.017 |
| 134 | 6337 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺A | 14.6 | 11/12 | | | -7.8 | 5YR6/8橙色 | | -126637.941 | 22375.383 | 45.992 |
| 135 | 6337 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 28.4 | 2/12 | | | -5.6 | 10YR7/8黄橙色 | | -126638.94 | 22376.993 | 46.049 |
| 136 | 6437 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 大型鉢 | 15.6 | 2/12 | 6.2 | 12/12 | 15.8 | 7.5YR7/6橙色 | | -126640.867 | 22375.929 | 46.006 |
| 137 | 6337 | 116SI | 下層 | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.2 | 5YR6/6橙色 | | -126638.532 | 22376.656 | 46.098 |
| 138 | 6436 | 126SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 21.2 | 2/12 | | | -8.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 139 | 6436 | 126SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 10.2 | 3/12 | -8.5 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 140 | 6436 | (126SI) | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.6 | 10/12 | -8.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126644.791 | 22366.216 | 45.66 |
| 141 | 6437 | 148SI | 上層 | 弥生土器 | 甕C 1 | 20.6 | 3/12 | | | -11.7 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126644.562 | 22370.851 | 45.699 |
| 142 | 6437 | 148SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 26.6 | 1/12 | | | -5.3 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 143 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 22.8 | 2/12 | | | -8.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126565.786 | 22426.311 | 48.147 |
| 144 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台） | | | | | -6.1 | 10YR8/2灰白色 | | -126567.134 | 22424.185 | 48.052 |
| 145 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台） | | | 8.6 | 3/12 | -4.3 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126565.581 | 22424.276 | 48.263 |
| 146 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 4.0 | 4/12 | -2.9 | 2.5Y3/1黒褐色 | | | | |
| 147 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 30.0 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126566.415 | 22427.333 | 48.134 |
| 148 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 小型高杯B 1 | 8.2 | 6/12 | 7.4 | 11/12 | 11.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126565.621 | 22424.446 | 48.128 |
| 149 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 17.6 | 1/12 | | | -2.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126565.164 | 22426.281 | 48.286 |
| 150 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 広口壺C | 16.6 | 1/12 | | | -1.6 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126565.214 | 22426.031 | 48.261 |
| 151 | 5742 | 154SI | | 弥生土器 | 広口壺C | 14.2 | 2/12 | | | -2.3 | 10YR4/1褐灰色 | | | | |
| 152 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 15.6 | 1/12 | | | -5.4 | 7.5YR6/8橙色 | | -126565.130 | 22426.045 | 48.279 |
| 153 | 5642 | 154SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.8 | 3/12 | -2.4 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126565.888 | 22425.279 | 48.093 |
| 154 | 5642 | 160SI | | 弥生土器 | 甕A | 12.8 | 3/12 | | | -4.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126569.492 | 22425.588 | 48.018 |
| 155 | 5742 | 160SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -3.7 | 5YR6/6橙色 | | -126572.466 | 22424.381 | 48.072 |
| 156 | 5642 | 160SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -3.8 | 2.5Y3/1黒褐色 | | | | |
| 157 | 5642 | 160SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -6.3 | 5YR6/8橙色 | | -126568.719 | 22426.541 | 48.151 |
| 158 | 5742 | 160SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 24.6 | 3/12 | | | -6.3 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126570.850 | 22425.670 | 48.022 |
| 159 | 5742 | 160SI | | 弥生土器 | 細頸壺B | 8.6 | 1/12 | | | -3.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126571.078 | 22424.975 | 48.015 |
| 160 | 5742 | 160SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -4.3 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126572.388 | 22424.488 | 48.057 |
| 161 | 5741 | 155SI | | 弥生土器 | 甕C | | | | | -4.5 | 5YR7/6橙色 | | -126579.128 | 22410.552 | 47.185 |
| 162 | 5841 | 155SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 10.2 | 12/12 | -9.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126582.116 | 22410.837 | 46.995 |
| 163 | 5840 | 155SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 9.4 | 6/12 | -7.5 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126582.585 | 22409.644 | 47.167 |
| 164 | 5741 | 155SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 7.4 | 2/12 | -4.8 | 5YR6/8橙色 | | -126578.945 | 22411.900 | 47.264 |
| 165 | 5840 | 155SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 6.2 | 12/12 | -5.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126582.372 | 22409.727 | 47.149 |
| 166 | 5840 | 155SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 23.0 | 1/12 | | | -3.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126582.667 | 22409.452 | 47.249 |
| 167 | 5841 | 155SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -7.6 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126582.562 | 22415.134 | 47.298 |
| 168 | 5840 | 155SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | 7.4 | 1/12 | -4.1 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | -126581.377 | 22409.892 | 47.130 |
| 169 | 6538 | 157SI | | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 21.2 | 5/12 | | | -7.6 | 5YR5/8明赤褐色 | | -126656.510 | 22387.009 | 44.820 |
| 170 | 6638 | 157SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 7.0 | 12/12 | -4.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 171 | 6638 | 157SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 18.0 | 1/12 | | | -3.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 172 | 6638 | 157SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | | | -9.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 173 | 6538 | 157SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | | | -10.3 | 7.5YR6/8橙色 | | -126656.337 | 22387.313 | 44.820 |
| 174 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 甕A | 16.0 | 1/12 | | | -4.6 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | | | |
| 175 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -5.8 | 7.5YR7/6橙色 | | -126600.716 | 22393.329 | 46.396 |
| 176 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 5.0 | 2/12 | -2.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 177 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | | | -2.8 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 178 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -7.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126601.246 | 22392.636 | 46.396 |
| 179 | 6039 | 174SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.6 | 8/12 | -2.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126600.048 | 22394.323 | 46.669 |
| 180 | 6039 | 200SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -5.6 | 7.5YR6/8橙色 | | -126603.627 | 22391.799 | 46.633 |
| 181 | 6039 | 200SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -6.6 | 2.5Y5/6黄褐色 | | -126603.438 | 22393.354 | 46.667 |
| 182 | 6039 | 200SI | | 弥生土器 | 脚付細頸壺 | | | 8.6 | 8/12 | -15.3 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126604.396 | 22392.359 | 46.544 |
| 183 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 9.4 | 6/12 | -8.0 | 7.5YR6/8橙色 | | -126626.052 | 22381.658 | 46.459 |
| 184 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 8.6 | 4/12 | -8.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126625.805 | 22381.620 | 46.440 |
| 185 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -7.1 | 7.5YR7/6橙色 | | -126627.156 | 22382.652 | 46.489 |
| 186 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | （脚付鉢） | 16.8 | 1/12 | | | -3.4 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 187 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.8 | 3/12 | -3.1 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 188 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 19.2 | 1/12 | | | -3.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 189 | 6238 | 176SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -10.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126625.707 | 22382.080 | 46.529 |
| 190 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕A | 16.8 | 7/12 | | | -9.8 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | -126595.740 | 22405.399 | 47.029 |
| 191 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕A | 17.2 | 2/12 | | | -14.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126597.388 | 22406.466 | 47.101 |
| 192 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 16.4 | 2/12 | | | -3.7 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126599.017 | 22406.694 | 47.142 |
| 193 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 14.4 | 2/12 | | | -10.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126595.750 | 22408.193 | 47.198 |
| 194 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.4 | 5/12 | | | -13.6 | 7.5YR6/8橙色 | | -126595.525 | 22407.065 | 47.102 |
| 195 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 24.6 | 2/12 | | | -17.8 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126595.845 | 22408.431 | 47.142 |
| 196 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 7.4 | 3/12 | -7.3 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126599.053 | 22407.778 | 47.103 |
| 197 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 9.6 | 6/12 | -7.5 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126596.578 | 22408.497 | 47.160 |
| 198 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 7.6 | 8/12 | -4.6 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | -126597.254 | 22404.514 | 47.004 |
| 199 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.3 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126597.205 | 22408.486 | 47.228 |
| 200 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -4.9 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126595.941 | 22408.729 | 47.136 |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | | | | | -3.3 | 10YR8/6黄褐色 | | -126595.743 | 22408.370 | 47.135 |
| 202 | 5940 | 190SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | - | 1/12 | | | -4.1 | 7.5YR8/6浅黄橙色 | | -126595.712 | 22408.030 | 47.138 |
| 203 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | 18.2 | 1/12 | | | -3.5 | 2.5Y6/6明黄褐色 | | | | |
| 204 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 19.0 | 3/12 | | | -7.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126617.950 | 22393.955 | 46.546 |
| 205 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ | | | | | -8.5 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126617.781 | 22393.056 | 46.557 |
| 206 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b1） | | | | | -9.9 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126618.081 | 22394.026 | 46.585 |
| 207 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b2） | | | 7.6 | 1/12 | -5.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126617.251 | 22393.258 | 46.569 |
| 208 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b） | | | | | -4.6 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126616.928 | 22394.644 | 46.504 |
| 209 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台d） | | | 7.2 | 2/12 | -4.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126617.905 | 22394.105 | 46.585 |
| 210 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 8.4 | 10/12 | -2.9 | 10YR6/6明黄褐色 | 底部外面木葉痕 | -126616.402 | 22393.516 | 46.522 |
| 211 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | | | | | -8.2 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126616.358 | 22393.535 | 46.529 |
| 212 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b） | 27.9 | 1/12 | | | -3.4 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 213 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b3） | | | | | -7.8 | 5YR6/8橙色 | | -126616.406 | 22394.677 | 46.621 |
| 214 | 6139 | 195SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | | | -5.9 | 10YR5/8黄褐色 | | -126617.615 | 22395.921 | 46.646 |
| 215 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ２ | 15.8 | 6/12 | | | -16.6 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126604.792 | 22407.775 | 46.930 |
| 216 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ２ | 18.2 | 5/12 | | | -17.4 | 10YR7/6明黄褐色 | 年代測定(PLD-52482) | -126605.378 | 22407.876 | 46.900 |
| 217 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ２ | 20.0 | 1/12 | | | -11.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126604.549 | 22407.416 | 46.964 |
| 218 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 有段口縁甕Ｂ | 10.0 | 2/12 | | | -3.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126605.496 | 22411.858 | 47.025 |
| 219 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b1） | | | 7.2 | 9/12 | -5.7 | 2.5YR5/8明赤褐色 | | -126604.488 | 22409.141 | 46.982 |
| 220 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台a2） | | | | | -6.1 | 5YR5/8明赤褐色 | | -126603.371 | 22407.978 | 47.000 |
| 221 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | 19.8 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126605.266 | 22409.766 | 47.115 |
| 222 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | | | | | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126602.973 | 22408.381 | 47.003 |
| 223 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | | | | | -3.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126604.099 | 22409.228 | 46.967 |
| 224 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ | | | | | -5.3 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126604.145 | 22411.553 | 47.061 |
| 225 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ | | | | | -4.8 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 226 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ２ | 25.0 | 2/12 | | | -5.0 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | -126605.460 | 22410.819 | 47.007 |
| 227 | 6141 | 196SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ２ | 16.0 | 3/12 | | | -1.8 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 228 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 広口壺Ａ | 17.6 | 2/12 | | | -1.3 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 229 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 細頸壺Ｂ | 11.6 | 2/12 | | | -2.0 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 230 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.6 | 4/12 | -7.1 | 10YR5/8黄褐色 | | -126603.339 | 22407.078 | 46.960 |
| 231 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 中型鉢Ｃ | 16.8 | 4/12 | 4.2 | 12/12 | 5.5 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126602.609 | 22408.769 | 47.029 |
| 232 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.6 | 12/12 | -3.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126604.569 | 22408.567 | 47.061 |
| 233 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.5 | 12/12 | -2.4 | 7.5YR6/8橙色 | | -126604.063 | 22407.347 | 46.972 |
| 234 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | 19.6 | 1/12 | | | -3.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 235 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | 22.8 | 6/12 | | | -4.2 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126604.502 | 22407.348 | 46.975 |
| 236 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b3） | | | | | -16.7 | 10YR8/6黄褐色 | | -126602.953 | 22407.119 | 47.053 |
| 237 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ２ | 10.6 | 2/12 | | | -6.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126604.155 | 22407.209 | 46.959 |
| 238 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ２ | 12.2 | 2/12 | 10.0 | 6/12 | 13.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126605.068 | 22408.015 | 46.915 |
| 239 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | 10.8 | 3/12 | -8.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126605.422 | 22407.898 | 46.914 |
| 240 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ａ | 11.4 | 8/12 | 6.0 | 4/12 | 7.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126604.580 | 22411.910 | 46.934 |
| 241 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 小型高杯Ａ | | | | | -4.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126605.407 | 22411.875 | 46.918 |
| 242 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | 小型鉢Ｂ | 8.0 | 6/12 | 3.8 | 12/12 | 5.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126604.656 | 22411.866 | 46.933 |
| 243 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | 細頸壺 | | | | | -3.1 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 244 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | （小型土器） | | | | | -4.6 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126604.643 | 22408.059 | 47.040 |
| 245 | 6041 | 196SI | | 弥生土器 | （小型土器） | 3.8 | 12/12 | 2.4 | 12/12 | 3.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126604.700 | 22411.904 | 46.945 |
| 246 | 6040 | 196SI | | 弥生土器 | （台形土器） | | | | | -1.2 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | -126605.022 | 22407.454 | 46.994 |
| 247 | 6040 | 271SK | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | | | | | -4.6 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 248 | 6040 | 271SK | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ３ | 13.8 | 2/12 | | | -11.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126605.510 | 22408.603 | 46.863 |
| 249 | 6040 | 271SK | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | 9.2 | 2/12 | -6.6 | 7.5YR7/6橙色 | | -126605.404 | 22408.465 | 46.824 |
| 250 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ２ | 24.6 | 3/12 | | | -26.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126603.681 | 22404.290 | 47.117 |
| 251 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 20.8 | 2/12 | | | -11.7 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126606.488 | 22403.190 | 47.071 |
| 252 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ２ | 21.8 | 2/12 | | | -6.0 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126606.927 | 22403.935 | 46.942 |
| 253 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b1） | | | 9.2 | 4/12 | -8.4 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126605.889 | 22403.806 | 47.140 |
| 254 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b1） | | | 9.0 | 12/12 | -9.5 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126604.242 | 22404.063 | 46.914 |
| 255 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台b2） | | | 7.8 | 12/12 | -5.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.388 | 22403.868 | 46.970 |
| 256 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | -6.0 | 7/12 | -3.7 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126604.713 | 22404.291 | 47.050 |
| 257 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.2 | 12/12 | -3.1 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126603.681 | 22404.290 | 47.117 |
| 258 | 5940 | 224SD | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.2 | 12/12 | -2.9 | 10YR4/1褐灰色 | | -126598.612 | 22402.149 | 46.915 |
| 259 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.2 | 12/12 | -2.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.496 | 22403.828 | 46.958 |
| 260 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 小型鉢Ｃ | | | 5.8 | 12/12 | -5.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126600.200 | 22403.172 | 47.010 |
| 261 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ１ | 20.0 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126600.624 | 22403.671 | 47.047 |
| 262 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ１ | 17.8 | 1/12 | | | -2.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 263 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ１ | 20.4 | 1/12 | | | -4.8 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126601.422 | 22403.587 | 47.103 |
| 264 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | 26.8 | 2/12 | | | -5.1 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126605.733 | 22403.865 | 47.086 |
| 265 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部a） | | | | | -6.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126603.273 | 22404.171 | 46.987 |
| 266 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b2） | | | | | -12.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126604.775 | 22404.095 | 46.957 |
| 267 | 6040 | 224SD | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | | | -5.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126601.248 | 22403.627 | 47.026 |
| 268 | 5940 | 224SD | | 弥生土器 | 小型高杯Ａ | | | | | -4.7 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126597.750 | 22400.902 | 46.915 |
| 269 | 6040 | 225SD | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | 10.8 | 3/12 | -5.5 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126607.091 | 22404.507 | 46.928 |
| 270 | 6040 | 225SD | | 弥生土器 | 小型高杯Ｂ | | | | | -8.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126607.060 | 22405.729 | 47.138 |
| 271 | 6040 | 225SD | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.0 | 5/12 | -4.5 | 5YR5/8明赤褐色 | | -126606.973 | 22403.963 | 47.114 |
| 272 | 6040 | 225SD | | 弥生土器 | 小型鉢Ａ | 8.0 | 1/12 | | | -3.2 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 273 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | 18.0 | 2/12 | | | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126604.888 | 22404.706 | 47.086 |
| 274 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 25.2 | 1/12 | | | -4.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 275 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 中型鉢Ｂ | 17.8 | 3/12 | | | -8.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.765 | 22404.805 | 47.058 |
| 276 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.2 | 7/12 | -3.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 277 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.0 | 3/12 | -2.7 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 278 | 6040 | 198SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | - | 1/12 | | | -4.4 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 279 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ２（脚台b2） | 22.4 | 2/12 | 9.4 | 10/12 | -28.3 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126608.493 | 22407.733 | 46.895 |
| 280 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 16.0 | 2/12 | | | -7.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126609.578 | 22406.336 | 46.888 |
| 281 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ２ | 25.2 | 1/12 | | | -1.9 | 7.5YR6/8橙色 | | -126609.602 | 22405.024 | 46.955 |
| 282 | 6140 | 199SI | | 弥生土器 | 広口壺Ｃ２ | 21.2 | 3/12 | | | -13.4 | 7.5YR6/8橙色 | | -126609.634 | 22405.553 | 46.947 |
| 283 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | 9.8 | 12/12 | | | -3.1 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126609.156 | 22404.844 | 46.838 |
| 284 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 9.8 | 4/12 | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126609.844 | 22406.540 | 46.890 |
| 285 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.8 | 6/12 | -2.3 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126609.264 | 22405.144 | 46.958 |
| 286 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 小型有段高杯 | 16.8 | 1/12 | | | -2.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 287 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ２ | 25.0 | 1/12 | | | -3.0 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126608.335 | 22407.663 | 46.909 |
| 288 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ３ | 25.6 | 2/12 | | | -7.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126607.971 | 22405.537 | 46.840 |
| 289 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ３ | 23.2 | 2/12 | | | -6.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | 290と同一個体？ | -126608.912 | 22407.977 | 46.903 |
| 290 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b3） | | | 13.8 | 2/12 | -11.2 | 7.5YR6/6橙色 | 289と同一個体？ | -126608.664 | 22407.943 | 46.910 |
| 291 | 6040 | 199SI | | 弥生土器 | 有段高杯Ａ（脚部b） | | | | | -9.2 | 5YR6/8橙色 | | -126608.720 | 22407.768 | 46.907 |
| 292 | 6039 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 18.8 | 3/12 | | | -13.3 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126609.673 | 22400.157 | 46.945 |
| 293 | 6141 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 14.2 | 1/12 | | | -2.5 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 294 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 20.8 | 2/12 | | | -6.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126610.610 | 22401.878 | 47.093 |
| 295 | 6039 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ１ | 22.2 | 1/12 | | | -5.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126609.166 | 22398.742 | 47.017 |
| 296 | 6039 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | | | | | -5.4 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126608.767 | 22399.245 | 46.963 |
| 297 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | | | | | -5.9 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 298 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ａ | | | | | -4.7 | 7.5YR7/6橙色 | | -126610.226 | 22401.024 | 46.935 |
| 299 | 6040 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台a1） | | | 7.4 | 4/12 | -8.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.120 | 22400.752 | 46.916 |
| 300 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕Ｃ（脚台a1） | | | | | -7.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.703 | 22400.379 | 47.040 |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 301 | 6140 6141 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 9.2 | 2/12 | -7.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 302 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 9.4 | 7/12 | -7.6 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126611.574 | 22400.388 | 46.943 |
| 303 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 9.6 | 7/12 | -7.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126611.028 | 22400.594 | 47.102 |
| 304 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.4 | 5/12 | -6.5 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 305 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 10.0 | 1/12 | -6.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.827 | 22400.279 | 47.059 |
| 306 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | 9.0 | 2/12 | -5.2 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 307 | 6040 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a1） | | | | | -5.8 | 5YR6/6橙色 | | -126609.787 | 22400.646 | 46.911 |
| 308 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 5.6 | 5/12 | -4.3 | 7.5YR5/8明褐色 | | -126610.713 | 22400.627 | 47.101 |
| 309 | 6139 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -3.8 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126610.275 | 22399.838 | 46.999 |
| 310 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | | | -3.8 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126610.599 | 22401.661 | 47.060 |
| 311 | 6039 | 203SI | | 弥生土器 | 広口壺C 1 | 21.8 | 2/12 | | | -3.9 | 5YR6/6橙色 | | -126609.783 | 22398.420 | 47.104 |
| 312 | 6139 | 203SI | | 弥生土器 | 広口壺C 1 | 29.0 | 1/12 | | | -1.9 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126610.457 | 22399.126 | 46.983 |
| 313 | 6139 | 203SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 15.6 | 3/12 | | | -3.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.774 | 22399.949 | 47.050 |
| 314 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 12.8 | 3/12 | | | -3.3 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 315 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.4 | 7/12 | -3.0 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 316 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.0 | 7/12 | -4.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126611.126 | 22400.210 | 46.983 |
| 317 | 6141 | 203SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.0 | 12/12 | -3.7 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 318 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 19.2 | 2/12 | | | -3.4 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126610.085 | 22402.005 | 46.981 |
| 319 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b1） | | | | | -14.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.644 | 22401.529 | 47.094 |
| 320 | 6040 | 203SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -6.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126609.256 | 22400.272 | 46.901 |
| 321 | 6140 | 203SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.734 | 22400.649 | 47.065 |
| 322 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 22.4 | 2/12 | | | -12.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126592.781 | 22409.517 | 47.112 |
| 323 | 5841 | 214SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | - | 1/12 | | | -5.2 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 324 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 小型鉢C | 6.6 | 2/12 | 2.0 | 10/12 | 4.1 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126593.212 | 22409.729 | 47.135 |
| 325 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | 18.0 | 4/12 | -3.7 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126593.626 | 22407.735 | 47.033 |
| 326 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.6 | 2.5Y5/2暗灰黄色 | | | | |
| 327 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 9.6 | 1/12 | -6.3 | 5YR6/6橙色 | | -126593.843 | 22409.780 | 47.187 |
| 328 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | 7.6 | 2/12 | -5.7 | 5YR6/6橙色 | | -126592.732 | 22409.868 | 47.128 |
| 329 | 5940 | 214SI | | 弥生土器 | 広口壺C | | | 7.6 | 12/12 | -22.3 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126593.386 | 22409.125 | 47.114 |
| 330 | 5941 | 214SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 7.4 | 1/12 | -4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 331 | 5941 | 222SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 17.8 | 3/12 | | | -5.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126593.369 | 22416.047 | 47.229 |
| 332 | 5941 | 222SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -3.8 | 5YR7/6橙色 | | -126593.657 | 22416.555 | 47.230 |
| 333 | 5941 | 222SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 7.8 | 1/12 | -7.5 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126592.035 | 22414.809 | 47.124 |
| 334 | 5941 | 222SI | | 弥生土器 | 有段口縁甕B | 18.0 | 2/12 | | | -12.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126592.461 | 22415.996 | 47.225 |
| 335 | 5941 | 259SD | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -5.9 | 7.5YR6/6橙色 | 透孔１方向（未貫通） | | | |
| 336 | 5941 | 259SD | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -7.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126594.631 | 22411.358 | 47.263 |
| 337 | 5941 | 259SD | | 弥生土器 | 甕C 2 | 16.4 | 1/12 | | | -11.2 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126594.504 | 22410.643 | 47.195 |
| 338 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺C 1 | 18.0 | 2/12 | | | -2.6 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126599.762 | 22414.106 | 47.228 |
| 339 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺C 1 | 12.8 | 2/12 | | | -0.8 | 10YR5/6黄橙色 | | | | |
| 340 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 23.0 | 1/12 | | | -1.4 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 341 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺C 2 | 18.2 | 10/12 | | | -17.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126600.578 | 22415.012 | 47.104 |
| 342 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 11.6 | 4/12 | | | -4.0 | 2.5Y7/4浅黄色 | | -126598.974 | 22413.422 | 47.131 |
| 343 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -7.0 | 7.5YR8/4浅黄橙色 | | -126598.030 | 22413.335 | 47.188 |
| 344 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | | | -6.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126599.118 | 22415.021 | 47.154 |
| 345 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 6.4 | 12/12 | -14.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126597.745 | 22411.594 | 47.099 |
| 346 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | （広口壺） | 25.2 | 1/12 | | | -2.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 347 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.8 | 7/12 | -2.7 | 2.5Y6/6明黄褐色 | | -126598.107 | 22415.368 | 47.182 |
| 348 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.2 | 12/12 | -6.2 | 2.5Y6/4にぶい黄色 | | | | |
| 349 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.6 | 6/12 | -3.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126598.576 | 22414.484 | 47.114 |
| 350 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.6 | 12/12 | -3.6 | 2.5Y7/3浅黄色 | | -126598.952 | 22415.264 | 47.124 |
| 351 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 5.8 | 10/12 | -6.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126596.972 | 22412.324 | 47.141 |
| 352 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.4 | 12/12 | -2.3 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126598.256 | 22411.438 | 47.118 |
| 353 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 壺（長頸壺） | | | 6.2 | 12/12 | -4.0 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126598.114 | 22416.064 | 47.082 |
| 354 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1（脚部a） | 22.8 | 2/12 | 10.4 | 3/12 | 10.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126599.354 | 22414.780 | 47.169 |
| 355 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 20.4 | 1/12 | | | -4.6 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 356 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b1） | | | 14.0 | 1/12 | -13.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126599.398 | 22416.577 | 47.147 |
| 357 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -7.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126598.155 | 22416.114 | 47.051 |
| 358 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -9.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126599.801 | 22413.305 | 47.196 |
| 359 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | 14.8 | 1/12 | | | -5.0 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126599.398 | 22414.588 | 47.184 |
| 360 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B 2 | 8.4 | 3/12 | | | -4.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 361 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B 3 | 15.6 | 3/12 | | | -9.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126599.679 | 22416.476 | 47.175 |
| 362 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -7.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126598.977 | 22415.596 | 47.140 |
| 363 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126598.846 | 22412.486 | 47.111 |
| 364 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -6.2 | 7.5YR6/8橙色 | | -126600.843 | 22413.710 | 47.102 |
| 365 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 9.8 | 11/12 | -6.3 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126598.998 | 22412.139 | 47.100 |
| 366 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 脚付中型鉢 | | | | | -4.5 | 10YR6/2灰黄褐色 | | -126597.315 | 22413.866 | 47.149 |
| 367 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 脚付中型鉢 | | | 6.6 | 8/12 | -5.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126600.067 | 22414.465 | 47.143 |
| 368 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 器台B？ | | | 13.0 | 4/12 | -15.8 | 7.5YR6/6橙色 | 長頸壺？ | -126600.834 | 22414.654 | 47.106 |
| 369 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 5.2 | 2/12 | -8.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126598.025 | 22412.188 | 47.120 |
| 370 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 脚付小型鉢 | | | 3.8 | 11/12 | -3.0 | 10YR4/3にぶい黄橙色 | | -126597.974 | 22415.433 | 47.165 |
| 371 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型鉢B | 4.6 | 12/12 | 4.6 | 12/12 | 7.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126598.431 | 22411.525 | 47.099 |
| 372 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 小型鉢B | 6.2 | 1/12 | 4.8 | 12/12 | 4.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126597.895 | 22414.639 | 47.135 |
| 373 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 17.2 | 1/12 | | | -4.9 | 10YR5/8黄褐色 | | -126599.892 | 22416.676 | 47.126 |
| 374 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.8 | 7/12 | | | -14.4 | 10YR3/1黒褐色 | | -126597.592 | 22411.609 | 47.141 |
| 375 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 22.6 | 1/12 | | | -11.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126597.231 | 22414.674 | 47.212 |
| 376 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 2（脚台b1） | 17.4 | 7/12 | 9.4 | 4/12 | 22.9 | 5YR6/6橙色 | | -126600.551 | 22412.535 | 47.025 |
| 377 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 22.4 | 6/12 | | | -15.8 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126598.721 | 22415.575 | 47.149 |
| 378 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 22.2 | 2/12 | | | -8.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126600.474 | 22416.321 | 47.136 |
| 379 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 21.2 | 2/12 | | | -3.6 | 2.5Y6/2にぶい黄色 | | -126597.380 | 22414.552 | 47.194 |
| 380 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 14.2 | 10/12 | | | -11.3 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126599.098 | 22414.820 | 47.112 |
| 381 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 12.8 | 1/12 | | | -4.1 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 382 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C | | | | | -5.4 | 10YR6/8明黄褐色 | | -126599.683 | 22416.281 | 47.143 |
| 383 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | 8.8 | 8/12 | -6.4 | 2.5YR5/6明赤褐色 | | -126597.149 | 22414.496 | 47.245 |
| 384 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.0 | 11/12 | -6.8 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126598.728 | 22411.936 | 47.082 |
| 385 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 10.2 | 2/12 | -10.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126597.055 | 22412.549 | 47.167 |
| 386 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 7.2 | 1/12 | -6.0 | 5YR7/6橙色 | | -126599.081 | 22411.966 | 47.077 |
| 387 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 8.6 | 1/12 | -5.8 | 5YR6/8橙色 | | -126598.548 | 22412.418 | 47.121 |
| 388 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 9.8 | 2/12 | -5.8 | 5YR6/8橙色 | | -126599.429 | 22414.122 | 47.098 |
| 389 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.8 | 7.5YR6/8橙色 | | -126601.127 | 22415.863 | 47.133 |
| 390 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -3.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126600.915 | 22414.432 | 47.064 |
| 391 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.2 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126597.550 | 22412.597 | 47.028 |
| 392 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -5.0 | 2.5YR5/6明赤褐色 | | -126600.736 | 22412.357 | 46.971 |
| 393 | 6041 | 223SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 9.2 | 3/12 | -5.5 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126600.879 | 22414.712 | 47.108 |
| 394 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | （細頸壺） | 4.6 | 2/12 | | | -3.0 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 395 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 細頸壺B | 11.2 | 2/12 | | | -1.7 | 10YR6/8明黄褐色 | | | | |
| 396 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 30.6 | 1/12 | | | -2.7 | 10YR5/6黄橙色 | | | | |
| 397 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 21.6 | 2/12 | | | -2.8 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 398 | 5941 | 223SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 25.0 | 2/12 | | | -2.8 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126598.163 | 22416.116 | 46.923 |
| 399 | 5941 | 218SD | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 18.8 | 1/12 | | | -2.5 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 400 | 5941 | 218SD | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 25.0 | 1/12 | | | -2.4 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 401 | 5941 | 218SD | | 弥生土器 | 中型鉢A | 12.4 | 11/12 | 5.4 | 12/12 | 6.0 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | -126592.862 | 22411.847 | 47.319 |
| 402 | 5941 | 218SD | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 3.8 | 9/12 | -2.2 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126597.680 | 22410.989 | 47.143 |
| 403 | 5941 | 234SI | | 弥生土器 | 甕A | 15.0 | 1/12 | | | -2.6 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 404 | 5941 | 234SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -5.6 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126590.292 | 22412.315 | 47.313 |
| 405 | 5941 | 234SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -3.5 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126591.710 | 22413.785 | 47.373 |
| 406 | 5941 | 234SI | | 弥生土器 | 小型脚付鉢 | | | 5.6 | 12/12 | -7.9 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126592.420 | 22411.757 | 47.305 |
| 407 | 5941 | 275SK | | 弥生土器 | 蓋 | 17.8 | 1/12 | 4.6 | 12/12 | 9.7 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126593.956 | 22414.031 | 47.376 |
| 408 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 13.0 | 2/12 | | | -4.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 409 | 6241 | 220SI | | 弥生土器 | 広口壷C 2 | 26.0 | 4/12 | | | -12.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126622.746 | 22414.738 | 46.987 |
| 410 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 広口壷C 2 | 25.0 | 3/12 | | | -1.8 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 411 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 広口壷A | 14.8 | 4/12 | | | -5.2 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126618.729 | 22410.078 | 46.922 |
| 412 | 6241 | 220SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 7.8 | 12/12 | -3.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126621.251 | 22410.928 | 46.882 |
| 413 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.4 | 12/12 | -4.4 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 414 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 小型鉢C | | | 5.4 | 12/12 | -4.8 | 2.5YR5/8明赤褐色 | | -126618.327 | 22414.237 | 47.043 |
| 415 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 脚付鉢 | | | | | -1.3 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 416 | 6140 | 220SI | | 弥生土器 | 小型鉢B | 1.6 | 12/12 | 1.6 | 12/12 | 2.7 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | -126619.080 | 22410.185 | 46.786 |
| 417 | 6241 | 220SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 24.2 | 1/12 | | | -3.5 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 418 | 6241 | 220SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -6.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 419 | 6241 | 220SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b2） | | | 18.0 | 3/12 | -4.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126620.507 | 22411.585 | 46.858 |
| 420 | 6240 | 220SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | 17.0 | 3/12 | -5.2 | 2.5Y7/4浅黄色 | | -126621.315 | 22409.984 | 47.039 |
| 421 | 6141 | 220SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.9 | 7.5YR6/8橙色 | | -126617.814 | 22414.259 | 47.033 |
| 422 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 椀形高杯 | 24.4 | 2/12 | | | -7.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126618.284 | 22412.151 | 46.827 |
| 423 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 有段高杯A 2（脚部b2） | 27.0 | 3/12 | 16.8 | 1/12 | 18.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126618.245 | 22412.017 | 46.848 |
| 424 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 甕C（脚台） | | | | | -3.2 | 5YR6/6橙色 | | -126618.530 | 22412.306 | 46.701 |
| 425 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 甕C 2 | 17.6 | 2/12 | | | -2.7 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 426 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 小型鉢C | | | 2.6 | 12/12 | -3.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126618.312 | 22412.217 | 46.804 |
| 427 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | （加飾広口壷） | 18.4 | 1/12 | | | -1.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126618.704 | 22412.066 | 46.821 |
| 428 | 6141 | 276SK | | 弥生土器 | 広口壷A | 17.6 | 2/12 | | | -6.8 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 429 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.2 | 2/12 | | | -9.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 430 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 21.2 | 4/12 | | | -9.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 431 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 24.0 | 2/12 | | | -7.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126617.626 | 22415.098 | 46.763 |
| 432 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 13.6 | 2/12 | | | -3.4 | 7.5YR5/2灰褐色 | | | | |
| 433 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 9.0 | 1/12 | -8.4 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 434 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.6 | 2/12 | -7.7 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 435 | 6141 | 221SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.8 | 6/12 | -8.2 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 436 | 6141 6241 | 221SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 8.6 | 6/12 | -2.5 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 437 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 21.0 | 5/12 | | | -20.3 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126626.692 | 22410.924 | 46.789 |
| 438 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 21.4 | 1/12 | | | -9.3 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126626.449 | 22414.118 | 46.740 |
| 439 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.8 | 1/12 | | | -11.8 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126626.959 | 22410.744 | 46.739 |
| 440 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 甕C 1（脚台b1） | 15.6 | 4/12 | 6.8 | 2/12 | 15.6 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | -126626.901 | 22411.251 | 46.663 |
| 441 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 29.0 | 2/12 | | | -4.1 | 7.5YR6/8橙色 | | -126626.356 | 22414.288 | 46.827 |
| 442 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -7.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126628.025 | 22412.709 | 46.710 |
| 443 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -9.3 | 5YR6/6橙色 | | -126627.412 | 22412.765 | 46.785 |
| 444 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -6.4 | 7.5YR7/6橙色 | 透孔６方向 | -126627.134 | 22412.675 | 46.818 |
| 445 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.0 | 12/12 | -6.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126627.520 | 22411.233 | 46.716 |
| 446 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 3.4 | 12/12 | -3.2 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126626.244 | 22411.161 | 46.703 |
| 447 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 3.0 | 12/12 | -4.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 448 | 6241 | 226SI | | 弥生土器 | 広口壷 | | | | | -25.2 | 10YR8/6黄褐色 | | -126626.695 | 22411.206 | 46.672 |
| 449 | 6241 | 281SK | | 弥生土器 | 皿（盤）状杯部高杯 | 15.6 | 4/12 | | | -5.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126620.212 | 22413.395 | 46.679 |
| 450 | 6338 | 175SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 23.0 | 2/12 | | | -12.8 | 5YR6/8橙色 | | -126637.893 | 22380.321 | 46.181 |
| 451 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.4 | 1/12 | | | -8.1 | 5YR6/6橙色 | | -126642.082 | 22381.618 | 46.059 |
| 452 | 7SW | 175SI | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | 23.4 | 1/12 | | | -1.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126637.226 | 22388.010 | 46.334 |
| 453 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | 広口壷 | | | 5.0 | 12/12 | -9.4 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126640.759 | 22381.478 | 46.063 |
| 454 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | （中型壷） | | | 4.0 | 12/12 | -9.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126641.096 | 22380.613 | 45.991 |
| 455 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.4 | 12/12 | -3.1 | 5YR6/8橙色 | | -126640.291 | 22382.227 | 46.038 |
| 456 | 6338 | 175SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.4 | 7/12 | -2.3 | 7.5YR6/8橙色 | | -126639.896 | 22380.468 | 46.073 |
| 457 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 19.8 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126641.008 | 22381.088 | 46.026 |
| 458 | 6338 | 175SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b1） | | | | | -12.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126636.308 | 22387.646 | 46.208 |
| 459 | 6438 | 175SI | | 弥生土器 | 器台A 2 | 12.6 | 8/12 | | | -10.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 透孔３段３方向 | -126640.831 | 22380.734 | 46.090 |
| 460 | 6337 | 175SI | | 弥生土器 | 器台A 2 | 15.2 | 4/12 | | | -2.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126636.747 | 22379.883 | 46.270 |
| 461 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.0 | 2/12 | | | -7.0 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 462 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 16.8 | 2/12 | | | -4.8 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 463 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 12.2 | 2/12 | | | -8.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 464 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 10.4 | 4/12 | -7.5 | 10YR7/8黄橙色 | | -126635.981 | 22393.102 | 46.512 |
| 465 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | （広口壷） | 15.6 | 2/12 | | | -2.6 | 7.5YR5/6明褐色 | 吉備系 | | | |
| 466 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | 35.0 | 2/12 | | | -2.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126637.006 | 22394.152 | 46.446 |
| 467 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.6 | 7/12 | -3.3 | 5YR6/8橙色 | | -126636.884 | 22392.476 | 46.663 |
| 468 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 7.0 | 2/12 | -2.6 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 469 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.4 | 12/12 | -4.2 | 10YR6/8明黄褐色 | | -126636.255 | 22394.014 | 46.413 |
| 470 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 皿（盤）状杯部高杯 | 20.8 | 3/12 | | | -6.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 471 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 有段高杯A | - | 1/12 | | | -3.7 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 472 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 有段高杯A | | | | | -2.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 473 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 27.8 | 2/12 | | | -3.4 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 474 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -2.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 475 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b） | | | | | -5.2 | 5YR5/8明赤褐色 | | -126637.511 | 22396.025 | 46.437 |
| 476 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 小型高杯C | | | 9.2 | 1/12 | -8.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126635.644 | 22393.041 | 46.544 |
| 477 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.1 | 5YR6/8橙色 | | -126636.189 | 22390.670 | 46.396 |
| 478 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 11.0 | 2/12 | -4.5 | 7.5YR8/6浅黄橙色 | | | | |
| 479 | 6339 | 228SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | 9.0 | 4/12 | | | -2.3 | 10YR8/4浅黄橙色 | | | | |
| 480 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 20.8 | 1/12 | | | -3.2 | 7.5YR5/8明褐色 | | | | |
| 481 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.4 | 5/12 | 9.4 | 8/12 | 22.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126637.422 | 22393.009 | 46.298 |
| 482 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 13.0 | 1/12 | | | -6.0 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 483 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 23.4 | 2/12 | | | -15.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126637.279 | 22391.238 | 46.258 |
| 484 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.8 | 3/12 | | | -5.5 | 7.5YR8/4浅黄橙色 | | | | |
| 485 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 20.8 | 2/12 | | | -6.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126637.198 | 22392.841 | 46.284 |
| 486 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 10.0 | 9/12 | -7.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126637.678 | 22393.530 | 46.317 |
| 487 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.8 | 3/12 | -6.9 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 488 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 7.4 | 8/12 | -7.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126639.502 | 22391.602 | 46.130 |
| 489 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b） | | | | | -4.5 | 5YR6/6橙色 | | -126637.397 | 22393.902 | 46.372 |
| 490 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | 18.8 | 3/12 | | | -1.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 491 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | 19.0 | 2/12 | | | -2.1 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 492 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 15.0 | 3/12 | | | -2.9 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 493 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 18.8 | 2/12 | | | -3.2 | 2.5Y5/6黄褐色 | | | | |
| 494 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | | | | | -2.7 | 2.5Y6/4にぶい黄色 | | | | |
| 495 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 21.4 | 2/12 | | | -4.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126638.392 | 22394.115 | 46.267 |
| 496 | 6439 | 250SI | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | 27.4 | 2/12 | | | -4.8 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 497 | 6339 | 250SI | | 弥生土器 | 小型高杯A | | | | | -5.9 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | | | |
| 498 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕C 1 | 19.0 | 2/12 | | | -14.9 | 7.5YR6/8橙色 | | -126590.021 | 22427.270 | 47.483 |
| 499 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕C 2 | 10.8 | 4/12 | | | -17.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126590.035 | 22426.998 | 47.537 |
| 500 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壷C 2 | 24.8 | 10/12 | | | 20.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126589.999 | 22427.086 | 47.499 |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 501 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 6.8 | 12/12 | -20.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126589.936 | 22426.918 | 47.490 |
| 502 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | 15.2 | 4/12 | 15.0 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126589.886 | 22427.323 | 47.480 |
| 503 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | 16.4 | 8/12 | -14.3 | 5YR6/6橙色 | | -126589.817 | 22427.091 | 47.486 |
| 504 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 有段高杯A４（脚部b3） | 24.4 | 2/12 | | | -1.6 | 7.5YR6/8橙色 | | -126589.681 | 22427.858 | 47.549 |
| 505 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕C２（脚台c） | 17.8 | 7/12 | 7.6 | 11/12 | 23.1 | 5YR7/6橙色 | | -126590.769 | 22431.197 | 47.434 |
| 506 | 5943 | 235SI | | 弥生土器 | 小型高杯B３ | 14.8 | 6/12 | | | -10.5 | 5YR6/6橙色 | | -126590.613 | 22430.936 | 47.406 |
| 507 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 22.4 | 2/12 | | | -3.7 | 10YR4/1褐灰色 | | | | |
| 508 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺C２ | 14.4 | 2/12 | | | -1.6 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 509 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺C２ | 18.4 | 1/12 | | | -1.2 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 510 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺C２ | 19.4 | 2/12 | | | -2.0 | 10YR3/1黒褐色 | | | | |
| 511 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺 | 12.6 | 3/12 | | | -2.0 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 512 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 広口壺 | | | 5.6 | 5/12 | -2.8 | 10YR5/1褐灰色 | | -126589.355 | 22428.676 | 47.652 |
| 513 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 7.2 | 6/12 | -2.6 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126592.290 | 22427.866 | 47.472 |
| 514 | 5843 | 238SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 18.8 | 1/12 | | | -4.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126589.273 | 22432.440 | 47.494 |
| 515 | 5943 | (238SI) | | 弥生土器 | 甕C１ | 24.4 | 2/12 | | | -9.3 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126590.737 | 22434.070 | 47.513 |
| 516 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部a） | | | | | -11.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126592.290 | 22427.866 | 47.472 |
| 517 | 5843 | 238SI | | 弥生土器 | 有段高杯A１ | 23.0 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126589.903 | 22431.948 | 47.394 |
| 518 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 有段高杯A２ | 22.0 | 1/12 | | | -2.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 519 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕B | 17.8 | 9/12 | | | -16.7 | 5YR6/6橙色 | | -126592.583 | 22428.535 | 47.405 |
| 520 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕B | 19.4 | 2/12 | | | -3.5 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126592.833 | 22427.565 | 47.623 |
| 521 | 5843 | 235SI | | 弥生土器 | 甕B | 23.2 | 2/12 | | | -5.4 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126589.387 | 22430.224 | 47.538 |
| 522 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 甕B | 16.8 | 1/12 | | | -2.0 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 523 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕B | 17.6 | 2/12 | | | -5.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126590.706 | 22427.559 | 47.544 |
| 524 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 甕A | 24.8 | 1/12 | | | -4.4 | 10YR4/1褐灰色 | | | | |
| 525 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 甕A | 27.4 | 1/12 | | | -2.2 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 526 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 甕A | 19.6 | 2/12 | | | -4.4 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 527 | 5943 | 238SI | | 弥生土器 | 甕A | 20.0 | 2/12 | | | -5.0 | 7.5YR4/4褐色 | | -126590.834 | 22431.458 | 47.408 |
| 528 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 細頸壺B | 10.2 | 1/12 | | | -4.5 | 5YR6/8橙色 | | -126589.618 | 22429.033 | 47.568 |
| 529 | 5942 | 235SI | | 弥生土器 | 細頸壺B | 10.2 | 2/12 | | | -3.3 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 530 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | （短頸壺） | | | | | -3.0 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 531 | 5843 | 235SI | | 弥生土器 | 壺 | | | 9.8 | 3/12 | -5.4 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126589.536 | 22431.603 | 47.500 |
| 532 | 5843 | 235SI | | 弥生土器 | 壺 | | | 5.0 | 12/12 | -6.7 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126589.341 | 22430.590 | 47.543 |
| 533 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 壺 | | | | | -3.5 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 534 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 21.2 | 1/12 | | | -5.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 535 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | - | 1/12 | | | -3.7 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 536 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | （脚付鉢） | | | 24.8 | 1/12 | -3.5 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 537 | 5842 | 235SI | | 弥生土器 | 鍔付鉢状杯部高杯 | | | | | -7.0 | 5YR6/8橙色 | | -126589.494 | 22428.999 | 47.602 |
| 538 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 17.4 | 3/12 | 7.6 | 12/12 | 23.6 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126586.683 | 22424.598 | 47.593 |
| 539 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 15.4 | 3/12 | | | -7.0 | 7.5YR6/8橙色 | | -126586.696 | 22428.089 | 47.689 |
| 540 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 15.6 | 3/12 | | | -5.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126585.519 | 22427.088 | 47.708 |
| 541 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺A | 16.2 | 2/12 | | | -4.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126586.159 | 22426.133 | 47.627 |
| 542 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | （広口壺C） | | | | | -20.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126586.662 | 22425.206 | 47.602 |
| 543 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺C | 20.0 | 2/12 | | | -2.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126587.276 | 22426.770 | 47.689 |
| 544 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | （広口壺C１） | 16.6 | 2/12 | | | -3.5 | 7.5YR5/3にぶい褐色 | | | | |
| 545 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | （中型壺） | 8.6 | 3/12 | | | -3.6 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126586.536 | 22426.320 | 47.593 |
| 546 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.6 | 12/12 | -3.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126585.358 | 22427.070 | 47.763 |
| 547 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 6.2 | 6/12 | -2.4 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126586.848 | 22426.431 | 47.619 |
| 548 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 3.8 | 12/12 | 5.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126585.494 | 22428.056 | 47.788 |
| 549 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.0 | 12/12 | -1.8 | 2.5YR4/4にぶい赤褐色 | | -126586.476 | 22426.627 | 47.528 |
| 550 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.8 | 4/12 | -1.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 551 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 3.2 | 12/12 | -1.8 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 552 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.0 | 6/12 | -5.8 | 5YR6/8橙色 | | -126583.703 | 22428.875 | 47.791 |
| 553 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段高杯A２ | 22.0 | 1/12 | | | -3.5 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126586.890 | 22426.359 | 47.611 |
| 554 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段高杯A３ | 25.8 | 2/12 | | | -6.0 | 5YR7/6橙色 | | -126583.968 | 22427.565 | 47.764 |
| 555 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段高杯A３ | 26.4 | 1/12 | | | -8.2 | 5YR7/8橙色 | | -126587.227 | 22426.206 | 47.583 |
| 556 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | 18.4 | 4/12 | -15.8 | 5YR7/8橙色 | | -126586.263 | 22427.649 | 47.636 |
| 557 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | | | -13.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126586.328 | 22425.384 | 47.565 |
| 558 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯C | 9.6 | 1/12 | 9.2 | 12/12 | 11.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.447 | 22424.580 | 47.596 |
| 559 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯B１ | 9.0 | 12/12 | 9.3 | 3/12 | 11.6 | 5YR6/8橙色 | | -126586.587 | 22427.733 | 47.564 |
| 560 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯B２ | | | | | -11.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126587.354 | 22425.422 | 47.462 |
| 561 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯B２ | 13.4 | 1/12 | | | -12.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126584.983 | 22426.928 | 47.673 |
| 562 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯B３ | 13.6 | 11/12 | | | -9.2 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126586.645 | 22428.109 | 47.576 |
| 563 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -6.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126587.359 | 22425.305 | 47.540 |
| 564 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 17.6 | 4/12 | | | -14.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.713 | 22426.726 | 47.599 |
| 565 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 20.4 | 2/12 | | | -11.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126586.958 | 22424.804 | 47.658 |
| 566 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 17.6 | 3/12 | | | -19.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126584.956 | 22426.763 | 47.574 |
| 567 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 18.0 | 3/12 | | | -16.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.578 | 22425.001 | 47.673 |
| 568 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 19.8 | 1/12 | | | -6.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.401 | 22427.807 | 47.660 |
| 569 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 19.0 | 2/12 | | | -9.3 | 5YR6/6橙色 | 年代測定(PLD-52481) | -126586.482 | 22426.820 | 47.659 |
| 570 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 15.6 | 6/12 | | | -10.2 | 5YR7/6橙色 | | -126586.717 | 22427.016 | 47.684 |
| 571 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 有段口縁甕A | 14.6 | 2/12 | | | -10.6 | 10YR4/1褐灰色 | | -126585.622 | 22426.572 | 47.625 |
| 572 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 11.4 | 5/12 | -8.8 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126587.313 | 22426.001 | 47.612 |
| 573 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 7.8 | 1/12 | -7.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126584.390 | 22427.201 | 47.701 |
| 574 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.4 | 8/12 | -6.5 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126586.030 | 22428.004 | 47.502 |
| 575 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b2） | | | 8.4 | 2/12 | -5.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126587.143 | 22425.587 | 47.624 |
| 576 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.2 | 12/12 | -9.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126585.127 | 22426.025 | 47.636 |
| 577 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台c） | | | 10.0 | 5/12 | -7.6 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126586.927 | 22426.934 | 47.655 |
| 578 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台d） | | | 7.8 | 4/12 | -5.6 | 7.5YR6/3にぶい橙色 | | -126586.688 | 22426.782 | 47.596 |
| 579 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 中型鉢A | 14.7 | 11/12 | 4.4 | 12/12 | 10.4 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126586.194 | 22428.163 | 47.509 |
| 580 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 中型鉢A | 14.8 | 6/12 | | | -8.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.380 | 22427.920 | 47.558 |
| 581 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 小型鉢A | 8.8 | 5/12 | 3.5 | 12/12 | 6.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126586.418 | 22427.999 | 47.598 |
| 582 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕A | 22.0 | 3/12 | | | -8.7 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 583 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -8.4 | 5YR5/4にぶい赤褐色 | | -126586.631 | 22427.588 | 47.666 |
| 584 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺B | 29.8 | 2/12 | | | -8.3 | 10YR8/6黄褐色 | | -126586.879 | 22426.519 | 47.640 |
| 585 | 5842 | 236SI | | 弥生土器 | 広口壺B | | | 9.0 | 3/12 | -4.9 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126586.908 | 22426.443 | 47.636 |
| 586 | 5843 | 237SI | | 弥生土器 | 甕C２（脚台b2） | 17.4 | 2/12 | 8.0 | 12/12 | 20.0 | 7.5YR8/4浅黄橙色 | | -126586.281 | 22430.860 | 47.370 |
| 587 | 5843 | 237SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 22.4 | 2/12 | | | -16.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 図上復元 | -126582.197 | 22431.645 | 47.478 |
| 588 | 5843 | 237SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 17.4 | 1/12 | | | -8.0 | 7.5YR7/6橙色 | | -126586.537 | 22430.780 | 47.488 |
| 589 | 5943 | 289SI | | 弥生土器 | 甕C２ | 17.0 | 3/12 | | | -11.4 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 590 | 5943 | 289SI | | 弥生土器 | 甕C１ | 11.8 | 2/12 | | | -5.4 | 7.5YR5/6明褐色 | | | | |
| 591 | 5943 | 289SI | | 弥生土器 | 小型鉢A | 8.0 | 2/12 | | | -7.9 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 592 | 5843 | 289SI | | 弥生土器 | 細頸壺A | 4.6 | 3/12 | | | -3.0 | 10YR5/6黄橙色 | | | | |
| 593 | 5843 | 289SI | | 弥生土器 | 長頸壺 | 9.0 | 1/12 | | | -15.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126586.842 | 22433.896 | 47.376 |
| 594 | 5943 | 289SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 3.6 | 7/12 | -2.4 | 7.5YR5/8明褐色 | | | | |
| 595 | 5943 | 289SI | | 弥生土器 | 壺（鉢） | | | 4.6 | 4/12 | -1.5 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 596 | 5843 | 289SI | | 弥生土器 | 有段高杯A２ | 19.2 | 1/12 | | | -3.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 597 | 5843 | 289SI | | 弥生土器 | 有段高杯A２ | - | 1/12 | | | -4.5 | 10YR8/4浅黄橙色 | | | | |
| 598 | 5843 | 289SI | | 弥生土器 | 有段高杯A（脚部b3） | | | | | -9.9 | 2.5Y6/4にぶい黄色 | | | | |
| 599 | 5943 | 285SI | | 弥生土器 | （鉢） | 10.4 | 1/12 | | | -2.9 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 600 | 5943 | 285SI | | 弥生土器 | （高杯） | | | | | -4.8 | 5YR6/8橙色 | | | | |

花の木遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 601 | 6337 | 124SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 22.2 | 2/12 | | | -5.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126635.11 | 22378.58 | 46.033 |
| 602 | 6337 | 124SK | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 5.2 | 12/12 | -2.7 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | -126634.766 | 22378.792 | 46.256 |
| 603 | 6337 | 133SK | | 弥生土器 | 甕A | | | 8.8 | 2/12 | -7.5 | 5YR5/8明赤褐色 | | | | |
| 604 | 5840 | 158SK | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -6.5 | 5YR6/8橙色 | | -126585.313 | 22407.952 | 46.910 |
| 605 | 5840 | 158SK | | 弥生土器 | 脚付鉢 | | | 13.0 | 2/12 | -5.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 606 | 5840 | 158SK | | 弥生土器 | 鉢（伏杯部高杯） | 31.6 | 2/12 | | | -3.2 | 10YR8/6黄褐色 | | | | |
| 607 | 6040 | 164SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 18.6 | 3/12 | | | -9.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.507 | 22400.257 | 46.822 |
| 608 | 6040 | 164SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 27.0 | 2/12 | | | -16.2 | 7.5YR6/8橙色 | | -126603.437 | 22396.418 | 46.779 |
| 609 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 4.2 | 12/12 | -3.1 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126603.584 | 22399.429 | 46.776 |
| 610 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | | | | | -5.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126602.385 | 22398.060 | 46.274 |
| 611 | 6040 | 164SK | | 弥生土器 | 広口壷C 1 | 27.6 | 2/12 | | | -2.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126604.074 | 22399.646 | 46.728 |
| 612 | 6040 | 164SK | | 弥生土器 | 広口壷D | 21.2 | 1/12 | | | -3.2 | 10YR5/6黄橙色 | | | | |
| 613 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 12.4 | 3/12 | | | -4.4 | 7.5YR7/6橙色 | | -126603.707 | 22397.357 | 46.713 |
| 614 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 25.6 | 1/12 | | | -5.0 | 2.5Y7/4浅黄色 | | -126604.178 | 22395.570 | 46.796 |
| 615 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | | | | | -6.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126603.809 | 22399.276 | 46.737 |
| 616 | 5NW | 164SK | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -9.3 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126604.767 | 22397.993 | 46.735 |
| 617 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -5.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126603.411 | 22396.840 | 46.716 |
| 618 | 6039 | 164SK | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 7.0 | 7/12 | -4.0 | 7.5YR6/6橙色 | | -126602.645 | 22395.762 | 46.670 |
| 619 | 6239 | 197SK | | 弥生土器 | 広口壷A | 12.8 | 2/12 | | | -3.2 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 620 | 6139 | 210SK | | 弥生土器 | 甕C（脚台a2） | | | 10.8 | 1/12 | -7.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126612.363 | 22394.261 | 46.794 |
| 621 | 6139 | 210SK | | 弥生土器 | （緑帯口縁甕） | 16.6 | 2/12 | | | -2.5 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 622 | 6NE | 298SU | | 弥生土器 | 広口壷A | 20.4 | 2/12 | | | -6.0 | 5YR6/8橙色 | | -126624.934 | 22402.161 | 46.790 |
| 623 | 6240 | 298SU | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.6 | 12/12 | -3.2 | 7.5YR6/8橙色 | | -126624.508 | 22402.971 | 46.843 |
| 624 | 3WS | 298SU | | 弥生土器 | 有段高杯A 3 | | | 16.6 | 3/12 | -4.2 | 5YR7/6橙色 | | -126624.147 | 22402.844 | 46.850 |
| 625 | 3WS | 298SU | | 弥生土器 | 広口壷D | 31.2 | 6/12 | | | -10.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126622.769 | 22404.402 | 46.857 |
| 626 | 7SW | 014SK | | 弥生土器 | 大型鉢 | 29.6 | 4/12 | | | -5.6 | 5YR5/8明赤褐色 | 伊勢（南勢）系 | -126640.089 | 22389.612 | 46.543 |
| 627 | 6138 | 検出 | | 弥生土器 | 細頸壷B | | | 10.6 | 3/12 | -4.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 628 | 6138 | 検出 | | 弥生土器 | 細頸壷A | 7.8 | 7/12 | | | -5.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 629 | 5941 | 検出 | | 弥生土器 | 壷 | | | | | -6.3 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126594.428 | 22410.261 | 47.271 |
| 630 | 6139 | 204SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 22.8 | 2/12 | | | -5.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 631 | 6038 | 検出 | | 弥生土器 | 甕C 1 | 23.0 | 2/12 | | | -8.5 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | | -126609.729 | 22383.677 | 46.42 |
| 632 | 6139 | 204SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 14.8 | 1/12 | | | -6.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 633 | 6139 | 204SK | | 弥生土器 | 甕C 1 | 17.4 | 2/12 | | | -2.9 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 634 | 6237 | 検出 | | 弥生土器 | 有段口縁甕A | 14.2 | 2/12 | | | -2.8 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | -126624.751 | 22375.729 | 46.23 |
| 635 | 6141 | 233SI | | 弥生土器 | 甕C（脚台b1） | | | 8.0 | 2/12 | -7.5 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 636 | 5941 | 検出 | | 弥生土器 | 手焙形土器 | | | | | -5.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 637 | - | 表採 | | 弥生土器 | （脚付壷・鉢） | | | 7.8 | 10/12 | -3.6 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 638 | 6138 | 検出 | | 弥生土器 | 広口壷D | 25.6 | 2/12 | | | -4.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126614.326 | 22387.953 | 46.734 |
| 639 | 6140 | 検出 | | 弥生土器 | 広口壷D | 26.6 | 1/12 | | | -4.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 640 | 6138 | 検出 | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 6.2 | 10/12 | -2.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126615.617 | 22389.428 | 46.704 |
| 641 | 6041 | 検出 | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 7.0 | 10/12 | -2.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126605.495 | 22412.826 | 47.106 |
| 642 | 3WS | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 28.4 | 2/12 | | | -7.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126624.031 | 22403.435 | 46.832 |
| 643 | 6139 | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 23.8 | 2/12 | | | -4.8 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126615.519 | 22390.347 | 46.681 |
| 644 | 2WS | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | 24.4 | 1/12 | | | -3.6 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 645 | 3WS | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 1 | | | | | -9.1 | 5YR6/6橙色 | | -126632.394 | 22406.294 | 46.566 |
| 646 | 5843 | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -8.9 | 7.5YR8/6浅黄橙色 | | -126588.602 | 22430.072 | 47.769 |
| 647 | 2EN | 検出 | | 弥生土器 | 有段高杯A 2 | | | | | -7.1 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 648 | 6138 | 検出 | | 弥生土器 | 小型高杯B 1 | 11.2 | 2/12 | | | -4.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126610.142 | 22386.417 | 46.645 |
| 649 | 6139 | 204SK | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -4.5 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 650 | 6039 | 検出 | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | | | -7.2 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 651 | 5NW | 164SK | | 弥生土器 | 小型高杯B | | | 9.2 | 4/12 | -4.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126603.988 | 22397.115 | 46.835 |
| 652 | 5NE | 検出 | | 弥生土器 | 脚付鉢 | | | | | -2.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 653 | 6238 | 検出 | | 弥生土器 | 脚付鉢 | | | 3.0 | 1/12 | -2.1 | 2.5Y7/4浅黄色 | | -126626.399 | 22381.025 | 46.57 |
| 654 | 6339 | 検出 | | 土製品 | 盤状土製品 | 長-11.8 | | 幅-8.8 | | 厚-2.9 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126639.456 | 22392.338 | 46.159 |
| 655 | 6042 | 検出 | | 土製品 | 盤状土製品 | 長-10.5 | | 幅-7.0 | | 厚-3.0 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126604.655 | 22429.553 | 47.530 |
| 656 | 5940 | 190SI | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -7.7 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | 橋状把手 | -126598.015 | 22405.842 | 46.998 |
| 657 | 6238 | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | | 10YR6/8明黄褐色 | 小突起 | | | |
| 658 | 7SW | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -4.8 | 7.5YR4/3褐色 | | | | |
| 659 | 6339 | 019SK | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -3.4 | 10YR8/6黄褐色 | 小突起 | | | |
| 660 | 6338 | ７号墳 | 周溝 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -4.2 | 5YR5/6明赤褐色 | 小突起 | | | |
| 661 | 6241 | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | 7.0 | 3/12 | -3.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 662 | 6439 | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | 5.6 | 2/12 | -1.6 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 663 | 6339 | 検出 | | 縄文土器 | 浅鉢 | 21.4 | | | 1/12 | -4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126637.922 | 22397.291 | 46.719 |
| 664 | 6139 | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -2.9 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 665 | 6338 | 検出 | | 縄文土器 | 深鉢 | | | | | -3.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126636.339 | 22388.818 | 46.609 |
| 666 | 6339 | 検出 | | 縄文土器 | 台付深鉢 | | | | | -3.5 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |

花の木遺跡（古墳群）出土石器・石製品一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構・層位等 | 器種 | 分類1 | 分類2 | 石材 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6436 | 126SI | 石鏃 | 平基 | | 黒曜石 | 1.6 | 1.0 | 0.5 | 0.7 | -126643.799 | 22368.88 | 45.834 |
| 2 | 6141 | 221SI | 石鏃 | 凹基無茎 | | 黒曜石 | 1.6 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | -126616.033 | 22414.518 | 46.892 |
| 3 | 5843 | 289SI | 石鏃 | 凹基無茎 | 先端折損 | 黒曜石 | 1.3 | 1.2 | 0.3 | 0.5 | | | |
| 4 | 6437 | 検出 | 石鏃 | | | 泥質凝灰岩 | 1.8 | 1.1 | 0.4 | 0.8 | -126643.338 | 22376.206 | 46.13 |
| 5 | 6039 | 検出 | 石鏃 | 凹基無茎 | 先端折損 | サヌカイト？ | 1.7 | 1.9 | 0.3 | 0.8 | -126609.588 | 22393.520 | 46.926 |
| 6 | 5642 | 検出 | 石鏃 | 凹基無茎 | 左脚部先端折損 | サヌカイト？ | 1.0 | 0.5 | 0.2 | 0.1 | -126560.020 | 22428.512 | 48.423 |
| 7 | 5842 | 241SI | 石鏃 | 有茎 | 長身鏃 | 安山岩 | 4.8 | 1.4 | 0.4 | 2.4 | -126585.717 | 22429.346 | 47.642 |
| 8 | 6141 | 221SI | 磨製石鏃 | | | 塩基性凝灰岩 | 3.8 | 2.4 | 0.5 | 6.6 | | | |
| 9 | 6241 | 226SI | 磨製石鏃 | | | 塩基性凝灰岩 | 3.5 | 2.3 | 0.3 | 3.8 | | | |
| 10 | 5744 | 検出 | 磨製石鏃 | | 穿孔 | 結晶片岩 | 3.6 | 1.9 | 0.3 | 3.1 | -126570.530 | 22445.788 | 47.424 |
| 11 | 5742 | 検出 | 磨製石鏃 | | 穿孔 | 結晶片岩 | 2.5 | 1.4 | 0.2 | 0.7 | -126570.850 | 22425.670 | 48.022 |
| 12 | 5643 | 検出 | 石匙 | 横型 | | 溶結凝灰岩 | 3.5 | 7.4 | 0.9 | 20.0 | -126560.231 | 22434.316 | 48.395 |
| 13 | 5940 | 190SI | 加工痕ある剥片 | 石錐？ | | 溶結凝灰岩 | 4.6 | 3.3 | 0.8 | 8.0 | -126597.434 | 22405.676 | 47.025 |
| 14 | 6337 | 116SI | 楔形石器 | | | チャート | 2.9 | 2.4 | 1.7 | 13.2 | -126637.963 | 22377.616 | 46.089 |
| 15 | 6139 | 検出 | 楔形石器 | | | 凝灰岩 | 2.9 | 2.7 | 1.1 | 8.2 | | | |
| 16 | 6240 | 298SU | 楔形石器 | | | 溶結凝灰岩 | 3.1 | 2.6 | 1.2 | 7.4 | | | |
| 17 | 6338 | 110SI | 剥片 | | | 黒曜石 | 2.8 | 1.8 | 0.9 | 3.1 | -126634.298 | 22368.639 | 45.982 |
| 18 | 5940 | 190SI | 加工痕ある剥片 | 上面に加工 | | 黒曜石 | 4.2 | 2.1 | 0.7 | 4.4 | -126597.499 | 22406.258 | 47.023 |
| 19 | 6139 | 検出 | 加工痕ある剥片 | 下端部に加工 | | 凝灰岩 | 2.7 | 2.4 | 0.8 | 3.5 | | | |
| 20 | 6141 | 220SI | 加工痕ある剥片 | 両側縁に抉り | | 安山岩（下呂石）？ | 5.1 | 2.8 | 0.8 | 15.7 | | | |
| 21 | 6041 | 検出 | 加工痕ある剥片？ | 左側縁加工 | | 泥質凝灰岩 | 6.2 | 2.7 | 0.7 | 8.2 | -126605.473 | 22412.837 | 47.107 |
| 22 | 6041 | 検出 | 加工痕ある剥片 | 下端部に微細剥離 | | 黒曜石 | 4.0 | 2.2 | 0.6 | 5.5 | -126604.276 | 22412.240 | 47.219 |
| 23 | 6337 | 110SI | 剥片 | 両極 | | 黒曜石 | 1.6 | 1.0 | 0.5 | 0.5 | | | |
| 24 | 5642 | 154SI | 剥片 | | | 溶結凝灰岩 | 2.7 | 2.0 | 0.9 | 3.3 | -126565.783 | 22423.776 | 48.244 |
| 25 | 5943 | 154SI | 剥片 | 両極 | | 溶結凝灰岩 | 3.6 | 2.4 | 1.0 | 4.9 | -126597.838 | 22437.774 | 48.158 |
| 26 | 6438 | 175SI | 剥片 | 両極 | | 黒曜石 | 2.1 | 0.8 | 0.2 | 0.3 | | | |
| 27 | 5940 | 190SI | 剥片 | 両極 | | 凝灰岩 | 3.5 | 3.2 | 0.8 | 7.5 | | | |
| 28 | 6339 | 228SI | 剥片 | 両極 | | 凝灰岩 | 5.3 | 3.6 | 1.5 | 14.1 | -126638.623 | 22391.295 | 46.511 |
| 29 | 5942 | 279SK | 剥片 | | | 溶結凝灰岩 | 6.5 | 4.2 | 1.4 | 19.5 | -126594.998 | 22428.512 | 47.659 |
| 30 | 6436 | 検出 | 剥片 | | | 安山岩（サヌカイト）？ | 1.8 | 1.0 | 0.3 | 0.5 | | | |
| 31 | 5544 | 検出 | 剥片 | | | 安山岩（下呂石） | 3.1 | 2.0 | 0.7 | 4.0 | -126552.883 | 22442.271 | 48.435 |
| 32 | 6141 | 検出 | 剥片 | | | 黒曜石 | 2.9 | 2.5 | 0.5 | 3.0 | -126612.713 | 22414.369 | 46.880 |
| 33 | 6338 | 175SI | 石核 | 両極 | | 黒曜石 | 3.5 | 2.3 | 1.3 | 9.9 | | | |
| 34 | 6238 | 176SI | 石核 | 剥片素材 | | 黒曜石 | 2.1 | 1.6 | 1.0 | 1.9 | -126623.349 | 22386.546 | 46.739 |
| 35 | 6339 | 228SI | 石核 | 剥片素材 | | 安山岩（下呂石） | 3.2 | 2.4 | 1.1 | 6.7 | | | |
| 36 | 6037 | 検出 | 石核 | 残核 | | 黒曜石 | 1.6 | 1.0 | 0.9 | 1.8 | -126608.987 | 22376.12 | 45.548 |
| 37 | 6141 | 221SI | 石核 | 剥片素材？ | | 溶結凝灰岩 | 4.7 | 3.5 | 2.5 | 33.9 | | | |
| 38 | 6138 | 検出 | 石核 | 剥片素材 | | 黒曜石 | 2.9 | 2.4 | 1.3 | 8.2 | -126617.953 | 22386.068 | 46.871 |
| 39 | 6139 | 195SI | 石核？ | | 亜角礫 | 凝灰質泥岩 | 11.4 | 5.8 | 3.8 | 381.9 | -126618.826 | 22394.653 | 46.512 |
| 40 | 6040 | 198SI | 石核 | | 亜円礫 | 凝灰質泥岩 | 8.2 | 6.1 | 4.1 | 242.3 | -126603.906 | 22404.470 | 47.069 |
| 41 | 6337 | 110SI | 打製石斧 | 短冊形 | | 泥質凝灰岩 | 8.5 | 3.5 | 1.3 | 46.4 | -126632.483 | 22372.736 | 46.07 |
| 42 | 6137 | 113SI | 打製石斧？ | | | 安山岩 | 5.2 | 4.2 | 0.9 | 25.7 | | | |
| 43 | 6436 | 126SI | 打製石斧 | 短冊形 | | 緑色片麻岩 | 9.5 | 3.9 | 0.7 | 37.2 | -126642.884 | 22365.621 | 45.613 |
| 44 | 5742 | 160SI | 打製石斧 | 刃部摩耗 | 短冊形 | 結晶片岩 | 9.8 | 3.5 | 1.4 | 63.7 | -126572.356 | 22424.730 | 48.018 |
| 45 | 5840 | 155SI | 打製石斧？ | 側縁摩耗 | 短冊形 | 緑色片岩 | 10.1 | 3.9 | 0.9 | 46.0 | -126582.038 | 22409.411 | 47.177 |
| 46 | 6040 | 203SI | 打製石斧？ | 刃部のみ？ | | 塩基性凝灰岩 | 4.0 | 3.5 | 0.9 | 14.5 | -126609.309 | 22400.220 | 47.027 |
| 47 | 6041 | 223SI | 打製石斧 | 刃部摩耗 | | 塩基性凝灰岩 | 8.9 | 4.6 | 0.8 | 50.2 | -126600.943 | 22413.452 | 47.068 |
| 48 | 6241 | 220SI | 打製石斧？ | 刃部折損 | 円礫 | 安山岩B | 8.3 | 3.9 | 1.5 | 45.4 | -126621.772 | 22414.276 | 46.901 |
| 49 | 6241 | 220SI | 打製石斧 | 側面摩耗 | | 安山岩E | 9.3 | 4.0 | 1.0 | 41.4 | | | |
| 50 | 6141 | 221SI | 打製石斧 | 撥形？ | 両側縁摩耗 | 泥質凝灰岩？ | 8.9 | 4.1 | 0.8 | 34.8 | | | |
| 51 | 6339 | 228SI | 打製石斧 | 短冊形 | | 安山岩F | 8.7 | 3.1 | 1.6 | 53.8 | -126638.183 | 22395.048 | 46.455 |
| 52 | 6338 | 検出 | 打製石斧 | 基部のみ | | 塩基性凝灰岩 | 8.6 | 4.0 | 2.6 | 115.4 | -126634.613 | 22384.259 | 46.395 |
| 53 | 6437 | 表採 | 打製石斧 | | | 塩基性岩 | 8.3 | 4.1 | 1.0 | 48.2 | | | |
| 54 | 6040 | 198SI | 磨製石斧 | 中央に凹み | | 塩基性岩 | 12.7 | 8.4 | 4.5 | 971.8 | -126604.861 | 22402.882 | 46.993 |
| 55 | 5940 | 214SI | 磨製石斧？ | 端部に敲打痕 | 破片 | 塩基性岩 | 8.9 | 8.3 | 2.9 | 315.9 | -126593.532 | 22408.069 | 47.032 |
| 56 | 6041 | 223SI | 磨製石斧 | 小型 | | 塩基性凝灰岩 | 5.5 | 3.6 | 0.9 | 28.4 | -126600.564 | 22412.864 | 47.213 |
| 57 | 5941 | 223SI | 磨製石斧 | 乳棒状 | | 塩基性凝灰岩 | 10.8 | 3.8 | 3.1 | 222.7 | -126598.025 | 22412.188 | 47.120 |
| 58 | 6438 | 175SI | 磨製石斧？ | 刃部折損 | | 塩基性岩 | 19.5 | 5.2 | 2.8 | 427.9 | -126640.831 | 22380.734 | 46.090 |
| 59 | 6439 | 228SI | 磨製石斧 | 短冊形 | 刃部摩耗 | 塩基性凝灰岩 | 7.5 | 4.0 | 0.9 | 39.4 | -126640.212 | 22392.524 | 46.490 |
| 60 | 5842 | 236SI | 磨製石斧 | 蛤刃？ | 礫片 | 塩基性岩 | 15.0 | 7.2 | 5.1 | 912.0 | -126585.239 | 22425.977 | 47.642 |
| 61 | 5843 | 289SI | 磨製石斧 | 小型 | | 塩基性凝灰岩 | 9.2 | 5.2 | 2.0 | 109.4 | -126583.429 | 22436.142 | 47.626 |
| 62 | 6042 | 検出 | 磨製石斧 | 未成品 | | 塩基性岩 | 18.6 | 8.9 | 5.2 | 1112.8 | -126604.003 | 22427.075 | 47.343 |
| 63 | 6338 | 検出 | 磨製石斧 | 小型 | | 蛇紋岩 | 6.6 | 4.2 | 1.4 | 76.7 | -126634.117 | 22384.900 | 46.513 |
| 64 | 6337 | 110SI | 磨製石剣 | 小型 | | 塩基性凝灰岩 | 6.5 | 2.9 | 0.6 | 15.3 | -126635.874 | 22370.936 | 45.729 |
| 65 | 6241 | 220SI | 加工痕ある礫 | 両側縁に加工 | 礫片 | 安山岩 | 9.6 | 5.9 | 2.0 | 95.4 | | | |
| 66 | 5642 | 154SI | 石錘 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 塩基性岩 | 4.7 | 4.2 | 1.8 | 59.6 | -126567.220 | 22426.074 | 48.135 |
| 67 | 5940 | 190SI | 石錘 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 塩基性凝灰岩 | 6.1 | 4.9 | 2.0 | 104.1 | -126598.133 | 22405.728 | 46.963 |
| 68 | 6041 | 223SI | 石錘 | 4点に敲打痕 | 円礫 | 凝灰質砂岩 | 10.2 | 6.0 | 3.0 | 208.4 | -126600.722 | 22415.253 | 47.110 |
| 69 | 6141 | 220SI | 石錘 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 塩基性凝灰岩 | 4.4 | 3.5 | 1.6 | 42.4 | -126618.344 | 22411.620 | 46.907 |
| 70 | 6241 | 226SI | 石錘 | 両端に敲打痕 | | 片麻岩 | 6.0 | 5.3 | 2.3 | 135.4 | -126625.419 | 22413.998 | 46.706 |
| 71 | 6339 | 228SI | 石錘 | 両端に敲打痕 | 円礫 | 塩基性凝灰岩 | 4.7 | 4.1 | 1.7 | 40.2 | | | |
| 72 | 6539 | 検出 | 石錘 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 結晶片岩 | 4.8 | 3.3 | 1.3 | 34.0 | | | |
| 73 | 5742 | 160SI | 石錘 | 中央に敲打痕 | 円礫 | 砂質凝灰岩 | 7.3 | 5.1 | 4.6 | 229.9 | -126570.881 | 22424.694 | 47.993 |
| 74 | 6237 | 114SI | 敲石 | 端部に敲打痕 | | 塩基性岩 | 7.5 | 6.6 | 4.2 | 273.6 | -126624.751 | 22377.145 | 46.487 |
| 75 | 6040 | 196SI | 敲石？ | 中央に凹み | | 珪質岩 | 7.1 | 3.5 | 3.0 | 106.6 | | | |
| 76 | 6241 | 220SI | 敲石？ | 側面に敲打痕 | | 斑れい岩 | 19.6 | 7.0 | 6.5 | 1248.3 | -126620.500 | 22415.487 | 46.777 |
| 77 | 6141 | 220SI | 敲石 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 砂岩 | 10.1 | 7.5 | 6.3 | 695.3 | -126618.039 | 22412.647 | 46.834 |
| 78 | 6638 | 157SI | 磨石 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 閃緑岩 | 10.1 | 7.1 | 4.8 | 665.1 | | | |
| 79 | 5940 | 214SI | 磨石？ | 摩耗顕著 | 円礫？ | 軽石 | 6.3 | 4.4 | 4.0 | 13.4 | | | |
| 80 | 6241 | 220SI | 磨石 | 端部摩耗 | 円礫 | 軽石 | 11.3 | 9.2 | 8.8 | 295.1 | | | |
| 81 | 6241 | 220SI | 磨石 | 端部摩耗 | 円礫 | 凝灰岩 | 7.7 | 5.8 | 5.8 | 227.3 | | | |
| 82 | 6141 | 221SI | 磨石 | 磨面顕著 | 円礫 | 凝灰質砂岩 | 11.7 | 10.0 | 5.2 | 783.4 | | | |
| 83 | 6339 | 228SI | 磨石 | 端部に敲打痕 | | 片麻岩 | 12.0 | 9.6 | 6.6 | 1138.7 | -126636.654 | 22393.290 | 46.443 |
| 84 | 5842 | 236SI | 磨石 | 中央に顕著な磨面 | 円礫 | アプライト | 18.0 | 12.8 | 8.3 | 2865.6 | | | |
| 85 | 5842 | 236SI | 磨石 | 円辺に顕著な磨耗 | 円礫 | 花崗岩 | 10.6 | 9.9 | 7.9 | 1199.5 | | | |
| 86 | 5843 | 236SI | 磨石 | 中央に顕著な磨面 | 円礫 | 花崗岩 | 9.5 | 7.2 | 2.6 | 244.7 | | | |
| 87 | 6137 | 113SI | 砥石 | 中央に顕著な摩耗 | | 閃緑岩 | 15.2 | 11.9 | 3.5 | 1123.2 | -126618.116 | 22373.471 | 45.566 |
| 88 | 6137 | 109SK | 砥石 | 摩耗顕著 | 円礫 | 閃緑岩 | 9.2 | 3.9 | 2.1 | 123.4 | -126618.296 | 22372.137 | 45.299 |
| 89 | 6238 | 176SI | 砥石 | 中央に砥面 | 円礫 | 花崗岩 | 21.7 | 10.2 | 5.8 | 2306.8 | -126627.444 | 22383.241 | 46.541 |
| 90 | 6139 | 203SI | 砥石 | 側面に砥面 | 円礫 | 泥質凝灰岩 | 8.0 | 3.0 | 1.3 | 37.9 | -126610.366 | 22398.700 | 47.021 |
| 91 | 6141 | 221SI | 砥石 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 安山岩 | 14.0 | 7.5 | 6.3 | 991.3 | -126618.390 | 22413.162 | 46.697 |
| 92 | 5843 | 236SI | 砥石 | 端部に顕著な磨面 | 円礫 | 塩基性岩 | 11.3 | 8.4 | 6.7 | 1040.3 | | | |
| 93 | 6438 | 175SI | 砥石 | 中央に砥面 | 円礫 | 凝灰岩 | 17.6 | 8.5 | 7.0 | 1094.3 | -126641.226 | 22381.254 | 46.032 |
| 94 | 5842 | 236SI | 砥石 | 中央に顕著な砥面 | 円礫 | 片麻岩 | 15.1 | 6.9 | 5.4 | 1019.0 | -126586.407 | 22427.244 | 47.663 |
| 95 | 6041 | 検出 | 砥石 | 棒状 | | 砂質凝灰岩 | 7.4 | 4.4 | 1.9 | 86.0 | -126605.687 | 22412.974 | 47.183 |
| 96 | 6539 | 検出 | 砥石 | 棒状 | 中央に敲打痕 | 凝灰岩 | 6.4 | 4.0 | 2.7 | 60.4 | | | |
| 97 | 6139 | 195SI | 砥石 | 側面に顕著な砥面 | | 安山岩· | 29.3 | 11.0 | 7.9 | 3095.1 | -126619.054 | 22394.818 | 46.531 |
| 98 | 6140 | 199SI | 砥石 | 側面に砥面 | 亜角礫 | 片麻岩 | 23.6 | 13.2 | 9.3 | 5100.0 | -126610.681 | 22406.177 | 46.907 |
| 99 | 6241 | 226SI | 砥石 | 中央に顕著な砥面 | | 片麻岩 | 27.0 | 8.8 | 6.9 | 3539.2 | -126624.944 | 22412.618 | 46.733 |
| 100 | 6241 | 220SI | 台石 | 中央に敲打痕 | 円礫 | 花崗岩 | 12.7 | 12.2 | 4.0 | 939.6 | -126620.841 | 22415.591 | 46.812 |

花の木遺跡（古墳群）出土石器・石製品一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構・層位等 | 器種 | 分類１ | 分類２ | 石材 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 6240 | 220SI | 台石 | 端部に敲打痕 | 亜円礫 | 安山岩E | 11.9 | 10.7 | 6.6 | 1265.2 | -126622.989 | 22409.938 | 46.796 |
| 102 | 6337 | 110SI | 台石 | 中央摩滅 | | 花崗岩 | 37.5 | 34.5 | 7.5 | 1390.0 | -126635.691 | 22375.665 | 45.86 |
| 103 | 6436 | 118SI | 台石 | 中央摩耗 | | 閃緑岩 | 27.1 | 14.5 | 7.1 | 4500.0 | -126642.609 | 22362.291 | 45.295 |
| 104 | 6238 | 176SI | 台石 | 中央に砥面 | 円礫 | 片麻岩 | 23.6 | 22.1 | 6.8 | 5700.0 | -126627.489 | 22386.228 | 46.631 |
| 105 | 6241 | 226SI | 台石？ | 中央摩耗顕著 | | 片麻岩 | 22.0 | 19.8 | 5.4 | 3754.7 | -126625.726 | 22411.659 | 46.701 |
| 106 | 6241 | 226SI | 台石？ | 中央に凹み？ | | 閃緑岩 | 21.5 | 17.5 | 11.3 | 6900.0 | -126627.158 | 22411.942 | 46.646 |
| 107 | 6241 | 226SI付近 | 台石 | 両面に磨面 | 円礫 | 片麻岩 | 19.6 | 18.6 | 3.9 | 2488.7 | -126623.857 | 22413.832 | 46.937 |
| 108 | 6338 | 175SI | 台石 | 中央に敲打痕 | 円礫 | 花崗岩 | 25.0 | 24.2 | 5.6 | 5400.0 | -126637.994 | 22384.741 | 45.955 |
| 109 | 5841 | 検出 | 台石？ | 中央摩耗 | 亜角礫 | 花崗岩 | 27.4 | 21.0 | 9.9 | 10300.0 | -126589.740 | 22415.449 | 47.380 |
| 110 | 5940 | 190SI | 石製品？ | 端部に敲打痕 | | 安山岩- | 31.8 | 9.2 | 6.4 | 1860.8 | -126597.406 | 22406.969 | 46.993 |
| 111 | 6141 | 221SI | 石製品？ | 側面に敲打痕 | 亜角礫 | 片麻岩 | 30.4 | 14.6 | 4.8 | 2700.0 | -126616.875 | 22413.943 | 46.650 |
| 112 | 6339 | 250SI | 石製品？ | 側面に加工 | | 花崗岩 | 32.5 | 9.5 | 5.6 | 2650.5 | -126637.248 | 22394.671 | 46.231 |
| 113 | 6339 | 250SI | 石製品？ | 側面に加工 | | 花崗岩 | 39.5 | 12.0 | 5.7 | 4200.0 | -126637.064 | 22391.806 | 46.208 |
| 114 | 5941 | ２号墳　周溝 | 石鏃 | 凹基無茎 | 端部、右脚部折損 | チャート | 2.0 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | -126597.225 | 22416.455 | 47.158 |
| 115 | 5842 | ２号墳　排土 | 長身鏃 | 有茎 | | 黒曜石 | 2.2 | 0.9 | 0.3 | 0.6 | -126588.399 | 22426.336 | 48.666 |
| 116 | 6241 | ３号墳　墳丘 | 石核 | 残核 | | 凝灰岩 | 4.4 | 3.9 | 2.9 | 38.4 | -126623.452 | 22411.497 | 47.534 |
| 117 | 3N | ３号墳　墳丘 | 加工痕ある剥片 | 側縁に加工 | | 塩基性凝灰岩 | 4.4 | 2.0 | 0.4 | 4.9 | | | |
| 118 | 6139 | ５号墳　周溝 | 石鏃 | 凹基無茎 | 左脚部先端折損 | 溶結凝灰岩 | 1.4 | 1.0 | 0.4 | 0.4 | -126612.225 | 22394.015 | 46.817 |
| 119 | 6139 | ５号墳　墳丘 | 石鏃 | 円基 | 未成品？ | チャート | 3.4 | 2.6 | 1.2 | 9.1 | -126614.158 | 22395.141 | 47.052 |
| 120 | 6339 | ６号墳　周溝 | 石鏃 | 有茎 | | 黒曜石 | 2.1 | 1.4 | 0.4 | 0.9 | -126620.028 | 22395.588 | 46.667 |
| 121 | 6339 | ６号墳　周溝 | 石鏃？ | 基部折損 | | チャート | 1.7 | 1.0 | 0.3 | 0.6 | -126630.708 | 22391.835 | 46.796 |
| 122 | 6239 | ６号墳　周溝 | 石核 | 残核 | | 黒曜石 | 1.8 | 1.3 | 0.7 | 2.1 | -126622.705 | 22399.428 | 46.693 |
| 123 | 6239 | ６号墳　表土 | 石鏃 | 平基 | | チャート | 2.1 | 1.9 | 0.7 | 2.6 | -126625.990 | 22397.970 | 47.172 |
| 124 | 6N | ６号墳　墳丘 | 剥片 | | 円礫 | 安山岩（下呂石） | 3.3 | 2.1 | 1.3 | 6.4 | | | |
| 125 | 6438 | ７号墳　古　周溝 | 石核 | | 亜角礫 | 凝灰岩 | 3.7 | 2.8 | 1.8 | 7.8 | -126641.322 | 22388.026 | 46.180 |
| 126 | 6340 | ７号墳　新　周溝 | 石匙 | 横型 | | チャート？ | 3.5 | 2.7 | 0.8 | 6.2 | -126637.693 | 22404.462 | 45.852 |
| 127 | 6240 | ７号墳　墳丘 | 石鏃 | 凹基無茎 | 右端部先端折損 | 黒曜石 | 2.0 | 1.7 | 0.3 | 1.0 | -126628.410 | 22408.843 | 46.855 |
| 128 | 6339 | ７号墳　墳丘 | 石錐 | | | 黒曜石 | 2.4 | 1.0 | 0.7 | 1.3 | -126635.142 | 22390.332 | 46.783 |
| 129 | 6237 | （石敷）土坑墓２ | 剥片 | 両極 | | 松脂岩（黒曜石）？ | 1.7 | 1.2 | 0.5 | 0.9 | | | |
| 130 | 5642 | 土坑墓７ | 加工痕ある剥片 | 両側縁に加工 | | 凝灰岩 | 3.9 | 3.6 | 1.1 | 13.6 | -126567.123 | 22429.984 | 47.993 |
| 131 | 6339 | 土器棺墓５ | 加工痕ある剥片 | 端部に加工 | | 溶結凝灰岩 | 4.3 | 3.1 | 0.8 | 6.4 | -126631.799 | 22399.108 | 46.633 |
| 132 | 2W | ２号墳　周溝 | 打製石斧？ | 側縁に加工 | | 安山岩E | 7.2 | 6.4 | 1.6 | 113.0 | | | |
| 133 | 5844 | ２号墳　周溝 | 磨製石斧 | 扁平片刃 | 刃部のみ | 塩基性岩 | 11.0 | 7.4 | 4.4 | 553.1 | -126584.997 | 22443.380 | 46.698 |
| 134 | 5941 | ２号墳　周溝 | 打製石斧 | 刃部摩耗 | 短冊形 | 緑色片岩 | 9.4 | 4.2 | 1.2 | 71.4 | -126598.435 | 22415.980 | 47.170 |
| 135 | 2W | ２号墳　墳丘 | 打製石斧 | 短冊形 | | 塩基性岩 | 8.2 | 3.7 | 1.2 | 51.1 | | | |
| 136 | 2NE | ２号墳　墳丘 | 打製石斧 | 短冊形 | | 塩基性岩 | 8.1 | 3.5 | 0.9 | 36.0 | | | |
| 137 | 5943 | ２号墳　墳丘 | 磨製石斧 | 乳棒状 | | 塩基性岩 | 9.3 | 3.6 | 2.5 | 142.0 | -126591.286 | 22434.548 | 47.450 |
| 138 | 6240 | ３号墳　周溝 | 打製石斧？ | 小型 | | 緑色片岩 | 7.9 | 4.2 | 1.1 | 63.2 | -126626.904 | 22407.750 | 46.875 |
| 139 | 6140 | ３号墳　周溝 | 磨製石斧 | 蛤刃 | 刃部のみ | 塩基性岩 | 5.7 | 6.3 | 3.7 | 198.6 | -126616.007 | 22406.306 | 46.708 |
| 140 | 6241 | ３号墳　墳丘 | 打製石斧 | 短冊形 | | 安山岩B | 8.7 | 5.3 | 1.6 | 68.0 | -126620.066 | 22412.068 | 47.456 |
| 141 | 3N2 | ３号墳　墳丘 | 打製石斧 | 刃部のみ？ | | 安山岩D | 5.9 | 3.7 | 1.2 | 26.4 | | | |
| 142 | 6141 | ３号墳　墳丘 | 打製石斧 | 左側縁摩耗 | 撥形 | 塩基性凝灰岩 | 7.9 | 3.4 | 1.1 | 34.3 | | | |
| 143 | 6140 | ５号墳　周溝 | 磨製石斧 | | | 塩基性岩 | 12.7 | 6.1 | 3.2 | 352.2 | -126619.697 | 22401.444 | 46.902 |
| 144 | 6139 | ５号墳　周溝 | 磨製石斧 | 未成品 | | 塩基性岩 | 14.1 | 8.3 | 2.2 | 339.7 | -126612.149 | 22391.755 | 46.598 |
| 145 | 6139 | ５号墳　周溝 | 打製石斧 | 短冊形 | | 安山岩E | 7.5 | 4.3 | 1.0 | 44.0 | -126611.682 | 22390.904 | 46.823 |
| 146 | 6139 | ５号墳　墳丘 | 打製石斧 | 刃部摩耗、短冊形 | | 塩基性凝灰岩 | 8.5 | 4.7 | 1.2 | 65.7 | -126610.809 | 22394.578 | 47.204 |
| 147 | 6139 | ５号墳　表土 | 打製石斧 | 左側縁摩耗 | 打製石斧破損品？ | 結晶片岩 | 8.2 | 4.8 | 1.4 | 72.7 | -126616.517 | 22398.029 | 47.199 |
| 148 | 6238 | ６号墳　周溝 | 磨製石斧 | 未成品？ | | 塩基性岩 | 18.5 | 9.4 | 4.3 | 1213.0 | -126625.385 | 22388.186 | 46.549 |
| 149 | 6439 | ７号墳　新　周溝 | 打製石斧 | 刃部摩耗 | 短冊形 | 安山岩E | 9.0 | 3.9 | 1.5 | 68.2 | -126642.296 | 22399.495 | 45.992 |
| 150 | 6439 | ７号墳　墳丘 | 打製石斧 | 刃部のみ | | 安山岩F | 7.3 | 5.5 | 2.3 | 121.7 | -126641.466 | 22393.698 | 46.595 |
| 151 | 2W | ２号墳　墳丘 | 石刀？ | | 破片 | 片麻岩 | 5.3 | 5.0 | 4.3 | 198.2 | | | |
| 152 | 5942 | ２号墳　周溝 | 石錘 | 打ち欠き | 円礫 | 塩基性凝灰岩 | 4.0 | 5.9 | 1.3 | 57.8 | -126595.630 | 22428.757 | 47.628 |
| 153 | 6139 | ５号墳　墳丘 | 石錘？ | 端部に敲打痕 | 円礫 | 砂質凝灰岩 | 5.1 | 4.9 | 1.7 | 46.1 | -126614.641 | 22395.349 | 47.051 |
| 154 | 6239 | ６号墳　墳丘 | 石錘 | 両端に敲打痕 | 円礫 | 塩基性岩 | 5.9 | 4.1 | 1.0 | 38.6 | -126625.004 | 22390.877 | 46.917 |
| 155 | 6239 | ６号墳　墳丘 | 磨製石器？ | 表面摩耗？ | 円礫 | 塩基性岩 | 5.8 | 3.6 | 1.0 | 34.8 | -126629.868 | 22393.797 | 46.968 |
| 156 | 6237 | （石敷）土坑墓２ | 台石 | 中央摩耗 | 亜円礫 | 片麻岩 | 12.1 | 9.3 | 4.0 | 826.5 | -126628.044 | 22374.301 | 45.661 |
| 157 | 6237 | （石敷）土坑墓２ | 磨石 | 多面体 | 礫片 | アプライト | 7.2 | 4.4 | 3.8 | 144.5 | -126627.964 | 22375.769 | 45.759 |
| 158 | 5643 | 土坑墓７ | 敲石 | 端部に敲打痕 | 磨製石斧転用品？ | 塩基性岩 | 4.0 | 4.6 | 3.2 | 110.6 | | | |
| 159 | 2W | ２号墳　墳丘 | 敲石？ | 端部に敲打痕？ | 礫片 | 凝灰岩 | 4.0 | 3.8 | 2.2 | 26.9 | | | |
| 160 | 3S3 | ３号墳　墳丘 | 砥石 | | | 凝灰質泥岩 | 3.6 | 1.9 | 0.7 | 5.8 | | | |
| 161 | 5943 | ２号墳　墳丘 | 砥石 | 全面摩耗顕著 | 亜円礫 | 閃緑岩 | 11.6 | 9.0 | 8.5 | 1558.9 | -126593.298 | 22431.321 | 47.474 |
| 162 | 6339 | ６号墳　周溝 | 砥石 | 端部に顕著な磨面 | 棒状 | 片麻岩 | 16.3 | 7.4 | 5.7 | 806.9 | -126631.440 | 22392.737 | 46.395 |
| 163 | 6339 | ７号墳　新　周溝 | 砥石 | 棒状 | | 安山岩 | 15.4 | 7.0 | 4.7 | 771.3 | -126633.134 | 22393.658 | 46.453 |
| 164 | 6438 | ７号墳　新　周溝 | 磨石 | 中央に凹み痕 | | 片麻岩 | 11.3 | 7.0 | 4.6 | 460.6 | -126640.315 | 22386.138 | 46.232 |
| 165 | 5844 | ２号墳　周溝 | 磨製石斧 | 未成品 | | 塩基性凝灰岩 | 39.2 | 13.3 | 12.7 | 10400.0 | -126581.121 | 22447.642 | 46.684 |
| 166 | 5843 | ２号墳　墳丘 | 台石 | 中央に凹み痕顕著 | 亜円礫 | 花崗岩 | 24.5 | 21.0 | 13.9 | 12600.0 | -126584.687 | 22433.434 | 48.176 |
| 167 | 5942 | ２号墳　墳丘 | 台石 | 中央に砥面 | | 花崗岩 | 29.9 | 14.5 | 5.7 | 4200.0 | -126598.828 | 22429.252 | 48.001 |
| 168 | 6141 | ３号墳　墳丘 | 台石？ | | 亜円礫 | 花崗岩 | 31.9 | 27.6 | 11.2 | 16300.0 | -126616.970 | 22418.408 | 47.267 |
| 169 | 6141 | ３号墳　墳丘 | 台石？ | 中央摩耗 | 亜円礫 | 花崗岩 | 25.0 | 17.6 | 6.5 | 3800.0 | -126616.981 | 22418.346 | 47.174 |

花の木北遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4652 | 049SK | | 弥生土器 | 壷 | | | 6.0 | 1/12 | -7.8 | 5YR5/4にぶい赤褐色 | | | | |
| 2 | 4653 | 049SK | | 弥生土器 | 壷 | | | 9.2 | 12/12 | -3.4 | 5YR6/8橙色 | | -126466.054 | 22527.751 | 50.412 |
| 3 | 4752 | 486SK | | 弥生土器 | 甕 | 30.5 | 5-12 | | | -15.5 | 2.5Y7/3浅黄色 | | -126474.216 | 22528.005 | 50.364 |
| 4 | 5051 | 002SX | | 弥生土器 | 太頸壷 | 27.0 | 5/12 | | | -55.3 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126501.547 | 22511.684 | 50.169 |
| 5 | 4652 | 366SK | | 弥生土器 | 細頸壷 | 8.6 | 1/12 | 5.6 | 12/12 | 22.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126464.686 | 22520.951 | 50.191 |
| 6 | 4951 | 011SI | 上層 | 弥生土器 | 甕B | 23.2 | 3/12 | | | -4.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 7 | 4855 | 011SI | | 弥生土器 | 甕B | 19.8 | 2/12 | | | -5.0 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 8 | 4951 | 011SI | 上層 | 弥生土器 | 鉢（状杯部高杯） | 20.6 | 2/12 | | | -3.2 | 7.5YR5/8明褐色 | | | | |
| 9 | 4855 | 011SI | | 弥生土器 | 壷 | | | | | -4.1 | 2.5Y4/1黄灰色 | | | | |
| 10 | 4855 | 011SI | | 弥生土器 | 壷（鉢） | | | 11.6 | | -3.8 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 11 | 4951 | 011SI | 上層 | 弥生土器 | 細頸壷 | | | 5.6 | 12/12 | -12.3 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | -126491.780 | 22511.296 | 50.252 |
| 12 | 4855 | 360SK | 011SI | 弥生土器 | 甕A | 19.8 | 7/12 | | | -9.6 | 5YR6/6橙色 | | -126488.428 | 22513.654 | 50.265 |
| 13 | 4855 | 360SK | 011SI | 弥生土器 | 細頸壷 | | | 10.4 | 12/12 | -10.5 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126488.428 | 22513.654 | 50.265 |
| 14 | 5051 | 020SI | | 弥生土器 | 壷 | | | | | -4.6 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 15 | 5050 | 021SI | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -5.1 | 2.5YR5/8明赤褐色 | | | | |
| 16 | 5050 | 021SI | | 弥生土器 | 有段口縁甕 | 23.0 | 1/12 | | | -2.5 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 17 | 5150 | 069SK | | 弥生土器 | 広口壷 | 17.0 | 2/12 | | | -1.9 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 18 | 5048 | 005SK | | 弥生土器 | 甕A | 11.8 | 2/12 | | | -2.2 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 19 | 4950 | 023SK | | 弥生土器 | 甕A | | | | | -4.1 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126496.619 | 22502.754 | 50.084 |
| 20 | 4852 | 004SI | | 弥生土器 | 台盤状土製品 | 10.0 | 3/12 | | | 4.0 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 21 | 4952 | 001SI | 下層 | 土師器 | く字甕 | 16.6 | 7/12 | | | -9.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126494.351 | 22520.228 | 49.876 |
| 22 | 4952 | 001SI | | 土師器 | く字甕 | | | | | -16.3 | 10YR7/4明黄褐色 | | -126492.450 | 22524.983 | 49.778 |
| 23 | 4952 | 001SI | 上層 | 土師器 | 甕（脚台） | | | 11.0 | 12/12 | -7.1 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126495.917 | 22524.124 | 49.890 |
| 24 | 4952 | 001SI | 上層 | 土師器 | 甕（壷） | | | 4.4 | 4/12 | -6.5 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126496.176 | 22523.765 | 49.807 |
| 25 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 6.6 | 12/12 | -3.3 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126492.028 | 22522.534 | 49.757 |
| 26 | 4952 | 001SI | 上層 | 土師器 | 高杯C 2 | 15.8 | 6/12 | | | -2.9 | 5YR6/8橙色 | | -126495.480 | 22521.476 | 49.916 |
| 27 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 高杯B | | | | | -7.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126493.003 | 22521.254 | 49.673 |
| 28 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.0 | 5YR6/8橙色 | | -126494.007 | 22524.517 | 49.945 |
| 29 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 高杯C | | | 9.6 | 1/12 | -6.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126490.507 | 22522.145 | 49.856 |
| 30 | 4952 | 001SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | 11.0 | 6/12 | -8.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126494.514 | 22520.528 | 49.839 |
| 31 | 4952 | 001SI | 下層 | 土師器 | 小型鉢 | 10.6 | 2/12 | | | -4.2 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 32 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 小型鉢 | 11.4 | 2/12 | | | -5.2 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 33 | 4952 | 001SI | 下層 | 土師器 | 小型壷B | | | | | -4.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 34 | 4952 | 001SI | 上層 | 土師器 | 小型壷B | | | 2.6 | 12/12 | -6.7 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126496.409 | 22523.997 | 49.796 |
| 35 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 小型壷C | 5.4 | 1/12 | 4.6 | 6/12 | 8.1 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 36 | 4952 | 001SI | 下層 | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 11.0 | 4/12 | | | 3.9 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | | | | |
| 37 | 4952 | 536SK | 001SI | 土師器 | く字甕 | 14.6 | 6/12 | 6.4 | 2/12 | 23.1 | 7.5YR7/6橙色 | | -126493.062 | 22524.021 | 49.267 |
| 38 | 4952 | 001SI | | 土師器 | 高杯C | | | 10.2 | 6/12 | -7.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126492.958 | 22521.206 | 49.524 |
| 39 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 13.8 | 1/12 | | | -4.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126480.736 | 22534.283 | 49.849 |
| 40 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 14.8 | 3/12 | | | -5.1 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126480.887 | 22533.204 | 49.746 |
| 41 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 16.2 | 2/12 | | | -5.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126482.456 | 22533.778 | 49.634 |
| 42 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 13.6 | 4/12 | | | -4.9 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126480.431 | 22533.704 | 49.745 |
| 43 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 10.6 | 4/12 | | | -6.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126479.969 | 22532.006 | 49.798 |
| 44 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 12.4 | 5/12 | | | -4.2 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126479.936 | 22532.108 | 49.798 |
| 45 | 4853 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | | | | | -5.8 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126480.426 | 22533.572 | 49.729 |
| 46 | 4853 | 002SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | | | -8.7 | 7.5YR6/8橙色 | | -126480.638 | 22531.512 | 49.833 |
| 47 | 4852 | 002SI | 上層 | 土師器 | 甕（壷） | | | 2.8 | 12/12 | -2.1 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 48 | 4753 | 002SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 4.0 | 10/12 | -1.7 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 49 | 4753 | 002SI | | 土師器 | 高杯E | | | | | -4.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 50 | 4753 | 002SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -2.7 | 7.5YR5/6明褐色 | | -126479.440 | 22532.044 | 49.889 |
| 51 | 4853 | 002SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.5 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126480.345 | 22533.718 | 49.865 |
| 52 | 4853 | 002SI | | 土師器 | 大型高杯 | | | | | -5.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126480.325 | 22532.261 | 49.903 |
| 53 | 4753 | 002SI | | 土師器 | 大型高杯 | | | 12.6 | 1/12 | -6.2 | 7.5YR6/8橙色 | | -126479.754 | 22531.979 | 49.849 |
| 54 | 4753 | 002SI | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 13.6 | | | | 4.4 | N6/0灰色 | | -126482.076 | 22533.540 | 49.602 |
| 55 | 4553 | 003SI | | 土師器 | く字甕 | 15.8 | 1/12 | | | -18.7 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126454.287 | 22540.278 | 50.389 |
| 56 | 4553 | 003SI | | 土師器 | く字甕 | 13.4 | 1/12 | | | -5.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126452.647 | 22540.504 | 50.348 |
| 57 | 4553 | 003SI | | 土師器 | く字甕 | 14.8 | 3/12 | | | -5.3 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 58 | 4553 | 003SI | | 土師器 | く字甕 | 11.4 | 2/12 | | | -6.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 59 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 甕（脚台） | | | | | -4.7 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126452.714 | 22538.258 | 50.465 |
| 60 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 広口壷B | 14.8 | 2/12 | | | -4.5 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 61 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 2.8 | 12/12 | -1.7 | 2.5Y6/4にぶい黄色 | | | | |
| 62 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 5.2 | 12/12 | -2.1 | 2.5Y7/3浅黄色 | | | | |
| 63 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 4.8 | 6/12 | -3.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126451.651 | 22538.990 | 50.495 |
| 64 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C 2 | 17.8 | 4/12 | | | -6.6 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126452.063 | 22540.049 | 50.486 |
| 65 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C 2 | 19.4 | 2/12 | | | -6.0 | 2.5Y6/2にぶい黄色 | | -126451.689 | 22539.907 | 50.456 |
| 66 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C 2 | 16.8 | 3/12 | | | -4.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126451.978 | 22539.227 | 50.446 |
| 67 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C 2 | 14.6 | 2/12 | | | -5.0 | 2.5Y5/2暗灰黄色 | | | | |
| 68 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -3.7 | 5YR5/8明赤褐色 | | | | |
| 69 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -3.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126452.349 | 22537.543 | 50.399 |
| 70 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -2.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126452.056 | 22537.777 | 50.439 |
| 71 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯B | | | | | -6.1 | 5YR6/6橙色 | | -126451.783 | 22537.343 | 50.444 |
| 72 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -8.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126453.164 | 22539.628 | 50.318 |
| 73 | 4553 | 003SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -4.7 | 5YR7/6橙色 | | -126454.289 | 22537.714 | 50.361 |
| 74 | 4554 | 552SK | | 土師器 | く字甕 | 14.2 | 1/12 | | | -5.4 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | | | |
| 75 | 4554 | 570SK | | 土師器 | く字甕 | 12.2 | 2/12 | | | -2.7 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | -126452.735 | 22540.585 | 50.259 |
| 76 | 4754 | 570SK | | 土師器 | 高杯B | | | 12.8 | 3/12 | -6.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126452.434 | 22540.112 | 50.168 |
| 77 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 広口壷B | | | | | -6.2 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 78 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 2.6 | 12/12 | -1.8 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | -126479.656 | 22525.686 | 50.179 |
| 79 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 6.8 | 12/12 | -2.8 | 5YR6/6橙色 | | -126481.440 | 22524.603 | 50.130 |
| 80 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 甕（壷） | | | 4.0 | 12/12 | -2.8 | 7.5YR6/6橙色 | | -126480.737 | 22523.882 | 50.137 |
| 81 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 小型鉢A | | | | | -8.5 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126480.246 | 22525.697 | 50.216 |
| 82 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -5.0 | 5YR6/4にぶい橙色 | | -126479.697 | 22524.822 | 50.240 |
| 83 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -3.6 | 5YR6/6橙色 | | -126481.226 | 22522.006 | 50.166 |
| 84 | 4852 | 004SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -8.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126481.831 | 22522.594 | 50.173 |
| 85 | 4852 | 004SI | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 15.2 | 4/12 | | | -2.3 | 5Y7/2灰白色 | | -126480.401 | 22523.610 | 50.075 |
| 86 | 4852 | 004SI | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 13.6 | 2/12 | | | -3.3 | 5Y8/1灰白色 | | -126480.177 | 22523.745 | 50.172 |
| 87 | 4852 | 004SI | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | | | | | -2.3 | 5Y6/1灰色 | | -126479.697 | 22524.822 | 50.240 |
| 88 | 4752 | 004SI | 上層 | 須恵器 | 蓋杯 杯 | | | | | -2.8 | 5Y6/1灰色 | | -126479.868 | 22524.750 | 50.183 |
| 89 | 4752 | 548SK | | 土師器 | く字甕 | 13.0 | 2/12 | | | -8.6 | 7.5YR7/6橙色 | | -126479.082 | 22525.469 | 49.964 |
| 90 | 4752 | 548SK | | 土師器 | 甕（壷） | | | 3.8 | 12/12 | -1.3 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 91 | 4752 | 548SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -5.8 | 5YR6/6橙色 | | -126479.032 | 22525.564 | 49.766 |
| 92 | 4752 | 548SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -7.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126479.038 | 22525.287 | 49.977 |
| 93 | 4752 | 549SL | | 土師器 | 高杯A | | | 8.6 | 3/12 | -2.1 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 94 | 4652 | 005SI | | 土師器 | く字甕 | 15.6 | 2/12 | | | -5.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 95 | 4752 | 005SI | | 土師器 | く字甕 | | | 14.2 | 4/12 | -3.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 96 | 4652 | 005SI | | 土師器 | く字甕 | 17.0 | 3/12 | | | -5.1 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126468.801 | 22522.106 | 50.435 |
| 97 | 4652 | 005SI | | 土師器 | く字甕 | | | | | -17.0 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126469.855 | 22523.150 | 50.512 |
| 98 | 4752 | 005SI | | 土師器 | く字甕 | | | | | -8.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 99 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 甕（脚台） | | | 10.4 | 5/12 | -6.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126468.737 | 22525.947 | 50.274 |
| 100 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 甕（脚台） | | | 5.6 | 1/12 | -5.5 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |

## 花の木北遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 広口壺B | | | | | -4.4 | 10YR7/4明黄褐色 | | | | |
| 102 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 広口壺B | | | 14.0 | 1/12 | -2.7 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 103 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.2 | 12/12 | -1.1 | 10YR5/6黄橙色 | | | | |
| 104 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.4 | 9/12 | -1.8 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 105 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.2 | 12/12 | -1.4 | 2.5YR6/6橙色 | | | | |
| 106 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.8 | 6/12 | -1.7 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126466.851 | 22523.020 | 50.399 |
| 107 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯A | 17.4 | 9/12 | | | -13.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126469.197 | 22521.516 | 50.239 |
| 108 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯C 1 | 16.4 | 1/12 | 10.8 | 1/12 | 12.0 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126468.723 | 22524.671 | 50.203 |
| 109 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯C 2 | | | | | -10.3 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126467.388 | 22524.509 | 50.301 |
| 110 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 高杯C 1 | | | | | -4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 111 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯C 2 | 14.8 | 6/12 | | | -5.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126467.107 | 22523.170 | 50.341 |
| 112 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 高杯C 2 | | | | | -3.8 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 113 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯D | | | | | -4.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 114 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯 | | | | | -2.7 | 7.5YR6/6橙色 | | -126469.420 | 22524.030 | 50.204 |
| 115 | 4752 | 005SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.3 | 2.5Y6/6橙色 | | -126471.122 | 22524.147 | 50.275 |
| 116 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126469.097 | 22524.375 | 50.185 |
| 117 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯B | | | | | -6.4 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126470.964 | 22523.884 | 50.278 |
| 118 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯B | | | 11.2 | 1/12 | -8.3 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126467.448 | 22523.365 | 50.409 |
| 119 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯B | | | 13.6 | 1/12 | -9.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126470.964 | 22523.884 | 50.278 |
| 120 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 高杯B | | | 16.4 | 1/12 | -8.2 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126468.799 | 22523.415 | 50.253 |
| 121 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 小型平底鉢 | 7.4 | 1/12 | 4.4 | 12/12 | 6.4 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126469.562 | 22523.657 | 50.209 |
| 122 | 4652 | 005SI | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 12.8 | 1/12 | | | 3.9 | 2.5Y7/1灰白色 | | | | |
| 123 | 4652 | 005SI | 上層 | 須恵器 | 蓋杯 杯 | 12.0 | 3/12 | | | -2.4 | 2.5Y7/1灰白色 | | | | |
| 124 | 4652 | 005SI | | 土師器 | 甑（把手） | | | | | -3.6 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | | | |
| 125 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | く字甕 | 19.0 | 1/12 | | | -5.6 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126500.993 | 22517.707 | 49.670 |
| 126 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | く字甕 | 16.6 | 11/12 | | | -7.1 | 5YR6/8橙色 | | -126498.806 | 22519.865 | 49.741 |
| 127 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | く字甕 | 14.8 | 1/12 | | | -15.9 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126498.806 | 22519.865 | 49.741 |
| 128 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | く字甕 | 14.4 | 4/12 | | | -4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 129 | 5051 | 010SI | | 土師器 | S字甕 | 16.2 | 4/12 | | | -23.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 130 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 広口壺B | 18.0 | 3/12 | | | -5.0 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126503.135 | 22518.288 | 49.709 |
| 131 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 短頸壺 | 6.8 | 3/12 | | | -3.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126502.017 | 22516.010 | 49.747 |
| 132 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.4 | 12/12 | -25.7 | 5YR6/6橙色 | | -126502.764 | 22516.672 | 49.737 |
| 133 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 甕（壺） | | | | | -8.5 | 5YR6/6橙色 | | -126503.677 | 22516.465 | 49.687 |
| 134 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 3.8 | 12/12 | -10.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126501.600 | 22515.402 | 49.804 |
| 135 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.4 | 9/12 | -4.7 | 5YR5/6明赤褐色 | | -126498.502 | 22518.413 | 49.854 |
| 136 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.6 | 12/12 | -6.0 | 7.5YR7/8黄橙色 | | -126501.828 | 22518.404 | 49.689 |
| 137 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.6 | 12/12 | -5.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126500.425 | 22515.062 | 49.710 |
| 138 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.8 | 7/12 | -1.4 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | | | |
| 139 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 3.6 | 12/12 | -1.2 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 140 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.4 | 4/12 | -1.8 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 141 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.2 | 9/12 | -1.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126501.263 | 22516.823 | 49.673 |
| 142 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.2 | 12/12 | -2.6 | 7.5YR7/6橙色 | | -126501.439 | 22516.218 | 49.747 |
| 143 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.0 | 8/12 | -1.0 | 7.5YR5/8明褐色 | | | | |
| 144 | 5051 | 010SI | - | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.0 | 6/12 | -2.4 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 145 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型鉢A | 10.2 | 6/12 | | | 9.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126498.765 | 22519.718 | 49.722 |
| 146 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型鉢B | 11.4 | 5/12 | 5.6 | 12/12 | 7.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126498.806 | 22519.865 | 49.741 |
| 147 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型壺A | | | | | -8.8 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126503.883 | 22516.826 | 49.695 |
| 148 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型壺A | | | | | -3.3 | 7.5YR6/6橙色 | | -126499.640 | 22518.732 | 49.678 |
| 149 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型壺B | | | 6.2 | 6/12 | -4.8 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 150 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 小型壺C | 5.6 | 5/12 | 4.4 | 12/12 | 6.6 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 151 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 小型平底鉢 | | | 3.0 | 12/12 | -4.8 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126498.209 | 22517.514 | 49.779 |
| 152 | 5051 | 010SI | | 土師器 | 高杯C 1 | 19.2 | 5/12 | | | -6.0 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 153 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C 2 | 16.4 | 2/12 | | | -5.3 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126503.209 | 22517.313 | 49.680 |
| 154 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C 2 | 18.8 | 3/12 | | | -4.1 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 155 | 4952 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C 3 | 17.2 | 6/12 | | | -10.0 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126499.051 | 22520.181 | 49.728 |
| 156 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C 4 | | | | | -5.7 | 5YR6/8橙色 | | -126501.213 | 22517.752 | 49.701 |
| 157 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯 | | | | | -9.5 | 5YR7/8橙色 | | -126502.452 | 22515.057 | 49.988 |
| 158 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯B | | | | | -6.6 | 5YR6/6橙色 | | -126499.715 | 22519.598 | 49.693 |
| 159 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -4.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126502.001 | 22515.967 | 49.804 |
| 160 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.9 | 2.5YR6/8橙色 | | -126502.064 | 22517.390 | 49.684 |
| 161 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.0 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126502.240 | 22515.579 | 49.879 |
| 162 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126500.696 | 22517.289 | 49.738 |
| 163 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -5.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126498.653 | 22517.918 | 49.750 |
| 164 | 5052 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.4 | 10YR7/6明黄褐色 | | -126502.577 | 22520.124 | 49.840 |
| 165 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | 7.0 | 1/12 | -5.8 | 7.5YR5/4にぶい褐色 | | -126501.181 | 22517.846 | 49.676 |
| 166 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -8.2 | 7.5YR6/4にぶい橙色 | | -126501.391 | 22516.745 | 49.723 |
| 167 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -8.0 | 5YR6/6橙色 | | -126500.099 | 22516.029 | 49.808 |
| 168 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | | | -8.3 | 5YR6/8橙色 | | -126502.209 | 22514.944 | 49.919 |
| 169 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯A | | | 12.4 | 3/12 | -9.0 | 10YR8/6黄褐色 | | -126501.150 | 22516.207 | 49.718 |
| 170 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | 11.2 | 2/12 | -7.2 | 7.5YR8/8黄橙色 | | -126499.275 | 22515.887 | 49.723 |
| 171 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | 11.4 | 2/12 | -6.9 | 7.5YR7/6橙色 | | -126498.687 | 22517.759 | 49.788 |
| 172 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | 11.0 | 2/12 | -6.3 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126499.407 | 22515.676 | 49.769 |
| 173 | 4951 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯C | | | 10.0 | 4/12 | -7.1 | 5YR6/8橙色 | | -126498.597 | 22517.787 | 49.783 |
| 174 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯C | | | 11.2 | 1/12 | -7.1 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126498.259 | 22516.748 | 49.782 |
| 175 | 4951 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯B | | | 10.8 | 3/12 | -11.2 | 7.5YR8/6浅黄橙色 | | -126499.019 | 22516.283 | 49.761 |
| 176 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯F | | | | | -6.0 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 177 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯F | 16.6 | 4/12 | | | -6.1 | 5YR7/8橙色 | | -126501.445 | 22514.589 | 49.921 |
| 178 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯F | 19.4 | 2/12 | | | -5.3 | 5YR6/8橙色 | | -126501.994 | 22514.694 | 49.844 |
| 179 | 5051 | 010SI | 下層 | 土師器 | 高杯F | | | 15.2 | 7/12 | -15.4 | 7.5YR6/6橙色 | | -126502.646 | 22516.863 | 49.790 |
| 180 | 5051 | 010SI | 上層 | 土師器 | 高杯D | | | 14.6 | 1/12 | -5.6 | 7.5YR7/6橙色 | | -126501.949 | 22514.576 | 49.867 |
| 181 | 4951 | 055SP | | 土師器 | く字甕 | 11.8 | 4/12 | | | 15.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126498.647 | 22517.137 | 49.726 |
| 182 | 5051 | 056SP | | 土師器 | 小型壺C | 7.0 | 2/12 | | | -4.4 | 7.5YR7/8黄橙色 | | | | |
| 183 | 5051 | 056SP | | 土師器 | 高杯C | | | 11.2 | 5/12 | -7.3 | 5YR6/6橙色 | | -126503.205 | 22517.907 | 49.545 |
| 184 | 5052 | 053SK | | 土師器 | 高杯C 2 | 18.0 | 1/12 | | | -4.5 | 7.5YR6/8橙色 | | | | |
| 185 | 4952 | 053SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.8 | 12/12 | -2.1 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 186 | 5051 | 071SK | | 土師器 | 高杯C 2 | | | | | -6.9 | 5YR6/6橙色 | | -126503.638 | 22516.235 | 49.640 |
| 187 | 4554 | 020SD | | 土師器 | く字甕 | 17.8 | 2/12 | | | -5.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | | | |
| 188 | 4554 | 020SD | | 土師器 | く字甕 | 30.8 | 1/12 | | | -9.4 | 10YR8/6黄褐色 | | -126461.614 | 22541.778 | 49.892 |
| 189 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 甕（脚台） | | | 9.0 | 12/12 | -8.9 | 10YR7/4明黄褐色 | | -126462.928 | 22539.677 | 49.810 |
| 190 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 広口壺C | 18.6 | 1/12 | | | -4.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 191 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.6 | 8/12 | -3.8 | 5YR5/6明赤褐色 | | | | |
| 192 | 4654 | 020SD | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.2 | 12/12 | -1.7 | 2.5Y7/3浅黄色 | | | | |
| 193 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.2 | 11/12 | -1.6 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | | | |
| 194 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 小型壺A | | | | | -6.4 | 5YR6/6橙色 | | -126462.747 | 22538.970 | 49.840 |
| 195 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 小型壺（鉢） | | | | | -4.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 196 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯 | 19.2 | 1/12 | | | -4.0 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 197 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯 | | | | | -5.8 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126459.065 | 22542.671 | 49.869 |
| 198 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯 | | | | | -3.8 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 199 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯 | | | | | -2.2 | 7.5YR6/8橙色 | | -126459.197 | 22542.172 | 49.926 |
| 200 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯A | | | | | -2.3 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |

## 花の木北遺跡出土土器一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位等 | 種別 | 器種 | 口径 (cm) | 残存率 n/12 | 底径 (cm) | 残存率 n/12 | 器高 (cm) | 色調 | 備考 | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.1 | 7.5YR6/6橙色 | | -126460.128 | 22541.671 | 49.872 |
| 202 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯B | | | | | -5.9 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | | -126458.554 | 22542.089 | 49.969 |
| 203 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯B | | | | | -3.6 | 2.5Y6/8明黄褐色 | | | | |
| 204 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯B | | | | | -7.6 | 10YR8/3浅黄橙色 | | -126459.874 | 22541.776 | 49.793 |
| 205 | 4554 | 020SD | | 土師器 | 高杯B | | | 11.6 | 1/12 | -8.2 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | | -126459.610 | 22541.898 | 49.846 |
| 206 | 4654 | 020SD | | 須恵器 | 蓋杯 杯 | | | | | -2.9 | 2.5Y7/1灰白色 | | -126461.603 | 22541.682 | 50.026 |
| 207 | 4654 | 019SI | | 土師器 | く字甕 | 17.8 | 5/12 | | | -6.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126,463.667 | 22,542.962 | 49.813 |
| 208 | 4554 | 019SI | | 土師器 | 小型壺A | 8.8 | 4/12 | | | 9.9 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126,459.827 | 22,544.395 | 49.926 |
| 209 | 4654 | 020SD | | 土師器 | 丸底甕 | | | | | -16.0 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126,460.245 | 22,546.001 | 49.808 |
| 210 | 4554 | 020SD | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 13.2 | 1/12 | | | -2.3 | 2.5Y5/1黄灰色 | | | | |
| 211 | 4654 | 013SK | | 土師器 | 広口壺B | 20.2 | 2/12 | | | -4.0 | 10YR8/6黄褐色 | | -126,463.527 | 22,543.010 | 49.982 |
| 212 | 4654 | 031SK | | 土師器 | 広口壺A | 17.0 | 3/12 | | | -7.2 | 2.5Y7/3浅黄色 | | -126,461.148 | 22,543.767 | 49.751 |
| 213 | 4654 | 022SK | | 土師器 | 小型壺A | | | | | -6.3 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126,460.677 | 22,543.591 | 49.815 |
| 214 | 4654 | 043SK | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | | | | | -3.3 | 2.5Y7/2灰黄色 | | -126,460.677 | 22,546.316 | 49.775 |
| 215 | 4554 | 001SI | | 弥生土器 | 甕（壺） | | | 5.8 | 4/12 | -2.0 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 216 | 4554 | 002SI | | 土師器 | く字甕 | 16.4 | 1/12 | | | -4.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 217 | 4554 | 002SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.0 | 10YR8/6黄褐色 | | | | |
| 218 | 4554 | 002SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -4.0 | 5YR6/8橙色 | | | | |
| 219 | 4454 | 008SP | | 土師器 | 高杯C | | | | | -5.6 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | -126,448.726 | 22,546.669 | 50.225 |
| 220 | 4554 | 024SK | | 土師器 | 高杯C | | | | | -7.2 | 5YR6/6橙色 | | -126,450.692 | 22,545.365 | 50.326 |
| 221 | 4554 | 024SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 6.4 | 3/12 | -2.1 | 5YR6/8橙色 | | -126,450.368 | 22,545.372 | 50.228 |
| 222 | 4454 | 005SK | | 土師器 | 広口壺B | 15.0 | 1/12 | | | -2.2 | 7.5YR7/6橙色 | | -126,448.405 | 22,545.892 | 50.323 |
| 223 | 4454 | 005SK | | 土師器 | 大型高杯 | | | 14.8 | 2/12 | -2.5 | 7.5YR7/6橙色 | | -126,448.269 | 22,546.718 | 50.128 |
| 224 | 4454 | 005SK | | 須恵器 | 蓋杯 杯 | | | | | -2.2 | 5Y7/1灰白色 | | | | |
| 225 | 4454 | 037SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 6.0 | 4/12 | -2.8 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | -126,454.609 | 22,546.910 | 50.105 |
| 226 | 4554 | 323SK | | 土師器 | く字甕 | 14.8 | 3/12 | | | -8.3 | 7.5YR6/8橙色 | | -126,451.820 | 22,543.836 | 50.253 |
| 227 | 4554 | 323SK | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | 14.4 | 5/12 | | | 3.8 | 5Y7/1灰白色 | | -126,451.479 | 22,544.286 | 50.234 |
| 228 | 4652 | 043SK | 512SB | 土師器 | 小型壺A | | | | | -6.7 | 7.5YR6/8橙色 | | -126464.441 | 22527.360 | 50.253 |
| 229 | 4653 | 290SK | 512SB | 土師器 | 甕（脚台） | | | 11.0 | 12/12 | -6.2 | 5YR7/6橙色 | | -126464.112 | 22531.522 | 50.359 |
| 230 | 4753 | 265SK | 513SA | 土師器 | 高杯C | | | | | -5.8 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 231 | 4653 | 277SK | 513SA | 須恵器 | く字甕 | 19.6 | 2/12 | | | -3.1 | 10YR6/6明黄褐色 | | | | |
| 232 | 4651 | 062SK | | 土師器 | く字甕 | | | | | -4.2 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 233 | 4950 | 023SK | | 土師器 | 高杯C | | | 10.4 | 2/12 | -8.6 | 5YR7/8橙色 | | -126496.039 | 22502.424 | 50.206 |
| 234 | 4950 | 024SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.4 | 4/12 | -3.2 | 5YR3/1黒褐色 | | | | |
| 235 | 4950 | 024SK | | 土師器 | 高杯C | | | 11.0 | 3/12 | -6.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126497.543 | 22502.288 | 50.156 |
| 236 | 5150 | 035SK | | 土師器 | 甕（脚台） | | | 8.2 | 12/12 | -5.2 | 7.5YR6/6橙色 | | -126510.794 | 22508.826 | 49.728 |
| 237 | 5150 | 035SK | | 土師器 | く字甕 | | | 4.8 | 10/12 | -10.6 | 5YR6/4にぶい橙色 | | | | |
| 238 | 5151 | 030SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.0 | 10/12 | -2.1 | 10YR8/6黄褐色 | | -126516.539 | 22511.399 | 49.700 |
| 239 | 4652 | 055SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 6.4 | 9/12 | -1.3 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 240 | 4652 | 057SK | | 土師器 | 広口壺B | 20.4 | 1/12 | | | -4.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 241 | 4652 | 058SK | | 土師器 | 高杯 | | | | | -3.1 | 2.5Y6/4にぶい黄色 | | -126467.341 | 22522.239 | 50.301 |
| 242 | 4652 | 058SK | | 土師器 | 高杯C | | | | | -5.8 | 7.5YR7/6橙色 | | -126465.823 | 22523.357 | 50.429 |
| 243 | 4652 | 058SK | | 土師器 | 高杯C | | | 10.6 | 1/12 | -8.3 | 7.5YR7/6橙色 | | -126465.985 | 22522.518 | 50.514 |
| 244 | 4652 | 058SK | | 土師器 | く字甕 | 12.6 | 2/12 | | | -2.7 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | | | |
| 245 | 4652 | 058SK | | 土師器 | く字甕 | 14.0 | 1/12 | | | -14.8 | 2.5Y5/2暗灰黄色 | | -126466.629 | 22522.539 | 50.350 |
| 246 | 4652 | 058SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 5.0 | 12/12 | -2.3 | 5YR6/6橙色 | | -126466.713 | 22522.942 | 50.246 |
| 247 | 4751 | 099SK | | 土師器 | 小型鉢 | 9.4 | 2/12 | | | -3.6 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | | | |
| 248 | 4751 | 099SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 7.0 | 9/12 | -1.4 | 2.5YR6/6橙色 | | | | |
| 249 | 4751 | 099SK | | 土師器 | く字甕 | 14.6 | 3/12 | | | -4.7 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 250 | 4853 | 243SK | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.4 | 5YR6/6橙色 | | -126482.291 | 22535.448 | 49.718 |
| 251 | 4853 | 243SK | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.5 | 5YR6/6橙色 | | -126482.014 | 22535.647 | 49.726 |
| 252 | 4853 | 243SK | | 土師器 | く字甕 | 14.6 | 4/12 | | | -3.7 | 10YR6/6明黄褐色 | | -126481.936 | 22535.551 | 49.649 |
| 253 | 4853 | 243SK | | 土師器 | く字甕 | | | 2.8 | 12/12 | -7.5 | 5YR6/6橙色 | | -126482.117 | 22535.432 | 49.657 |
| 254 | 4652 | 365SK | | 土師器 | 広口壺A | 13.8 | 2/12 | | | -6.7 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 255 | 4652 | 365SK | | 土師器 | 広口壺A | 16.8 | 2/12 | | | -8.2 | 10YR8/6黄褐色 | | | | |
| 256 | 4652 | 365SK | | 土師器 | 大型高杯 | | | 17.0 | 1/12 | -2.2 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | | | |
| 257 | 4752 | 378SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -5.3 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 258 | 4752 | 378SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.2 | 6/12 | -2.5 | 2.5Y6/8明黄褐色 | | | | |
| 259 | 4753 | 518SK | | 土師器 | 広口壺B | 18.6 | 4/12 | | | -6.7 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | | -126476.115 | 22534.905 | 50.020 |
| 260 | 4753 | 520SK | | 土師器 | 小型平底鉢 | | | 5.2 | 5/12 | -5.9 | 7.5YR6/6橙色 | | -126475.276 | 22536.212 | 50.009 |
| 261 | 4654 | 014SK | | 土師器 | 高杯 | | | | | -2.0 | 10YR8/4浅黄橙色 | | -126,469.288 | 22,542.822 | 49.773 |
| 262 | 4654 | 015SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -5.3 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | -126,462.211 | 22,542.996 | 49.871 |
| 263 | 4654 | 016SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -5.5 | 7.5YR6/6橙色 | | -126,469.299 | 22,543.123 | 49.772 |
| 264 | 4553 | 309SD | | 土師器 | 広口壺B | 16.2 | 2/12 | | | -8.8 | 7.5YR6/8橙色 | | -126453.593 | 22534.013 | 50.471 |
| 265 | 4752 | 074SK | | 土師器 | 高杯B | | | | | -6.9 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | | | | |
| 266 | 4751 | 091SK | | 土師器 | 高杯C 4 | 16.2 | 1/12 | | | -5.7 | 5YR7/6橙色 | | | | |
| 267 | 4751 | 096SK | | 土師器 | 高杯C 4 | | | | | -5.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | | | | |
| 268 | 4751 | 109SK | | 土師器 | 直口壺 | | | | | -3.8 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 269 | 4751 | 114SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 4.6 | 3/12 | -4.4 | 2.5Y7/4浅黄色 | | | | |
| 270 | 4753 | 250SK | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.6 | 2.5Y7/2灰黄色 | | | | |
| 271 | 4653 | 287SK | | 土師器 | く字甕 | 16.2 | 1/12 | | | -4.3 | 7.5YR7/6橙色 | | | | |
| 272 | 4454 | 297SK | | 土師器 | 高杯F | | | 20.6 | 1/12 | -2.6 | 7.5YR6/6橙色 | | | | |
| 273 | 4753 | 478SK | | 土師器 | 甕（脚台） | | | | | -6.6 | 7.5YR6/6橙色 | | -126474.886 | 22530.183 | 50.272 |
| 274 | 4851 | 527SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 3.2 | 5/12 | -1.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | | | | |
| 275 | 4851 | 527SK | | 土師器 | 甕（壺） | | | 3.2 | 5/12 | -2.4 | 10YR7/6明黄褐色 | | | | |
| 276 | 4851 | 011SI | | 土師器 | 高杯C | | | | | -6.7 | 5YR6/6橙色 | | | | |
| 277 | 5050 | 検出1 | | 須恵器 | 蓋杯 蓋 | | | | | -1.7 | 5YR5/1灰色 | | | | |

## 花の木北遺跡出土鉄製品一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構 | 層位 | 器種 | 全長 (cm) | 身部（刃部） 長さ(cm) ／ 幅 (cm) ／ 厚さ | 茎部（基部） 長さ(cm) ／ 幅 (cm) ／ 厚さ | 重さ (g) | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4952 | 001SI | 下層 | 不明 | -10.2 | 身幅 1.9 身厚 0.2 | | 10.2 | -126495.280 | 22520.863 | 49.811 |

花の木北遺跡出土石器・石製品一覧表

| 番号 | グリッド | 遺構・層位等 | 器種 | 分類１ | 分類２ | 石材 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | X | Y | Z |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4652 | 049SK | 石鏃 | 有茎 | | 溶結凝灰岩 | 2.0 | 1.6 | 0.6 | 1.4 | | | |
| 2 | 4652 | 049SK | 石鏃？ | 先端折損 | | 溶結凝灰岩 | 2.5 | 1.5 | 0.7 | 1.8 | | | |
| 3 | 5151 | 020SI | 石鏃 | | 凹基無茎 | 安山岩（下呂石） | 1.9 | 1.4 | 0.5 | 0.9 | -126510.800 | 22511.368 | 49.937 |
| 4 | 5050 | 015SK | 石鏃 | 両脚部折損 | 凹基無茎 | 安山岩（下呂石） | 1.7 | 1.3 | 0.5 | 1.0 | -126501.201 | 22505.858 | 49.976 |
| 5 | 4951 | 検出 | 石鏃 | 右脚部折損 | 凹基無茎 | チャート | 1.9 | 1.5 | 0.3 | 0.5 | -126492.291 | 22516.518 | 50.213 |
| 6 | 4852 | 004SI | 石鏃 | | 凹基無茎 | 溶結凝灰岩 | 1.7 | 1.4 | 0.4 | 0.4 | -126481.665 | 22525.167 | 50.126 |
| 7 | 4850 | 160SK | 石鏃 | 凹基無茎 | | サヌカイト | 3.1 | 1.8 | 0.4 | 1.9 | -126480.380 | 22507.475 | 50.414 |
| 8 | 4951 | 検出 | 石鏃？ | 未成品？ | | 凝灰岩 | 3.0 | 2.7 | 1.0 | 5.6 | | | |
| 9 | 4554 | 001SI・002SI | 加工痕ある剥片 | 両側縁に加工 | | 溶結凝灰岩 | 1.3 | 1.2 | 0.7 | 1.7 | | | |
| 10 | 5051 | 010SI | 剥片 | 両極 | | 安山岩（下呂石） | 3.0 | 1.9 | 0.9 | 3.8 | | | |
| 11 | 4751 | 108SK | 楔形石器 | | | チャート | 3.5 | 3.1 | 0.8 | 9.4 | | | |
| 12 | 4753 | 002SI | 石核 | 剥片素材 | | 溶結凝灰岩 | 3.9 | 3.3 | 1.5 | 10.3 | | | |
| 13 | 5151 | 020SI | 石錘 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 塩基性凝灰岩 | 3.8 | 3.0 | 1.8 | 33.9 | -126510.429 | 22511.230 | 49.828 |
| 14 | 4651 | 062SK | 石錘？ | 端部に敲打痕？ | 円礫 | 安山岩 | 6.4 | 4.5 | 1.9 | 36.9 | | | |
| 15 | 4951 | 011SI | 磨製石斧？ | 原石？ | 円礫 | 玄武岩 | 20.1 | 11.6 | 9.5 | 3227.7 | -126492.568 | 22513.644 | 50.215 |
| 16 | 4952 | 001SI | 打製石斧 | 刃部摩耗 | 短冊形 | 緑色片岩 | 8.0 | 4.6 | 1.2 | 58.2 | | | |
| 17 | 4952 | 001SI | 打製石斧 | | 撥形 | 黒色片岩 | 8.6 | 3.3 | 1.1 | 39.5 | | | |
| 18 | 4752 | 005SI | 打製石斧 | 側面摩耗 | 短冊形 | 緑色片岩 | 9.3 | 4.4 | 1.4 | 74.1 | -126470.168 | 22523.674 | 50.253 |
| 19 | 5050 | 044SK | 打製石斧 | | 短冊形 | 塩基性凝灰岩 | 8.3 | 3.9 | 1.1 | 54.2 | -126506.444 | 22507.992 | 50.010 |
| 20 | 4652 | 049SK | 打製石斧 | 刃部のみ？ | | 安山岩 | 8.4 | 7.6 | 2.1 | 167.2 | -126466.390 | 22527.943 | 50.436 |
| 21 | 4753 | 480SK | 磨製石斧 | 刃部折損 | | 塩基性凝灰岩 | 6.6 | 3.7 | 1.3 | 56.4 | -126472.883 | 22535.471 | 49.926 |
| 22 | 4753 | 001SI | 磨製石斧？ | 中央に敲打痕 | 棒状 | 安山岩 | 14.1 | 5.4 | 3.8 | 412.9 | | | |
| 23 | 4851 | 001SI | 磨製石斧 | 刃部折損 | 扁平片刃 | 変玄武岩 | 14.8 | 8.2 | 5.2 | 1051.3 | -126487.759 | 22516.199 | 50.265 |
| 24 | 4951 | 010SI | 磨製石斧 | 裏面摩耗 | 扁平 | 塩基性岩 | 13.2 | 5.0 | 2.7 | 344.2 | -126498.597 | 22517.787 | 49.783 |
| 25 | 5051 | 010SI | 磨製石斧？ | 下部摩耗 | 未成品？ | 安山岩 | 12.2 | 8.4 | 7.4 | 1049.1 | -126501.289 | 22517.261 | 49.737 |
| 26 | 4951 | 011SI | 砥石 | | | 砂質凝灰岩 | 6.6 | 3.5 | 3.0 | 52.2 | -126491.807 | 22512.802 | 50.235 |
| 27 | 4851 | 011SI | 磨石 | 多面体 | 円礫 | 塩基性岩 | 5.1 | 4.7 | 4.9 | 215.5 | -126489.028 | 22516.887 | 50.282 |
| 28 | 4553 | 003SI | 編物石？ | 両側縁に凹み | 棒状 | 片麻岩 | 16.0 | 7.8 | 3.7 | 659.3 | | | |
| 29 | 4553 | 003SI | 編物石？ | 側縁に敲打痕 | 棒状 | 片麻岩 | 12.1 | 5.1 | 3.7 | 336.3 | | | |
| 30 | 4752 | 004SI | 砥石？ | 端部に敲打痕 | 棒状 | 片麻岩 | 17.5 | 7.5 | 5.5 | 1034.2 | | | |
| 31 | 4852 | 004SI | 磨石？ | 多面体？ | 円礫 | 塩基性岩 | 9.6 | 7.6 | 5.8 | 694.8 | -126480.375 | 22525.690 | 50.178 |
| 32 | 4951 | 010SI | 砥石 | 端部に敲打痕 | 礫片 | 凝灰岩 | 14.1 | 9.6 | 8.4 | 1007.0 | -126498.641 | 22516.730 | 49.736 |
| 33 | 5051 | 010SI | 砥石？ | 端部に敲打痕？ | 円礫 | 花崗岩 | 9.3 | 5.5 | 4.9 | 250.9 | -126501.156 | 22516.750 | 49.665 |
| 34 | 4852 | 004SI | 磨石 | 端部に敲打痕 | 円礫 | 花崗岩 | 8.8 | 6.5 | 6.1 | 453.5 | -126481.197 | 22524.010 | 49.947 |
| 35 | 4554 | 011SP | 磨石 | 顕著な磨面 | | 花崗岩 | 7.9 | 5.3 | 4.7 | 208.0 | | | |
| 36 | 4554 | 040SK | 磨石 | 多面体 | 円礫 | 花崗岩 | 10.2 | 9.5 | 8.0 | 1151.3 | | | |
| 37 | 5051 | 010SI | 編物石 | 側面に敲打痕 | 棒状 | 塩基性岩 | 13.8 | 4.5 | 3.0 | 291.2 | -126503.897 | 22519.062 | 49.720 |
| 38 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 塩基性岩 | 13.1 | 5.3 | 3.0 | 235.6 | -126503.678 | 22519.065 | 49.699 |
| 39 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 砂質凝灰岩 | 14.8 | 5.2 | 3.6 | 366.2 | -126503.993 | 22519.158 | 49.707 |
| 40 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 砂質凝灰岩 | 12.3 | 5.3 | 3.0 | 229.6 | -126503.588 | 22519.237 | 49.680 |
| 41 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 片麻岩 | 12.9 | 3.4 | 2.2 | 160.5 | -126503.952 | 22519.123 | 49.702 |
| 42 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 片麻岩 | 13.7 | 4.4 | 3.5 | 373.6 | -126503.851 | 22519.073 | 49.725 |
| 43 | 5051 | 010SI | 編物石 | | 棒状 | 片麻岩 | 16.8 | 5.6 | 3.5 | 401.6 | -126503.789 | 22519.128 | 49.705 |

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | はなのきこふんぐん　はなのきいせき　はなのききたいせき |
| 書　　名 | 花の木古墳群　花の木遺跡　花の木北遺跡 |
| 副 書 名 | |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第231集 |
| 編著者名 | 早野浩二・田中　良 |
| 編集機関 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161 |
| 発行年月日 | 西暦 2026年 3月 31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はなのきこふんぐん<br>花の木古墳群<br>はなのきいせき<br>花の木遺跡<br>はなのききたいせき<br>花の木北遺跡 | あいちけん　とよかわし<br>愛知県豊川市<br>おおぎちょうちない<br>大木町地内 | 232076 | 830195～<br>830201<br>830428・<br>830431 | 34度<br>51分<br>32秒・<br>34秒 | 137度<br>24分<br>31秒・<br>28秒 | 2020.05～<br>2021.03<br>2021.05～<br>2023.07 | 5,510<br><br>3,850 | 一般国道<br>151号<br>(一宮<br>バイパス) |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 花の木古墳群 | 古墳 | 古墳時代 | 墳丘・周溝<br>埋葬施設<br>土器棺墓・土壙墓 | 土師器<br>鉄製品・玉類 | 方墳・木棺直葬<br>周辺埋葬施設<br>鉄製武器・農工具<br>墳丘出土玉類 |
| 花の木遺跡 | 弥生 | 弥生時代 | 竪穴建物・土坑 | 弥生土器・石器 | 大型竪穴建物<br>排水溝が付属する<br>竪穴建物 |
| 花の木北遺跡 | 弥生・<br>古墳 | 弥生時代<br>古墳時代 | 土器棺墓・竪穴建物<br>竪穴建物・土坑<br>掘立柱建物 | 弥生土器・石器<br>土師器・石製品・<br>鉄製品 | 前・中期の土器棺墓<br>大型竪穴建物<br>編物石 |

| | |
|---|---|
| 文書番号 | 発掘届出(2埋セ第7号・2020.4.8/3埋セ第7号・2021.4.6/4埋セ第71号・2022.9.8/5埋セ第12号・2023.4.13)<br>通知(2文芸第330号・2020.5.14/3文芸第209号・2021.4.15/4文芸第1565号・2022.10.6/5文芸第181-1号・2023.4.24)<br>終了届・保管証・発見届(2埋セ第164号・2021.3.19/3埋セ第101号・2021.9.30/4埋セ第147号・2023.3.2/5埋セ第51号・2023.7.11)<br>鑑定結果通知(2文芸第3879号・2023.3.31/3文芸第1632号・2021.10.11/4文芸第2472号・2023.3.13/5文芸第807号・2023.7.28) |
| 要約 | 花の木古墳群は調査区内に再調査の２号墳を含めた５基の古墳（２・３・５・６・７号墳）が分布。古墳５基の墳形（方墳）と規模が判明。時期は古墳時代前期後半から中期前半。<br>７号墳は新旧の（再利用した）古墳を確認。埋葬施設は木棺直葬で、豊富な鉄製品と玉類を副葬。鉄製品は武器（刀、蛇行剣を含む剣、鉄鏃）、農工具（斧、鎌、刀子）で構成される。<br>７号墳墳丘斜面から玉類が出土。周辺埋葬施設として、土器棺墓５基、（石敷）土壙墓８基を検出。<br>花の木遺跡は弥生時代中期後葉から後期の竪穴建物 41 棟を検出。<br>竪穴建物群は大型竪穴竪穴建物、排水溝が付属する竪穴建物を含む。<br>花の木北遺跡は弥生時代前・中期の土器棺墓、中期の竪穴建物３棟を検出。<br>古墳時代中期の竪穴建物６棟、掘立柱建物７棟と土坑群を検出。竪穴建物群は大型竪穴建物を含む。大型竪穴建物から編物石が出土。 |

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 231 集

花の木古墳群　花の木遺跡　花の木北遺跡
本文編

2026 年3月 31 日

発行　公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印刷　西濃印刷株式会社